山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 310 集

身洗沢遺跡

―笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2017.2

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部
中日本高速道路株式会社
笛吹市

身洗沢遺跡

―笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2017.2

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部
中日本高速道路株式会社
笛吹市

Ａ区から北側をのぞむ景観

Ｂ区から東側をのぞむ景観

Ｃ区から南側をのぞむ景観

Ｃ区から西側をのぞむ景観

身洗沢遺跡の発掘調査成果

身洗沢遺跡は、1989 年に行われた県埋蔵文化財センターにより弥生時代後期から古墳時代初頭を中心とした集落や水田が確認されました。他にも八代町教育委員会の調査によって、古墳時代の集落が出土しています。笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴い実施された今回の調査により新たに発見された成果について、ご紹介します。

Ａ区　地点２　３号掘立柱建物跡

３号掘立柱建物跡　木柱１検出状況

県道石橋・石和線沿いの幅狭い範囲（Ａ区）を調査した結果、掘立柱建物跡の木柱と考えられる遺構が確認されました。木柱を対象に年代測定分析を行ったところ、弥生時代中期後半から後期に用いられたものであることが分かりました。

Ｂ区　１号溝状遺構半截状況

Ｂ区　１号溝状遺構完掘状況

中央自動車道の北側側道に隣接した範囲（Ｂ区）を調査したところ、１号溝状遺構が見つかりました。１号溝状遺構は中央が一段深くなっており、人為的に開削された溝と考えることができます。幅広い時代の遺物が出ていますが、主に古墳時代に使用されたものと考えられます。

Ｃ区　２号掘立柱建物跡

中央自動車道の南側（Ｃ区）からは、弥生時代後期から古墳時代初頭と古墳時代中期後葉の遺構・遺物が出土しました。遺構は主に旧河道や凹地に挟まれた微高地で確認されています。

２号掘立柱建物跡は、調査区北端の微高地で見つかりました。弥生時代後期から古墳時代初頭に用いられた遺構です。

Ｃ区　調査区中央全景

調査区中央からは、微高地を横断する複数の溝状遺構が発見されました。遺構からは、弥生時代後期から古墳時代初頭の土器と共にクワなどの農耕に用いた道具が出土しました。

Ｂ区　８号溝状遺構遺物出土状況

Ｃ区　調査区東端完掘状況

調査区東端からは、古墳時代中期後葉の集落が見つかりました。調査地点の東には古墳時代中期後葉の狐塚古墳があり、身洗沢遺跡が古墳を築いた人々の集落である可能性が考えられます。また、県内初の出土例となる羽口も出土したことから、金属生産を行っていた集団が暮らしていたことが分かりました。

序

本書は笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴い実施した、笛吹市八代町南に位置する身洗沢遺跡の調査成果をまとめた報告書です。身洗沢遺跡は1989年に当機関が行った発掘調査によって、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落や水田跡が見つかり、出土品である又鍬などの木製農耕具は平成8年に山梨県指定文化財として登録されました。県内において、集落と生産域が発見されたのは身洗沢遺跡だけであり、浅川・天川扇状地の扇端部に立地した弥生時代の遺跡として貴重な成果を得ることができました。

今回の調査はスマートインターチェンジが建設される範囲を対象として実施しました。調査の結果、1989年調査地点と同じく、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構・遺物が発見されましたが、弥生時代中期後半から後期に比定される掘立柱建物跡の木柱や弥生時代後期から古墳時代初頭の木製農耕具が出土しました。また、調査区の東側からは古墳時代中期後葉の集落が発見され、該期の資料と考えられる羽口が見つかりました。1989年調査地点と今回の調査地点は200 mから300 mも離れていますが、広域にわたって弥生時代後期から古墳時代初頭の生活域が広がっていたことが分かりました。また、古墳時代中期後葉の羽口は本県初めての出土事例であり、金属生産技術を保持した集団が居住したと考えられ、地域の歴史を語る上で重要な成果となりました。

調査の結果により、笛吹スマートインターチェンジ付近には笛吹市の貴重な歴史が埋蔵されていることが確認されました。今後、継続的な調査によって新たな歴史が明らかになることが期待されます。

最後に、調査にあたって御協力頂いた関係者、関係機関、調査・整理作業に従事された皆様方に厚く御礼を申し上げます。

2017年2月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　**中　山　誠　二**

例　　言

1．本書は、山梨県笛吹市八代町南地内に所在する身洗沢遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は中日本道路建設株式会社・県峡東建設事務所・笛吹市からの委託を山梨県教育委員会が受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センター（東八代郡中道町所在）が担当した。
3．発掘調査は平成26・27年度に実施した。平成26（2014）年7月3日から同年9月5日にB区、平成26（2014）年12月16日から平成27（2015）年1月30日にA区・B区を対象とし、平成27（2015）年5月25日から9月30日にB区・C区の調査を行った。また、整理作業・報告書作成については、平成28（2016）年5月24日から平成28年（2016年）2月28日まで実施した。発掘調査・整理作業・報告書作成は、網倉邦生が担当した。
4．本書の編集及び第Ⅰ章・第Ⅱ章第1節・第Ⅲ章・第Ⅵ章・第Ⅵ章は網倉邦生、第Ⅳ章第2節2項の一部は柴田亮平が担当した。
5．平成26年6月9日に締結した笛吹スマートインターチェンジ事業に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書に基づき、第Ⅱ章第2節は笛吹市教育委員会文化財課瀬田が執筆した。
6．本書に掲載した遺構写真及び作業風景写真は柴田亮平・熊谷晋祐・塩谷風季、遺物写真は網倉邦生が撮影した。
7．本書に掲載した遺跡空中写真は株式会社テクノプラニング（平成26年度）、株式会社三和航測（平成27年度C区）、株式会社シン技術コンサル（平成27年度B区）に委託し、撮影した。
8．発掘調査に係る国土座標測量・グリッドポイント設定・基準標高測量は株式会社昭和測量に委託した。
9．出土遺物（木製品）のＰＥＧ法による保存処理は帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
10．出土遺物（土器・石器）の図化・トレースは株式会社アルカ、出土遺物（土器）のトレースは株式会社テクノプラニング、出土遺物（木製品）の図化・トレースは帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
11．自然科学分析に係り、放射性年代測定・種実同定・樹種同定を株式会社パリノ・サーヴェイに委託し、報告原稿を編集した上で第Ⅴ章に掲載した。種子圧痕分析については、山梨県埋蔵文化財センター所長中山誠二、馬歯の分析については、山梨県立博物館学芸員の植月学が執筆した原稿を掲載した。
12．本報告書に係る出土品及び記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
13．調査にあたって、次の組織や方々にご指導及び協力を戴いた。記して謝意を表したい。
稲垣自由（大月市教育委員会）、植月学（山梨県立博物館）、大嶌正之（甲斐市教育委員会）、鷹野義朗（甲府市教育委員会）、平野　修（帝京大学山梨文化財研究所）
14．調査体制は次の通りである。
調査主体　山梨県教育委員会
調査機関　山梨県埋蔵文化財センター
所長　八巻與志夫（平成26年度）　出月洋文（平成27年度）　中山誠二（平成28年度）
次長　出月洋文（平成26年度）　保坂康夫（平成27年度）　高野玄明（平成28年度）
調査課長　保坂康夫（平成26年度）　山本茂樹（平成27年度）　今福利恵（平成28年度）
発掘調査担当　（A区）主査・文化財主事　網倉邦生、非常勤嘱託　塩谷風季
（B区）主任・文化財主事　柴田亮平、主幹・文化財主事　篠原真史、文化財主事　熊谷晋祐
非常勤嘱託　塩谷風季、非常勤嘱託　新津茂
（C区）主任・文化財主事　柴田亮平、文化財主事　熊谷晋祐、非常勤嘱託　塩谷風季
整理報告担当　主査・文化財主事　網倉邦生、主幹・文化財主事　井上彰雄

作業員（五十音順）

発掘調査　浅川晃一、浅川竜太、雨宮信次、飯野金雄、伊藤榮作、大久保良信、大西ひとみ、大西雅明、長田秋文、長田昌行、小澤美幸、影山三亀次、河西町男、河西元彦、河口洋光、北野礼子、窪寺康一、倉内実、桑原正義、小池幹子、輿石豊彦、近藤泰弘、齊藤里美、阪本國廣、坂本健治、佐野誠、清水征二、田村幸夫、千明広世、近山辰男、土屋常子、筒井聡、角田三良、出井光、内藤敏夫、直井光江、中込榊、中澤保、長澤晴雄、七澤秀一、新田史男、萩原森詞、原義仁、深沢栄一、藤原さつき、保坂悌司、堀口君彦、松本榮一、三木一恵、水上喜正、村田勝利、望月孝次、山岸史彦、箭本公幸、米山実

整理作業　雨宮信次、新谷和美、飯室恵子、石坂恵理、猪股順子、大西ひとみ、梶原初美、川住たまみ、神田久美子、小池幹子、斉藤律子、阪本國廣、佐藤あけみ、内藤敏夫、新津多恵、新田史男、保坂悌司、保坂理恵子、松本榮一

凡　　例

1．掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記の通りである。

遺構全体図　遺跡位置図　1/25,000　1/10,000　グリッド設定図　1/1,200

全体図　1/400　1/600　1/800

遺構微細図　平面図　1/20　1/40　1/60　1/100　1/200

断面図・土層図　1/20　1/40　1/50　1/60　1/80　1/200

2．遺構平面図の網目は次の通りである。

焼土

3．遺物分布図における遺物の表記は次の通りである。

○　土器・陶磁器　　●　木製品　　□　石製品　　▲　鉄製品

4．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

5．遺構一覧表では、遺構の長軸と短軸方向の大きさ及び深さを記載した。

6．遺物実測図の縮尺は下記の通りである。

土器・陶磁器　1/3　　土製品　1/3　　石製品　1/1　1/2　1/3

金属製品　1/3　1/6　1/10

7．遺物実測図中の網目は次の通りである。

［平面図］

煤範囲　赤彩範囲　内黒

［断面図］

土器・陶磁器　須恵器　灰釉陶器

緑釉陶器

8．遺構図・全体図などに示した方位（N）は国土座標による真北である。

本　文　目　次

巻頭図版
遺跡のあらまし
序文
凡例
目次
図版目次・表目次・写真目次
第Ⅰ章　調査経緯と経過
第１節　調査に至る経緯…… 1
第２節　調査経過…… 1
１．発掘調査の経過…… 1
２．整理作業の経過…… 3
３．調査着手前の事務手続き…… 3
４．調査に係る事務手続き…… 4
第３節　参考資料…… 5
第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境
第１節　地理的環境…… 15
第２節　歴史的環境…… 15
第Ⅲ章　調査の方法と基本層位
第１節　発掘調査の方法…… 19
１．調査区の規模…… 19
２．調査グリッドの設定…… 19
３．表土層の除去…… 19
４．表土層除去後の調査 …… 19
第２節　基本層位…… 23
第Ⅳ章　検出された遺構と遺物
第１節　調査の概要…… 25
第２節　検出された遺構…… 25
１．Ａ区…… 25
２．Ｂ区…… 26
３．Ｃ区…… 27
第Ⅴ章　理化学的分析
第１節　身洗沢遺跡における
植物圧痕分析…… 182
第２節　身洗沢遺跡から出土した馬歯…… 193
第３節　身洗沢遺跡の自然科学分析…… 195
第Ⅵ章　調査の成果と課題
第１節　出土遺物の年代的検討…… 223
第２節　土地利用の変遷…… 229
写真図版…… 231
抄録

図　版　目　次

第１図　試掘調査位置図 …… 2
第２図　細目協定書添付資料⑴ …… 7
第３図　細目協定書添付資料⑵ …… 8
第４図　協議書添付資料⑴ …… 11
第５図　協議書添付資料⑵ …… 12
第６図　協議書添付資料⑶ …… 13
第７図　遺跡分布図 …… 17
第８図　グリッド設定図 …… 21
第９図　基本土層図 …… 24
第10図　Ａ区全体図 …… 31
第11図　Ａ区遺構図⑴ …… 32
第12図　Ａ区遺構図⑵ …… 33
第13図　Ａ区遺構図⑶ …… 34
第14図　Ａ区遺構図⑷ …… 35
第15図　Ａ区遺物分布図 …… 36
第16図　Ｂ区全体図 …… 37
第17図　Ｂ区遺構図⑴ …… 38
第18図　Ｂ区遺構図⑵ …… 39
第19図　Ｂ区遺構図⑶ …… 40
第20図　Ｂ区遺構図⑷ …… 41
第21図　Ｂ区遺構図⑸ …… 42
第22図　Ｂ区土層図⑴ …… 43
第23図　Ｂ区土層図⑵ …… 44
第24図　Ｂ区土層図⑶ …… 45

第25図　B区遺物分布図 …… 46
第26図　C区全体図 …… 47
第27図　C区遺構図(1) …… 49
第28図　C区遺構図(2) …… 50
第29図　C区遺構図(3) …… 51
第30図　C区遺構図(4) …… 52
第31図　C区遺構図(5) …… 53
第32図　C区遺構図(6) …… 54
第33図　C区遺構図(7) …… 55
第34図　C区遺構図(8) …… 56
第35図　C区遺構図(9) …… 57
第36図　C区遺構図(10) …… 58
第37図　C区遺構図(11) …… 59
第38図　C区遺構図(12) …… 60
第39図　C区遺構図(13) …… 61
第40図　C区遺構図(14) …… 62
第41図　C区遺構図(15) …… 63
第42図　C区遺構図(16) …… 64
第43図　C区遺構図(17) …… 65
第44図　C区遺構図(18) …… 66
第45図　C区遺構図(19) …… 67
第46図　C区遺構図(20) …… 68
第47図　C区遺構図(21) …… 69
第48図　C区遺構図(22) …… 70
第49図　C区遺構図(23) …… 71
第50図　C区遺構図(24) …… 72
第51図　C区遺構図(25) …… 73
第52図　C区遺構図(26) …… 74
第53図　C区遺構図(27) …… 75
第54図　C区遺構図(28) …… 76
第55図　A区出土遺物(1) …… 77
第56図　A区出土遺物(2) …… 78
第57図　A区出土遺物(3) …… 79
第58図　A区出土遺物(4) …… 80
第59図　B区出土遺物(1) …… 81
第60図　B区出土遺物(2) …… 82
第61図　B区出土遺物(3) …… 83
第62図　B区出土遺物(4) …… 84
第63図　B区出土遺物(5) …… 85
第64図　B区出土遺物(6) …… 86
第65図　B区出土遺物(7) …… 87
第66図　B区出土遺物(8) …… 88
第67図　B区出土遺物(9) …… 89
第68図　B区出土遺物(10) …… 90
第69図　B区出土遺物(11) …… 91
第70図　B区出土遺物(12) …… 92
第71図　B区出土遺物(13) …… 93
第72図　B区出土遺物(14) …… 94
第73図　C区出土遺物(1) …… 95
第74図　C区出土遺物(2) …… 96
第75図　C区出土遺物(3) …… 97
第76図　C区出土遺物(4) …… 98
第77図　C区出土遺物(5) …… 99
第78図　C区出土遺物(6) …… 100
第79図　C区出土遺物(7) …… 101
第80図　C区出土遺物(8) …… 102
第81図　C区出土遺物(9) …… 103
第82図　C区出土遺物(10) …… 104
第83図　C区出土遺物(11) …… 105
第84図　C区出土遺物(12) …… 106
第85図　C区出土遺物(13) …… 107
第86図　C区出土遺物(14) …… 108
第87図　C区出土遺物(15) …… 109
第88図　C区出土遺物(16) …… 110
第89図　C区出土遺物(17) …… 111
第90図　C区出土遺物(18) …… 112
第91図　C区出土遺物(19) …… 113
第92図　C区出土遺物(20) …… 114
第93図　C区出土遺物(21) …… 115
第94図　C区出土遺物(22) …… 116
第95図　C区出土遺物(23) …… 117
第96図　C区出土遺物(24) …… 118
第97図　C区出土遺物(25) …… 119
第98図　C区出土遺物(26) …… 120
第99図　C区出土遺物(27) …… 121
第100図　C区出土遺物(28) …… 122

第101図　C区出土遺物(29) …… 123
第102図　C区出土遺物(30) …… 124
第103図　C区出土遺物(31) …… 125
第104図　C区出土遺物(32) …… 126
第105図　C区出土遺物(33) …… 127
第106図　C区出土遺物(34) …… 128
第107図　C区出土遺物(35) …… 129
第108図　C区出土遺物(36) …… 130
第109図　C区出土遺物(37) …… 131
第110図　C区出土遺物(38) …… 132
第111図　C区出土遺物(39) …… 133
第112図　C区出土遺物(40) …… 134
第113図　C区出土遺物(41) …… 135
第114図　C区出土遺物(42) …… 136
第115図　C区出土遺物(43) …… 137
第116図　C区出土遺物(44) …… 138
第117図　C区出土遺物(45) …… 139
第118図　C区出土遺物(46) …… 140
第119図　C区出土遺物(47) …… 141
第120図　C区出土遺物(48) …… 142
第121図　C区出土遺物(49) …… 143
第122図　C区出土遺物(50) …… 144
第123図　C区出土遺物(51) …… 145
第124図　C区出土遺物(52) …… 146
第125図　C区出土遺物(53) …… 147
第126図　弥生時代遺物の編年(1) …… 224
第127図　弥生時代遺物の編年(2) …… 225
第128図　古墳時代遺物の編年(1) …… 227
第129図　古墳時代遺物の編年(2) …… 228
（第Ⅴ章第１節中の図版）
第１図　身洗沢遺跡出土圧痕土器…… 183
第２図　身洗沢遺跡土器圧痕SEM画像(1)…… 188
第３図　身洗沢遺跡土器圧痕SEM画像(2)…… 189
第４図　身洗沢遺跡土器圧痕SEM画像(3)…… 190
第５図　身洗沢遺跡土器圧痕SEM画像(4)…… 191
（第Ⅴ章第２節中の図版）
第１図　暦年較正結果…… 194
（第Ⅴ章第３節中の図版）
第１図　暦年較正結果…… 200
第２図　暦年較正年代確率分布図…… 206

写真図版目次

図版１　試掘調査(1) …… 233
図版２　試掘調査(2) …… 234
図版３　A区調査(1) …… 235
図版４　A区調査(2) …… 236
図版５　B区調査(1) …… 237
図版６　B区調査(2) …… 238
図版７　B区調査(3) …… 239
図版８　C区調査(1) …… 240
図版９　C区調査(2) …… 241
図版10　C区調査(3) …… 242
図版11　C区調査(4) …… 243
図版12　C区調査(5) …… 244
図版13　C区調査(6) …… 245
図版14　C区調査(7) …… 246
図版15　C区調査(8) …… 247
図版16　A区出土遺物(1) …… 248
図版17　A区出土遺物(2) …… 249
図版18　A区出土遺物(3) …… 250
図版19　B区出土遺物(1) …… 251
図版20　B区出土遺物(2) …… 252
図版21　B区出土遺物(3) …… 253
図版22　B区出土遺物(4) …… 254
図版23　B区出土遺物(5) …… 255
図版24　B区出土遺物(6) …… 256
図版25　B区出土遺物(7) …… 257
図版26　B区出土遺物(8) …… 258
図版27　C区出土遺物(1) …… 259
図版28　C区出土遺物(2) …… 260

図版29　C区出土遺物(3) …… 261
図版30　C区出土遺物(4) …… 262
図版31　C区出土遺物(5) …… 263
図版32　C区出土遺物(6) …… 264
図版33　C区出土遺物(7) …… 265
図版34　C区出土遺物(8) …… 266
図版35　C区出土遺物(9) …… 267
図版36　C区出土遺物(10) …… 268
図版37　C区出土遺物(11) …… 269
図版38　C区出土遺物(12) …… 270
図版39　C区出土遺物(13) …… 271
図版40　C区出土遺物(14) …… 272
図版41　C区出土遺物(15) …… 273
図版42　C区出土遺物(16) …… 274
図版43　C区出土遺物(17) …… 275
図版44　C区出土遺物(18) …… 276
図版45　C区出土遺物(19) …… 277
図版46　C区出土遺物(20) …… 278
図版47　C区出土遺物(21) …… 279
図版48　C区出土遺物(22) …… 280
図版49　C区出土遺物(23) …… 281
図版50　C区出土遺物(24) …… 282
図版51　C区出土遺物(25) …… 283
図版52　C区出土遺物(26) …… 284
図版53　C区出土遺物(27) …… 285
図版54　C区出土遺物(28) …… 286
図版55　C区出土遺物(29) …… 287
図版56　C区出土遺物(30) …… 288
図版57　C区出土遺物(31) …… 289
図版58　C区出土遺物(32) …… 290
図版59　C区出土遺物(33) …… 291
図版60　C区出土遺物(34) …… 292
（第Ⅴ章第２節中の写真図版）
図版１　馬歯…… 194
（第Ⅴ章第3節中の写真図版）
図版１　種実遺体(1) …… 217
図版２　種実遺体(2) …… 218
図版３　木材(1) …… 219
図版４　木材(2) …… 220
図版５　木材(3) …… 221
図版６　炭化材…… 222

表　目　次

第１表　遺跡一覧表…… 18
第２表　遺構一覧表…… 148
第３表　遺物一覧表（土器・陶磁器）…… 150
第４表　遺物一覧表（石製品）…… 179
第５表　遺物一覧表（木製品）…… 180
（第Ⅴ章第１節中の表）
第１表　身洗沢遺跡圧痕一覧…… 184
（第Ⅴ章第２節中の表）
第１表　計測結果…… 193
第２表　年代測定試料および処理…… 193
第３表　放射性炭素年代測定および
　　暦年較正の結果…… 193
第4表　炭素同位体比測定結果 …… 193
（第Ⅴ章第3節中の表）
第１表　分析試料一覧…… 196
第２表　放射性炭素年代測定および
　　暦年較正結果…… 197
第３表　種実同定結果…… 209
第４表　種実同定結果（土壌試料）…… 210
第５表　モモ核（完形）の計測結果…… 210
第６表　樹種同定結果…… 212
第７表　時期別・器種別種類構成…… 214

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

発掘調査を実施した地点は笛吹市八代町南の中央高速自動車道に隣接した果樹園に位置する。調査地点の周辺で中央高速自動車道と県道 22 号線が交差しており、一帯に果樹園が広がっている。

今回の調査は、笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う発掘調査である。工事予定地が身洗沢遺跡及び隣接地に位置していたため、文化財保護法第 94 条に基づく峡東建設事務所（平成 25 年２月 25 日付け）・中日本高速道路株式会社八王子支社（平成 25 年２月 28 日付け）・笛吹市（平成 25 年３月５日付け）から提出された届出に係り、平成 25 年３月 11 日付けの笛吹市あて通知（教学文第 3264 号）・峡東建設事務所あて通知（教学文第 3265 号）・中日本高速道路株式会社八王子支社あて通知（教学文第 3265 号）に応じ、山梨県埋蔵文化財センターが平成 25 年 12 月９日から 12 月 12 日に中央自動車道北側のエリアを対象として試掘調査を行った。また、隣接した市道部分につき、笛吹市教育委員会が平成 25 年 12 月９日から 12 月 12 日に試掘調査を実施した。この結果、県埋蔵文化財センター調査地点において埋蔵文化財は確認されなかったものの、笛吹市教育委員会調査地点において、遺構と解釈し得る土層断面が検出された。

事業予定地全体に対する埋蔵文化財調査について、県土整備部峡東建設事務所、中日本高速道路株式会社、笛吹市、学術文化財課で協議を進め平成 26 年度に試掘調査を行い、埋蔵文化財が確認された場合、エリアを限定して平成 26 年度に本調査を実施し、試掘調査によって本調査範囲が広域となる場合は、平成 27 年度にも発掘調査を行うこととなった。

平成 26 年度調査に先立ち、平成 26 年６月 27 日まで行われた県土整備部峡東建設事務所、中日本高速道路株式会社、笛吹市、学術文化財課との協議により、工事施工範囲に基づく調査エリアなどを確認し、平成 26 年７月から３ヶ月間、県埋蔵文化財センターの試掘調査とＢ区の発掘調査を行った。試掘調査の結果、県道石橋・石和線北西側（Ａ区）と中央高速自動車道南側（Ｃ区）において埋蔵文化財を確認したため、Ａ区とＢ区の北西エリアを対象として平成 26 年 12 月から２ヶ月間、発掘調査を実施した。

平成 27 年度調査に先立ち、平成 26 年５月 23 日まで行われた県土整備部峡東建設事務所、中日本高速道路株式会社、笛吹市、学術文化財課との協議により、工事施工範囲に基づく調査エリアなどを確認し、平成 26 年５月より約４ヶ月間、県埋蔵文化財センターの発掘調査を行った。

第２節　調査経過

１．発掘調査の経過

［平成 26 年度］

（Ａ区）

プレハブと発掘調査用の機材は平成 26 年 12 月 17 日に搬入し、12 月 19 日に作業員雇用を開始した。県道石橋・石和線沿いの狭小な範囲が施工範囲であったため、調査区を８つの地点に分割し、掘削地点と排土置き場を入れ替えながら調査を進めた。また、遺物包含層に至るまでの表土は重機で掘り下げ、遺物包含層の検出面から地山層までの掘り下げを人力で行った。調査の進捗に応じ、株式会社テクノプラニングによる航空写真測量を１月 26 日に行った。プレハブ・発掘調査用機材は１月 28 日に撤去した。

（Ｂ区１次）

中央自動車道の北側に隣接するエリアについては笛吹インターチェンジ建設事業の工事予定範囲の中で、施工が急がれるエリアであったため、平成 25 年 12 月９日から 12 日に県埋蔵文化財センターが中央から西南を対象に試掘調査を実施したが、埋蔵文化財は確認されなかった。笛吹市教育委員会がエリア北端を調査したところ、黒色シルト層が畦畔状に盛り上がっている状況が確認された。黒色シルト層が遺構面となる可能性を有していたため、平成 26 年７月から２ヶ月間、本調査を実施して埋蔵文化財の記録に努めた。

八代町北
市教委トレンチ
H25 T4
H25 T3
H25 T2
H25 T1
T1
T2
T3
T4
T5
T6
T7
T8
T9
T10
T11
T12
T13
T14
T15
T16
T17
T18
T19
T20
T21
T22
T23
T25
T26
T27
T28
T29
T30
T31
T32
T33
T34
T35
T36
T37
T38
T39
T40
T41
T42
T43
T44
T45
T46
T47
T48
T49
県埋文 1989 年調査地点
八代町 1996 年調査地点
N
0
1m
1/2,500

第 1 図　試掘調査位置図

プレハブと発掘調査用の機材は平成 26 年 7 月 1 日・2 日に搬入し、7 月 9 日に作業員雇用を開始した。表土剥ぎは 7 月 3 日から 8 日まで合計 4 日間行い、重機による掘削が終了した後はトレンチを設け、遺構面の検出に努めた。この結果、遺物包含層が確認されたため、調査区を東西に分け、西側から東側の順で調査を進行させた。遺構面の調査については、8 月 29 日まで実施した。プレハブ・発掘調査用機材は試掘調査の終了に伴い 9 月 24 日に撤去した。

（B 区 2 次）

B 区 2 次の調査範囲は、B 区 1 次の際に未買収地だった場所などを対象としている。調査用の設備を整備するのに先立ち、平成 26 年 12 月 15 日から 17 日まで合計 2 日間、表土剥ぎを行った。プレハブと発掘調査用の機材は平成 26 年 12 月 18 日に搬入し、12 月 19 日に作業員雇用を開始した。遺構面の調査については 1 月 20 日まで行い、調査完了に伴って株式会社テクノプラニングによる航空写真測量を 1 月 21 日に行った。プレハブ・発掘調査用機材は 1 月 29 日に撤去した。

［平成 27 年度］

（B 区 3 次）

B 区 3 次の調査範囲は、B 区 1・2 次の際に撤去が行えなかった畑地灌漑に伴う電気施設の用地を対象としている。C 区の調査期間と並行して実施したため調査用の設備は既設のものを利用した。表土剥ぎは平成 27 年 8 月 10 日に実施し、遺構面の調査については 8 月 21 日まで行った。調査完了に伴って株式会社シン技術コンサルによる航空写真測量を 8 月 21 日に行った。

（C 区）

平成 27 年 5 月 25 日に作業員の雇用を開始し、5 月 27 日に発掘調査用機材を搬入した。表土剥ぎについては、5 月 25 日から 6 月 11 日まで合計 14 日間実施し、遺構面の検出に努めた。基準点測量については株式会社昭和測量に委託し、6 月 11 日に行った。調査区が広いため、調査区南側と東側の一部に係る範囲につき先行して調査を終え、株式会社三和航測による航空写真測量を 7 月 15 日に行った。それ以外の範囲については、9 月 29 日までに調査を終えて、同日株式会社三和航測による航空写真測量を実施した。9 月 30 日にプレハブ・発掘調査用機材を撤去した。11 月の段階で調査区東端において、工事施工に伴い市道に伴う擁壁を解体することとなった。このエリアは古墳時代の遺構が検出された場所であり、工事による埋蔵文化財の破壊が予想されたため、11 月 9 日から 11 月 17 日まで調査を行い、遺構・遺物を記録した。

２．整理作業の経過

整理作業は、基礎的整理を平成 26 年度（平成 27 年 2 月 4 日～平成 27 年 3 月 17 日）及び平成 27 年度（平成 27 年 10 月 5 日～平成 28 年 2 月 24 日）、本格的整理を平成 28 年度（平成 28 年 5 月 23 日～平成 29 年 2 月 28 日）に実施した。作業の工程としては、平成 26 年度出土遺物の水洗・注記・接合を平成 27 年 2 月から 3 月、平成 27 年度出土遺物の水洗・注記・接合を平成 27 年 10 月から平成 28 年 2 月、接合・遺物実測・遺物トレースを平成 28 年 5 月から平成 29 年 1 月に行った。遺物図版及び遺構図版作成は平成 28 年 11 月から平成 29 年 1 月、写真図版作成は平成 29 年 1 月に実施した。報告書の入稿は 2 月 2 日であり、報告書は 2 月 24 日に刊行された。整理作業に係わる委託業務としては、土器・石器の実測・デジタルトレース委託、土器のデジタルトレース委託、木製品の保存処理と図化委託、放射性年代測定・種実同定・樹種同定を実施した。その他に山梨県立博物館に依頼し、馬歯の分析を行った。これらの分析結果については、第Ⅴ章に収めた。

なお、平成 26・27 年度に実施した県埋蔵文化財センター主催の遺跡展に出土遺物を出展した。

３．調査着手前の事務手続き

笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う発掘調査の実施にあたり、県土整備部峡東建設事務所、中日本高速道路株式会社、笛吹市の 3 者が協定を締結して面積比率から調査経費を分担した。本章の最後に掲載した「笛吹スマートイン

ターチェンジ事業に係る埋蔵文化財調査費用負担に関する細目協定書」及び「笛吹スマートインターチェンジ事業に係る埋蔵文化財本調査に関する協議書」は３者が結んだ協定書である。また、調査着手に先立ち、県教育委員会教育長と市教育委員会教育長は調査の役割分担を定めた「笛吹スマートインターチェンジ事業に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を締結した。この協定も本章の末に掲載した。

４．調査に係る事務手続き

発掘調査に際しては、文化財保護法に基づく手続きの他に、発掘調査の成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。平成 26 年度においては調査区ごとに発掘通知・発見通知・完了報告を提出したが、平成 27 年度では一括して文書を処理した。なお、文化財保護法第 99 条第２項に基づく発見通知は山梨県教育委員会教育長に提出した後、学術文化財課から所轄の警察署に提出された。

［平成 26 年度］

（Ａ区）

平成27年　1月　6日　文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成27年　2月　2日　文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成27年　2月10日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

（Ｂ区１次）

平成26年　7月11日　文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成26年　9月26日　文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成26年10月　7日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

（Ｂ区２次）

平成27年　1月　8日　文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成27年　2月　2日　文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成27年　2月　9日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

（Ａ・Ｂ区）

平成27年　3月　5日　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

［平成27年度］

（Ｂ・Ｃ区）

平成27年　6月　2日　文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成27年10月　5日　文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成27年10月16日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成28年　3月　4日　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

第３節　参考資料

１）笛吹スマートインターチェンジ事業に係る埋蔵文化財調査費用負担に関する細目協定書

中日本高速道路株式会社八王子支社甲府保全・サービスセンター（以下「甲」という。）、山梨県（以下「乙」という。）及び笛吹市（以下「丙」という。）とは、平成２４年９月２６日付けで締結した「（仮称）笛吹スマートインターチェンジ事業に関する基本協定」（以下「基本協定」という。）に基づき、次のとおり埋蔵文化財調査費用負担に関する細目協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、基本協定に定める事業のうち、埋蔵文化財調査の費用負担について必要な事項を定め、埋蔵文化財調査の適正かつ円滑な進捗を図ることを目的とする。

（内容）

第２条　この協定において、埋蔵文化財調査の内容は次のとおりとする。

一　予備調査

埋蔵文化財調査のうち本調査経費算出を目的とした調査

二　本調査

埋蔵文化財調査のうち発掘調査、発掘対象物の整理、報告書作成

（相互協力）

第３条　甲、乙及び丙は埋蔵文化財調査に関して、適正かつ円滑な進捗を図るため相互に協力するものとする。

（適用範囲）

第４条　この協定のうち本協定第２条一についての適用範囲は、別添図１のとおりとする。

２　本協定の第２条二についての適用範囲は、本協定第２条一の調査の進捗に応じて甲、乙及び丙の間で別途協議するものとする。

（費用負担区分）

第５条　埋蔵文化財調査の施行において、本協定第２条一の費用負担区分は、別添図２の費用負担区分図に基づき、甲、乙及び丙の事業面積比によるものとする。これにより算出された費用負担割合を別表－１に示すものとする。

２　本協定第２条二の費用負担区分は、本協定第４条第２項に基づいて甲、乙及び丙の間で別途協議するものとする。

（事業執行）

第６条　埋蔵文化財調査の契約にあっては、甲、乙及び丙と調査機関との間でそれぞれ契約を締結するものとする。

（協定の有効期間）

第７条　この協定の有効期間は、協定締結の日からこの協定の各条項に定める事務が完了する日までとする。

（協定の変更）

第８条　本協定第４条第２項による協議もしくはやむを得ない事由によりこの協定の内容を変更する必要が生じた場合は、その都度、甲、乙及び丙協議の上、これを変更することができる。

（その他）

第９条　この協定に定めない事項及び疑義が生じた事項は、その都度、甲、乙及び丙で別途協議するものとする。

この協定の証として本書３通を作成し、甲乙丙記名押印の上、各自１通を保有する。

平成２６年５月９日

甲　中日本高速道路株式会社八王子支社
甲府保全・サービスセンター所長　東久保　忠

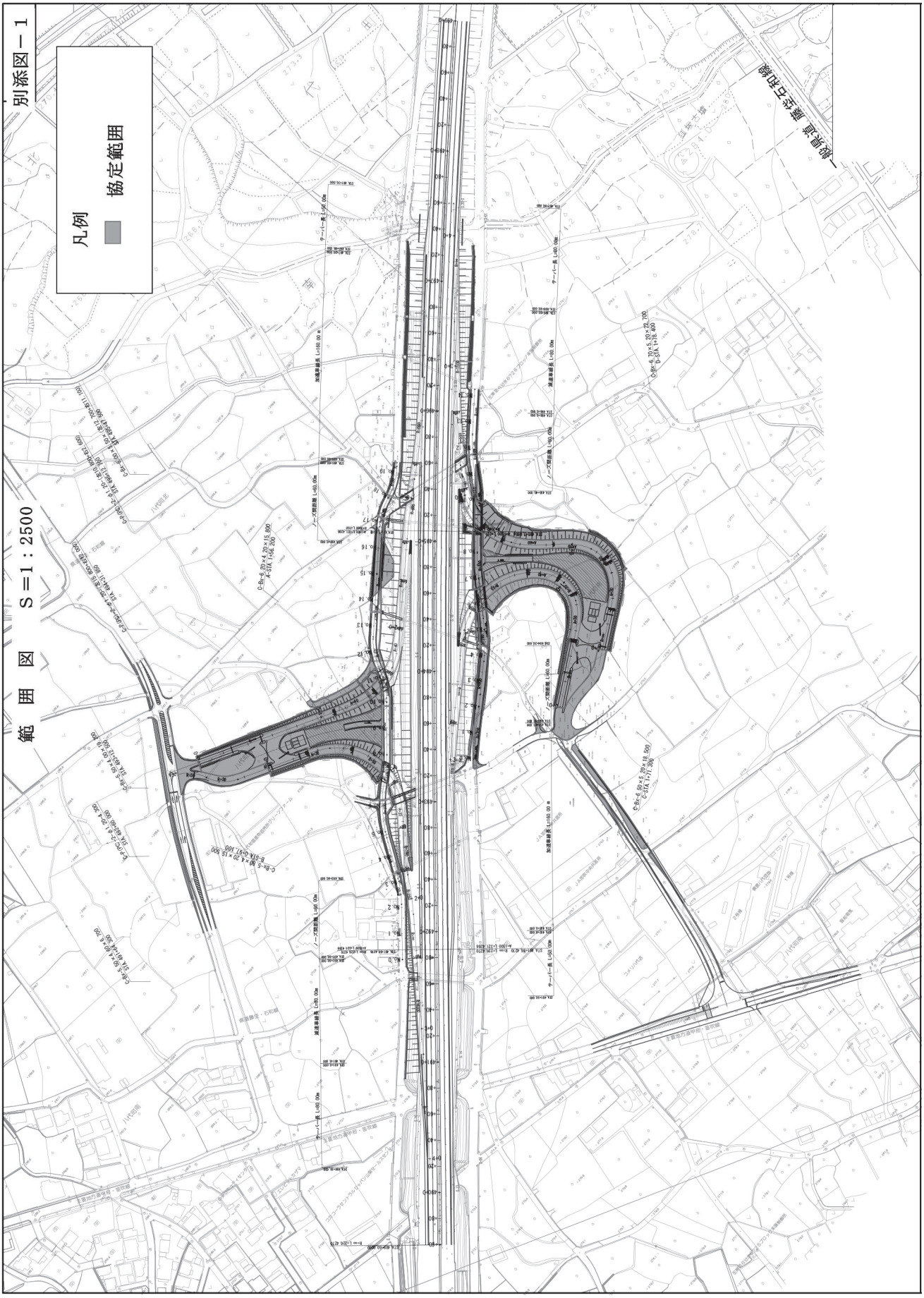
乙　山梨県知事　横内　正明

丙　笛吹市長　倉嶋　清次

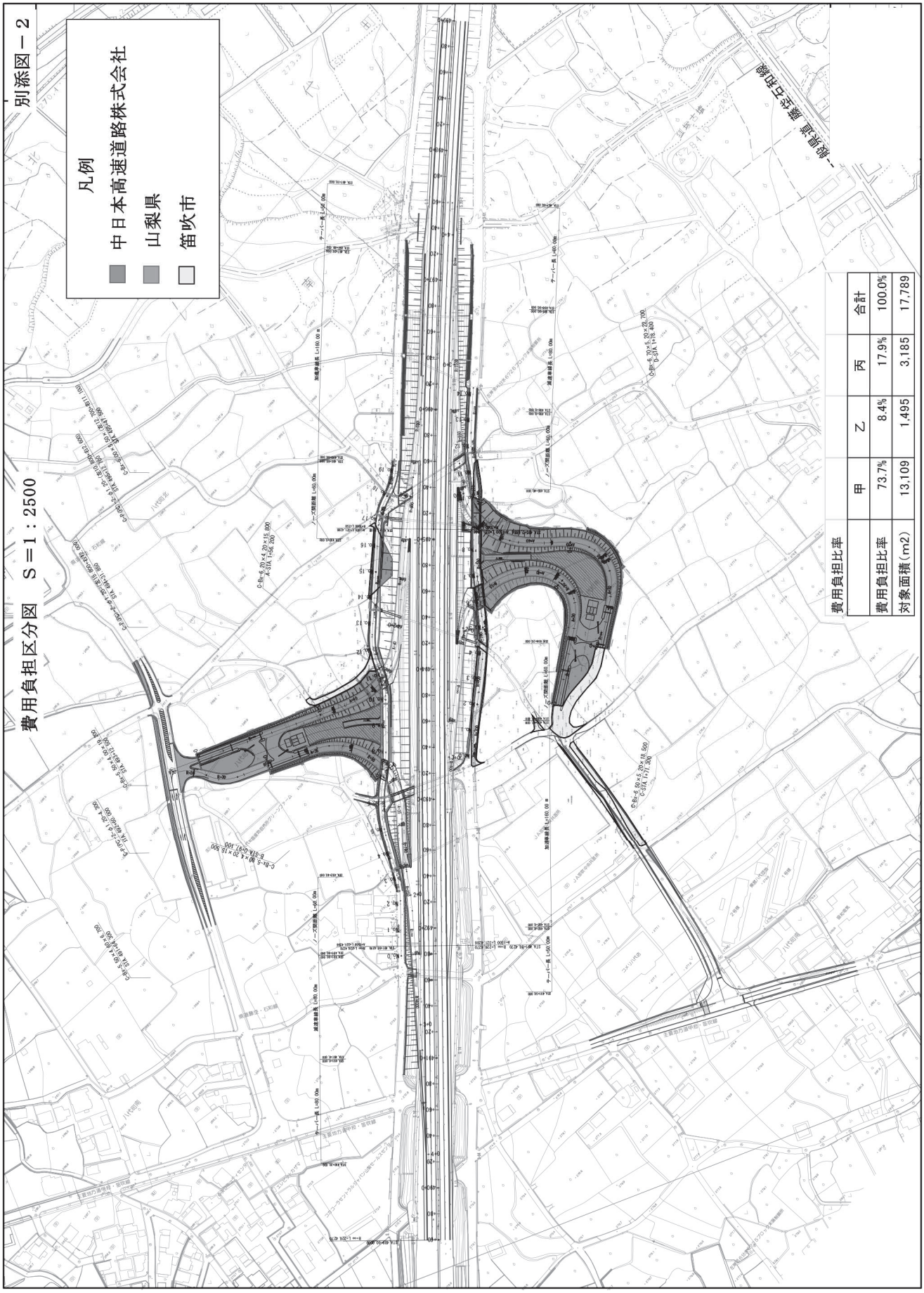
別表－１

費用負担割合

	甲	乙	丙
費用負担割合	７３．７％	８．４％	１７．９％



第２図　細目協定書添付資料(1)



第３図　細目協定書添付資料(2)

２）笛吹スマートインターチェンジ事業に係る埋蔵文化財本調査に関する協議書

中日本高速道路株式会社八王子支社甲府保全・サービスセンター（以下「甲」という。）、山梨県（以下「乙」という。）及び笛吹市（以下「丙」という。）とは、平成 26 年５月９日付けで締結した「（仮称）笛吹スマートインターチェンジ事業に係わる埋蔵文化財調査費用負担に関する細目協定」（以下「細目協定」という。）に基づき、次のとおり埋蔵文化財本調査に関する協議を取り交わすものとする。

（目的）

第１条　この協議は、「（仮称）笛吹スマートインターチェンジ事業に係る埋蔵文化財調査費用負担に関する細目協定」第２条第２項に定める埋蔵文化財調査の本調査のうち、第４条第２項に於ける「適用範囲」及び第５条第２項に於ける「費用負担区分」について、協議を取り交わし、埋蔵文化財調査の適正かつ円滑な進捗を図ることを目的とする。

（内容）

第２条　この協議の内容は次のとおりとする。

一　適用範囲

埋蔵文化財調査のうち発掘本調査経費算出を目的とした調査範囲区分

二　費用負担区分

埋蔵文化財調査のうち発掘本調査、発掘対象物の整理、報告書作成に要する費用区分

（相互協力）

第３条　甲、乙及び丙は埋蔵文化財本調査に関して、適正かつ円滑な進捗を図るため相互に協力するものとする。

（適用範囲）

第４条　この協議のうち本協議第２条一についての適用範囲区分は、「別添図１」のとおりとする。

（費用負担区分）

第５条　この協議のうち本協議第２条二の費用負担区分は、「別添図１」の調査範囲区分図に基づき、甲、乙及び丙の事業面積比によるものとする。これにより算出された費用負担割合を「別表－１」に示すものとする。

（協議の有効期間）

第６条　この協議の有効期間は、協議取り交わしの日からこの協議の各条項に定める事務が完了する日までとする。

（協議の変更）

第７条　埋蔵文化財発掘本調査を進める中で、やむを得ない事由によりこの協議の内容を変更する必要が生じた場合は、その都度、甲、乙及び丙協議の上、これを変更することができる。

（その他）

第８条　この協議に定めない事項及び疑義が生じた事項は、その都度、甲、乙及び丙で別途協議するものとする。

この協議の取り交わしの証として本書３通を作成し、甲乙丙記名押印の上、各自１通を保有する。

平成２６年１１月１３日

甲　中日本高速道路株式会社八王子支社
甲府保全・サービスセンター所長　東久保　忠

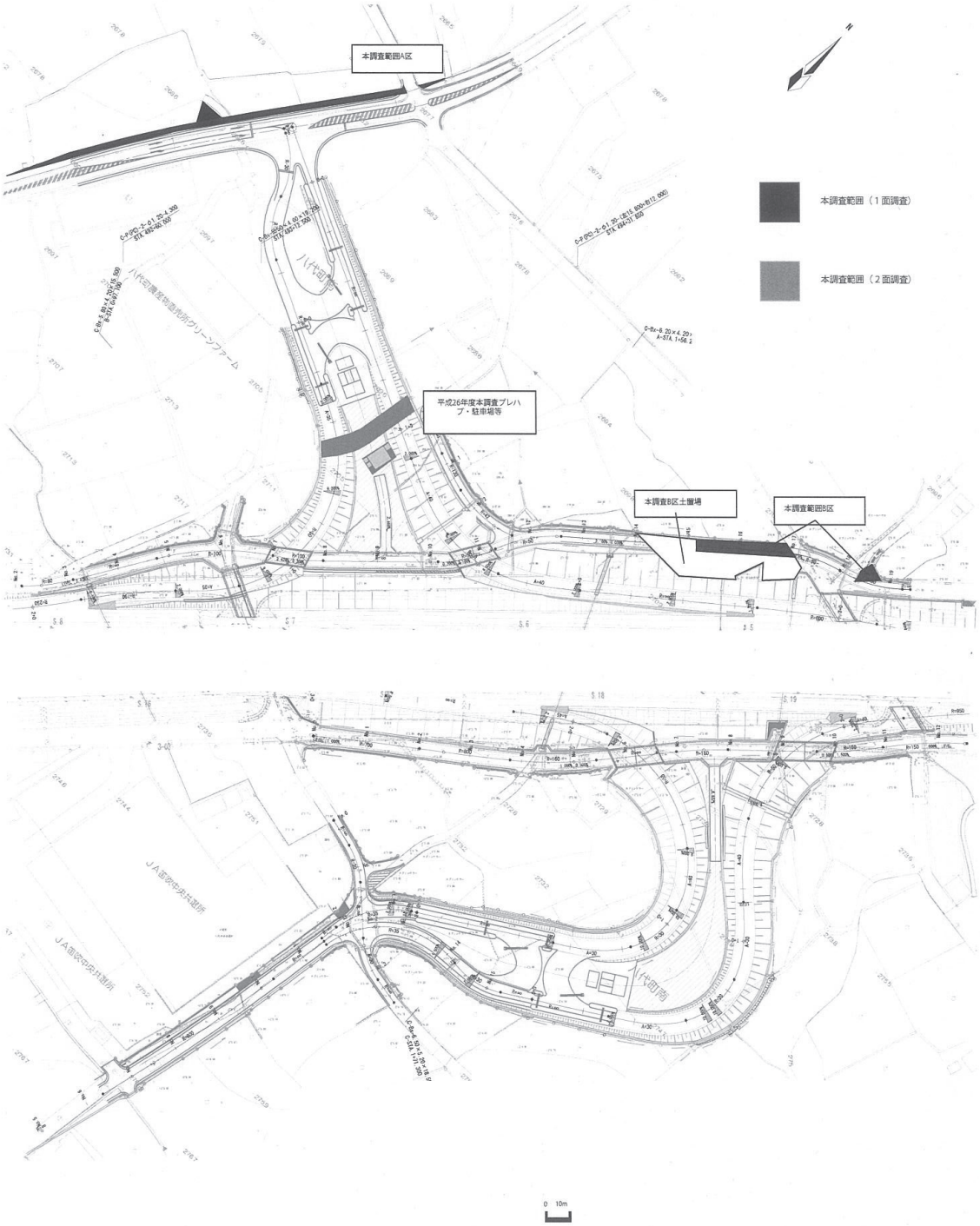
乙　山梨県知事　横内正明

丙　笛吹市長　倉嶋清次

別表－１
費用負担割合

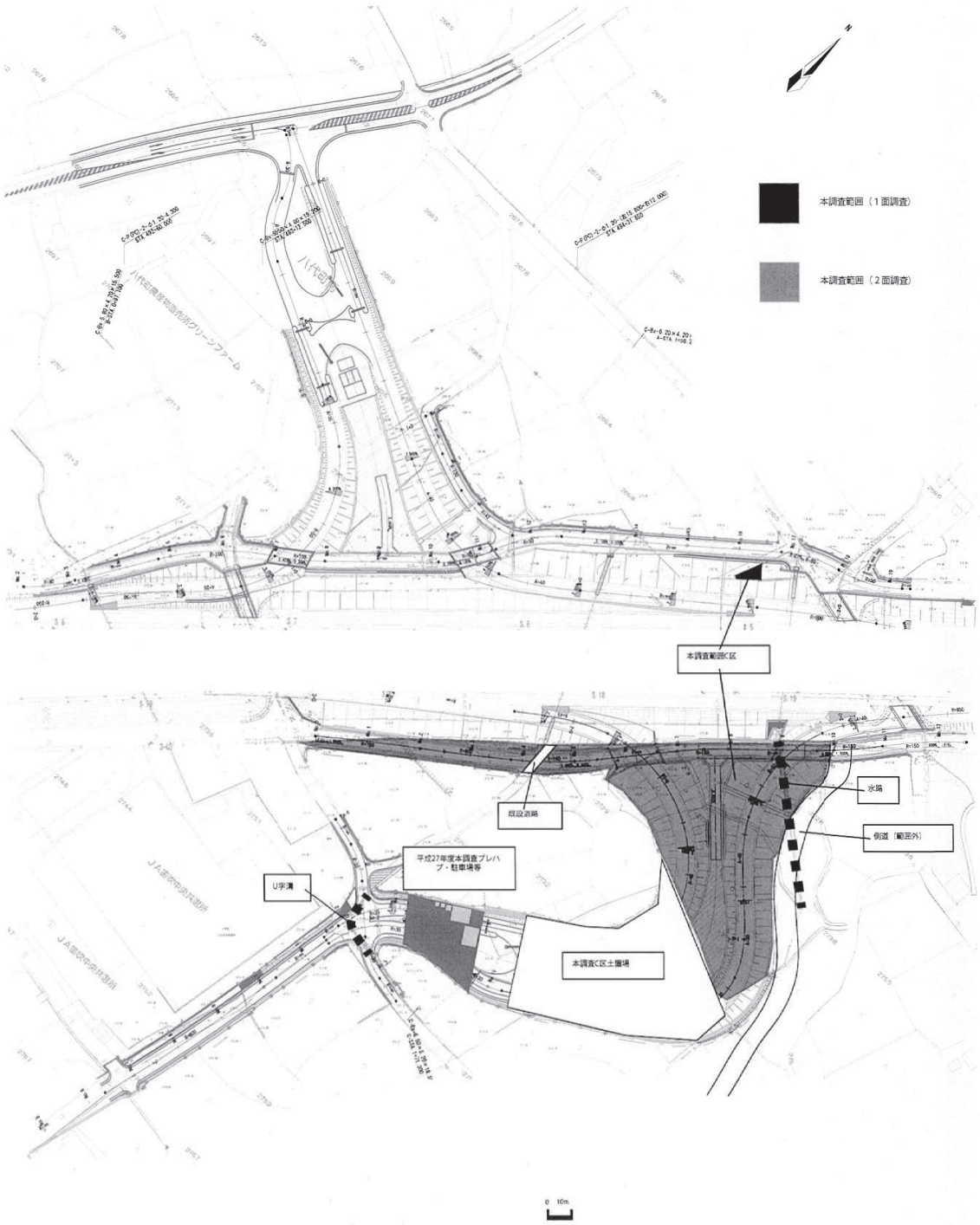
	甲	乙	丙
平成 26 年度費用負担割合	０％	６８．６％	３１．４％
平成 27 年度費用負担割合	７６．６％	０％	２３．４％
平成 28 年度費用負担割合	６７．２％	８．４％	２４．４％

平　面　図　（平成26年度調査対象範囲）



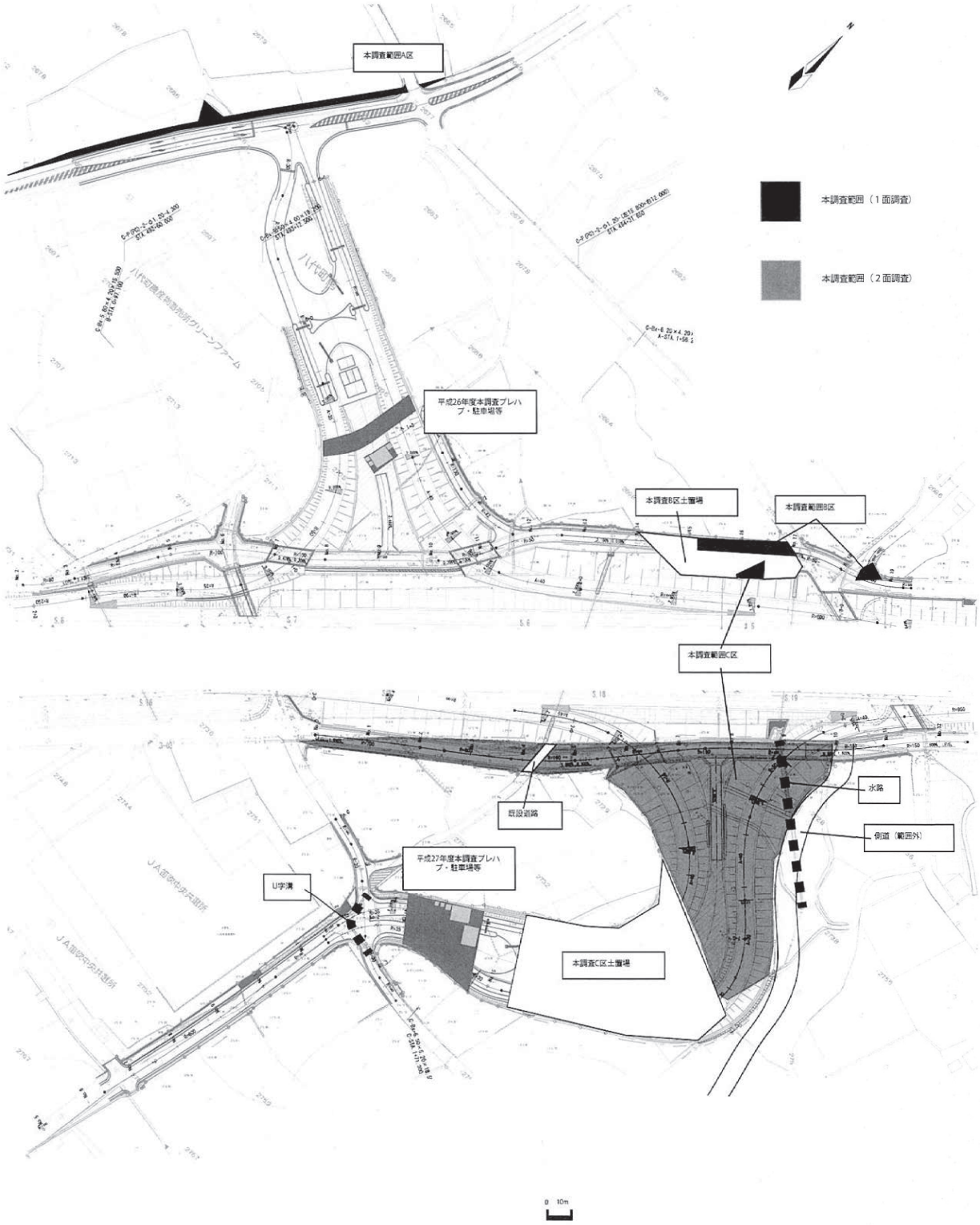
第４図　協議書添付資料(1)

平　面　図　（平成27年度調査対象範囲）



第５図　協議書添付資料(2)

平　面　図　（平成28年度調査対象範囲［本格的整理、報告書刊行］）



第６図　協議書添付資料(3)

３）笛吹スマートインターチェンジ事業に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書

笛吹市教育委員会教育長（以下「甲」という。）と山梨県教育委員会教育長（以下「乙」という。）とは、（仮称）笛吹スマートインターチェンジ事業（以下「事業」いう。）に伴う埋蔵文化財調査（以下「調査」という。）の実施に関し、次のとおり協定を締結する。

（目的等）

第１条　甲及び乙は、事業に伴う埋蔵文化財調査について、共同で調査を行う。

（協定の範囲）

第２条　この協定を適用する調査対象範囲は、別添図面に示す範囲とする。

（役割分担）

第３条　埋蔵文化財調査は、次に掲げる業務分担に基づき、甲及び乙が実施する。

⑴　甲は、乙の予備調査・本調査の期間中、定期的に調査現場を訪問し、必要な助言を行う。

⑵　甲は、調査対象範囲内の１ｍ未満の付帯工事について、立会調査を行う。

⑶　甲は、発掘調査報告書中に調査地点周辺の埋蔵文化財包蔵地についての情報及び立会調査の報告の原稿を執筆する。

⑷　乙は、予備調査・本調査・報告書刊行を行う。

（協定の期間）

第４条　この協定は、協定締結日から発効し、有効期間は事業に伴うすべての埋蔵文化財調査（整理作業および報告書の刊行を含む）が完了するまでとする。

（その他）

第５条　この協定に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、甲及び乙はともに誠意をもって協議、解決するものとする。

この協定の証として本書２通を作成し、甲乙記名押印の上、各自１通を保有する。

平成２６年６月９日

甲　笛吹市石和町市部 809 － 1
笛吹市教育委員会
教育長　坂　本　誠　二　郎

乙　山梨県甲府市丸の内一丁目６番１号
山梨県教育委員会
教育長　阿　部　邦　彦

第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境

身洗沢遺跡は、笛吹市八代町南に位置している。八代町は甲府盆地を中心とした富士川水系が流下する中西部地域の内で、甲府盆地の南東にある御坂山地から流下した河川によって形成された扇状地と御坂山塊に立地する。身洗沢遺跡は、浅川・天川扇状地の扇端部、標高 268 m から 273m の地点にある。浅川は御坂町上黒駒、天川は御坂町竹居に水源を発する河川であり、浅川は門林、天川は竹居が扇頂部となる。浅川・天川扇状地には農地が広がり、笛吹川沿岸及び扇端部には水田、扇央部は果樹園が分布する。調査地点周辺は現状では東南から北西方向に主軸を持ちながらなだらかに傾斜しているが、1989 年に行われた県埋蔵文化財センターによる県道石橋・石和線建設事業に伴う発掘調査の結果、弥生時代後期から古墳時代においては微高地と低地を含む起伏に富んだ地形であったことが明らかになっている。

1989 年の身洗沢遺跡発掘調査では、自然化学分析を含めた多彩な検討が行われた。報告書に収められた論考の中で高橋学は、身洗沢遺跡の微地形分析と発掘調査によるセクションを比較検討し、砂礫で形成された中州上に住居、旧河道に水田が構築されたと指摘しており、浅川扇状地の上流側では土石流に起因した舌状微高地の集合体である土石流扇状地帯の性格が強く、下流側では旧中洲と旧河道から形成されている扇状地帯の様相が卓越すると述べている。また、外山秀一は、試掘調査時において３地点から試料を採取し、プラント・オパール分析を実施した。この結果をもとに、地点ごとの地形復元を行い、弥生時代後期の遺構が確認される土層は、やや不安定な時期を介在しつつも、低湿な後背湿地であったとしている。また、弥生時代後期とそれ以前の土層を形成した時期については、弥生時代中期頃に段丘や自然堤防などの形成を促した不安定な時期があったとする、西日本の臨海部における調査事例から、身洗沢遺跡の砂や砂礫が堆積した土層に対応する可能性を指摘している。このように、河川の削剥・堆積作用による影響を受けているため、現代と弥生時代後期から古墳時代の地形が大きく異なっていたことが調査地点の特質として指摘できる。

第２節　歴史的環境

身洗沢遺跡の所在する笛吹市八代町は、浅川扇状地と御坂山塊山裾の丘陵等の高台に立地しており、山梨県内でも遺跡の多い地域として知られている。

旧石器時代の遺跡は丘陵上の遺跡で確認されており、銚子原遺跡で切出形石器、上ノ平 A 遺跡で石刃状剥片が出土している。これに続く縄文時代草創期についても、柳原遺跡で有舌尖頭器や木葉形尖頭器が出土している。これらはいずれも石器が単独で発見されており、ブロックや礫群などの生活遺構は確認されていない。

縄文時代前期後半以降、大規模な集落が形成されるようになる。花鳥山遺跡は御坂山塊から舌状に延びる丘陵上に立地する遺跡で、これまでに３回にわたって発掘調査が行われ 30 軒近くの竪穴住居跡と大量の遺物が発見されている。住居跡の大部分は前期後半に位置付けられる。調査範囲が狭く、住居跡の重複が著しいことから大規模な集落の存在がうかがわれる。

銚子原遺跡は八代町岡地内の丘陵上に立地する遺跡で、これまでに 4 回にわたって発掘調査が行われ、40 軒近くの住居跡が発見されている。住居跡の時代は前期前葉から後期前葉にわたっている。なかでも 4 次調査では長軸 12.2 mの大型住居跡が発見され、山梨県内では初めて大型住居跡が確認された。

三光遺跡は浅川扇状地の扇頂近くに立地する遺跡で、中期中葉から後葉の竪穴状遺構、集石遺構、土坑、後期前葉から後葉の土坑、配石遺構、晩期の焼土遺構などが発見されている。特に中期後葉の土坑から長軸 11cm の硬玉製大珠が出土している。

縄文時代の住居跡はこのほかにも竜安寺川西遺跡、仲原遺跡、京原遺跡、西原遺跡などで確認されている。これらはいずれも丘陵などの高台上に立地するが、浅川扇状地扇央部の南居遺跡や扇端部の横田遺跡でも中期を中心とした縄文土器が多量に採集されており、扇状地上にも集落が広がっていたことが推定されている。

弥生時代前期の遺跡として、容器形土偶が出土した岡遺跡が知られている。容器形土偶は内部が中空となり乳幼児の埋葬に用いられたと考えられている。岡遺跡では大小２個体の容器形土偶が復元されているが、別個体の破片もあることから少なくとも３個体が埋葬されていた可能性が高い。いずれも顔面と身体に入墨を表現したと見られる文様が施されており、当時の人々の姿や習俗を知る上でも貴重な資料であることから、山梨県指定文化財になっている。容器形土偶出土地点周辺を含めて八代地域周辺では弥生時代前期の遺跡は未だに確認されていない。この時期にどのような集団がこの容器形土偶を埋葬したかはまだ不明である。

弥生時代後期になるといくつかの集落遺跡が確認され、様相が明らかにされつつある。今回調査を行った身洗沢遺跡は平成元年（1989）にも発掘調査が行われ、弥生時代後期の住居跡２軒、水田跡、古墳時代前期の竪穴状遺構、土坑及びピットなどが発見された。弥生時代の遺構は微高地上に住居跡があり、それに隣接した微凹地に水田跡が営まれていた。水田跡の発見された微凹地は、旧河道が洪水によって埋もれていく過程で弥生後期段階に３回にわたって水田が造られ、古墳時代前期段階に至ってほぼ埋没したことが確認された。水田には狭い谷状の凹地地形に対応するように畦畔や水路が設けられていた。水田や埋没旧河道を中心に多量の土器や木製品が出土した。木製品にはクワ、エブリの未製品、膝柄クワの柄、又クワなどの農具のほか、木製剣、縦櫛などが出土している。本遺跡は山梨県内で初めて水田遺構の調査を行った遺跡であり、その後県内各地で水田遺構の調査が行われる端緒となった。出土した木製品は当時の生活を物語る貴重な資料として県指定文化財となっている。

笛吹市の遺跡台帳では身洗沢遺跡周辺の弥生時代遺跡として屋敷之内遺跡・神ノ木遺跡・一町五反遺跡・沢又木遺跡・弁才天遺跡・下長崎遺跡・上堀遺跡・塚ノ越遺跡・観音溝遺跡・石橋遺跡などが登録されている。いずれも扇状地扇端部に立地する遺跡で、観音溝遺跡では住居跡２軒、溝４条、土坑２基が発見されている。少し離れるが境沢遺跡で弥生後期の住居跡２軒、石和高校周辺遺跡でも弥生後期の遺物包含層が発掘されている。立地・時代も共通することから、身洗沢遺跡と同様、微凹地に水田を営み、隣接した微高地を居住空間とした集落景観が点々と広がっていたことがうかがわれる。

一方、弥生後期から古墳時代前期になると丘陵などの高台上に集落が見られるようになる。上の平Ａ遺跡は八代町米倉の丘陵上に立地し、昭和 59 年（1984）の発掘調査によって弥生後期の住居跡７軒が発見されている。西原遺跡は平成８年（1996）から 11 年（1999）にかけて発掘調査が行われ、弥生末から古墳時代初頭の住居跡６軒と方形周溝墓 13 期が発見されている。同時期の住居跡や方形周溝墓は龍安寺川西遺跡や京原遺跡、柳原遺跡でも確認され、少し離れるが、諏訪尻遺跡や前付・馬場遺跡ではまとまった住居跡群が発見されている。

八代地域における古墳は４世紀後半に丘陵上に出現する。岡・銚子塚古墳は最初に本地域で築造された前方後円墳で全長 92m を測る。主体部は粘土槨で、江戸時代の宝暦年間に盗掘されたため遺物は現存しないが、鼉龍鏡、仿製二神二獣鏡の拓本が『甲斐名勝志』に伝えられている。墳丘には円筒埴輪や器材形埴輪が樹立されていた。４世紀後半と推定されている。また竜塚古墳は一辺約 55m の方墳で、主体部は木棺直葬と推定されている。出土した土器から５世紀前半代の築造と推定されている。

５世紀後半代になると扇状地上にも古墳が築造されるようになる。身洗沢遺跡の東側 500 mにある狐塚古墳は全長約 26m の帆立貝式古墳である。発掘調査が行われていないため主体部は不明だが、昭和初期に前方部から鉄剣１、鉄刀２、鉄鉾１などが出土し、墳丘からは円筒埴輪が採集されており、５世紀後半代に築造されたものと推定されている。団栗塚古墳は径 18 m程度の墳丘が残存しているが、かつては帆立貝式古墳であったといわれている。後円部の主体部は竪穴式石室と組合せ石棺が並列しており、墳頂の削平が著しく蓋石が露出している。工事によって主体部が掘られており、竪穴式石室からは直刀２、鉄鏃 10、土師器などが、組合せ石棺からは乳文鏡１、玉類、直刀１が出土したとされるが乳文鏡だけが現存している。出土遺物から５世紀後半代の築造と推定されている。

６世紀前半になると古墳の主体部として横穴式石室が採用されるようになる。荘塚古墳は土地改良中に出土した遺物から６世紀前半代の築造と考えられており、墳丘の一部と主体部がすでに壊されているが、周囲に巨大な石が残存していることから横穴式石室であったと推定されている。地蔵塚古墳は径 35m の円墳で全長 10.1 mの片袖式横穴式石室が開口している。６世紀末から７世紀初頭の築造と推定され八代地域においては最大規模の横穴式石室を持っている。

７世紀以降、浅川の右岸沿いに小規模な円墳が数十基築造され、群集墳を形成するようになる。これらの古墳のうち、

第７図　遺跡分布図

古柳塚古墳からは銀象嵌円頭太刀柄頭、金銅製透彫心葉形鏡板付轡、鉄製壺鐙などが、竹居１号墳からは銀象嵌八窓鍔及び刀装具、御崎古墳からは金銅製毛彫馬具が出土しており、武具・馬具の中でも優品を副葬するもの目立っている。

古墳時代後期以降の集落遺跡としては、五里原遺跡、下長崎遺跡、八王子遺跡、堀ノ内遺跡、金地蔵遺跡などがあり、奈良・平安時代まで継続する。この時代の集落は『倭妙類聚抄』に記載された八代郡八代郷・長江郷を構成する集落であると考えられている。八代郷は郡名を関していることから八代郡家の所在郷である可能性が高く、堀ノ内遺跡周辺に郡家の存在が指摘されている。また永井の瑜伽寺は奈良時代の塑像仏の残欠が残され、周辺からは甲斐国分尼寺跡と同范の軒平瓦が出土していることから、古代寺院の伽藍が周辺に埋もれているものと推定されている。

古代末期には紀伊熊野神社の荘園である「八代庄」が成立し、荘園の停廃をめぐる荘園領主と国衙勢力との争いが『長寛勘文』として残されている。八代町北地区に鎮座する熊野神社は荘名の由来となっていることから八代庄の中心地であったと思われる。

本遺跡の北側を甲斐と駿河を結ぶ若彦路が通っている。この若彦路が古墳時代以降の八代地域、古代以降は八代郡の中心地として繁栄を続けた役割を果たしたものと思われる。

第１表　遺跡一覧表

	遺跡名	調査年度		遺跡名	調査年度		遺跡名	調査年度
1	成就院遺跡		37	柳田遺跡		74	東小山Ｃ遺跡	H12
2	浅間（赤）塚古墳		38	芦川田遺跡		75	横堰遺跡	
3	手箱（天白）塚古墳		39	扇田遺跡		76	欠ノ畑遺跡	
4	塚の越遺跡		40	真道沢遺跡		77	一町五反遺跡	H1
5	上堀遺跡		41	神田遺跡		78	下長沢遺跡	
6	観音構遺跡		42	侭ノ下遺跡	S55	79	長沢遺跡	
7	北向田遺跡		43	堀ノ内遺跡	S63	80	横田遺跡	
8	扇田遺跡		44	竹之内遺跡		81	下長崎遺跡	1)S61 ～ S62、2)H13
9	後畑遺跡		45	伊勢之宮遺跡	S63	82	永井１号墳	
10	中道遺跡		46	伊勢塚古墳		83	樹塚 (荘塚) 古墳	
11	高田塚古墳４		47	団栗塚古墳	S28	84	物見塚古墳	
12	三原沢遺跡		48	真根子塚古墳	S63	85	宮之後遺跡	
13	狐塚古墳		49	久保Ａ遺跡		86	長慶寺遺跡	
14	和泉遺跡	H7	50	久保Ｂ遺跡		87	向原遺跡	
15	下小下遺跡		51	塚越遺跡		88	森ノ上南遺跡	
16	絵毛遺跡		52	八幡塚古墳		89	山神塚古墳	
17	綿熨斗遺跡		53	東鎌田遺跡		90	山ノ神遺跡	
18	宮ノ後遺跡		54	沢又木遺跡		91	馬見塚古墳	S62
19	横田遺跡		55	壱町田遺跡		92	猿子塚古墳	
20	泉田遺跡		56	角田遺跡		93	宮川遺跡	
21	雁甲Ｂ遺跡		57	馬見塚遺跡	S62	94	上神ノ木遺跡	
22	雁甲Ａ遺跡		58	根岸遺跡		95	塚田遺跡	
23	渋田遺跡		59	弁才天遺跡		96	早稲田遺跡	
24	身洗沢遺跡	1)S55、2)H1、3)H7、4)H8、5)H26 ～ H27	60	長崎遺跡	H7	97	福田遺跡	
			61	五里原遺跡	1)S58、2)H13、3)H16	98	安事田遺跡	
25	大庭遺跡		62	鎧塚古墳		99	豊気遺跡	
26	奴白遺跡		63	原遺跡		100	南居遺跡	
27	能城寺塚古墳		64	双子塚古墳		101	町屋遺跡	H17
28	信守塚古墳		65	二子塚遺跡		102	今宮遺跡	
29	上小下遺跡		66	八王子遺跡	H2 ～ H3	103	大塚古墳	
30	芝草遺跡		67	地蔵塚古墳		104	古柳塚古墳	
31	大橋遺跡		68	森ノ上北遺跡		105	天神原遺跡	
32	川後塚遺跡		69	下神ノ木遺跡		106	下原遺跡	
33	屋敷之内遺跡		70	金地蔵遺跡	1)H13、2)H21、3)H25	107	南・村上遺跡	
34	神ノ木遺跡		71	堀川遺跡	H9	108	大久保遺跡	
35	上反田遺跡		72	御崎林遺跡				
36	穴田遺跡		73	高家・御崎遺跡				

第Ⅲ章　調査の方法と基本層位

第１節　　発掘調査の方法

１．調査区の規模

Ａ区は県道石橋・石和線の北側、西南から北東に主軸を持ち、長軸約 107 m・短軸約 35 mを測る。調査区の形状は細長く農道により分断されており、1989 年の身洗沢遺跡発掘調査の東側に位置している。Ｂ区は中央自動車道の北側側道に隣接しており、西南から北東に主軸を持つ台形に類した区画と北東側に位置する２つの小区画で構成される。それぞれ長軸約 55 m・短軸約 14 m、長軸約 12 m・短軸約６m、長軸約６m・短軸約５m、面積は西側から 549㎡、50㎡、20㎡を測る。この内、西側の調査区は H26 と H27 に分割して調査を行った。Ｃ区は中央自動車道の南側側道に隣接しているエリアと東南側に大きく広がるエリアからなり、長軸約 214 m・短軸約 93 mである。なお、調査区ごとの面積については、次の通りである。

	H26		H27	合計
Ａ区	381㎡		－	381㎡
Ｂ区	390㎡（第１次）	151㎡（第２次）	78㎡（第３次）	619㎡
Ｃ区	－		5,500㎡	5,500㎡
小計	922㎡		5,578㎡	6,500㎡

２．調査グリッドの設定

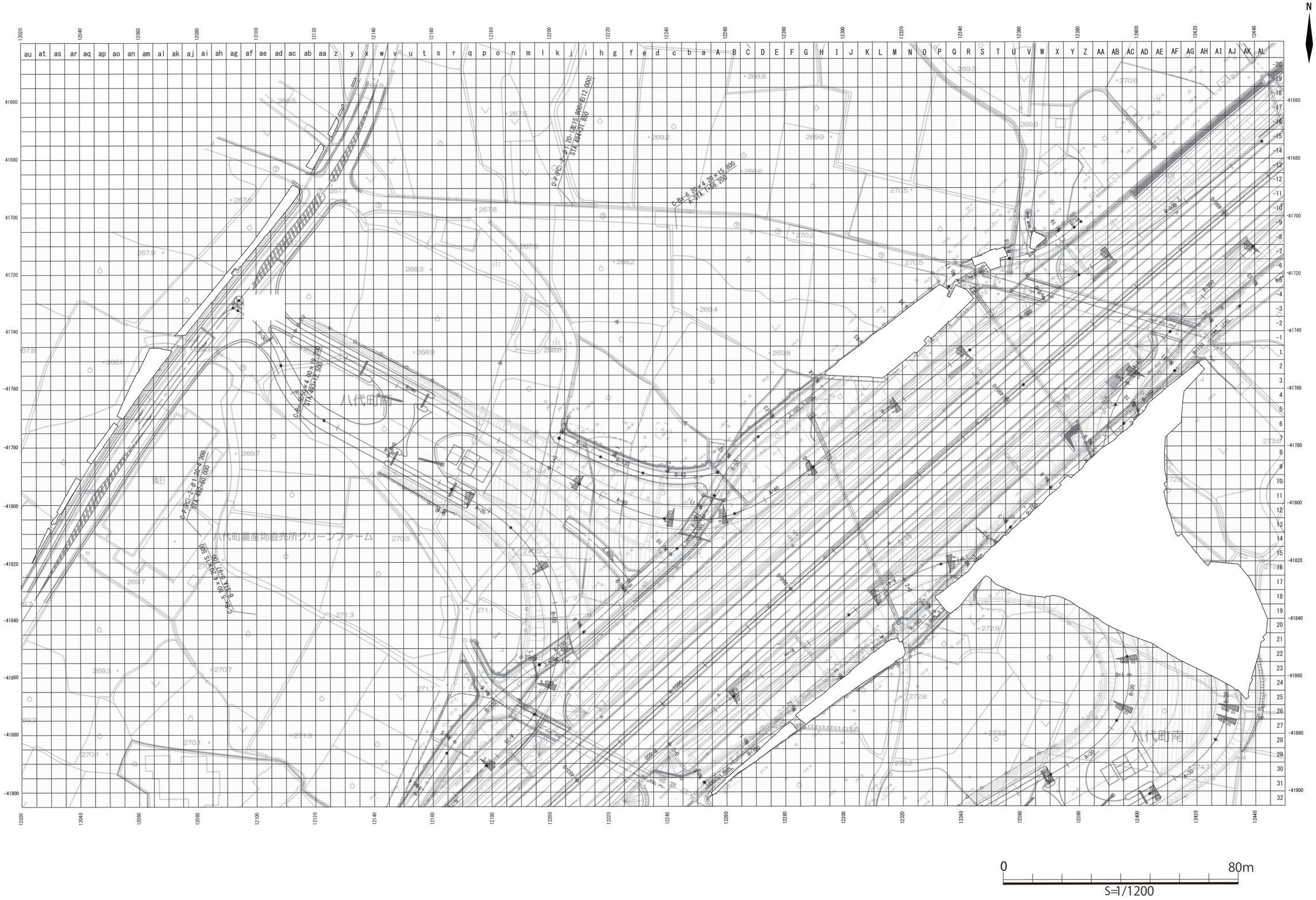
発掘調査の実施に際し、国土座標に基づく 5m グリッドを設定した。グリッドはＣ区の西端より 35 m北側の位置をＡ－１グリッドとし、グリッド北西端を原点とした。調査区は広域に広がるため、グリッド原点から東西南北全てのエリアを表記できるように、原点より西から東へアルファベット大文字でＡ・Ｂ・Ｃ、東から西へアルファベット小文字でａ・ｂ・ｃ、北から南へアラビア数字で１・２・３、南から北へアラビア数字で－１・－２・－３の順に記号を付し、ラインが交差してできる方角を、Ａ－１・Ｂ－２の様に呼称した。東西軸において、Ｚの東側はＡＡ・ＡＢ・ＡＣ、ｚの西側はａａ・ａｂ・ａｃとした。

３．表土層の除去

Ｂ区１次調査や試掘調査の段階で黒色シルト層に遺物が包含され、黒色シルト層の下位に位置する地山層において遺構が検出されることが明らかになったため、黒色シルト層の上面で表土剥ぎを終えた。ただし、掘り下げ時に黒色シルト層が検出されなかったＣ区東南側においては、下位に位置する砂層まで掘り下げた。掘削に際しては、Ａ区においては 0.12、Ｂ区においては 0.25・0.4、Ｃ区においては 0.4 クラスの重機を用いた。

４．表土層除去後の調査

遺構確認に際しては、遺物包含層の下部に位置する地山層まで人力で掘り下げ、地山層においてジョレンを用いてプラン確認を行った。平面プランが検出された遺構については、遺構の規模を勘案し、土層観察用のベルトを設け、半截した。記録図面については、遺構平面図・断面図・土層堆積状況図・遺物出土状況図などを調査の進捗に応じ、適宜作成した。測量方法については、平面図は空撮図化によるのと同時に光波測量機を用いて記録し、立面図は方眼紙への計測図化により作成した。立面図作成に伴うセクション・エレベーションポイントや出土遺物は光波測量機により原位置の記録に努めた。また、遺構・遺物の平面図中に高さのデータを記入し、３次元データとしての記録に努めた。写真については、遺構検出・半截・完掘状況・遺物出土状況などを中心に撮影した。撮影機材は、小型一眼レフカメラによる 35mm モノクロネガ・カラーポジを主体に使用し、デジタルカメラも用いて記録した。



第８図　グリッド設定図

第２節　基本層位

第Ⅱ章でも取り上げたように、身洗沢遺跡は浅川・天川扇状地に立地しており、河川氾濫に伴う多様な土層が堆積する条件下に立地している。このため、調査区や地点ごとに観察される土層は異なる。第Ⅵ章において調査区の土層図面と注記を掲載するが、細分化した土層について調査区間で厳密な土層対比を行うのは、包含される遺物包含層が複数にわたるため困難である。ただし、供給された土層の種別から類型化して、大まかな単位で土層を対比することは可能である。平成 26 年度に実施した試掘調査で得られたトレンチのデータから次の様な特徴的な土層を抽出することができる。

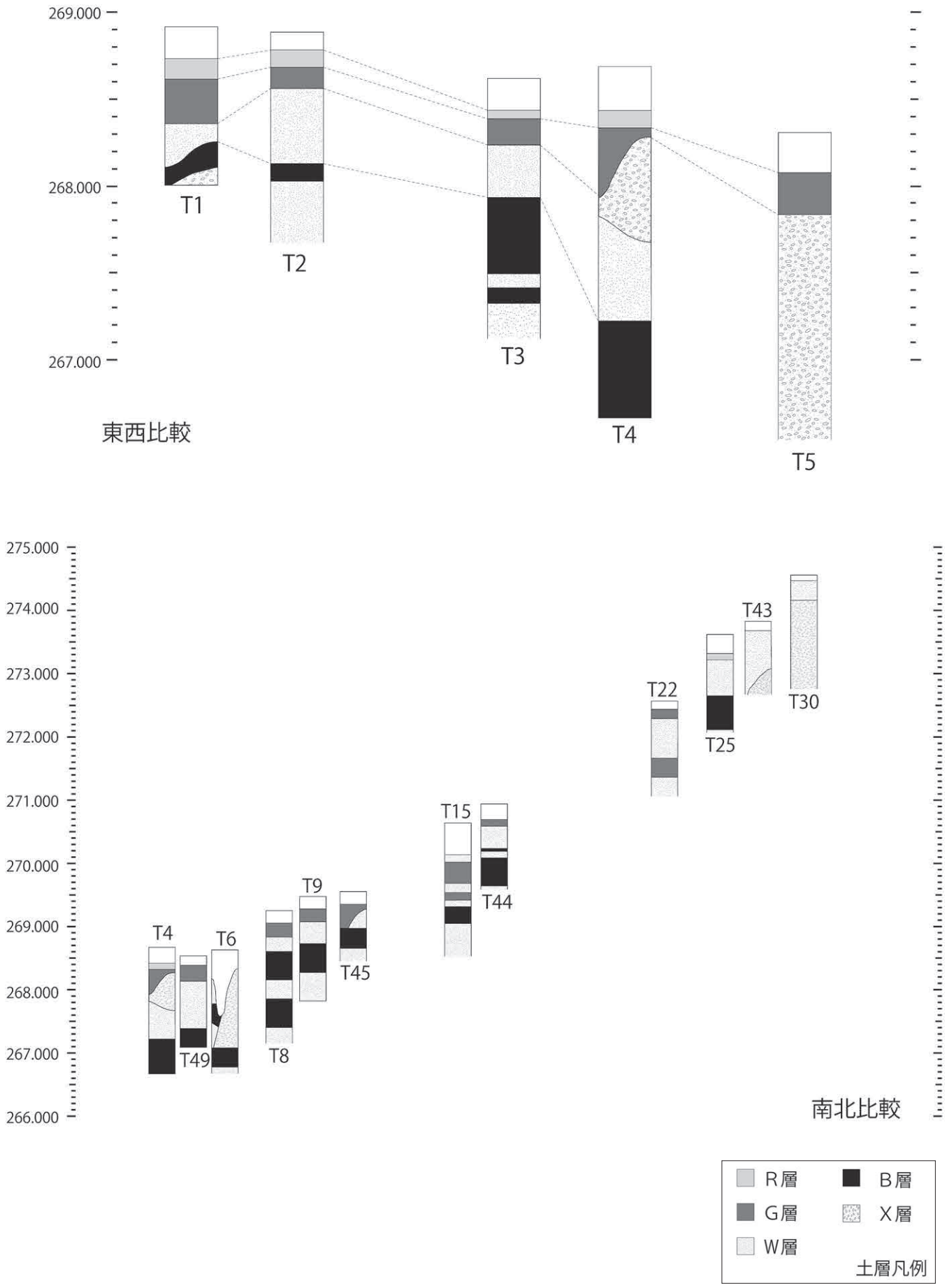
Ｒ層：黄褐色土層　しまりあり　粘性なし　うん管を多く含む
Ｇ層：暗褐色（黒褐色）シルト（砂）層　しまりあり　粘性なし　遺物包含層（弥生時代後期から古墳時代初頭）
Ｗ層：灰白色砂層　しまりなし　粘性なし　遺構確認面
Ｂ層：黒色（黒褐色）シルト層　しまりなし　粘性なし　植物遺体を多く含む
Ｘ層：灰褐色礫層　しまりなし　粘性なし　多様な粒径の礫により構成され、礫の間には粗砂が充填される

これらの土層の内、Ｒ層とＧ層は土壌化した土層であり、Ｇ層が認められたトレンチの中には、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が確認されたものもある。Ｒ層には散漫ながらも中近世の遺物が含まれている。Ｗ層・Ｘ層はいずれも河川の氾濫により供給された土層であり、Ｗ層は河道から溢れた細粒の堆積土壌、Ｘ層は河道本体を流下する堆積物であると判断される。Ｂ層には、植物遺体が多く確認され、この土層が堆積した段階には、湿地であったと考えられる。堆積土層は、トレンチ全てに確認されるわけではなく、偏在的な様相を呈し、近接するトレンチ間の間でも土層の変化が激しい。ただし、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が出土した、トレンチ１・２・４の土層を比較すると、層厚に変化はあるものの、いずれも「Ｒ層、Ｇ層、Ｗ層、Ｂ層」の順に堆積しており、これが、基本的な層序のパターンと想定できる。

遺構の形成に先立つＧ層下位の土層には、Ｗ層、Ｂ層、Ｘ層が確認されたが、層順として（Ｇ層）－Ｗ層－Ｂ層－Ｘ層の順番で堆積しているケースが多い。このことから、主に砂層やシルト層に覆われていた場所が、一時期大規模に低湿地化したことが窺える。この状況は、中央自動車道の西側において顕著であり、Ｂ層の層厚も中央自動車道の西側の方が厚い。Ｂ層が広域に堆積する段階は、外山が指摘したように温暖化により気候が不安定化する弥生時代中期に該当する可能性を有するが、Ａ区の１号掘立柱建物跡の柱が年代決定の結果、弥生時代中期後半にさかのぼる可能性が指摘されたため、より古い段階の堆積土壌と考えられる。Ｂ層からは、遺構・遺物が出土しておらず、土地の低地化により、居住や水稲耕作に適さなかったと判断される。６・43 トレンチの南北軸の土層断面において、礫層が北側に向いて落ち込む形状で観察されており、氾濫した礫層の末端と考えられる。扇頂部から供給された大規模な氾濫土層は扇端部において堆積し、舌状地形を形成したものと考えられる。

トレンチで確認されたＧ層を弥生時代後期から古墳時代初頭の地盤と仮定して比較すると、大局的には県道と走向を同じくする微高地とトレンチ 23 北側の安定した地形に挟まれた低地であると位置づけられる。その中で、東西方向の旧流路が複数確認された。ただし、1989 年の調査で把握されたように微高地上の凹部には水田跡が検出されており、その土地利用のあり方も多様である。遺構の広がりを見ると、1989・1996 年の調査地点を中心にから弥生時代後期から古墳時代初頭の集落が広がっており、その周縁に一時的な活動域が広がっていたと想定される。また、トレンチ 23 の北側に古墳時代中期の遺構が検出されていることから、時期ごとに占地する場所を変えていった状況が窺える。

中央自動車道の東側においては、遺構が東西方向に走る流路や凹部の間の緩斜面や平坦地に構築されている状況が本調査で把握された。一方、中央自動車道の西側は、弥生時代後期から古墳時代初頭の段階で絶えず氾濫の影響を受けていたことが、Ｇ層とＷ層が互層状を呈すことから窺われる。試掘調査で中央自動車道の西側から遺構・遺物が検出されなかったのも、土層堆積の状況から理解できる。


269.000
268.000
267.000
T1
T2
T3
T4
T5
東西比較
275.000
274.000
273.000
272.000
271.000
270.000
269.000
268.000
267.000
266.000
T4
T49
T6
T8
T9
T45
T15
T44
T22
T25
T43
T30
南北比較
R層
B層
G層
X層
W層
土層凡例

第９図　基本土層図

第Ⅳ章　検出された遺構と概要

第１節　調査の概要

今回の発掘調査によって、弥生時代後期から古墳時代初頭と古墳時代中期の遺構が確認され、浅川・天川やその支流から供給された土壌が遺構面を覆っていることが確認された。ただし、弥生時代・古墳時代以降も奈良・平安時代や中近世の遺物が出土しており、継続的に土地利用が行われたと考えることができる。また、Ｃ区のＫ・Ｌ－22・23グリッド付近では諸磯ｂ式の土器がまとまって発見され、縄文時代においても土地利用が行われたことを示唆している。以下に各調査区の遺構について記述する。なお、本項で取り上げていない遺構については、遺構一覧表で記載している。

第２節　検出された遺構

１．Ａ区

Ａ区において遺構・遺物を伴う土層は黒褐色土層で構成され、深さは地表下約0.2 mから0.5 mに上面が位置し、層厚0.2 mから0.5 mを測る。Ａ区では、黒褐色土層の上面から３号掘立柱建物跡１軒、焼土集中２基が確認された。ただし、黒褐色土層中に遺物が包含されるため、遺物包含層を地山層まで掘り下げて調査を終えた。

県道石橋・石和線北東側の細長い施工範囲が調査対象であるため、農道・水路・電柱などを避けたエリアを調査区に設定し、８つの地点に分割して調査にあたった。なお、地点２・７はそれぞれ東西に離れた範囲を一括して同一の調査区としているが、それぞれ地点の中央に地点２は果樹園への馬入れ、地点７は電柱が存在したためである。地点４・５は連続した区画であったが長大であるため、２つの調査区に分割した。

Ａ区の堆積土層は地点ごとの差異が観察されるものの、斉一性を有する堆積パターンと考えることができる。地点１においては礫層のみで遺物包含層は確認されなかった。このため、東南－北西軸に流下した旧河道の存在が推定できる。地点２西側においては２号焼土集中、地点２東側では３号掘立柱建物跡の木柱が黒褐色土層上面から検出された。地点２西側においては、黄灰色細砂層（W層）・黒褐色土層（Ｇ層）・黄褐色土層（Ｒ層）の順に堆積するのに対し、地点２東側では黒褐色土層（Ｇ層）と黄褐色土層（Ｒ層）の間に白色粒子を含む黒褐色土層がある。地点３の北側では表土である灰黄色土層の下位に灰白色砂層（W層）が確認されたが、近現代における暗渠敷設時に堆積土層を大きく掘削したものと考えられる。地点３南側では、灰白色砂層（W層）・黒褐色土層（Ｇ層）・黄灰色土層・黄褐色土層（Ｒ層）が堆積層序として観察される。地点４西側ではＲ層が堆積しておらず、黒褐色土層も礫を含んでいるが、地点４東側では黄褐色土層（Ｒ層）も確認され、黒褐色土層に礫の混じりこみはない。地点５東側においては１号焼土集中が黒褐色土層上面から検出された。地点５西側では黄灰色細砂層（W層）・黒褐色土層（Ｇ層）・黄褐色土層（Ｒ層）の順で安定的に堆積しているが東端では黒褐色土層が認められない。旧地形において北東側に向かって落ち込んでいた地形を近現代の段階で平坦に造成したものと考えられる。地点６では礫混じりの黒褐色土層が確認されたものの、地点７・８においては同質の土層は検出されなかった。

３号掘立柱建物跡

位置　Ａ区地点２、ao－５・６グリッドに位置している。

形状　直径約0.2 mの木柱が３基、木柱の中心間で1.5 mの位置で、南北軸を長軸として並んで検出された。木柱の底面は工具により平らに成形されている。

時期　木柱１及び木柱３を対象としたＡＭＳ年代測定分析の結果、紀元前２世紀から紀元１世紀頃との結果が出た。このため、木柱は弥生時代中期後半から後期の資料と位置づけられる。

性格　掘立柱建物が廃絶した後、土中の柱だけが放置されたと考えられる。黒褐色土層を掘り下げて、柱を埋設したと想定されるが、掘り方は確認できなかった。木柱の間隔は1.5 mを測るが、Ｃ区２号掘立柱建物跡のピットの間隔は１mか

ら 1.5 mであり、概ね共通する。地点２の端部で検出されたため、遺構の広がりは明らかではないが、木柱３の西側 1.5 m先からは木柱が出土しなかったため、東側に遺構が広がっている可能性が高い。

２．Ｂ区

Ｂ区において遺構・遺物を伴う土層は黒褐色細砂層で構成され、深さは地表下約 0.5 mから 1.3 mに上面が位置し、層厚約 0.1 mを測る。Ｂ区では、黒褐色細砂層の上面から溝状遺構５基が確認された。

中央自動車道の北側側道に隣接しており、西南から北東に主軸を持つ台形に類した区画（Ｂ－１区）と北東側に位置する２つの小区画（西南からＢ－２区、Ｂ－３区）で構成される。

平成 25 年 12 月９日から 12 日に笛吹市教育委員会による試掘調査の結果、畦畔状の盛り上がりが土層の断面観察により把握された。このため、該当部分を精査するとともに、南側の施工範囲を掘り下げて調査を実施したところ、盛り上がり地形を形成した黒褐色細砂層に比定される土層から弥生時代後期の土器が出土した。遺物包含層は東側に向かって下がる地形を示しており、弥生時代においては、Ｋ・Ｌ－－１グリッドに谷状の地形が存在したことが分かる。また、Ｂ－１区とＢ－２区・Ｂ－３区とは、比高差及び構成土壌に差があり、Ｂ－１区は河川による堆積作用の影響を受けた低地であり、Ｂ－２区・Ｂ－３区は微高地であったと位置づけられる。

⑴　弥生時代

５号溝状遺構

位置　Ｂ－２区Ｔ・Ｕ－－７グリッドに位置している。

形状　長軸 4.15 m・短軸 0.55 m、東西方向に主軸を持ち、断面はＵ字形を呈する。

時期　溝状遺構の覆土中位において、口縁から頸部にかけて櫛描波状文が施された甕の破片が出土した。このため、弥生時代後期の遺構と考えられる。

性格　Ｂ－２区の遺構確認面の地盤高はＢ－１区より約 70cm 高く、覆土にも砂礫層がないことから、扇端部の微高地に位置していると考えられる。溝状遺構は北側に続いており、今回の調査で全容を把握することができなかったが、弥生時代の集落に伴う遺構である可能性が強い。

⑵　古墳時代

１号溝状遺構

位置　Ｂ－１区Ｍ－－３、Ｎ・Ｏ－－２・－３、Ｏ・Ｑ－－１グリッドに位置している。

形状　長軸 12.7 m・短軸 3.4 m、北東・南西端部においては緩やかに立ち上がるが、中央において約 60cm の幅で一段深くなる形状を呈する。遺構の幅は北西側で広がり、南東から北西方向に主軸を有する。

時期　溝状遺構から出土した木製品を対象としてＡＭＳ年代測定分析を行ったところ、曲物と炭化痕跡を有する木製品が５世紀前半から６世紀中頃、曲物が６世紀後半から７世紀中頃、下層から出土した杭が７世紀後半から８世紀後半、桃核と棒状木製品が７世紀後半から９世紀後半頃の数値を示すなど年代的な差が認められた。遺物としては奈良・平安時代が最も多いが、縄文から古墳時代の資料が出土している。

性格　出土量が多かった奈良・平安時代の遺物は、遺構覆土の上位に位置する粗砂層から出土した。より下層においては古墳時代などの遺物が出土しているが、量的には多くない。扇状地上位から水を流すための機能も有していたと考えられ、扇央部に立地する遺跡の遺物が覆土に包含されていると考えられる。下層において７世紀後半から８世紀後半に比定される木製品（杭）が出土したことから、奈良時代においても溝状遺構の底部が開口していたと考えられ、平安時代における堆積作用の中で埋没したと考えられる。

甲州市西田遺跡からは古墳時代の遺物を包含する５号溝が出土しており、断面形状が身洗沢遺跡１号溝状遺構に類似し、中央が一段深くなる形状を呈する。遺構形状のみで即断はできないが、古墳時代に構築・使用され、奈良時代に埋没した溝である可能性が指摘できる。

３．Ｃ区

Ｃ区は調査区東端のＡＤからＡＨグリッドにおいては均質な細砂層が堆積しているのに対し、それ以外のエリアではシルト層・砂層・礫層など多様な土壌が確認される。ＡＤからＡＨグリッドは微高地に位置するため、河川から溢流した砂層のみであったが、低地に位置するエリアには扇状地上部から流下する河川によって多様な土砂が供給されたためと考えられる。このため、遺構確認面の土層や層厚も異なり、ＡＤからＡＨグリッドは褐色砂層で構成され、深さは地表下約 0.4 mから 1.0 mに上面が位置し、低地のエリアでは灰黄褐色シルト層で構成され、深さは地表下約 1.5 mから 3.0 mに上面が位置する。Ｃ区から検出された遺構は、出土した遺物から弥生時代後期、古墳時代中期、中近世という３つの時期に大別される。弥生時代後期では、掘立柱建物跡１軒、土坑７基、ピット８基、溝状遺構 22 条、遺物集中地点１基、古墳時代中期では、竪穴状遺構２基、土坑 12 基、ピット８基、溝状遺構１条、焼土集中 13 基、遺物集中１基、中近世では、石列遺構１基が検出された。

中央自動車道の南側に位置し、Ｐ－ 18 グリッドからＡＬ－ 20 グリッドまでのＴ字形を呈するエリアと西南側に位置する側道沿いの２つの小区画に分けられる。

平成 26 年度に実施した試掘調査の土層から検討すると、Ｃ区東南側に設けた 30 号トレンチからは地表下 40cm の位置で厚い砂礫層に変化するが、Ｃ区の南側に設定した 43 号トレンチではより深い層で砂礫層が確認された。これは扇状地を形成した大規模な氾濫礫層がＣ区の南側に位置しており、その北西側が低地として開発されていったという土地の履歴を示しているものと考えられる。２号掘立柱建物跡、８・22 号溝状遺構などが検出されたＴ－ 14 からＡＡ－ 14 グリッドにおいては、表土下に黄灰色細砂層（W層）・黒褐色土層（Ｇ層）などが確認されている。また、Ｋ・Ｌ－ 22・23 グリッドとＡＡ－９グリッドからＡＥ－ 12 グリッドには、東南側から西北側へ流下した旧河道が存在したと考えられ、遺構面を砂礫層が覆っていた。また、Ｕ－ 16 グリッドからＹ－ 18 グリッドでは砂礫層は確認されなかったものの、低い地盤に位置しており、自然流路であった可能性が指摘される。

⑴　弥生時代

２号掘立柱建物跡

位置　Ｃ区Ｘ・Ｙ－ 10・11 グリッドに位置している。

形状　北西から東南方向を主軸として、北東・西南列に４基ずつ、北西・東南列に３基ずつのピットが確認された。ピットは 10 基存在し、柱穴間の中心距離は北西・東南列で 0.14 mから 0.15 m、北東・西南列で 1.1 mから 1.4 mである。北東・西南列における中央２基の柱穴は他の柱穴間より短い形状となる。柱穴の平面形状は楕円形から不整円形を呈し、一定ではない。想定される建物規模は、長軸 4.2 m、短軸 3.4 mを測る。

時期　12 号ピット及び遺構範囲内において、ほぼ完形の小形甕が出土した。このため、弥生時代後期の遺構と考えられる。

性格　扇状地の軸線と長軸が共通するように構築されている。立地する地点がＡＤからＡＨグリッドより一段下がった低地に位置しており、周辺から居住を示す遺構が検出されなかったため、弥生時代後期の居住域と考えるのには検討を要するが、22 号溝状遺構の北西側に遺構が展開していた可能性を指摘できる。

８号溝状遺構

位置　Ｃ区Ｖ・Ｗ－ 15・16、Ｘ－ 14・15、Ｙ－ 14、Ｚ－ 13・14 グリッドに位置している。

形状　長軸 26.9 m・短軸 0.9 mで西南から北東方向に主軸を持ち、平面形は西端が屈曲するのを除いて、直線状を呈する。

時期　溝状遺構の覆土上位から弥生時代後期の土器、中位から下位より木製品が出土した。溝状遺構から出土した木製品を対象としてＡＭＳ年代測定分析を行ったところ、紀元１世紀から紀元２世紀頃を中心とした弥生時代後期の年代を得ている。

性格　22 号溝状遺構と平面形状は異なるものの、軸線がほぼ共通しており、河道と凹地の間に位置する低地において、扇

状地の軸線と直交するように遺構を構築している。遺物集中地点１がある凹地に平面的には重なっているものの、断面としては８号溝状遺構の方が深く、連続していない。遺物としては、Ｘ－ 14 グリッドに集中を有し、西側に分布が広がる。土器以外に木製品が出土しており、平鍬や又鍬が検出された。

22 号溝状遺構

位置　Ｃ区Ｔ－ 14、Ｕ－ 13・14、Ｖ－ 12・13、Ｗ・Ｘ－ 12、Ｙ－ 11・12、Ｚ－ 10・11 グリッドに位置している。

形状　長軸 39.1 ｍ・短軸 1.2 ｍで北東から南西方向に主軸を持ち、平面形は中央において緩やかにＳ字状に屈曲する。

時期　溝状遺構の覆土上位から弥生時代後期の土器、中位から下位より木製品が出土した。このため、該期の遺構と考えられる。

性格　８号溝状遺構と平面形状は異なるものの、軸線がほぼ共通しており、河道と凹地の間に位置する低地において、扇状地の軸線と直交するように遺構を構築している。22 号溝状遺構の北東側に２号掘立柱建物跡が位置しており、22 号溝状遺構の南北で場の機能が異なっていた可能性を有する。

１号遺物集中地点

位置　Ｃ区Ｕ－ 15・16、Ｖ－ 16、Ｗ－ 16・17、Ｘ－ 17 グリッドに位置している。

形状　Ｘ－ 17 グリッドから北西側に向けて広がる、立ち上がりが緩やかな凹地に遺物が集中する。

時期　凹地地形の覆土から弥生時代後期の土器が出土した。このため、該期の遺構と考えられる。

性格　堆積土壌がシルト･砂層であることから、緩やかな水の流れにより堆積した遺物群と考えられるが、数単位で接合資料のまとまりも窺われ、土器廃棄の場として用いられた可能性も指摘できる。

⑵　古墳時代

２号竪穴状遺構

位置　Ｃ区ＡＤ－５、ＡＥ－５・６グリッドに位置している。

形状　中央自動車道の南側側道により遺構の北側が削平されており、西側も電柱の設置工事の際に掘削されたため、遺構の形状が残されなかったと考えられる。確認された範囲では不整形な形状であるが、北東壁の北寄りにカマドを有している。カマドの南北セクションにおいては礫を縦位に据えており、支脚の可能性がある。カマドからは坏や手捏ね土器などが出土した。

時期　遺構覆土から出土した遺物の中に須恵器甕片が出土した。甕には胴部最大径において櫛描波状文が施され、下半においてわずかにタタキ目が確認される。土師器坏の形態として半球形が主体を占めるが、須恵器を模倣した坏も確認される。これらの傾向から、古墳時代中期後葉の遺構と考えられる。

性格　扇状地扇端部の微高地上に構築された竪穴住居跡と考えられる。10･17 号土坑、21 ～ 23 号ピットと切り合っているが、先後関係は明確でない。

３号竪穴状遺構

位置　Ｃ区ＡＥ－４、ＡＦ－３～５、ＡＧ－３・４グリッドに位置している。

形状　２号竪穴状遺構と同じく中央自動車道の南側側道により遺構の北側が削平されているため、全体の形状が不明である。西南側の底面に高低差があるため、一段高い範囲を３′号竪穴状遺構と認定した。３号竪穴状遺構は西南から北東方向に長軸を有しており、最大長で 9.3 ｍを測り、古墳時代の住居としては大形である。

時期　３′号竪穴状遺構からは須恵器甕や坏片が出土した。甕は頸部に櫛描波状文を伴うなど高部宇山平遺跡円形周溝墓出土品や、岩清水遺跡１号円形周溝墓から出土したＴＫ 23 型式の資料と形態的に類似する。坏片は二之宮 82 号住居跡から出土したＴＫ 23 型式の資料に類似する。土師器坏の形態としては２号竪穴状遺構と同様、半球形が主体を占めるが、須恵器を模倣した坏も確認される。これらの傾向から、古墳時代中期後葉の遺構と考えられる。

性格　３号竪穴状遺構の平面形態は住居跡としては大形のものである。古墳時代中期において二之宮遺跡西 46 号住居の様な類例は存在し、二之宮遺跡西 46 号住居はカマドや柱穴など住居跡として認定可能な属性を揃えているが、３号竪穴状遺構は明確ではない。ただし、遺構から出土した遺物は年代的にまとまった資料であり、同一遺構に所属する資料として捉えたい。２号竪穴状遺構と３号竪穴状遺構は年代差がさほど見出せないことから、扇状地扇端部の微高地上に古墳時代中期後葉の集落が広がっていたと考えられる。遺構からは甑片や手捏ね土器も出土している。口唇部に粘土紐が添付された土器片は縄文時代前期末と考えられ、遺構底面に縄文時代の遺物が遺存したものと考えられる。11 ～ 16・18 ～ 20 号土坑、25 ～ 27 号ピットと切り合っているが、先後関係は明確でない。

13 号土坑

位置　Ｃ区ＡＦ・ＡＧ－４グリッドに位置している。

形状　長軸 1.45 m・短軸 1.07 mで西南から北東方向に主軸を持ち、不整形な平面形を呈する。断面形は確認面から浅く、遺構覆土の下位で遺物が集中して出土する。

時期　土師器坏の形態として半球形が主体を占め、模倣坏は出土していない。このため、３号竪穴状遺構と同時期かやや古い、古墳時代中期後葉の遺構と考えられる。

性格　３号竪穴状遺構と切り合っているが、先後関係は明確でない。遺物が覆土下位に集中していることから、遺構が廃絶した後、人為的に埋め戻している可能性がある。

14 号土坑

位置　Ｃ区ＡＧ－４グリッドに位置している。

形状　北側において 15 号土坑と切り合っているが、長軸 0.65 m・短軸 0.53 mで南北方向に主軸を持ち、不整形な平面形を呈する。遺構覆土の下位か底面直上で遺物が集中して出土する。

時期　13 号土坑と同様、土師器坏の形態として半球形が主体を占め、模倣坏は出土していない。このため、３号竪穴状遺構と同時期かやや古い、古墳時代中期後葉の遺構と考えられる。

性格　３号竪穴状遺構と切り合っているが、先後関係は明確でなく、15 号土坑に切られている形状を呈する。遺物が覆土下位に集中していることから、遺構が廃絶した後、人為的に埋め戻している可能性がある。

１号溝状遺構

位置　Ｃ区Ｚ－９・10、ＡＡ－９～ 11、ＡＢ－ 11・12、ＡＣ－ 12、ＡＥ－ 13、ＡＦ－ 13・14 グリッドに位置している。

形状　Ｚ－９・10 からＡＣ－ 12 グリッドまで連続し、撹乱を挟んでＡＥ－ 12、ＡＥ－ 14 グリッドと対応すると考えられる。北西から東南方向に主軸を持ち、全体で長軸 34.5 m・短軸 2.1 mを測る。Ｂ区１号溝状遺構と軸線が共通していることから、同一の遺構と考えられる。

時期　Ｂ区１号溝状遺構の覆土下層から出土した木製品から古墳時代に用いられ、奈良・平安時代に埋没した遺構と考えられる。

性格　Ｂ区１号溝状遺構と同じく、覆土は砂礫層を中心とし、東西にそれぞれ奈良・平安時代の遺物を包含する流路が検出された。

２号遺物集中地点

位置　Ｃ区Ｃ・Ｄ・Ｅ－５、Ｄ・Ｅ－６グリッドに位置している。

形状　ＡＢ・ＡＣ－８グリッドを最も深い地点として、東南から北西方向に凹地が広がっており、その覆土下層から遺物が出土した。

時期　弥生時代後期の遺物も含むものの、主体は古墳時代の資料である。土師器坏の形態として半球形が主体を占め、模

倣坏は出土していない。短脚で体部下半において「く」の字形に屈曲する高坏は姥塚 102 号住居跡と共通し、有段脚部の高坏は二之宮西 46・71 号住居跡、姥塚 102 号住居跡で類例が出土している。須恵器短頸壺は、頸部に櫛描波状文が施されている。羽口は全長が短く「ハ」の字形を呈しており、古墳時代中期の形態と判断される。直口壺や小型丸底壺、手捏ね土器、土鈴も出土している。

性格　遺物は凹地の湧水地点に位置しているものの、磨耗は顕著ではなかった。調査区東端の古墳時代中期後葉の集落が展開していた範囲に隣接しており、遺物の廃棄場として機能していた可能性を有している。

⑶　中世

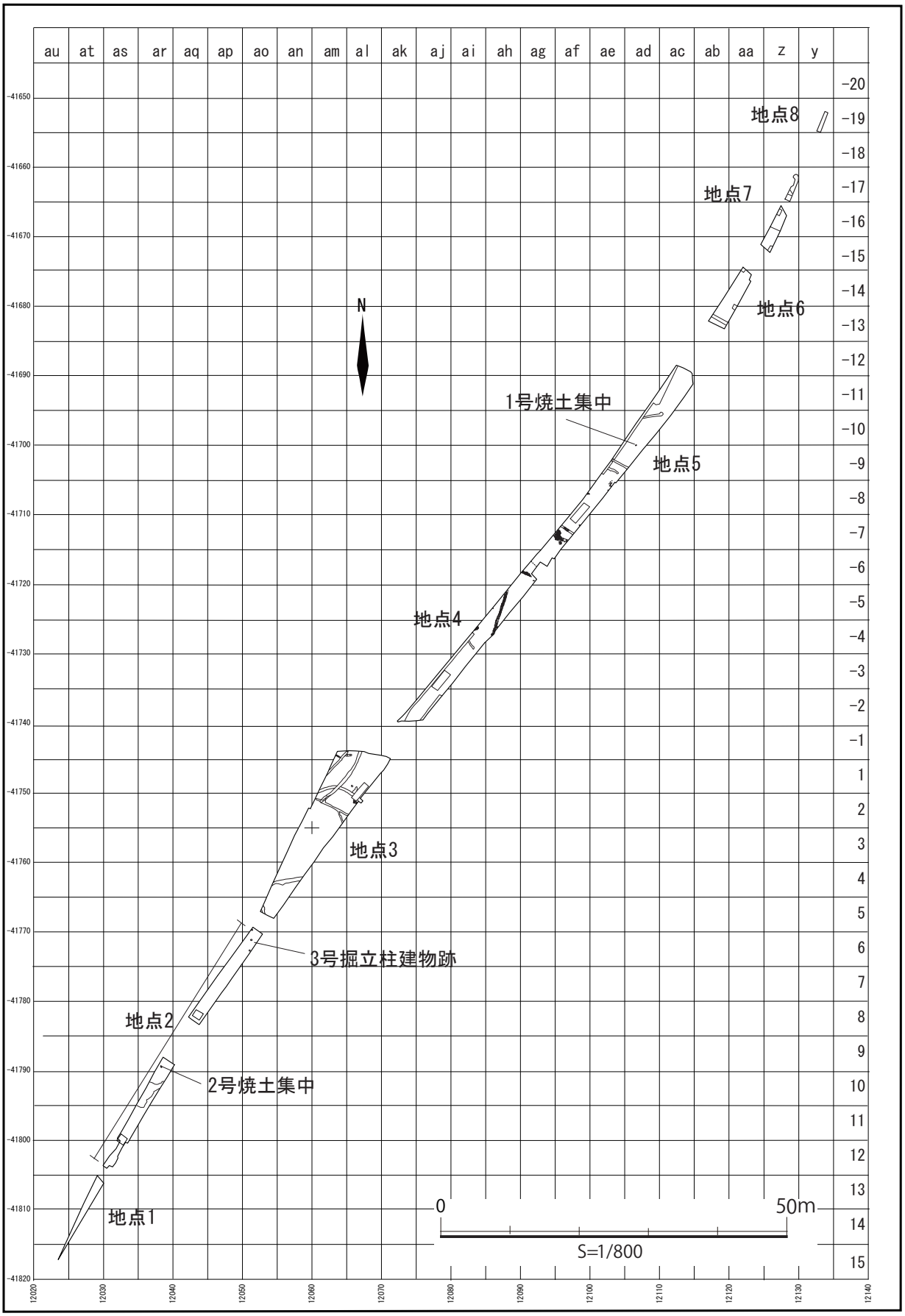
１号石列遺構

位置　C 区 AC － 7・8、AD － 8・9 グリッドに位置している。

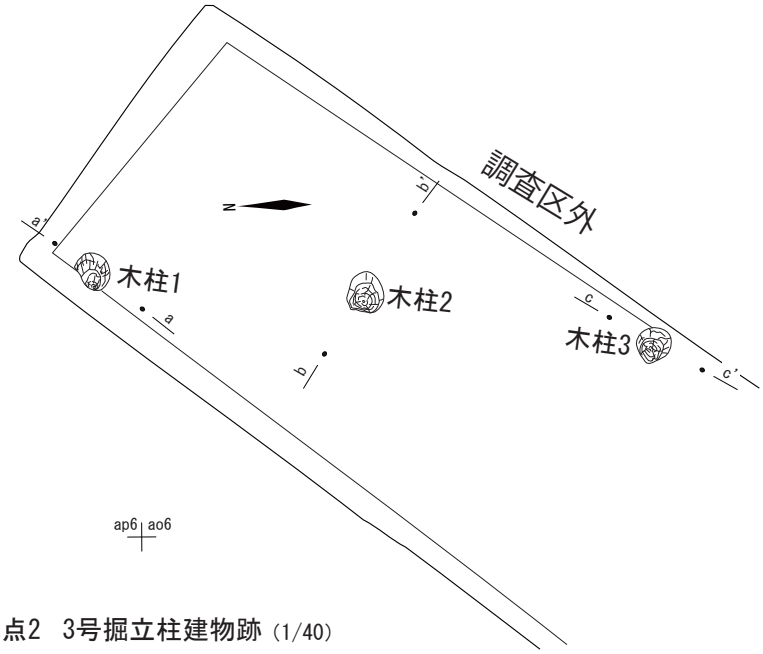
形状　北西から東南方向に主軸を持ち、わずかに弧状を呈して連続している。長軸で 11.5 mまで石を並べているが、並べた礫の大きさや形状に規格性は認められない。

時期　1 号石列遺構の検出レベルから中世の磁器片が出土しており、該期における遺構と判断される。

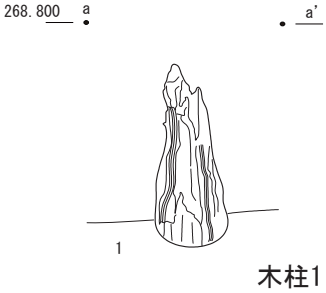
性格　1 号石列遺構に連続する遺構面は東側の凹地に向けて傾斜するが、地形の変化点に 1 号石列遺構は構築されている。中世段階における土地区画を示した遺構である可能性を有している。

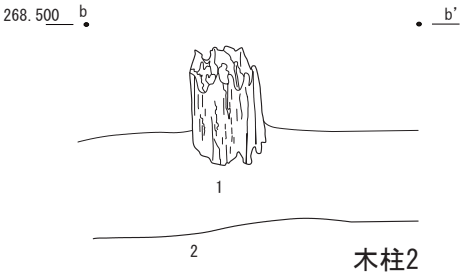

au at as ar aq ap ao an am al ak aj ai ah ag af ae ad ac ab aa z y
-20 -19 -18 -17 -16 -15 -14 -13 -12 -11 -10 -9 -8 -7 -6 -5 -4 -3 -2 -1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
-41650 -41660 -41670 -41680 -41690 -41700 -41710 -41720 -41730 -41740 -41750 -41760 -41770 -41780 -41790 -41800 -41810 -41820
12020 12030 12040 12050 12060 12070 12080 12090 12100 12110 12120 12130 12140
N
地点8
地点7
地点6
1号焼土集中
地点5
地点4
地点3
3号掘立柱建物跡
地点2
2号焼土集中
地点1
0
50m
S=1/800

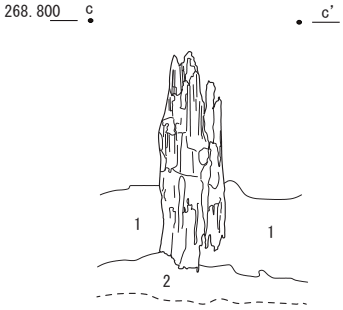
第10図　A区全体図



地点2　3号掘立柱建物跡（1/40）

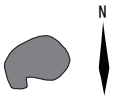






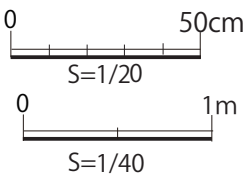
3号掘立柱建物跡（1/20）

1　黄灰色（Hue2.5Y6/1）細砂
　　しまりあり　粘性なし
2　灰白色（Hue7.5Y7/2）細砂
　　しまりなし　粘性なし

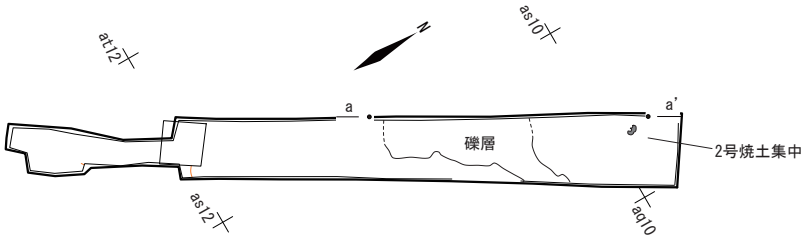


1号焼土集中（1/20）

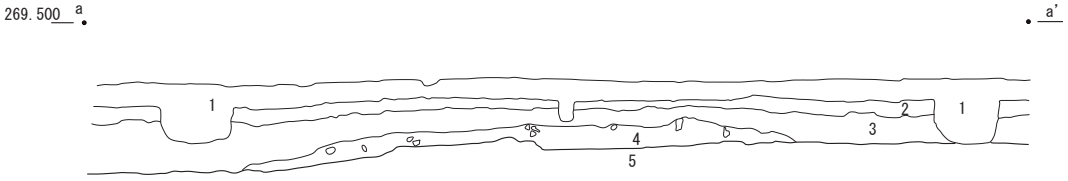
2号焼土集中（1/20）



第 11 図　A 区遺構図（1）

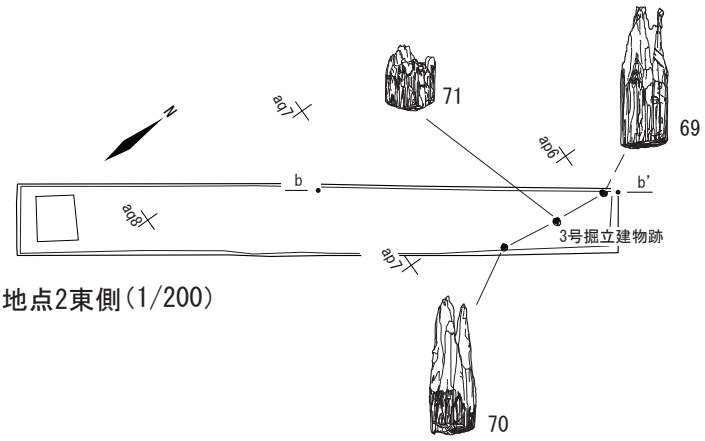


地点２北壁西側(1/200)

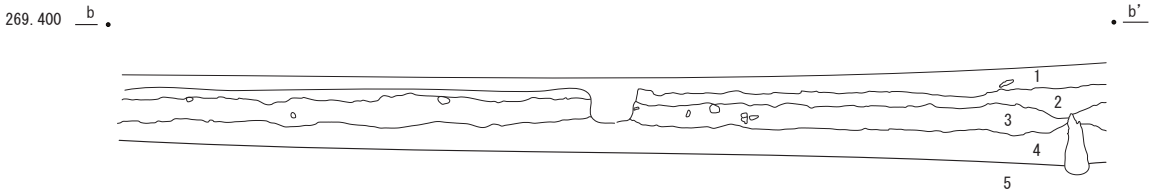


地点2北壁西側　a-a'(1/60)

1　表土
　暗灰黄色（Hue2.5Y4/2）土
　しまりあり、粘性なし
2　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
　うん管を含む
　しまりあり、粘性なし
3　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
　しまりあり、粘性なし
4　黄灰色（Hue2.5Y5/1）細砂
　Φ2～15cm礫を含む
　しまりあり、粘性なし
5　黄灰色（Hue2.5Y6/1）細砂
　しまりあり、粘性なし

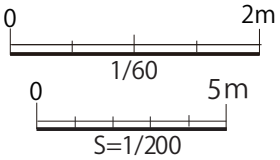


地点2東側(1/200)

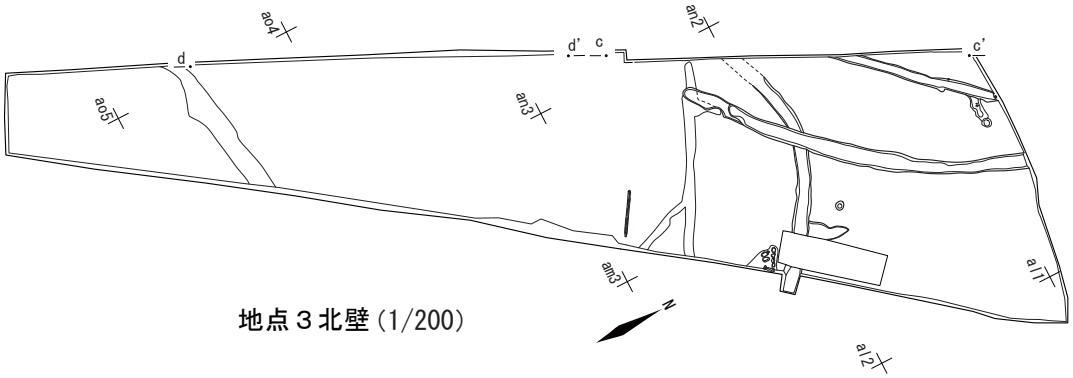


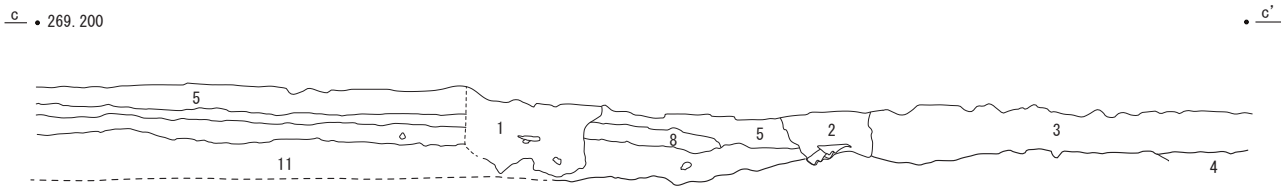
地点２北壁東側　b-b'(1/60)

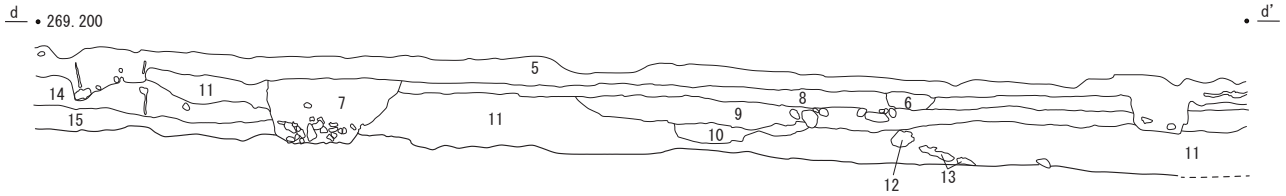
1　表土
　暗灰黄色（Hue2.5Y5/2）土
　しまりあり、粘性なし
2　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
　うん管を含む
　しまりあり、粘性なし
3　黒褐色（Hue2.5Y6/1）土
　白色粒子を含む（多い）
　しまりあり、粘性なし
4　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
　黄灰色細砂、うん管を含む
　しまりあり、粘性なし
5　黄灰色（Hue2.5Y6/1）細砂
　うん管を含む
　しまりあり（弱）、粘性なし



第12図　A区遺構図(2)

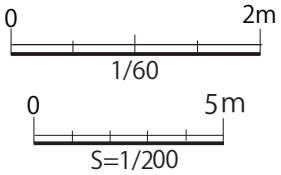




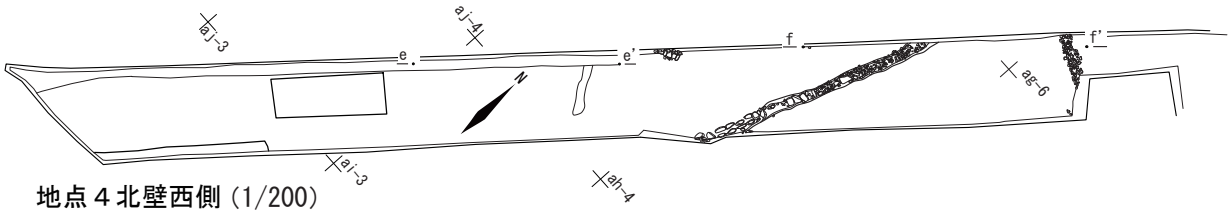


地点３北壁　c-c'.d-d'(1/60)

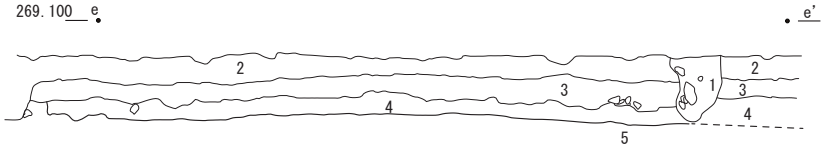
1　撹乱（排水管のための掘り込み）
　暗灰黄色（Hue2.5Y5/2）土
　しまりあり 、粘性なし
2　撹乱（暗渠のための掘り込み）
　暗灰黄色（Hue2.5Y5/1）土
　しまりあり（弱)、粘性なし
3　灰黄色（Hue2.5Y6/2）土
　黒褐色土,にぶい黄色細砂を含む
　しまりあり 、粘性なし
4　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
　灰黄色細砂を含む
　しまりあり、粘性なし
5　灰黄色（Hue2.5Y6/2）土
　しまりあり 、粘性なし
6　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
　灰黄色細砂を含む
　しまりあり 、粘性なし
7　黄褐色（Hue2.5Y5/3）土
　しまりあり 、粘性なし
8　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
　うん管を含む
　しまりあり 、粘性なし
9　黄灰色（Hue2.5Y4/1）土
　しまりあり 、粘性なし
10　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
　灰黄色細砂を含む
　しまりあり 、粘性なし
11　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
　Φ2～5cm礫を含む
　しまりあり 、粘性なし
12　浅黄色（Hue2.5Y7/3）細砂
　しまりあり 、粘性なし
13　灰黄色（Hue2.5Y7/2）細砂
　しまりあり 、粘性なし
14　黄灰色（Hue2.5Y6/1）土
　しまりあり 、粘性なし
15　灰白色（Hue2.5Y7/1）細砂
　うん管を含む
　しまりあり、粘性なし



第13図　A区遺構図(3)



地点４北壁西側 (1/200)



地点４北壁東側　e-e'(1/60)

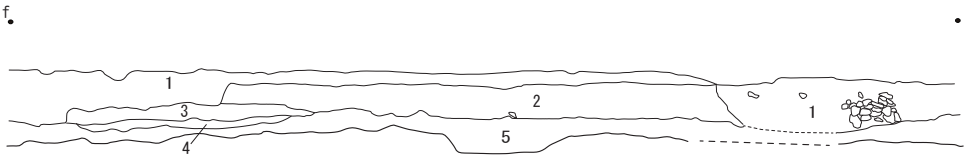
1　表土
黄褐色（Hue2.5Y5/1）土
しまりあり、粘性なし

2　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
しまりあり、粘性なし

3　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
しまりあり、粘性なし

4　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
うん管を含む
しまりあり、粘性なし

5　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
Φ2～5cm礫を含む
しまりあり、粘性なし



地点４北壁西側　f-f'(1/60)

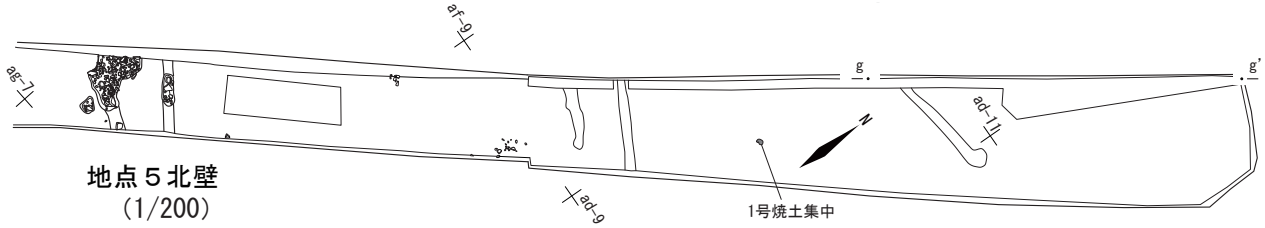
1　撹乱
黄褐色(Hue2.5Y5/1)土
Φ2～15cm礫を含む
しまりあり、粘性なし

2　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
しまりあり、粘性なし

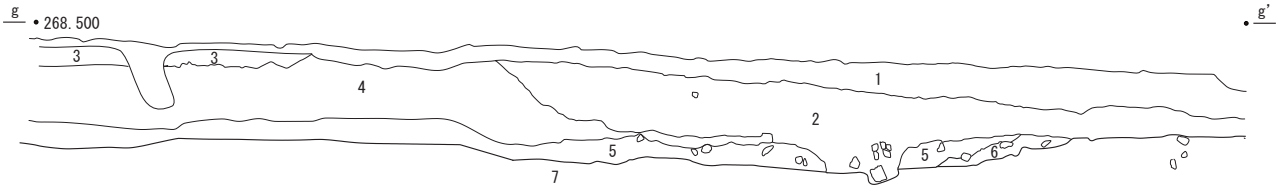
3　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
Φ5～30cm礫を含む
しまりあり、粘性なし

4　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
うん管を含む
しまりあり、粘性なし

5　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土



地点５北壁
(1/200)



地点５北壁　g-g'(1/60)

1　表土
黄灰色（Hue2.5Y5/1）土
しまりあり、粘性なし

2　黄灰色（Hue2.5Y5/1）土
灰白色砂層を含む
しまりあり、粘性なし

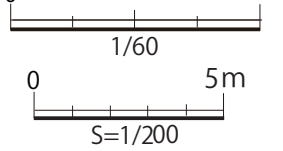
3　黄褐色（Hue2.5Y5/4）土
うん管を含む
しまりあり、粘性なし

4　黒褐色（Hue2.5Y3/1）土
うん管を含む（多い）
しまりあり、粘性なし

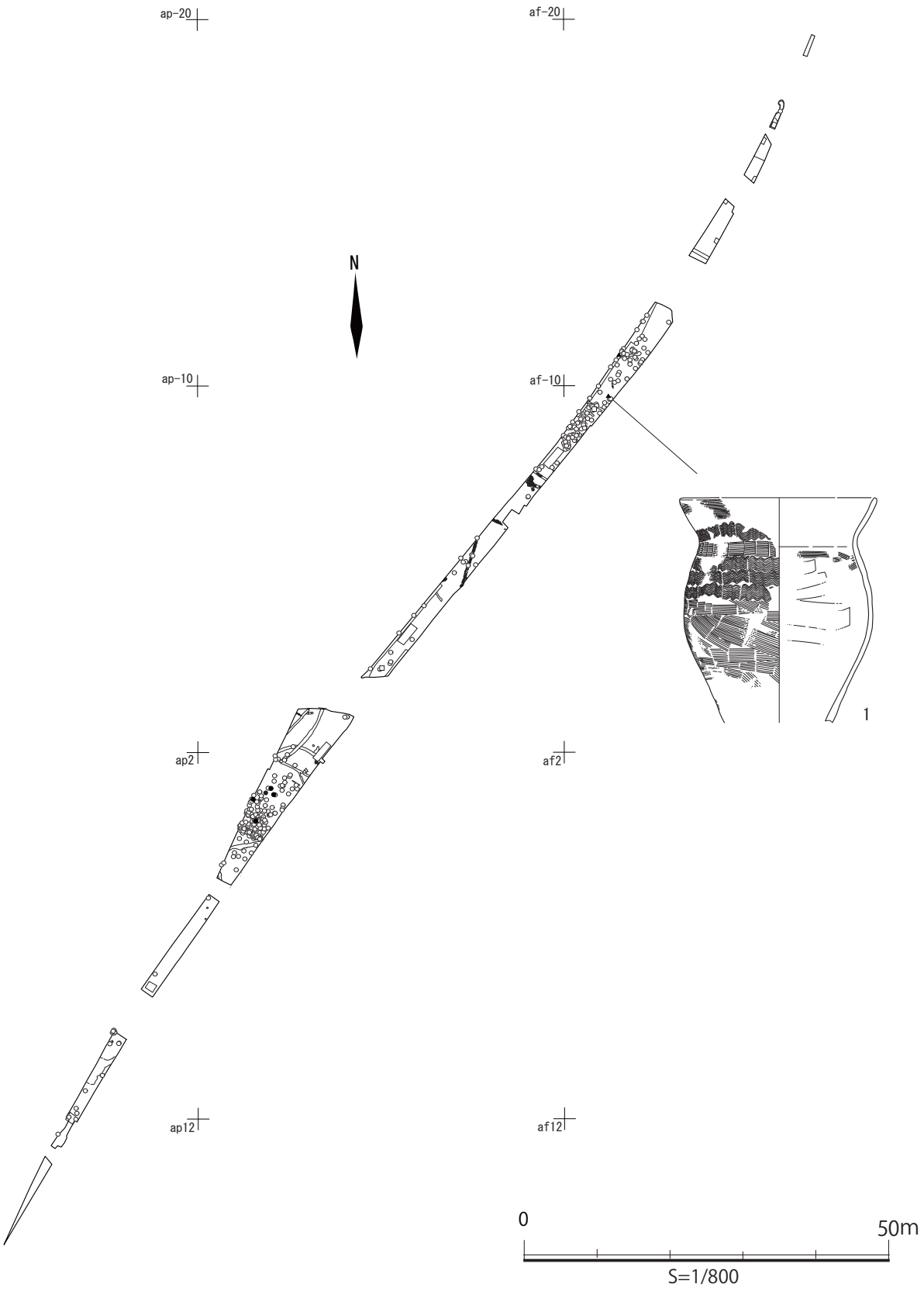
5　オリーブ灰色（Hue5GY6/1）細砂
オリーブ灰色シルトブロックを含む
しまりあり、粘性なし

6　灰黄色（Hue2.5Y6/2）細砂
Φ10cm礫、うん管を含む
しまりなし、粘性なし

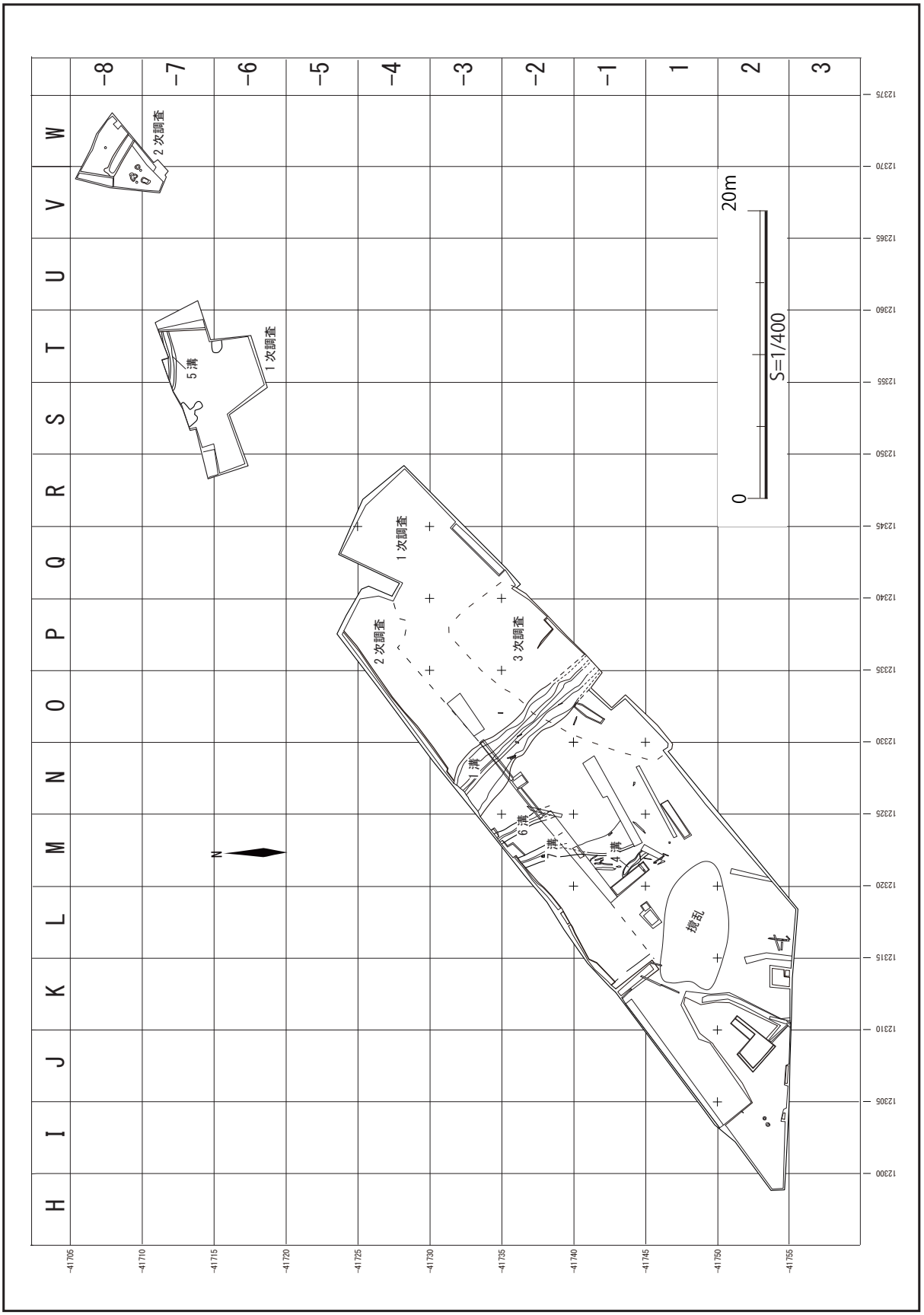
7　浅黄色（Hue2.5Y7/3）細砂
うん管を含む（多い）
しまりあり（弱）、粘性なし



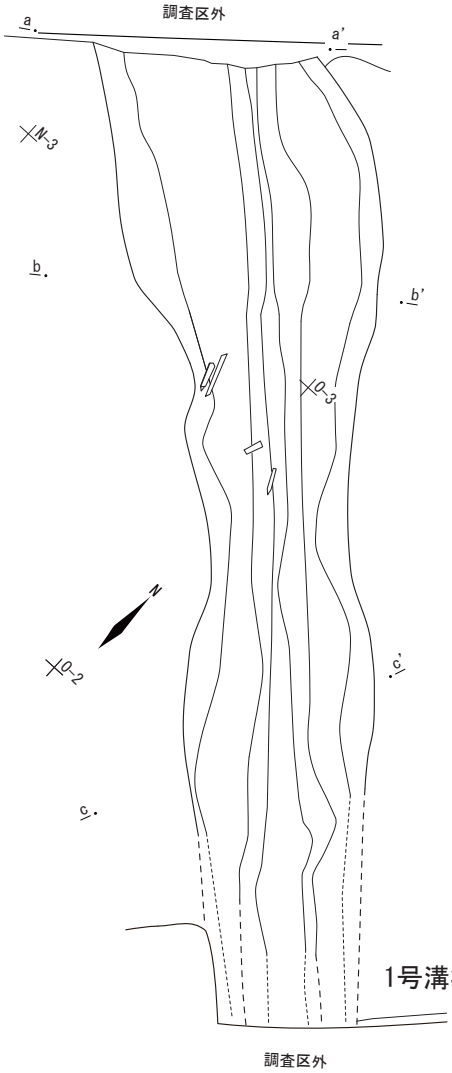
第 14 図　A 区遺構図 (4)



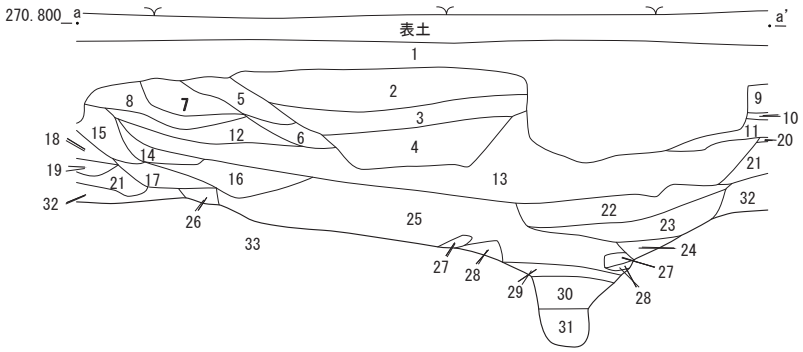
第 15 図　A 区遺物分布図



第 16 図　B 区全体図



1号溝状遺構(1/100)



1号溝状遺構　a-a'(1/40)

1　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
2　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
3　黒褐色(10YR3/2)細粒砂・
　黄褐色(10YR5/6)中粒砂
　しまり、粘性なし
4　にぶい黄褐色(10YR5/4)粗粒砂
　しまりあり、粘性なし
　φ30～50mmの礫を多量に含む
5　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
6　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
7　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
8　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
9　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
10　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い

11　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
12　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
13　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
14　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
15　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
16　褐色(10YR4/6)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ10～30mmの礫を多量に含む
17　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
18　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
19　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　φ10～50mmの礫を多量に含む
20　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり

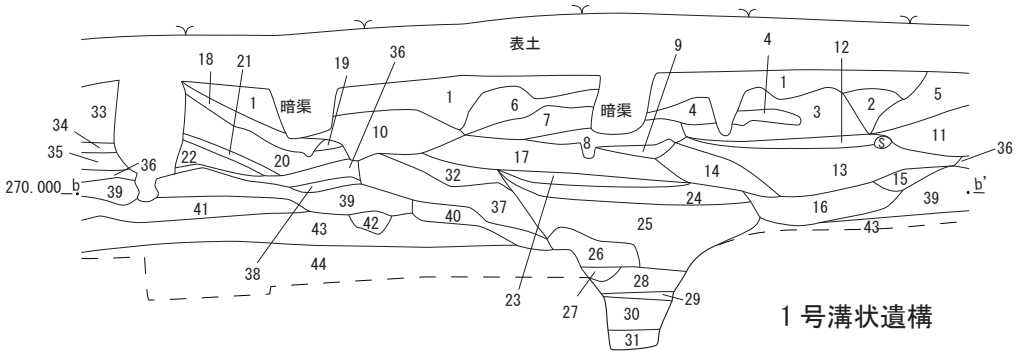
21　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
22　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
23　暗褐色(10yr3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色　細粒砂を含む
　φ30～100mmの礫を多量に含む
24　黒褐色(2.5Y3/2)シルト
　しまり、粘性強い
25　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂・
　灰色の粗粒砂・100～200mm礫混土
　しまりあり・粘性なし
　遺物包含層（流れ込み）
26　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂と灰色粗粒砂
　しまり、粘性弱い
27　黒褐色(2.5Y3/2)シルト
　しまり、粘性強い

28　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂・
　灰色粗粒砂混土
　しまり、粘性弱い
29　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱い、粘性あり
　灰色中粒砂を含む
30　黒褐色(2.5Y3/2)シルト・
　灰色の粗粒砂・100～200mm礫混土
　しまりあり、粘性なし
　遺物包含層
31　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり弱く、粘性あり
　φ10mmの礫を含む
32　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　遺物包含層
33　黄灰色(2.5Y4/1)シルト
　しまり強く、粘性あり
　φ10～30mmの白色の礫を含む

0　5m
S=1/100

0　2m
S=1/40

第17図　B区遺構図(1)

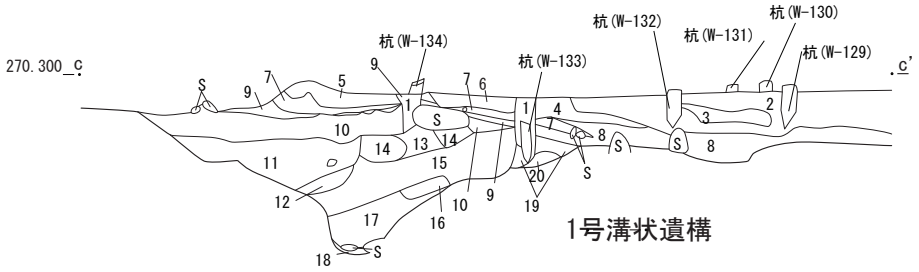


1号溝状遺構　b-b'(1/40)

1　灰黄褐色(10YR4/2)
　しまり、粘性弱い
2　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色の細粒砂をブロック状に含む
3　黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂・細粒砂
　しまり、粘性弱い
4　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
5　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
6　黄褐色(2.5Y5/4)粗粒砂、
　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂混土
　前者はしまり、粘性弱い
　後者はしまり、粘性あり
7　黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂・細粒砂
　しまり、粘性弱い
　φ30～100mmの亜角礫を含む
8　褐色(10YR4/6)の細粒砂
　しまり、粘性弱い
　φ30～100mmの亜角礫を含む
9　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂、
　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂混土
　前者はしまり弱く、粘性あり
　後者はしまり、粘性なし
10　黒褐色(2.5Y3/2)の細粒砂
　しまり、粘性弱い
11　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
12　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
13　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ30～150mmの亜角礫を多量に含む
14　黒褐色(2.5Y3/2)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
15　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
16　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ30～150mmの亜角礫を含む
17　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
18　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
19　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
20　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
21　暗オリーブ褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
22　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
23　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
24　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　φ30～100mmの亜角礫を多く含む
25　黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ30～200mmの亜角礫を多く含む
26　黒褐色(2.5Y3/2)シルト質細粒砂
　黄褐色粗粒砂混土
　しまり、粘性弱い
27　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
28　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
29　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性弱い
30　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性弱い
　φ30～50mmの亜角礫を多量に含む
31　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
32　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
　黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂混土
　しまり、粘性弱い
33　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
34　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
35　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
36　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
37　黒褐色(2.5Y3/1)の細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
38　オリーブ褐色(2.5Y4/4)粗粒砂
　しまり、粘性なし
39　黒色(2.5Y2/1より黒い)シルト
　しまりあり、粘性強い
40　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂
　しまり、粘性なし
　ラミナ状に堆積する
　φ30～50mmの亜角礫を含む
41　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり強く、粘性あり
42　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
43　黄灰色(2.5Y4/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性強い
44　オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり

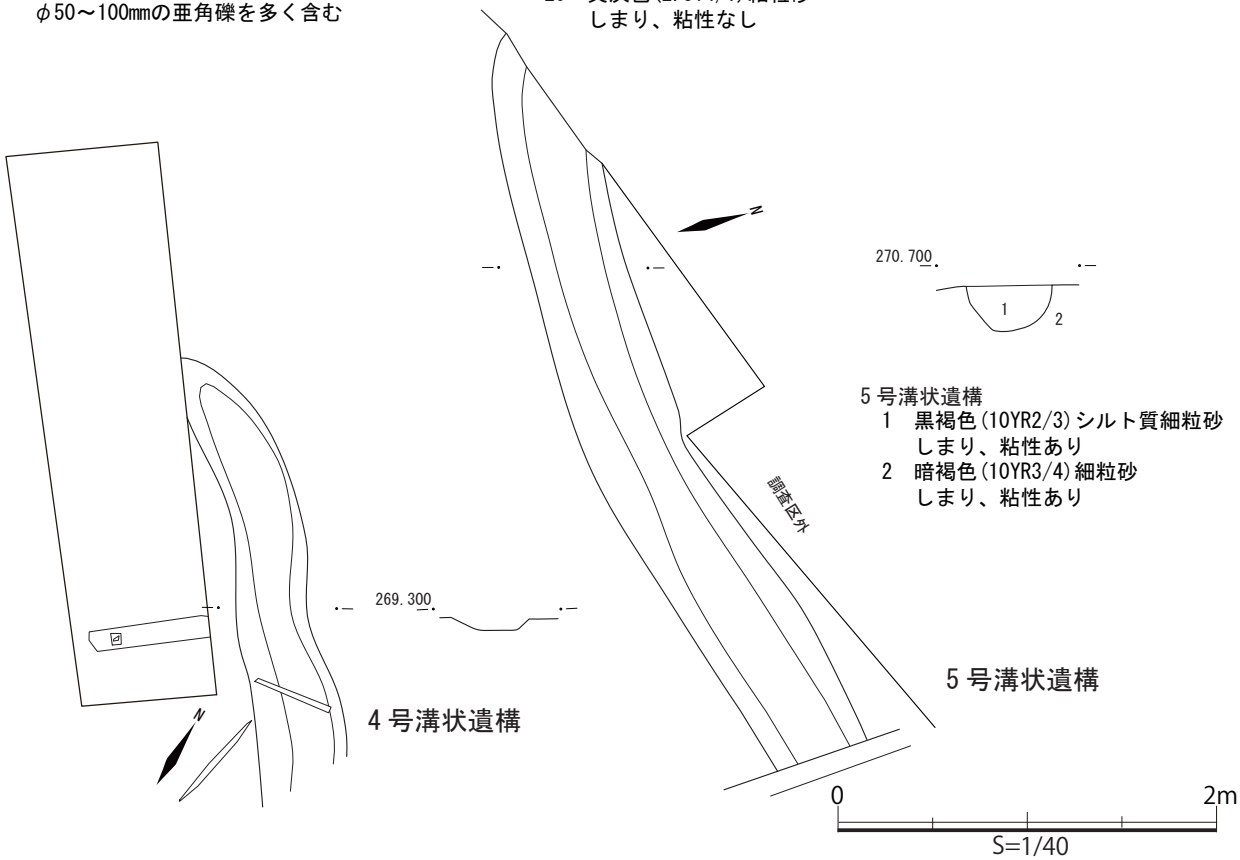
0　2m
S=1/40

第18図　B区遺構図(2)



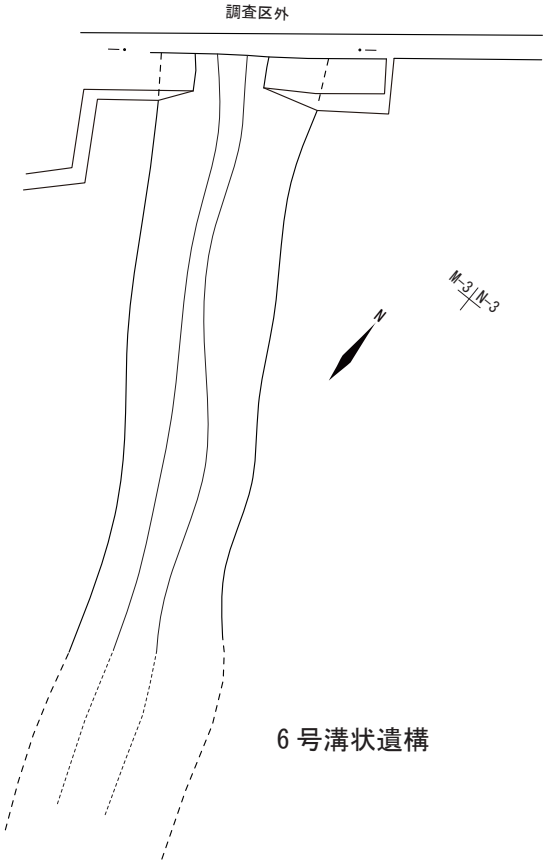
1号溝状遺構　c-c'(1/40)

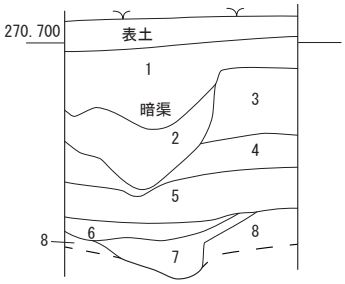
1　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
2　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
3　黄褐色(2.5Y5/1)粗粒砂・
　黒褐色細砂粒混土
　しまり、粘性弱い
4　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性なし
　φ50～100mmの礫を多く含む
5　暗灰黄色の(2.5Y5/2)粗粒砂・細粒砂
　しまり、粘性なし
6　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗粒砂・細粒砂
　しまり、粘性なし
7　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
8　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂・細粒砂
　しまり、粘性なし
　φ50～100mmの亜角礫を多く含む
9　黒褐色(2.5Y3/2)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
10　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂・細粒砂
　しまり、粘性なし
　φ50～100mmの亜角礫を多く含む
11　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂・細粒砂・黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混土
　しまり、粘性弱い
　φ50～100mmの亜角礫を多く含む（黄灰色の箇所のみ）
12　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
13　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂・細粒砂と黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂　混土
　しまり、粘性弱い
　φ50～100mmの亜角礫を多量に含む（黄灰色の箇所のみ）
14　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
15　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ30～100mmの礫を多く含む
16　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂
　しまり、粘性なし
17　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ30～100mmの礫を多く含む
18　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり、粘性あり
19　黒褐色(2.5YR3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
20　黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂
　しまり、粘性なし



5号溝状遺構
1　黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
2　暗褐色(10YR3/4)細粒砂
　しまり、粘性あり

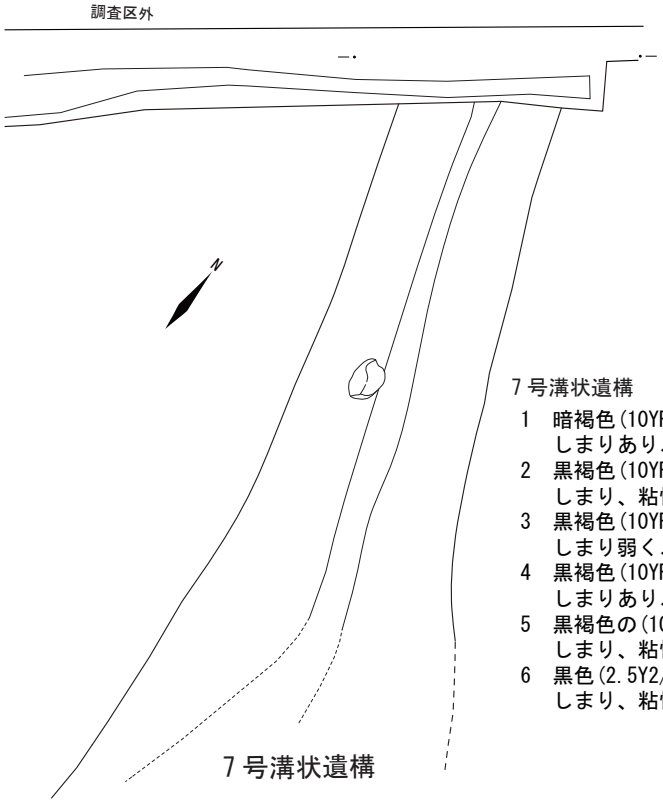
第19図　B区遺構図(3)

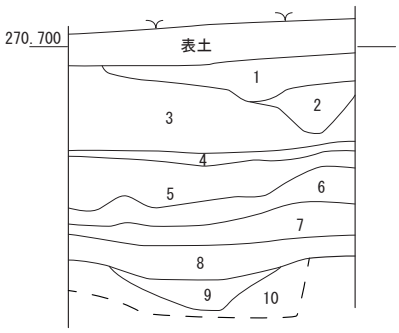




6号溝状遺構

1　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　近代(現代？) 以降の層
2　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色中粒砂・細粒砂をラミナ状に複数含む
3　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
4　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
5　黒色(2.5Y2/1より黒い)シルト
　しまりあり、粘性強い
6　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり弱い、粘性強い
7　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　植物遺体を多く含む
8　黄灰色(2.5Y4/1)シルト
　しまり、粘性あり
　φ10～30mmの白色の礫を多く含む



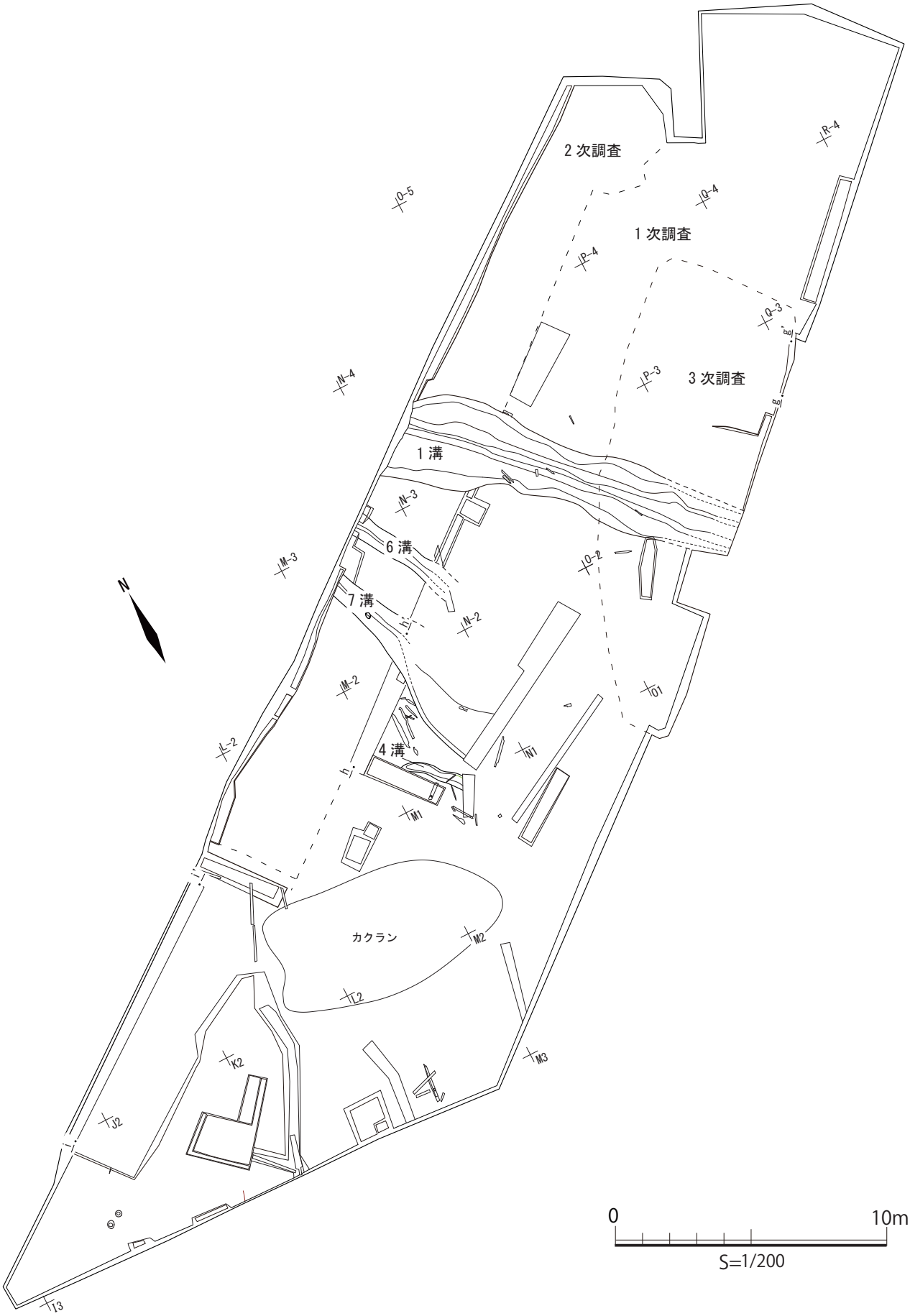


7号溝状遺構

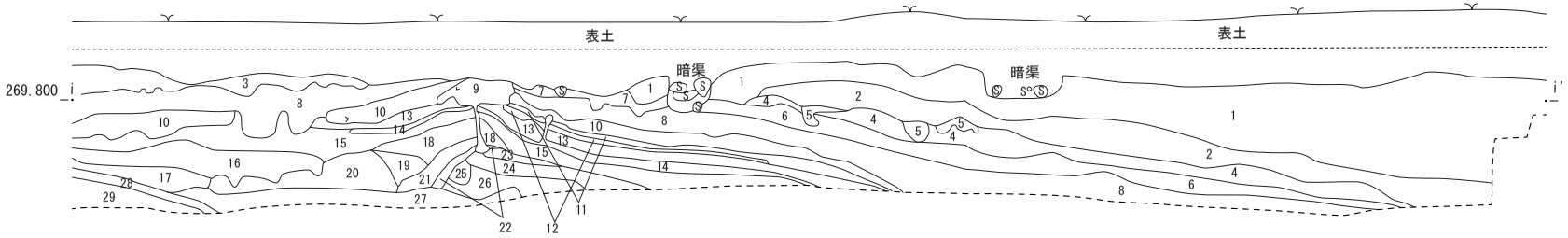
1　暗褐色(10YR3/4)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
2　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
3　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
4　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
5　黒褐色の(10YR2/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
6　黒色(2.5Y2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
7　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
8　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　植物遺体を多く含む
9　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を多く含む
10　黄灰色(2.5Y4/1)シルト
　しまり、粘性あり
　φ10～30mmの白色の礫を多く含む

0　2m
S=1/40

第20図　B区遺構図(4)



第 21 図　B 区遺構図 (5)

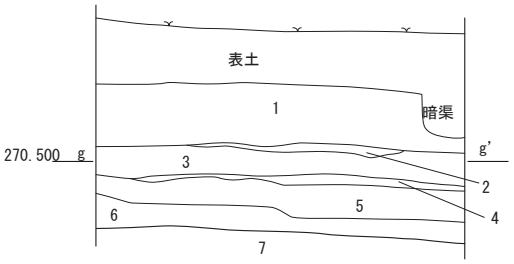


北西壁土層堆積状況　i-i'(1/50)

1　黒褐色(2.5Y3/1)シルト
　しまり、粘性あり
2　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり、粘性あり
3　黒色(2.5Y2/1)・黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混土
　しまりあり、粘性弱い
4　黒色(2.5Y2/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　植物遺体を含む
　遺物包含層
5　黄褐色(2.5Y5/1)の粗粒砂
　しまり、粘性なし
6　黒褐色(2.5Y3/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を多量に含む
7　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
8　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
9　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂・暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂・中粒砂・
　オリーブ褐色(5Y3/1)シルト混土
　しまり弱く、粘性あり
　下層は植物遺体を多く含んだ黒褐色砂が主体
10　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
　と黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
11　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　植物遺体を少量含む
　遺物包含層
12　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂・
　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　植物遺体を少量含む
13　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　植物遺体を少量含む
　遺物包含層
14　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂・
　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混土
　しまり、粘性弱い
　植物遺体を含む
15　黒色(2.5Y2/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　植物遺体を多く含む
16　黒色(2.5Y2/1より黒い)シルト
　しまりあり、粘性強い
17　黒褐色(2.5Y3/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
18　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　植物遺体・灰色細粒砂を少量含む
19　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
　しまり弱く、粘性なし
20　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂・
　黒色(2.5Y2/1より黒い)シルト混土
　前者はしまり、粘性なし
　後者はしまりあり、粘性強い
21　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
22　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
23　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
24　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
25　黒色(2.5Y2/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を多く含む
26　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
27　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　植物遺体を多く含む
28　黒色(2.5Y2/1)粗粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　φ30～50mmの礫を含む
29　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　φ30～50mmの礫を含む
　植物遺体を含む

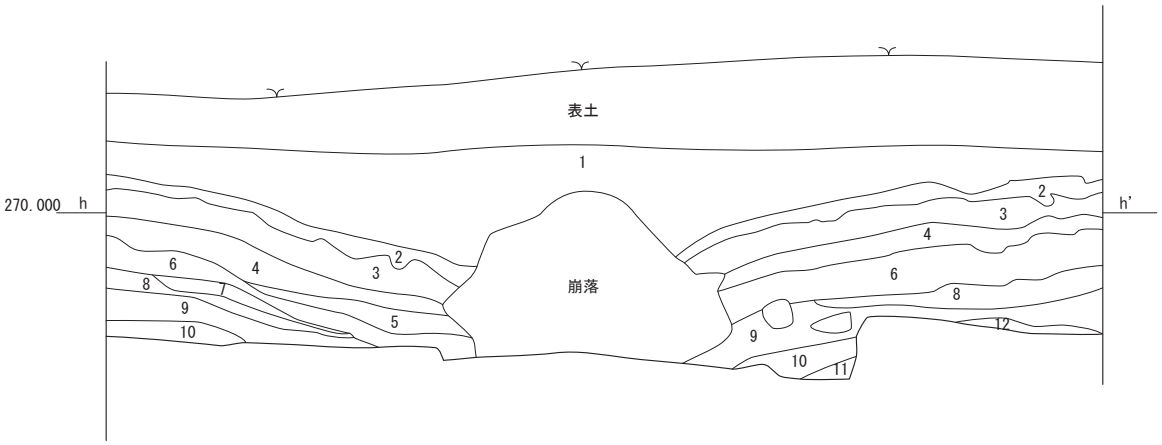
0　2m
S=1/50

第22図　B区土層図(1)



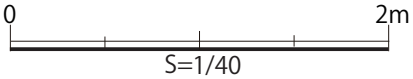
南北土層堆積状況　g-g'(1/40)

1　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性弱い
2　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
3　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をわずかに含む
4　黒色(10YR/1.7/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ30～50mmの礫を含む
5　黒色(10YR/1.7/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　遺物包含層
6　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　遺物包含層
7　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまりあり、粘性弱い強い

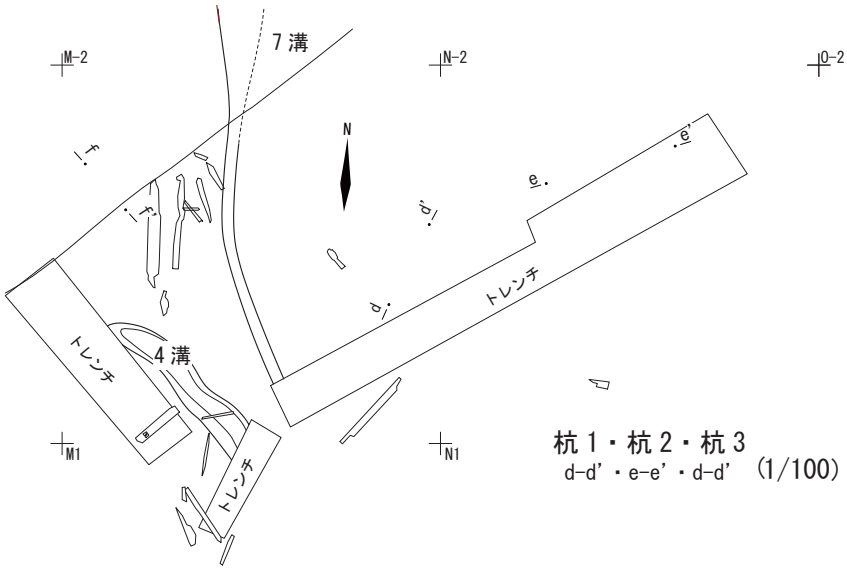


トレンチ土層堆積状況　h-h'(1/40)

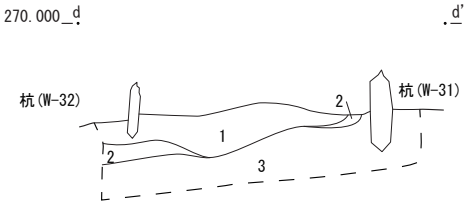
1　黒褐色(10Y2/3)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
2　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂・
　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂・粗粒砂混土
　しまり、粘性弱い
3　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
4　黒色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
5　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
　しまり強く、粘性弱い
6　黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂・細粒砂・
　黒色(2.5Y2/1)シルト質細粒砂混土
　しまり、粘性弱い（黒色細粒砂の粘性強い）
7　黒色(2.5Y2/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
8　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性強い　植物遺体を含む
9　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を含む
10　黒褐色(2.5Y3/2)シルト質細粒砂・灰色粗粒砂混土
　しまり、粘性弱い
　植物遺体を多く含む
11　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
12　黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂・粗粒砂混土
　しまり強く、粘性あり



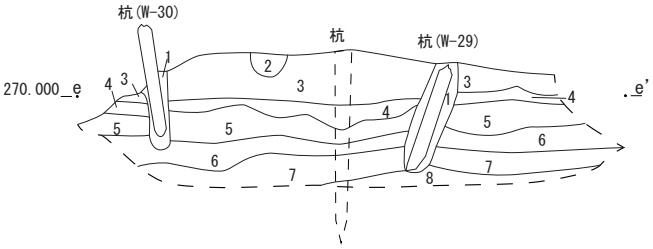
第23図　B区土層図(2)



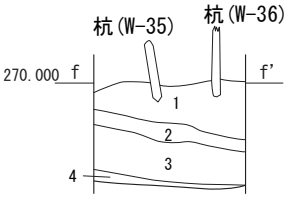
杭1・杭2・杭3
d-d'・e-e'・d-d' (1/100)



杭1　d-d'(1/40)
1　暗灰黄色(2.5Y5/2)粗粒砂・黒褐色(10YR3/1)細粒砂混土
　しまり、粘性弱い
2　暗灰黄色(2.5Y5/2)粗粒砂・黒褐色(10YR3/1)細粒砂混土
　しまり弱く、粘性あり
3　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を多く含む

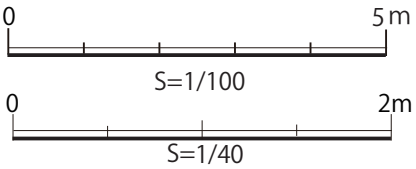


杭2　e-e'(1/40)
1　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
2　褐色(10YR4/4)粗粒砂
　しまり弱く、粘性なし
3　黒褐色(7.5Y3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
4　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色の細粒砂をラミナ状に含む
　うん管を含む
5　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
6　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
7　黒色(2.5Y2/1)細粒砂黄褐色(2.5Y5/3)・
　粗粒砂混土
　しまり弱く、粘性強い
8　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を多量に含む

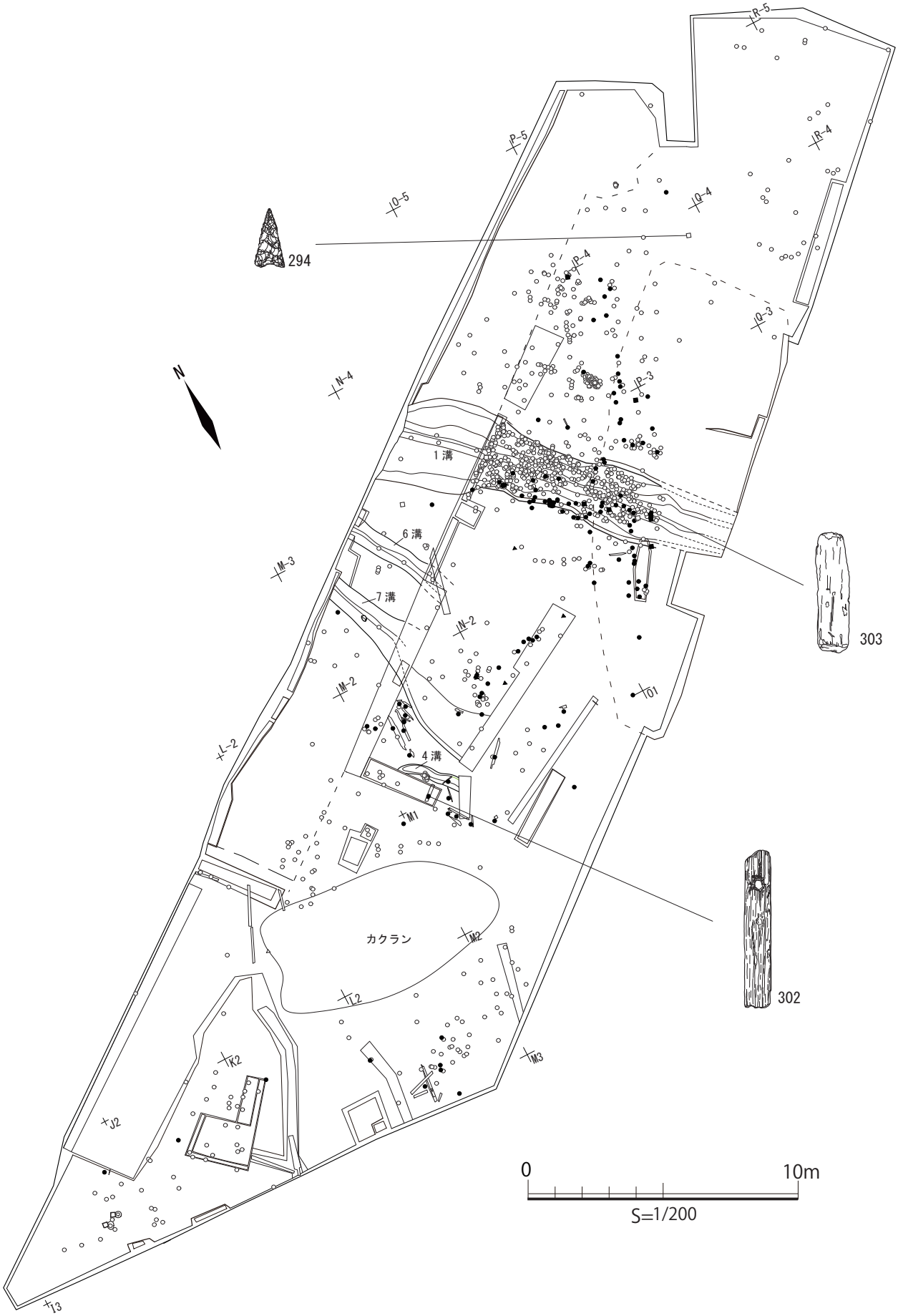


杭3

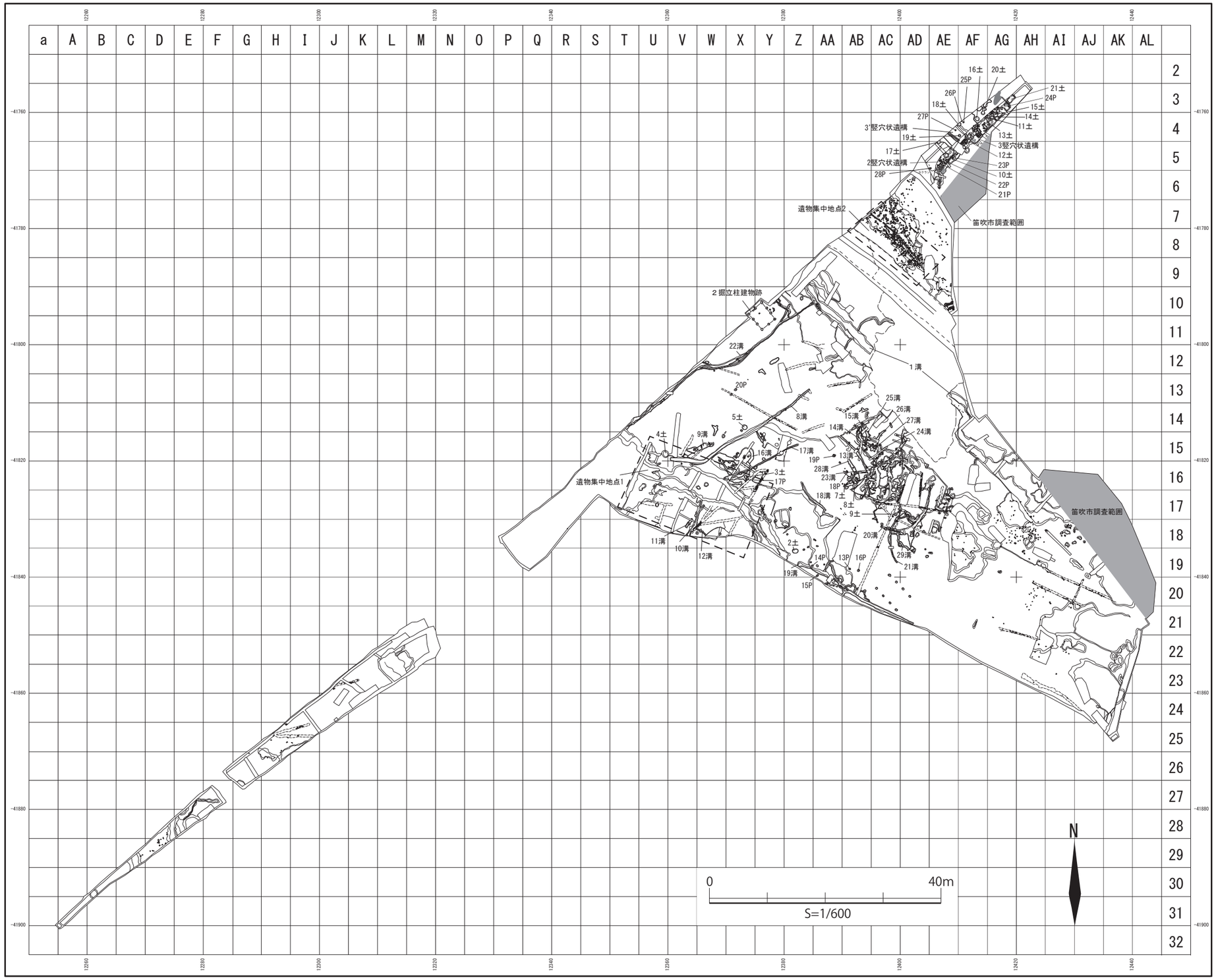
杭3　f-f'(1/40)
1　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
2　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂・細粒砂の混土
　しまりあり、粘性弱い
　上層は粗粒砂が主体となる
　下層は細粒砂がラミナ状に堆積する
3　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
4　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂
　しまりあり、粘性弱い



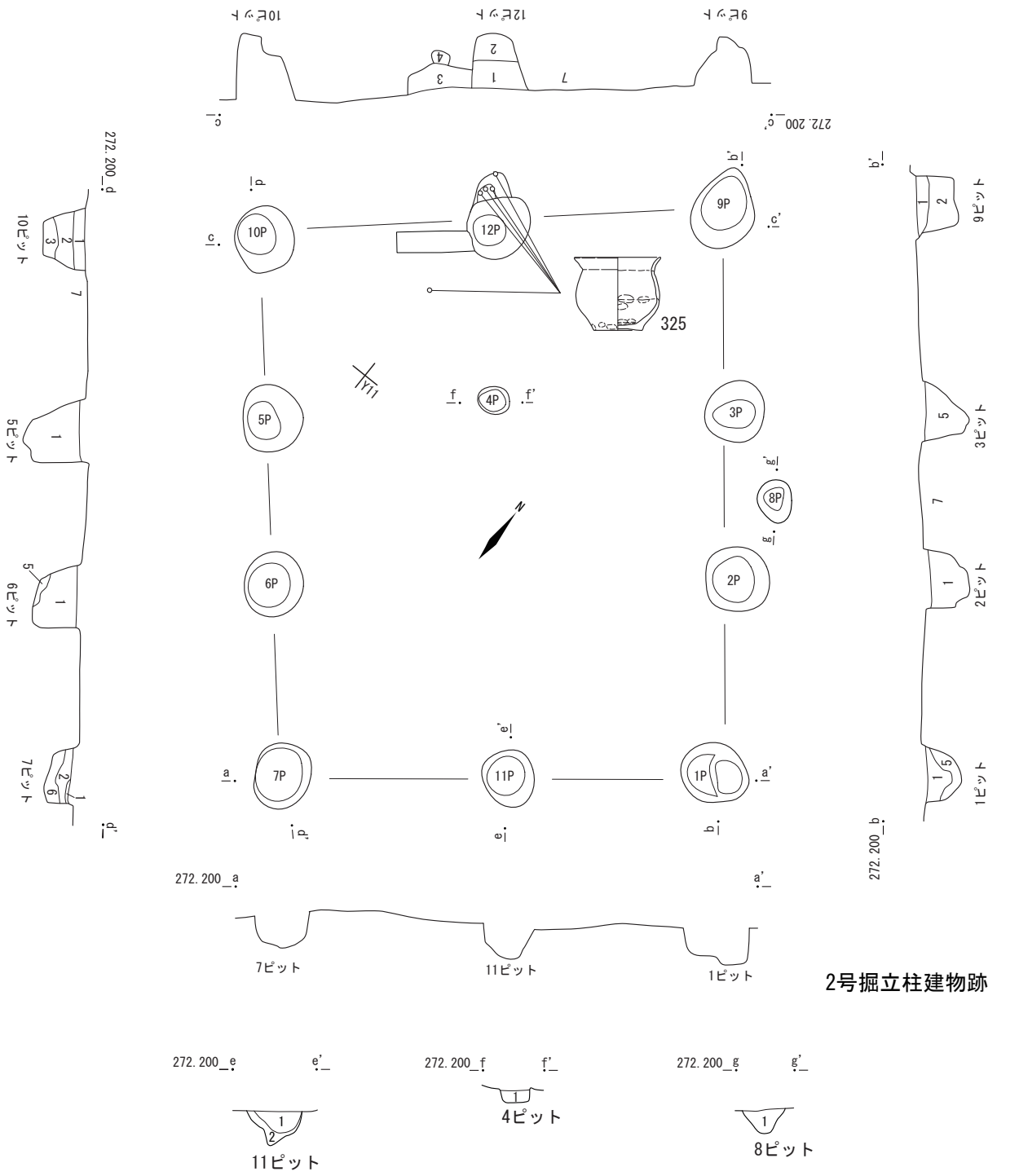
第24図　B区土層図(3)



第25図　B区遺物分布図


16土
20土
25P
26P
21土
24P
18土
15土
27P
14土
3"竪穴状遺構
11土
19土
13土
3竪穴状遺構
17土
12土
2竪穴状遺構
23P
28P
10土
22P
21P
遺物集中地点2
笛吹市調査範囲
2掘立柱建物跡
22溝
1溝
20P
25溝
26溝
5土
8溝
15溝
27溝
14溝
24溝
4土
9溝
16溝
17溝
19P
13溝
28溝
3土
23溝
17P
18P
遺物集中地点1
18溝
7土
8土
9土
笛吹市調査範囲
20溝
11溝
10溝
2土
29溝
12溝
14P
13P
16P
21溝
19溝
15P
N
0
40m
S=1/600

第 26 図　C区全体図



2号掘立柱建物跡

1　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を含む
　灰色粘土をブロック状に含む

2　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり（粘性1層より強い）
　白色細粒砂を含む
　灰色粘土をブロック状に含む

3　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を少量含む
　うん管を含む

4　黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を少量含む
　うん管を含む

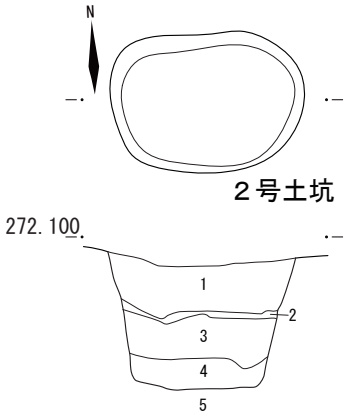
5　にぶい黄褐色(2.5Y6/3)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　7層（南側）と似ている

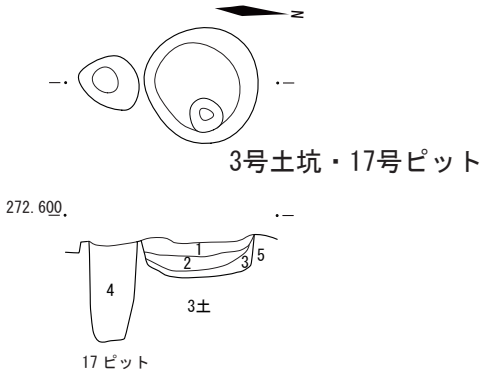
6　褐灰色(10YR5/1)シルト
　しまりあり、粘性強い

7　遺構確認面
　北側と南側で異なる
　北側：黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を少量含む
　うん管を含む
　南側：灰黄褐色(10YR4/2)シルト
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　うん管を含む

0　2m
S=1/40

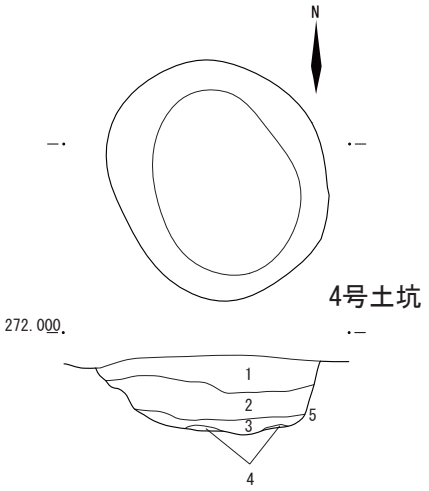
第27図　C区遺構図(1)



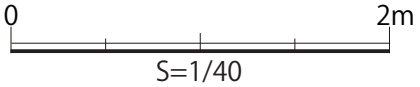


2号土坑
1　黒色(10YR1.7/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　灰色細粒砂をわずかに含む
2　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
3　黒色(10YR1.7/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を少量含む
4　黒色(10YR1.7/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
　植物遺体を多く含む
5　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　白色の細粒砂を少量含む

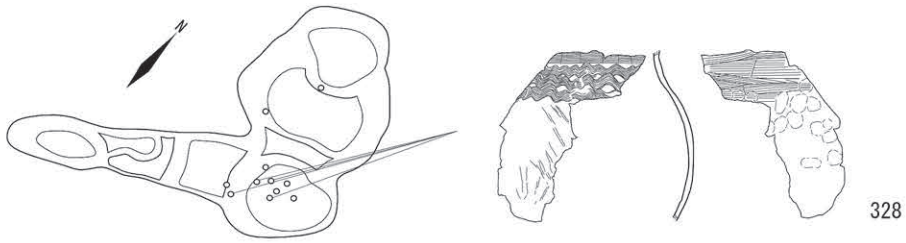
3号土坑・17ピット
1　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　灰色中粒砂との混土
2　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　灰色中粒砂との混土
3　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり強く、粘性あり
　黒色細粒砂をブロック状に含む
4　黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をブロック状に含む
5　灰黄褐色(10YR4/2)　シルト質細粒砂
　しまり強く、粘性あり



4号土坑
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　φ30～50mmの白色礫を多く含む
2　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
　φ20～50mmの白色礫を多く含む
3　黄褐色(2.5Y7/2)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ1～2mmの礫を含む
4　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト
　しまりなし、粘性弱い
　わずかに細粒砂を含む
　植物遺体を多く含む
5　灰黄色(2.5Y6/2)粗粒砂
　しまりあり、粘性なし
　鉄分を多く含む

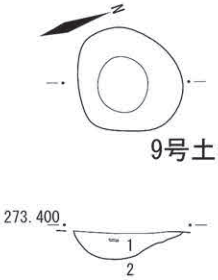


第28図　C区遺構図(2)



7号土坑

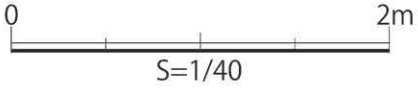
8号土坑



9号土坑

8号土坑
1　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　黒色シルト層との混土
　白色の粗粒砂を少量含む
2　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を少量含む
　うん管を少量含む
3　灰黄褐色(10YR4/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
　うん管を含む

9号土坑
1　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　下底に灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を含む
　うん管を含む
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　うん管を含む



第29図　C区遺構図(3)

13号ピット
1　褐灰色(10YR4/1)細粒砂
　しまりあり、粘性なし
　黒色シルトを含む
　鉄分を含む
2　褐灰色(10YR5/1)シルト
　しまり、粘性あり
　黒色細粒砂を含む
　1層と比べて色調が淡い
3　灰黄褐色(10YR5/2)粗粒砂
　しまりあり、粘性なし
　黒色シルトをブロック状に少量含む
　鉄分を多く含む

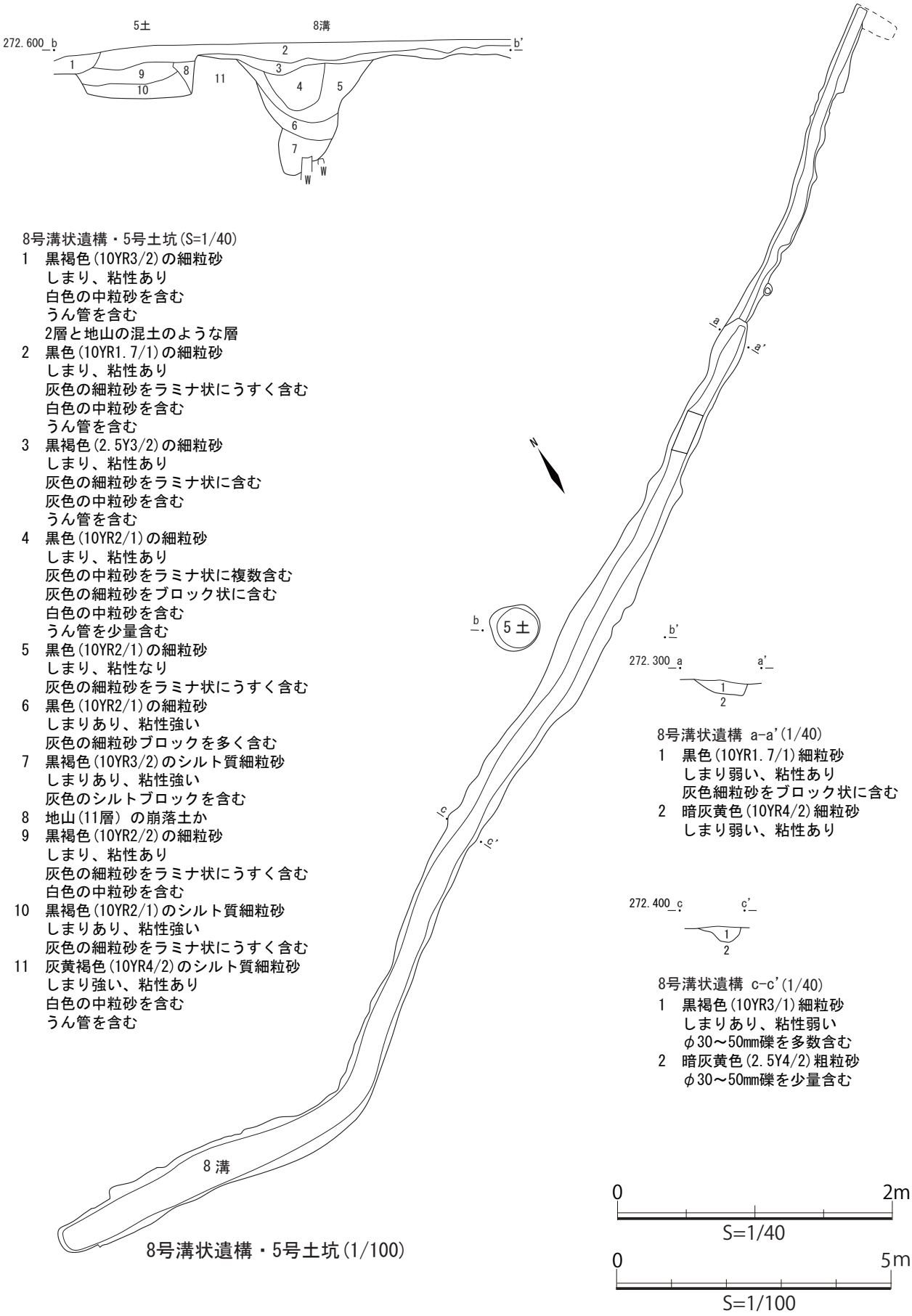
14号ピット
1　黒色(2.5Y2/1)シルト
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をブロック状に含む
2　灰黄褐色(10YR5/2)粗粒砂
　しまりあり、粘性なし
　黒色シルトをブロック状に少量含む
　鉄分を多く含む

16号ピット
1　黒褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　黄色粗粒砂を含む
　鉄分を含む
2　暗灰黄色(2.5Y5/2)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　シルトをわずかに含む
3　暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂
　しまりあり、粘性なし
　黒色シルト塊を含む
　鉄分を多く含む

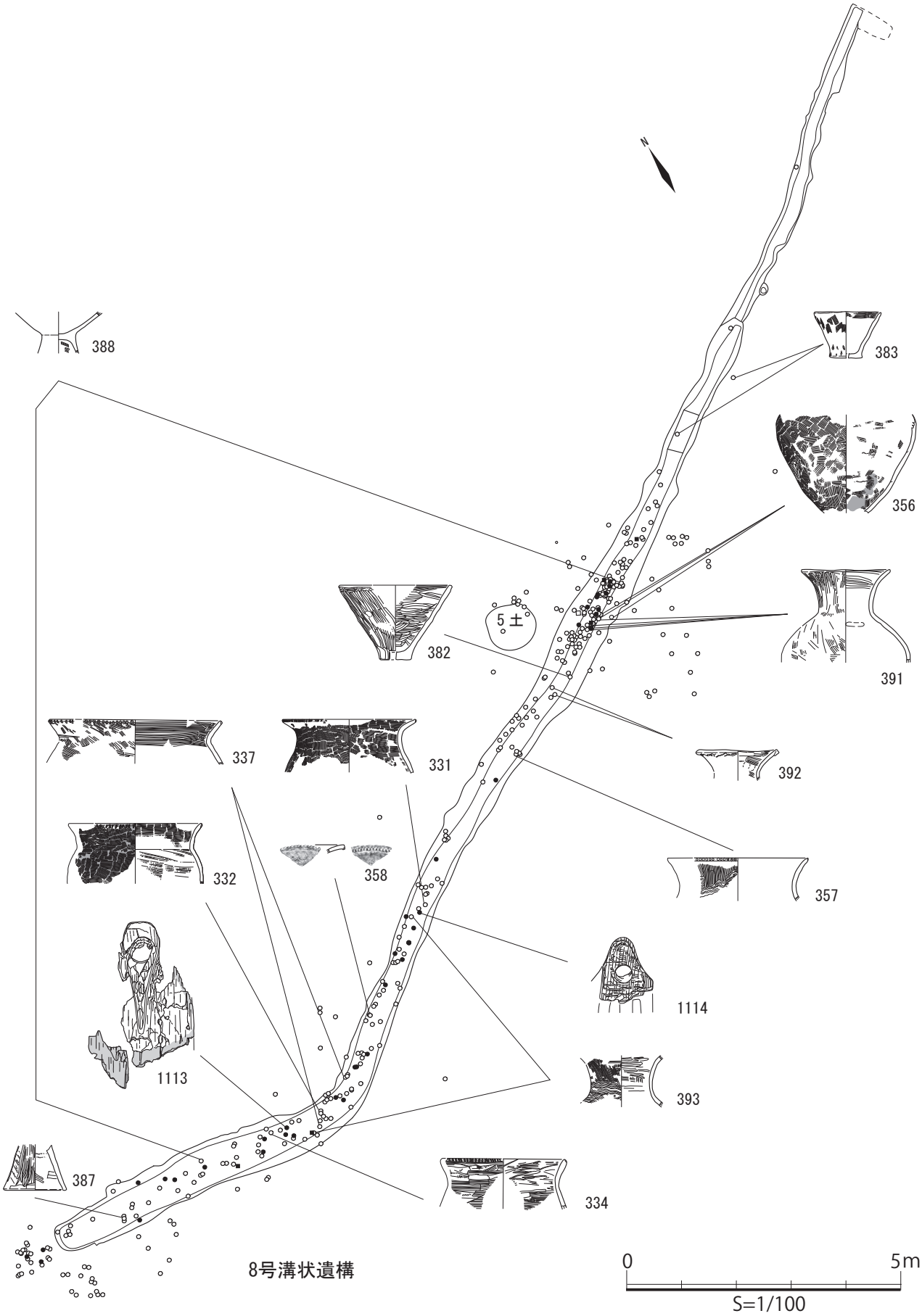
18号ピット
1　黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　白色粗粒砂を含む
　焼土塊を少量含む
2　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　焼土塊を多く含む
3　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰黄褐色シルト塊を多く含む
4　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
　しまりあり、粘性強い
　うん管を含む

19号ピット
1　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　φ5mm程の礫を少量含む
2　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色シルトブロック（3層）を含む
3　灰黄褐色(10YR4/3)シルト
　しまりあり、粘性強い
　うん管を含む

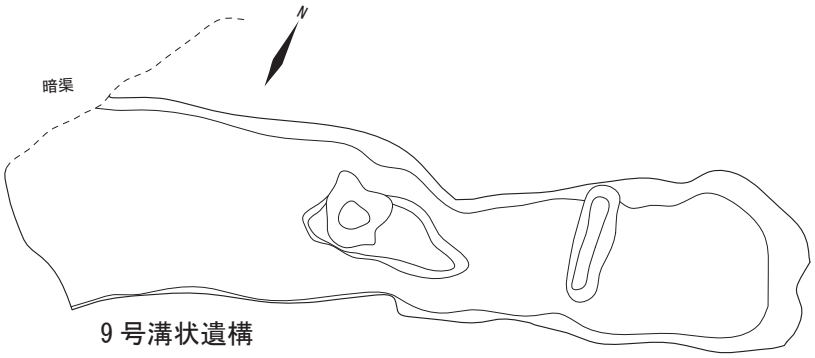
第30図　C区遺構図(4)


5土
8溝
272.600_b
b'
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
W
W
8号溝状遺構・5号土坑(S=1/40)
1 黒褐色(10YR3/2)の細粒砂
しまり、粘性あり
白色の中粒砂を含む
うん管を含む
2層と地山の混土のような層
2 黒色(10YR1.7/1)の細粒砂
しまり、粘性あり
灰色の細粒砂をラミナ状にうすく含む
白色の中粒砂を含む
うん管を含む
3 黒褐色(2.5Y3/2)の細粒砂
しまり、粘性あり
灰色の細粒砂をラミナ状に含む
灰色の中粒砂を含む
うん管を含む
4 黒色(10YR2/1)の細粒砂
しまり、粘性あり
灰色の中粒砂をラミナ状に複数含む
灰色の細粒砂をブロック状に含む
白色の中粒砂を含む
うん管を少量含む
5 黒色(10YR2/1)の細粒砂
しまり、粘性なり
灰色の細粒砂をラミナ状にうすく含む
6 黒色(10YR2/1)の細粒砂
しまりあり、粘性強い
灰色の細粒砂ブロックを多く含む
7 黒褐色(10YR3/2)のシルト質細粒砂
しまりあり、粘性強い
灰色のシルトブロックを含む
8 地山(11層) の崩落土か
9 黒褐色(10YR2/2)の細粒砂
しまり、粘性あり
灰色の細粒砂をラミナ状にうすく含む
白色の中粒砂を含む
10 黒褐色(10YR2/1)のシルト質細粒砂
しまりあり、粘性強い
灰色の細粒砂をラミナ状にうすく含む
11 灰黄褐色(10YR4/2)のシルト質細粒砂
しまり強い、粘性あり
白色の中粒砂を含む
うん管を含む
N
a
a'
b
5土
b'
c
c'
8溝
272.300_a
a'
1
2
8号溝状遺構 a-a'(1/40)
1 黒色(10YR1.7/1)細粒砂
しまり弱い、粘性あり
灰色細粒砂をブロック状に含む
2 暗灰黄色(10YR4/2)細粒砂
しまり弱い、粘性あり
272.400_c
c'
1
2
8号溝状遺構 c-c'(1/40)
1 黒褐色(10YR3/1)細粒砂
しまりあり、粘性弱い
φ30～50mm礫を多数含む
2 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂
φ30～50mm礫を少量含む
8号溝状遺構・5号土坑(1/100)
0
2m
S=1/40
0
5m
S=1/100

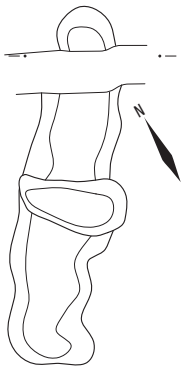
第31図　C区遺構図(5)


388
383
356
5土
382
391
337
331
392
332
358
357
1114
1113
393
387
334
8号溝状遺構
0
5m
S=1/100

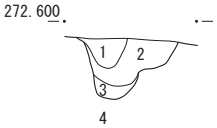
第 32 図　C 区遺構図 (6)

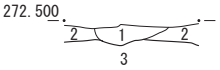


9号溝状遺構



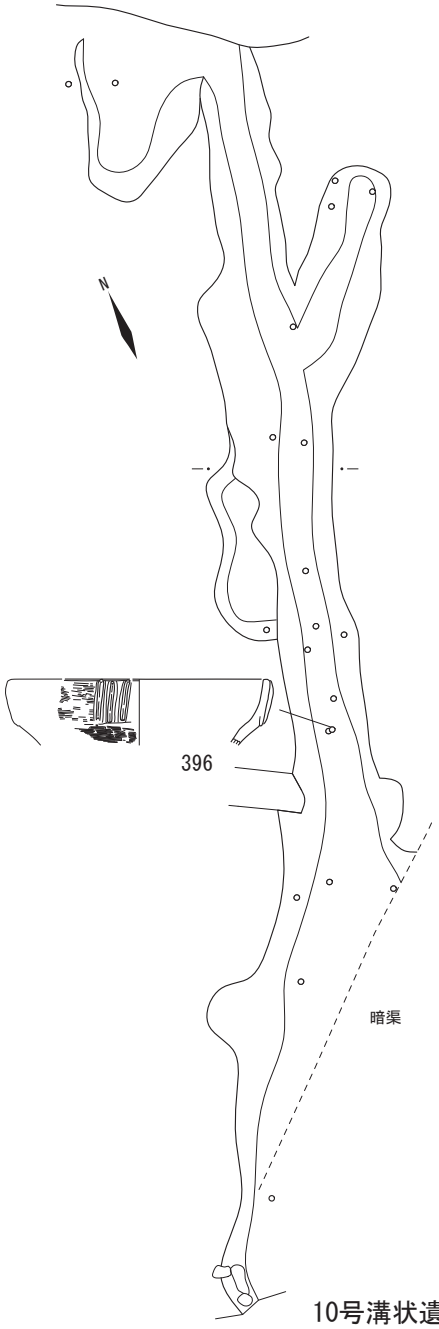
11号溝状遺構



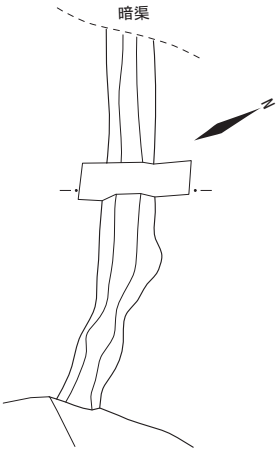


10号溝状遺構
1　黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を多く含む
　灰色シルトをブロック状に少量含む
2　黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を多く含む
　灰色シルトをブロック状に多く含む
　1層と似ているが、シルトの割合が多い
3　黒褐色(10YR2/1)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色シルトをブロック状に少量含む
　下底に中粒砂をラミナ状に含む
　(堆積砂)
4　灰黄褐色(10YR6/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　シルトと細粒砂の混土

11号溝状遺構
1　黒褐色(10YR2/2)中粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　白色細粒砂を多く含む
　灰色シルトをブロック状に多く含む
　下底に灰色細粒砂をラミナ状に含む
　(堆積砂)
2　にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂
　しまり、粘性あり
　黒色シルトを互層状に含む
　白色細粒砂を多く含む
3　オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト
　しまり弱く、粘性強い
　ラミナ状に堆積する

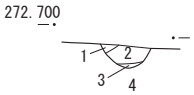


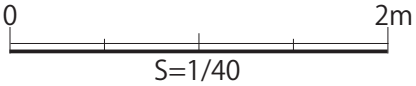
10号溝状遺構



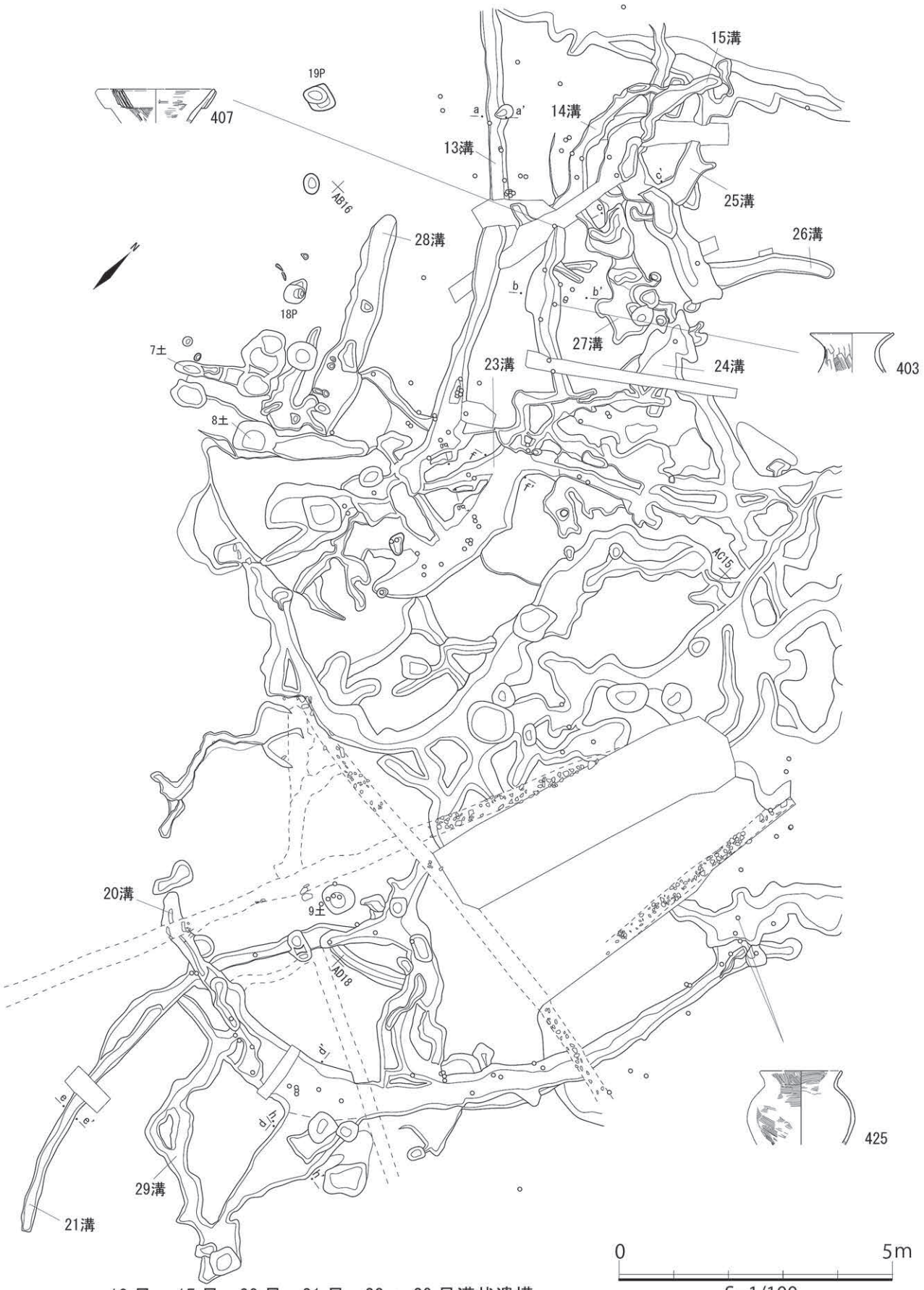
12号溝状遺構

12号溝状遺構
1　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)中粒砂
　しまりあり、粘性なし
　白色粗粒砂を含む
　2層と4層の混土
2　黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
　白色細粒砂をラミナ状にうすく含む
　遺物包含層
3　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　2層の底に白色細粒砂が沈殿した層
4　暗褐色(10YR3/3)中粒砂
　しまりあり、粘性なし
　白色粗粒砂を含む



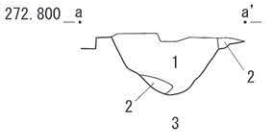


第33図　C区遺構図(7)



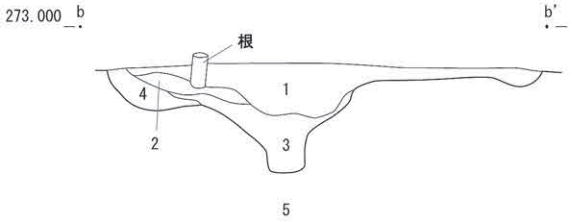
13 号～ 15 号・20 号・21 号・23 ～ 29 号溝状遺構

第 34 図　C 区遺構図 (8)



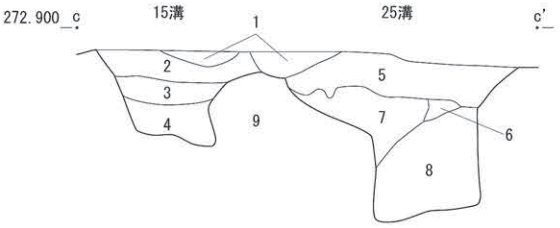
13号溝状遺構 a-a'

1　黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
　白色中粒砂を含む
　下層に灰色中粒砂をブロック状に含む
2　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト
　しまり、粘性とても強い
　3層を主体として、1層をブロック状に少量含む
3　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルトと中粒砂の混土
　しまり強く、粘性あり



14号溝状遺構 b-b'

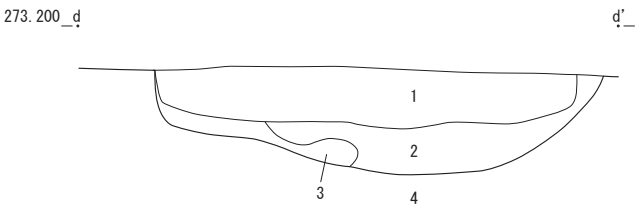
1　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　白色粗粒砂を少量含む
　うん管を少量含む
2　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　白色粗粒砂を少量含む
　うん管を少量含む
3　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を少量含む
　灰色シルト塊を含む
　2層と5層の混土
4　暗褐色(10YR4/3)の細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色細粒砂をラミナ状に多く含む
　下層に灰色の粗粒砂をラミナ状に多く含む
　白色粗粒砂を含む
5　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト
　しまりあり、粘性強い
　うん管を含む



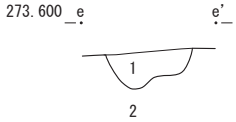
15号・25号溝状遺構 c-c'

1　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を含む
　うん管を少量含む
2　褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　黒色細粒砂塊を含む
　白色粗粒砂を含む
　うん管を少量含む
3　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　黒色細粒砂、灰色中粒砂をラミナ状に含む
　うん管を少量含む
4　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　上層に灰色中粒砂をラミナ状に含む
　灰色シルト塊を多く含む
5　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　灰色粗粒砂を含む
　うん管を少量含む
　1層に似ているが、より黒い
6　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　5層に似ているが、砂が混じらない
7　灰黄褐色(10YR3/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
　上層に黒色細粒砂塊、灰色中粒砂塊を含む
　うん管を少量含む
　地山に似ている
8　黒褐色(10YR3/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
　灰色シルトを互層状に含む
　上端に灰色細粒砂をラミナ状に含む
　うん管を少量含む
　地山に似ている
9　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂
　しまりあり、粘性弱い

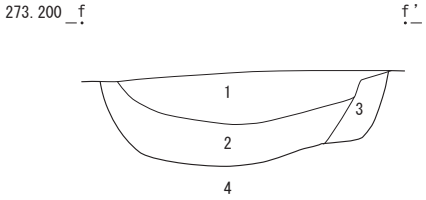
第35図　C区遺構図(9)



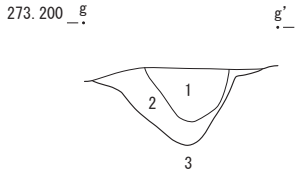
20号溝状遺構 d-d'
1　黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を少量含む
　黄褐色シルトをブロック状に含む
2　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
　下底に灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を少量含む
　黄褐色シルトをブロック状に含む（1層より多
3　灰黄褐色(10YR4/2)シルト
　しまり、粘性あり
　2層と4層の混土
　両者がブロック状に含まれる
4　にぶい黄褐色(10YR4/2)シルト
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を多く含む



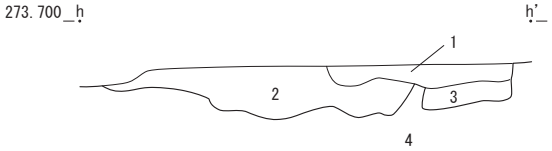
21号溝状遺構 e-e'
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を少量含む
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む

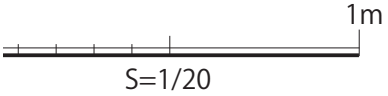


23号溝状遺構 f-f'
1　黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　うん管を含む
2　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性なし
　下底に灰色細粒砂をラミナ状に含む
　白色粗粒砂を含む
3　しまり、粘性あり
　2層と4層の混土
　両者がブロック状に含まれる
4　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂とシルト質細粒砂の混土
　しまり、粘性あり
　φ3～5mmの礫を多く含む



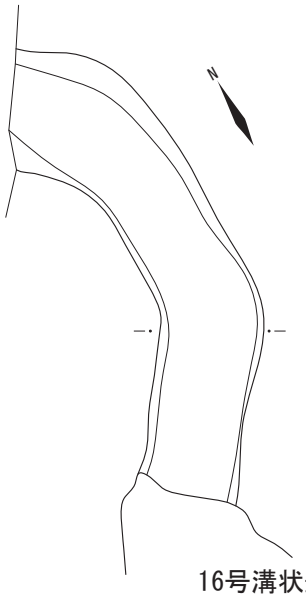
23号溝状遺構 g-g'
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を少量含む
　下層に白色粗粒砂をラミナ状に薄く含む
2　黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　1層と3層の混土
　お互いがブロック状に含まれる
3　にぶい黄褐色(2.5Y3/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む



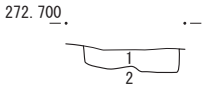


29号溝状遺構 h-h'
1　黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色シルト塊を多く含む
　白色粗粒砂を少量含む
2　黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　下底に灰色シルト塊を含む
　白色粗粒砂を少量含む
3　黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色シルト塊を多く含む
　白色粗粒砂を含む
4　灰黄褐色(10YR4/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
　うん管を含む

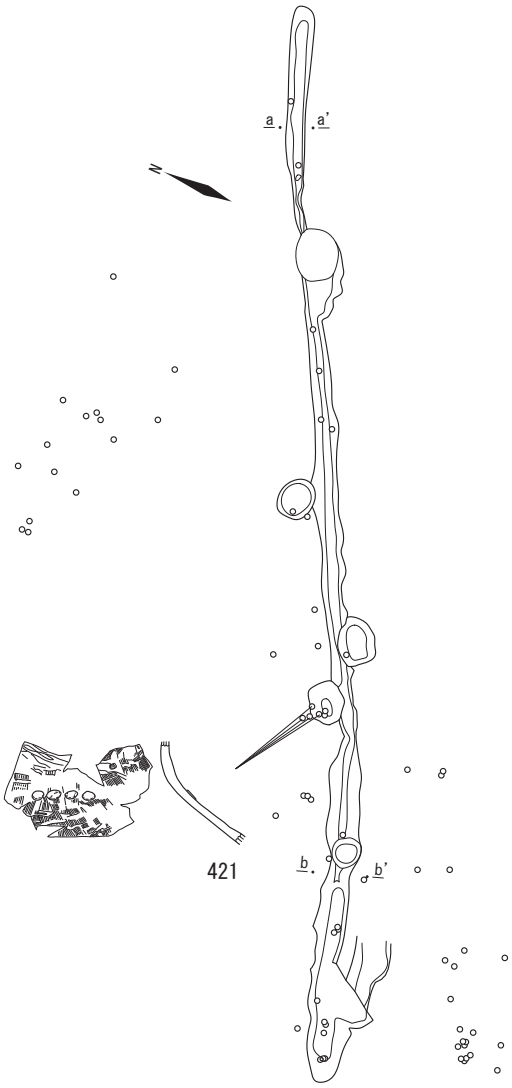
第36図　C区遺構図⑽



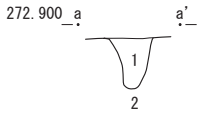
16号溝状遺構(1/40)



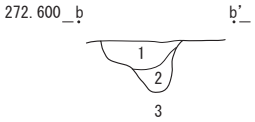
16号溝状遺構(1/40)
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を少量含む
　下層に灰色中粒砂をブロック状に含む
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり強い、粘性あり
　白色粗粒砂を含む



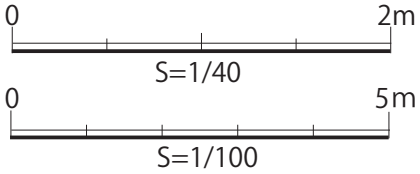
17号溝状遺構(1/100)



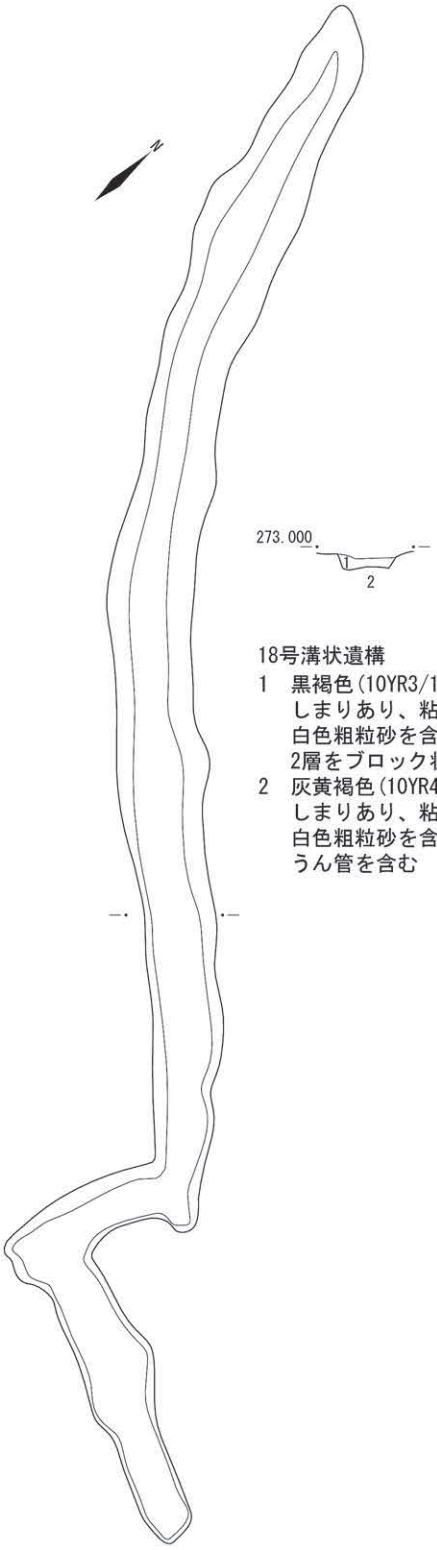
17号溝状遺構 a-a'(1/40)
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　3層をブロック状に多く含む
　うん管を含む
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性強い
　白色粗粒砂を含む
　うん管を含む



17号溝状遺構 b-b'(1/40)
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　3層をブロック状に多く含む
　うん管を含む
2　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
　白色粗粒砂を含む
　1層と似ているが、3層を含む割合が高い
3　灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
　しまり、粘性強い
　白色粗粒砂を含む
　うん管を含む



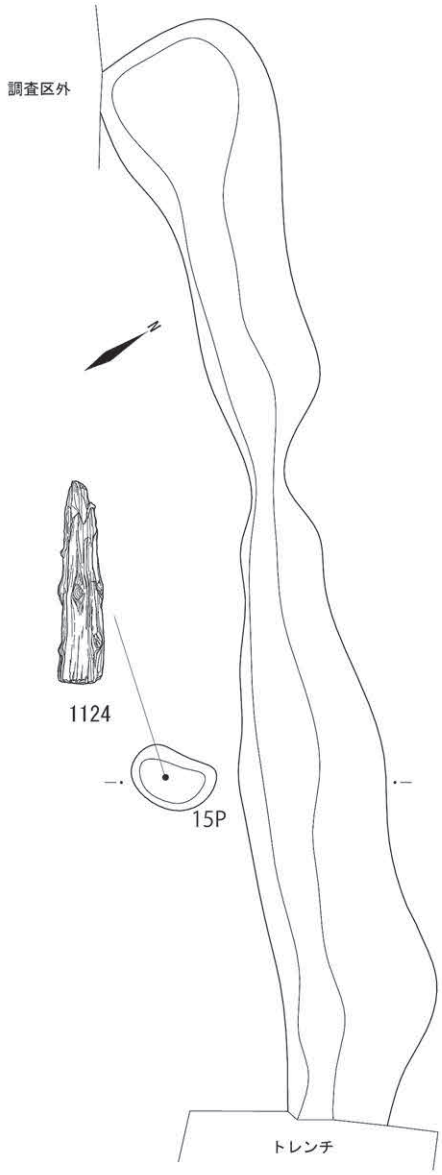
第 37 図　C区遺構図(11)



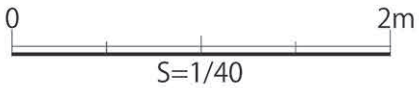
18号溝状遺構

1　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　白色粗粒砂を含む
　2層をブロック状に多く含む
2　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　白色粗粒砂を含む
　うん管を含む

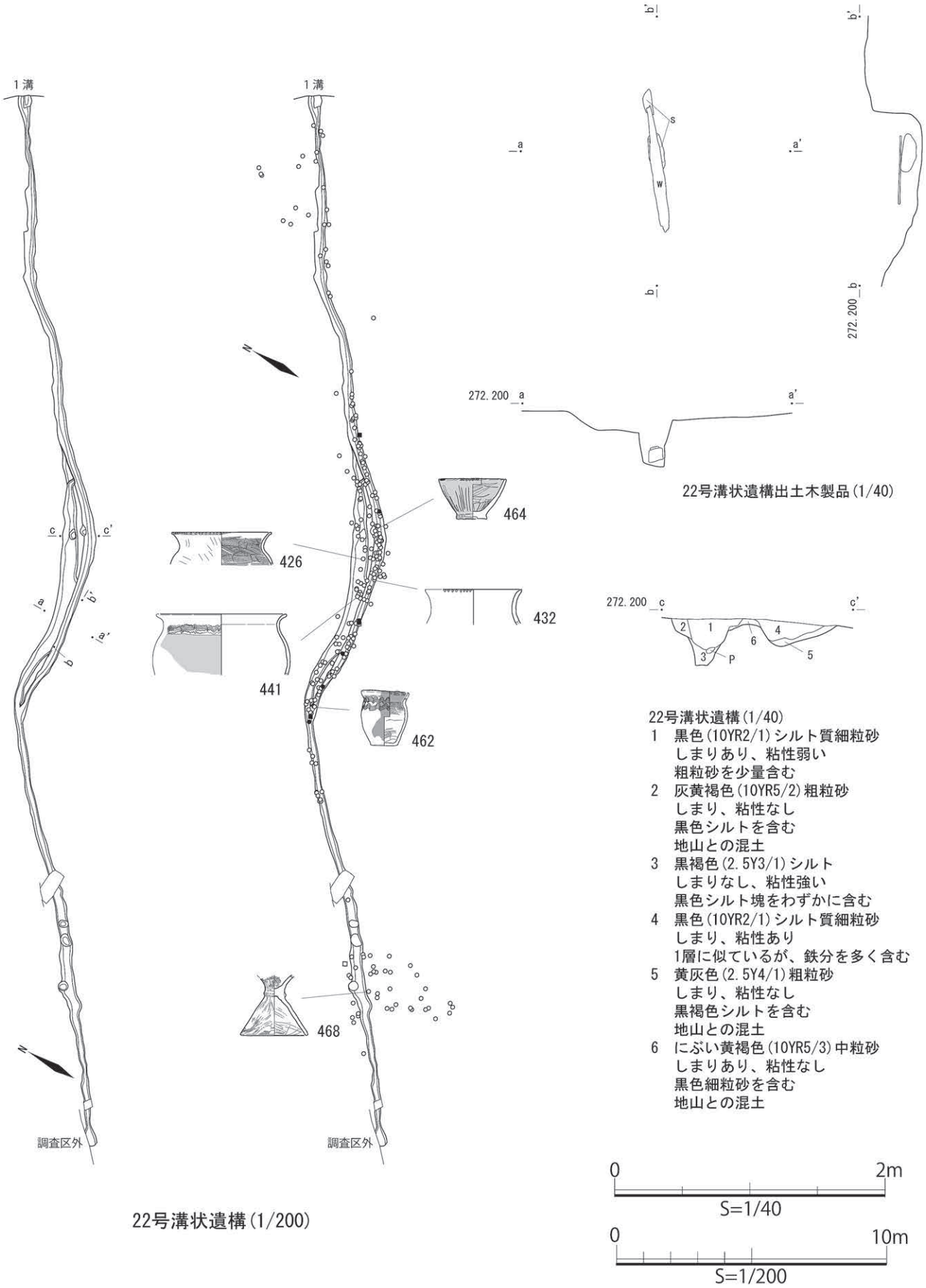
18号溝状遺構



19号溝状遺構・15ピット

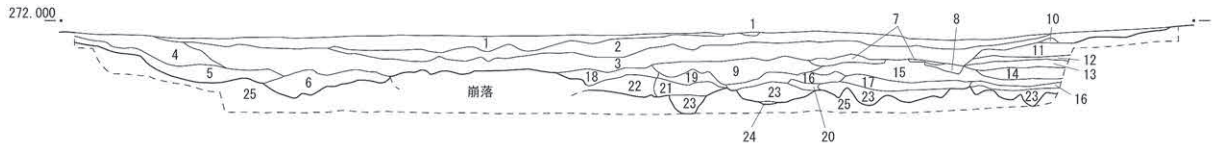


第38図　C区遺構図(12)



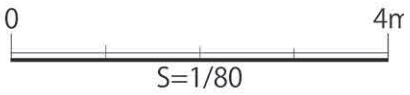
第39図　C区遺構図(13)

第40図　C区遺構図(14)

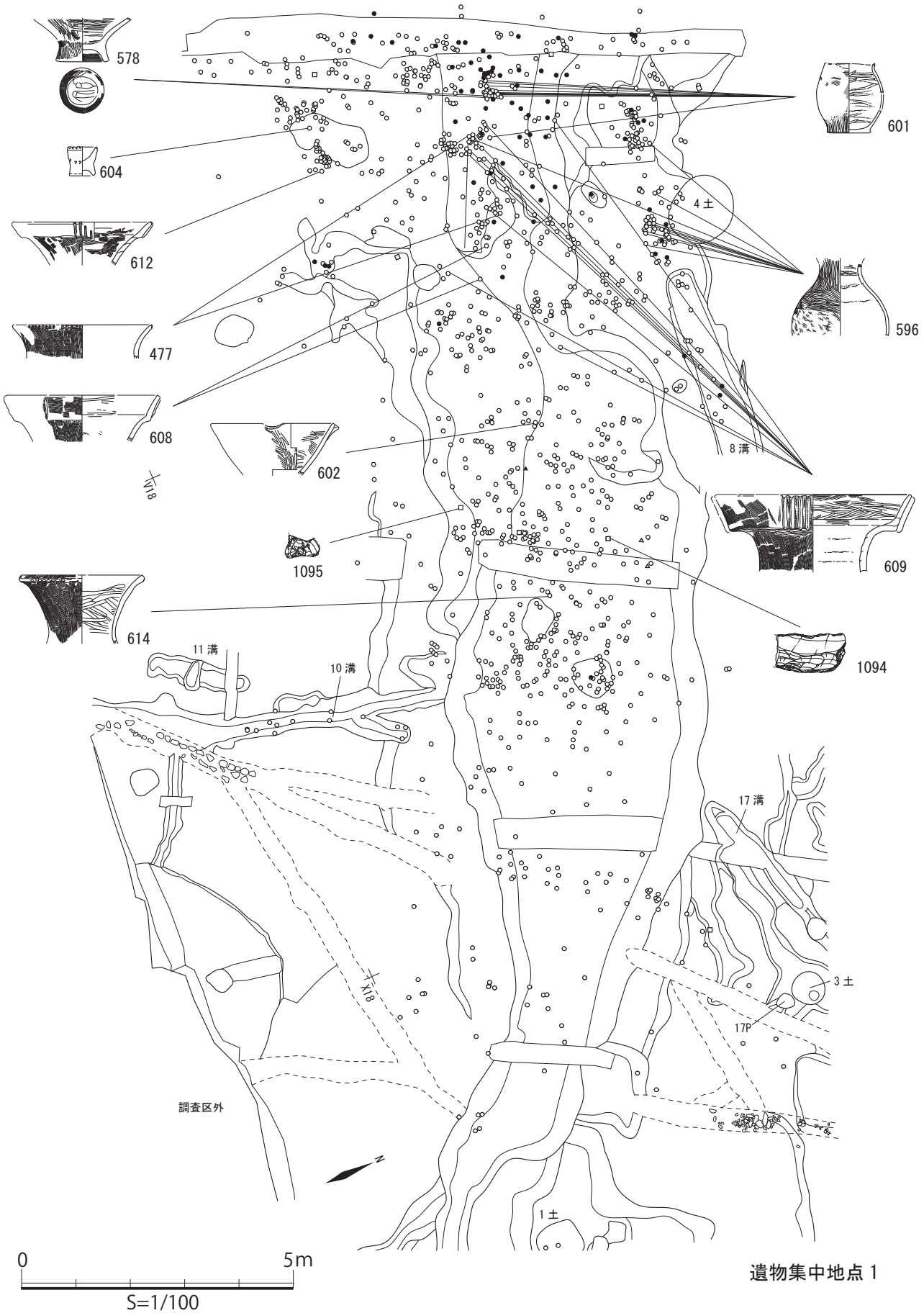


遺物集中地点 1

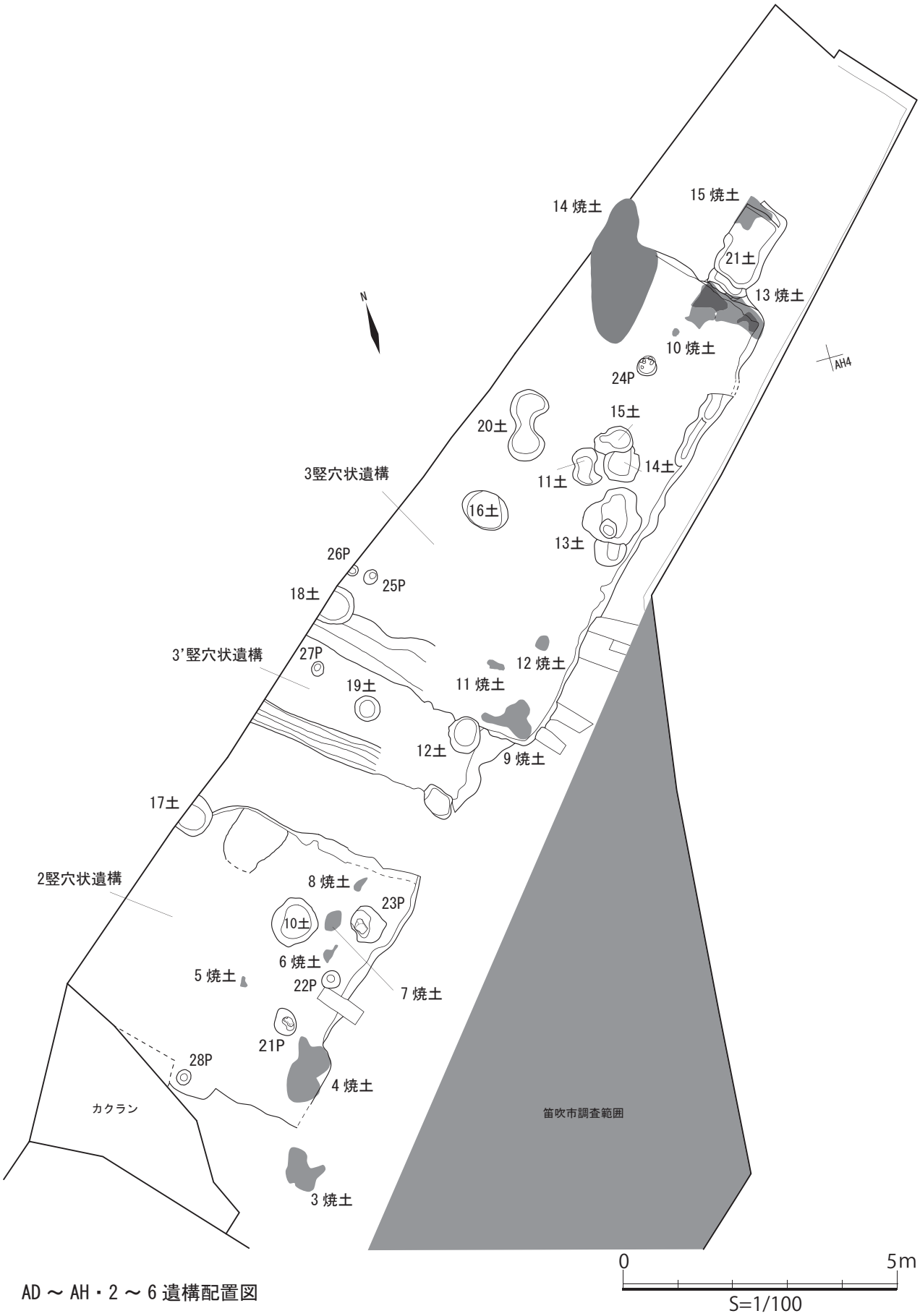
1　黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色中粒砂を少量含む
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　遺物包含層
2　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色中粒砂をラミナ状に複数含む
　遺物包含層（多量）
3　黒色(10YR1.7/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
　灰色粗粒砂をブロック状に含む
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　植物遺体を多く含む
　遺物包含層（多量）
4　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまり強く、粘性あり
　白色粗粒砂を多く含む
　遺物包含層
5　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を多く含む
　遺物包含層
6　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり強く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　遺物包含層
7　黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色中粒砂をラミナ状に含む
　遺物包含層
8　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に薄く含む
　遺物包含層
9　黒褐色(10YR3/2)中粒砂
　しまり、粘性弱い
　ラミナ状に堆積する
　φ30~50mmの礫を少量含む
　遺物包含層
10　黒褐色(10YR3/1)シルト
　しまり弱く、粘性強い
　遺物包含層
11　灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂
　しまり弱く、粘性強い
　灰色シルトをブロック状に含む
12　灰黄褐色(10YR4/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
13　灰黄褐色(10YR5/2)粗粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色シルトをブロック状に含む
14　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
　灰色粗粒砂をブロック状に少量含む
15　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト
　しまりあり、粘性強い
16　黄灰色(2.5Y4/1)シルト
　しまりあり、粘性強い
17　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
18　にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
　しまり、粘性弱い
　φ5~10mmの礫を少量含む
19　灰黄褐色(10YR5/2)粗粒砂
　しまり弱く、粘性強い
20　灰黄色(2.5Y6/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
21　灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂
　しまり強く、粘性弱い
　白色粗粒砂を少量含む
22　灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色中粒砂をラミナ状に含む
23　黒褐色(10YR2/2)シルト
　しまりあり、粘性強い
　植物遺体を多く含む
24　暗褐色(10YR4/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
25　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　地山か



第 41 図　C区遺構図 ⑮

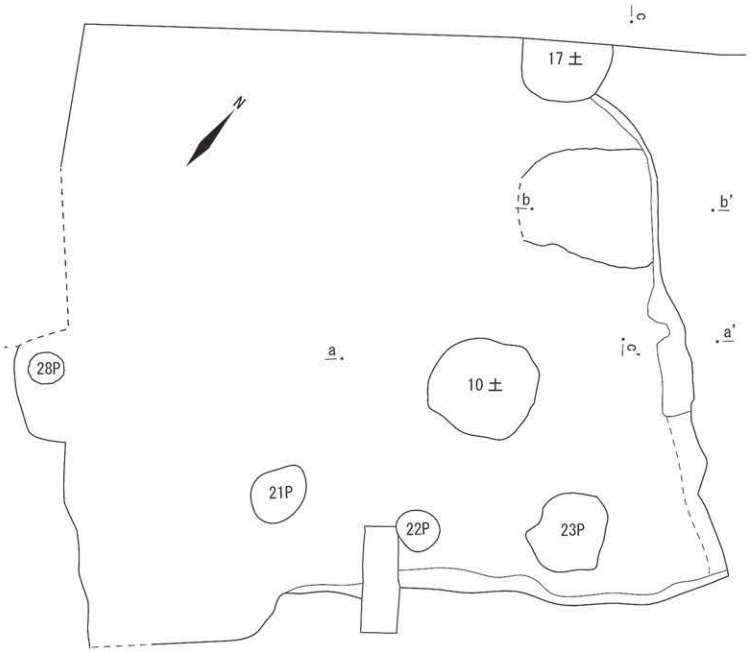

578
604
612
477
608
602
1095
614
601
596
609
1094
4 土
8 溝
11 溝
10 溝
17 溝
3 土
17P
1 土
調査区外
N
0
5m
S=1/100
遺物集中地点 1

第 42 図　C 区遺構図 ⑯

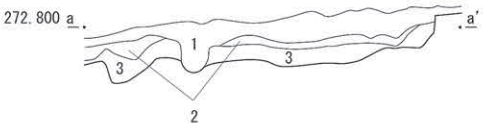


AD ～ AH・2 ～ 6 遺構配置図

第 43 図　C 区遺構図 (17)

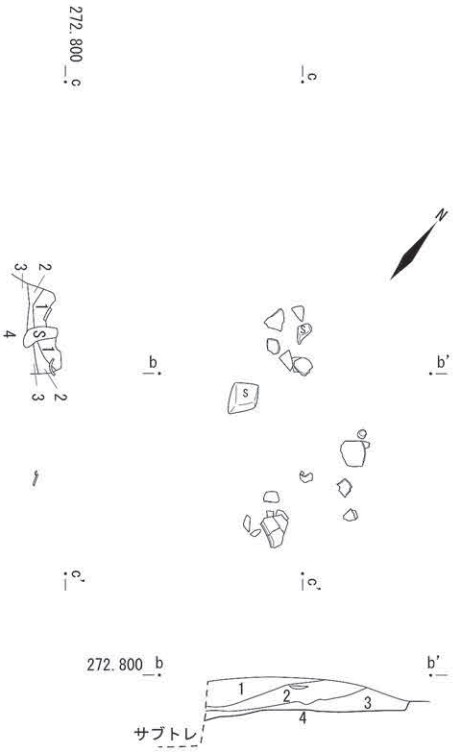


2号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構(1/60)
1　暗褐色(10YR3/4)細粒砂
　　しまり、粘性あり
2　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　　しまり、粘性あり
　　白色の粗粒砂を含む
3　暗褐色(10YR3/4)細粒砂
　　しまり、粘性あり

2号竪穴状遺構カマドセクション南北



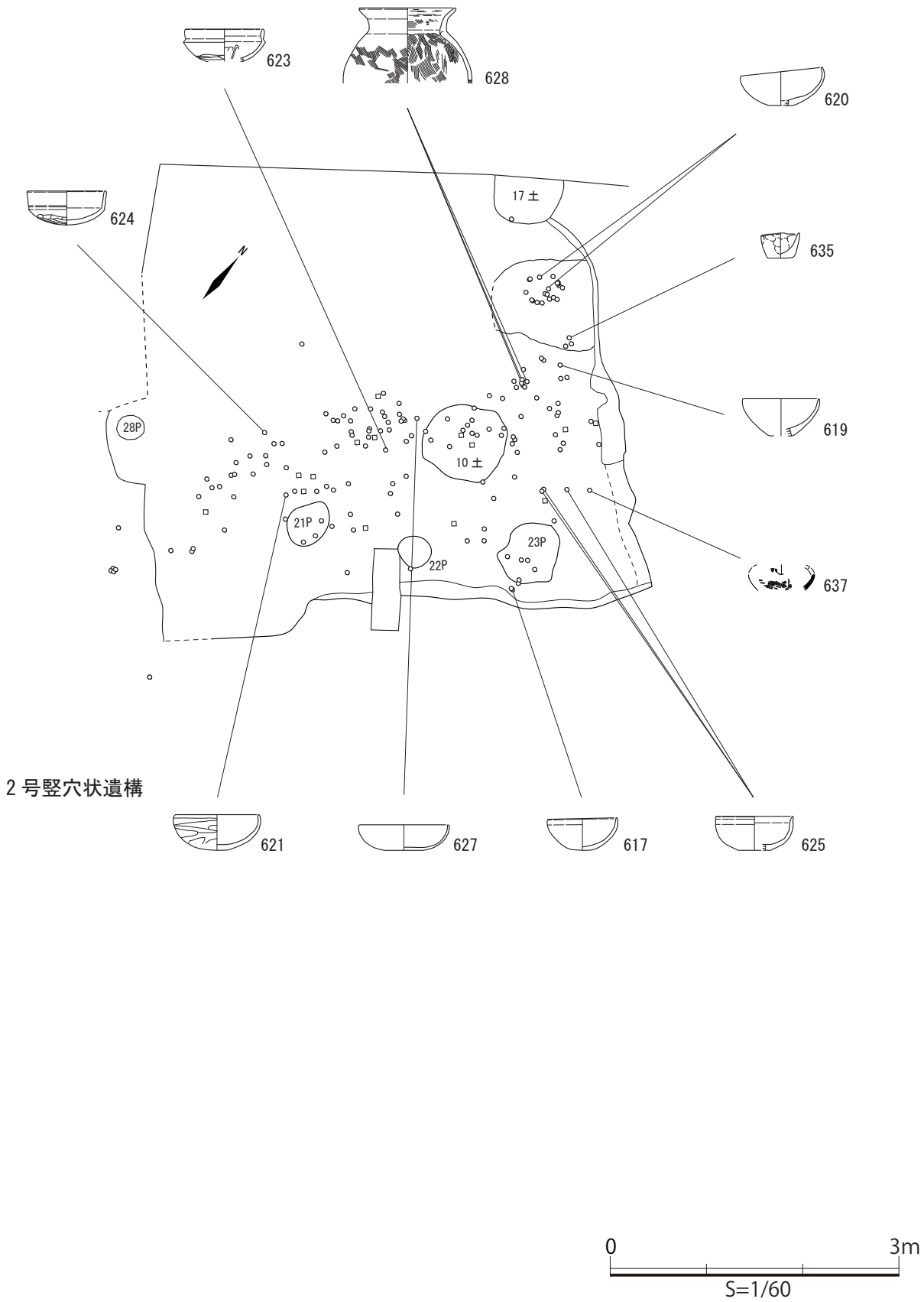
2号竪穴状遺構カマドセクション東西

2号竪穴状遺構カマド(1/40)
1　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　　しまり、粘性あり
　　白色細粒砂を含む
　　黄褐色細粒砂を含む
2　褐色(7.5YR4/4)細粒砂
　　しまり弱く、粘性あり
　　黒褐色細粒砂(1層か) を含む
　　焼土、炭化物を多く含む
3　黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂
　　しまり強く、粘性あり
　　黄褐色細粒砂をブロック状に含む
4　黒褐色(7.5YR3/2)シルト質細粒砂
　　しまり強く、粘性あり

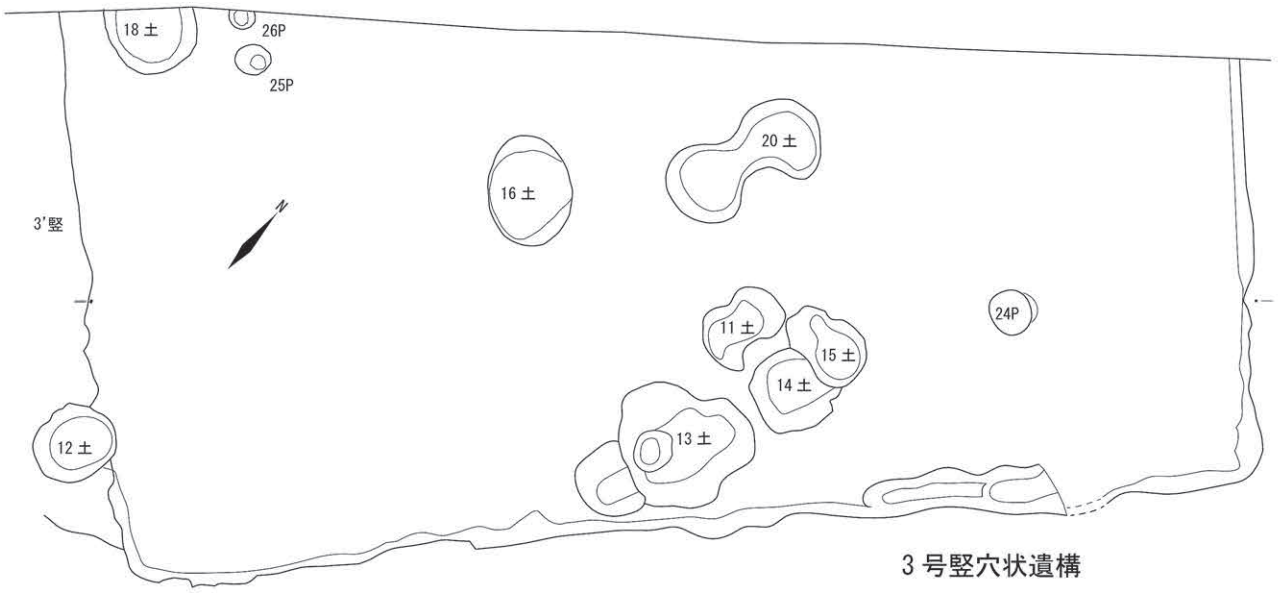
0　2m
S=1/40

0　3m
S=1/60

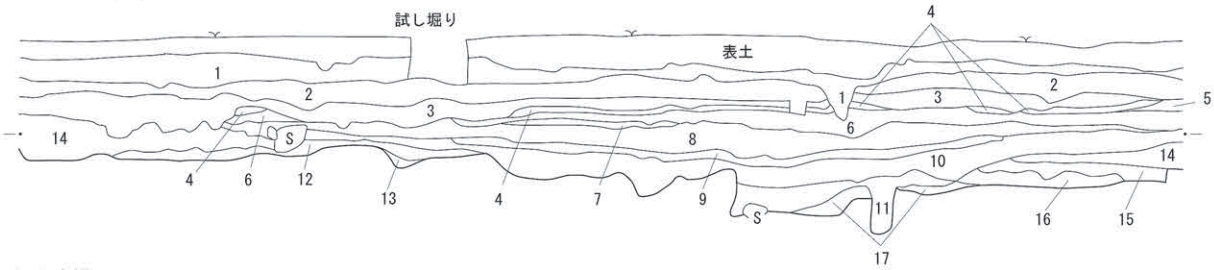
第44図　C区遺構図⑱


623
628
620
624
17土
635
N
28P
10土
619
21P
23P
22P
637
2号竪穴状遺構
621
627
617
625
0
3m
S=1/60

第45図　C区遺構図⑲

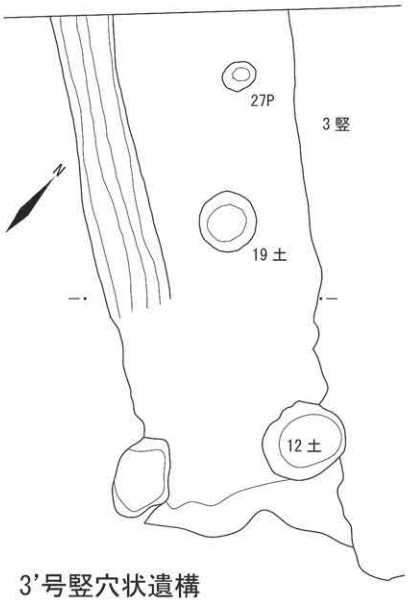


3号竪穴状遺構

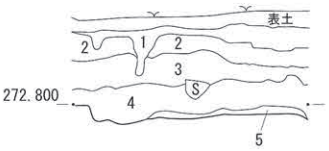


3号竪穴状遺構

1　にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂
　しまり弱く、粘性なし
2　暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂
　しまり強く、粘性あり
3　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
4　褐色(10YR4/6)細粒砂
　しまり、粘性あり
5　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
6　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　白色粗粒砂を含む
7　黄褐色(10YR5/6)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　φ100mmの礫を少量含む
8　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　うん管を含む
9　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
10　暗褐色(10YR3/4)細粒砂
　しまり、粘性あり
11　暗褐色(10YR3/3)中粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　φ10～100mmの礫を多く含む
12　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ10～100mmの礫を多く含む
13　暗褐色(10YR3/4)中粒砂
　しまり、粘性あり
　焼土塊を多く含む
　炭を多く含む
　φ10～30mmの礫を多く含む
14　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり強い、粘性あり
　φ10～100mmの礫を含む
15　褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
16　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ10mmの礫を含む
17　褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い



3'号竪穴状遺構

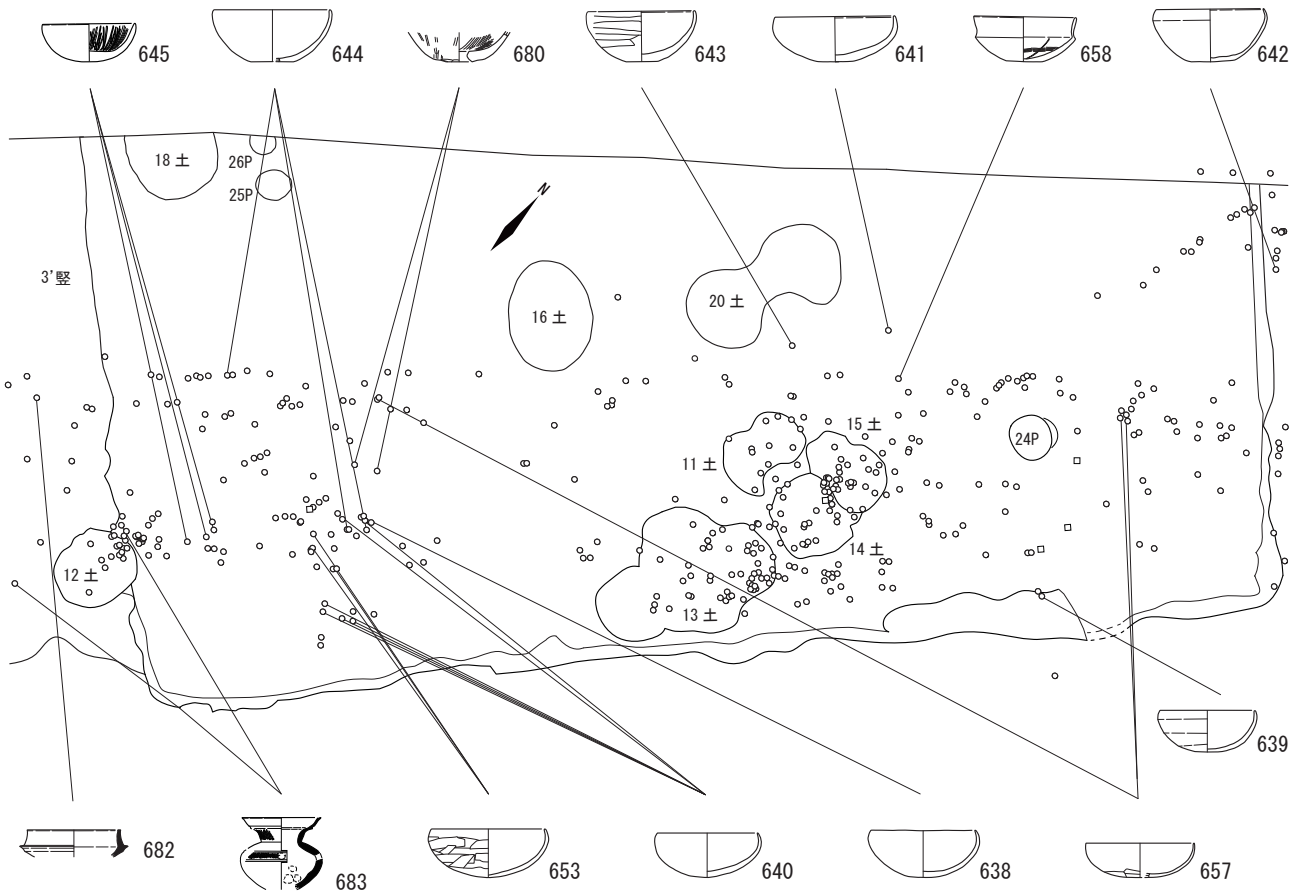


3'号竪穴状遺構

1　にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂
　しまり弱く、粘性なし
2　暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂
　しまり強く、粘性あり
3　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
4　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり強い、粘性あり
　φ10～100mmの礫を含む
5　褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い

0　2m
S=1/60

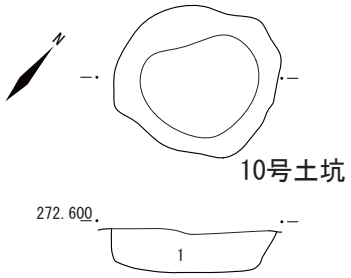
第46図　C区遺構図⑳



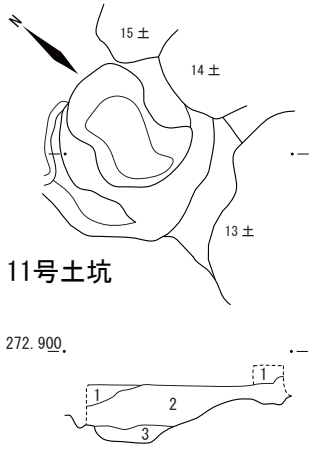
3 号竪穴状遺構

0　3m
S=1/60

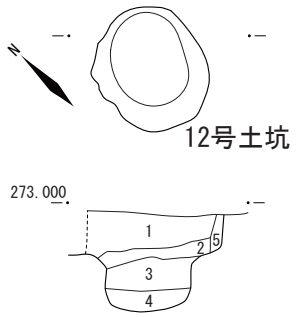
第 47 図　C 区遺構図 (21)



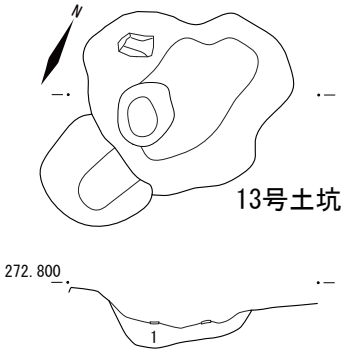
10号土坑
1　黒色(10YR2/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　φ1mmの礫を少量含む
　黄褐色シルト塊を少量含む



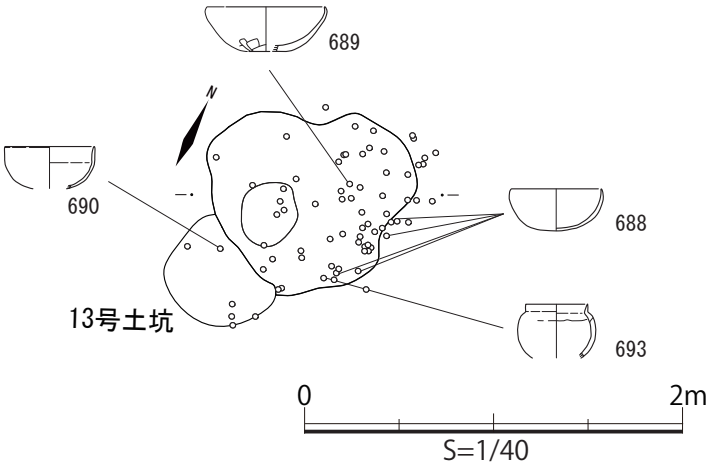
11号土坑
1　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ5～10mmの礫を多く含む
　φ5mmの鉄分粒子を多く含む
2　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ5mmの礫を多く含む
　φ5～10mmの鉄分粒子を多く含む
3　黒色(7.5Y2/1)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ2mmの焼土粒・炭化物・鉄分粒子を少量含む



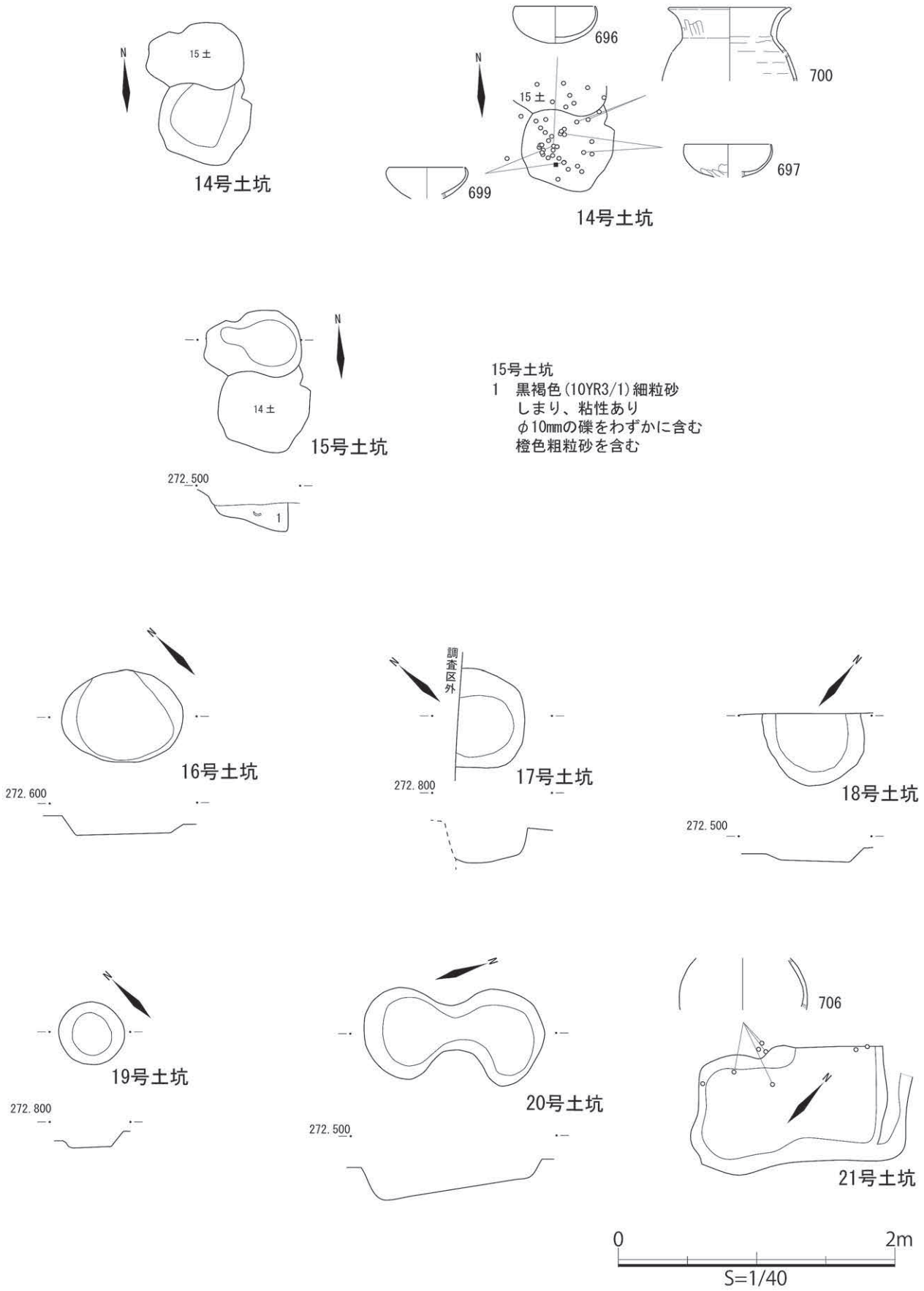
12号土坑
1　黒褐色(7.5YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ2～5mmの炭化物・焼土・礫を少量含む
　φ5mmの鉄分粒子を含む
2　黒褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ2～3mmの焼土を少量含む
　φ2～3mmの鉄分粒子を少量含む
3　黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ2～5mmの焼土を含む
　φ5mmの炭化物を少量含む
4　黒褐色(10YR2/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　φ3～5mmの焼土粒子を少量含む
5　にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色粗粒砂を含む
　φ10～20mmの礫を少量含む



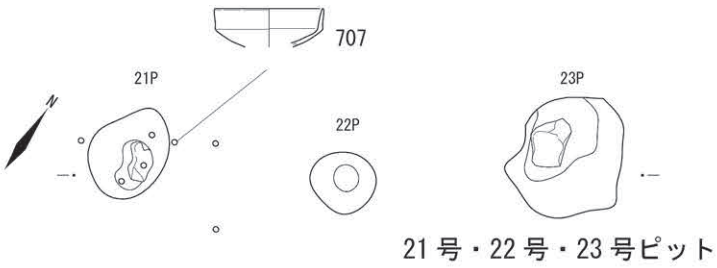
13号土坑
1　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり弱い、粘性あり
　φ10～20mmの礫を少量含む
　φ10mmの焼土粒を含む
　灰黄褐色細粒砂を含む

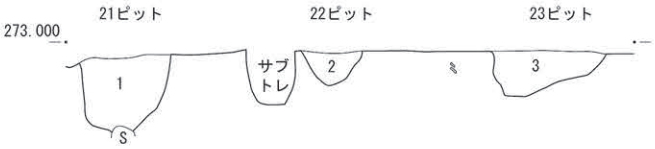


第48図　C区遺構図(22)

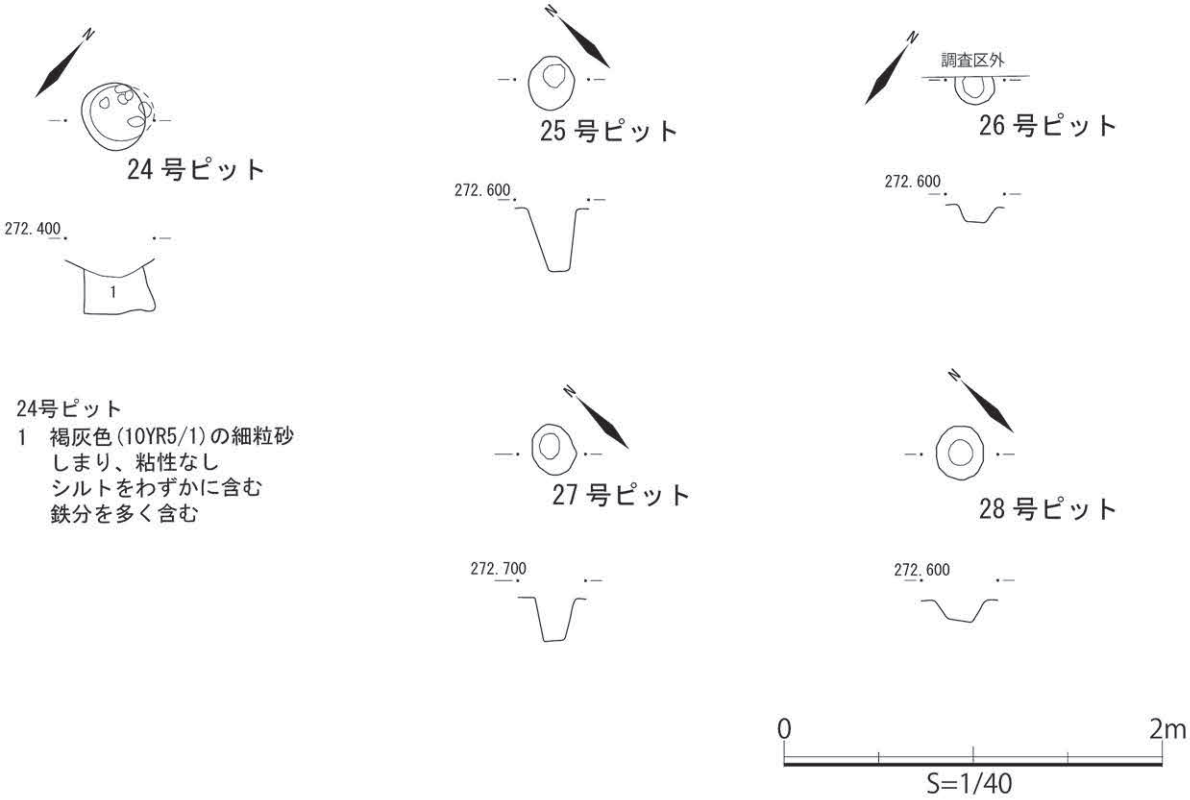


第 49 図　C区遺構図 (23)



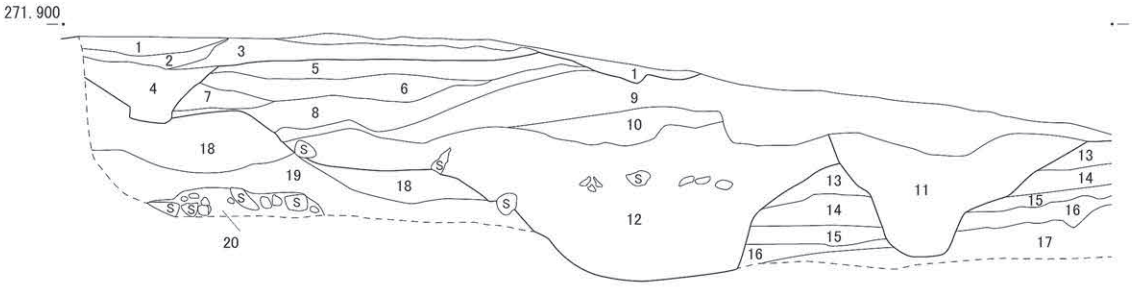


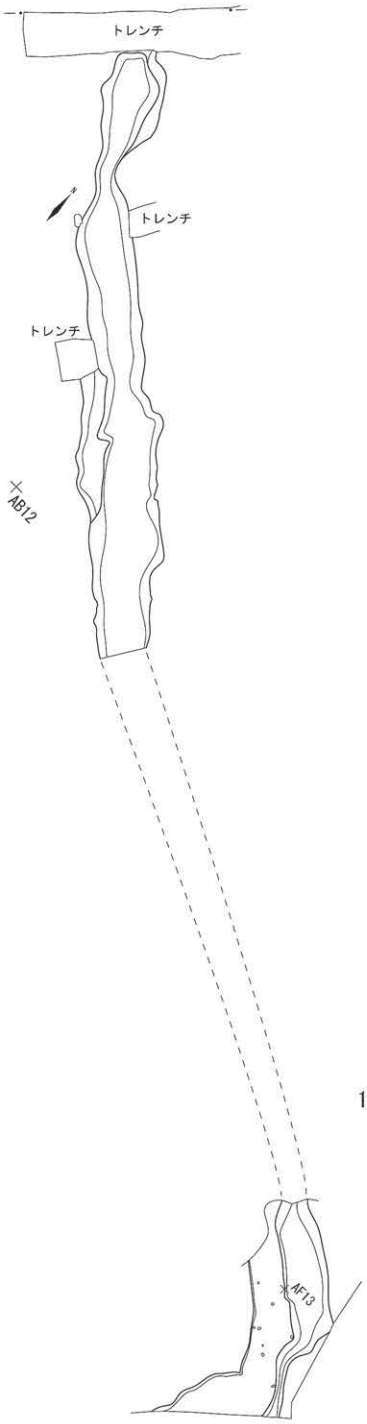
21号・22号・23号ピット
1　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　白色粗粒砂を含む
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　白色粗粒砂を含む
　下層に行くほど漸移的に色調が淡くなる
3　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまりあり、粘性弱い
　白色粗粒砂を少量含む
　φ1～3mmの礫を少量含む



24号ピット
1　褐灰色(10YR5/1)の細粒砂
　しまり、粘性なし
　シルトをわずかに含む
　鉄分を多く含む

第50図　C区遺構図(24)





1号溝状遺構(1/200)

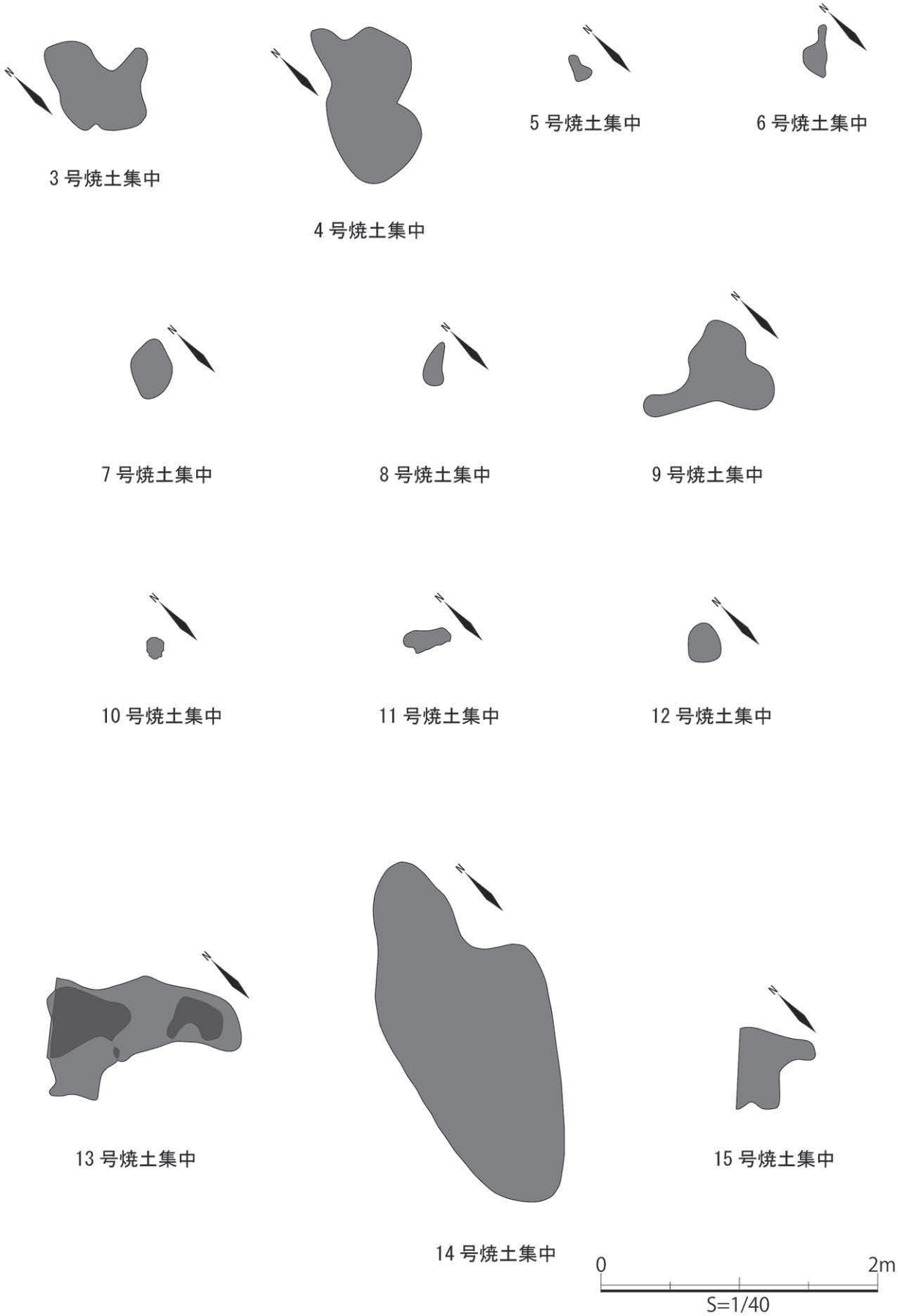
1号溝状遺構(1/40)

1　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり、粘性あり
　白色細粒砂を含む
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
2　黒褐色(10YR2/2)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　灰色細粒砂をラミナ状に複数含む
3　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　うん管を含
4　褐色(10YR4/4)粗粒砂
　しまり、粘性なし
　φ3～150mmの礫を多く含む
　溝の覆土
　遺物包含層（流れ込み）
5　黒褐色(10YR3/2)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　黒褐色シルトブロックを含む
　うん管を含む
6　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性強い
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　灰色中粒砂をブロック状に含む
　5層と似ているが、うん管がない
7　黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂
　しまりあり、粘性強い
　植物遺体を含む
8　黒褐色(10YR2/2)中粒砂と細粒砂が
　ラミナ状に堆積
　しまり、粘性弱い
　黒褐色シルトブロックを含む
　下端に礫が堆積
9　黒褐色(10YR3/1)細粒砂
　しまり弱く、粘性あり
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　下端に灰色中粒砂をラミナ状に含む
10　黒色(10YR2/1)シルト
　しまり、粘性あり
　下端にφ1～5mmの礫をラミナ状に含む
11　黒褐色(10YR2/2)シルトとφ1～200mmの礫
　両者はラミナ状に堆積
　しまり、粘性あり
　灰色中粒砂を含む
　溝の覆土
　遺物包含層（流れ込み）
12　黒褐色(2.5Y2/1)中粒砂
　しまり、粘性なし
　φ1～200mmの礫を多く含む
　礫は下層へ行くほど大きくなる
　溝の覆土（1溝）
　遺物包含層（流れ込み）
13　黒色(10YR2/1)シルトと細粒砂の混土
　しまり強い、粘性あり
14　黒色(10YR2/1)シルトと細粒砂が
　ラミナ状に堆積
　しまり、粘性あり
　13層と似ているが、細粒砂の割合が
　とても大きい
15　暗褐色(10YR3/3)シルト
　しまり、粘性強い
　植物遺体を多く含む
16　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト
　しまり、粘性強い
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　地山
17　黒褐色(2.5Y3/1)シルト
　しまり、粘性強い
　地山
18　灰黄褐色(2.5Y4/1)シルト
　しまり、粘性強い
　地山
19　黒褐色(10YR2/2)シルト
　しまり粘性強い
　灰色細粒砂をラミナ状に含む
　地山
20　灰黄褐色(2.5Y4/1)粗粒砂
　しまりあり、粘性なし
　φ10～600mmの礫を多く含む
　地山

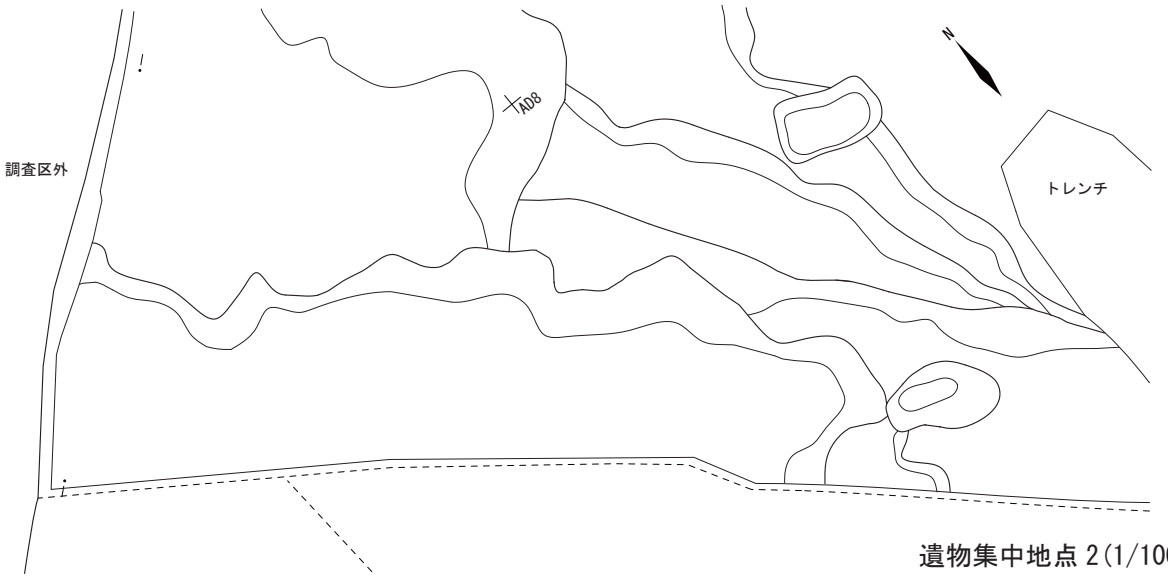
0　2m
S=1/40

0　10m
S=1/200

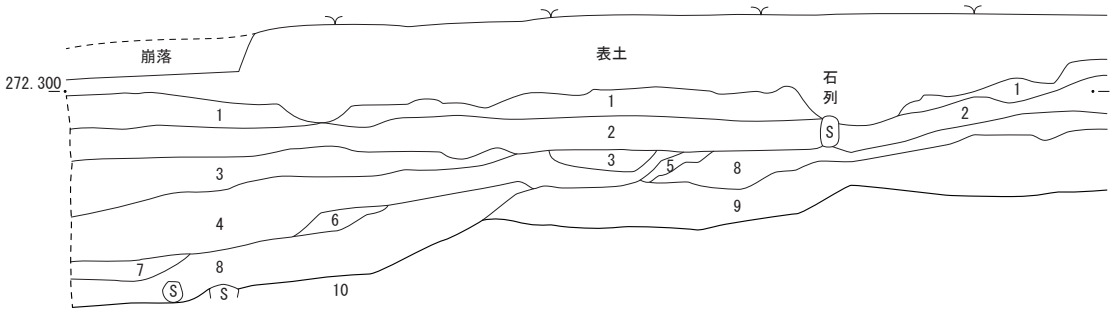
第51図　C区遺構図(25)



第 52 図　C 区遺構図 (26)



遺物集中地点 2(1/100)

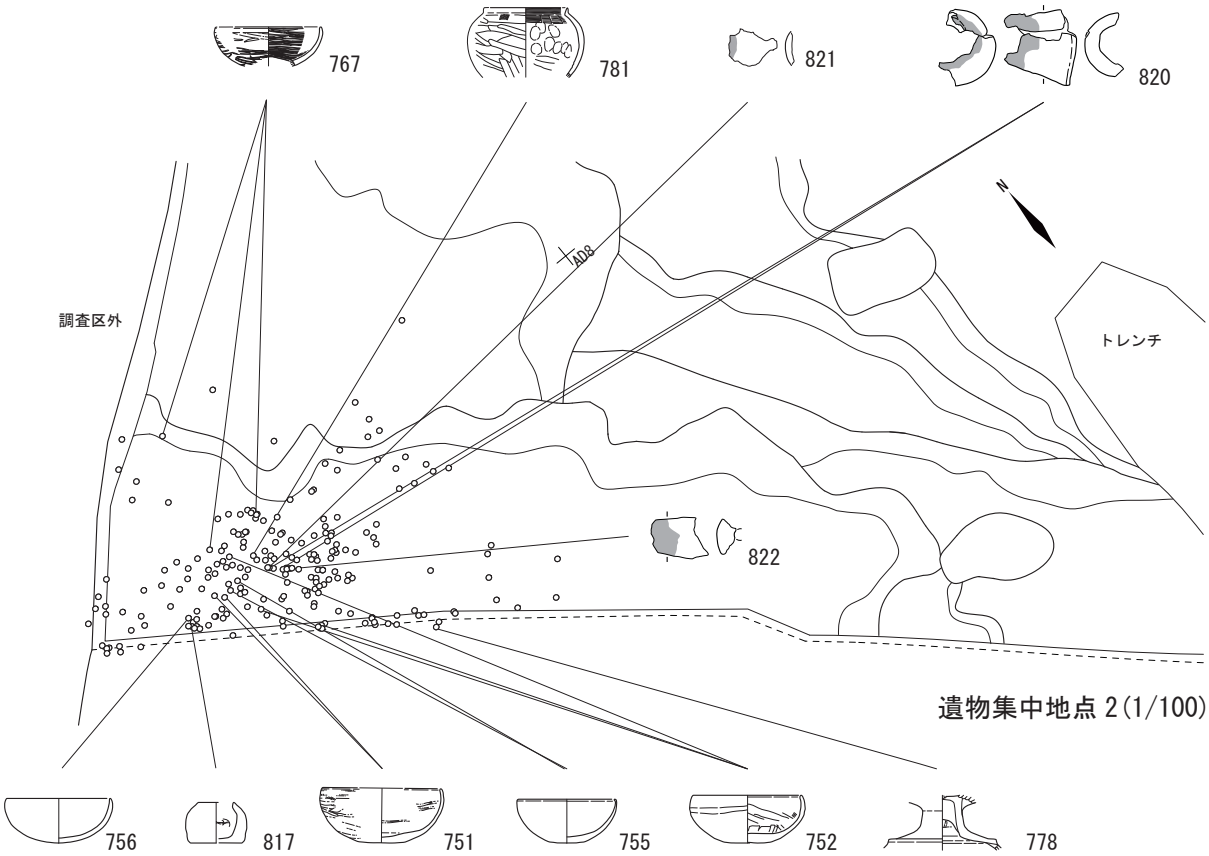


遺物集中地点 2(1/40)

1　褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂
　しまり、粘性あり
　鉄分をスポット的に含む
　水田の床土？
2　暗褐色(2.5Y3/4)細粒砂
　しまり、粘性弱い
　うん管を含む
3　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　うん管を多く含む
4　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　うん管を多く含む
5　暗褐色(10YR3/3)細粒砂
　しまり、粘性あり
　うん管を含む
　4層と8層の混土
　4層と似ているが色調濃い
6　黒褐色(10YR2/3)シルトと灰色の中粒砂の混土
　しまり、粘性弱い
　うん管を含む
　8層に砂混じり層
7　黒色(10YR2/1)シルト
　しまり、粘性弱い
　8層の中に4層をブロック状に含む
8　黒色(10YR1.7/1)シルト
　しまり、粘性強い
　うん管を含む
　遺物包含層（下層が主体）
9　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト
　しまり、粘性強い
　下層にφ3～5mmの角礫を含む
　うん管を多く含む
　地山
10　礫層
　φ200mm以上の礫を多量に含む

0　2m
S=1/40
0　5m
S=1/100

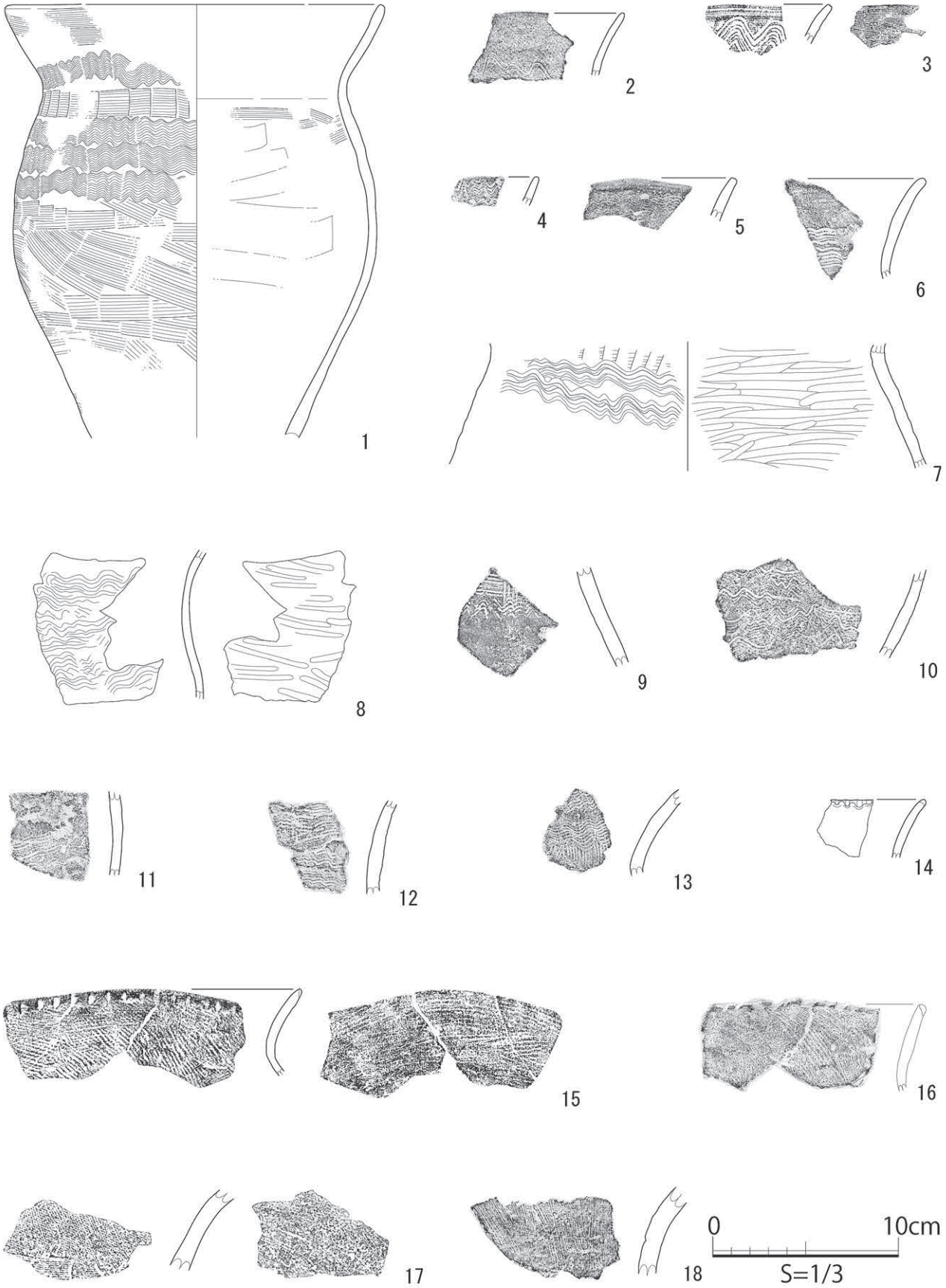
第 53 図　C 区遺構図 (27)



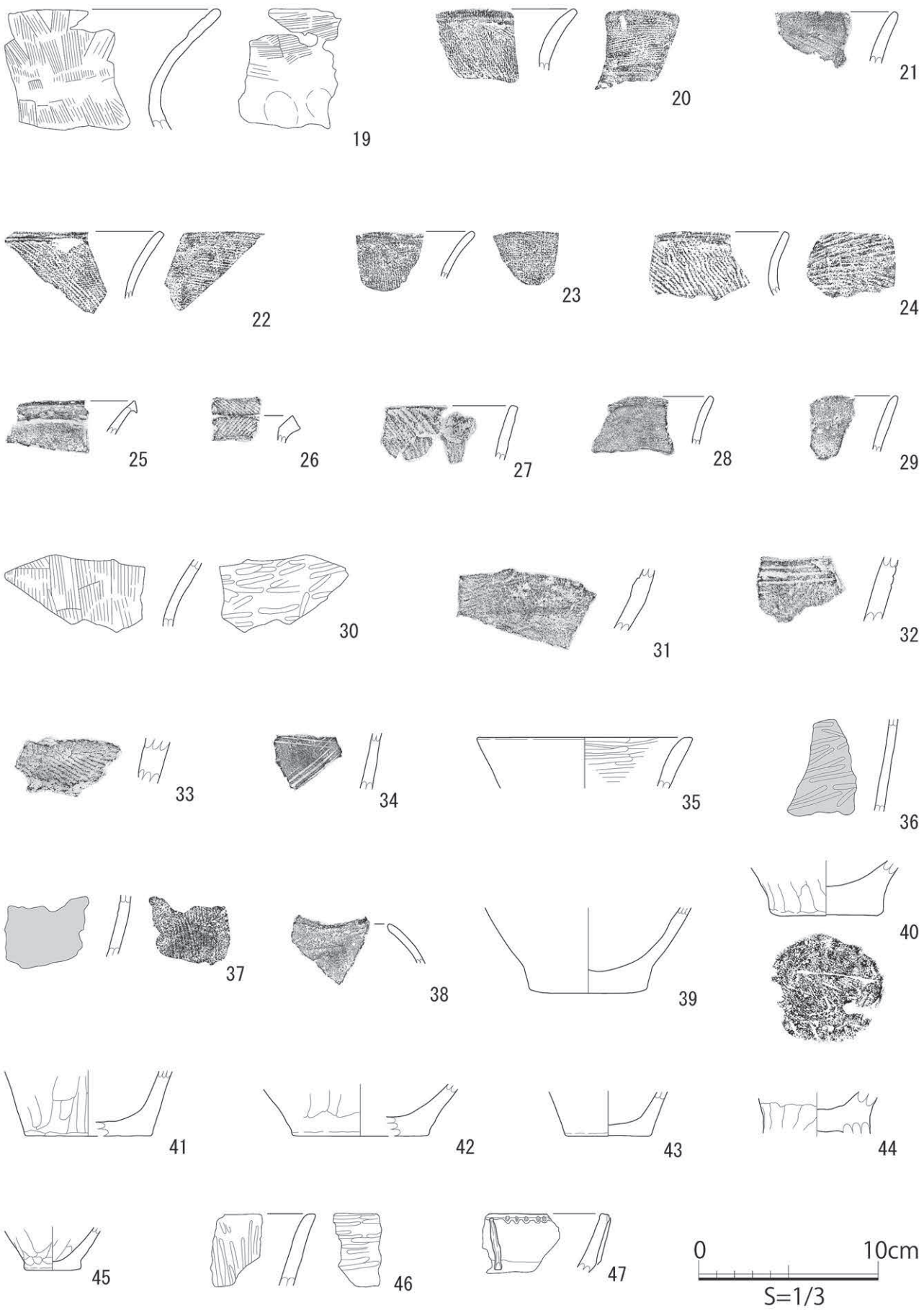
0 5m
S=1/100

第 54 図　C 区遺構図 (28)

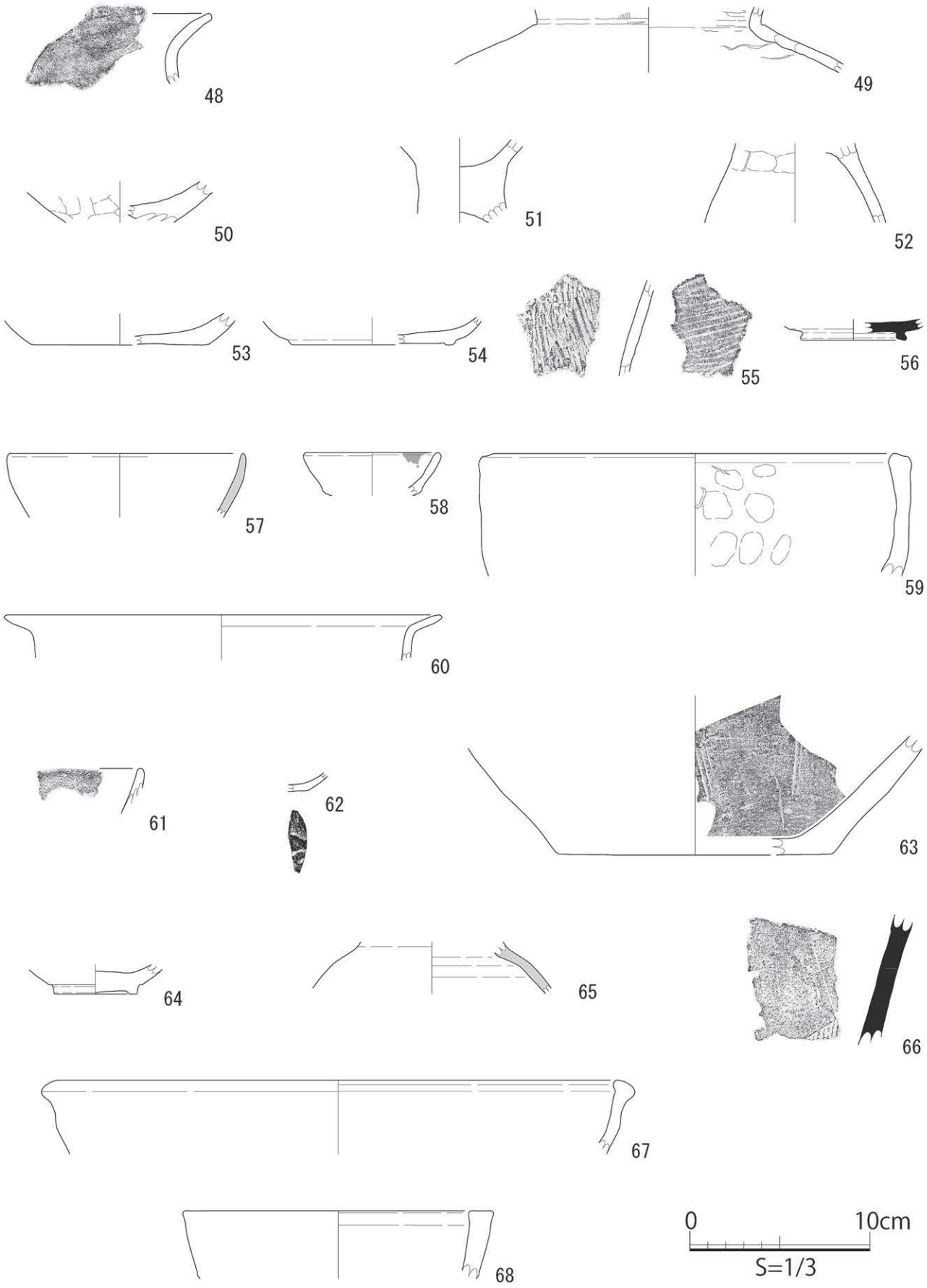
A 区遺構外



第 55 図　A 区出土遺物 (1)

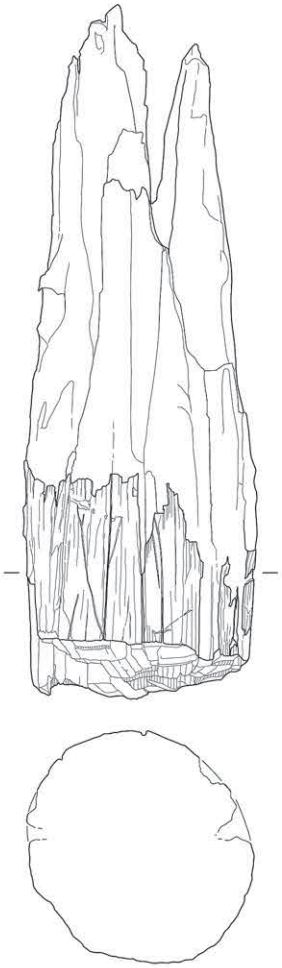


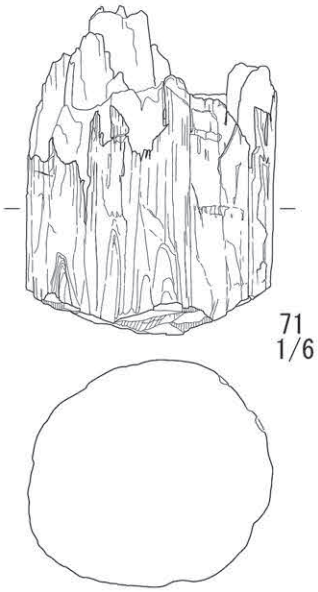
第 56 図　A 区出土遺物 (2)

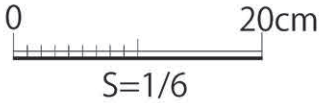


第 57 図　A 区出土遺物 (3)

3 号掘立柱建物跡



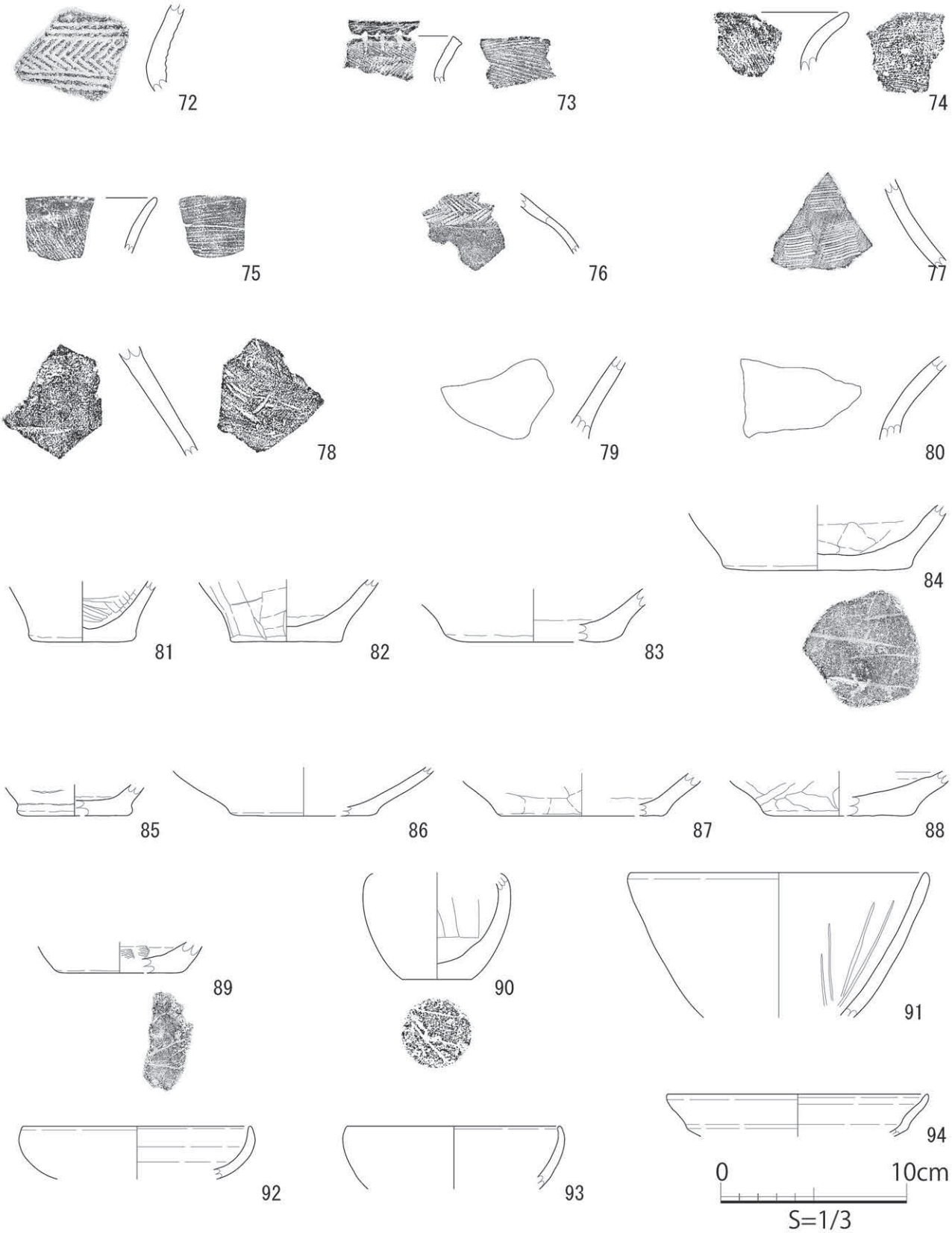




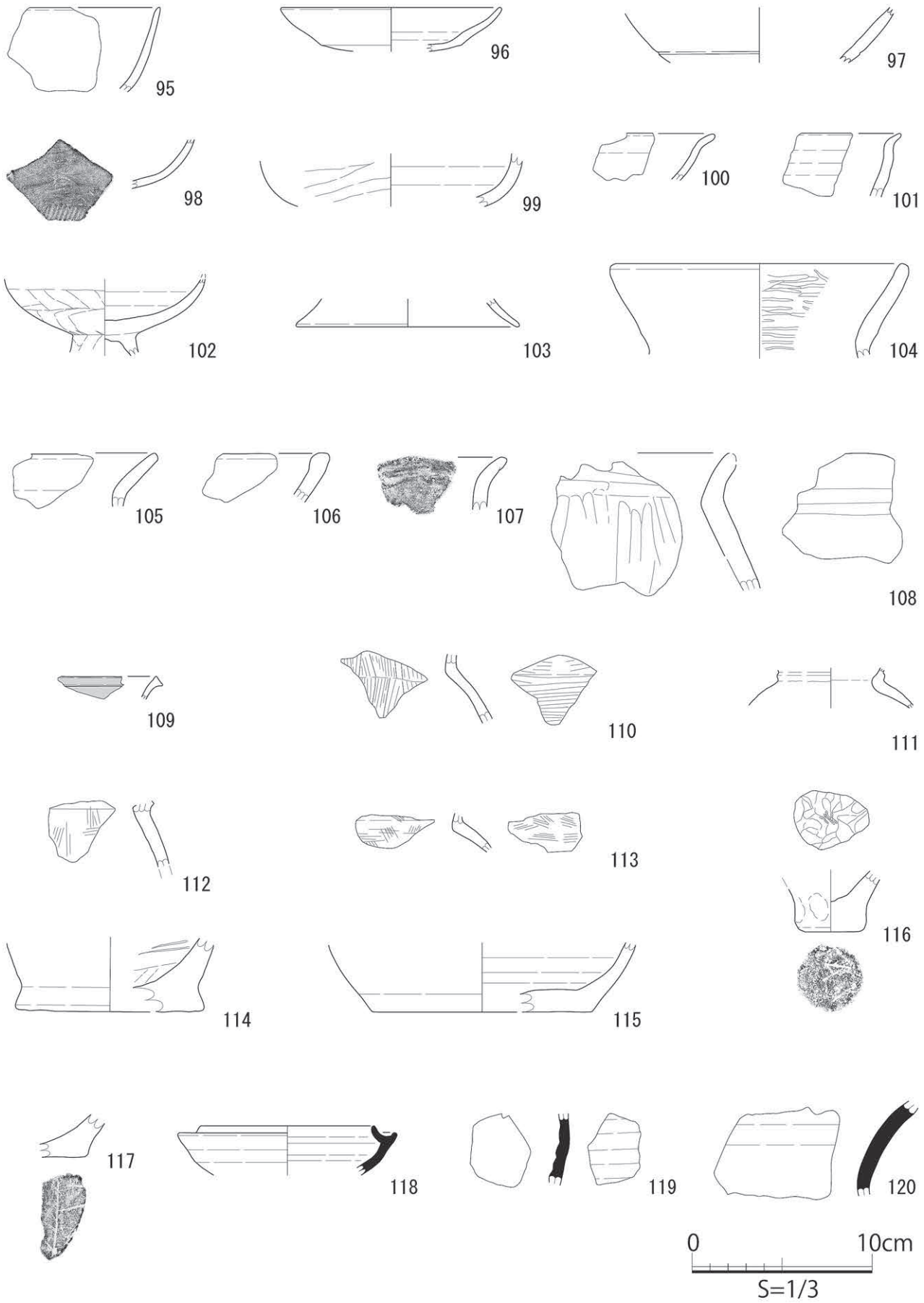
第 58 図　A 区出土遺物 (4)

B 区

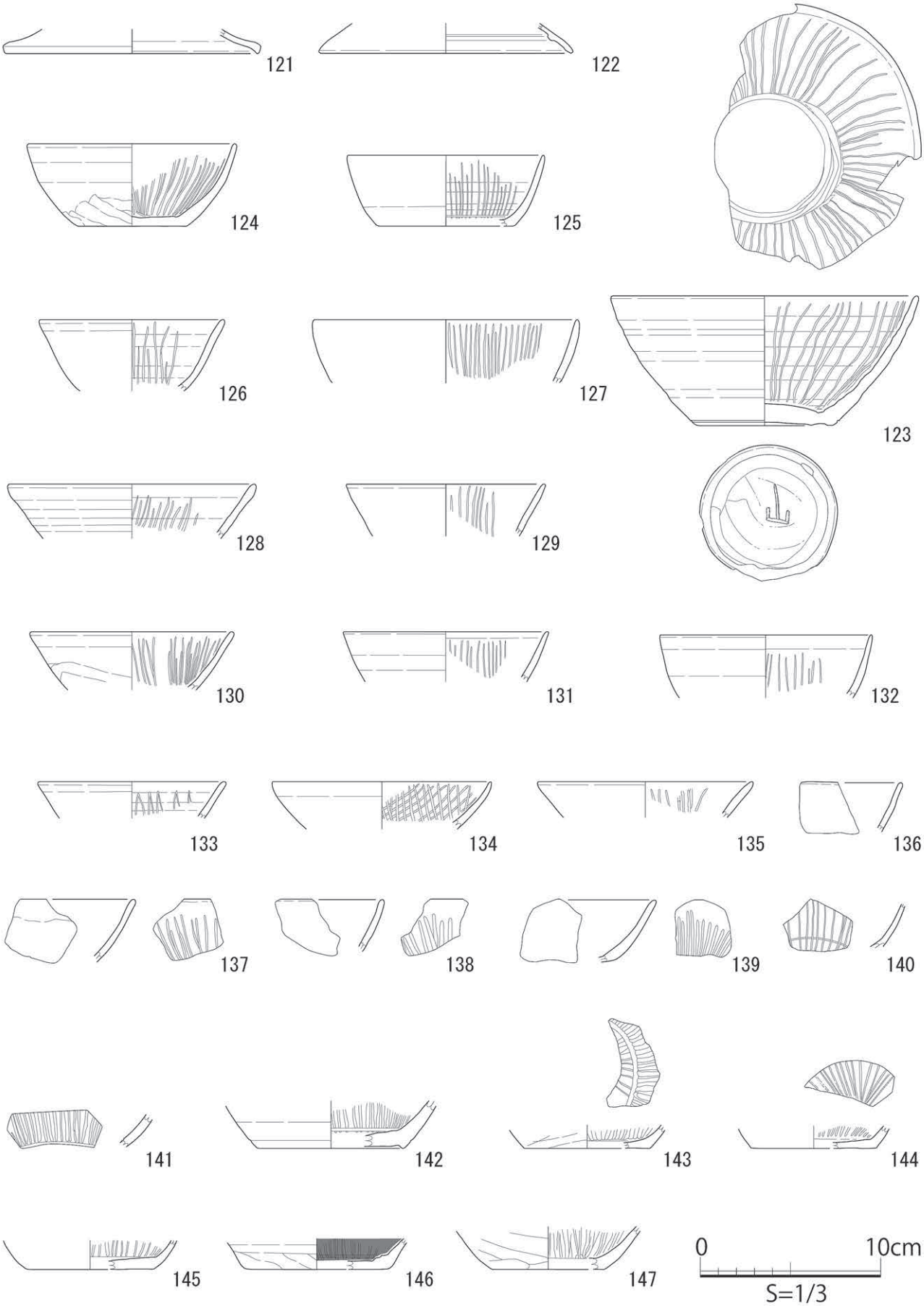
1 号溝状遺構



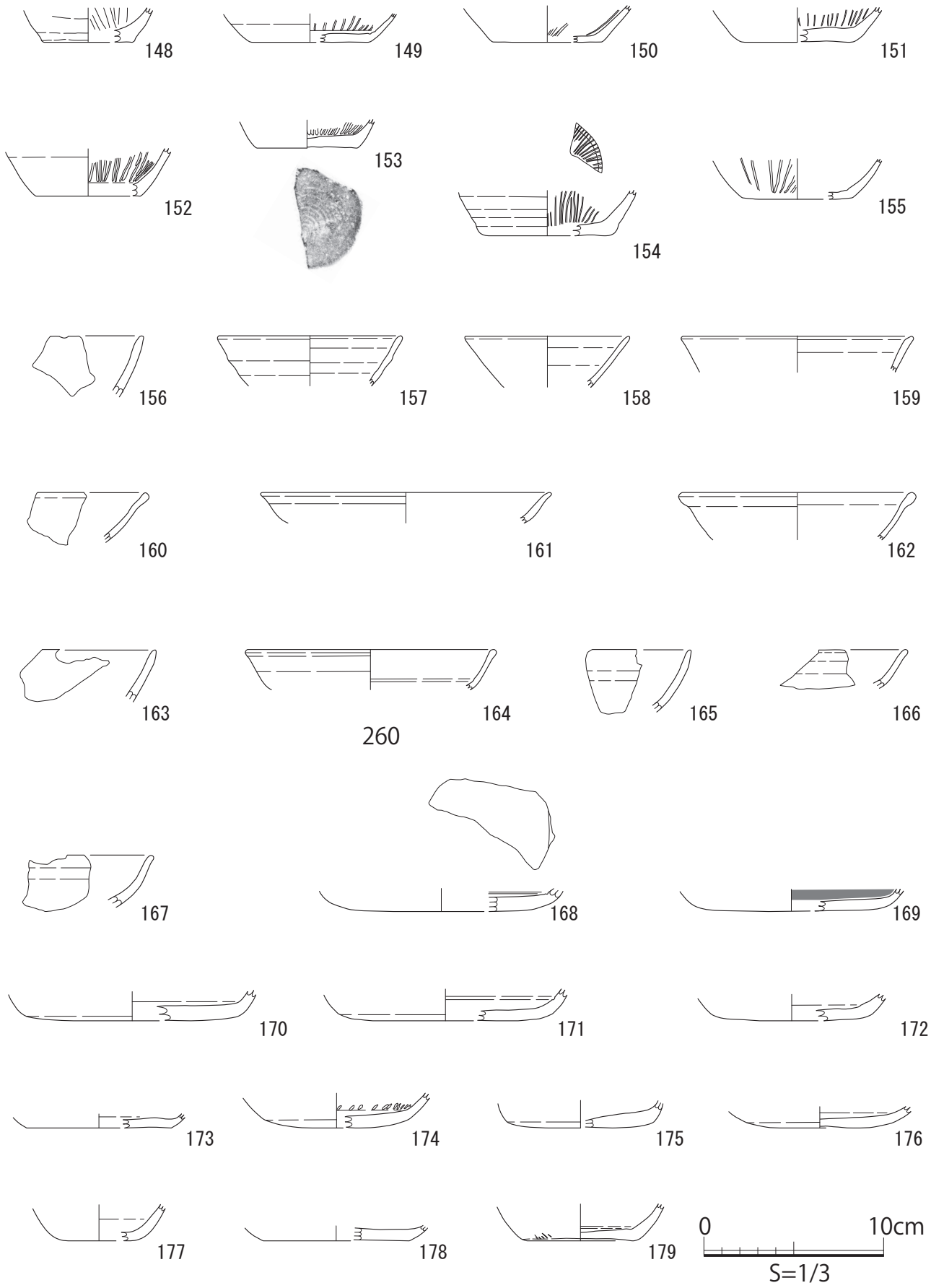
第 59 図　B 区出土遺物 (1)



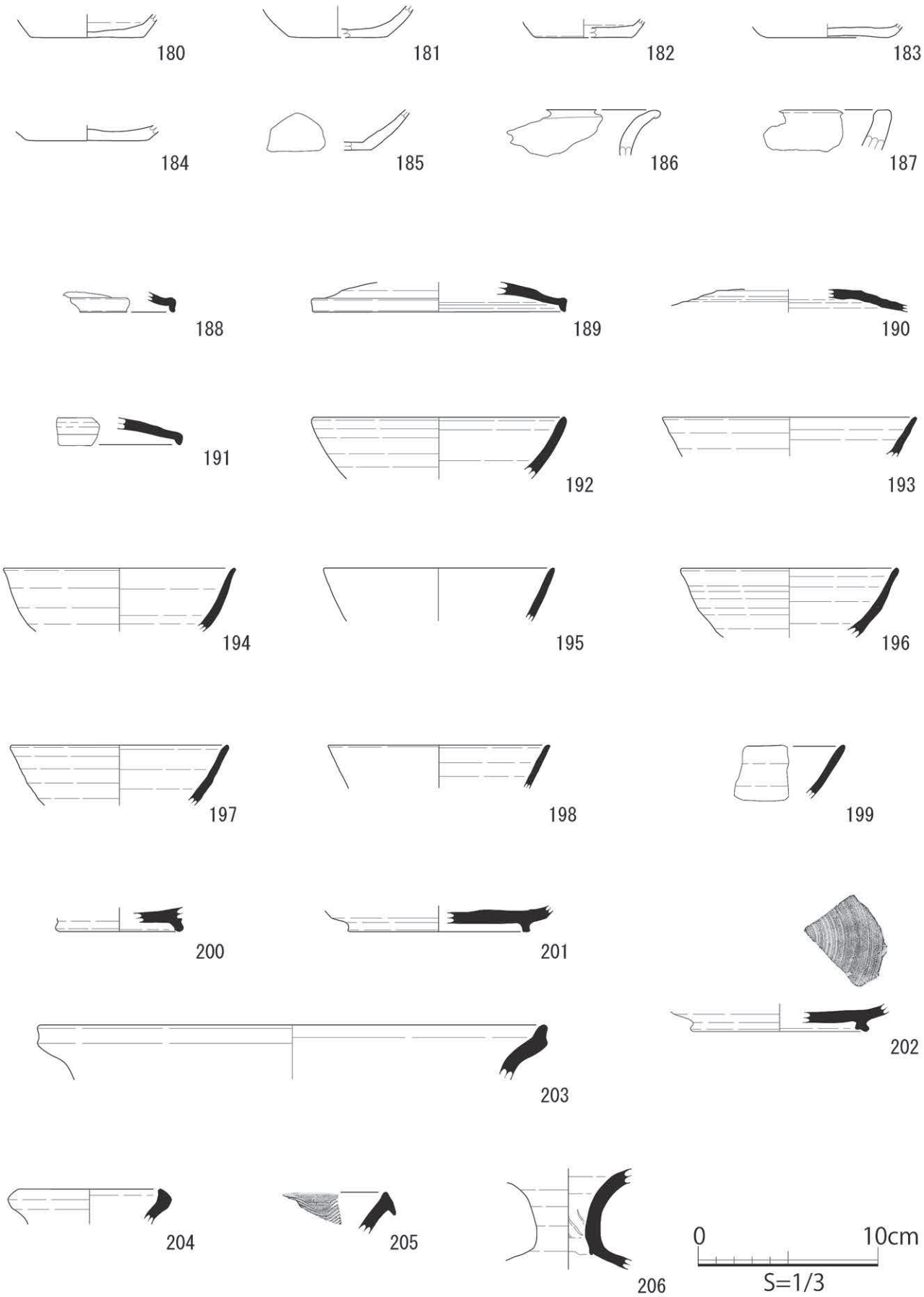
第 60 図　B 区出土遺物 (2)



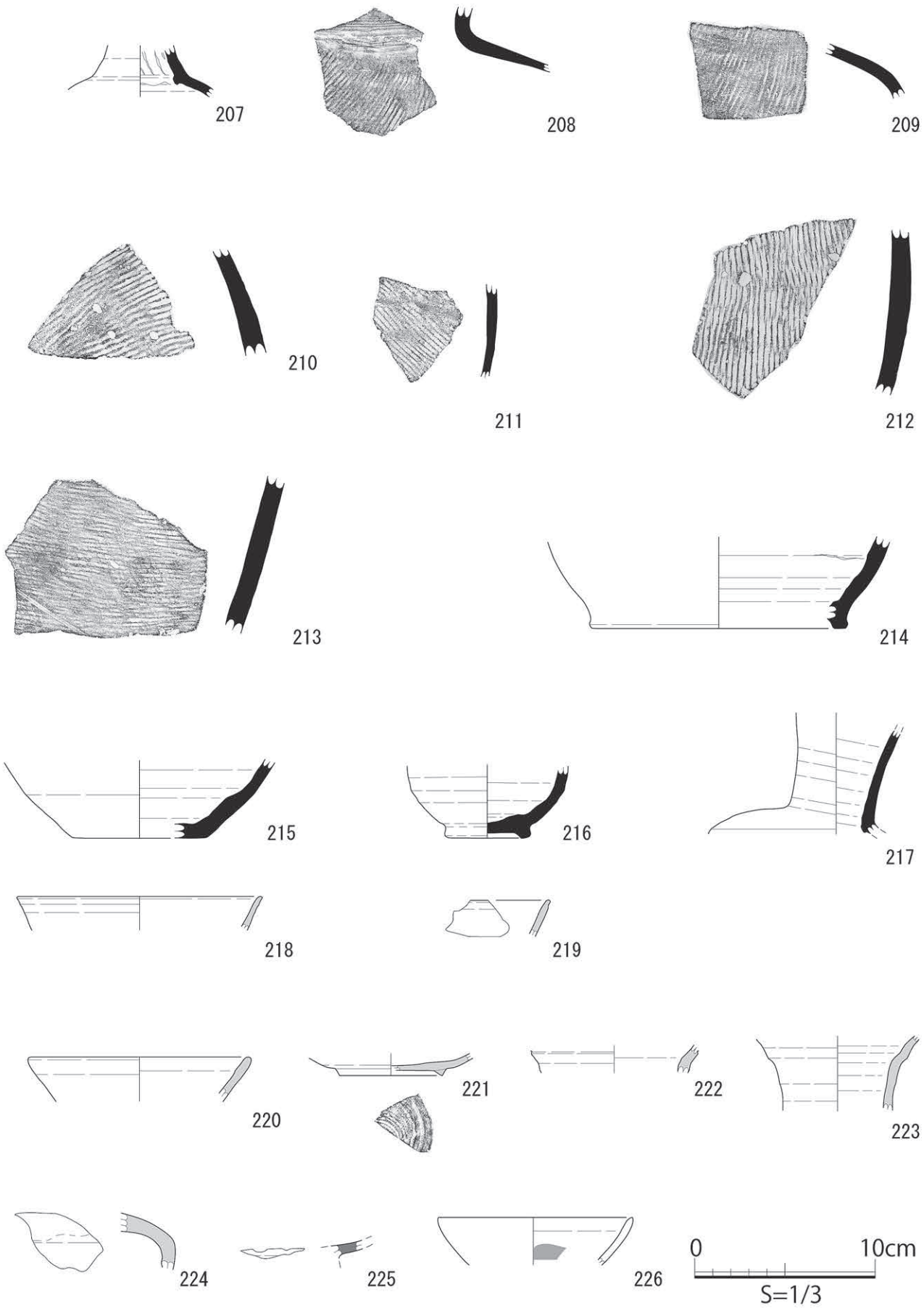
第 61 図　B 区出土遺物 (3)



第 62 図　B 区出土遺物 (4)

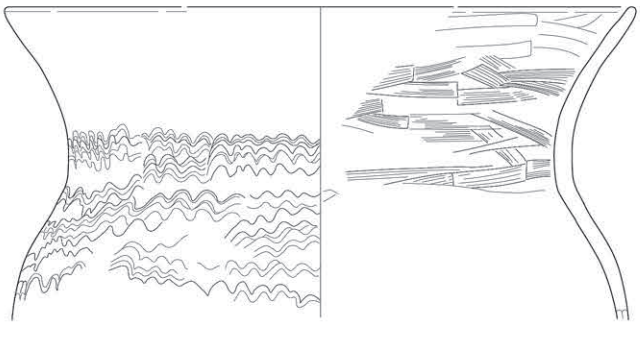


第 63 図　B 区出土遺物 (5)

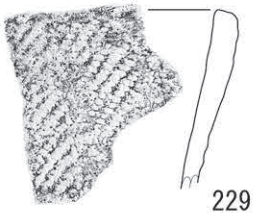


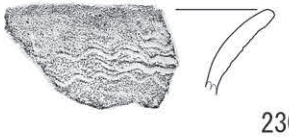
第 64 図　B 区出土遺物 (6)

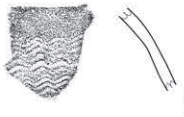
5 号溝状遺構

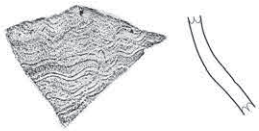


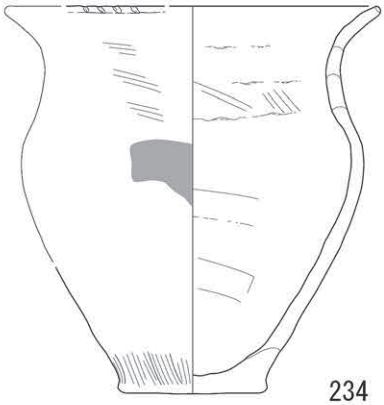
遺構外

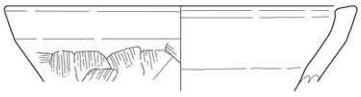


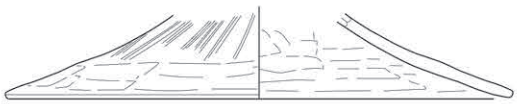


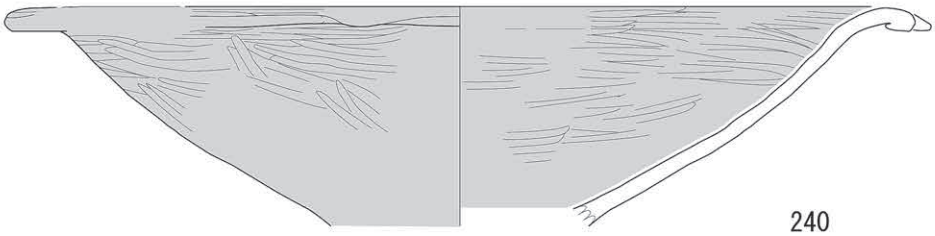


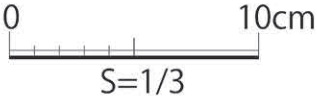




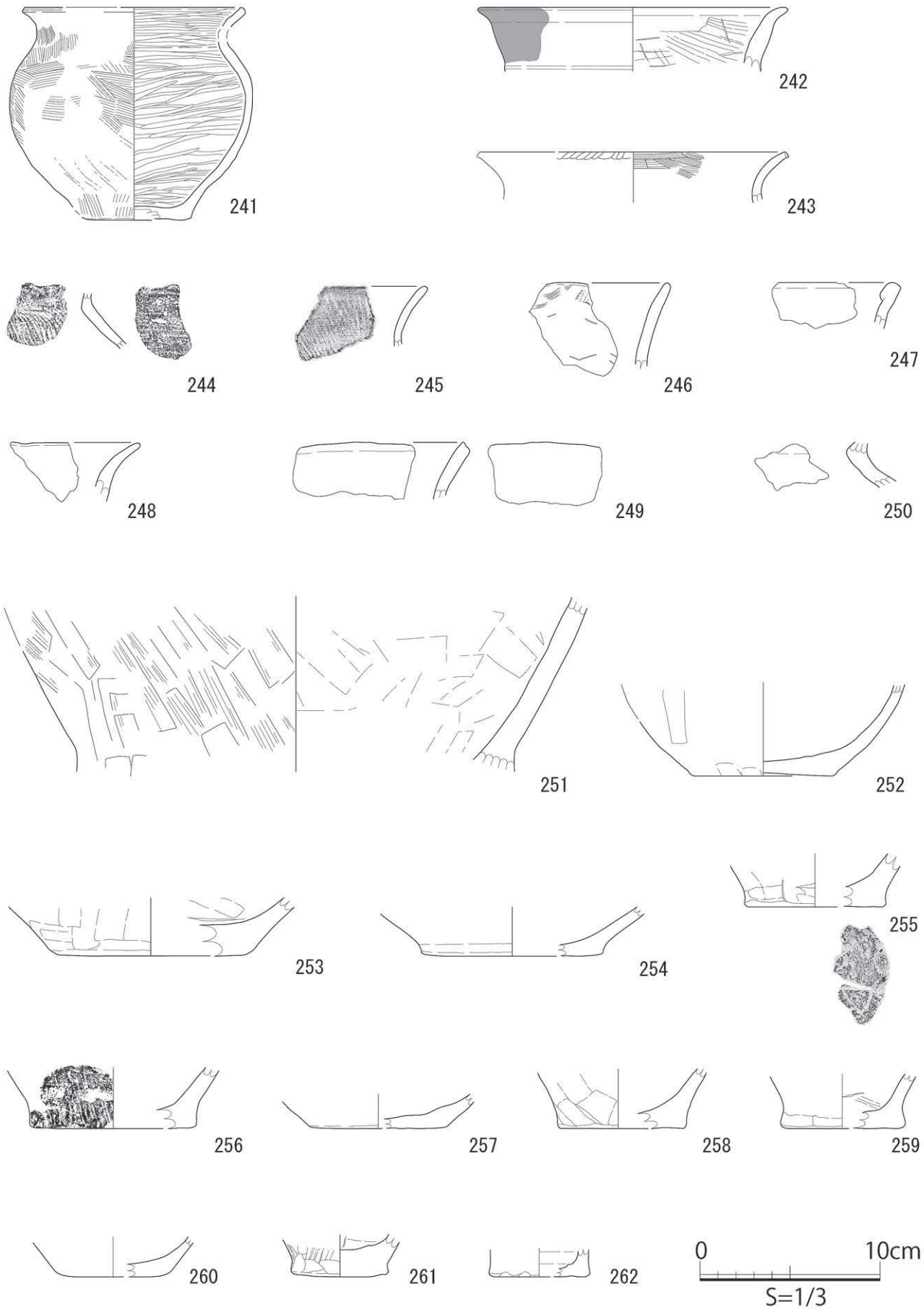




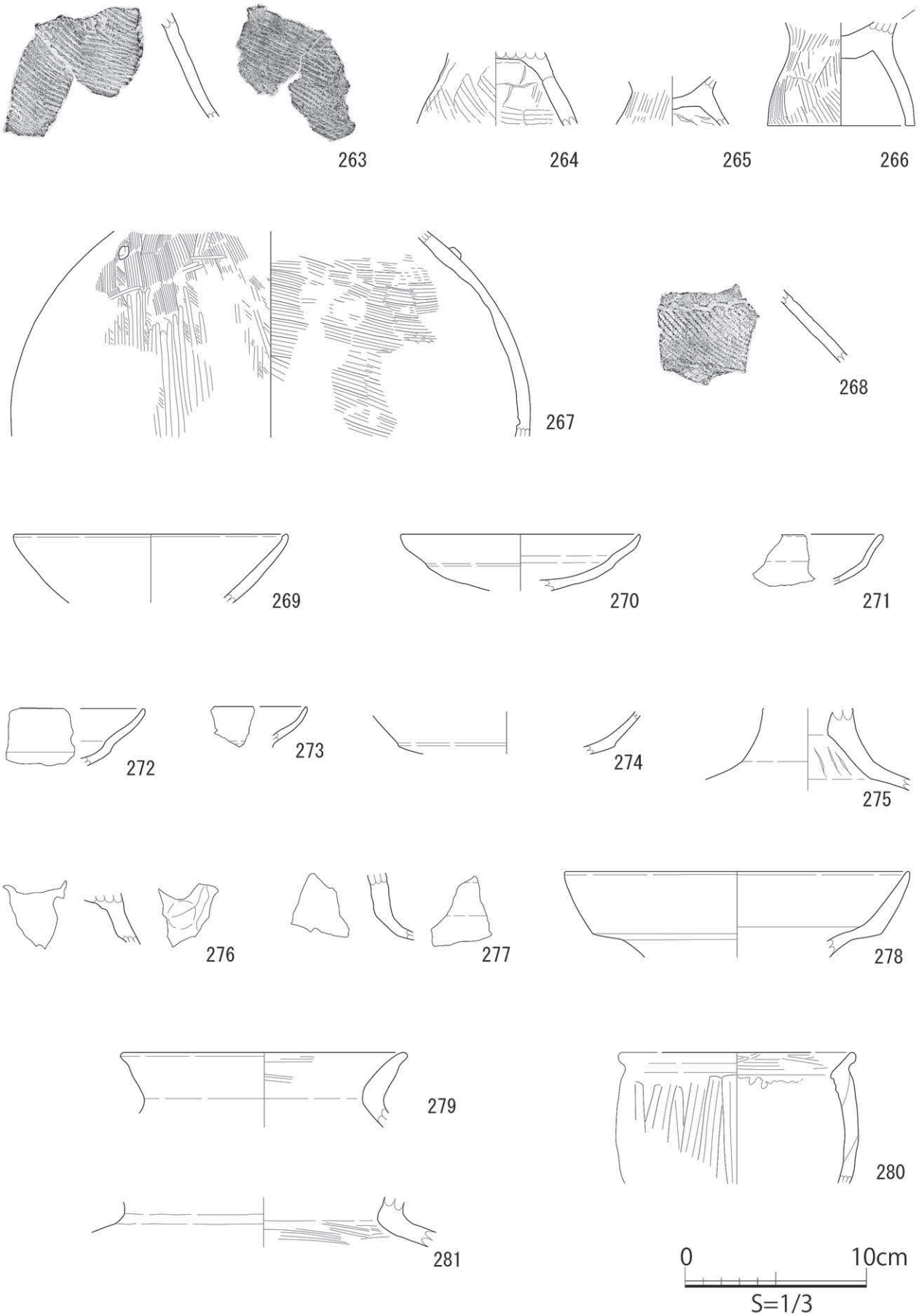




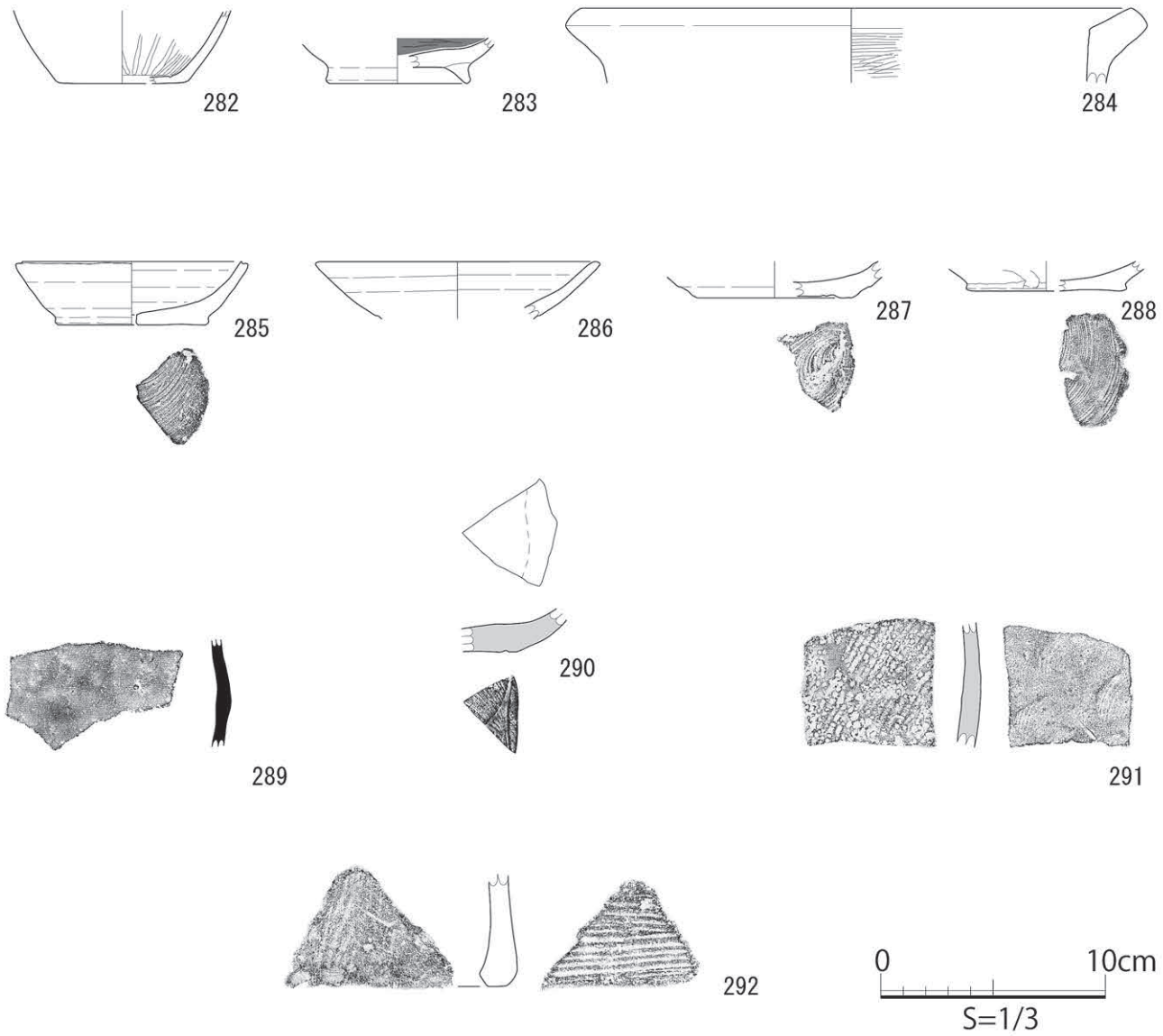
第 65 図　B 区出土遺物 (7)



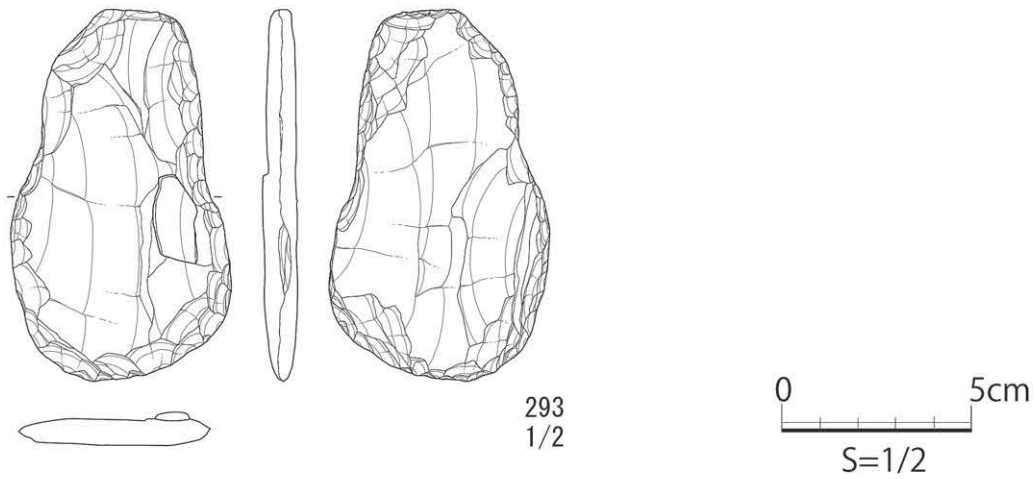
第 66 図　B 区出土遺物 (8)



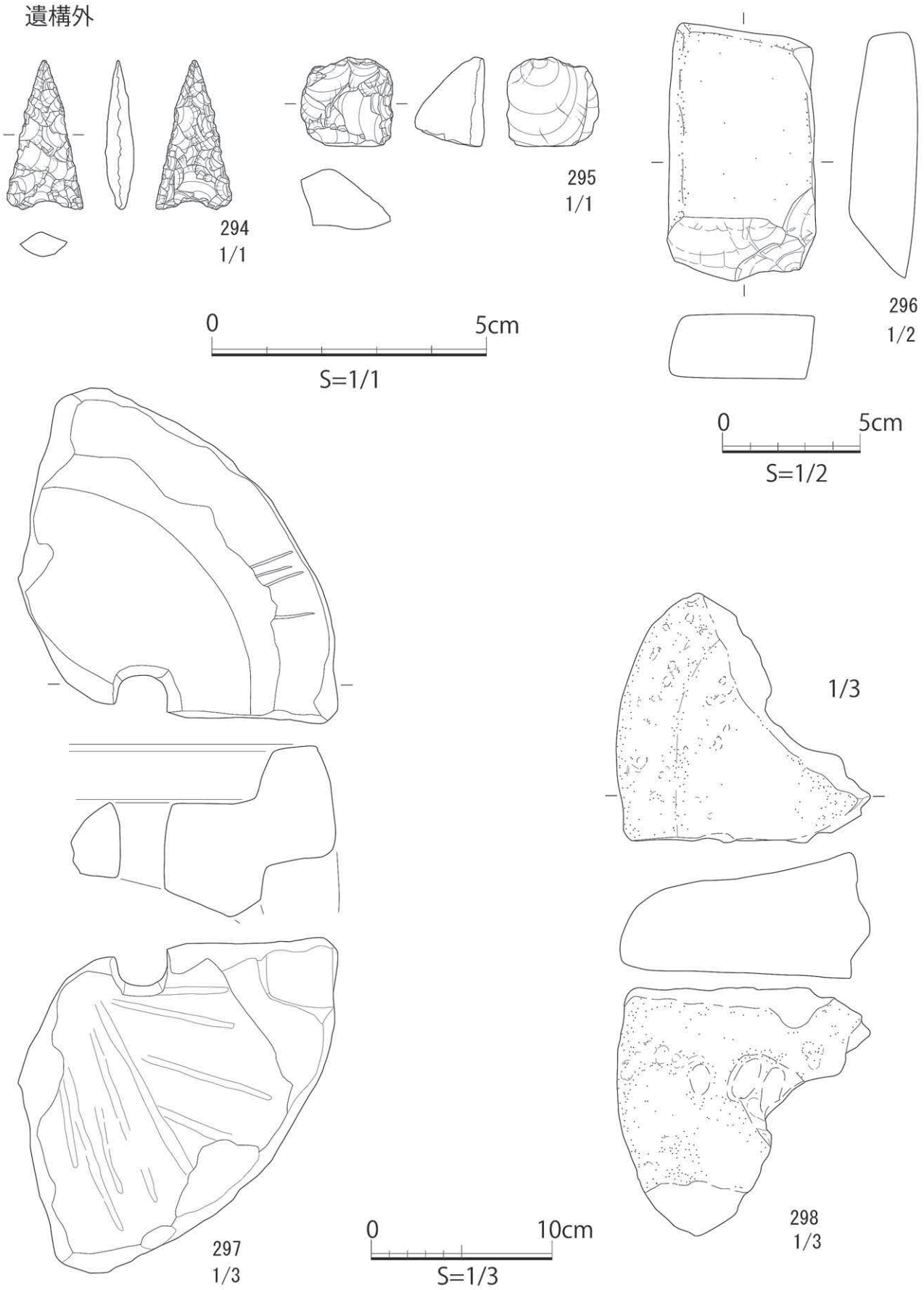
第 67 図　B 区出土遺物 (9)



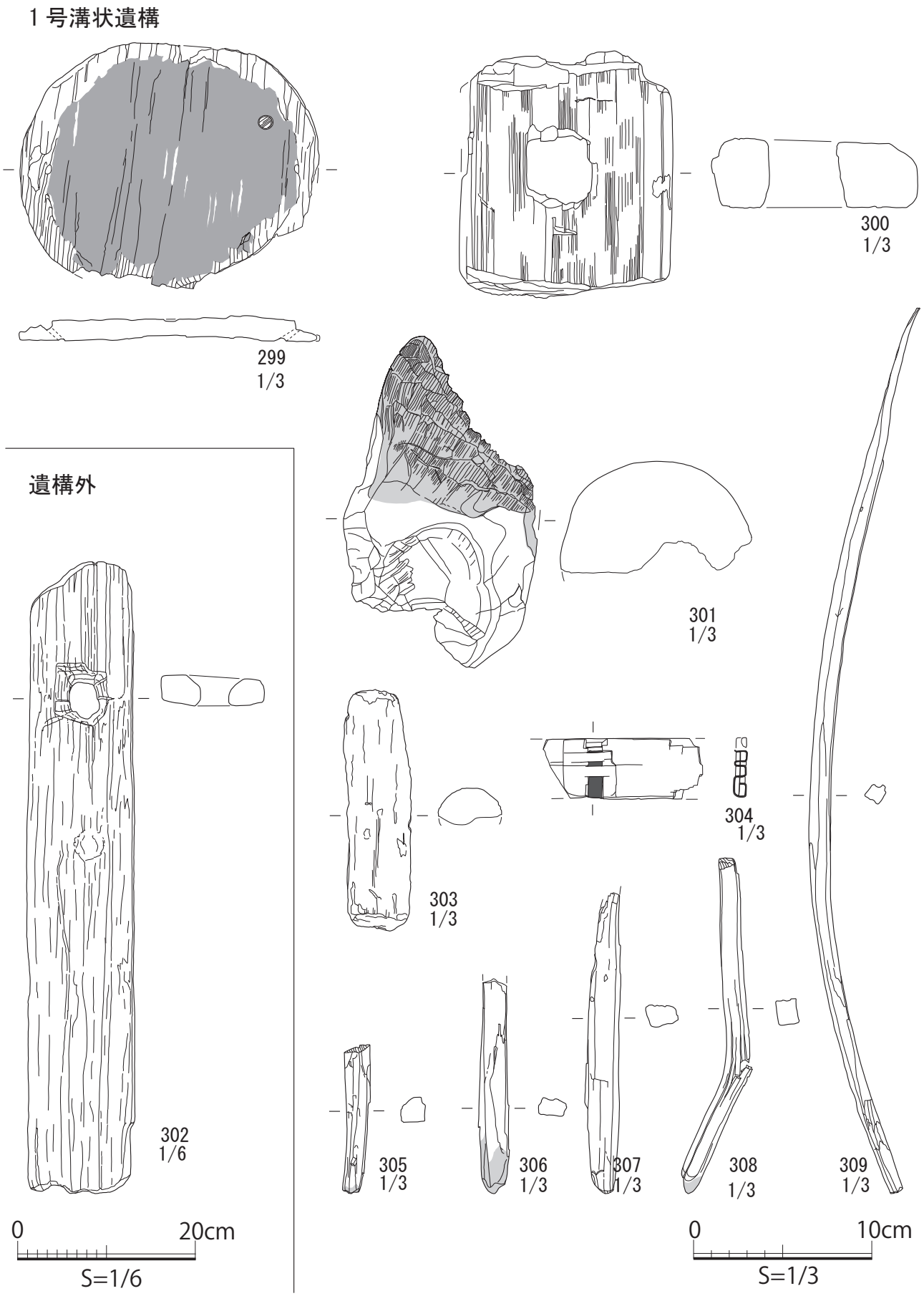
1 号溝状遺構



第 68 図　B 区出土遺物 ⑽

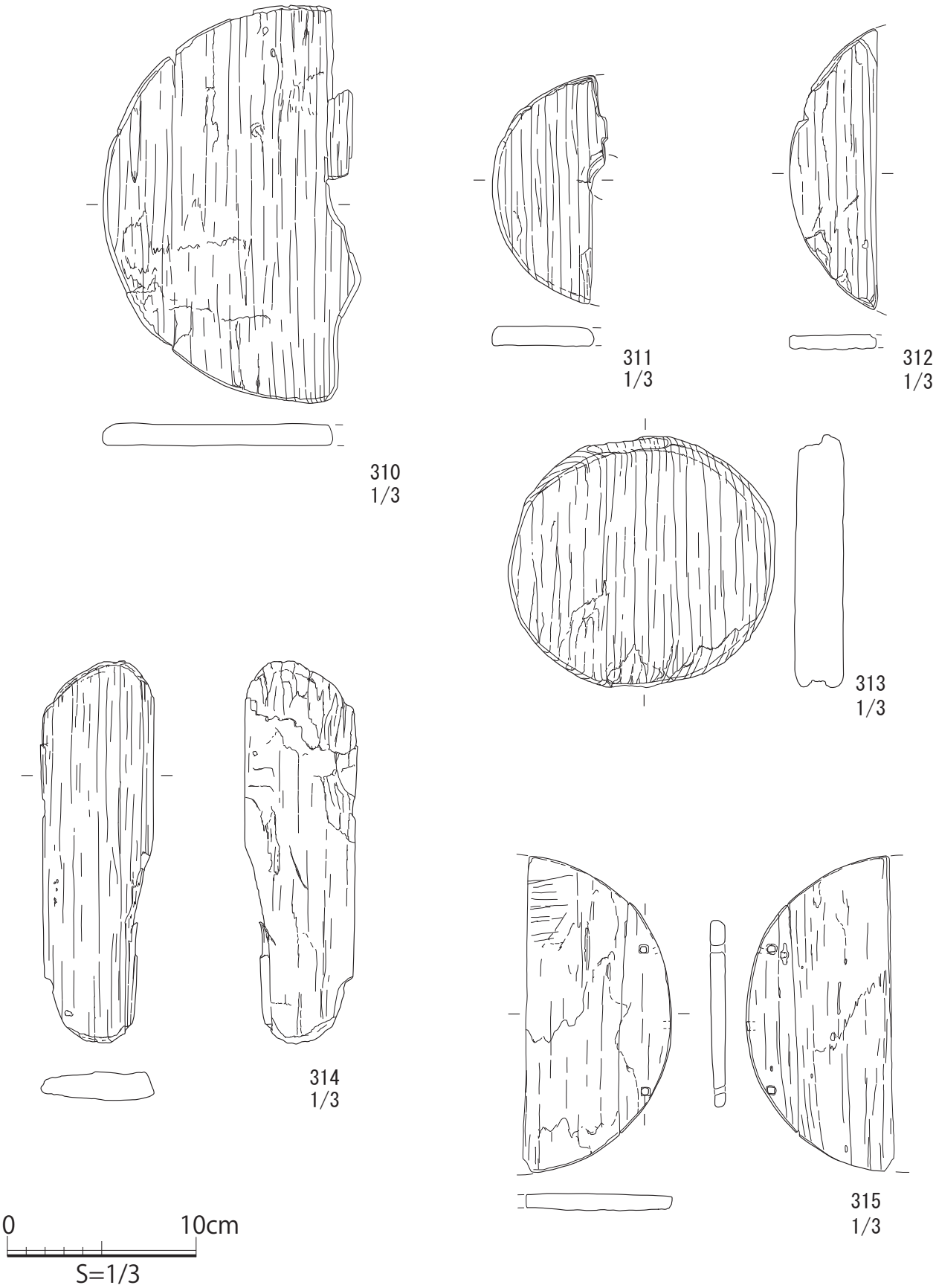


第 69 図　B 区出土遺物 (11)

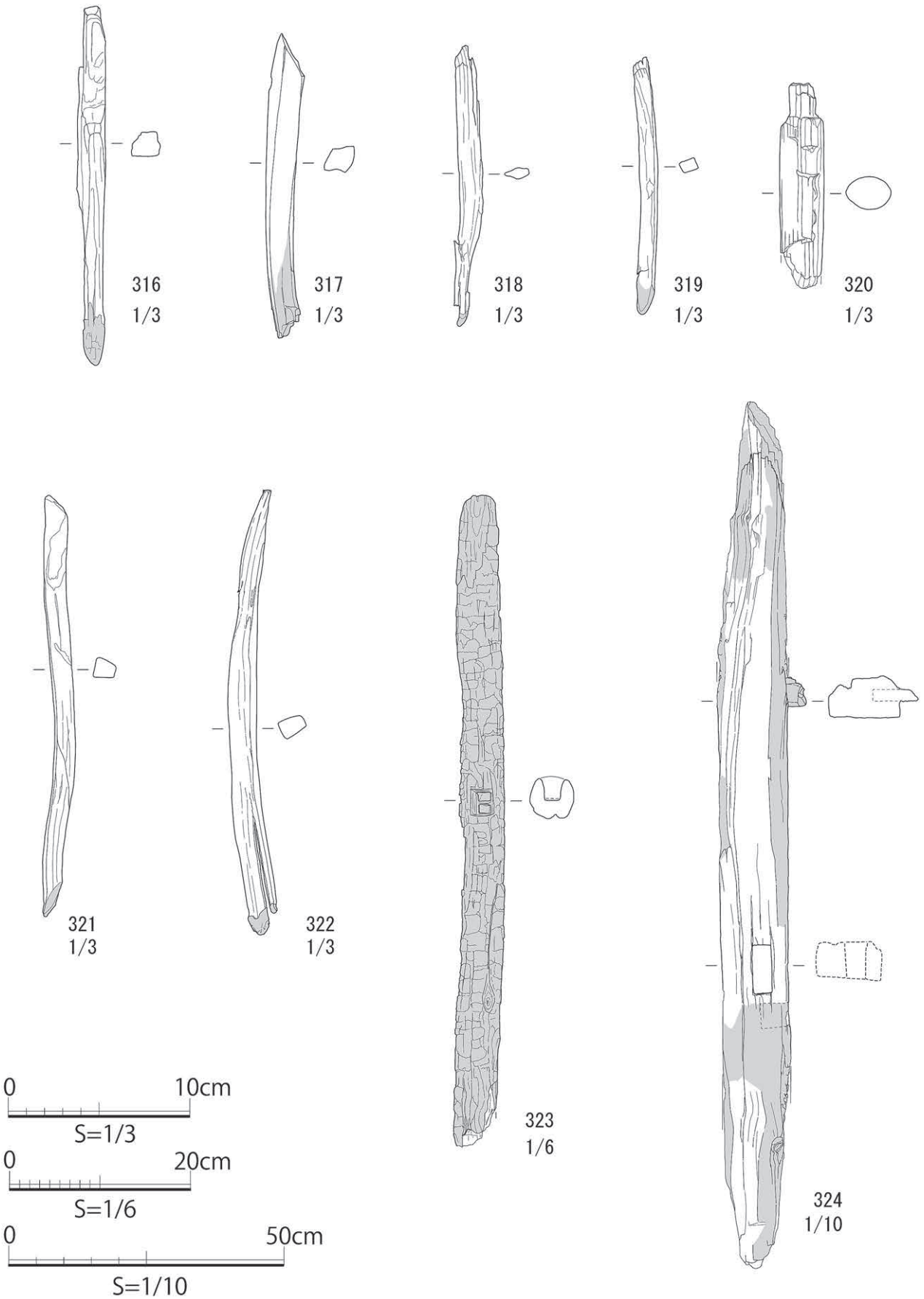


第 70 図　B 区出土遺物 ⑫

遺構外



第 71 図　B 区出土遺物 ⑬



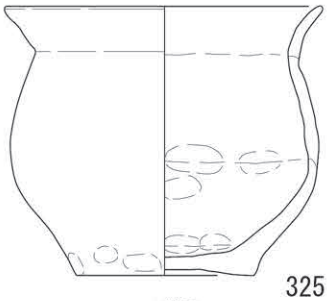
第 72 図　B 区出土遺物 ⑭

C 区

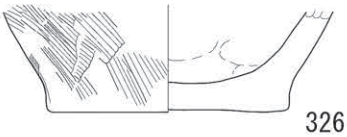
2 掘立柱建物跡

4 号土抗

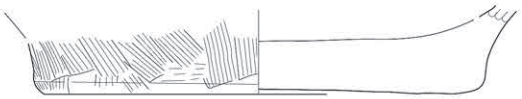
5 号土抗



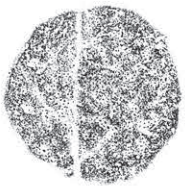
325



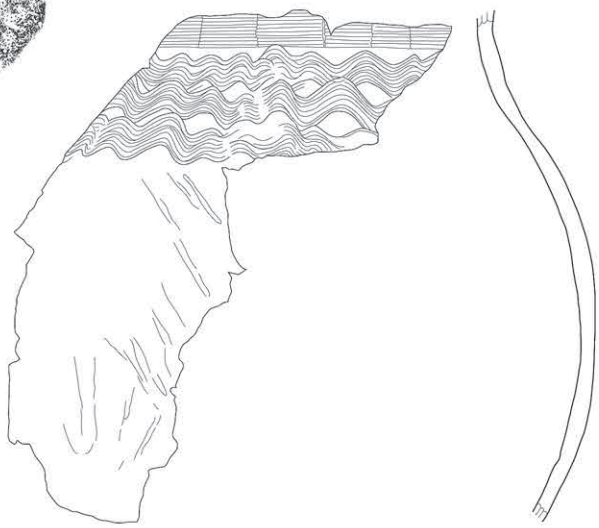
326



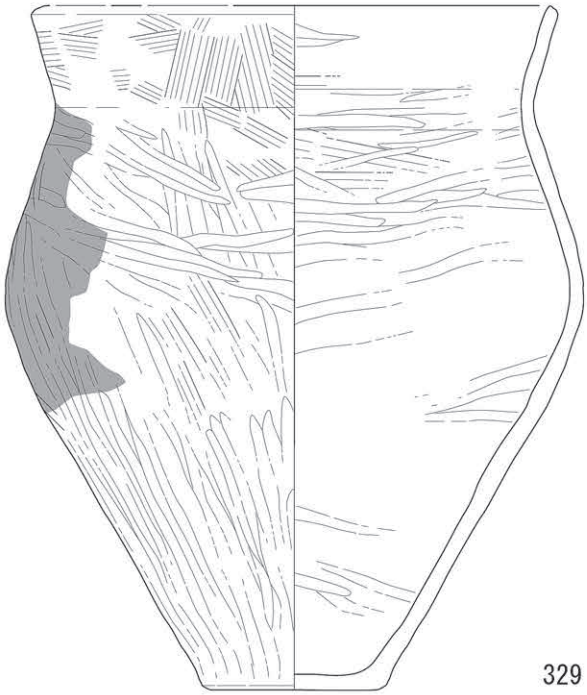
327



7 号土抗

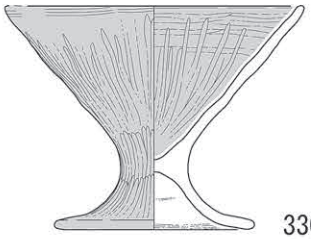


328



329

20 号ピット



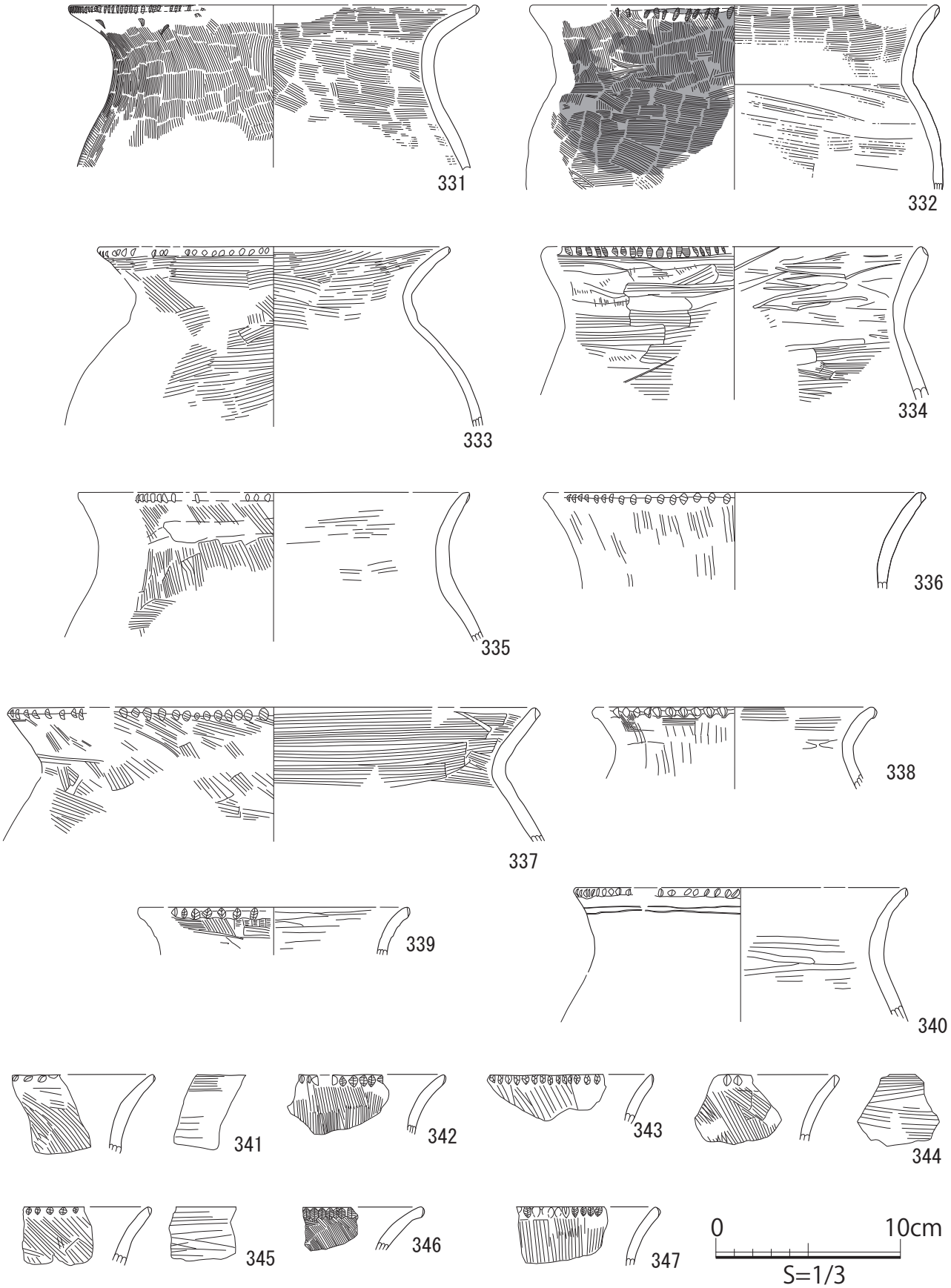
330

0　10cm

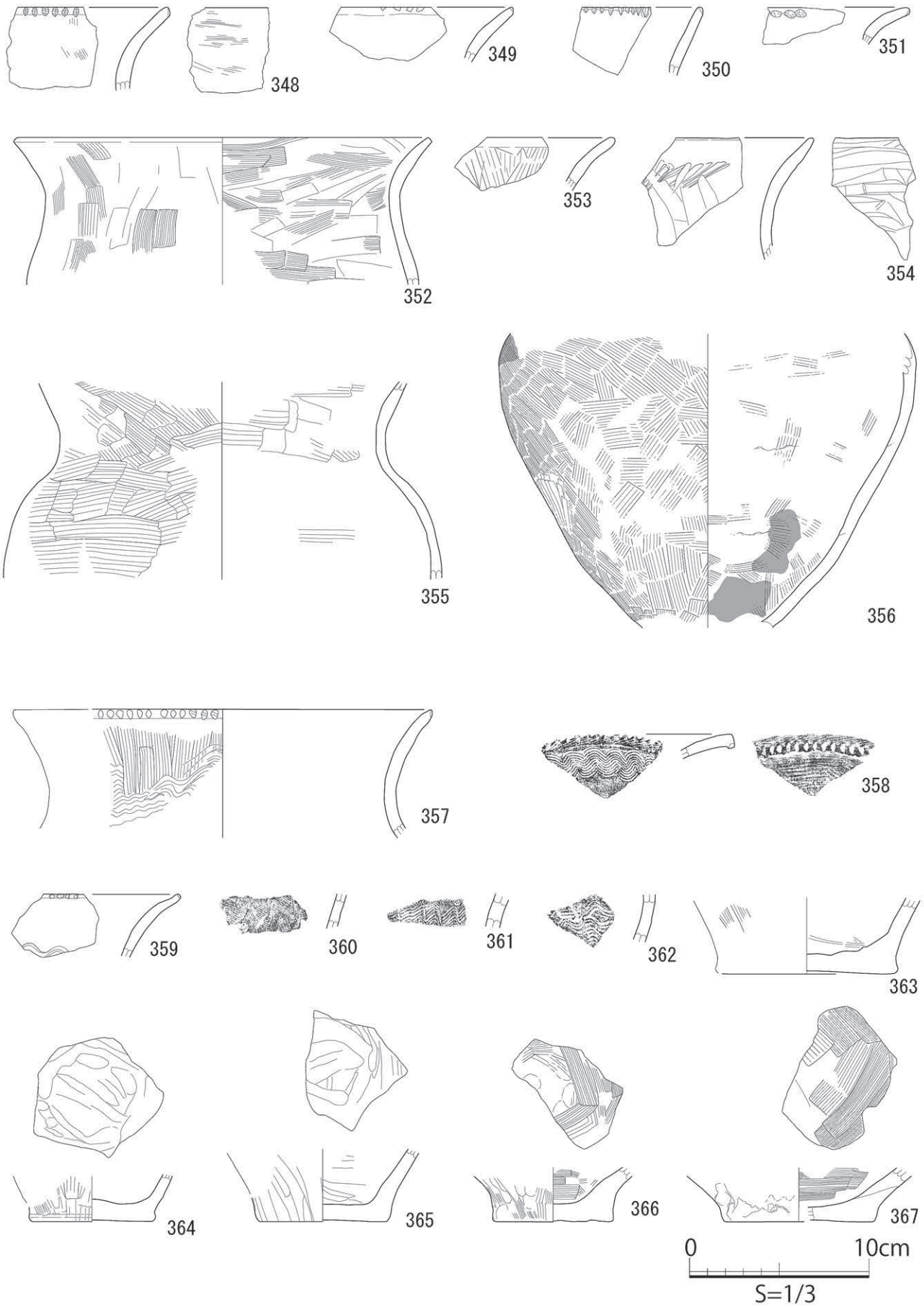
S=1/3

第 73 図　C 区出土遺物 (1)

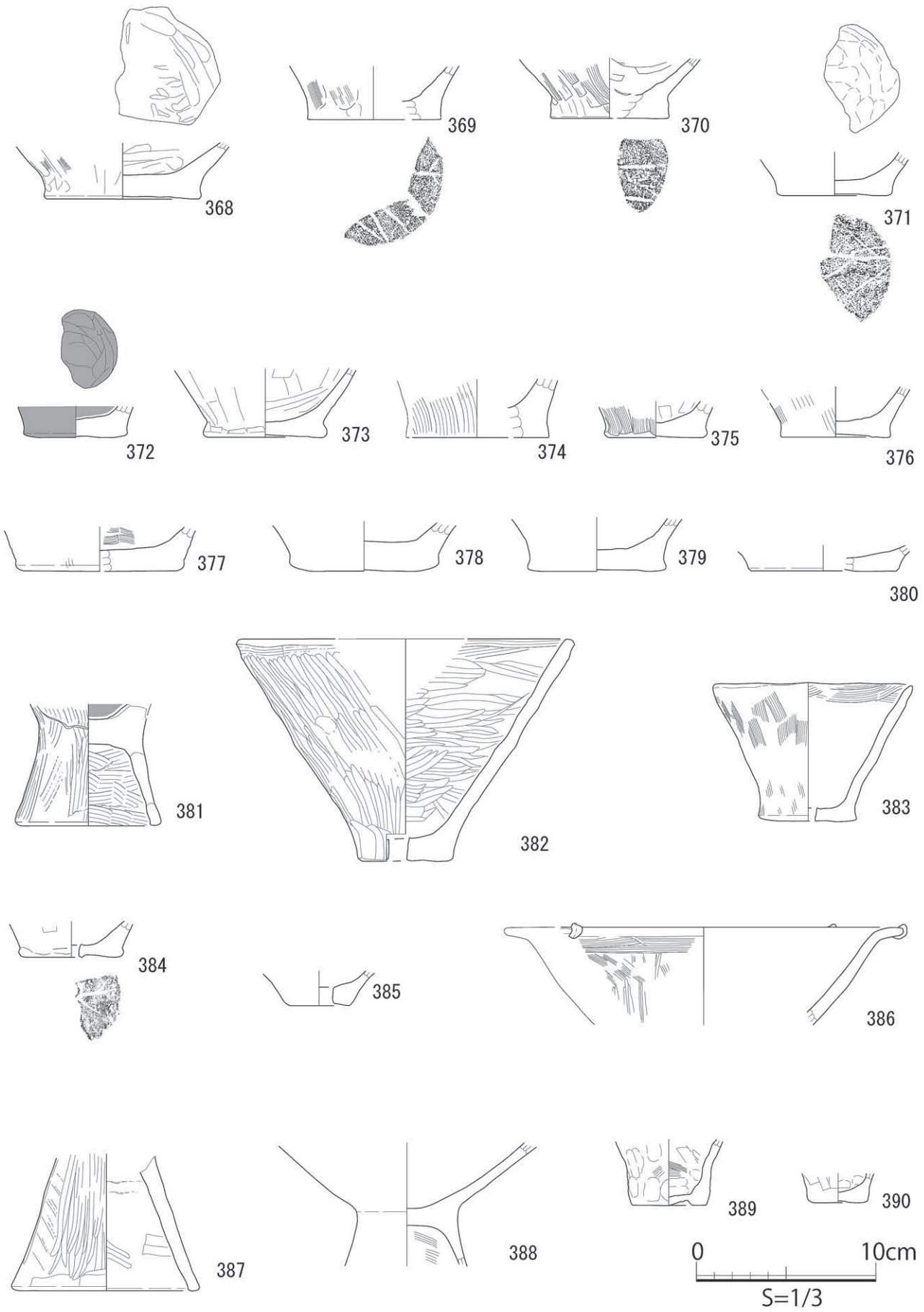
8 号溝状遺構



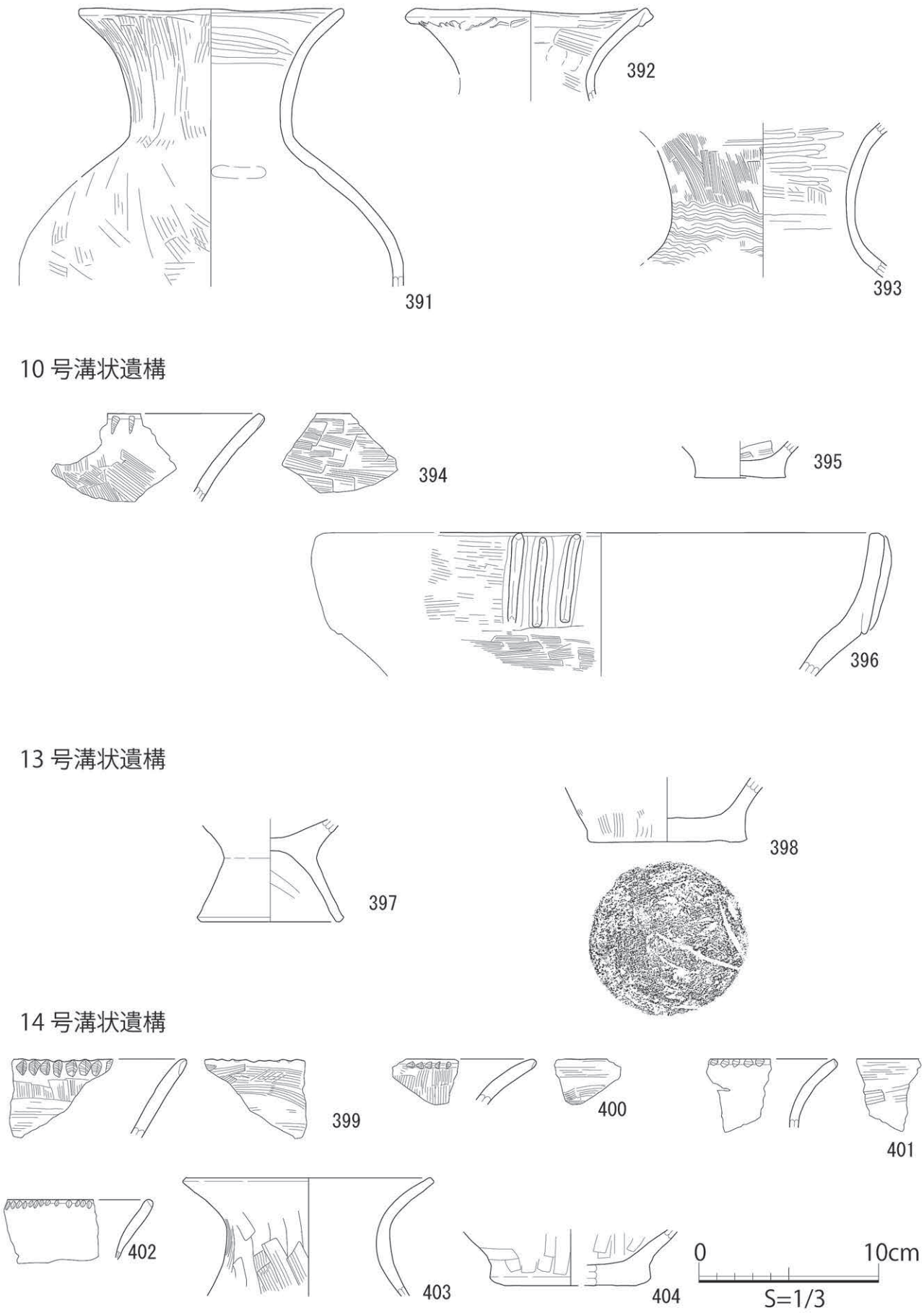
第 74 図　C 区出土遺物 (2)



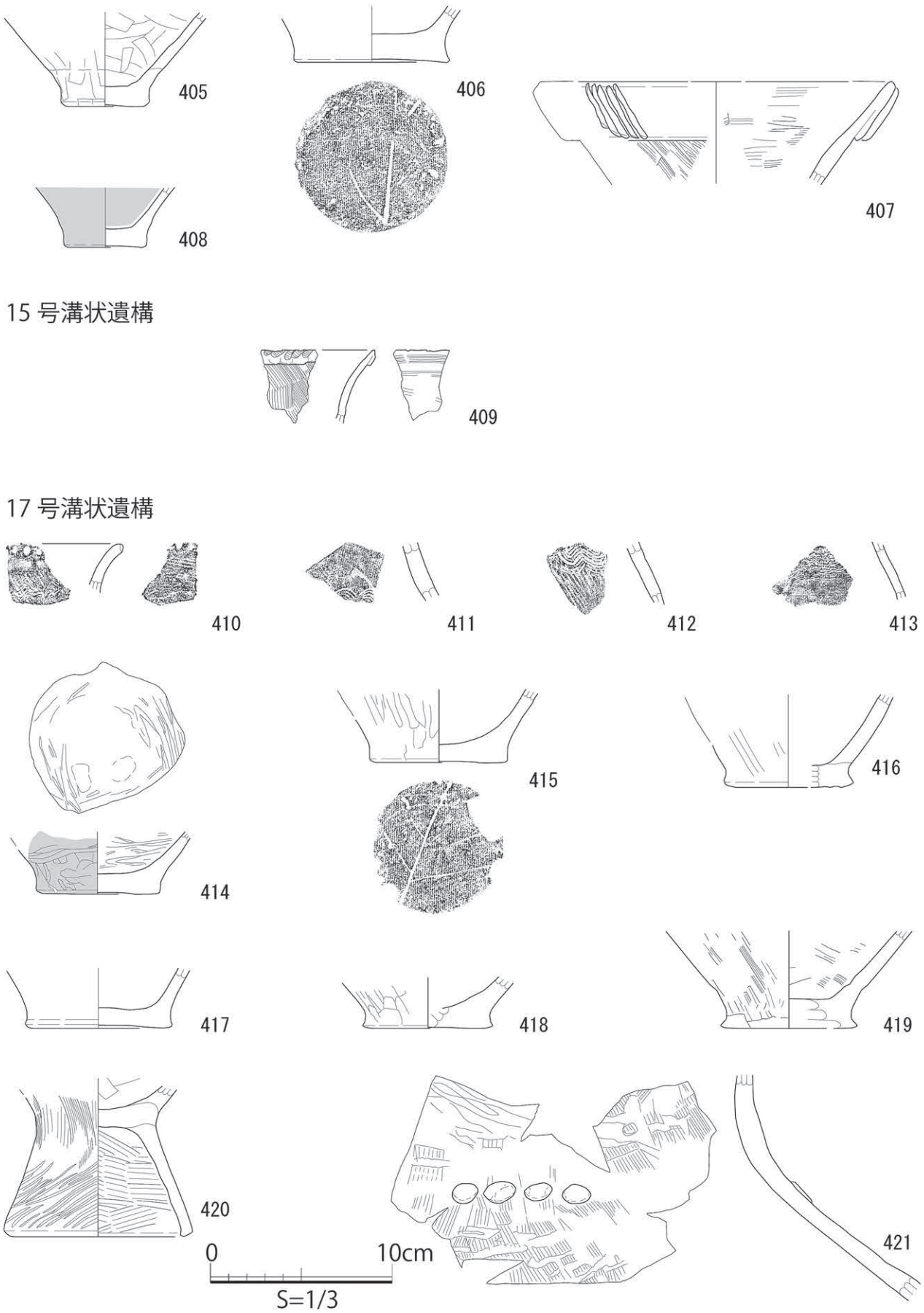
第 75 図　C区出土遺物 (3)



第 76 図　C区出土遺物 (4)

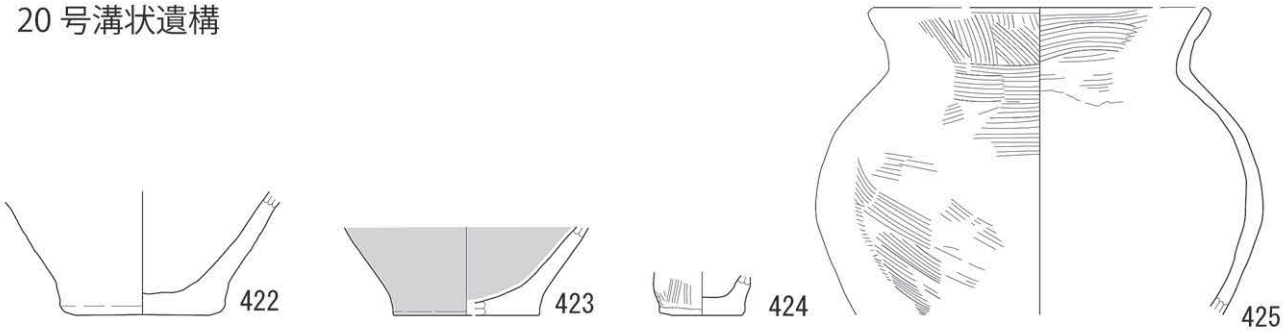


第 77 図　C 区出土遺物 (5)

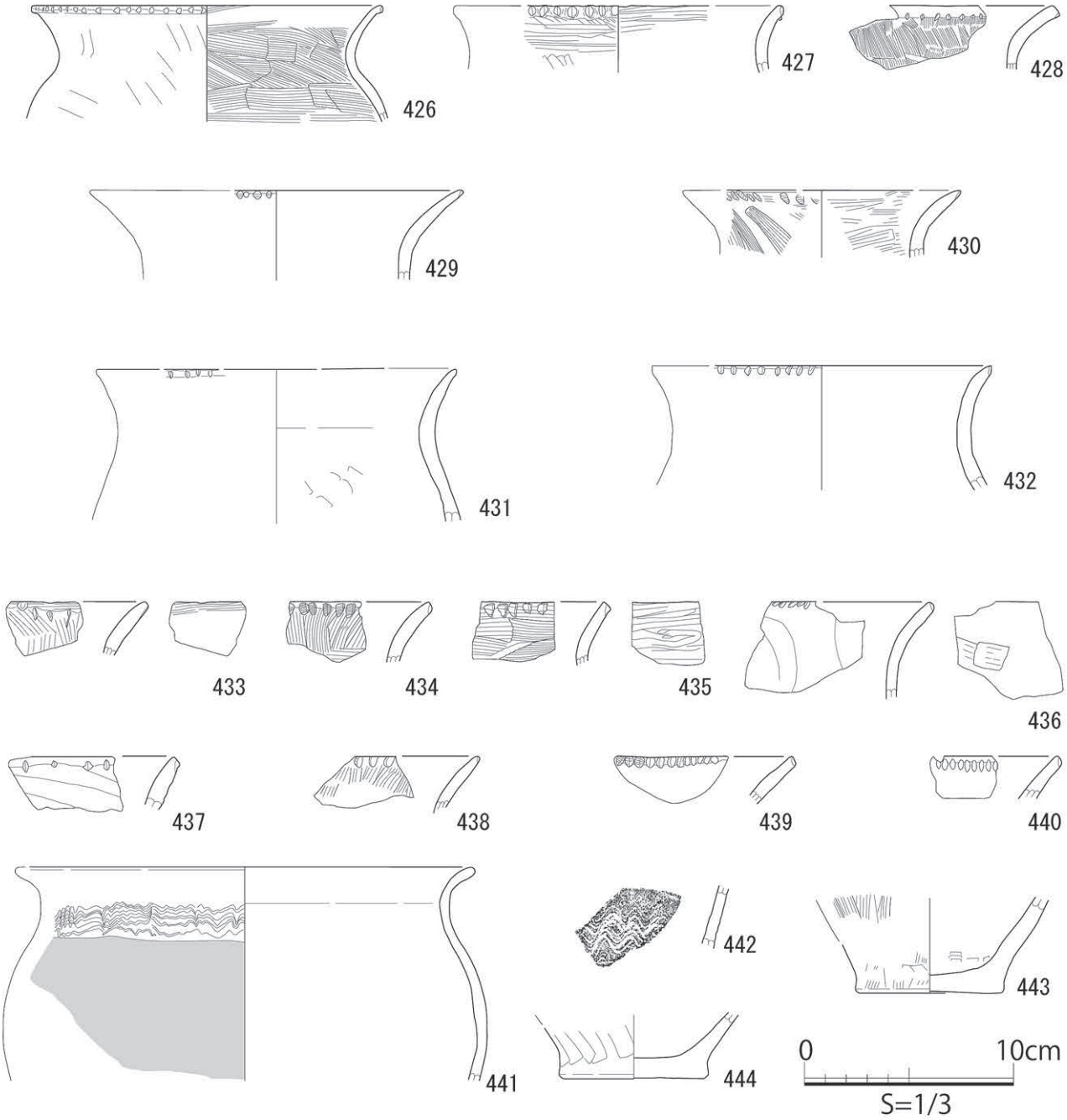


第 78 図　C 区出土遺物 (6)

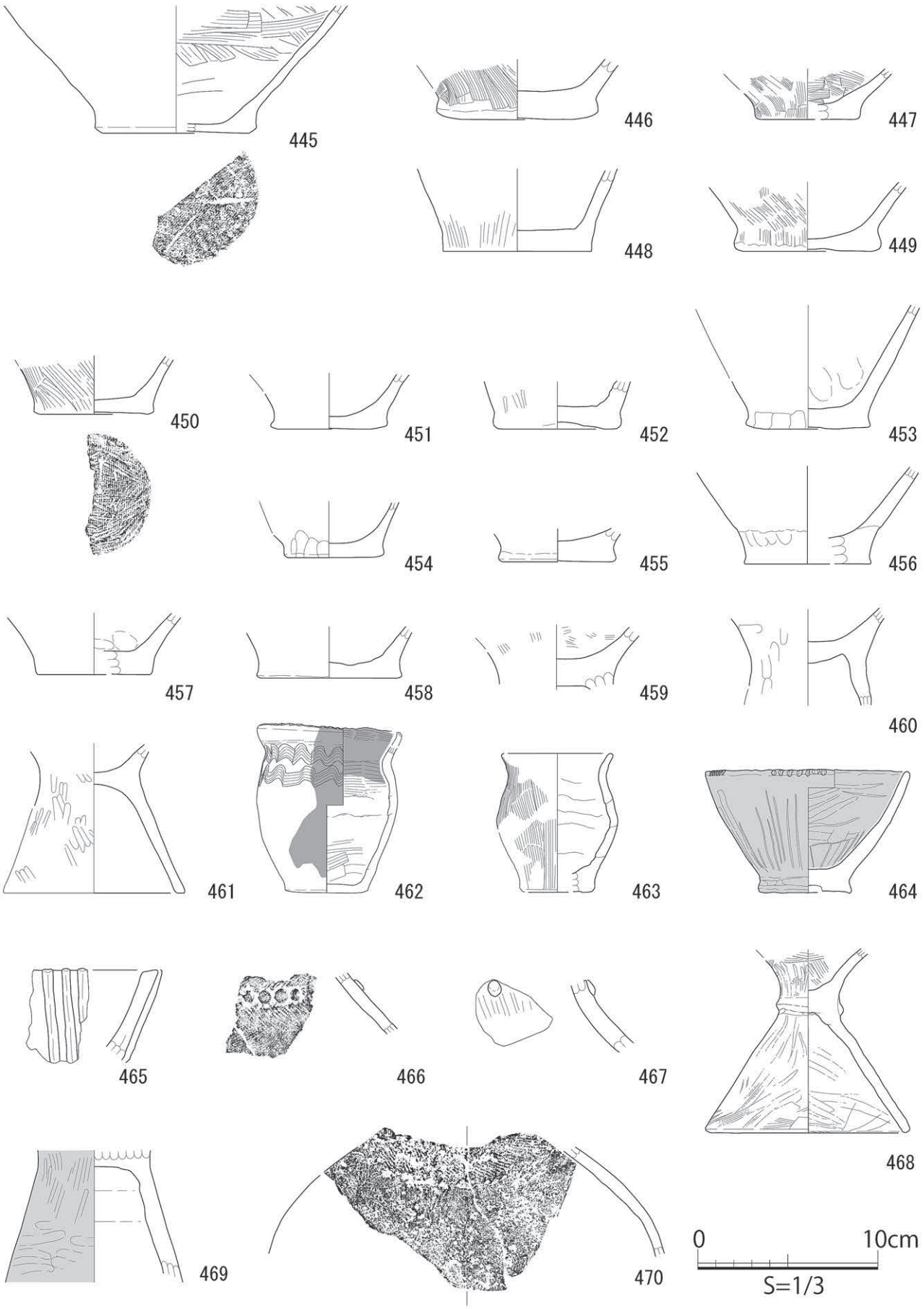
20 号溝状遺構



22 号溝状遺構



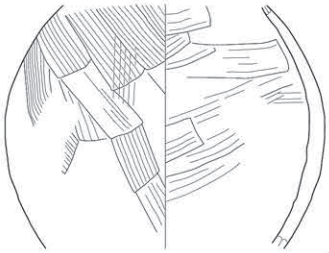
第 79 図　C 区出土遺物 (7)

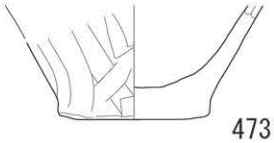


第 80 図　C 区出土遺物 (8)

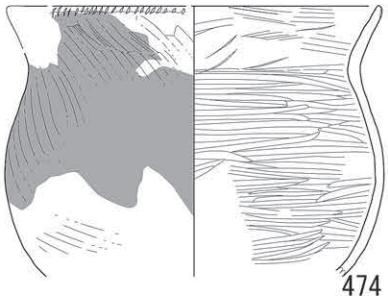
23 号溝状遺構

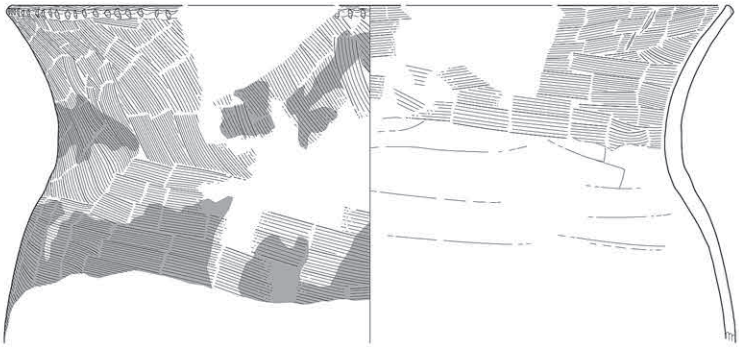
471

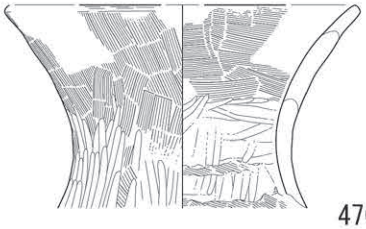

472

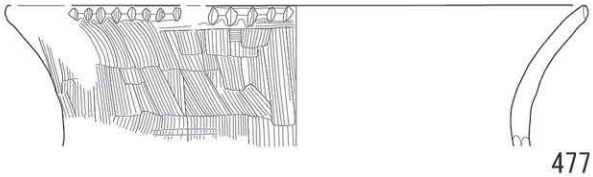

473

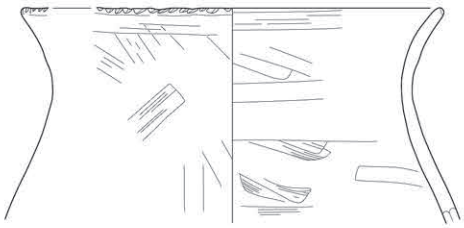
遺物集中地点 1

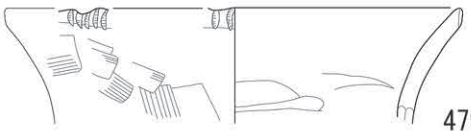

474


475

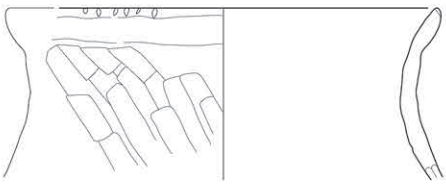

476

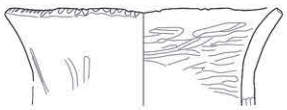

477

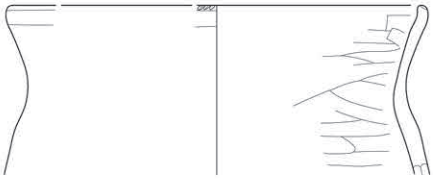

478

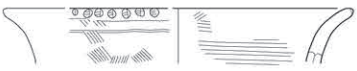

479

480


481

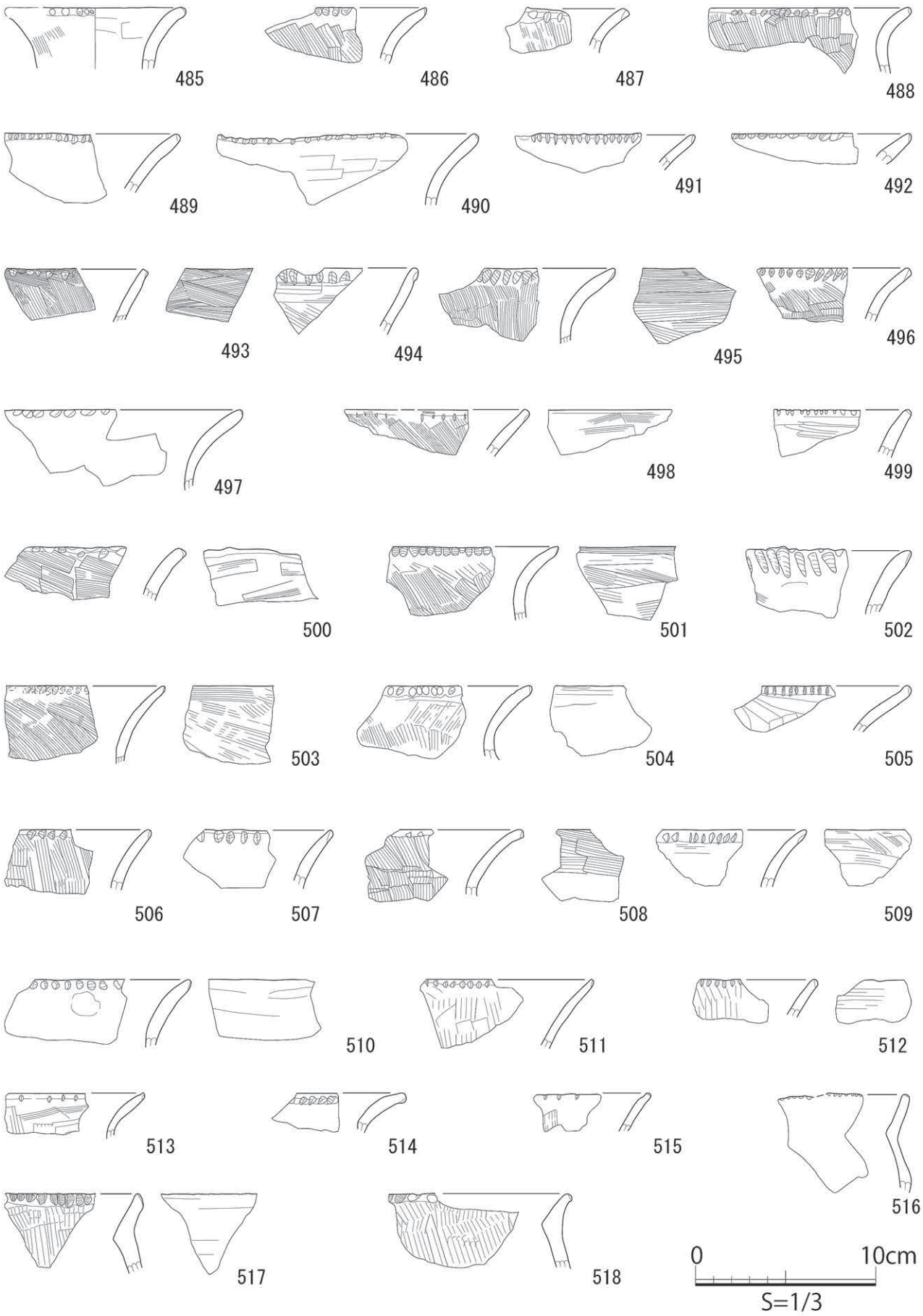

482


483

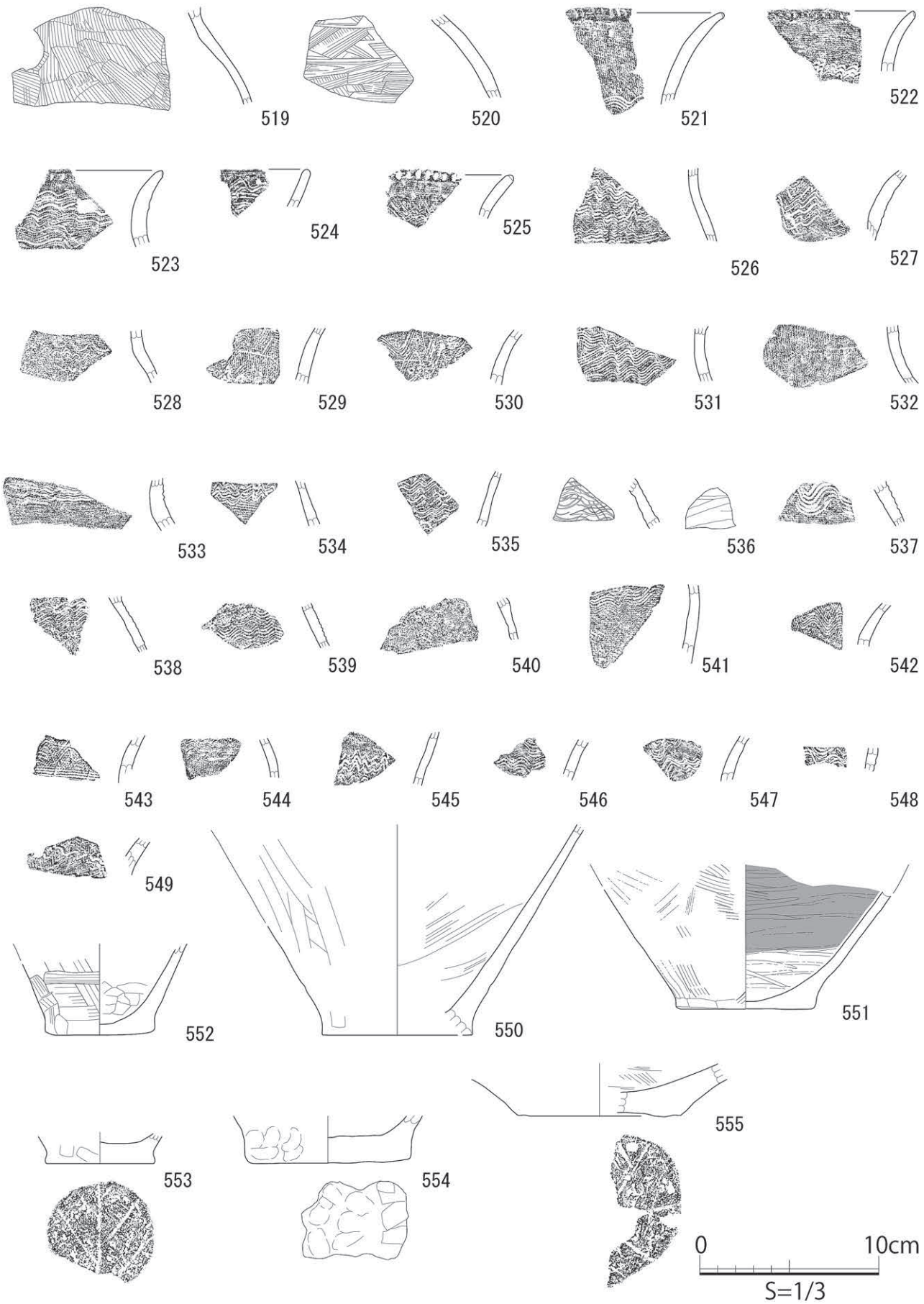

484

0 10cm
S=1/3

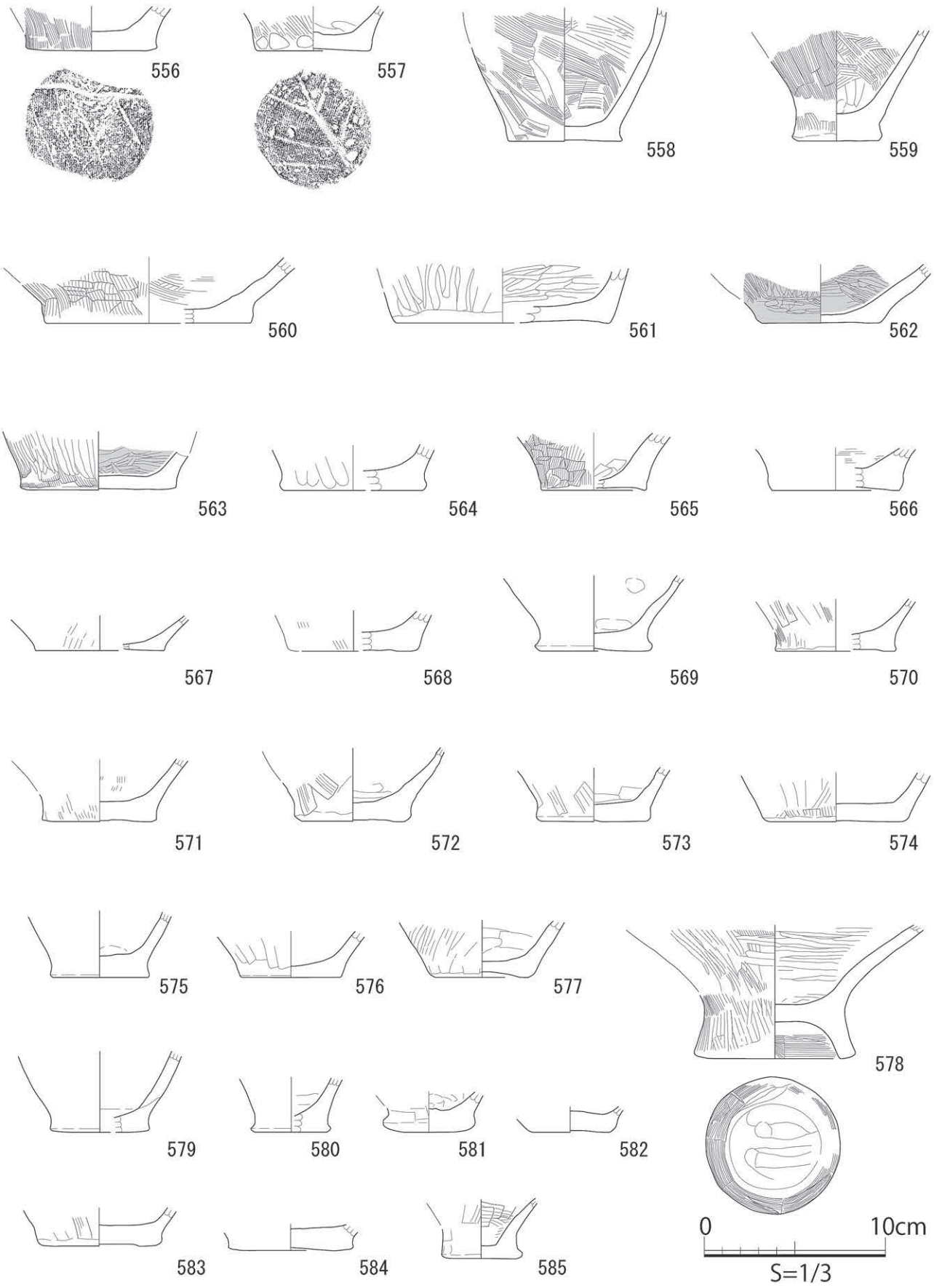
第 81 図　C 区出土遺物 (9)



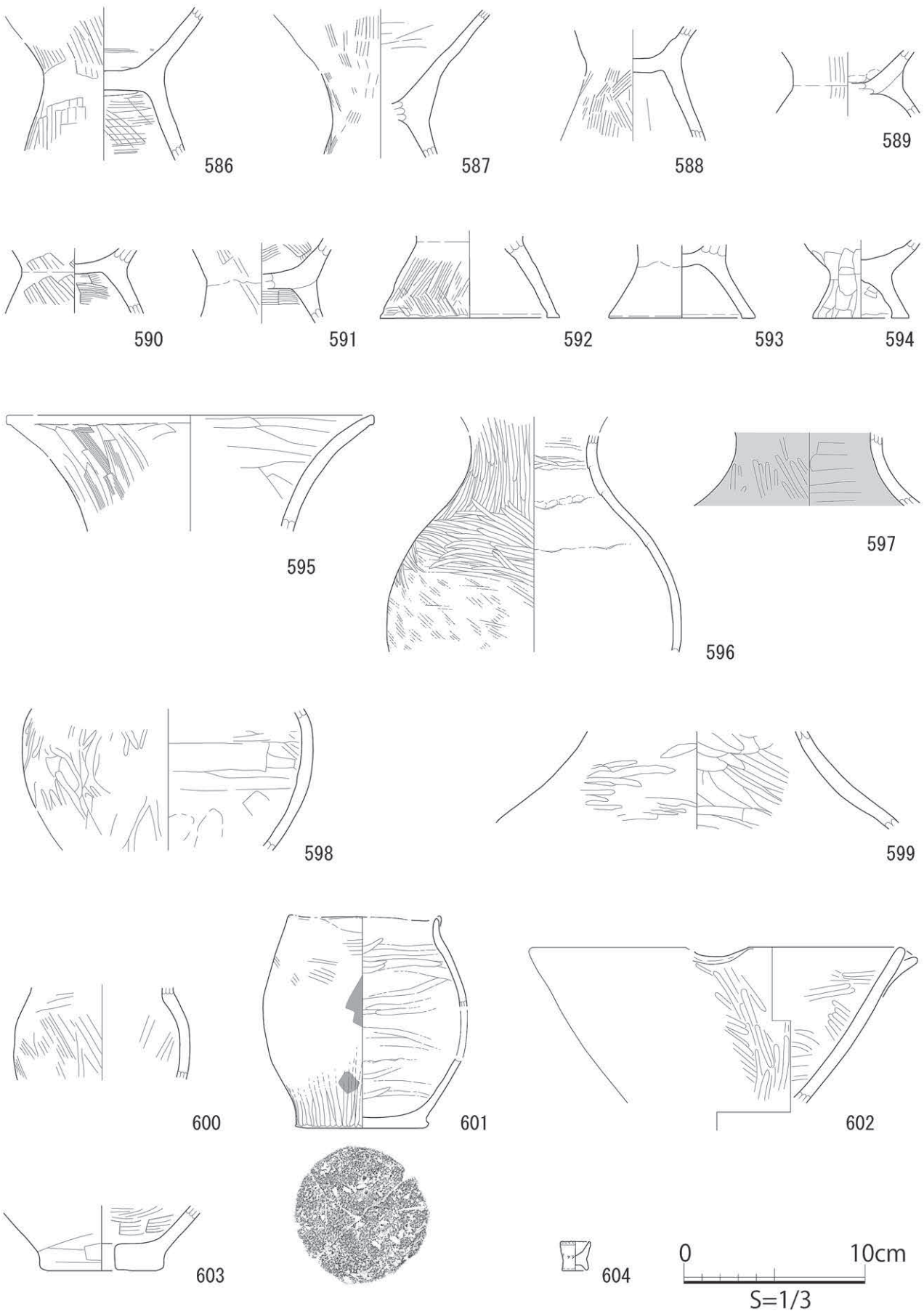
第 82 図　C 区出土遺物 ⑽



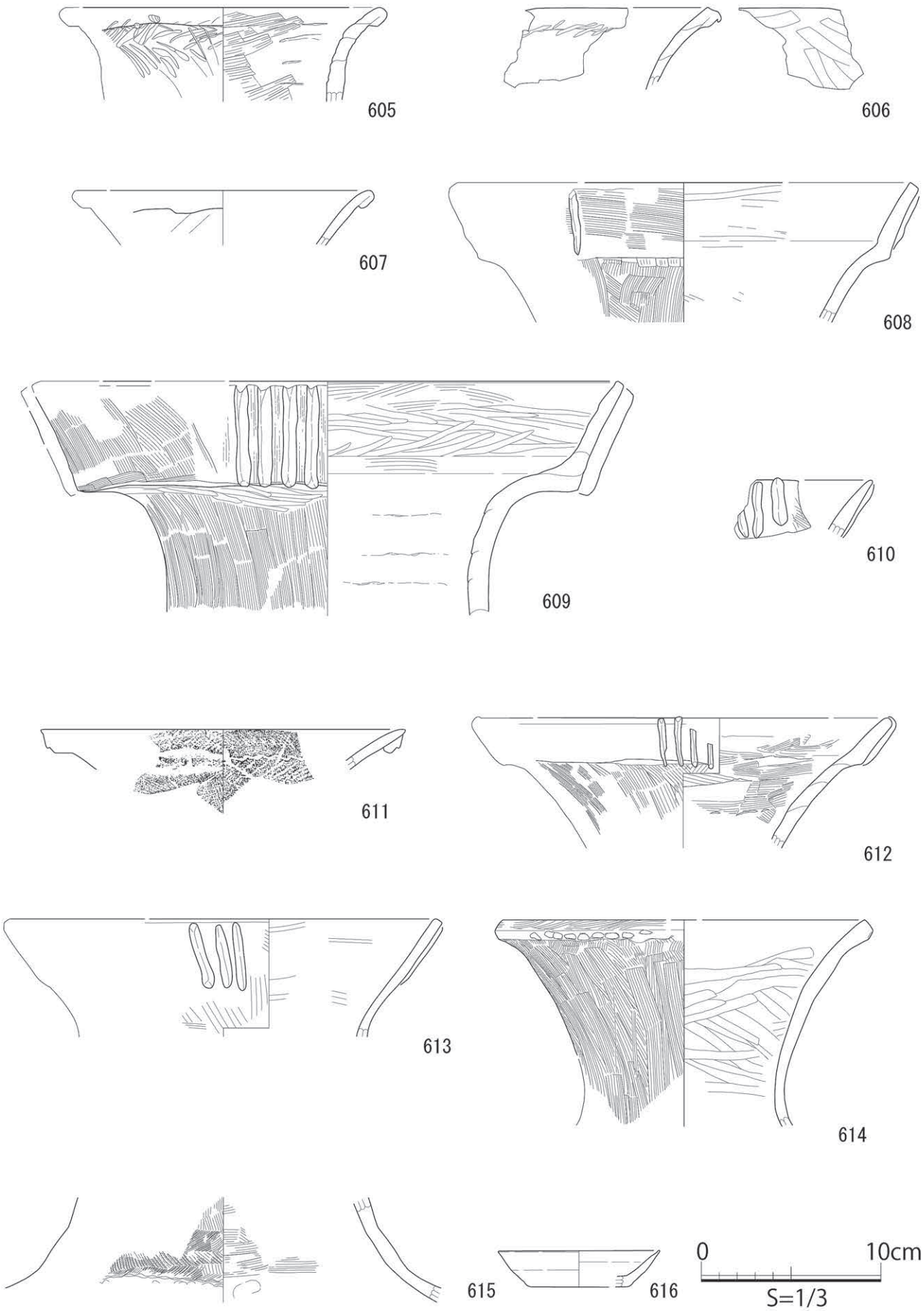
第 83 図　C 区出土遺物 (11)



第 84 図　C 区出土遺物 ⑫

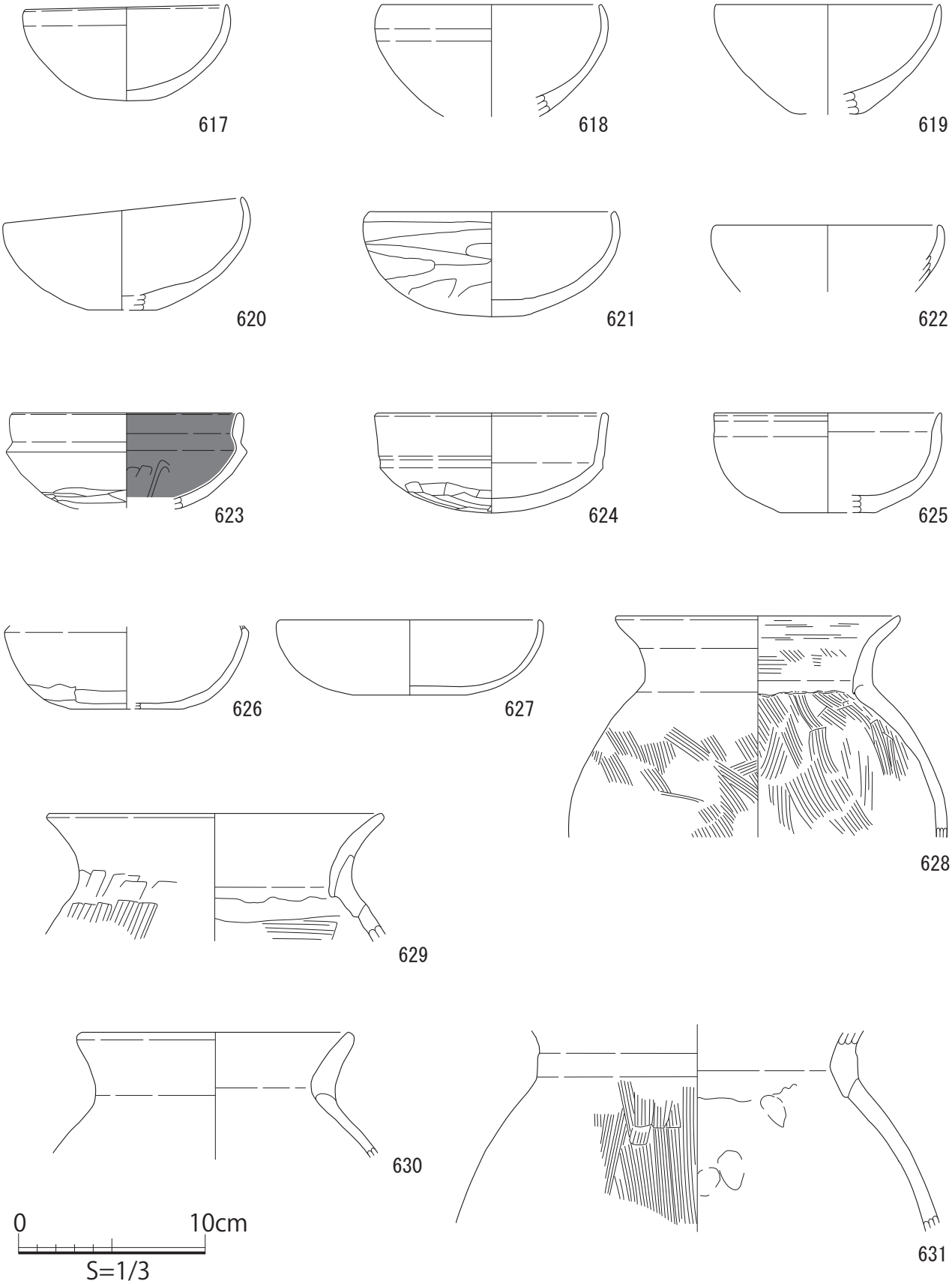


第 85 図　C 区出土遺物 ⑬

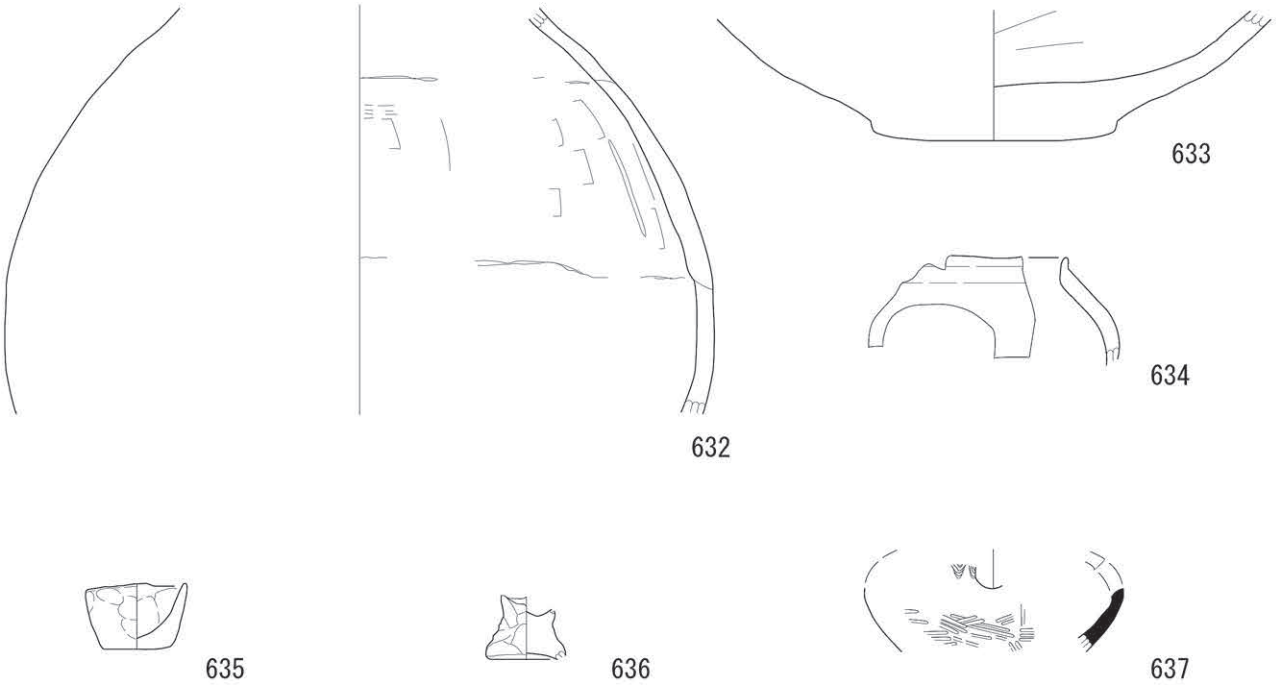


第 86 図　C 区出土遺物 ⑭

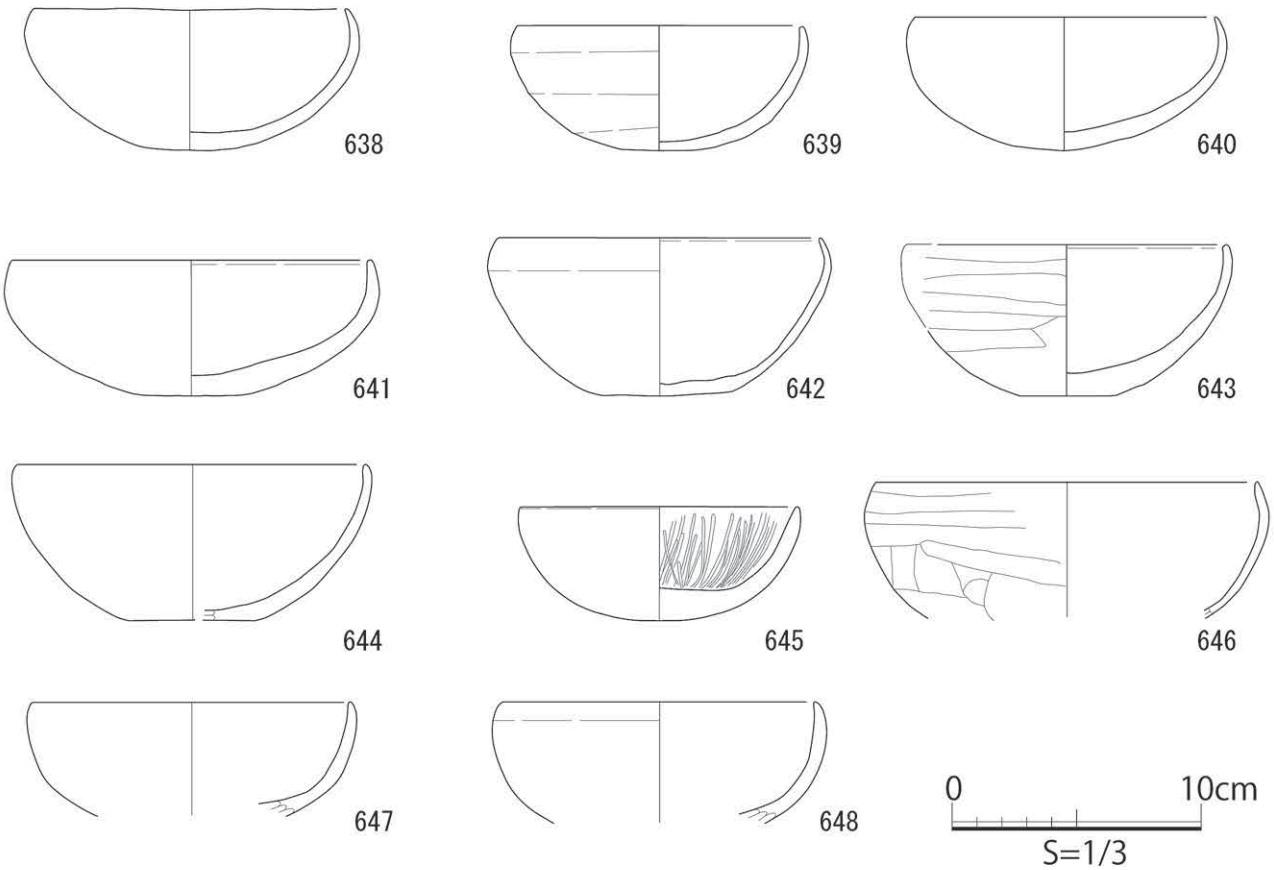
2 号竪穴状遺構



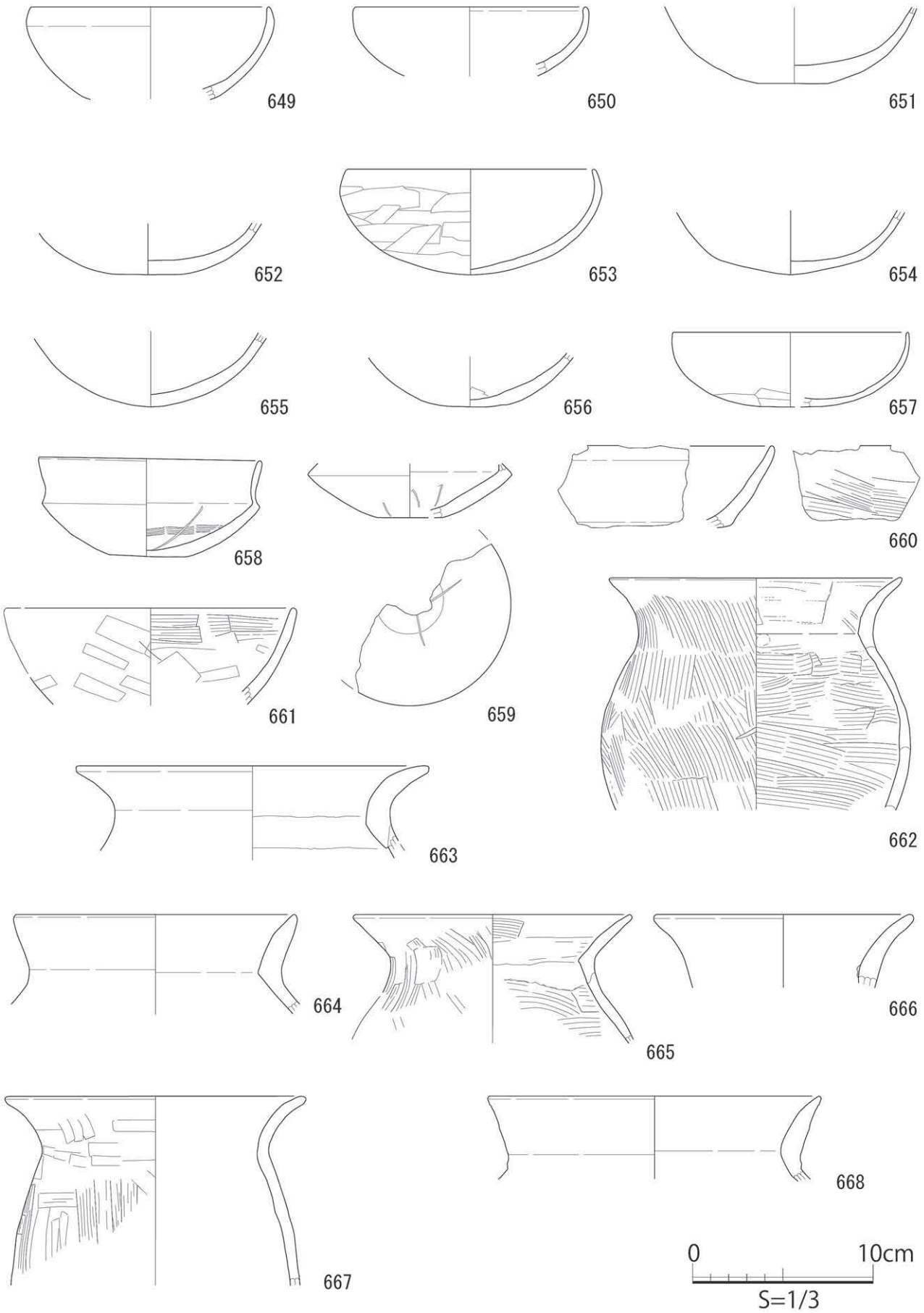
第 87 図　C 区出土遺物 ⑮



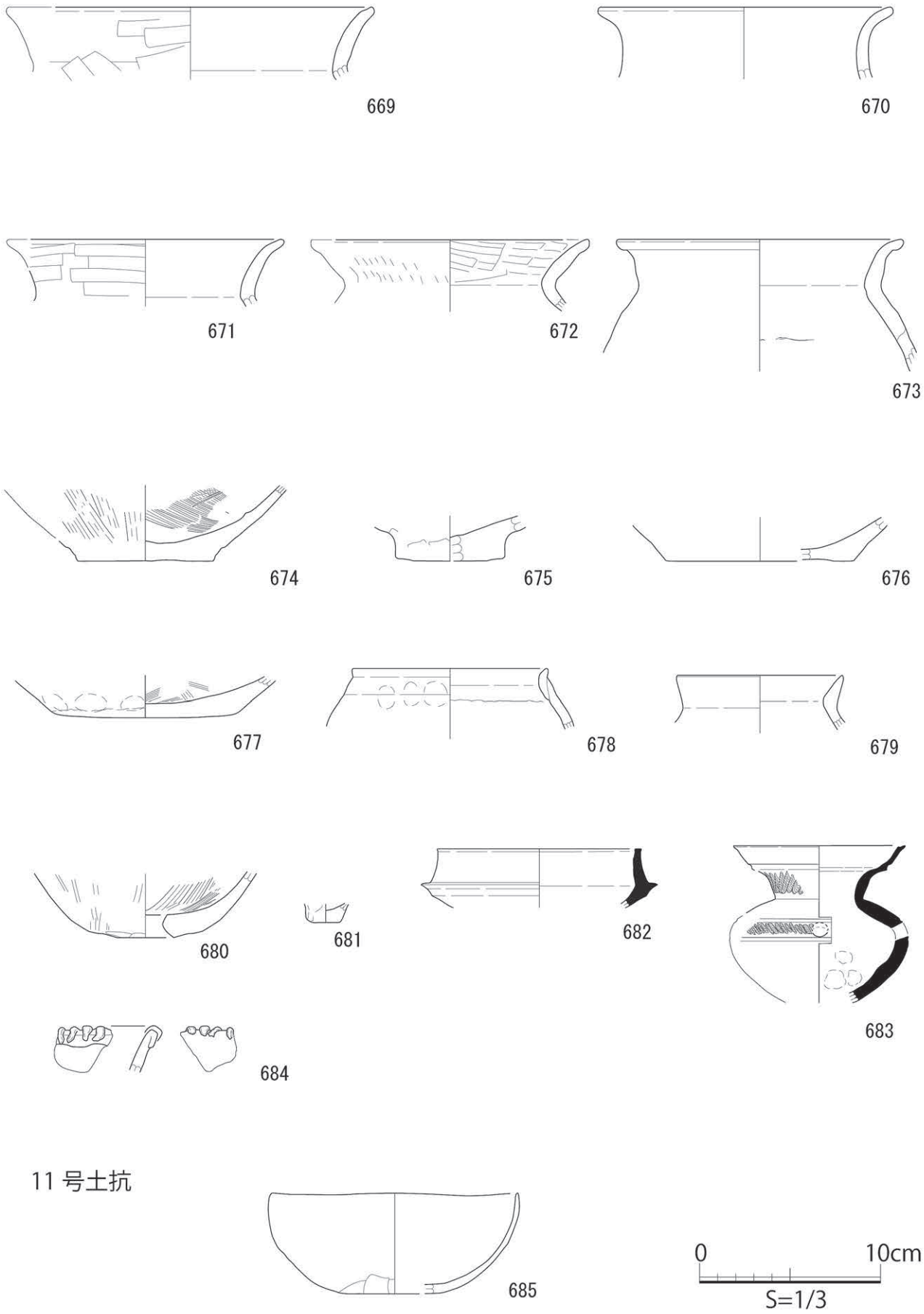
3 号竪穴状遺構



第 88 図　C 区出土遺物 ⑯

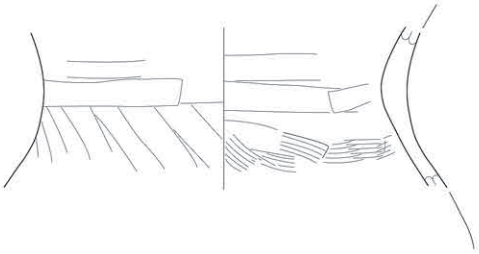


第 89 図　C 区出土遺物 (17)

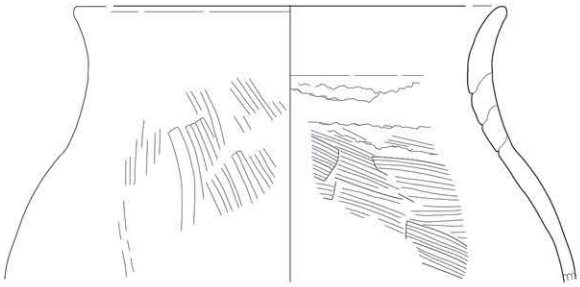


第 90 図　C 区出土遺物 ⑱

12 号土抗

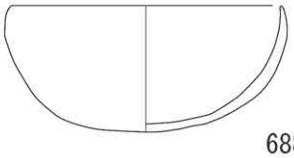


686

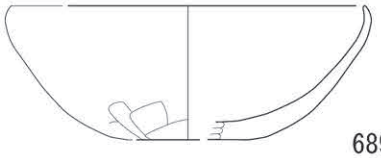


687

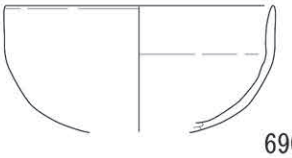
13 号土抗



688

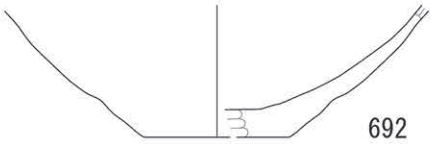


689

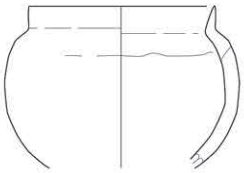


690

691

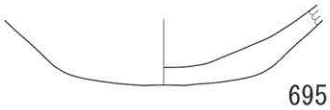


692



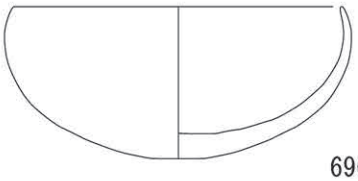
693

694

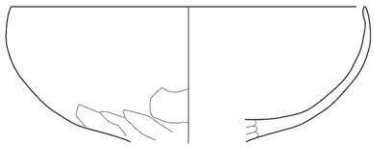


695

14 号土抗



696

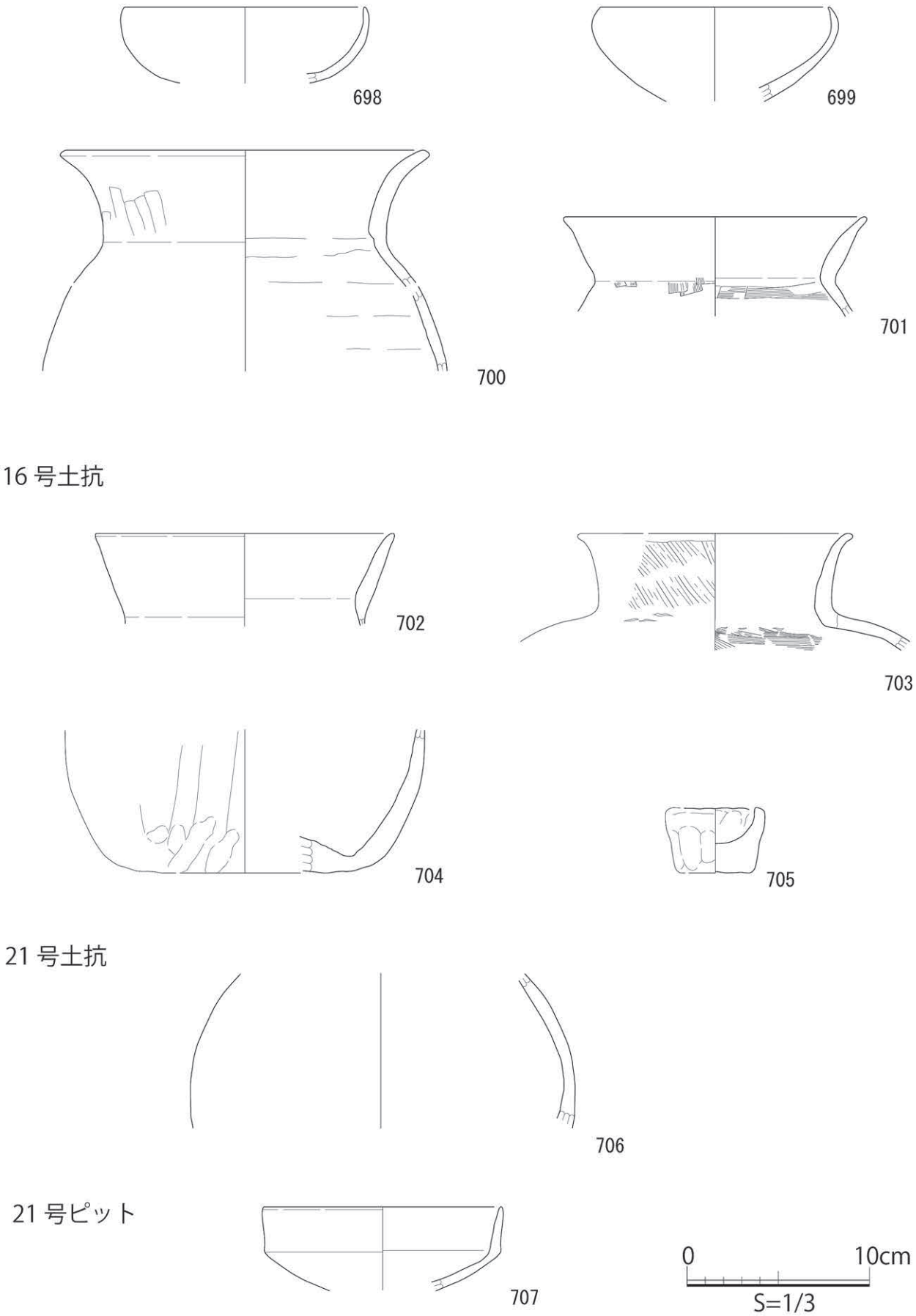


697

0　10cm

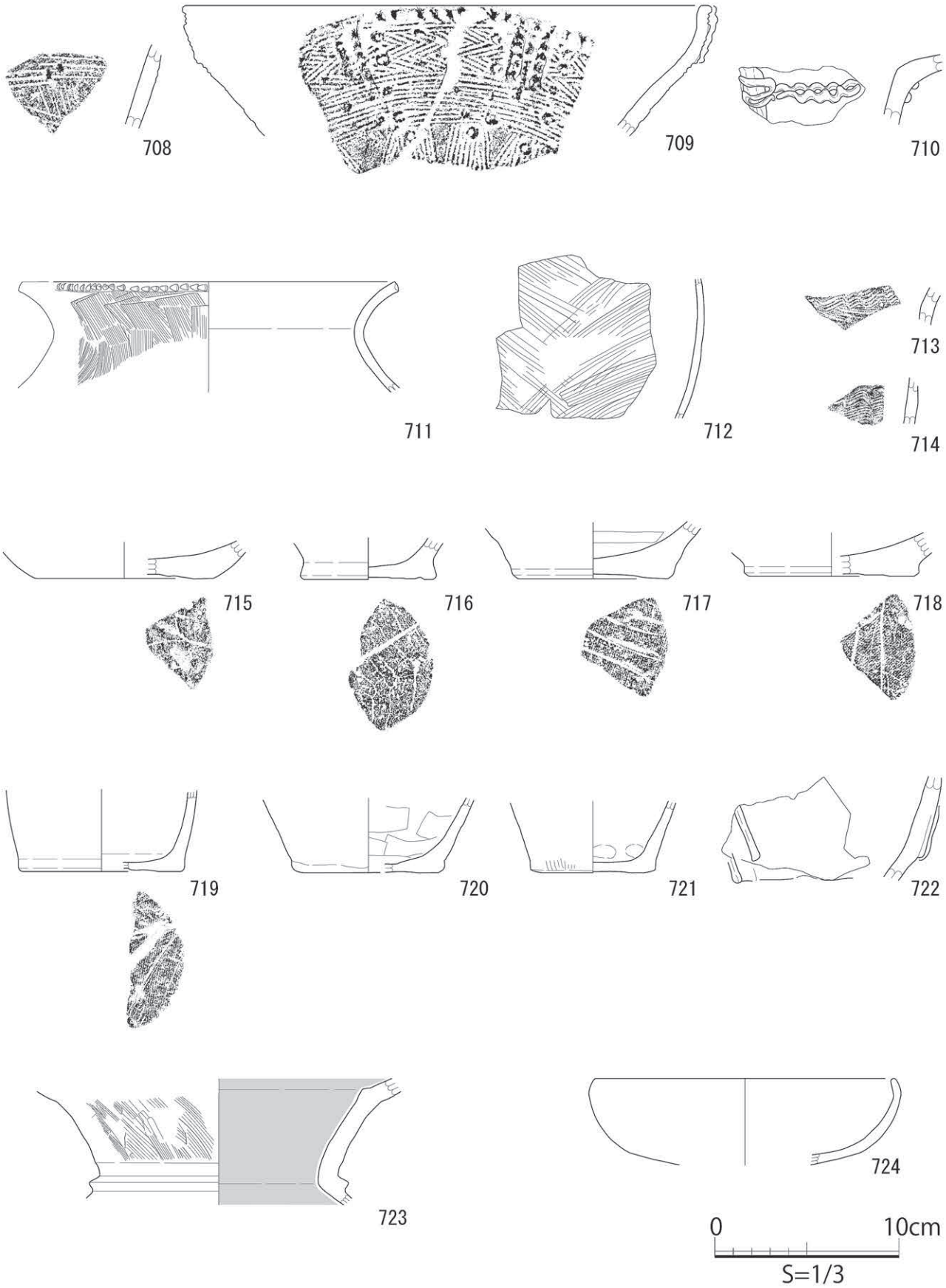
S=1/3

第 91 図　C 区出土遺物 ⑲

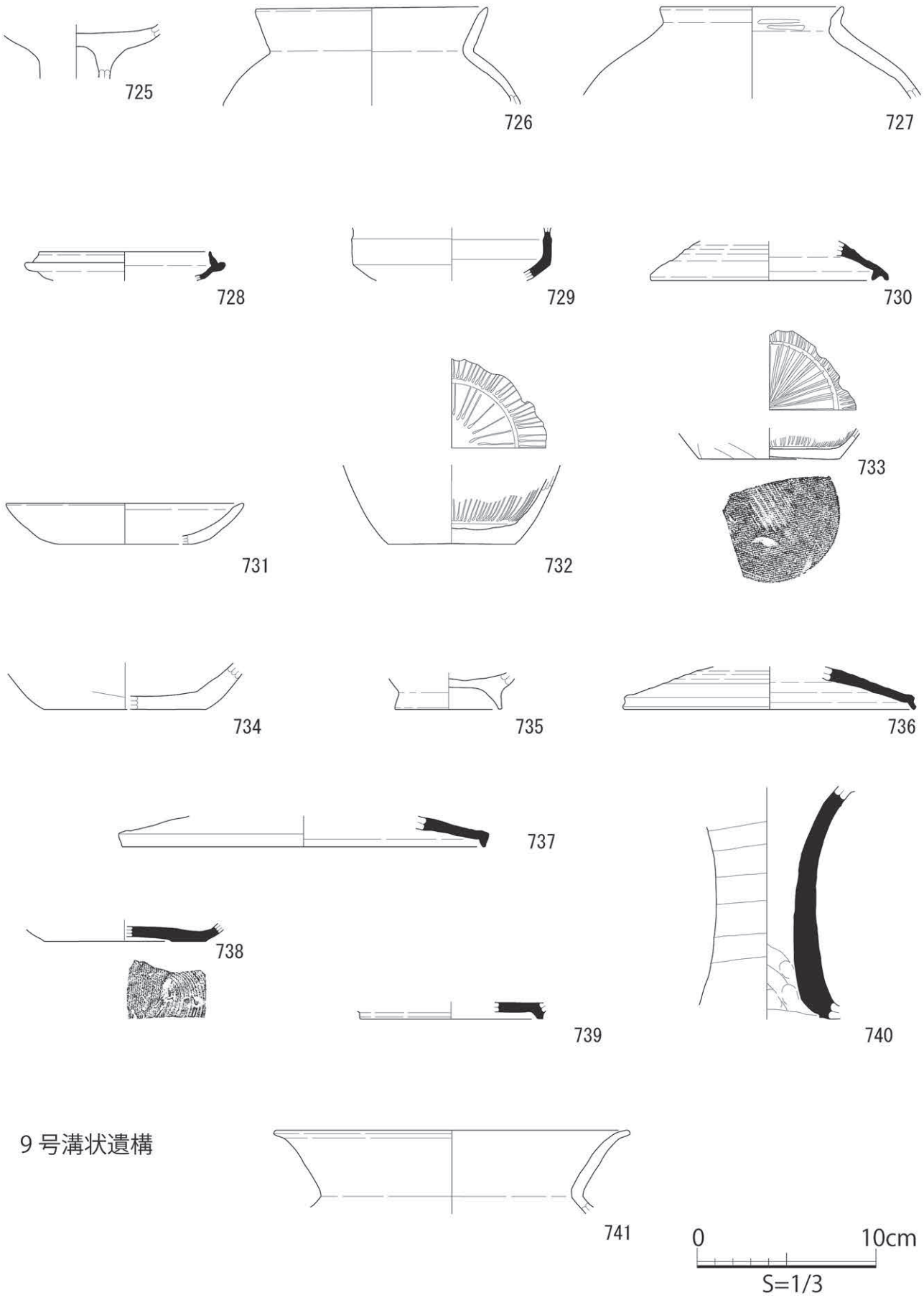


第 92 図　C 区出土遺物 ⑳

1号溝状遺構

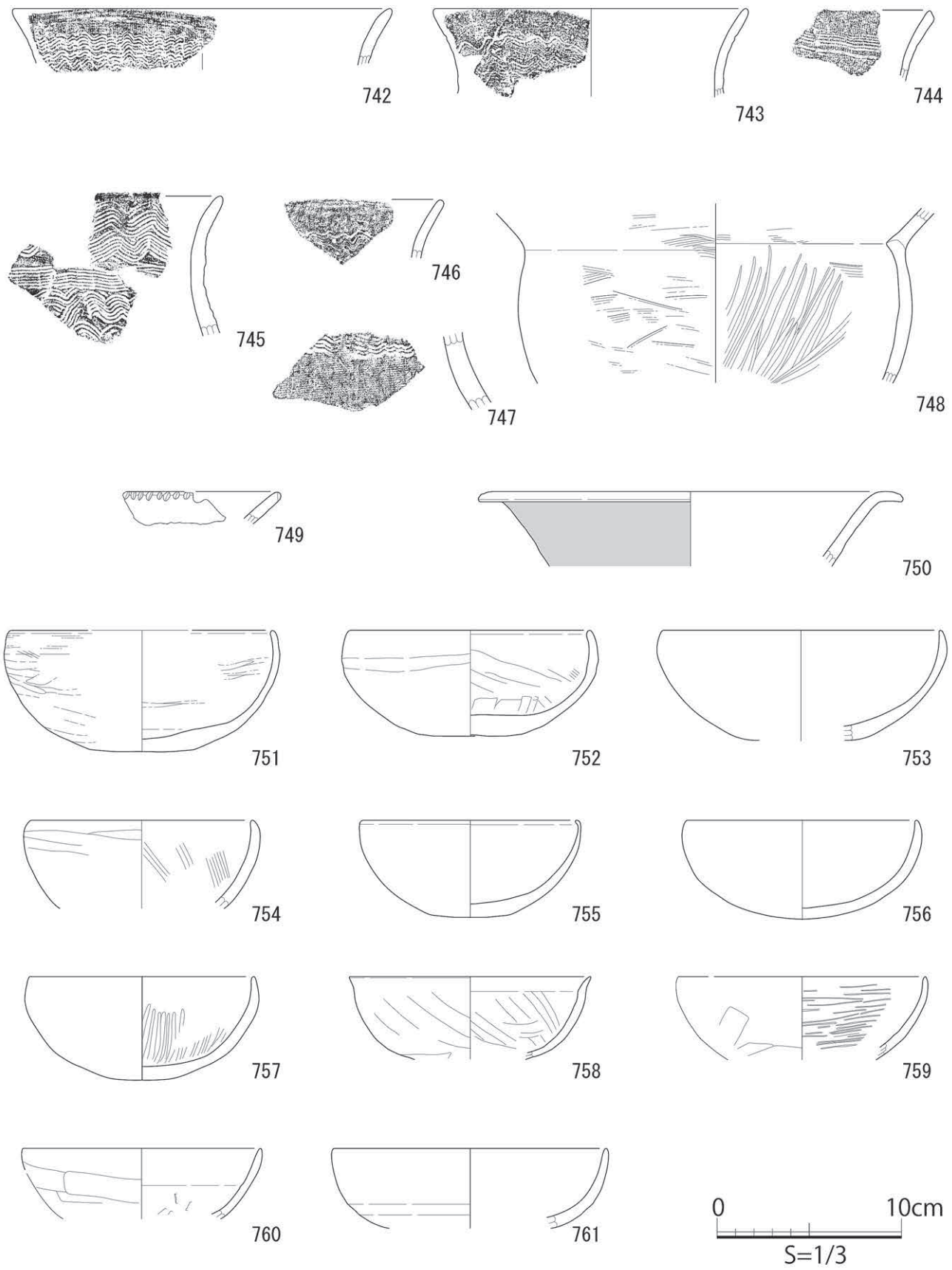


第93図　C区出土遺物 (21)

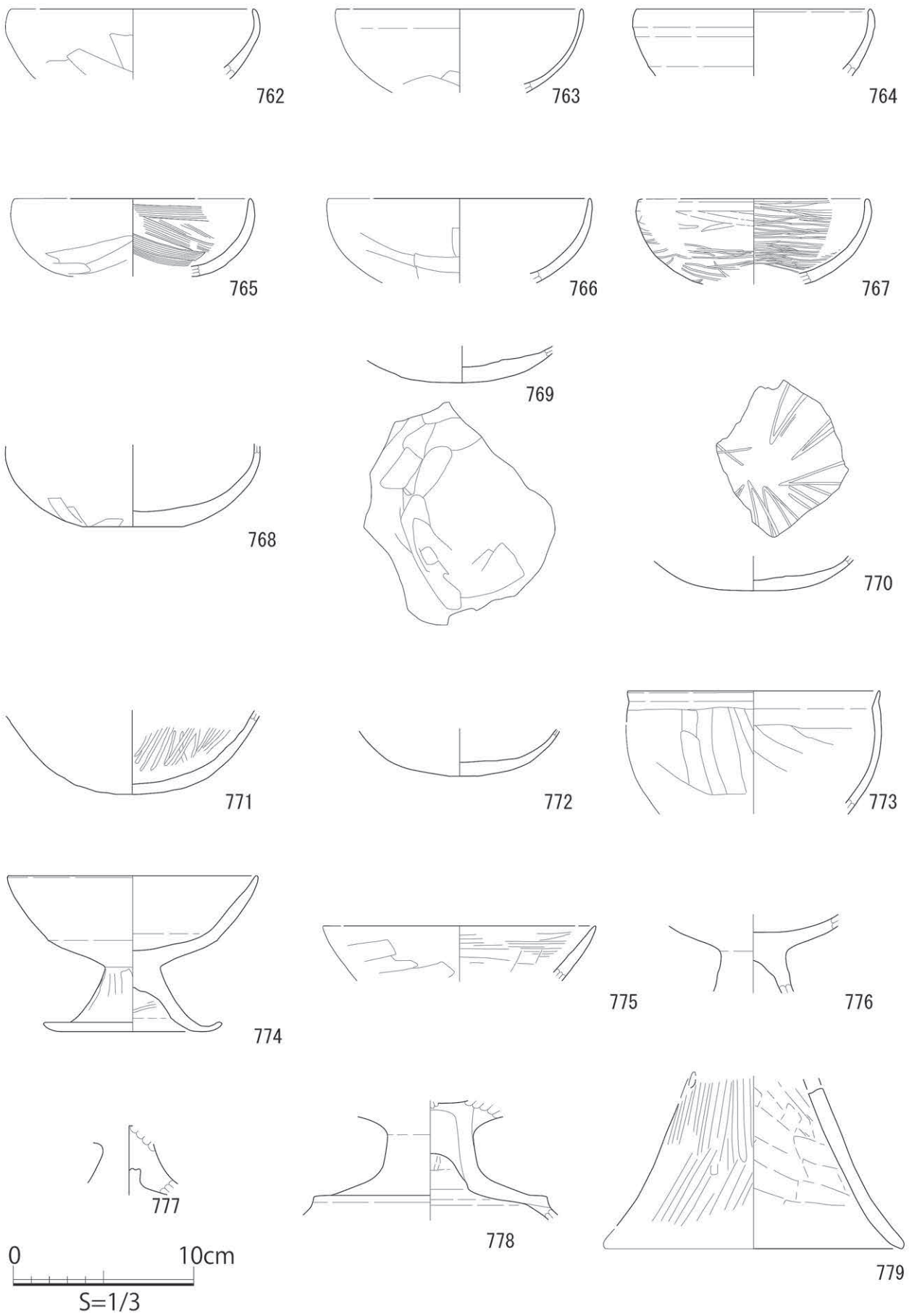


第 94 図　C 区出土遺物 (22)

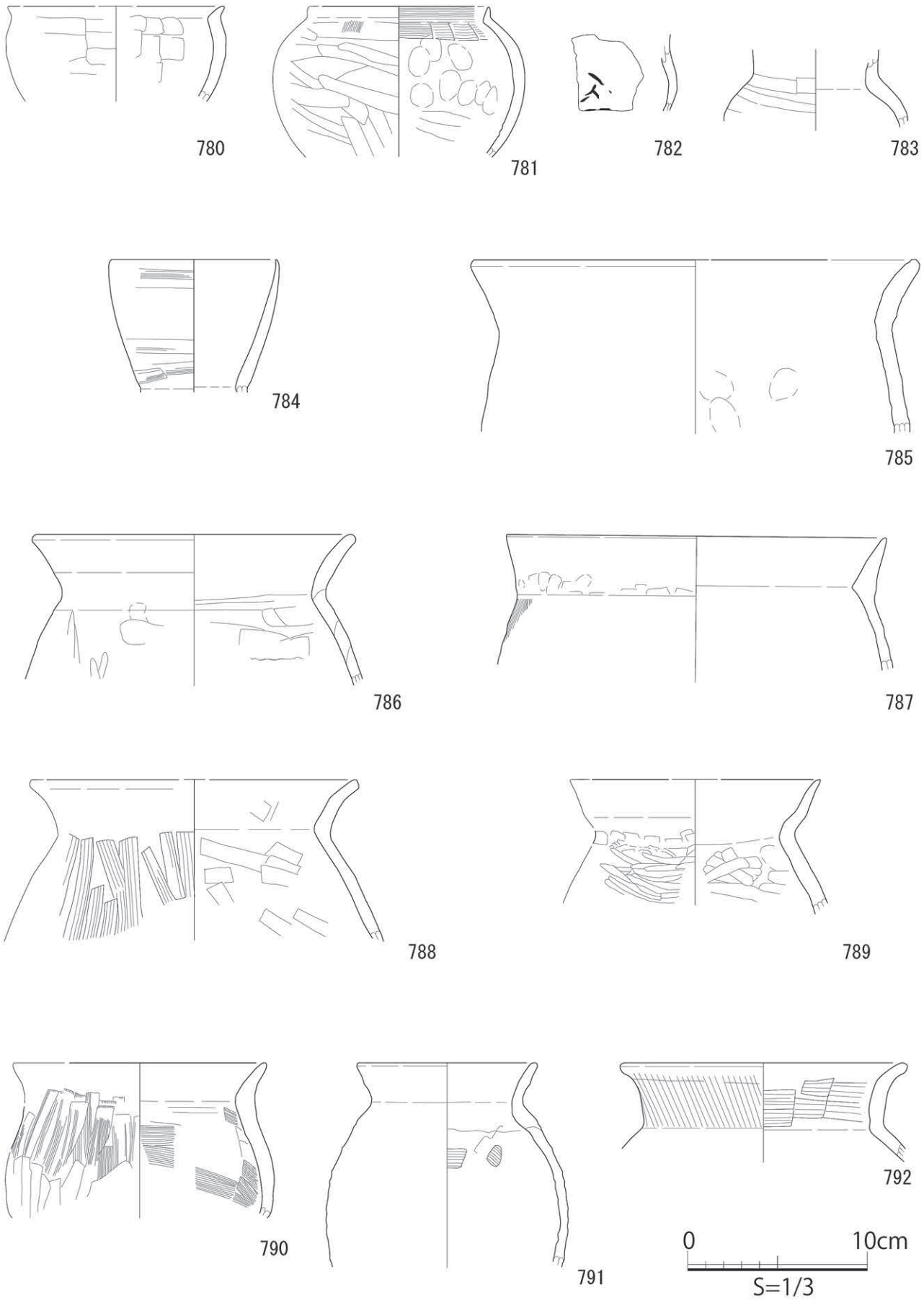
遺物集中地点 2



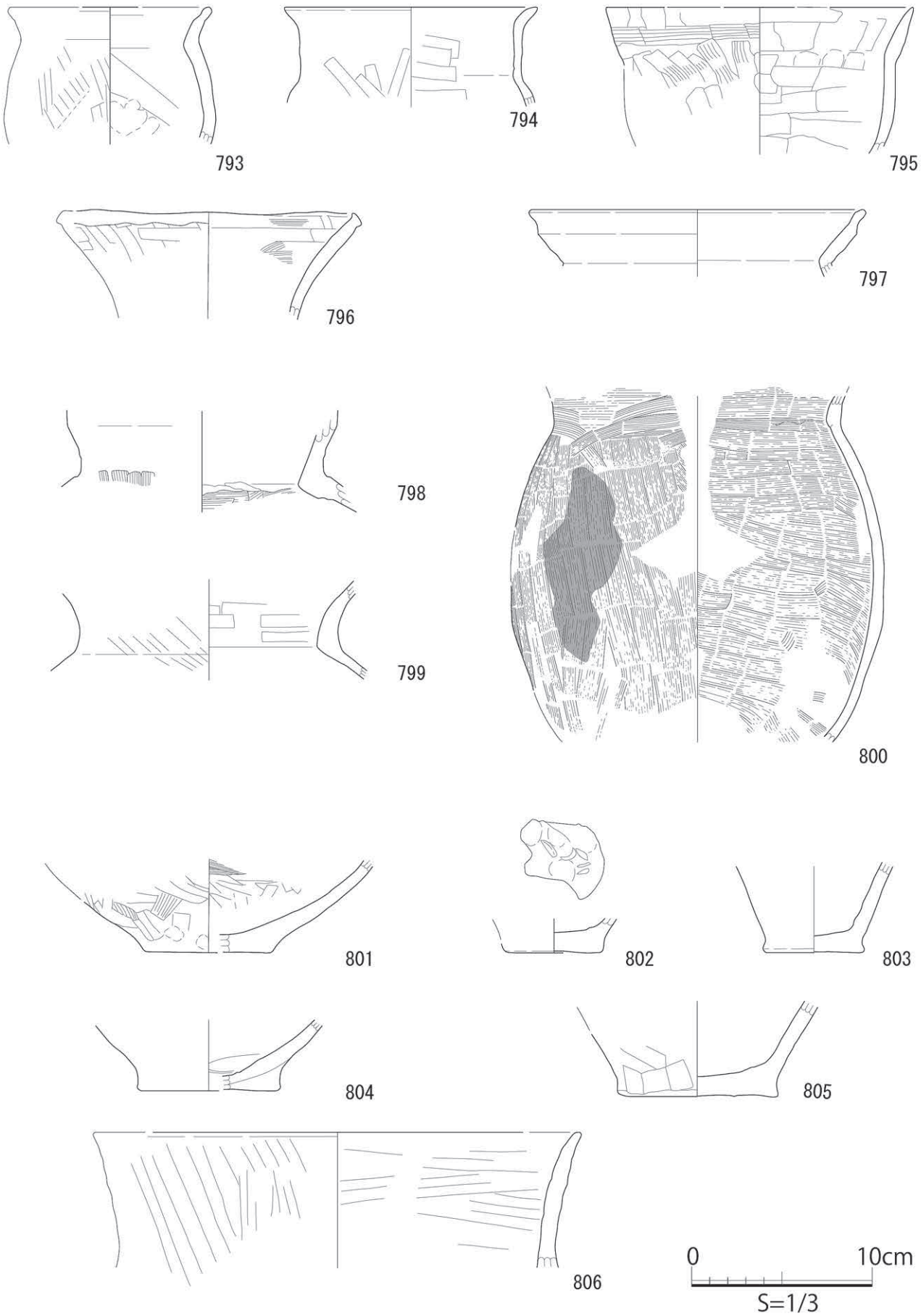
第 95 図　C 区出土遺物 ㉓



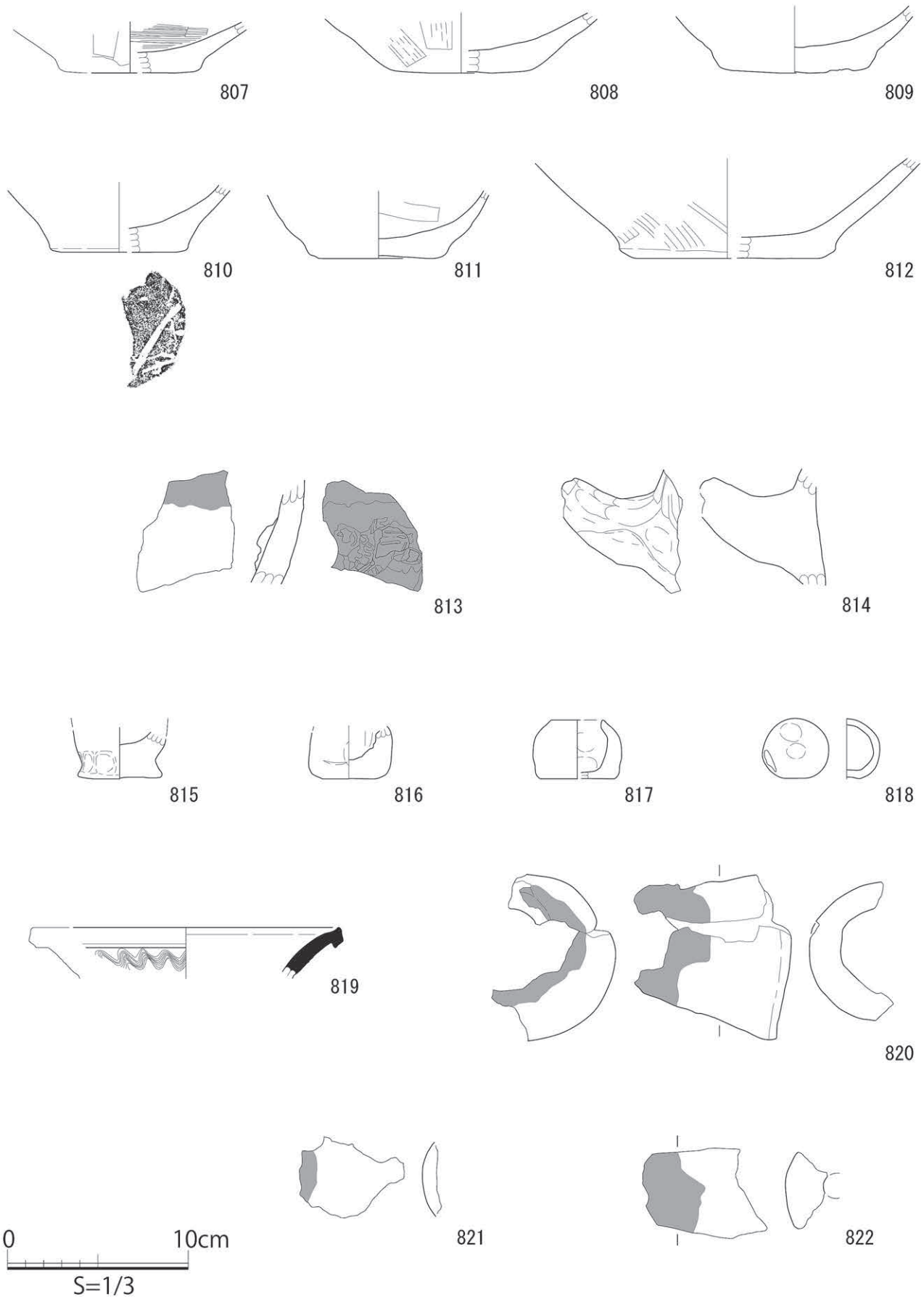
第 96 図　C 区出土遺物 (24)



第 97 図　C区出土遺物 (25)

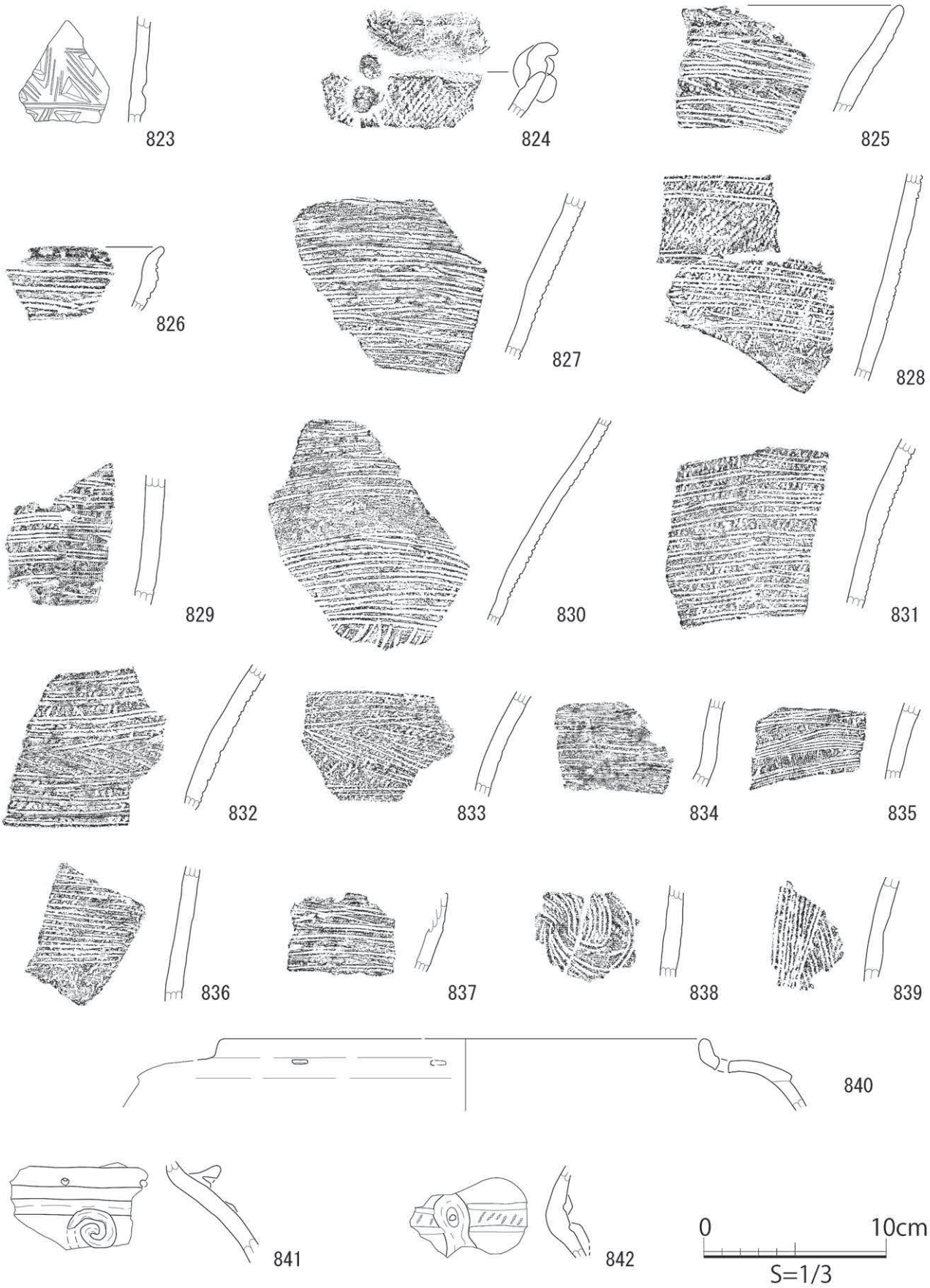


第 98 図　C 区出土遺物 (26)

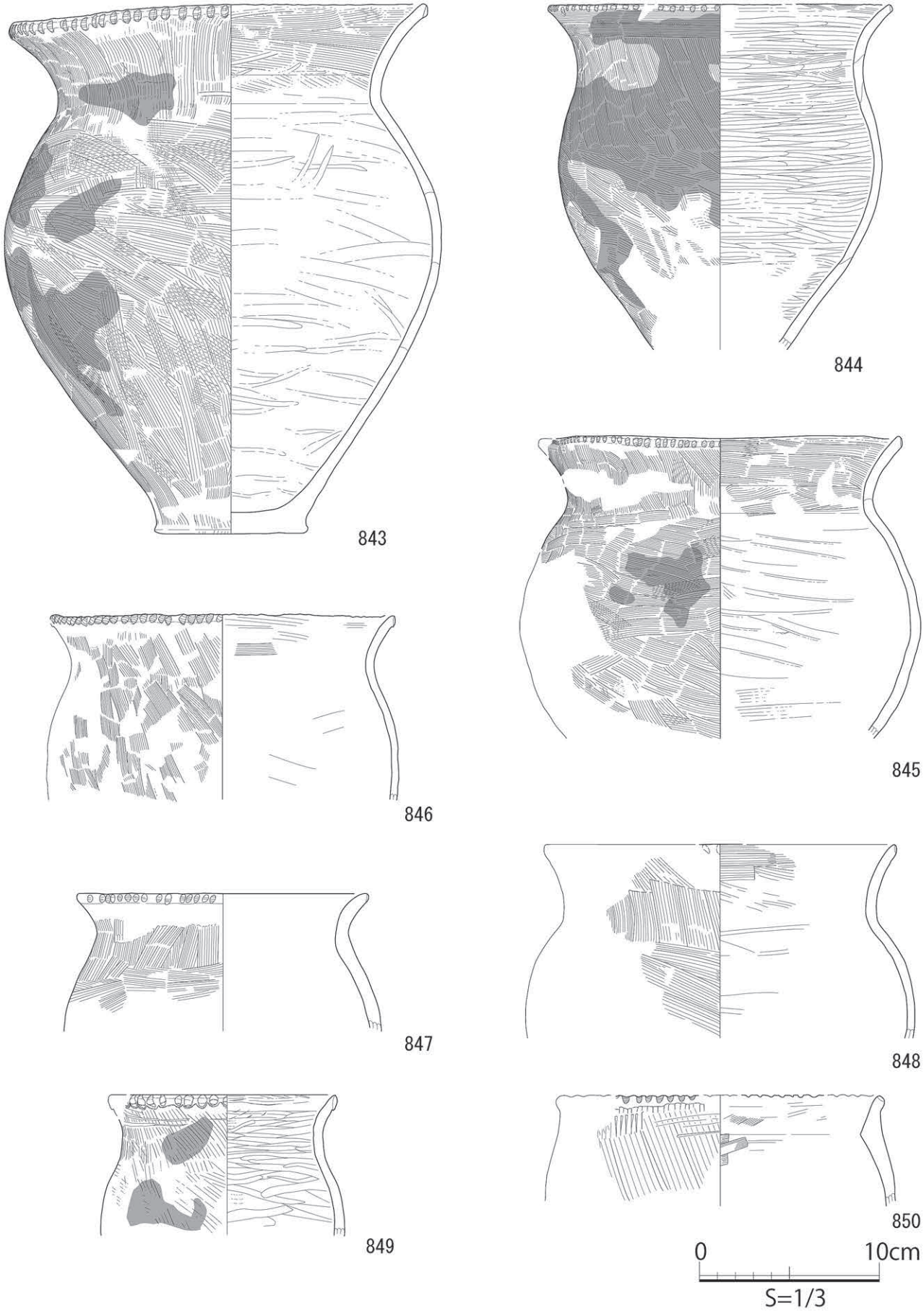


第 99 図　C 区出土遺物 (27)

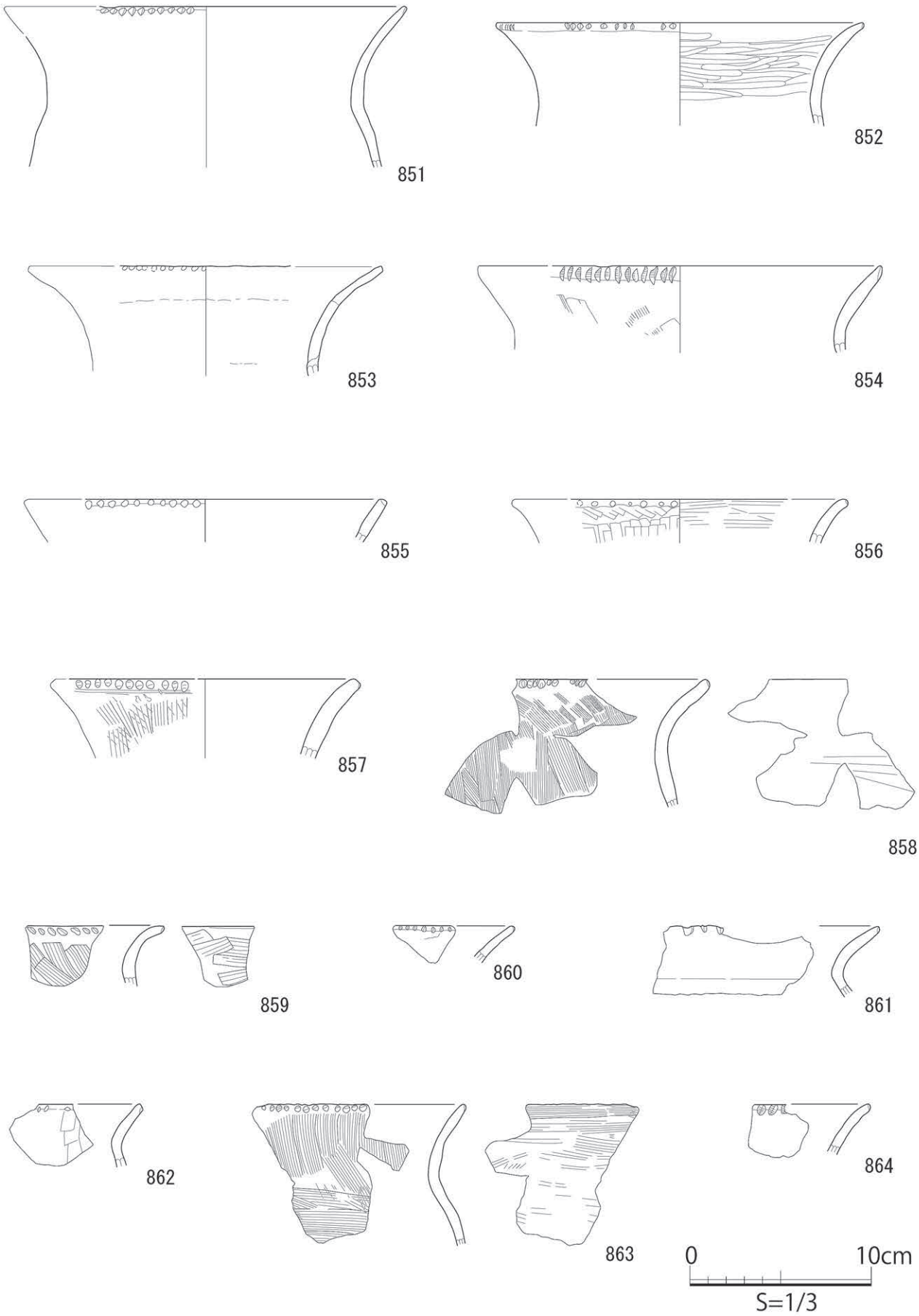
遺構外



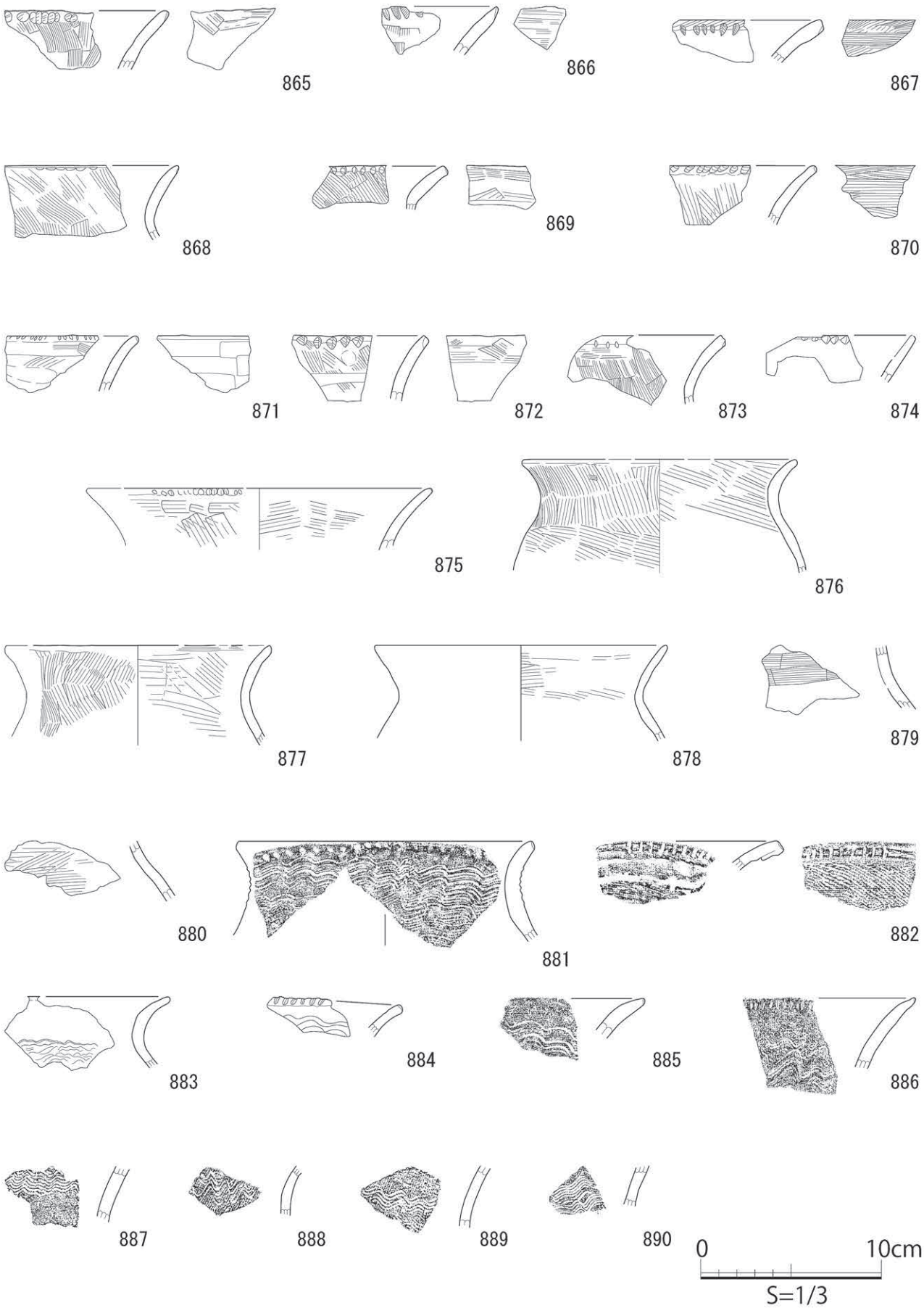
第 100 図　C 区出土遺物 (28)



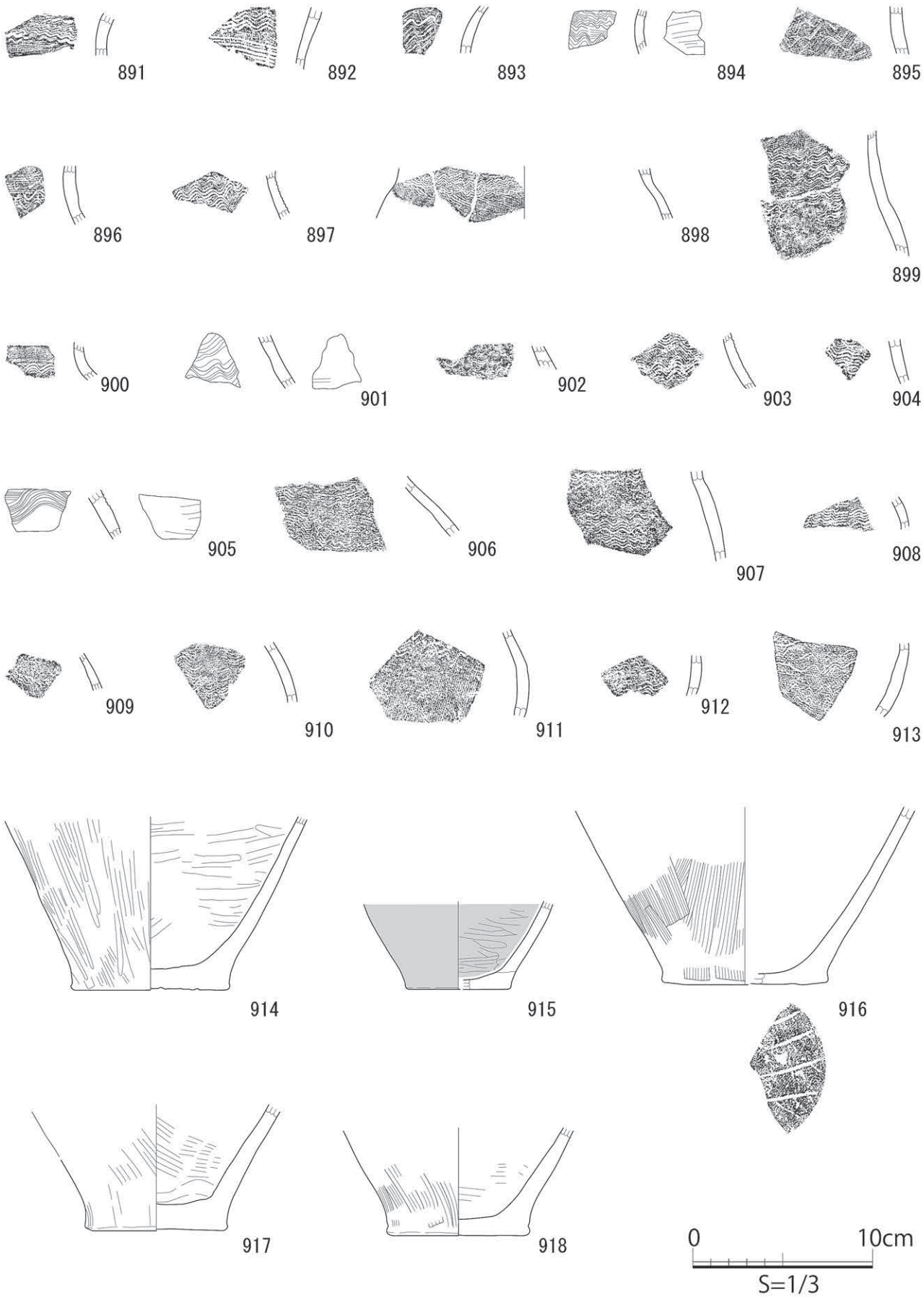
第 101 図　C区出土遺物 (29)



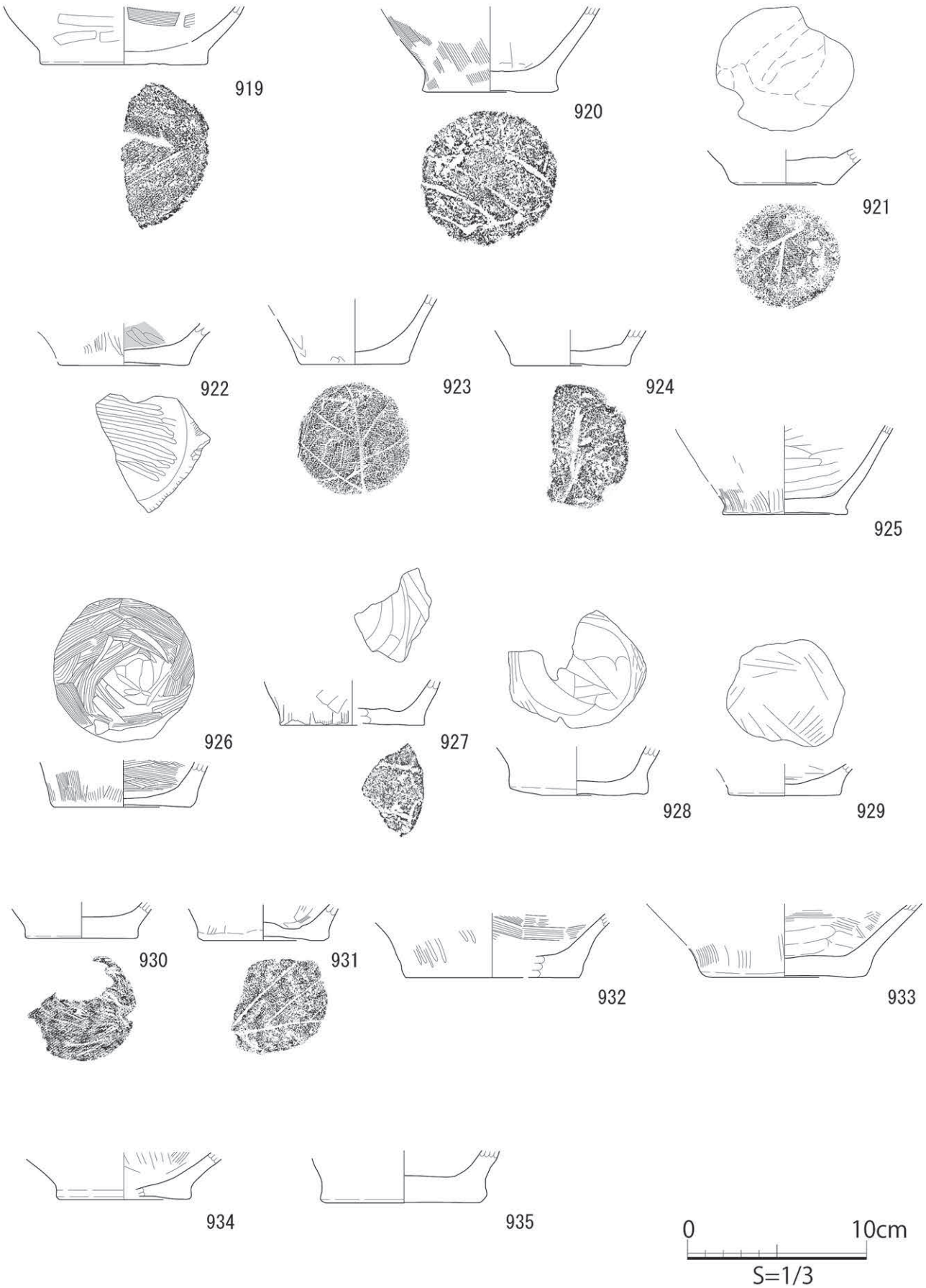
第 102 図　C 区出土遺物 ㉚



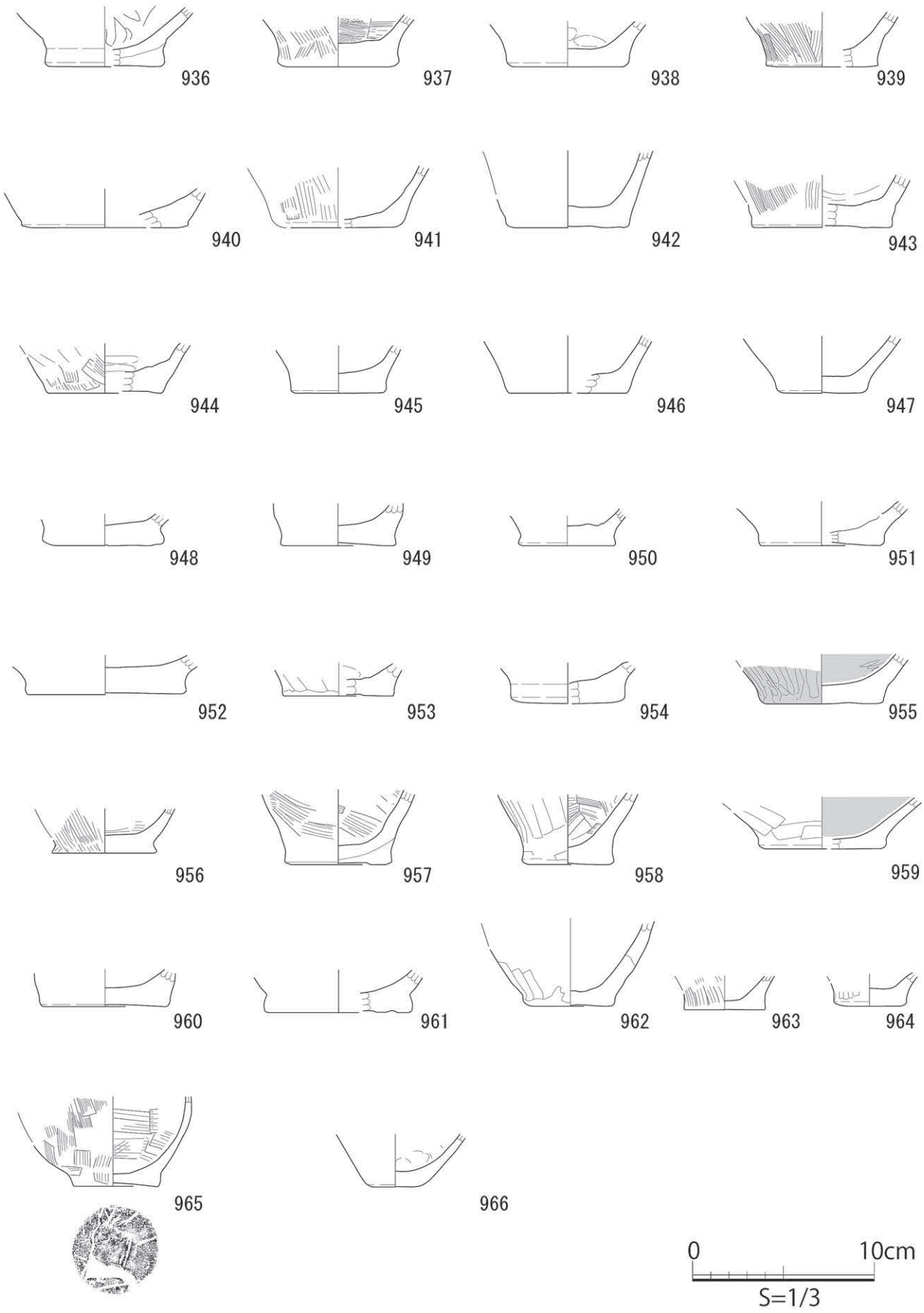
第 103 図　C区出土遺物 (31)



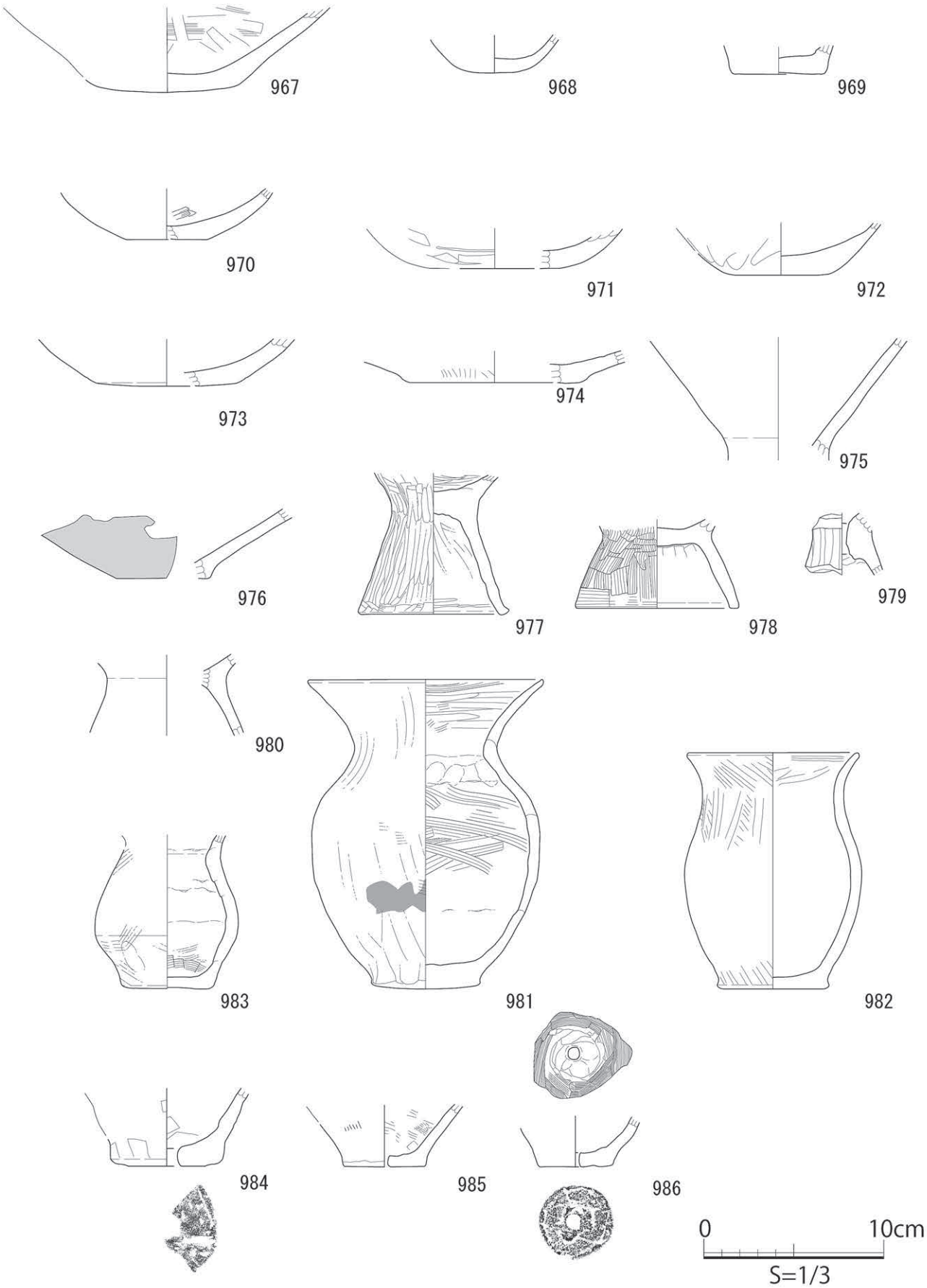
第 104 図　C区出土遺物 (32)



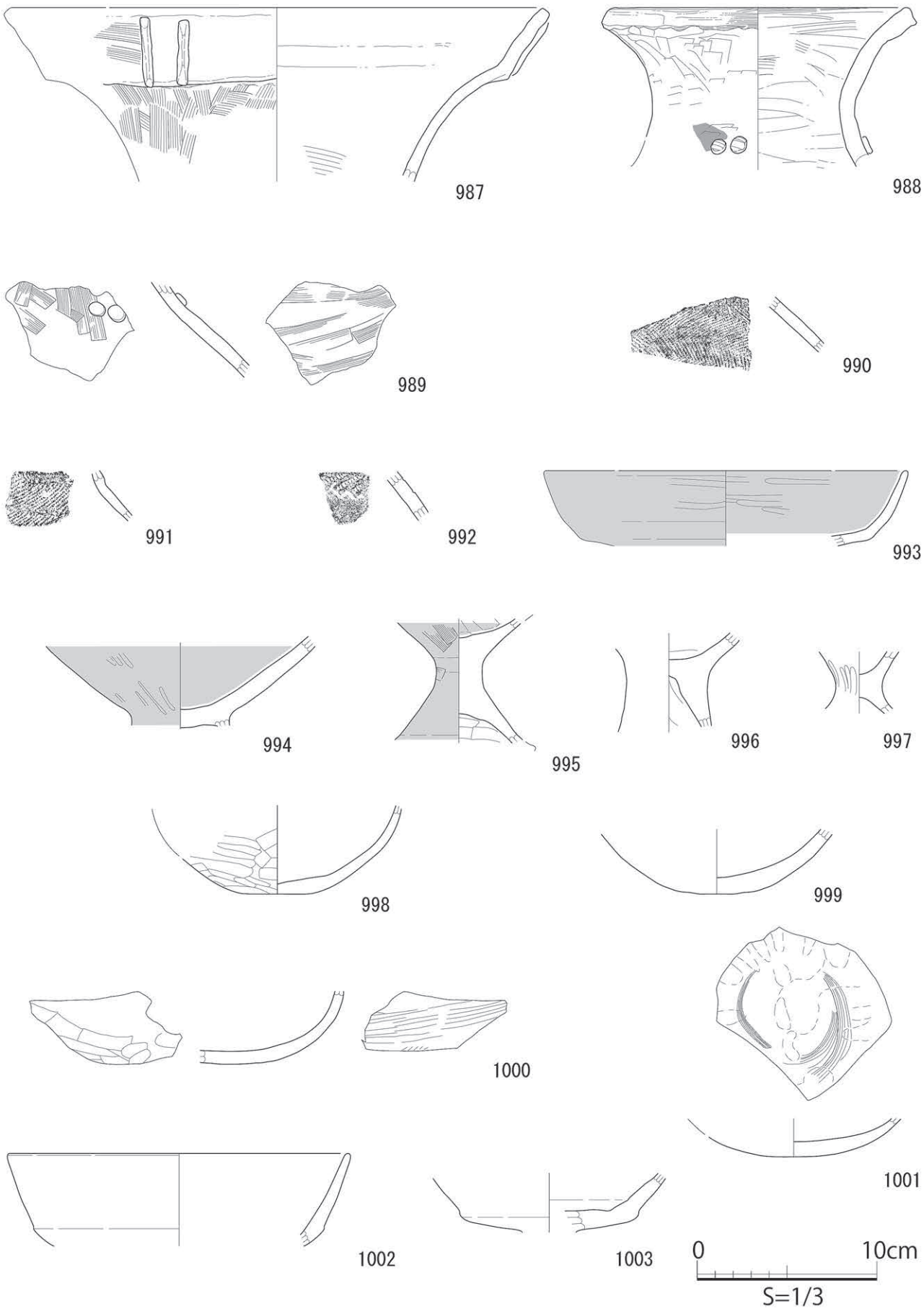
第 105 図　C 区出土遺物 (33)



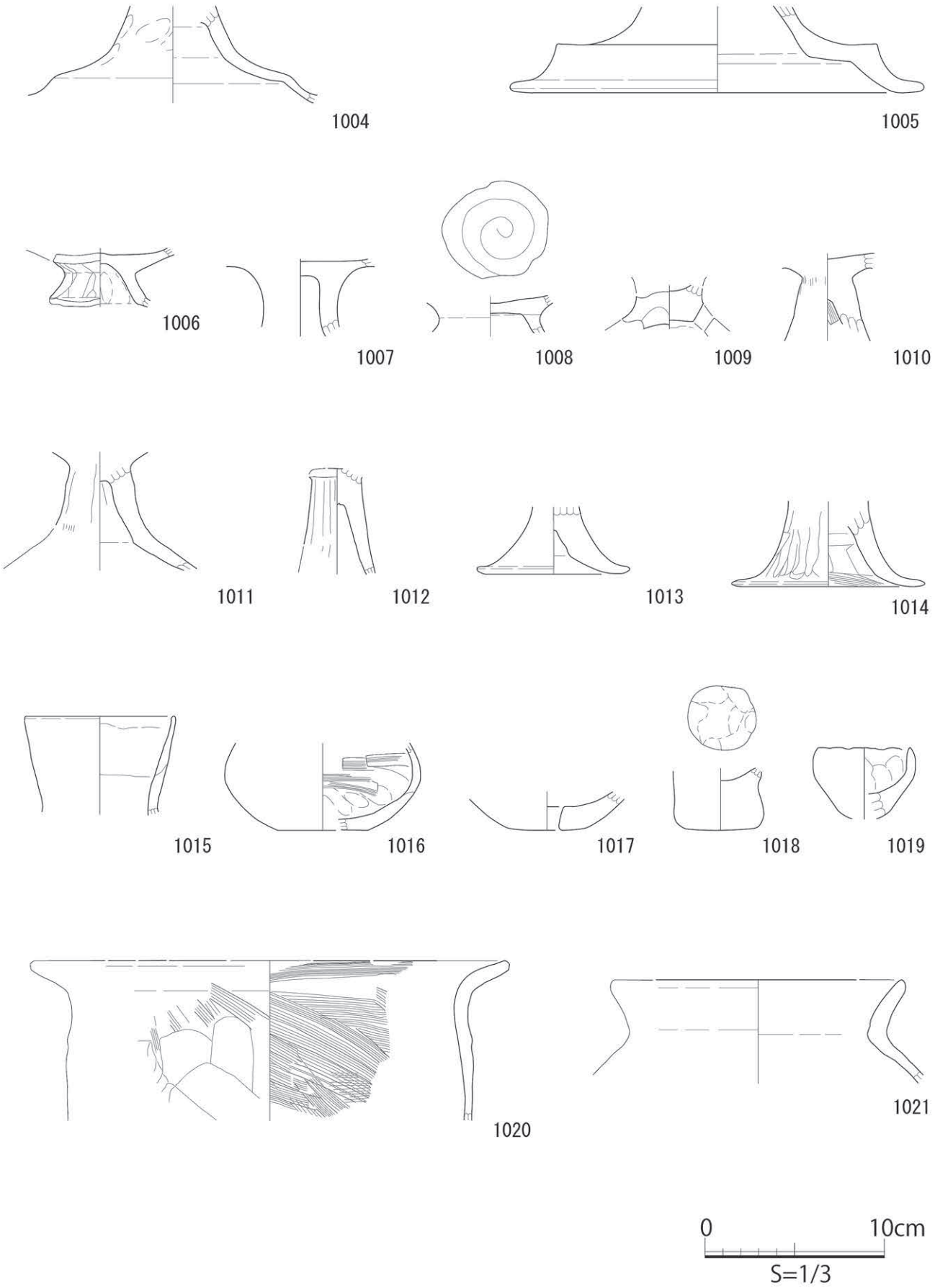
第 106 図　C区出土遺物 (34)



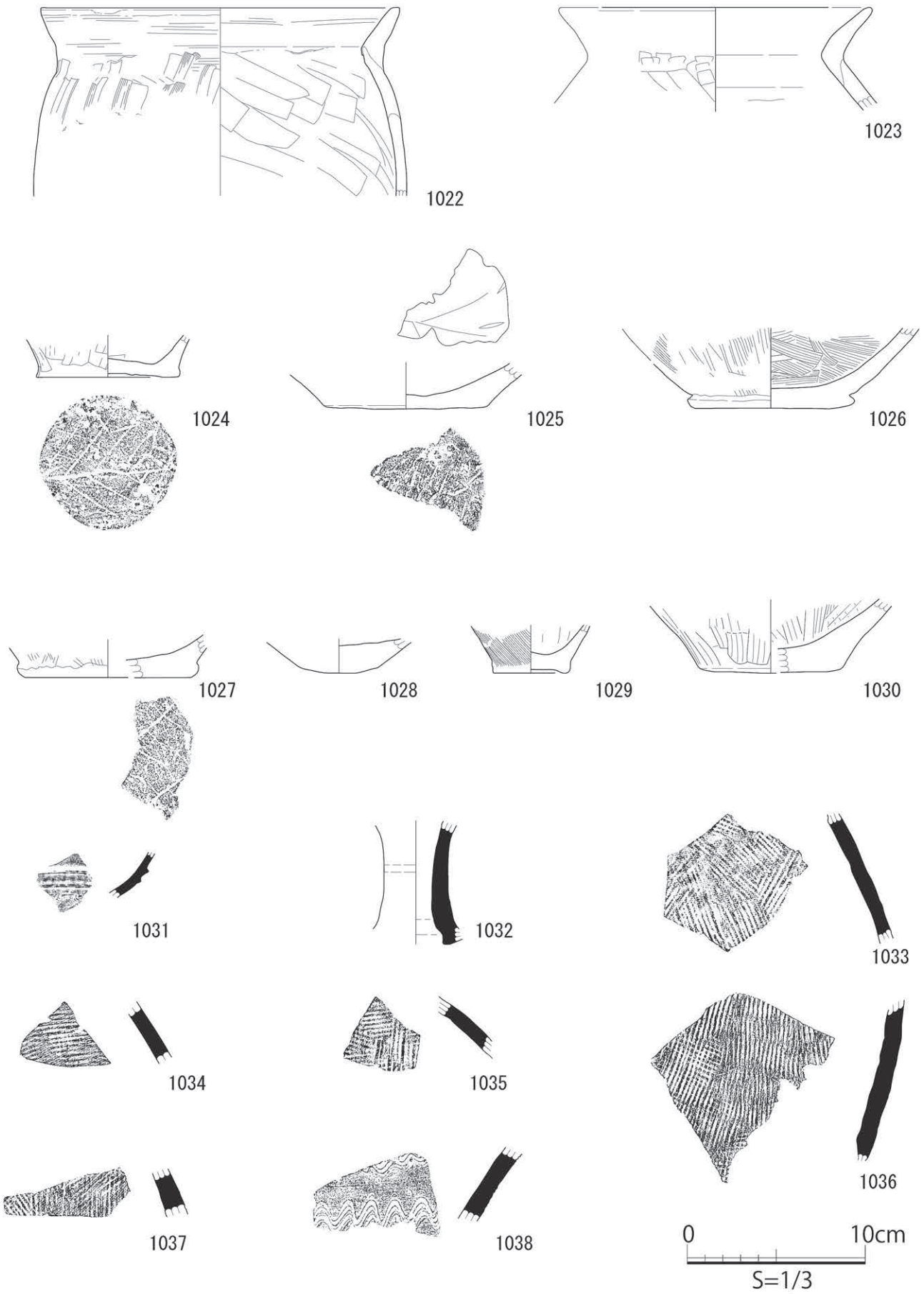
第 107 図　C区出土遺物 (35)



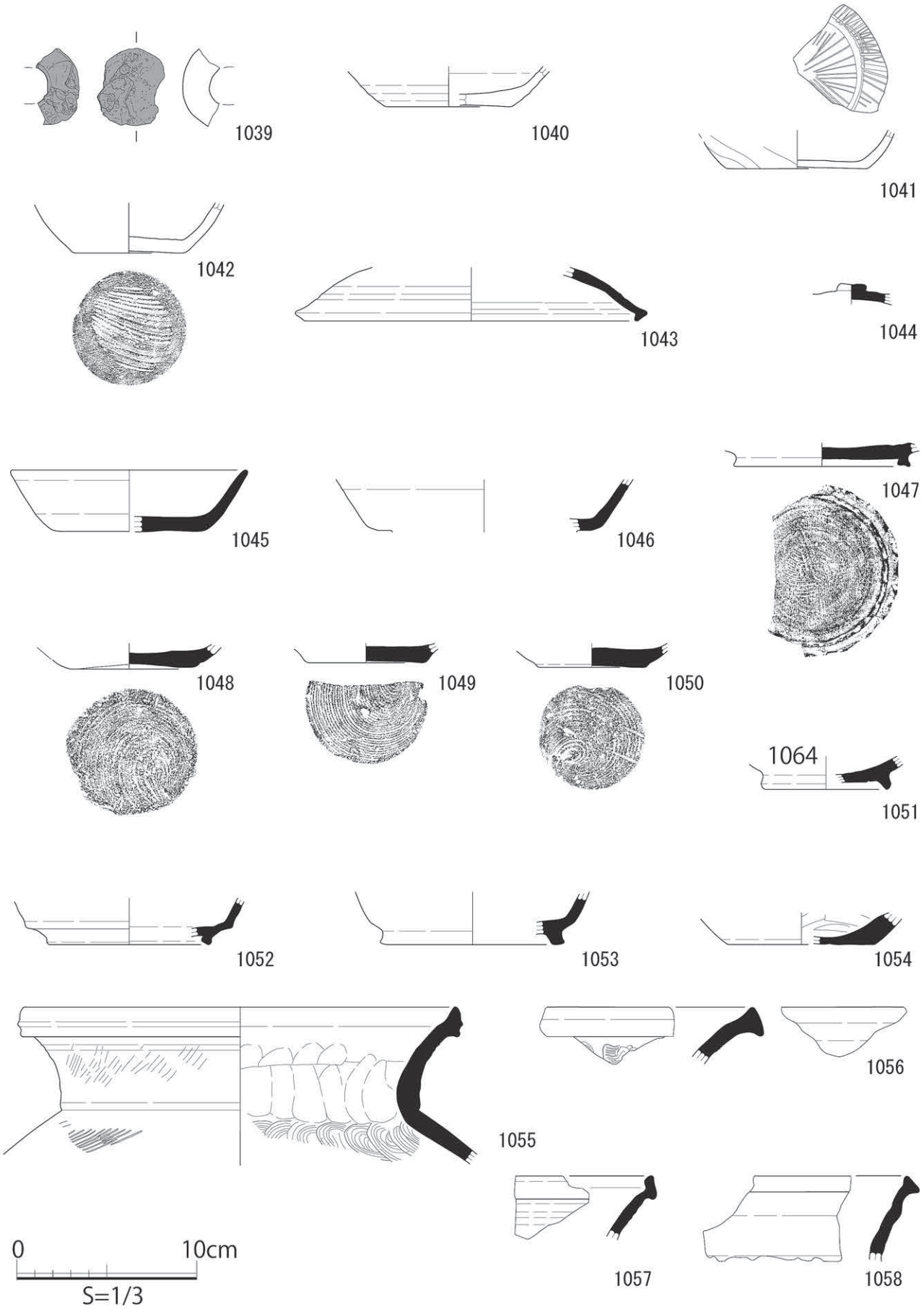
第 108 図　C 区出土遺物 ㊱



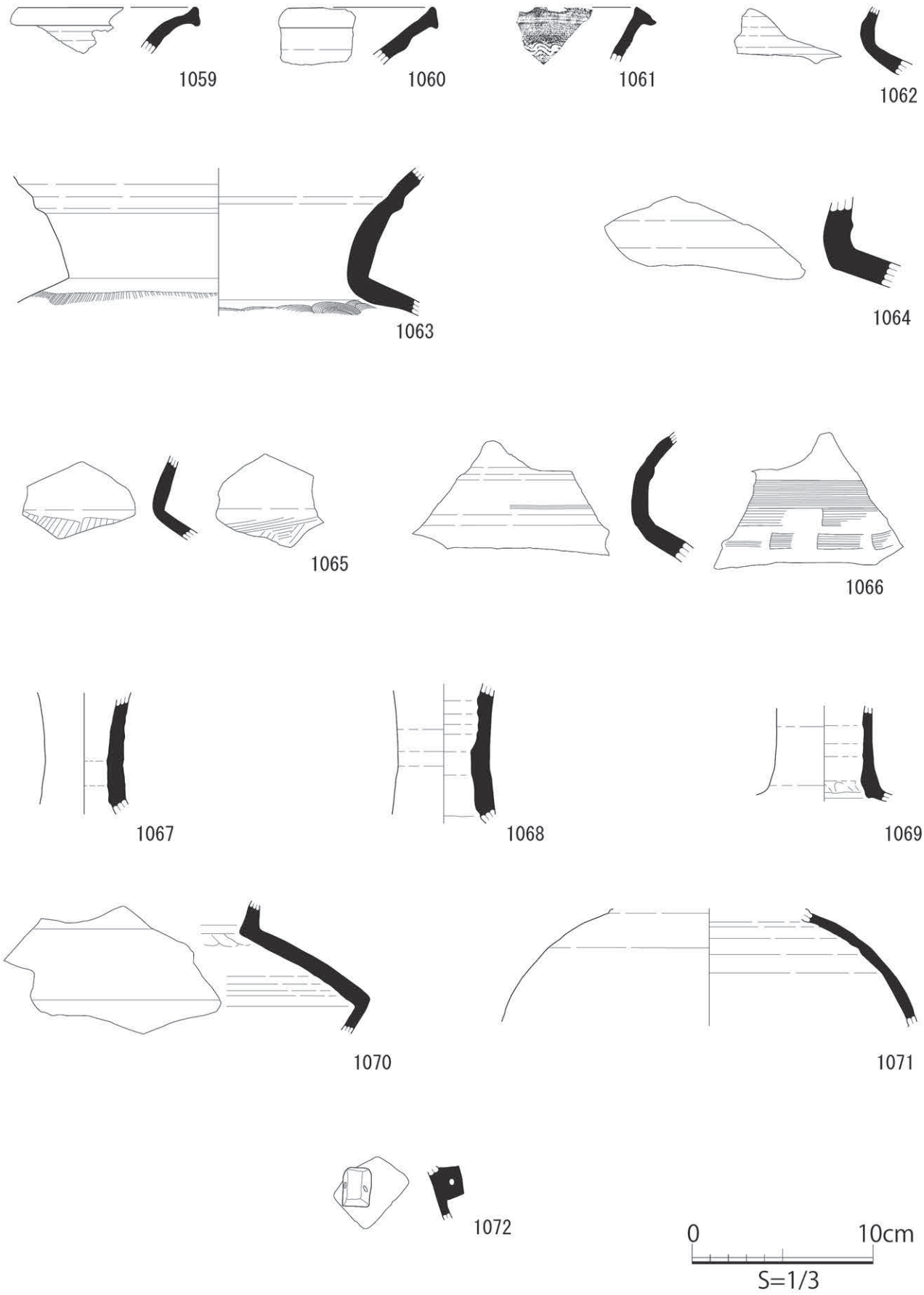
第 109 図　C 区出土遺物 (37)



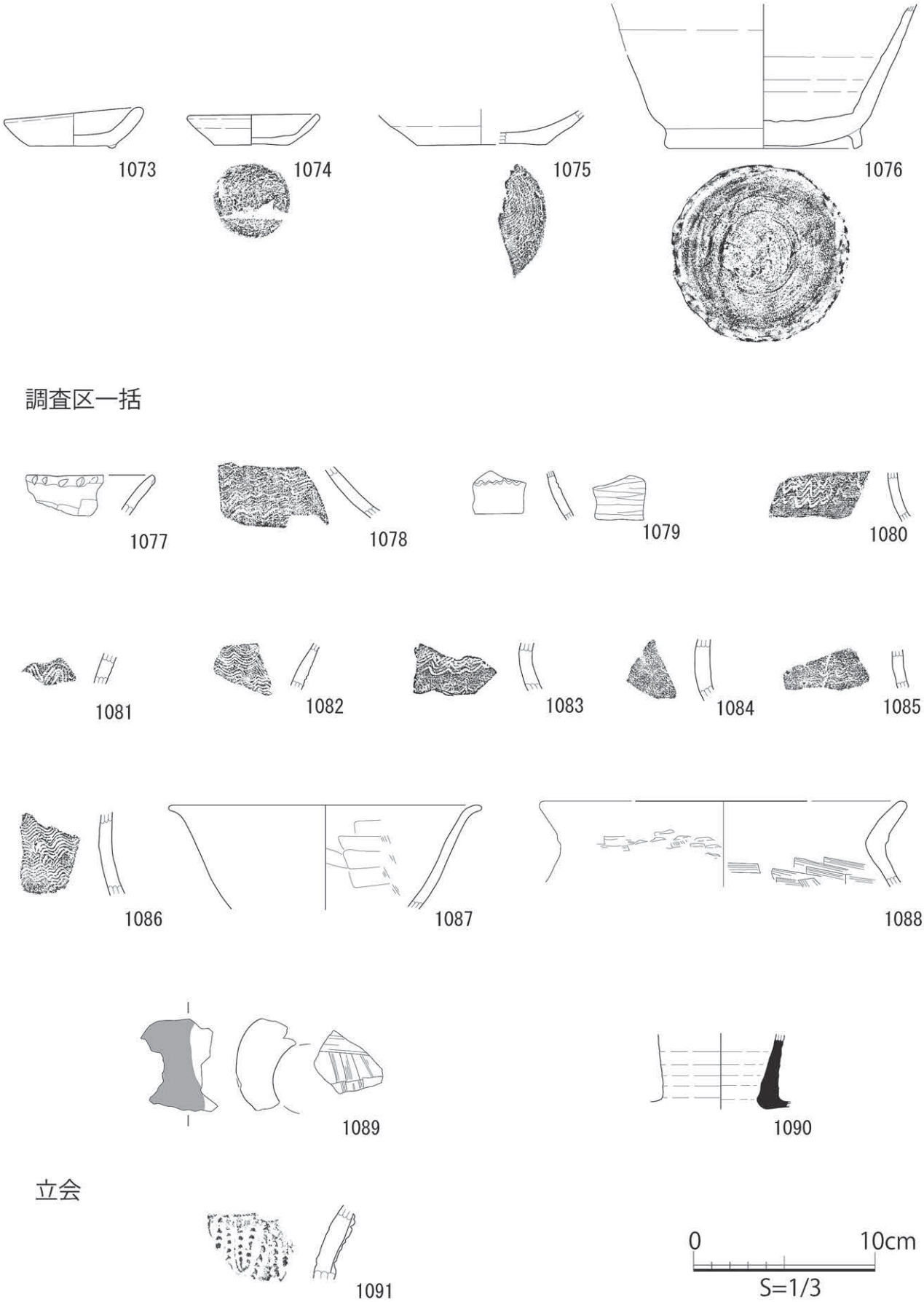
第 110 図　C 区出土遺物 (38)



第 111 図　C区出土遺物 (39)

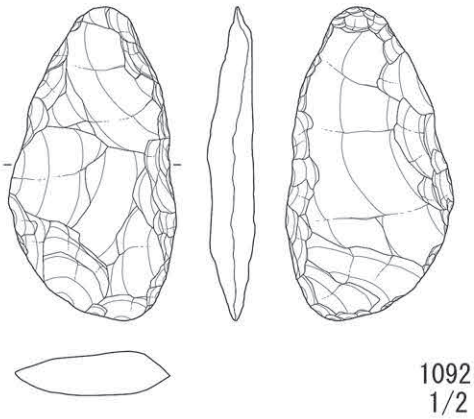


第112図　C区出土遺物(40)

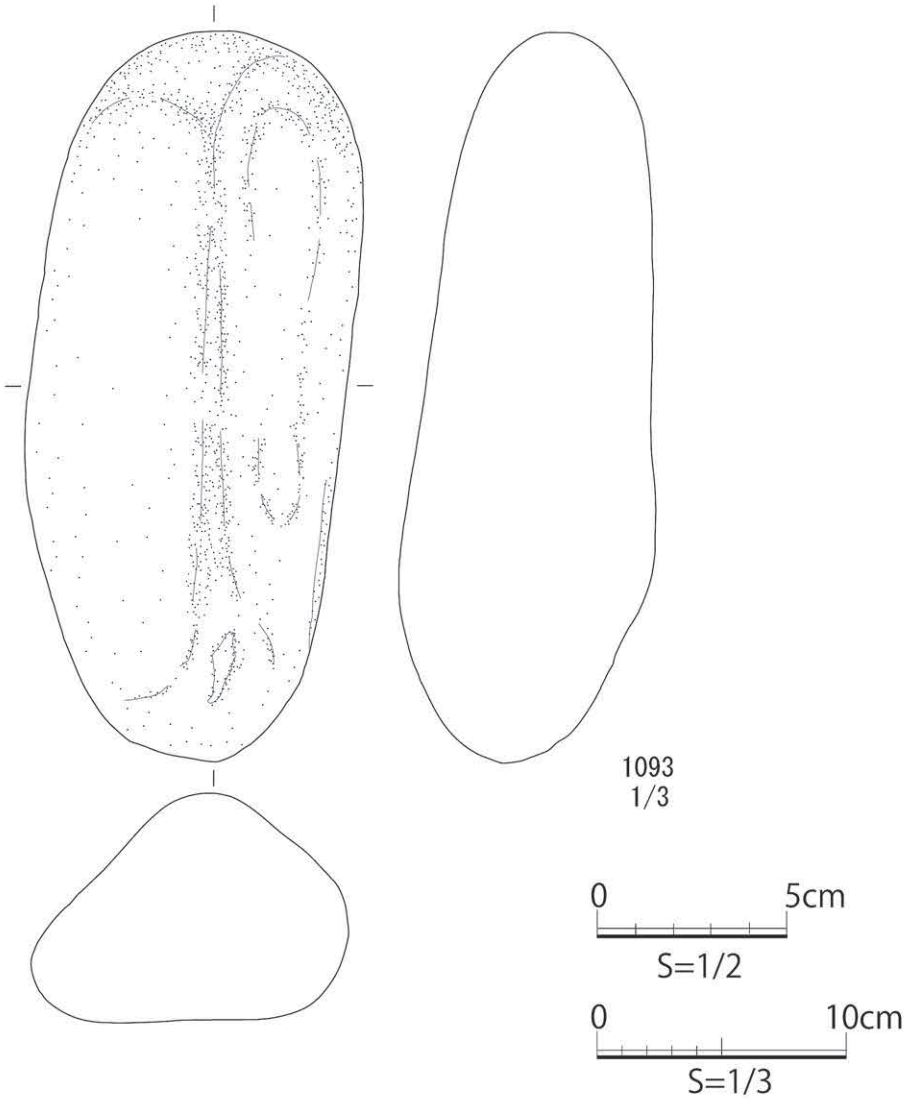


第113図　C区出土遺物(41)

20 号溝状遺構

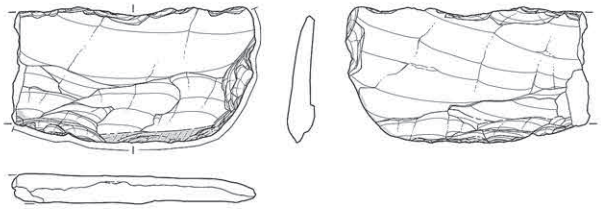


22 号溝状遺構

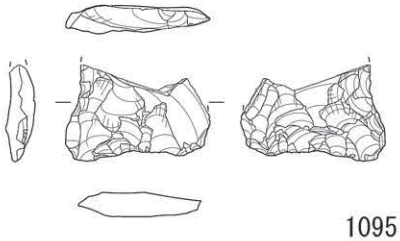


第 114 図　C 区出土遺物 (42)

遺物集中地点 1

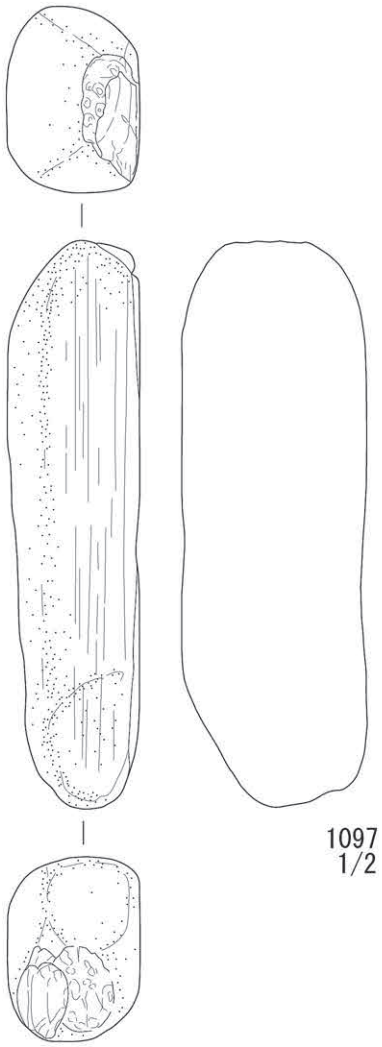


1094
1/2



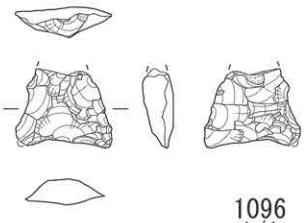
1095
1/1

3 号竪穴状遺構



1097
1/2

2 号竪穴状遺構

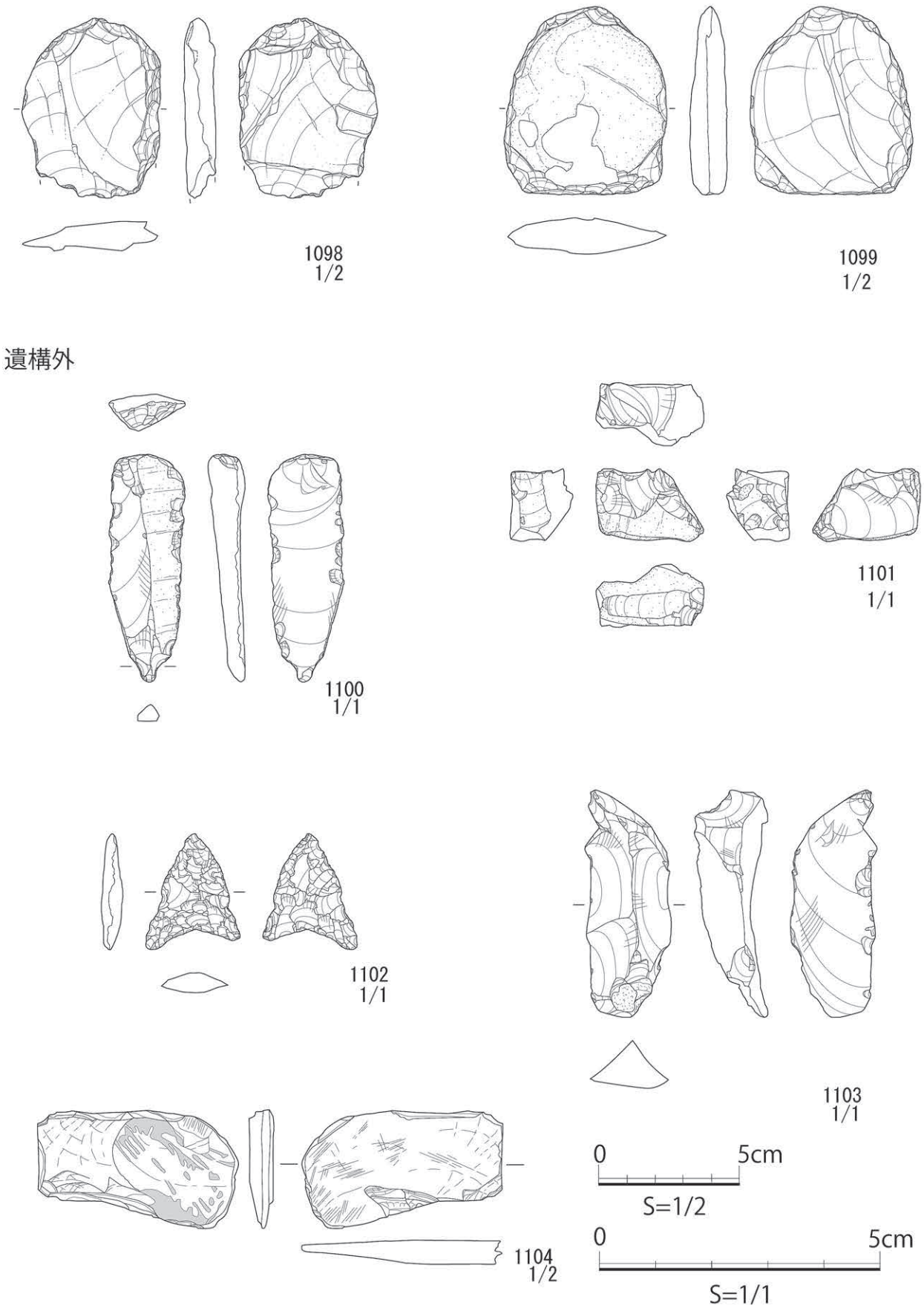


1096
1/1

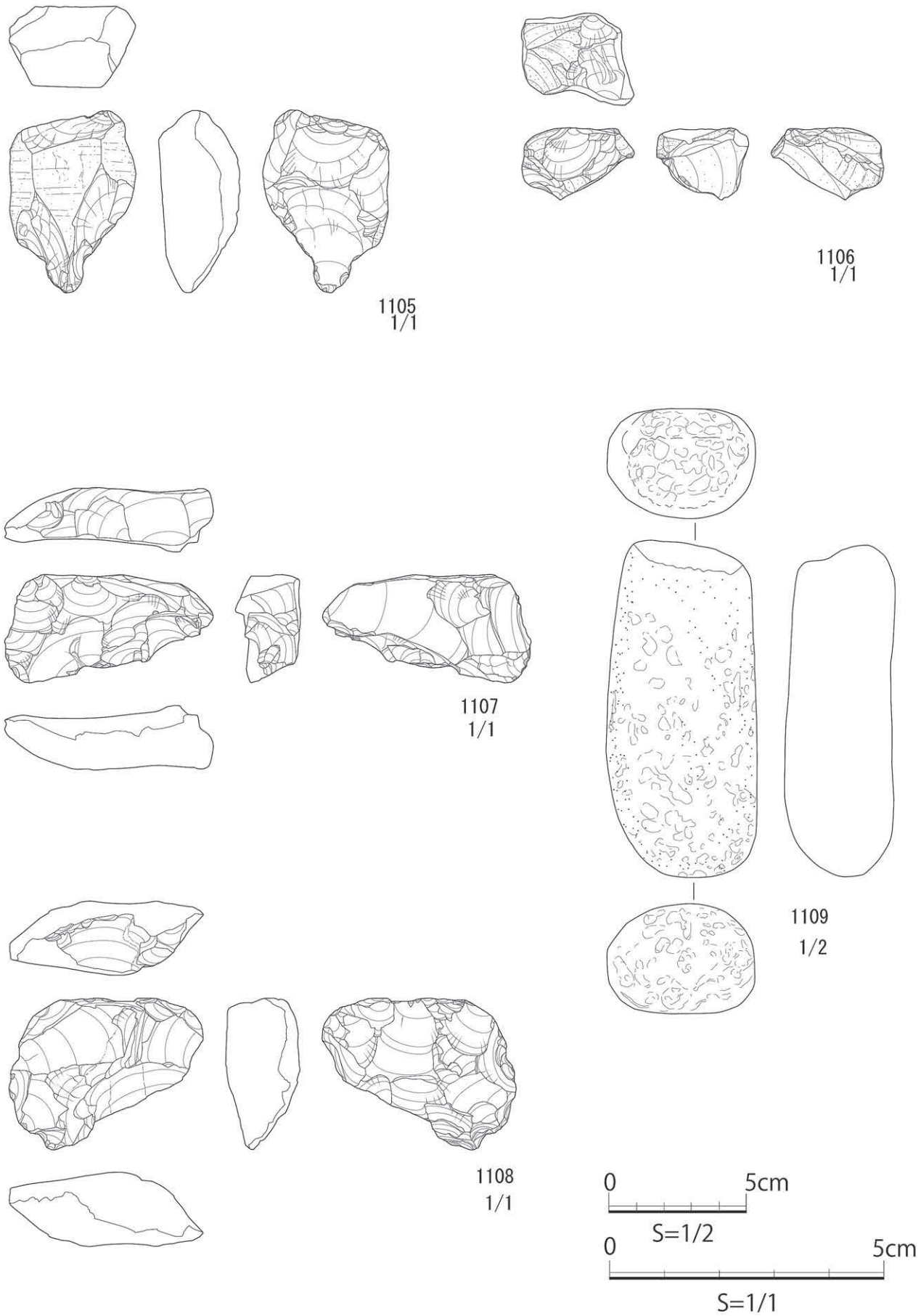
0 5cm
S=1/2

0 5cm
S=1/1

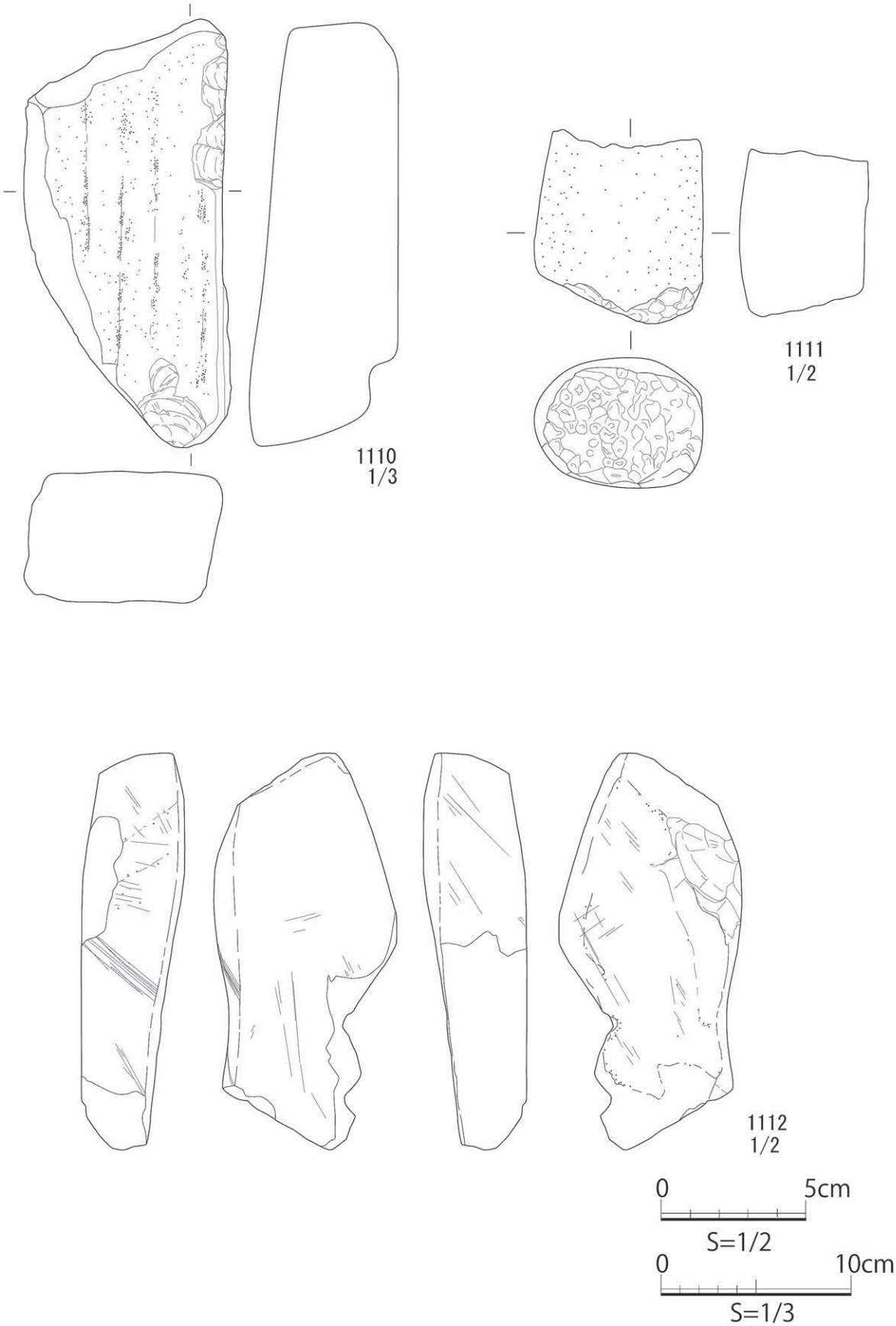
第 115 図　C 区出土遺物 (43)



第 116 図　C区出土遺物 (44)

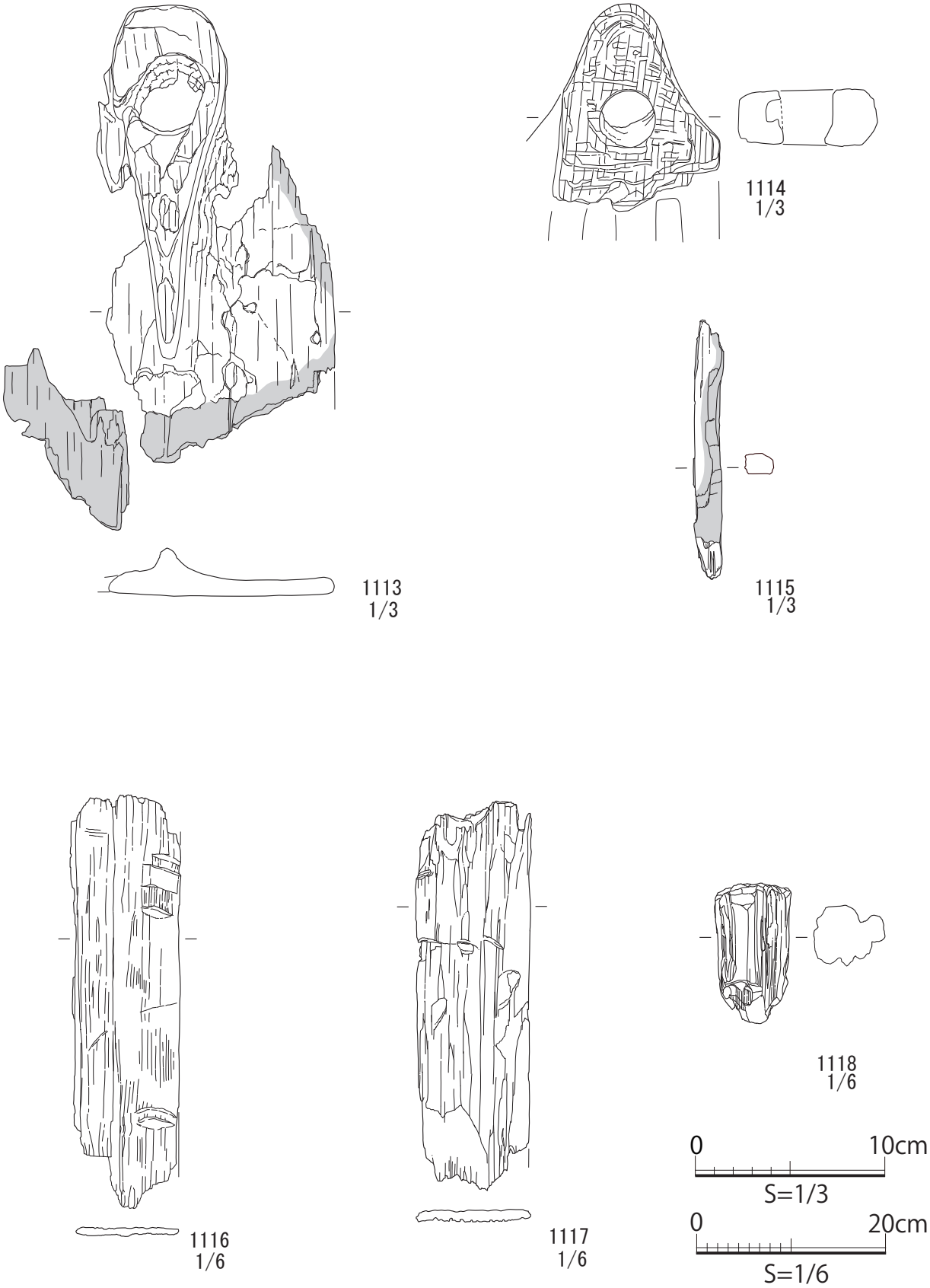


第 117 図　C区出土遺物 (45)

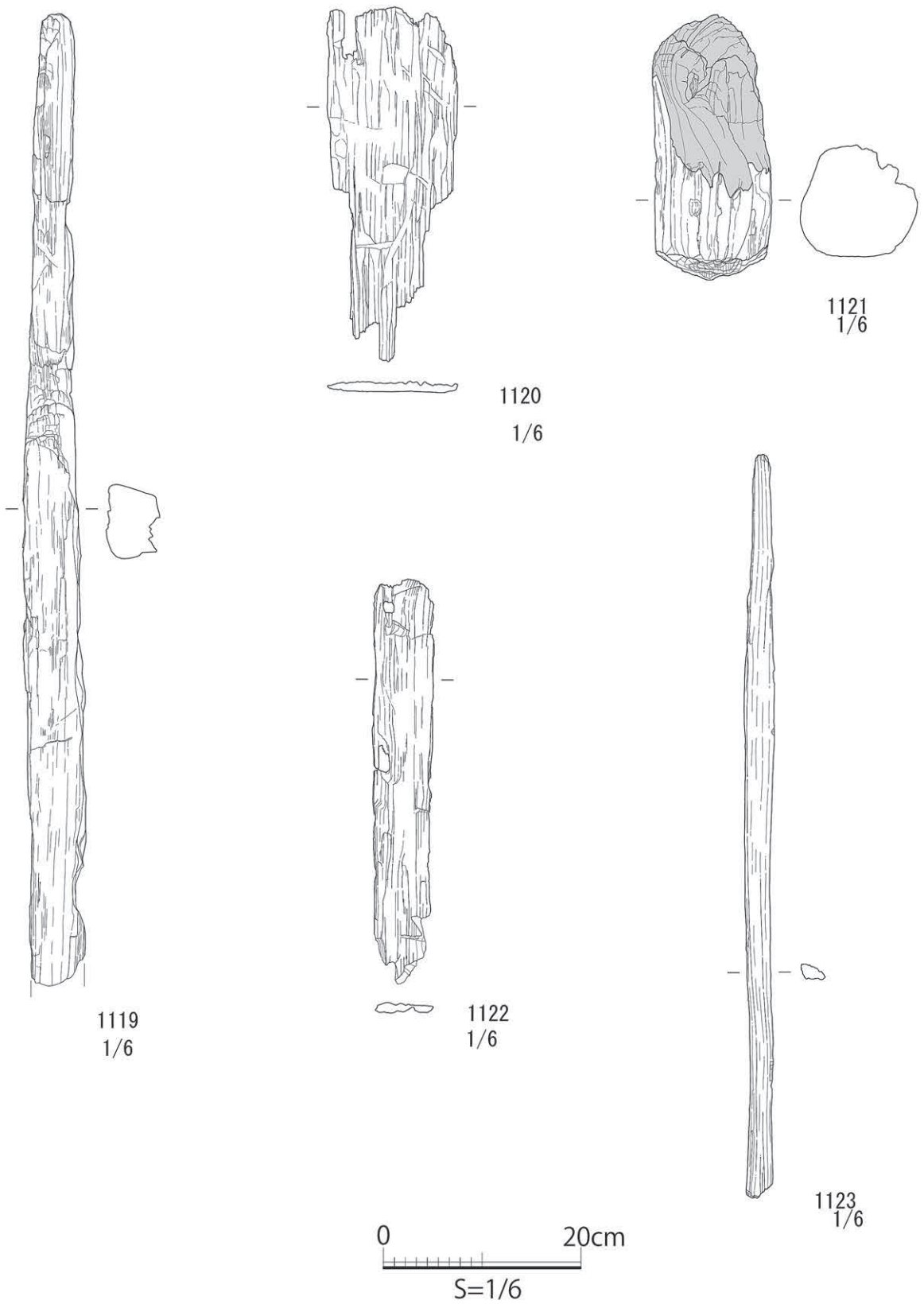


第 118 図　C区出土遺物 (46)

8 号溝状遺構

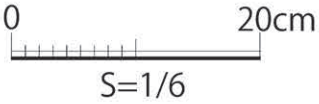


第 119 図　C 区出土遺物 (47)

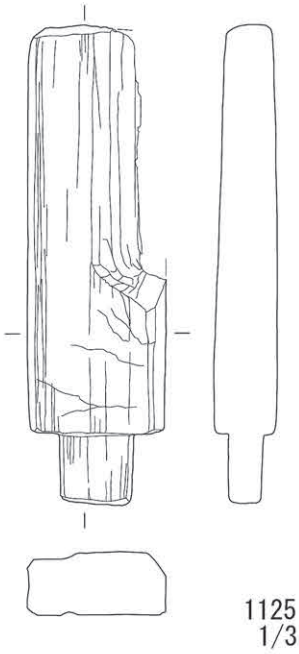


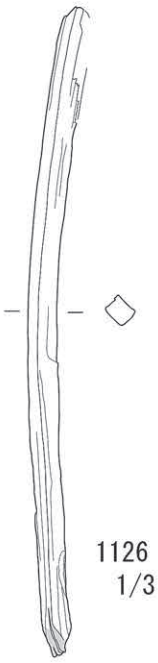
第 120 図　C 区出土遺物 (48)

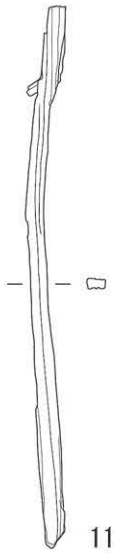
15 号ピット

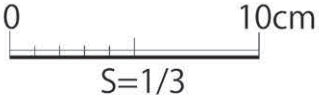


1 号溝状遺構

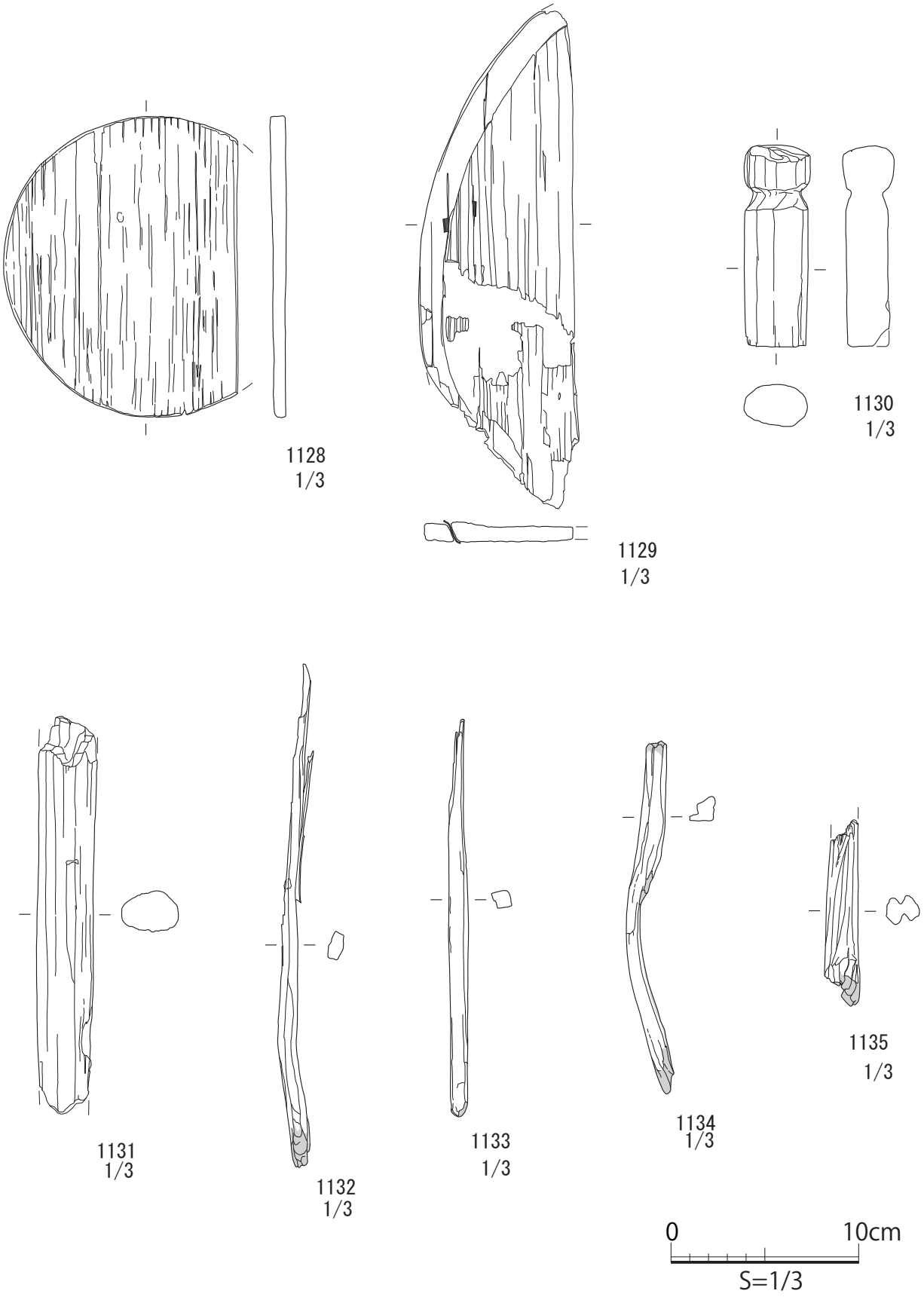






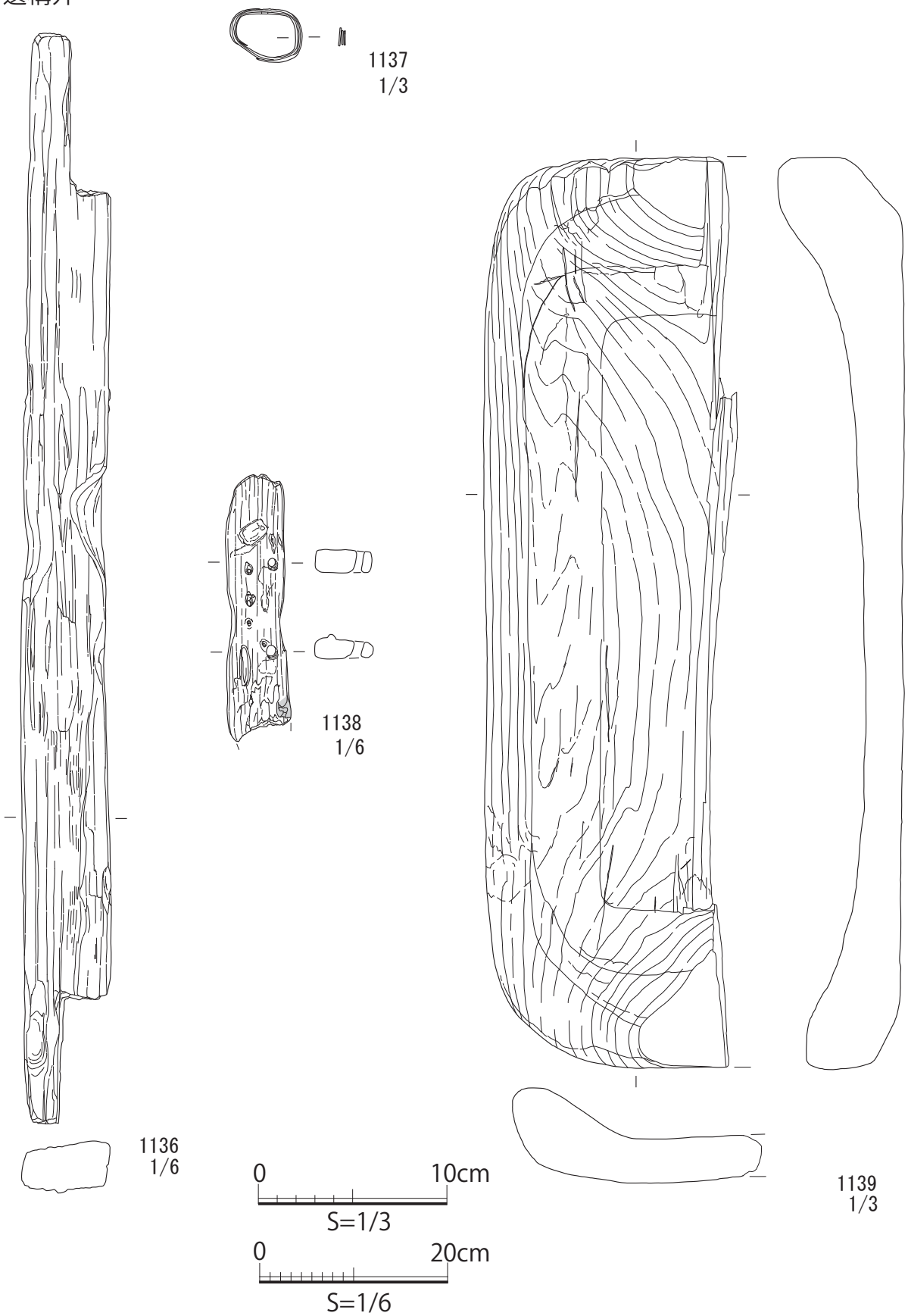


第 121 図　C 区出土遺物 (49)

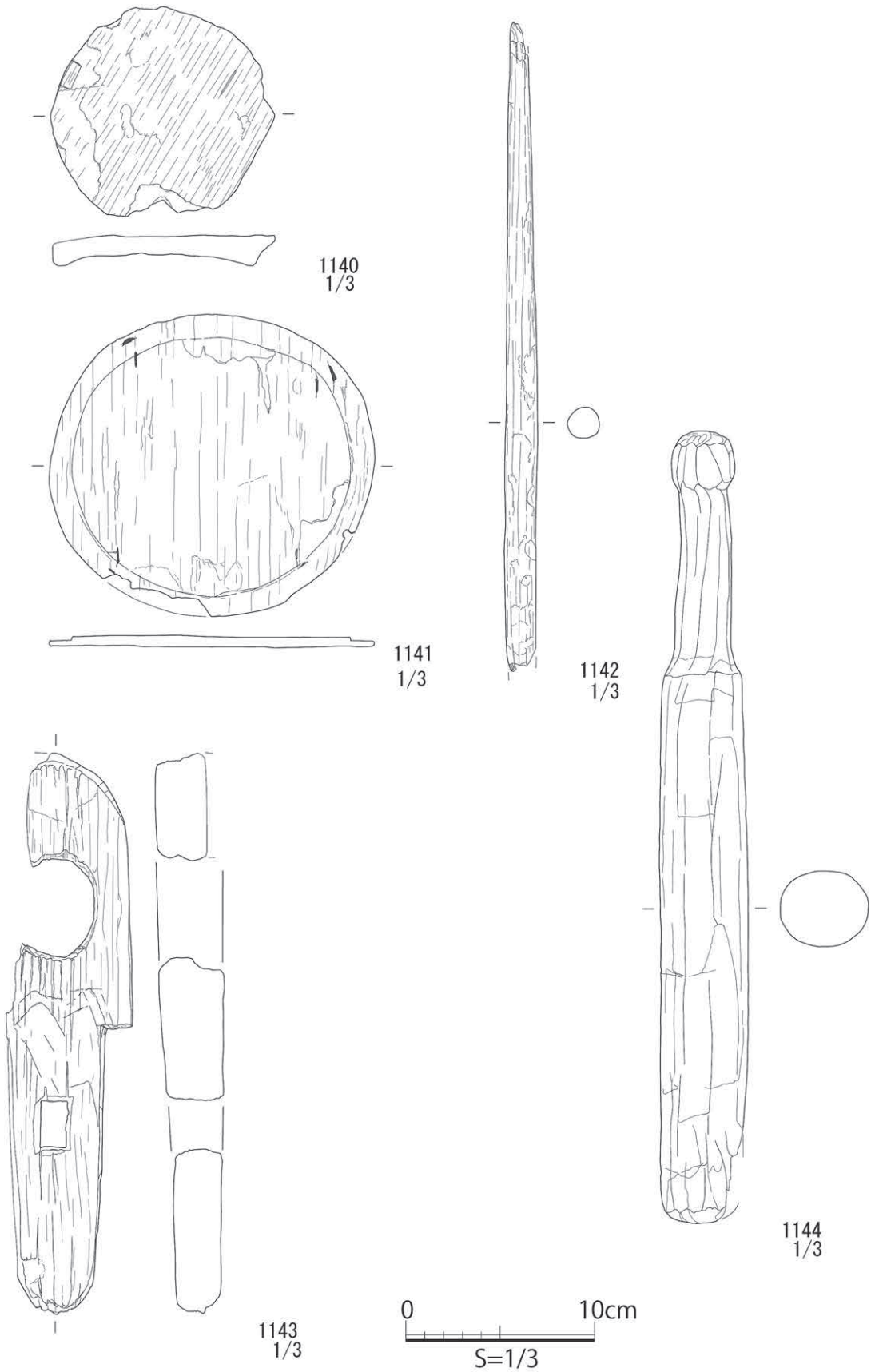


第 122 図　C 区出土遺物 (50)

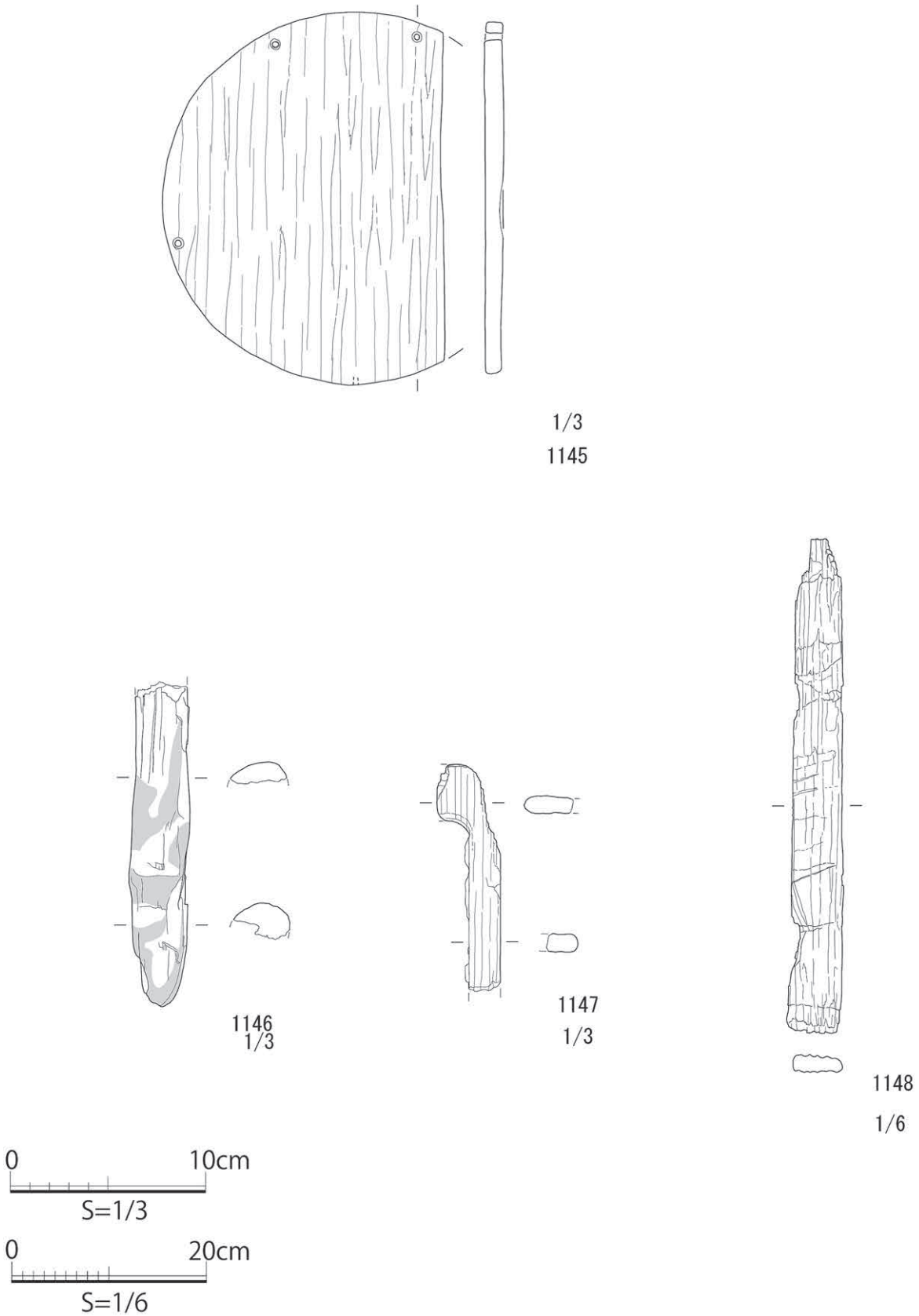
遺構外



第 123 図　C 区出土遺物 (51)



第 124 図　C 区出土遺物 (52)



第 125 図　C 区出土遺物 (53)

第２表　遺構一覧表

調査区		遺構名	位置	時代	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　　考
1	A区	3号掘立柱建物跡	ao6,ap6	弥生時代	300.0	―	―	AMS年代測定の結果、紀元前２世紀から紀元1世紀(弥生時代中期後半～後期）の遺構と判断される
2	A区	1号焼土集中	ad-9･-10	弥生時代	33.0	22.0	―	
3	A区	2号焼土集中	ar9	弥生時代	53.0	30.0	―	
4	B区	4号溝状遺構	M1･-1	弥生時代	220.0	48.0	180.0	自然流路の可能性あり
5	B区	5号溝状遺構	S-7,T-7	弥生時代	410.0	52.0	22.0	覆土より櫛描波状文甕が出土した
6	B区	6号溝状遺構	M-3･-2,N-2	弥生時代	420.0	73.0	20.0	自然流路の可能性あり
7	B区	7号溝状遺構	M-1･-2	弥生時代	760.0	140.0	15.0	自然流路の可能性あり
8	B区	1号溝状遺構	N-2･-3,O-3･-2･-1,P-2･-1	古墳時代	1270.0	340.0	50.0	C区1号溝状遺構に連続する可能性あり
9	C区	2号掘立柱建物跡	X10･11,Y10･11	弥生時代	360.0	300.0	42.0	６期の遺物を伴っている
10	C区	2号土坑	Z19	弥生時代	102.0	72.0	65.0	
11	C区	3号土坑	X16	弥生時代	60.0	60.0	18.0	
12	C区	4号土坑	T15	弥生時代	130.0	110.0	40.0	
13	C区	5号土坑	X14	弥生時代	90.0	90.0	40.0	
14	C区	7号土坑	AB16	弥生時代	180.0	125.0	―	ハケ調整平底甕と櫛描波状文甕が共存している
15	C区	8号土坑	AB16	弥生時代	75.0	55.0	30.0	
16	C区	9号土坑	AC17	弥生時代	55.0	50.0	12.0	
17	C区	13号柱穴	AB19	弥生時代	40.0	30.0	30.0	
18	C区	14号柱穴	Z19	弥生時代	40.0	30.0	28.0	
19	C区	15号柱穴	AA19	弥生時代	44.0	30.0	30.0	
20	C区	16号柱穴	AB16	弥生時代	40.0	40.0	10.0	
21	C区	17号柱穴	X16	弥生時代	30.0	28.0	50.0	
22	C区	18号柱穴	AB16	弥生時代	50.0	40.0	30.0	
23	C区	19号柱穴	AA15	弥生時代	60.0	50.0	55.0	
24	C区	20号柱穴	X13	弥生時代	50.0	40.0	―	
25	C区	8号溝状遺構	U15･16,W15･16,X15,Y14･Z13･14	弥生時代	2650.0	90.0	95.0	弥生時代後期から古墳時代初頭の一括資料が出土した
26	C区	9号溝状遺構	U15,W15	弥生時代	430.0	100.0	―	
27	C区	10号溝状遺構	U17･18,W17	弥生時代	650.0	95.0	30.0	
28	C区	11号溝状遺構	U17･18	弥生時代	190.0	60.0	10.0	
29	C区	12号溝状遺構	U18,W18	弥生時代	200.0	35.0	10.0	
30	C区	13号溝状遺構	AA15,AB15･16	弥生時代	900.0	70.0	13.0	自然流路の可能性あり
31	C区	14号溝状遺構	AB14･15･16,AC15･16	弥生時代	700.0	70.0	29.0	自然流路の可能性あり
32	C区	15号溝状遺構	AB14･15	弥生時代	300.0	35.0	25.0	自然流路の可能性あり
33	C区	16号溝状遺構	X15･16	弥生時代	260.0	50.0	12.0	
34	C区	17号溝状遺構	W16,X16,Y15･16,Z16	弥生時代	1400.0	40.0	26.0	
35	C区	18号溝状遺構	Z16･17,AA17	弥生時代	810.0	50.0	8.0	
36	C区	19号溝状遺構	Z19,AA19･20	弥生時代	580.0	80.0	40.0	
37	C区	20号溝状遺構	AC18,AD16･17･18	弥生時代	1100.0	100.0	54.0	自然流路の可能性あり
38	C区	21号溝状遺構	AC17･18･19	弥生時代	800.0	50.0	10.0	自然流路の可能性あり
39	C区	22号溝状遺構	T14,U13･14,V12･13,W12･X12,Y10･11･12,Z10･11	弥生時代	3900.0	130.0	35.0	古墳時代後期から古墳時代初期の一括資料が出土した
40	C区	23号溝状遺構	AB16,AC16	弥生時代	400.0	70.0	50.0	自然流路の可能性あり
41	C区	24号溝状遺構	AC15	弥生時代	120.0	70.0	―	自然流路の可能性あり
42	C区	25号溝状遺構	AB14･15,AC15	弥生時代	230.0	60.0	―	自然流路の可能性あり
43	C区	26号溝状遺構	AC14･15	弥生時代	220.0	50.0	27.0	自然流路の可能性あり

調査区		遺構名	位置	時代	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
44	C区	27号溝状遺構	AB15,AC15	弥生時代	150.0	100.0	―	自然流路の可能性あり
45	C区	28号溝状遺構	AB15・16	弥生時代	400.0	80.0	―	自然流路の可能性あり
46	C区	29号溝状遺構	AC18,AD18・19	弥生時代	510.0	80.0	14.0	自然流路の可能性あり
47	C区	遺物集中地点1	T16,U15・16,V16・17・W16・17,X17	弥生時代	2100.0	900.0	98.0	
48	C区	2号竪穴状遺構	AD5,AE5・6,AF5	古墳時代	500.0	440.0	40.0	古墳時代中期後葉の一括資料が出土した
49	C区	3号竪穴状遺構	AF4・5,AG3・4	古墳時代	920.0	―	160.0	古墳時代中期後葉の一括資料で須恵器,ハソウ,坏が出土した
50	C区	3'号竪穴状遺構	AE4・5,AF4・5	古墳時代	400.0	180.0	20.0	
51	C区	10号土坑	AE5	古墳時代	85.0	80.0	20.0	
52	C区	11号土坑	AF4,AG4	古墳時代	68.0	40.0	32.0	
53	C区	12号土坑	AF4,AF5	古墳時代	65.0	58.0	50.0	
54	C区	13号土坑	AF4,AG4	古墳時代	144.0	102.0	10.0	古墳時代中期後葉の一括資料が出土した
55	C区	14号土坑	AG4	古墳時代	70.0	66.0	―	古墳時代中期後葉の一括資料が出土した
56	C区	15号土坑	AG4	古墳時代	70.0	40.0	20.0	
57	C区	16号土坑	AF4	古墳時代	90.0	62.0	15.0	
58	C区	17号土坑	AE4,AE5	古墳時代	70.0	―	25.0	
59	C区	18号土坑	AE4,AF4	古墳時代	70.0	―	10.0	
60	C区	19号土坑	AE4	古墳時代	50.0	45.0	10.0	
61	C区	20号土坑	AF3・4	古墳時代	130.0	70.0	25.0	
62	C区	21号土坑	AG3	古墳時代	140.0	85.0	―	
63	C区	21号柱穴	AE5	古墳時代	52.0	40.0	40.0	
64	C区	22号柱穴	AE5	古墳時代	35.0	35.0	18.0	
65	C区	23号柱穴	AE5	古墳時代	70.0	60.0	22.0	
66	C区	24号柱穴	AG3	古墳時代	38.0	32.0	20.0	
67	C区	25号柱穴	AF4	古墳時代	30.0	25.0	35.0	
68	C区	26号柱穴	AF4	古墳時代	20.0	―	10.0	
69	C区	27号柱穴	AE4	古墳時代	30.0	20.0	25.0	
70	C区	28号柱穴	AE5	古墳時代	30.0	25.0	15.0	
71	C区	1号溝状遺構	Z9・10,AA10・11,AB11・12・AE13,AF13・14	古墳時代	3450.0	250.0	122.0	B区1号溝状遺構に連続する可能性あり
72	C区	3号焼土集中	AE6	古墳時代	85.0	70.0	―	
73	C区	4号焼土集中	AE5,AE6	古墳時代	110.0	65.0	―	
74	C区	5号焼土集中	AE5	古墳時代	20.0	10.0	―	
75	C区	6号焼土集中	AE5	古墳時代	40.0	15.0	―	
76	C区	7号焼土集中	AE5	古墳時代	40.0	30.0	―	
77	C区	8号焼土集中	AE5	古墳時代	35.0	15.0	―	
78	C区	9号焼土集中	AF4,AF5	古墳時代	94.0	60.0	―	
79	C区	10号焼土集中	AG3	古墳時代	15.0	15.0	―	
80	C区	11号焼土集中	AF4	古墳時代	35.0	15.0	―	
81	C区	12号焼土集中	AF4	古墳時代	28.0	20.0	―	
82	C区	13号焼土集中	AG3	古墳時代	140.0	80.0	―	
83	C区	14号焼土集中	AG3	古墳時代	260.0	120.0	―	
84	C区	15号焼土集中	AG3	古墳時代	56.0	52.0	―	
85	C区	遺物集中地点2	AB7,AC7・8,AD7・8・9	古墳時代	1400.0	700.0	134.0	古墳時代中期後葉の一括資料で羽口が出土している
86	C区	1号石列遺構	AC7・8,AD8・9	中世	1150.0	―	―	

第３表　遺物一覧表（土器・陶磁器）

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
1	300	A	遺構外	AP80	甕	(20.0)	—	—	10YR7/4 にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒 雲母	良	弥生	横,斜位ハケ	横位ハケ	櫛描波状文 廉状文
2	22	A	遺構外	AP193	甕	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 石英 角閃石	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	櫛描波状文
3	27	A	遺構外	AP219	甕	—	—	—	7.5YR4/2灰褐色	石英 金色雲母	良好	弥生		横位ハケ	櫛描波状文
4	49	A	遺構外	一括	甕	—	—	—	5YR4/2灰褐色	金色雲母 スコリア	良好	弥生		横位ミガキ	櫛描波状文
5	3	A	遺構外	AP52	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	金色雲母 石英 スコリア 角閃石	良好	弥生		斜位ハケ	櫛描波状文
6	29	A	遺構外	AP231	甕	—	—	—	5YR4/2灰褐色	石英 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
7	301	A	遺構外	AP91・125	甕	—	—	—	(外) 10YR2/1黒色 (内) 10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		横位ミガキ	櫛描波状文
8	36	A	遺構外	AP276・301・303	甕	—	—	—	2.5YR6/6橙色	金色雲母 石英 スコリア	良好	弥生	ミガキ	ナデ	櫛描波状文 廉状文
9	34	A	遺構外	AP264	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	石英 赤色粒子 角閃石	良好	弥生			櫛描波状文
10	8	A	遺構外	AP87	甕	—	—	—	(外) 5YR5/1褐灰色 (内) 5YR6/4にぶい橙色	石英 スコリア 角閃石	良	弥生	縦,横位ハケ	横位ハケ	櫛描波状文
11	43	A	遺構外	AP352	甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	金色雲母 赤色粒子 石英	良好	弥生		ハケ	櫛描波状文
12	19	A	遺構外	AP177・187	甕	—	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	石英 スコリア	良好	弥生	縦位ハケ	横位ミガキ	櫛描波状文
13	20	A	遺構外	AP183	甕	—	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 砂粒	良好	弥生			刻み口縁
14	7	A	遺構外	AP74	甕	—	—	—	2.5YR5/4にぶい赤褐色	石英 スコリア 角閃石	良好	弥生	横,斜位ハケ		刻み口縁
15	21	A	遺構外	AP192・200・225	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	金色雲母 石英 スコリア 角閃石	良好	弥生	横,斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
16	13	A	遺構外	AP122・341	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 砂粒	良好	弥生	斜位ハケ		刻み口縁
17	53	A	遺構外	一括	甕	—	—	—	(外)2.5YR5/6明赤褐色 (内)5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 角閃石 石英 スコリア	良好	弥生	横,斜位ハケ	横位ハケ	外面赤彩
18	30	A	遺構外	AP238	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	石英 金色雲母 角閃 石 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ		
19	16	A	遺構外	AP149・155・283	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	石英 スコリア 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	ハケ	
20	42	A	遺構外	AP351	甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	金色雲母 石英	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	
21	40	A	遺構外	AP331	甕	—	—	—	5YR5/3にぶい赤褐色	石英 スコリア	良好	弥生	横位ナデ 斜位ハケ	横位ナデ	
22	46	A	遺構外	AP394	甕	—	—	—	7.5YR5/2灰褐色	石英 角閃石 砂粒	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	
23	51	A	遺構外	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 スコリア	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
24	28	A	遺構外	AP184	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	石英 金色雲母 角閃 石 スコリア	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	
25	35	A	遺構外	AP265	壺	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	金色雲母 石英 赤色粒子	良好	弥生	横位ハケ	横位ナデ	折返口縁
26	48	A	遺構外	一括	壺	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 石英 スコリア	良好	弥生			口唇部内外縄文
27	12	A	遺構外	AP118	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	石英 金色雲母	良好	弥生	斜位ハケ		
28	15	A	遺構外	AP135	甕	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	石英	良好	弥生	ハケ		赤彩
29	52	A	遺構外	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 砂粒	良好	弥生			
30	11	A	遺構外	AP117	甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 金色雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ヘラナデ	
31	44	A	遺構外	AP359	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	石英 砂粒 スコリア	良	弥生	ハケ		
32	47	A	遺構外	AP400	甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 角閃石	良好	弥生			縄文
33	26	A	遺構外	AP210	甕	—	—	—	5YR4/2灰褐色	石英 金色雲母 赤色粒子 角閃石	良好	弥生			縄文
34	25	A	遺構外	AP208	甕	—	—	—	5YR7/4にぶい橙色	金色雲母 赤色粒子	良好	弥生			平行沈線
35	24	A	遺構外	AP196	甕	—	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 金色雲母	良好	弥生	ナデ	ヘラナデ	
36	23	A	遺構外	AP195	甕	—	—	—	(外) 7.5R4/8赤色 (内) 5YR6/6 橙色	石英 金色雲母 赤色粒子	良好	弥生	ミガキ	ミガキ	外面赤彩
37	18	A	遺構外	AP163	甕	—	—	—	7.5R4/6赤色	石英 角閃石 スコリア	良好	弥生		縦位ハケ	外面赤彩
38	32	A	遺構外	AP253	鉢	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 金色雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	
39	321	A	遺構外	AP367	壺or甕	—	—	6.5	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	ハケ ヘラ	
40	9	A	遺構外	AP94	壺or甕	—	—	6.2	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 砂粒	良好	弥生	縦位ヘラナデ		木葉痕
41	33	A	遺構外	AP254・268・309	甕	—	—	(6.9)	7.5YR4/2灰褐色	金色雲母 石英	良好	弥生	縦位ミガキ	横位ヘラナデ	内面煤付着

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
42	2	A	遺構外	AP40	壺or甕	—	—	(7.6)	7.5YR6/4にぶい橙色	スコリア 石英 角閃石 金色雲母	良好	弥生	縦,横位ヘラナデ		
43	5	A	遺構外	AP58	甕	—	—	(4.7)	7.5RY6/4にぶい橙色	スコリア 石英 金色雲母	良好	弥生	縦位ヘラナデ		
44	6	A	遺構外	AP72	台付甕	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	スコリア 石英 角閃石 金色雲母	良	弥生			
45	17	A	遺構外	AP161	小型壺	—	—	3.1	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 スコリア	良好	弥生	ヘラ調整	ハケ	
46	39	A	遺構外	AP323	甕	—	—	—	5YR4/2灰褐色	雲母 石英	良好	弥生	縦位ミガキ	横位ミガキ	
47	37	A	遺構外	AP294	壺	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 金色雲母	良好	弥生		横位ナデ	棒状浮文 刻み口縁
48	50	A	遺構外	一括	甕	—	—	—	2.5YR4/4にぶい赤褐色	石英	良好	古墳	斜位ハケ	横位ハケ	
49	31	A	遺構外	AP239・258	壺	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 赤色顔料	良好	古墳	ヘラナデ 縦位ハケ	ヘラナデ 輪積痕	
50	14	A	遺構外	AP125	台付甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色		良好	古墳	ヘラナデ		
51	4	A	遺構外	AP55	高坏	(6.7)	—	—	5YR5/6明赤褐色	石英 スコリア 角閃石	良	古墳	ヘラ調整	ヘラ調整	
52	1	A	遺構外	AP10	台付甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	スコリア 石英 角閃石	良好	古墳	横位ヘラナデ		
53	45	A	遺構外	AP374	坏	—	—	(9.8)	5YR6/4にぶい橙色	石英 赤色粒子	良好	奈良・平安			
54	54	A	遺構外	一括	高台付坏	—	—	(8.8)	2.5YR6/6橙色	石英 スコリア	良好	奈良・平安			
55	10	A	遺構外	AP109	甕	—	—	—	2.5YR5/4にぶい赤褐色	石英	良好	奈良・平安	縦位ハケ	横位ハケ	
56	58	A	遺構外	AP401	須恵器 高台付坏	—	—	(5.8)	7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	奈良・平安			
57	61	A	遺構外	AP39	陶器 碗	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	—	良好	中世			
58	63	A	遺構外	AP98	かわらけ	—	—	—	5YR6/6橙色	石英	良好	中世			口縁に煤痕あり
59	65	A	遺構外	AP236	焙烙	(22.0)	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 角閃石	良好	中世	横位ナデ	横位ナデ 指頭押圧痕	
60	60	A	遺構外	AP22	磁器 鉢	—	—	—	7.5Y6/2灰オリーブ色	—	良好	中世			青磁 貫入あり
61	38	A	遺構外	AP296	鉢	—	—	—	5YR6/6橙色	石英 金色雲母 角閃石	良好	中世		横位ハケ	
62	41	A	遺構外	AP350	坏	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	石英 スコリア 白色鉱物	良	中世			底部糸切り痕
63	62	A	遺構外	AP41	陶器 擂鉢	—	—	(15.0)	10YR7/1灰白色	石英 白色鉱物	良	中世			
64	64	A	遺構外	AP131	陶器 碗	—	—	4.6	7.5YR8/4浅黄橙色	砂粒 石英	良好	中世			
65	56	A	遺構外	AP5	陶器 壺	—	—	—	(外) 10YR4/3 にぶい黄褐色 (内) 7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物	良好	中世			
66	57	A	遺構外	AP129	須恵器 甕	—	—	—	2.5Y5/1赤灰色	石英 砂粒 白色鉱物	良好	中世			
67	59	A	遺構外	AP3	陶器 擂鉢	—	—	—	—	—	良好	近世			
68	66	A	遺構外	AP251	陶器 甕	—	—	—	—	石英	良好	近世			
72	239	B	1溝	一括	深鉢	—	—	—	2.5YR4/6赤褐色	金色雲母 石英 角閃石	良好	縄文 （五領ヶ台）			
73	225	予備	1溝	一括	甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 角閃石 褐色粒子	良好	弥生	ハケ	ハケ	刻み口縁
74	173	予備	1溝	P703	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	角閃石 石英 金色雲母 スコリア	良	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	
75	134	予備	1溝	P238	甕	—	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	金色雲母 角閃石 石英 スコリア	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	
76	196	予備	1溝	P930	甕	—	—	—	2.5YR4/4にぶい赤褐色	石英 角閃石	良好	弥生			矢羽根状縄文
77	172	予備	1溝	P698	壺	—	—	—	10YR6/2灰黄褐色	金色雲母 石英 角閃石	良好	弥生	ハケ	ヘラナデ	
78	208	予備	1溝	P1009	高坏	—	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	石英 雲母	良好	弥生			
79	178	予備	1溝	P734	台付甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 褐色粒子 角閃石	良好	弥生			
80	240	B	1溝	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	雲母 角閃石 白色鉱物	良好	弥生			
81	157	予備	1溝	P512	甕	—	—	5.7	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 赤色粒子 角閃石	良好	弥生		横位ハケ	
82	189	予備	1溝	P778	甕	—	—	5.9	5YR5/3にぶい赤褐色	石英 褐色粒子 白色鉱物 スコリア 角閃石	良好	弥生	縦位ヘラケズリ		
83	201	予備	1溝	P969	甕	—	—	(9.4)	10YR6/2灰黄褐色	角閃石 石英 スコリア	良好	弥生			
84	264	B	1溝	一括	甕	—	—	(10.0)	5YR5/6明赤褐色	角閃石 石英 赤色粒子	良好	弥生		指頭押圧痕	木葉痕
85	253	B	1溝	一括	壺or甕	—	—	(6.2)	5YR6/4にぶい橙色	雲母 石英 赤色粒子	良好	弥生			

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
86	207	予備	1溝	P1008	甕	—	—	(8.0)	2.5Y R6/6橙色	石英 砂粒	良好	弥生			
87	204	予備	1溝	P1000	甕	—	—	(9.0)	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 角閃石 白色鉱物	良好	弥生	ヘラナデ		
88	128	予備	1溝	P149	甕	—	—	(8.0)	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 金色雲母 褐色粒子	良好	弥生	ヘラナデ	ハケ	
89	262	B	1溝	一括	甕	—	—	(6.6)	5Y R6/6橙色	石英 角閃石 褐色粒子	良好	弥生		ハケ	木葉痕
90	303	B	1溝	BP3 下層一括	手捏	—	—	3.7	(外) 10YR6/6明黄褐色 (内) 5YR6/6橙色	白色鉱物	良好	弥生		縦横位ナデ	木葉痕
91	174	予備	1溝	P712	鉢	(13.0)	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	石英 褐色粒子 雲母	良好	弥生		ミガキ	
92	203	予備	1溝	下層P997	坏	(12.0)	—	—	2.5YR6/6橙色	石英 赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳			
93	231	B	1溝	BP9-1	坏	(11.2)	—	—	2.5YR6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	古墳		横位ナデ	
94	243	B	1溝	一括	坏	(14.0)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	古墳			
95	202	予備	1溝	P991	坏	—	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 褐色粒子	良好	古墳			
96	215	予備	1溝	P1041	坏	(12.0)	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	雲母	良好	古墳			
97	176	予備	1溝	下層P717	坏	—	—	—	7.5Y R6/4にぶい橙色	雲母 褐色粒子 石英	良好	古墳			
98	140	予備	1溝	P396	坏	—	—	—	5Y R5/6明赤褐色	雲母	良好	古墳	ヘラケズリ		
99	186	予備	1溝	P772	坏	—	—	—	7.5Y R6/4にぶい橙色	雲母	良好	古墳			
100	152	予備	1溝	P478	坏	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	雲母 褐色粒子	良好	古墳			
101	257	B	1溝	一括	坏	—	—	—	2.5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	古墳	ロクロナデ	ロクロナデ	
102	230	B	1溝	BP1	高坏	(11.0)	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	雲母 赤色粒子	良好	古墳			
103	161	予備	1溝	P551	高坏	(12.2)	—	—	2.5Y R4/6赤褐色	角閃石 赤色粒子	良好	古墳			
104	153	予備	1溝	P479	甕	(16.0)	—	—	2.5YR4/4にぶい赤褐色	角閃石 小礫 白色鉱物	良好	古墳	斜位ハケ	横位ハケ	
105	169	予備	1溝	P617	甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	石英 角閃石 スコリア	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
106	167	予備	1溝	P598	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	石英 角閃石 赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳			
107	265	B	1溝	一括	甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物 角閃石 褐色粒子	良好	古墳			
108	309	B	1溝	一括	甕	—	—	—	7.5Y R6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	縦横位ナデ	横位ナデ	
109	101	B	1溝	一括	壺	—	—	—	7.5Y R6/3にぶい褐色 赤彩部2.5YRY5/6 明赤褐色	石英	良好	古墳			赤彩
110	241	B	1溝	一括	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 角閃石	良好	古墳	縦位ハケ	横位ハケ	
111	242	B	1溝	一括	壺	—	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	金色雲母 褐色粒子 石英	良好	古墳			
112	183	予備	1溝	P759	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	石英 赤色粒子 角閃石	良好	古墳	縦位ハケ		
113	266	B	1溝	一括	壺	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 角閃石	良好	古墳	横位ナデ ハケ	横位ハケ	
114	184	予備	1溝	P765	甕	—	—	(10.0)	5Y R6/4にぶい橙色	白色鉱物 石英 角閃石 褐色粒子	良	古墳			
115	164	予備	1溝	P568	壺or甕	—	—	(12.0)	7.5Y R6/4にぶい橙色	雲母	良好	古墳			底部煤付着
116	310	B	1溝	一括	手捏	—	—	2.8	5YR5/6明褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	指頭押圧痕	調整痕	
117	154	予備	1溝	P486	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	小礫 白色鉱物 石英 赤色粒子	良好	古墳			木葉痕
118	86	予備	1溝	下層P958	須恵器 坏	(9.5)	—	—	7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物	良好	古墳			
119	84	予備	1溝	P936	須恵器 瓶	—	—	—	7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物 白色針状物質	良好	古墳			
120	110	B	1溝	下層一括	須恵器 壺	—	—	—	10YR5/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	古墳			
121	261	B	1溝	一括	坏蓋	(14.0)	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	雲母	良好	奈良・平安			
122	263	B	1溝	一括	蓋	(14.0)	—	—	2.5YR6/6橙色	石英 赤色粒子	良好	奈良・平安			
123	302	B	1溝	一括	坏	(16.7)	7.2	7.5	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文 底部刻書
124	147	予備	1溝	P447	坏	(11.5)	4.5	5.9	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ケズリ		暗文
125	245	B	1溝	一括	坏	(10.8)	—	(7.5)	2.5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
126	185	予備	1溝	P767	坏	(10.2)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
127	159	予備	1溝	P530	坏	(14.4)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備 考
													外側	内側	
128	193	予備	1溝	P916	坏	(13.6)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子 石英	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
129	187	予備	1溝	P775	坏	—	—	—	5Y R6/6橙色	微粒子のみ	良好	奈良・平安			暗文
130	168	予備	1溝	P599	坏	(11.2)	—	—	5Y R6/6橙色	褐色粒子 雲母	良好	奈良・平安	ナデ ケズリ		暗文
131	222	予備	1溝	一括	坏	(11.2)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
132	254	B	1溝	一括	坏	(11.1)	—	—	5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
133	221	予備	1溝	一括	坏	(10.3)	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
134	179	予備	1溝	P743	坏	(12.0)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
135	141	予備	1溝	P404	坏	(11.8)	—	—	2.5Y R5/6明赤褐色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
136	255	B	1溝	一括	坏	—	—	—	7.5Y R6/6にぶい橙色	雲母	良好	奈良・平安			暗文
137	171	予備	1溝	P623	坏	—	—	—	7.5Y R6/4にぶい橙色	雲母	良好	奈良・平安	ケズリ		暗文
138	195	予備	1溝	P926	坏	—	—	—	2.5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
139	249	B	1溝	一括	坏	—	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文
140	224	予備	1溝	一括	坏	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
141	139	予備	1溝	P385	坏	—	—	—	5Y R5/6明赤褐色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
142	248	B	1溝	一括	高台付坏	—	—	(7.8)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	暗文
143	132	予備	1溝	P219	坏	—	—	(7.0)	5Y R6/4にぶい橙色	石英 赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安	ヘラケズリ		暗文
144	219	予備	1溝	P1067	坏	—	—	(6.8)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文
145	127	予備	1溝	P138	坏	—	—	(7.0)	2.5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
146	258	B	1溝	一括	坏	—	—	(8.0)	5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安			暗文 内黒
147	133	予備	1溝	P231	坏	—	—	(6.2)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子 角閃石	良好	奈良・平安	ヘラケズリ		暗文
148	136	予備	1溝	P272	坏	—	—	(5.2)	5Y R6/6橙色	石英 白色鉱物 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
149	166	予備	1溝	P597	坏	—	—	(6.6)	5Y R6/4にぶい橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安			暗文
150	155	予備	1溝	P502	坏	—	—	(6.0)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文
151	246	B	1溝	一括	坏	—	—	(6.2)	5YR5/6明赤褐色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文
152	143	予備	1溝	P413	坏	—	—	(5.8)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文
153	165	予備	1溝	P591	坏	—	—	(5.6)	5YR5/6明赤褐色	褐色粒子	良好	奈良・平安		ロクロナデ	暗文 底部回転糸切り
154	247	B	1溝	一括	坏	—	—	(6.8)	2.5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ		暗文
155	148	予備	1溝	P456	坏	—	—	(6.0)	5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安			暗文
156	76	予備	1溝	P638	坏	—	—	—	10YR6/2灰黄褐色	白色鉱物 石英	良好	奈良・平安			
157	188	予備	1溝	P777	坏	(10.2)	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
158	175	予備	1溝	P714	坏	(9.0)	—	—	2.5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
159	223	予備	1溝	一括	坏	(13.0)	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 褐色粒子 白色鉱物	良好	奈良・平安			
160	142	予備	1溝	P405	坏	—	—	—	5Y R6/6橙色	石英 赤色粒子 角閃石	良好	奈良・平安			
161	177	予備	1溝	P728	皿	(16.0)	—	—	5YR5/6明赤褐色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
162	145	予備	1溝	P440	坏	(13.0)	—	—	2.5Y R6/6橙色	赤色粒子 石英	良好	奈良・平安			
163	180	予備	1溝	P744	坏	—	—	—	2.5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
164	194	予備	1溝	P921	皿	(13.8)	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
165	256	B	1溝	一括	坏	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	雲母	良好	奈良・平安			
166	146	予備	1溝	P442	坏	—	—	—	5Y R6/6橙色	褐色粒子 雲母	良好	奈良・平安	ナデ	ナデ	
167	163	予備	1溝	P557	坏	—	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	褐色粒子 雲母 角閃石	良好	奈良・平安	横位ハケ	横位ハケ	
168	244	B	1溝	一括	坏	—	—	(11.0)	7.5Y R6/4にぶい橙色	雲母	良好	奈良・平安			
169	260	B	1溝	一括	坏	—	—	(10.2)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子 石英	良好	奈良・平安		ミガキ	内黒
170	200	予備	1溝	P963	坏	—	—	(11.6)	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子 角閃石	良好	奈良・平安			

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
171	160	予備	1溝	P548	坏	—	—	(11.7)	5Y R6/4にぶい橙色	褐色粒子 雲母 白色鉱物	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
172	218	予備	1溝	P1046	坏	—	—	(8.8)	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			
173	250	B	1溝	一括	坏	—	—	(8.0)	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			
174	181	予備	1溝	P751	坏	—	—	(8.0)	2.5Y R6/4にぶい橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
175	182	予備	1溝	P752	坏	—	—	(8.0)	7.5Y R7/3にぶい橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			
176	162	予備	1溝	P554	坏	—	—	(8.0)	5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安			
177	144	予備	1溝	P422	坏	—	—	(8.0)	2.5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安			
178	307	B	1溝	一括	坏	—	—	(8.0)	7.5Y R7/6橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	奈良・平安			
179	197	予備	1溝	P940	坏	—	—	(6.3)	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			
180	156	予備	1溝	P503	坏	—	—	(6.2)	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			
181	252	B	1溝	一括	坏	—	—	(5.3)	5YR6/4にぶい橙色	雲母 角閃石	良好	奈良・平安			
182	190	予備	1溝	P803	坏	—	—	(5.2)	2.5YR5/6明赤褐色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			
183	170	予備	1溝	P621	坏	—	—	(6.6)	5Y R6/6橙色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			
184	151	予備	1溝	P470	坏	—	—	(6.5)	5YR5/4にぶい赤褐色	雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			
185	251	B	1溝	一括	坏	—	—	—	5Y R6/6橙色	雲母 赤色粒子	良好	奈良・平安			暗文
186	214	予備	1溝	P1038	甕	—	—	—	5YR5/3にぶい赤褐色	5YR5/3にぶい赤褐色	良好	奈良・平安			
187	149	予備	1溝	P468	鉢	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	角閃石 雲母 石英 スコリア 白色鉱物	良好	奈良・平安	横位ナデ	横位ナデ	
188	71	予備	1溝	P562	須恵器 坏蓋	—	—	—	10YR6/1褐灰色	石英	良好	—			
189	97	B	1溝	一括	須恵器 坏蓋	(14.0)	—	—	7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物	良好	—			
190	88	予備	1溝	P1022	須恵器 坏蓋	—	—	—	(外)7.5YR6/1褐灰色 (内)7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
191	98	B	1溝	一括	須恵器 坏蓋	—	—	—	7.5YR6/1褐灰色	白,黒色鉱物 石英	良好	—			
192	90	予備	1溝	P1060	須恵器 坏	(14.0)	—	—	10YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
193	95	B	1溝	一括	須恵器 坏	(14.0)	—	—	7.5Y R6/2灰褐色	白色鉱物 石英	良好	—			
194	94	B	1溝	一括	須恵器 坏	(13.0)	—	—	7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
195	93	B	1溝	一括	須恵器 坏	(13.0)	—	—	10YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
196	89	予備	1溝	P1024	須恵器 坏	(12.0)	—	—	7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物 白色針状物質 石英	良好	—			
197	75	予備	1溝	P630	須恵器 坏	(12.0)	—	—	10YR5/1褐灰色	白色鉱物	良好	—			
198	83	予備	1溝	P925	須恵器 坏	(12.0)	—	—	7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物 白色針状物質	良好	—			
199	78	予備	1溝	P740	須恵器 坏	—	—	—	5YR5/1褐灰色	大きめの白色鉱物 石英	良好	—			
200	96	B	1溝	一括	須恵器 高台付坏	—	—	(7.0)	.5Y R6/2灰褐色	白色鉱物 褐色粒子 石英	良好	—			
201	70	予備	1溝	P525	須恵器 高台付坏	—	—	(10.0)	7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			貼付高台
202	67	予備	1溝	P287	須恵器 高台付坏	—	—	(9.8)	7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
203	109	B	1溝	下層一括	須恵器 壺	(28.0)	—	—	7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
204	77	予備	1溝	P738	須恵器 壺	(7.8)	—	—	7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物	良好	—			
205	100	B	1溝	一括	須恵器 壺	—	—	—	7.5R6/1赤灰色	白色鉱物 褐色粒子	良好	—			櫛描波状文
206	79	予備	1溝	P748	須恵器 壺	—	—	—	7.5YRY6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
207	102	B	1溝	一括	須恵器 壺	—	—	—	N4/0灰色	白色鉱物 褐色粒子 石英	良好	—			
208	81	予備	1溝	下層P922	須恵器 甕	—	—	—	7.5R6/1赤灰色	白,黒色鉱物 石英	良好	—			
209	104	B	1溝	一括	須恵器 甕	—	—	—	7.5YR5/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
210	106	B	1溝	一括	須恵器 甕	—	—	—	(外) 7.5Y6/2灰オリーブ色 (内) 7.5YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
211	85	予備	1溝	P937	須恵器 壺or甕	—	—	—	7.5YRY5/1褐灰色	白色鉱物 石英 白色針状物質	良好	—			
212	72	予備	1溝	P569	須恵器 甕	—	—	—	10YR6/1褐灰色	石英 白色鉱物 黒色粒	良好	—			

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
213	105	B	1溝	一括	須恵器 甕	—	—	—	7.5YR7/1明褐灰色	白,黒色鉱物 石英	良好	—			
214	73	予備	1溝	P574	須恵器 壺	—	—	(14.0)	10YR6/1褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
215	99	B	1溝	一括	須恵器 甕	—	—	(7.0)	5YR7/1明褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
216	80	予備	1溝	P768	須恵器 壺	—	—	4.7	2.5YR6/1赤灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
217	92	B	1溝	下層BP4	須恵器 平瓶	—	—	—	5YRY7/1明褐灰色	白色鉱物 石英	良好	—			
218	74	予備	1溝	P589	灰釉陶器 坏	(13.5)	—	—	10YR6/2灰黄褐色	微粒のみ	良好	奈良・平安			
219	87	予備	1溝	下層P960	灰釉陶器 坏	—	—	—	7.5YR7/1明褐灰色	石英 白色鉱物	良好	奈良・平安			
220	311	B	1溝	一括	灰釉陶器 坏	(12.0)	—	—	7.5Y7/1灰白色	白色鉱物	良好	奈良・平安			
221	312	B	1溝	一括	灰釉陶器 皿	—	—	(5.6)	10YR7/1灰白色	白色鉱物	良好	奈良・平安			底部糸切り痕 貼付高台
222	103	B	1溝	一括	灰釉陶器 壺	—	—	—	(内) 7.5Y5/2灰オリーブ (外) 7.5YR7/1明褐灰色	白色鉱物 石英	良好	奈良・平安			
223	82	予備	1溝	P928	灰釉陶器 壺	—	—	—	7.5YR7/1明褐灰色	白色鉱物	良好	奈良・平安			
224	68	予備	1溝	P398-1	灰釉陶器 壺	—	—	—	(内) 7.5YR7/2明褐灰色 (外) 7.5Y6/2 灰オリーブ色	石英	良好	奈良・平安			
225	91	予備	1溝	一括	陶器 皿	—	—	—	7.5Y4/3暗オリーブ色	微粒のみ	良好	奈良・平安			緑釉
226	114	B	1溝	一括	かわらけ	(11.0)	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 褐色粒子 金色雲母	良好	奈良・平安			内面煤付着
227	304	B	5溝	P1081-1,2,3	甕	(25.0)	—	—	(外) 2.5YR5/8明赤褐色 (内) 5YR4/8赤褐色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安		横位ヘラナデ	櫛描波状文
228	220	予備	5溝	P1078	甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	金色雲母 角閃石 石英 褐色粒子	良好	奈良・平安			櫛描波状文
229	55	予備	4T	3層 一括	深鉢	—	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	金色雲母 石英	良好	縄文			縄文
230	192	予備		P904	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 褐色粒子 角閃石	良	弥生			櫛描波状文
231	135	予備		P252	甕	—	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 角閃石 スコリア	良好	弥生		横位ミガキ	櫛描波状文
232	115	予備		P2-1	甕	—	—	—	5YR6/4にぶい橙色	石英 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
233	210	予備		P1011	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 角閃石 褐色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
234	318	B		P670・671-1・673・674・708・709・801・807・808・809・810・814・815・816・816-2・817-2・818	小型甕	(14.7)	15.5	5.8	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良	弥生	ハケ	ハケ 輪積痕	刻み口縁 外面煤付着
235	978	B	21T	6,7層一括	甕	—	—	—	(外) 5YR6/6橙色 (内) 7.5YR6/7橙色	赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	斜位ハケ	刻み口縁
236	205	予備		P1003	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	角閃石 石英	良好	弥生			刻み口縁
237	212	予備		P1027・P1054・一括	高坏	(14.0)	—	—	2.5YR6/6橙色	石英 白色鉱物	良好	弥生	横位ナデ 縦位ハケ		
238	319	B		P244	高坏	—	—	(20.0)	(外) 7.5YR5/3にぶい褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	赤色粒子	良好	弥生	縦位ミガキ・横位ナデ	横位ナデ	
239	1095	B		P660・700・829	高坏	—	—	—	(外) 10YR4/6赤色 (内) 10YR5/6黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ミガキ		外面赤彩
240	320	B		P587・647・655・665・670・675・677・678・690・695・696・820・821・822・823・	高坏	(350)	—	—	2.5YR4/8赤褐色	砂粒 白色鉱物	良	弥生	ミガキ	横位ミガキ	内外面赤彩
241	313	B		P326-2・342・651・653・656・657・658・663・811-1・825・830・831・832・835・836・837・838-1・841・843・847・848・849・850・851・852・853・854・855・856・876-1・857・858・858-2・859・860・861・862・863・864・868・870・872・873-1,2・874-1,2・876-2・878・ ・880・880-2・883・884・885・886	小型甕	12.0	11.7	5.7	5YR6/4にぶい橙色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	縦,横,斜位 ハケ ナデ	横位ミガキ	
242	131	予備		P216・247・249	甕	(17.0)	—	—	5YR6/3にぶい褐色	石英 角閃石	良好	弥生	ハケ	ハケ	外面煤付着
243	116	予備		P17	甕	—	—	—	5YR6/3にぶい橙色	石英 赤色粒子	良好	弥生			刻み口縁
244	119	予備		P61	甕	—	—	—	5YR5/2灰褐色	石英 角閃石 褐色粒子	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	刻み口縁
245	233	B		BP36	甕	—	—	—	5YR5/2灰褐色	石英 白色鉱物	良好	弥生	横位ナデ 斜位ハケ	横位ハケ	
246	267	予備	5T	3層一括	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	角閃石 石英 赤色粒子	良好	弥生			

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
247	234	B		BP47	壺	—	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	角閃石 褐色粒子 石英	良好	弥生			折返口縁
248	216	予備		P1042	甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	角閃石 石英 雲母	良好	弥生			
249	137	予備		P296	甕	—	—	—	5Y R4/6赤褐色	白色鉱物 スコリア 角閃石 石英	良好	弥生			
250	211	予備		P1017	壺	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	石英 角閃石 赤色粒子	良好	弥生			
251	314	B		P21・22・900・902・981・982・983・一括	甕	—	—	—	（外）10YR6/4にぶい黄橙色 （内）10YR7/4にぶい黄橙色	金色雲母 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	斜位ハケ	ナデ	
252	315	B		P321・323・326・328・335・336	甕	—	—	(7.6)	（外）5YR3/1黒褐色 （内）5YR5/6明赤褐色	赤色粒子 雲母	良好	弥生	ヘラナデ 指頭押圧痕		外面煤付着
253	235	B		BP51	甕	—	—	(11.0)	5Y R6/4にぶい橙色	石英 角閃石 白色鉱物	良好	弥生			
254	229	予備	調査区5	一括	甕	—	—	(10.0)	2.5Y R6/4にぶい橙色	2.5Y R6/4にぶい橙色					
255	191	予備		P903・BP17	甕	—	—	(7.8)	7.5YR5/3にぶい褐色	石英 角閃石	良好	弥生			木葉痕
256	206	予備		P1004	壺or甕	—	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	石英 角閃石 金色雲母 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
257	209	予備		P1010	壺or甕	—	—	(7.5)	5YR5/6明赤褐色	石英 赤色粒子 角閃石	良好	弥生		横位ハケ	
258	232	B		BP20・23・29	壺or甕	—	—	(7.0)	5Y R6/6橙色	石英 赤色粒子 角閃石	良	弥生			
259	199	予備		P951	壺	—	—	(6.8)	2.5YR5/4にぶい赤褐色	雲母 角閃石 赤色粒子 石英	良好	弥生			
260	117	予備		P39	甕	—	—	—	5Y R6/6橙色	石英 角閃石	良好	弥生			
261	120	予備		P67	壺	—	—	5.4	7.5Y R6/3にぶい褐色	石英 金色雲母 角閃石	良好	弥生	ハケ ヘラナデ	指頭押圧痕	
262	228	予備	調査区5	一括	壺or甕	—	—	(5.5)	10Y R7/3にぶい黄橙色	雲母	良好	弥生		指ナデ	
263	130	予備		P184・697	台付甕	—	—	—	2.5Y R3/4暗赤褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生	横位ハケ	斜位ハケ	
264	129	予備		P158・956	台付甕	—	—	—	2.5Y R5/6明赤褐色	石英 角閃石 赤色粒子	良	弥生	斜位ハケ	横位ハケ ヘラ	
265	236	B		BP58	台付甕	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	指頭押圧痕 ヘラ調整	
266	316	B		P52・55	台付甕	—	—	(8.0)	7.5Y R5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	ナデ	
267	317	B		BP6・28・30・31・32・一括	壺	—	—	—	7.5Y R6/6橙色	石英 黒色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ・ミガキ	横位ハケ 指頭押圧痕	
268	213	予備		P1030	壺	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	石英 褐色粒子	良好	弥生			結節縄文
269	125	予備		P112	坏	(15.0)	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	褐色粒子 石英	良好	古墳			
270	124	予備		P90	坏	(13.0)	—	—	7.5Y R3/1黒褐色	石英 褐色粒子	良好	古墳			内外面煤付着
271	150	予備		P469	坏	—	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	雲母 褐色粒子	良好	古墳			
272	123	予備		P89	坏	—	—	—	2.5Y R5/4にぶい赤褐色	石英 褐色粒子 角閃石	良好	古墳			内面煤付着
273	237	B		BP70	坏	—	—	—	7.5Y R6/4にぶい橙色	雲母 赤色粒子	良好	古墳			
274	238	B		BP74	坏	—	—	—	5Y R6/4にぶい橙色	雲母 赤色粒子	良好	古墳			
275	118	予備		P53	高坏	—	—	—	2.5Y R5/6明赤褐色	石英 白色鉱物 角閃石	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ	
276	217	予備		P1045	高坏	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	雲母 褐色粒子	良好	古墳			
277	158	予備		P516	高坏	—	—	—	2.5Y R6/6橙色	赤色粒子 雲母	良好	古墳		ケズリ	
278	198	予備		P945	壺	(18.8)	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	微粒子のみ	良好	古墳			
279	121	予備		P69	壺	—	—	—	2.5Y R5/6明赤褐色	白色鉱物 精鋭 角閃石	良好	古墳	縦位ヘラナデ	横位ハケ	
280	308	B		一括	小型甕	(12.7)	—	—	7.5Y R4/6褐色	白色鉱物 砂粒 雲母	良好	古墳	縦位ナデ	横位ハケ	
281	122	予備		P72・80	甕	—	—	—	10Y R3/2にぶい赤褐色	石英 スコリア 角閃石	良好	古墳	ナデ	横位ハケ	
282	138	予備		P314	坏	—	—	(5.6)	5Y R6/4にぶい橙色	金色雲母 褐色粒子	良好	奈良・平安			暗文
283	259	B		一括	高台付坏	—	—	(6.4)	5Y R6/6橙色	角閃石 赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安		ミガキ	内黒 貼付高台
284	126	予備		P132	甕	—	—	—	2.5Y R5/6明赤褐色	石英 金色雲母 角閃石	良好	奈良・平安		横位ハケ	
285	113	B		BP41	かわらけ	(10.2)	—	(6.2)	5Y R5/3にぶい褐色	金色雲母 石英 褐色粒子	良好	中世			回転糸切り
286	111	予備		P23	かわらけ	(12.5)	—	—	5YR7/4にぶい橙色	石英 輝石 角閃石 金色雲母 赤色粒子	良好	中世			
287	112	予備		P474	かわらけ	—	—	(6.8)	5YR5/6明赤褐色	石英 角閃石	良好	中世			回転糸切り
288	226	予備	調査区1	一括	坏	—	—	(7.0)	5YR5/4にぶい赤褐色	金色雲母 赤色粒子	良好	中世			回転糸切り

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
289	107	B		一括	須恵器 甕	—	—	—	（外）10Y R5/2灰黄褐色 （内）5YR4/1褐灰色	石英	良好	中世			
290	69	予備		P515	陶器 皿	—	—	—	7.5YR7/1明褐灰色 釉部分 7.5Y5/3 灰オリーブ色	石英	良好	中世			回転糸切り
291	108	B		一括	須恵器 甕	—	—	—	（外）7.5Y5/2灰オリーブ色 （内）5YR7/1明褐灰色	石英	良好	中世			
292	227	予備	調査区2	一括	置きカマド	—	—	—	2.5YR4/6赤褐色	金色雲母 角閃石 石英	良好	近世	縦位ハケ	横位ハケ	
325	384	C	2堀立 3Pit 12Pit	CP3144・3145・3146・ 3147・3148 一括	甕	12.6	10.7	7.0	5YR7/8橙色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良	弥生	指頭押圧痕	輪積み痕 指頭押圧痕	木葉痕 内外面摩滅
326	861	C	4土 U16G	CP2291 CP1505	壺or甕	—	—	9.0	7.5YR7/3にぶい橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	指頭押圧痕	木葉痕
327	385	C	5土	CP1954	甕	—	—	17.5	（外）7.5YR6/6橙色 （内）10Y R6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ		
328	386	C	7土	CP2612・2613・2614・ 2615-1・一括・不明	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	斜位ハケ後斜位ミガキ 下部縦位ミガキ	横位ハケ後横位ミガキ 指頭押圧痕	簾状文 櫛描波状文
329	387	C	7土	カマドP2602	甕	（20.0）	27.0	6.8	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子 雲母	良	弥生	ハケ ミガキ	横位ミガキ	外面煤付着
330	582	C	20pit	CP863・2633・2639-1	高坏	11.5	9.0	7.8	10YR7/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	縦位ミガキ	縦,横位 ミガキ	内外面赤彩
331	444	C	8溝	CP1562	甕	（21.8）	—	—	（外）10YR6/4にぶい黄橙色 （内）7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良好	弥生	縦,斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
332	449	C	8溝	CP2197	甕	（22.0）	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良	弥生	縦,横位ハケ	横位ハケ	刻み口縁 外面煤付着
333	454	C	8溝 2タメ池	CP2181・2195・2227・ 一括 CP2130	甕	（18.7）	—	—	（外）7.5YR2/1黒色 （内）7.5YR4/1褐灰色	黒,白色鉱物 金色雲母 雲母	良好	弥生	横位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
334	452	C	8溝	CP2156	甕	（20.0）	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	金色雲母	良好	弥生	縦位ハケ後横位ハケ	横位ヘラナデ 横位ハケ	刻み口縁 外面煤付着
335	451	C	8溝	CP2316	甕	（21.0）	—	—	10YR3/2黒褐色	金色雲母 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦横位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
336	450	C	8溝 U16G	CP2234 CP1762	甕	（20.0）	—	—	7.5YR4/2灰褐色	赤色粒子 雲母	良好	弥生	ハケ後ナデ	ナデ	刻み口縁
337	443	C	8溝	CP1531・2079	甕	（28.0）	—	—	（外）10YR5/2灰黄褐色 （内）2.5YR4/1黄灰色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	刻み口縁
338	467	C	8溝	CP2113・2209	甕	（15.0）	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦横位細かいハケ 荒いハケ	横位ミガキ	刻み口縁
339	468	C	8溝	CP2111	甕	（14.3）	—	—	10YR6/6明黄褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	弥生	細かい横位ハケの上に荒い縦位ハケ 横位ヘラケズリ	ミガキ	刻み口縁
340	445	C	8溝	CP2236・2236-3	甕	（17.6）	—	—	5YR2/1黒褐色	白色鉱物 石英 黒色鉱物	良好	弥生	ナデ	ミガキ	刻み口縁
341	466	C	8溝	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁 外面煤付着
342	469	C	8溝	CP43	甕	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁
343	464	C	8溝	CP1563	甕	—	—	—	10YR4/4褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁
344	458	C	8溝	CP2081	甕	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
345	459	C	8溝	一括	甕	—	—	—	（外）5YR3/1黒褐色 （内）7.5YR4/2灰褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
346	460	C	8溝	一括	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ミガキ	刻み口縁 外面煤付着
347	462	C	8溝	CP2228	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ミガキ	刻み口縁 外面煤付着
348	455	C	8溝	CP2208	甕	—	—	—	（外）10R2/1赤黒色 （内）10YR4/1褐灰色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	刻み口縁
349	456	C	8溝	CP2231	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	金色雲母	良好	弥生	指頭押圧痕	横位ナデ	刻み口縁一部
350	457	C	8溝	CP742	甕	—	—	—	5YR2/2黒褐色	雲母	良好	弥生			刻み口縁 内外面煤付着
351	465	C	8溝	CP1548	甕	—	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良好	弥生		横位ハケ	刻み口縁
352	446	C	8溝	CP1557・1558・1559・2109	甕	（22.6）	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ハケ ヘラナデ	ハケ ヘラナデ	外面煤付着
353	461	C	8溝	CP2179	甕	—	—	—	10YR4/4褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ミガキ	
354	471	C	8溝	CP34	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ヘラナデ	ケズリ	
355	447	C	8溝	CP2132・2133	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	金色雲母	良好	弥生	斜横位ハケ	横位ハケ	外面煤付着

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
356	448	C	8溝	CP2122・2123-1,2 2124-1,2	甕	—	—	—	(外) 7.5YR6/4にぶい橙色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 金色雲母	良	弥生	ハケ	ハケ	内外面煤付着
357	453	C	8溝	CP2058	甕	(23.0)	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁 櫛描波状文
358	437	C	8溝	CP1610	壺	—	—	—	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ		刻み口縁 赤彩 内面櫛描波状文
359	441	C	8溝	一括	甕	—	—	—	2.5Y8/2灰白色	白色鉱物	良好	弥生		横位ナデ	刻み口縁 櫛描波状文
360	440	C	8溝	一括	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		横位ナデ	櫛描波状文
361	438	C	8溝	CP1535	甕	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
362	439	C	8溝	一括	甕	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		横位ハケ後 ミガキ	外面煤付着 櫛描波状文
363	472	C	8溝	CP2114	壺or甕	—	—	(9.9)	7.5YR6/6橙色	白,黒色鉱物 石英 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
364	475	C	8溝	CP1909	壺or甕	—	—	6.6	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	指頭による調整	内外面煤付着
365	476	C	8溝	CP2327	壺or甕	—	—	(7.0)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	下から上ヘラケズリ	指頭押圧痕横位ミガキ	
366	477	C	8溝	CP2343	壺or甕	—	—	(6.4)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ 指頭押圧痕	
367	478	C	8溝	CP2057-1	壺or甕	—	—	(8.0)	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ヘラナデ	横位ハケ	
368	479	C	8溝	CP2070	壺or甕	—	—	(8.4)	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	斜位ハケ後縦位ミガキ	指頭押圧痕	
369	482	C	8溝 W16G	CP1565 CP850	壺or甕	—	—	(7.4)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ナデ	木葉痕
370	484	C	8溝	CP2055	壺or甕	—	—	(6.5)	7.5YR3/3暗褐色	白色鉱物 雲母 石英 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ナデ	木葉痕
371	480	C	8溝	CP2229	壺or甕	—	—	(5.8)	10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ヘラケズリ (不鮮明)	指頭押圧痕	木葉痕 内面煤付着
372	481	C	8溝	CP2226	壺or甕	—	—	(4.0)	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ケズリ（不鮮明）	指頭による調整	全面煤付着 内外面赤彩
373	490	C	8溝	CP2073	壺or甕	—	—	6.4	(外) 2.5Y4/4オリーブ褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白,黒色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	ヘラナデ(雑)	
374	485	C	8溝	CP2188	壺or甕	—	—	(7.8)	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	白,黒色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ		
375	488	C	8溝	CP2172	壺or甕	—	—	(5.0)	(外) 10RY4/4褐色 (内) 5Y3/1オリーブ黒色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	縦位ヘラナデ	
376	483	C	8溝	CP2084	壺or甕	—	—	(5.9)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ナデ	
377	491	C	8溝	CP2191	壺or甕	—	—	(9.0)	(外) 7.5YR6/6橙色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	
378	474	C	8溝	CP747	壺or甕	—	—	7.9	(外) 7.5YR7/6橙色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ナデ	
379	473	C	8溝	CP1527	壺or甕	—	—	7.4	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 赤色粒子 雲母 黒色鉱物	良好	弥生	ナデ	ナデ	
380	487	C	8溝	CP2223	壺or甕	—	—	(8.0)	7.5YR4/6褐色	白,黒色鉱物	良好	弥生			
381	489	C	8溝	CP2083	台付甕	—	—	7.5	10YR5/3にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ハケ	内面煤付着
382	494	C	8溝	CP2330	甑	(18.0)	12.3	4.8	5YR7/4にぶい橙色	砂粒 白色鉱物 金色雲母 赤色粒子	良好	弥生	ミガキ	ミガキ	
383	495	C	8溝	CP958・959	甑	11.0	7.6	5.0	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
384	486	C	8溝	CP1536	甑	—	—	(5.8)	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 5YR6/5橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ヘラナデ	横位ヘラナデ	木葉痕
385	496	C	8溝	CP960-1	甑	—	—	3.4	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ヘラナデ	ヘラナデ	
386	470	C	8溝	CP2253	高坏	(21.6)	—	—	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ナデに近い横位 ハケ 縦位ミガキ	横位ミガキ	
387	492	C	8溝	CP2251	高坏	—	—	10.0	7.5YR6/6橙色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ハケ ミガキ	ナデ 輪積痕	
388	493	C	8溝	CP2108・2140	高坏	—	—	—	(外) 7.5YR7/6橙色 (内) 5YR6/6橙色	白色鉱物 石英 黒色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ ハケ	
389	497	C	8溝	CP2240	手捏	—	—	(4.0)	(外) 10YR4/1褐灰色 (内) 10YR5/2灰黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ヘラナデ後指頭 押圧痕	ヘラナデ後指頭 押圧痕	
390	498	C	8溝	CP2196	手捏	—	—	3.2	10YR4/1褐灰色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ヘラナデ	指ナデ	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
391	442	C	8溝	CP2177・2173・2174-1・2235	壺	（14.4）	—	—	（外）10YR5/3にぶい黄褐色 （内）5Y3/1オリーブ黒色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ハケ後ヘラナデ ミガキ	口縁部上部ミガキ 横位ナデ 指頭押圧痕	
392	463	C	8溝	CP2170・2143	壺	12.6	—	—	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ミガキ ヘラ	ハケ 上部横位ミガキ	折返口縁 外面煤付着
393	436	C	8溝	CP1555・2141	壺	—	—	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ヘラナデ	櫛描波状文
394	501	C	10溝	CP1206	甕	—	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	黒色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	刻み口縁
395	502	C	10溝	CP103	甕	—	—	4.9	10YR7/3にぶい黄橙色	白,黒色鉱物 石英	良好	弥生	ナデ	ハケ	
396	500	C	10溝	CP1207	壺	（30.0）	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ナデ	幅広有段口縁 棒状浮文
397	504	C	13溝	CP119	高坏	—	—	（7.6）	7.5YR5/8明褐色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ナデ	
398	503	C	13溝	CP2467	甕	—	—	8.7	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 石英 黒色鉱物	良好	弥生	ハケ後ナデ	ナデ	木葉痕後調整
399	507	C	14溝	CP2461	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ後横位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
400	510	C	14溝	一括	甕	—	—	—	（外）7.5YR3/2黒褐色 （内）10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
401	509	C	14溝	一括	甕	—	—	—	（外）7.5YR3/1黒褐色 （内）10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生		ハケ	刻み口縁
402	508	C	14溝	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	赤色粒子	良好	弥生			刻み口縁
403	506	C	14溝	CP183・183-2	壺	（13.4）	—	—	（外）10YR4/1褐灰色 （内）10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ 縦位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
404	511	C	14溝	CP174	壺or甕	—	—	（8.8）	10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	縦位ヘラナデ	
405	512	C	14溝	CP185	壺or甕	—	—	（5.8）	（外）10YR4/2灰黄褐灰色 （内）10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ 輪積み痕	縦横位ヘラナデ（雑）	
406	513	C	14溝	CP2470	壺or甕	—	—	8.2	7.5YR7/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ナデ	木葉痕
407	505	C	14溝	CP178	壺	（19.0）	—	—	10YR8/2灰白色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ハケ	ハケ	幅広有段口縁 棒状浮文
408	514	C	14溝	CP179	壺or甕	—	—	4.2	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生			内外面赤彩
409	515	C	15溝	一括	甕	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	白色鉱物 石英 金色雲母 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ ナデ	折り返し 刻み口縁
410	516	C	17溝	CP2279-1	甕	—	—	—	10YR4/4褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生		横位ハケ	櫛描波状文 刻み口縁
411	517	C	17溝	CP2225	壺or甕	—	—	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		赤彩少し残る	櫛描波状文 煤付着
412	518	C	17溝	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR3/1黒褐色 （内）7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	櫛描波状文
413	519	C	17溝	一括	壺or甕	—	—	—	2.5YR4/8赤褐色	白色鉱物	良好	弥生		横位ナデ	内外面赤彩 櫛描波状文
414	524	C	17溝	CP2168	壺or甕	—	—	（6.0）	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ミガキ	ミガキ 指頭押圧痕	外面赤彩
415	521	C	17溝	CP2144	壺or甕	—	—	（7.0）	7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良好	弥生	縦位ナデ		内外煤付着 木葉痕
416	522	C	17溝	CP427	壺or甕	—	—	6.0	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子 白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
417	523	C	17溝	CP293	壺or甕	—	—	（7.0）	7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
418	525	C	17溝	CP292	壺or甕	—	—	（6.0）	7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラナデ		
419	528	C	17溝	CP2147-1	壺or甕	—	—	（7.4）	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
420	526	C	17溝	CP2200	台付甕	—	—	9.5	10YR7/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	縦位ハケ ミガキ	ハケ	
421	520	C	17溝	CP346・347・348・349	壺	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ハケ後ミガキ		ボタン状貼付文
422	531	C	20溝	CP2447	壺or甕	—	—	6.0	2.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			
423	532	C	20溝	CP2450	壺or甕	—	—	（5.6）	10YR4/1褐灰色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			内外面赤彩
424	533	C	20溝	CP2377	ミニチュア	—	—	3.3	10Y2/1黒色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ		
425	530	C	20溝	CP2436-1.2 2438	甕	（13.1）	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母 黒色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦横斜位ハケ	口縁付近横位ハケ ナデ	外面種痕
426	545	C	22溝	CP2486	甕	（16.4）	-	-	7.5YR7/6橙色	白,黒色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ヘラナデ	横位ハケ	刻み口縁
427	550	C	22溝	一括	甕	（15.5）	—	—	10YR4/4褐色	金色雲母	良好	弥生	横斜位ハケ ヘラナデ	横位ハケ後ミガキ	刻み口縁
428	552	C	22溝	CP2497	甕	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	白色鉱物 砂粒 金色雲母	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁
429	546	C	22溝	CP2500	甕	（17.6）	—	—	5YR4/1褐灰色	白色鉱物	良好	弥生			刻み口縁

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備 考
													外側	内側	
430	549	C	22溝	CP2560	甕	(13.0)	—	—	5YR6/6橙色	金色雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	刻み口縁
431	547	C	22溝	CP2492	甕	(17.0)	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	横位ナデ後縦位ナデ	横位ナデ	刻み口縁
432	548	C	22溝	CP2364	甕	(16.0)	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			刻み口縁
433	557	C	22溝	一括	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
434	558	C	22溝	一括	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ハケ		刻み口縁 外面煤付着
435	556	C	22溝	一括	甕	—	—	—	10YR3/2黒褐色	白色鉱物	良好	弥生	横位ハケ	横位ハケ後ミガキ	刻み口縁 内外面煤付着
436	553	C	22溝	CP2386	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ケズリ	ハケ	刻み口縁
437	551	C	22溝	CP2531	甕	—	—	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ヘラナデ		刻み口縁
438	554	C	22溝	CP2585	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁 外面煤付着
439	555	C	22溝	一括	甕	—	—	—	10YR5/6黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			刻み口縁
440	559	C	22溝	一括	壺or甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生			刻み口縁 外面煤付着
441	544	C	22溝	CP2542-1,2	甕	(21.5)	—	—	(外) 7.5YR6/4にぶい橙色 (内) 5Y5/1灰色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラナデ	横位ナデ	胴部赤彩 櫛描波状文
442	540	C	22溝	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 7.5YR3/2黒褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
443	561	C	22溝	CP1088	壺or甕	—	—	7.0	10YR3/2黒褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	ヘラ調整	
444	564	C	22溝	CP2624	壺or甕	—	—	7.0	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
445	543	C	22溝	CP2366・2475-1	壺or甕	—	—	(8.8)	7.5YR7/6橙色	白,黒色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ヘラナデ	ハケ ヘラナデ	木葉痕
446	563	C	22溝	CP2361・2355	壺or甕	—	—	(8.8)	(外) 7.5YR7/6橙色 (内) 7.5YR4/4褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ヘラナデ	
447	574	C	22溝	CP2388	壺or甕	—	—	(5.4)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ハケ	
448	568	C	22溝	CP2270	壺or甕	—	—	(8.2)	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ		
449	569	C	22溝	CP2538	壺or甕	—	—	(7.8)	(外) 10YR8/4浅黄橙色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色	金色雲母 白色鉱物	良好	弥生	ハケ		
450	570	C	22溝	CP2507	壺or甕	—	—	(6.6)	(外) 2.5YR6/6橙色 (内) 7.5YR3/1黒褐色	白,黒色鉱物 金色雲母	良好	弥生	縦位ハケ	縦横位ナデ	木葉痕
451	565	C	22溝	CP2395	壺or甕	—	—	6.4	10YR7/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			
452	567	C	22溝	CP2514・一括	壺or甕	—	—	(6.4)	(外) 7.5YR4/2灰褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 雲母 砂粒	良好	弥生	ヘラ		
453	562	C	22溝	CP2479	壺or甕	—	—	(6.8)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ヘラケズリ	指頭押圧痕	
454	566	C	22溝	CP2523	壺or甕	—	—	5.4	(外) 2.5Y7/3浅黄色 (内) 5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良好	弥生	指頭押圧痕		
455	572	C	22溝	CP1084	壺or甕	—	—	(6.5)	(外) 7.5YR6/6橙色 (内) 7.5YR4/1褐灰色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	
456	577	C	22溝	CP2526-1	壺or甕	—	—	(7.0)	7.5YR7/6橙色	金色雲母 砂粒	良好	弥生	輪積み痕		
457	571	C	22溝	CP1073・1076・2478	壺or甕	—	—	(6.5)	(外) 7.5YR5/2灰褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	白,黒色鉱物	良好	弥生		指頭押圧痕	
458	573	C	22溝	CP2494	壺or甕	—	—	(8.0)	(外) 10YR5/3にぶい黄橙色 (内) 7.5YR6/6橙色	白色鉱物	良好	弥生			
459	578	C	22溝	CP2582	台付甕	—	—	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
460	576	C	22溝	CP2536-1	台付甕	—	—	—	5YR7/6橙色	金色雲母 白色鉱物	良好	弥生	ヘラナデ		
461	575	C	22溝	CP2496	台付甕	—	—	(9.9)	(外) 10YR8/3浅黄橙色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色	金色雲母 砂粒	良好	弥生	ヘラナデ		
462	537	C	22溝	CP2517	小型甕	(7.7)	9.2	4.5	10YR4/2灰黄褐色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	横位ナデ	横位ハケ	櫛描波状文 刻み口縁 内外面煤付着
463	560	C	22溝	CP2623-1,2,3,4,5,6	小型甕	(6.0)	7.6	(3.4)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	輪積み痕	
464	268	C	22溝	CP2656	鉢	11.2	6.8	5.0	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ナデ	刻み口縁 内外面赤彩
465	539	C	22溝	CP2393	壺	—	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	弥生			棒状浮文
466	538	C	22溝	CP2476	壺	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			ボタン状貼付文 縄文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
467	541	C	22溝	CP2387	壺	—	—	—	7.5YR5/6橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ		ボタン状貼付文
468	580	C	22溝	CP2521	高坏	—	—	11.2	10YR6/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ハケ ナデ	ナデ	
469	581	C	22溝	CP2554	高坏	—	—	—	(外) 10R4/8赤色 (内) 10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物 石英 黒色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ミガキ 指ナデ ハケ	指ナデ	外面赤彩
470	542	C	22溝	CP2524	壺	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生		指頭押圧痕	結節縄文
471	534	C	23溝	一括	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
472	536	C	23溝 AB14.15.16G	CP2596 一括	甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	外面煤付着
473	535	C	23溝	CP2620	壺or甕	—	—	6.0	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
474	685	C	U16G T16G	CP1293・1294・1459-1 CP2288・2289・2296	甕	(14.8)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	密	良好	弥生	ミガキ	横位ミガキ	刻み口縁 外面煤付着
475	683	C	W16G W19G	CP936・937・938・939・ CP868・119	甕	28.8	〈13.5〉	—	7.5YR5/3にぶい褐色	砂粒	良好	弥生	斜,横位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
476	857	C	21T V16G W17G	6,7層一括 CP2026・2034・2036 CP1996	壺	(13.8)	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ ミガキ	ハケ ミガキ	内外面煤付着
477	682	C	U16G	CP1464・1468・14?	甕	(23.0)	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	石英 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ハケ		刻み口縁 煤付着
478	684	C	V15G V16G W15・16G	CP752・1109・1141・ 1141-1～7・2003.・2010・ 2018一括 一括	甕	16.6	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦横位ミガキ	横位ヘラナデ	刻み口縁
479	691	C	U16G	CP926・927	甕	(18.0)	—	—	(外) 7.5YR4/2灰褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ハケ	ミガキ	刻み口縁
480	718	C	V16G	CP1257	甕	(17.0)	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	刻み口縁
481	693	C	W16G	CP838	甕	(17.0)	—	—	10YR7/6明黄褐色	金色雲母 砂粒	良好	弥生	ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
482	699	C	W16G	CP1986	甕	(10.6)	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦横位ミガキ	横位ナデ・ミガキ	刻み口縁 煤付着
483	856	C	V16G W16G	CP2027 CP763	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物	良好	弥生	横位ナデ・縦横位ヘラミガキ	横位ヘラナデ	刻み口縁
484	712	C	U16G	一括	甕	(14.0)	—	—	7.5YR4/2灰褐色	砂粒	良好	弥生	ナデ・ハケ	ハケ	刻み口縁
485	701	C	V16G	CP1691	壺	(10.0)	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 7.5ＹR3/2黒褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ハケ・ナデ	横位ナデ	刻み口縁
486	711	C	W16G	CP762	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒	良好	弥生	斜位ハケ		刻み口縁
487	716	C	W17G	P768	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁
488	727	C	U16G V16G	一括 CP2035	甕	—	—	—	(外) 7.5YR6/4にぶい橙色 (内) 5YR7/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	横位ナデ	刻み口縁
489	726	C	W16G	CP296	甕	—	—	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			刻み口縁
490	722	C	W16G	CP717-1	甕	—	—	—	(外) 7.5YR8/4浅黄橙色 (内) 7.5YR6/6橙色	砂粒	良好	弥生	ナデ		刻み口縁
491	720	C	V16G	CP1805	甕	—	—	—	2.5Y3/2黒褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ハケ	ハケ	刻み口縁
492	721	C	W16G	一括	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	横位ナデ	横位ナデ	刻み口縁
493	735	C	U16G	CP1796	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁 外面煤付着
494	733	C	W17G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR2/1黒色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	横斜位ハケ	ミガキ	刻み口縁
495	698	C	W17G	一括	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
496	729	C	V16G	CP2213	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	縦横位ハケ		刻み口縁
497	696	C	V16G W16G	CP1105 CP483	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	横位ナデ・斜位ハケ	横位ハケ後斜位ナデ	刻み口縁
498	732	C	V16G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
499	737	C	U16G	一括	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	横位ハケ後ミガキ	ミガキ	刻み口縁
500	772	C	V16G	CP1100	甕	—	—	—	(外) 10YR5/2灰黄褐色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 金色雲母 砂粒		弥生	横位ハケ	横位ナデ	刻み口縁

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
501	697	C	W16G	CP1012	甕	—	—	—	10YR5/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
502	702	C	V16G	CP2066	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	砂粒 雲母	良好	弥生			刻み口縁
503	725	C	W16G	CP853	甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	金色雲母 白,黒色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
504	700	C	V16G	CP2009	甕	—	—	—	7.5YR4/2灰褐色	砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
505	709	C	W17G	P701-1	壺	—	—	—	7.5YR3/3暗褐色	雲母	良好	弥生	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
506	708	C	W16G	一括	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
507	707	C	V16G	CP1123	甕	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
508	728	C	W16G	一括	甕	—	—	—	5YR7/8橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
509	706	C	U16G	CP1443	甕	—	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 7.5YR6/8橙色	白色鉱物	良好	弥生	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁 外面煤付着
510	695	C	V16G	CP2044	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	指頭押圧痕	横位ハケ後ヘラナデ	刻み口縁
511	705	C	V16G	CP1279	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ後ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
512	741	C	V16G	CP1256	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ハケ	刻み口縁
513	730	C	V16G	CP1103	甕	—	—	—	(外) 7.5YR5/3にぶい褐色 (内) 10YR6/2灰黄色	白色鉱物 赤色粒子 石英	良好	弥生	横位ナデ 縦位ハケ	ナデ	刻み口縁
514	740	C	U16G	CP1455	甕	—	—	—	7.5YR2/1黒色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			刻み口縁
515	717	C	W16G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5Y4/1褐灰色	砂粒	良好	弥生	縦位ハケ		刻み口縁
516	703	C	W16G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 2.5Y4/2暗灰黄色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
517	736	C	W17G	CP713	甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	金色雲母 白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
518	747	C	W16G	CP871	甕	—	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子 金色雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
519	743	C	W16G	CP2012	壺or甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ハケ		
520	771	C	U16G	CP1841	壺or甕	—	—	—	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5YR7/8黄橙色	砂粒	良好	弥生	ハケ		
521	618	C	V16G	CP1222	壺or甕	—	—	—	(外) 7.5YR4/2灰褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 石英 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	刻み口縁 櫛描波状文
522	621	C	U16G	一括	壺or甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		横位ミガキ	刻み口縁 櫛描波状文
523	620	C	V16G	CP1110	壺or甕	—	—	—	7.5YR4/2灰褐色	白色鉱物 石英 雲母		弥生	縦,斜位ハケ	横位ハケ ナデ	刻み口縁 櫛描波状文 煤付着
524	625	C	V16G	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 7.5YR3/2黒褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生			櫛描波状文
525	624	C	W16G	一括	壺or甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生		横位ハケ	刻み口縁 櫛描波状文
526	628	C	U16G	CP1759	甕	—	—	—	(外) 7.5YR1.7/1黒色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
527	666	C	V16G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
528	640	C	W16G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 2.5Y4/2暗灰黄色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文・内面頸部から上赤彩
529	636	C	V16G	一括	甕	—	—	—	5YR3/1黒褐色	金色雲母 白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
530	634	C	W16G	CP728-2	甕	—	—	—	(外) 10YR3/2黒褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
531	632	C	W17G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR2/1黒色 (内) 7.5YR4/3褐色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
532	630	C	U16G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR2/1黒色 (内) 10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
533	629	C	V16G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR3/1黒褐色 (内) 10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
534	663	C	U16G	CP2293-1	甕	—	—	—	10YR5/2灰黄褐色	砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
535	662	C	U16G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR3/2黒褐色 (内) 5YR4/4にぶい赤褐色	赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
536	657	C	U16G	一括	甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
537	656	C	U16G	一括	甕	—	—	—	10YR7/2にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			櫛描波状文 外面赤彩
538	655	C	W17G	一括	甕	—	—	—	10Y6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
539	652	C	W17G	一括	甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文 煤付着
540	651	C	W16G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR2/1黒色 (内) 7.5YR6/6橙色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文 外面炭化物付着
541	646	C	V17G	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ナデ	櫛描波状文
542	644	C	W17G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生		横位ナデ	櫛描波状文 煤付着
543	643	C	U16G	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 7.5YR6/3にぶい褐色	白色鉱物	良好	弥生		横位ナデ	櫛描波状文 簾状文
544	674	C	U16G	一括	甕	—	—	—	2.5YR4/6赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文 内外面赤彩
545	673	C	W16G	一括	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
546	670	C	W17G	一括	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	石英 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
547	669	C	U16G	一括	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
548	667	C	U16G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	赤色粒子 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
549	638	C	W17G	一括	甕	—	—	—	(外) 5YR2/1黒褐色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
550	846	C	V16G	CP1734・1750・1751	壺or甕	—	—	(8.2)	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 10YR5/1灰褐色	白,黒色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	斜位ヘラナデ	
551	860	C	T16G U16G U17G	CP1778・1851・1853・1863 CP1770・一括 CP1860	壺or甕	—	—	7.4	10YR6/4にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ハケ ナデ	横位ミガキ	内外面煤付着
552	865	C	W17G	一括	壺or甕	—	—	6.0	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ハケ後ナデ	ヘラ	木葉痕
553	805	C	U16G	CP1450	壺or甕	—	—	6.0	(外) 10YR5/1褐灰色 (内) 7.5YR7/4にぶい橙色	砂粒	良好	弥生	ヘラナデ	ナデ	木葉痕
554	800	C	X17G	CP1976	壺or甕	—	—	(9.0)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	指頭押圧痕	指頭押圧痕 ヘラ	
555	796	C	U16G	CP1698・1766	壺or甕	—	—	(9.0)	(外) 7.5YR5/3にぶい褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 白色鉱物	良好	弥生	ナデ	ヘラナデ	木葉痕
556	785	C	U16G	CP1702	壺or甕	—	—	7.1	7.5YR5/4にぶい褐色	白,黒色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	ナデ	木葉痕
557	792	C	U16G	CP1570	壺or甕	—	—	6.2	10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生	斜位ハケ・指頭押圧痕	横位ナデ	木葉痕
558	813	C	U16G	CP1633・1634・ 1639・1644・1646	壺or甕	—	—	6.2	10YR4/4褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ハケ	
559	815	C	V16G	CP2020	壺or甕	—	—	4.8	(外) 10YR5/2灰黄褐色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	白,黒色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	斜位ハケ 指ナデ	
560	801	C	U16G	CP1701	壺or甕	—	—	(11.0)	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	ハケ	
561	866	C	V16G	CP1125	壺or甕	—	—	(11.6)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ヘラナデ	ヘラナデ	
562	859	C	X16GW16G	CP1971 CP847	壺or甕	—	—	6.4	10R5/6赤色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ヘラナデ	ヘラナデ	内外面赤彩
563	863	C	V16G	CP2049	壺or甕	—	—	8.4	10YR5/3にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ ミガキ	ミガキ	内面赤彩
564	825	C	U16G	CP928-1	壺or甕	—	—	(8.0)	(外) 7.5YR7/4にぶい橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラナデ		
565	828	C	W17G	CP1154	壺or甕	—	—	(7.8)	(外) 7.5YR4/1褐灰色 (内) 7.5YR7/4にぶい橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ハケ	ヘラ	
566	809	C	V16G	CP1226	壺or甕	—	—	(7.0)	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 赤色粒子 黒色鉱物 小石	良好	弥生	ナデ	ハケ	
567	811	C	W16G	CP718	壺or甕	—	—	(7.0)	(外) 7.5YR5/8明褐色 (内) N3/暗褐色	白,黒色鉱物 石英	やや不良	弥生	ハケ	ナデ	
568	831	C	V16G	CP1261	壺or甕	—	—	(7.0)	10YR5/2灰黄褐色	白色鉱物 雲母 石英	良好	弥生	ハケ	ナデ	
569	790	C	U16G	CP411	壺or甕	—	—	6.2	10YR4/4褐色	白色鉱物	良好	弥生	ナデ	ナデ 指頭押圧痕	
570	810	C	V16G	CP2043	壺or甕	—	—	(6.5)	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ハケ	指ナデ	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
571	786	C	U16G	CP2033	壺or甕	—	—	6.2	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ハケ ナデ	ハケ ナデ	
572	788	C	U16G	CP1709	壺or甕	—	—	6.0	(外) 7.5YR4/2灰褐色 (内) 7.5YR5/3にぶい褐色	赤色粒子 砂粒	良好	弥生	ヘラナデ	指ナデ	
573	789	C	V17G	CP1215	壺or甕	—	—	6.0	(外) 2.5YR4/4オリーブ褐色 (内) 10YR6/8明黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ヘラナデ	指ナデ	
574	798	C	U16G	一括	壺or甕	—	—	(6.0)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
575	822	C	U16G	CP1693	壺or甕	—	—	5.4	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		指頭押圧痕	
576	794	C	X17G	CP358	壺or甕	—	—	5.2	10YR3/1黒褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	ナデ	
577	793	C	U16G	CP1800	壺or甕	—	—	5.0	10YR5/3にぶい黄褐色	白,黒色鉱物	良好	弥生	縦斜位ヘラナデ	横位ナデ	
578	749	C	U16G	CP1367・1393	台付甕	—	—	7.2	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ後縦横ミガキ	横位ミガキ	内面煤付着 底部指ナデ
579	835	C	W17G	一括	壺or甕	—	—	4.0	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生			
580	824	C	U16G	CP1791	壺or甕	—	—	4.4	(外) 7.5YR4/2灰褐色 (内) 5YR4/1褐灰色	白色鉱物	良好	弥生		ヘラナデ	
581	817	C	V16G	CP757	壺or甕	—	—	5.0	10YR4/1褐灰色	白,黒色鉱物	良好	弥生	横位ナデ	横位指ナデ ヘラナデ	
582	820	C	U16G	CP1581	壺or甕	—	—	4.3	10YR7/3にぶい黄橙色	白,黒色鉱物	良好	弥生		指頭押圧痕	
583	791	C	V16G	CP1144	壺or甕	—	—	6.0	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生			
584	787	C	W16G	CP1158	壺or甕	—	—	6.8	(外) 5YR6/4にぶい橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			
585	819	C	W16G	CP844	壺or甕	—	—	4.4	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	横位ハケ	
586	750	C	V16G	CP11	台付甕	—	—	—	7.5YR7/3にぶい橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ後ミガキ	
587	752	C	U16G	CP13?6・1436・ 1485・1690	台付甕	—	—	—	5YR5/8明赤褐色	石英 白色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ハケ	
588	751	C	V16G	CP1729	台付甕	—	—	—	5YR5/8明赤褐色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子 黒色鉱物	良好	弥生	ハケ	ヘラ調整	
589	760	C	T16G U16G	CP1684 CP1826	台付甕	—	—	—	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ 指頭押圧痕	
590	757	C	AA10G	一括	台付甕	—	—	—	(外) 10YR7/6黄橙色 (内) 5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ヘラナデ	ヘラナデ	
591	759	C	AB16G	一括	台付甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ハケ	
592	756	C	AB16G	一括	台付甕	—	—	9.8	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 砂粒	良好	弥生	ハケ	ナデ	
593	758	C	AA14G	一括	台付甕	—	—	(8.0)	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生			
594	755	C	W16G	CP1995	台付甕	—	—	(5.2)	5YR5/3にぶい赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ヘラナデ	ヘラ調整	
595	855	C	U16G	CP1789	壺	(20.0)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
596	762	C	U15G U16G	CP1468-2・1607・1622・1623・1624・ 1625・1626・1627・1694・1695・ 1768 一括	壺	—	—	—	(外) 2.5Y5/2暗灰黄色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦,横位ナデ	横位ナデ 指頭押 圧痕 輪積痕	
597	1106	C	V18G W16G	壺	—	—	—	10R4/8 赤色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ミガキ	ナデ	内外面赤彩	
598	862	C	V16G	CP749・753・2046	壺or甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ミガキ	ヘラナデ 指頭押圧痕	
599	858	C	U16G V16G	CP1508 CP1745	壺	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラナデ	ヘラナデ	
600	765	C	W17G	CP1989-1.2	壺or甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生			
601	764	C	U16G	CP1343・1344・1345・1346・ 1347・1349・1351・1354・1357・ 1358・1361・1362・1363・1370・ 1372・1373・1381	片口	(8.2)	11.6	7.4	10YR4/3にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ナデ	横位ナデ	
602	774	C	V16G X17G	CP2025 CP1177・一括	片口	(20.0)	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	弥生	ミガキ	ミガキ	
603	781	C	W16G	CP481	甑	—	—	—	(外) 7.5YR7/4にぶい橙色 (内) 10YR7/3黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
604	761	C	U16G	CP1786	ミニチュア	(1.5)	1.6	1.3	10YR6/3にぶい黄橙色	白,黒色鉱物	良好	弥生			刻み口縁 体部に刺突

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
605	676	C	W16G	CP290-1	甕	(17.3)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生		ハケ・輪積み痕	折返口縁 沈線文
606	677	C	W16G	CP761	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	石英 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ナデ	ヘラナデ	折返口縁
607	678	C	V16G	CP1258・1711	壺	(16.4)	—	—	10YR5/4にぶい黄橙色	白,黒色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	折返口縁
608	840	C	U16G	CP1576・1692	壺	(25.0)	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	縦・横位ハケ	ハケ	幅広有段口縁 棒状浮文
609	838	C	U16G T16G V16G 8溝	CP1329・1376・1376-1,2,3・1428・1429・1430・1438・1451・1700・一括 CP2301・2302-1,2 CP2184-2 一括	壺	(32.4)	—	—	10YR7/2にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子 金色雲母	良好	弥生	縦横位ハケ ミガキ	横位ハケ ミガキ	
610	842	C	W16G	CP839	壺	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生	ハケ	ナデ	棒状浮文
611	680	C	W16G	CP?7・一括	壺	(20.0)	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白,黒色鉱物 石英 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	結節縄文	
612	839	C	U16G	CP1903	壺	(22.4)	—	—	7.5YR8/4浅黄橙色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	弥生	横位ハケ後ナデ 縦位ハケ後ミガキ	輪積み痕	幅広有段口縁 棒状浮文
613	841	C	V15・W15・16G	一括	壺	(23.2)	—	—	(外) 5YR6/6橙色 (内) 7.5YR7/6橙色	石英 白色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ハケ	幅広有段口縁 棒状浮文
614	853	C	V16G	CP1044	壺	(20.0)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	赤色粒子		弥生	縦横位ハケ	ハケ後 ヘラミガキ	刻み口縁
615	770	C	U16G U17G	CP1682・一括 一括	壺or甕	—	—	—	(外) 10YR6/4にぶい黄橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	羽状縄文 結節縄文
616	975	C	U16G	一括	かわらけ	(8.8)	—	(5.4)	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 赤色粒子	良好	弥生	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
617	322	C	2竪穴	CP90	坏	10.6	5.1	3.8	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳			
618	325	C	2竪穴	カマド一括	坏	(11.6)	—	—	5YR5/8明赤褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳			
619	323	C	2竪穴	CP5016・5016-1・一括	坏	(12.0)	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳			
620	383	C	2竪穴 AB8G	CP5001-1,2,3,4・5005・一括 一括	坏	(12.6)	—	4.2	5YR5/8明赤褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳		横位ナデ	
621	346	C	2竪穴	CP3014	坏	13.0	5.6	—	5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子	良	古墳	ヘラケズリ	横位ナデ	
622	1093	C	2竪穴	一括	坏	(12.0)	—	—	(外) 2.5YR5/6明赤褐色 (内) 5YR5/6明赤褐色	砂粒	良好	古墳			
623	329	C	2竪穴	CP150	坏	(12.0)	—	—	(外)7.5YR6/6橙色 (内) 10YR3/3暗褐色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ ヘラケズリ	ミガキ	内黒
624	327	C	2竪穴	CP170・一括	坏	(12.0)	5.3	丸底	10YR8/3浅黄橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	ヘラナデ		
625	324	C	2竪穴	CP2718・2747・2929	坏	(12.0)	5.3	(4.5)	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳			
626	328	C	2竪穴	一括	坏	—	—	(6.0)	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 白色鉱物 雲母	良好	古墳		ヘラケズリ	
627	326	C	2竪穴	CP80・一括	坏	(13.6)	3.9	(6.0)	5YR6/8橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳			
628	331	C	2竪穴	CP5006-1,2,3・5010・5011・一括	甕	15.0	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	砂粒 白色鉱物	良好	古墳	ハケ	ハケ	
629	330	C	2竪穴	一括	甕	(18.0)	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳	縦位ハケ	横位ハケ	
630	332	C	2竪穴	CP5037-1・9	甕	(14.2)	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	ナデ	ナデ	
631	334	C	2竪穴	CP5038	甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳	縦位ハケ	指頭押圧痕	
632	333	C	2竪穴	CP818・5002・5004・一括	壺	—	—	—	5YR6/6橙色	黒色鉱物 石英 白色鉱物 雲母	良好	古墳		輪積み痕・ヘラ	
633	335	C	2竪穴	CP5017・5026・5033・5036・一括	壺	—	—	9.5	(外) 10YR6/4にぶい黄橙色 (内) 7.5YR6/6橙色	石英 白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	古墳			
634	1094	C	2竪穴	一括	小型壺	—	—	—	2.5YR6/8橙色	砂粒	良好	古墳			
635	336	C	2竪穴	CP5018	手捏	4.0	2.6	2.8	5YR5/6明赤褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	指頭押圧痕	指頭押圧痕	
636	337	C	2竪穴	一括	手捏	—	—	(3.0)	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳			
637	338	C	2竪穴	CP2954	須恵器 甕	—	—	—	2.5GY5/1ｵﾘｰﾌﾞ灰	白色鉱物	良好	古墳	タタキ目		櫛描波状文
638	340	C	3竪穴	CP2842-1	坏	12.4	5.6	丸底	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 白色鉱物 雲母	良好	古墳	ナデ	ナデ	
639	347	C	3竪穴 16土	坏	11.2	5.0	—	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ		
640	353	C	3竪穴	CP2796・2797-1,2,3,4・2798・2805・2835・2835-1・2843・2843-1	坏	11.9	5.4	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 石英	良好	古墳	ナデ	ナデ	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備 考
													外側	内側	
641	341	C	3竪穴	CP5040	坏	（14.3）	5.4	4.4	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳			
642	342	C	3竪穴	CP5059・ カマド一括	坏	（12.8）	6.3	5.0	（外）5YR3/1黒褐色 （内）5Y R6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳	ナデ	横位指ナデ	
643	345	C	3竪穴	CP5039	坏	（12.6）	6.0	—	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ	横位ナデ	
644	357	C	3竪穴	CP3064・3084・213-1	坏	13.6	6.2	（5.0）	5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
645	359	C	3竪穴	CP3009・3010・3013	坏	11.0	4.5	丸底	7.5YR6/3にぶい褐色	赤色粒子	良好	古墳	ナデ	暗文	
646	350	C	3竪穴	カマド一括	坏	（15.0）	—	—	5YR6/8橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ	横位ナデ	
647	351	C	3竪穴	CP2802	坏	（12.5）	—	—	5YR5/8明赤褐色	赤色粒子 石英	良好	古墳	ナデ	ナデ	
648	349	C	3竪穴	CP281	坏	（12.7）	—	—	10YR4/6褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
649	348	C	3竪穴	w一括・ｖ一括	坏	（13.0）	—	—	10YR7/6明黄褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
650	355	C	3竪穴	CP2738	坏	（12.2）	—	—	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
651	356	C	3竪穴	w一括	坏	—	—	3.8	2.5YR4/6赤褐色	赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ後横位ナデ	横位ナデ	
652	354	C	3竪穴	CP3046・3047	坏	—	—	4.0	5YR5/6明赤褐色	赤色粒子	良好	古墳			
653	343	C	3竪穴	CP2830・2834・ 2816・E端一括	坏	（13.4）	6.1	丸底	5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ヘラケズリ	横位ナデ	
654	352	C	3竪穴 12土	CP3089 CP2945	坏	—	—	—	（外）5YR5/8明赤褐色 （内）7.5Y R6/6橙色	赤色粒子 白色鉱物 雲母	良好	古墳	ナデ	ナデ	
655	380	C	3竪穴 13土	CP2810 CP2872	坏	—	—	丸底	5YR5/6明赤褐色	赤色粒子	良好	古墳			
656	360	C	3竪穴	CP2844・134-1	坏	—	—	4.4	7.5YR7/6橙色	赤色粒子	良好	古墳		ヘラ調整	
657	344	C	3竪穴	CP2844・2825・2697	坏	（12.8）	—	—	5YR6/8橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳		ナデ	底部ヘラケズリ
658	358	C	3竪穴	CP5040	坏	（12.1）	5.5	4.1	5YR4/6赤褐色	赤色粒子 石英 白色鉱物	良好	古墳		ミガキ ハケ	
659	361	C	3竪穴	w一括	坏	—	—	（3.5）	2.5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳		ヘラ調整	底面に線刻
660	1105	C	3竪穴	一括	高坏	—	—	—	5YR6/6橙色	砂粒	良好	古墳		ハケ	
661	1092	C	3竪穴	CP3053	坏	（16.0）	—	—	10YR8/4浅黄橙色	砂粒	良好	古墳	ナデ	横位ハケ	
662	366	C	3竪穴	W一括	甕	（16.0）	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒	良好	古墳	縦位ハケ	横位ハケ 指頭押圧痕	
663	368	C	3竪穴	w一括	甕	（18.2）	—	—	10YR7/6明黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ 輪積み痕	
664	369	C	3竪穴	w一括	甕	（15.2）	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
665	364	C	3竪穴	w一括	甕	（15.0）	—	—	（外）5YR6/6橙色 （内）10YR4/4褐色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	ハケ	ハケ 輪積み痕	
666	1104	C	3竪穴	一括	甕	（14.0）	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳		口縁部鉄分付着	
667	365	C	3竪穴	w一括	甕	（16.5）	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	ヘラナデ ハケ	ヘラナデ	
668	367	C	3竪穴	CP5060・5061・5068	甕	（18.0）	—	—	5YR4/6赤褐色	白色鉱物 石英	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
669	1103	C	3竪穴	CP5045-1,2	甕	（16.0）	—	—	（外）7.5YR7/6橙色 （内）5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	古墳	ナデ		
670	1101	C	3竪穴	CP3041	甕	（16.0）	—	—	（外）7.5YR7/8黄橙色 （内）5YR7/8橙色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳			
671	1100	C	3竪穴	CP2856	甕	（15.0）	—	—	（外）10YR6/4にぶい黄橙色 （内）10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ナデ		
672	372	C	3竪穴	CP3143	甕	（15.0）	—	—	（外）10YR2/1黒色 （内）10R4/4赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	ハケ後横位ナデ	横位ナデ	
673	371	C	3竪穴	w一括	甕	（15.3）	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	金色雲母 石英 赤色粒子	良好	古墳		輪積み痕	
674	375	C	3竪穴	w一括	壺or甕	—	—	（7.4）	5YR6/8橙色	石英 白色鉱物 黒色鉱物	良好	古墳	ハケ	ハケ	
675	377	C	3竪穴	CP223	壺or甕	—	—	（6.0）	（外）2.5YR6/8橙色 （内）7.5Y R6/6橙色	白色鉱物	良好	古墳	ヘラ		
676	376	C	3竪穴	カマド一括	壺or甕	—	—	（10.0）	2.5YR5/8明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳		ハケ後ミガキ	
677	373	C	3竪穴	w一括	壺or甕	—	—	9.6	2.5YR4/4にぶい赤褐色	赤色粒子 白色鉱物 雲母	良好	古墳	指頭押圧痕	ハケ	
678	362	C	3竪穴	CP2800	小型壺	（10.6）	—	—	7.5YR5/8明褐色	赤色粒子	良好	古墳	指頭押圧痕	輪積み痕	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
679	363	C	3竪穴	CP2833	小型壺	(9.0)	—	—	7.5YR6/8橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳			
680	374	C	3竪穴	CP2801・2807	甑	—	—	—	7.5YR6/6橙色	金色雲母 石英	良好	古墳	縦位ハケ	縦位ハケ	
681	378	C	3竪穴	w一括	手捏	—	—	(1.5)	7.5YR7/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	指頭押圧痕	指頭押圧痕	
682	381	C	3竪穴	CP198・w一括	須恵器 坏	(11.0)	—	—	5Y6/1灰色	白色鉱物	良好	古墳	ロクロナデ	ロクロナデ	
683	382	C	3竪穴 11土 13土 14土	CP3024・一括・E一括 CP2839・3050・3051 CP3006 CP3125	須恵器 甕	(9.4)	—	—	7.5Y6/1灰色	白色鉱物	良好	古墳		指頭押圧痕	肩部に自然釉
684	339	C	3竪穴	w一括	深鉢	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	砂粒	良好	縄文			折返口縁
685	390	C	11土 13土	CP2838 CP2887-1・2899・2904・2907	坏	(13.4)	5.5	(5.0)	5YR6/6橙色	赤色砂粒 赤色粒子	良好	古墳	ナデ	ナデ	底部ヘラケズリ
686	389	C	12土	CP2895・2896・ 2926・2933-2	壺or甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	ヘラナデ	ハケ後ナデ 肩部ハケ残る	
687	388	C	12土	CP2933-1	甕	(17.0)	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ハケ	ハケ 輪積み痕	
688	391	C	13土	CP2885・2923・ 2925・2972・2977	坏	10.6	5.0	丸底	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子	良好	古墳			
689	392	C	13土	CP2871	坏	(14.0)	—	—	7.5YR5/8明褐色	石英 白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ		
690	394	C	13土	CP2988・2988-1	坏	(10.6)	—	—	2.5YR4/6赤褐色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ 下部ヘラケズリ	横位ナデ	
691	393	C	13土	CP2874・2909・ 2974-1・2978	坏	(13.6)	—	—	7.5YR7/6橙色	石英 白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ナデ	ナデ	
692	397	C	13土	CP2877・2902・2903-1	壺	—	—	(5.8)	5YR4/6赤褐色	石英 白色鉱物	良好	古墳	ナデ	ナデ	
693	396	C	13土	CP2908	小型壺	(7.5)	—	—	7.5YR7/8黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ 輪積み痕	横位ナデ 輪積み痕	外面煤付着
694	395	C	13土	CP2965・一括	坏	(14.0)	—	—	7.5YR7/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
695	398	C	13土 14土	CP2883 CP3106	壺or甕	—	—	8.0	7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物	良好	古墳			
696	399	C	14土	CP3071	坏	(13.0)	6.0	丸底	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 雲母 白色鉱物	良好	古墳			
697	400	C	14土	CP3104・3114・ 311?・一括	坏	(14.0)	—	丸底	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	ヘラケヅリ		
698	402	C	14土 16土	CP3116・一括	坏	(13.0)	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	ナデ	ナデ	
699	401	C	14土	CP3077-2・3108	坏	(12.2)	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	ナデ	ナデ	
700	403	C	14土	CP3066・3076・ 8076-1・一括	甕	(20.0)	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	白色鉱物	良好	古墳	縦位ヘラ後横位ナデ 下部縦位ハケ	横位ナデ 輪積み痕	外面煤付着
701	404	C	14土	CP3077-1	甕	(16.2)	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	ハケ後横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
702	405	C	16土 20土	一括	壺	(16.2)	—	—	5YR6/8橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	
703	407	C	16土	一括	壺	(14.6)	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 赤色粒子 石英 雲母	良好	古墳	縦位ハケ 輪積み痕	横位ハケ	
704	406	C	16土	一括	甕	—	—	(9.0)	2.5YR4/6赤褐色	白色鉱物 石英	良好	古墳	ケズリ 指ナデ		
705	408	C	16土	一括	手捏	(4.4)	—	(4.0)	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	指頭押圧痕	指頭押圧痕	
706	379	C	21土	CP2682・2683・ 2695・2696-1,3	甕	—	—	—	(外) 10YR6/6明黄褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ ハケ	
707	583	C	21Pit	CP2863	坏	(12.8)	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 黒色鉱物 雲母	良好	古墳	ナデ	ナデ	
708	411	C	1溝	一括	深鉢	—	—	—	(外) 10YR3/3暗褐色 (内) 10YR4/6褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	縄文(諸磯C)			ボタン状貼付文
709	409	C	1溝 L23G	一括	深鉢	(28.0)	—	—	7.5YR4/2灰褐色	金色雲母 赤色粒子	良好	縄文(諸磯C)			
710	410	C	1溝	一括	深鉢	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	縄文(曽利Ⅱ)			
711	415	C	1溝	一括	甕	(20.0)	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	縦位ヘラナデ ハケ	横位ヘラナデ	刻み口縁
712	416	C	1溝	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	赤色粒子 雲母	良好	弥生	ハケ	指頭押圧痕	
713	412	C	1溝	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
714	413	C	1溝	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
715	419	C	1溝	一括	壺or甕	—	—	(9.4)	10YR6/6明黄褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生			木葉痕
716	421	C	1溝	CP1196	壺or甕	—	—	(7.0)	10YR6/6明黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			木葉痕
717	422	C	1溝	一括	壺or甕	—	—	(8.0)	10YR6/6明黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		ケズリ	木葉痕
718	420	C	1溝	一括	壺or甕	—	—	(8.8)	10YR6/6明黄褐色	白色鉱物	良好	弥生			木葉痕
719	418	C	1溝	一括	壺or甕	—	—	(8.4)	10YR5/6黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ(不鮮明)		木葉痕
720	424	C	1溝	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR4/4褐色 (内) 10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ヘラナデ	横位ヘラナデ	
721	423	C	1溝	一括	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	指頭押圧痕	
722	414	C	1溝	一括	壺	—	—	—	(外) 5YR6/6橙色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	赤色粒子 砂粒	良好	弥生			折返口縁 棒状浮文
723	417	C	1溝	CP2817	壺	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ 横位ナデ	赤彩	
724	1091	C	1溝	一括	坏	(16.0)	—	—	(外) 5YR5/4にぶい赤褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	砂粒	良好	古墳			
725	425	C	1溝	一括	高坏	—	—	—	5YR6/8橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳			
726	918	C	1溝	一括	壺	(12.6)	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
727	1107	C	1溝	一括	壺	(10.0)	—	—	(外) 5YR6/8橙色 (内) 5YR7/8橙色	砂粒	良好	古墳		口縁部ミガキ	
728	435	C	1溝	一括	須恵器 坏	(9.4)	—	—	N6/灰色	白色鉱物	良好	古墳			
729	429	C	1溝	一括	須恵器	—	—	—	10GY6/1緑灰色	白色鉱物	良好	古墳			
730	432	C	1溝	一括	須恵器 蓋	(13.0)	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色鉱物	良好	古墳	ロクロナデ	ロクロナデ	
731	306	C	1溝	一括	皿	(13.0)	2.3	(7.2)	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物	良好	奈良・平安			
732	427	C	1溝	一括	坏	—	—	(7.0)	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子 石英 白色鉱物	良好	奈良・平安	ナデ	暗文	
733	426	C	1溝	一括	坏	—	—	(7.8)	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子 雲母	良好	奈良・平安	ヘラケズリ	暗文	
734	305	C	1溝	一括	坏	—	—	(9.0)	(外) 10YR6/4にぶい黄橙色 (内) 10YR4/1灰褐色	赤色粒子 石英	良好	奈良・平安	ヘラケズリ		
735	1096	C	1溝	一括	高台付坏	—	—	6.0	(外) 7.5YR7/8黄橙色 (内) 5YR7/8橙色	砂粒	良好	奈良・平安			
736	433	C	1溝	一括	須恵器 蓋	(16.0)	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色鉱物	良好	奈良・平安	ロクロナデ	ロクロナデ	
737	434	C	1溝	一括	須恵器 蓋	(20.0)	—	—	10Y5/1灰色	白色鉱物	良好	奈良・平安			
738	431	C	1溝	一括	須恵器 坏	—	—	(9.0)	5B4/1暗青灰色	白色鉱物	良好	奈良・平安			回転糸切り後ケズリ
739	430	C	1溝	一括	須恵器 坏	—	—	(10.0)	N6/0灰色	—	良好	奈良・平安			
740	428	C	1溝	一括	須恵器 長頸壺	—	—	—	10Y7/1灰白色	白色鉱物	良好	奈良・平安	輪積み痕	輪積み痕 指頭押圧痕	内外面自然釉
741	499	C	9溝 W15G	CP49 CP63	甕	(19.6)	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	横位ナデ	横位ナデ	
742	616	C	AB8G	一括	甕	(20.4)	—	—	10YR/6/6明黄褐色	白,黒色鉱物 石英	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
743	617	C	AB7G AB8G	CP613 一括	甕	(16.8)	—	—	(外) 10YR5/2灰黄褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	石英 金雲母 雲母 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
744	642	C	AB7G	CP603	壺or甕	—	—	—	10YR/6/2灰黄褐色	白,黒色鉱物	良好	弥生		横位ヘラナデ	簾状文
745	615	C	AB7G AB8G	CP622・623 CP655-1	甕	—	—	—	10YR5/2灰黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
746	622	C	AB8G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR5/3にぶい黄褐色 (内) 7.5R6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生			櫛描波状文
747	626	C	AB8G	CP571	甕	—	—	—	(外) 10R6/4にぶい黄橙色 (内) 10YR3/1黒褐色	赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
748	901	C	AB8G	一括	甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ナデ	ミガキ	
749	979	C	21T付近	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 7.5YR6/3にぶい褐色 (内) 7.5YR4/3褐色	赤色粒子 雲母	良好	弥生			刻み口縁
750	1102	C	AC8G	CP600	高坏	(23.0)	—	—	(外) 10R4/8赤色 (内) 2.5YR5/8明赤褐色	雲母 砂粒	良好	弥生			外面赤彩
751	867	C	AB8G AC8G	一括 CP893・874-1	坏	(14.0)	6.5	5.4	7.5YR6/6橙色	密	良好	古墳	ミガキ	ミガキ 指頭押圧痕	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
752	868	C	AB8G AC8G	CP581・一括 CP989・1038	坏	(12.0)	5.6	4.8	2.5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	指ナデ	指ナデ・ヘラナデ	
753	873	C	AB8G	一括	坏	(15.0)	—	—	(外) 5YR5/6明赤褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	砂粒	良好	古墳			
754	874	C	AB8G AC8G AD8G	一括 CP1022 CP1005	坏	(12.0)	—	—	(外) 5YR4/6赤褐色 (内) 7.5YR5/6明褐色	砂粒	良好	古墳	ヘラナデ	ハケ ナデ	
755	869	C	AC8G	CP873-1・CP815	坏	(11.4)	—	—	(外) 5YR5/4にぶい赤褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳			
756	870	C	AC8G	CP986	坏	(12.4)	5.1	—	(外) 5YR5/4にぶい赤褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	赤色粒子 黒色粒子	良好	古墳			
757	871	C	AB8G	一括	坏	(12.6)	5.0	—	5YR6/6橙色	赤色粒子	良好	古墳		ナデ ミガキ	
758	892	C	AC8G	CP1003	坏	(13.0)	—	—	5YR6/6橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	古墳	斜・横位ヘラケズリ	ナデ 斜位ヘラナデ	
759	878	C	AB8G	一括	坏	(13.4)	—	—	5YR6/6橙色	雲母 黒色鉱物	良好	古墳	ヘラケズリ	ミガキ	
760	875	C	AB8G	CP578～580・一括	坏	(13.0)	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ	ヘラ	
761	876	C	AC8G	CP545	坏	(14.7)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	
762	877	C	AB8G	一括	坏	(13.3)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	黒色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	古墳	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	
763	879	C	AC8G	一括	坏	(13.5)	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白,黒色鉱物	良好	古墳	ヘラケズリ	ロクロナデ	
764	880	C	AB8G	一括	坏	(12.9)	—	—	7.5YR5/6明褐色	石英 雲母	良好	古墳	ヘラ	ヘラ	
765	881	C	AB8G	一括	坏	(13.0)	—	—	5YR6/8橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ	ハケ	
766	882	C	AB8G	一括	坏	(14.5)	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物 石英	良好	古墳	ヘラケズリ	ロクロナデ	
767	872	C	AB8G AB7G AC8G	CP609 CP602 CP814	坏	(12.5)	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	密	良好	古墳	ミガキ	ミガキ	
768	889	C	AB8G AC7G	一括 CP912	坏	—	—	5.5	10YR4/4褐色	白色鉱物 赤色粒子 石英	良好	古墳	ヘラケズリ・ナデ	ナデ	煤付着
769	886	C	AB8G	一括	坏	—	—	丸底	7.5YR7/6橙色	赤色粒子	良好	古墳		指頭押圧痕 ハケ	底部にケズリ
770	884	C	AC8G	CP913	坏	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	赤色粒子 黒色鉱物	良好	古墳		暗文	底部にハケ
771	887	C	AB8G	一括	坏	—	—	—	(外) 7.5YR5/6明褐色 (内) 2.5YR6/8橙色	黒色鉱物 赤色粒子	良好	古墳		ミガキ	
772	888	C	AC8G	CP540・一括	坏	—	—	丸底	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 石英	良好	古墳	ナデ	ナデ	底部にハケ
773	891	C	AC8G	CP872・一括	坏	(14.0)	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子 金色雲母	良好	古墳	ナデ 斜位ヘラナデ	横位ナデ	
774	903	C	AB8G	一括	高坏	(13.8)	8.2	(9.9)	7.5YR6/6橙色	縦位ヘラケズリ					
775	883	C	AB8G AC8G	一括 CP982	坏	(15.0)	—	—	7.5YR5/8明褐色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ ハケ	
776	1097	C	AC8G	CP560	高坏	—	—	—	(外) 7.5R6/6橙色 (内) 7.5YR7/6橙色	石英 赤色粒子	良好	古墳	ヘラケズリ	ミガキ	
777	1098	C	AD8G	CP1036	高坏	—	—	—	(外) 10YR7/8黄橙色 (内) 10YR7/6明黄褐色	砂粒	良好	古墳	ハケ	ハケ	
778	910	C	AD8G	CP1039	高坏	—	—	—	5YR6/6橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳		ナデ	
779	778	C	AB8G	一括	高坏	—	—	(16.4)	5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	古墳	ミガキ	ナデ	孔1ヵ所
780	897	C	AB7G	CP608	壺	(6.0)	—	—	10YR7/3にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ	
781	890	C	AB8G	CP627	壺	(10.0)	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 雲母 白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラナデ	横位ハケ 指頭押 圧痕 指ナデ	
782	894	C	AC8G	CP558	壺	—	—	—	5YR6/8橙色	白色鉱物	良好	古墳			墨書か?
783	893	C	AB8G	CP631一括	壺	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	古墳	横位ヘラナデ		
784	895	C	AB8G	一括	直口壺	(9.0)	—	—	5YR4/8明褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ハケ後ミガキ		
785	933	C	AB7G AB8G	CP596 CP655	甕	(25.0)	—	—	(外) 5YR4/1褐灰色 (内) 7.5YR2/1黒色	白色鉱物	良好	古墳		指頭押圧痕	
786	939	C	AB8G AC8G	一括 CP981	甕	(17.5)	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ・ミガキ	ヘラナデ 輪積み痕	
787	912	C	AC7G・AD8G	一括	甕	(21.0)	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	横位ナデ 縦位ハケ 指頭押圧痕		
788	931	C	AC8G ?7G	CP876 一括	甕	(18.0)	—	—	(外) 7.5R6/6橙色 (内) 7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	古墳	ハケ	ヘラナデ	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
789	899	C	AB8G	一括	甕	(14.0)	—	—	(外) 10R3/2黒褐色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	指ナデ ヘラナデ ミガキ	指ナデ ヘラナデ 指頭押圧痕	
790	896	C	AB8G	一括	壺or甕	(14.0)	—	—	(外) 10R4/3にぶい黄褐色 (内) 2.5YR4/1黄灰色	白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ 縦位ハケ ヘラケズリ	横位ハケ ナデ	
791	900	C	AB7G AB8G AC8G AD	CP595 CP610・653・ 一括CP963 CP1099	壺	(10.0)	—	—	(外) 2.5YR5/8明赤褐色 (内) 5YR2/1黒褐色	白色鉱物	良好	古墳		ハケ	外面剥離 内面煤付着
792	932	C	AB8G	一括	壺or甕	(16.0)	—	—	7.5YR6/8橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	古墳	斜位ハケ	横位ハケ	
793	938	C	AB8G	一括	小型甕	(11.0)	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物	良好	古墳	横位ナデ 縦位ハケナデ	ハケ 指頭押圧痕	
794	937	C	AB8G	一括	壺or甕	(14.0)	—	—	黒色鉱物 雲母	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ		
795	898	C	AC8G	CP985・1048・一括	甕	(17.0)	—	—	10YR8/4浅黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ指頭 押圧痕	
796	854	C	AD8G	CP1093・1094・一括	壺	(16.0)	—	—	7.5YR7/3にぶい橙色	白色鉱物 赤色砂粒	良好	古墳	縦位ヘラナデ	横位ナデ	
797	902	C	AB8G AD8G	一括 CP1058	壺or甕	(18.4)	—	—	(外) 7.5R3/1黒褐色 (内) 7.5YR5/6明褐色	石英 白色鉱物 赤色鉱物 金色雲母	良好	古墳	ロクロナデ	ロクロナデ	
798	935	C	AB8G	一括	壺	—	—	—	(外) 7.5R6/6橙色 (内) 5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	縦位ハケ	横位ハケ	
799	936	C	AB8G	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 10R5/4にぶい黄褐色 (内) 10YR4/1褐灰色	雲母 白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ	
800	911	C	AB8G	一括	甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物	良好	古墳	縦,横位ハケ	横位ハケ	外面煤付着
801	913	C	AD8G	CP1092	壺or甕	—	—	(6.6)	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	ハケ 指頭押圧痕	ハケ	
802	848	C	AB7G	CP611	壺or甕	—	—	5.0	10YR8/3浅黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	ハケ	指ナデ 爪先痕	
803	823	C	AC7G	CP983	壺or甕	—	—	(5.4)	(外) 5YR5/3にぶい赤褐色 (内) 5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳			
804	940	C	AC8G	CP984	壺or甕	—	—	(7.4)	7.5R5/8明褐色	金色雲母 白色鉱物	良好	古墳		指頭押圧痕	
805	950	C	AB16G	一括	壺or甕	—	—	8.8	(外) 10YR5/6黄褐色 (内) 10YR6/6明黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	ナデ		
806	921	C	AC8G	CP910・1037	甑	(27.0)	—	—	(外) 5YR6/8橙色 (内) 5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ	
807	945	C	AB8G	一括	壺or甕	—	—	(6.4)	2.5YR4/4にぶい赤褐色	白色鉱物	良好	古墳	ナデ	横位ハケ	
808	947	C	AC8G	CP556	壺or甕	—	—	(8.0)	(外) 5YR5/6明赤褐色 (内) 5YR4/6赤褐色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	ナデ		
809	946	C	AD8G	CP1019	壺or甕	—	—	(8.0)	(外) 5YR5/8明赤褐色 (内) 7.5YR4/6褐色	白色鉱物 砂粒	やや 良好	古墳		ナデ	木葉痕
810	942	C	AB8G	一括	壺or甕	—	—	(6.4)	7.5YR6/6明褐色	白色鉱物	良好	古墳			木葉痕
811	949	C	AC8G	CP821	壺or甕	—	—	7.0	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 7.5YR4/2灰褐色	雲母 白色鉱物	良好	古墳		ヘラナデ	
812	845	C	AB8G	一括	壺or甕	—	—	(10.0)	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 石英	良好	古墳	ハケ		内外
813	916	C	AC7G	CP523	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳			外面煤付着 内面炭化物付 着
814	920	C	AC8G	CP950	甑	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳	指頭押圧痕 指ナデ ヘラナデ		
815	832	C	AC8G	CP1054	手捏	—	—	4.0	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	指頭押圧痕		
816	925	C	AB8G	一括	手捏	—	—	3.8	10YR/6/6明黄褐色	白,黒色鉱物	良好	古墳	指頭押圧痕	指ナデ	
817	924	C	AC8G	CP909	手捏	(2.8)	3.2	(4.0)	10YR6/3にぶい黄橙色	赤色粒子 黒 白色鉱物 雲母	良好	古墳		指頭押圧痕	
818	922	C	AB8G	一括	土鈴	—	3.3	—	10YR5/6黄褐色	石英 白色鉱物	良好	古墳			外面煤付着
819	954	C	AB8G	一括	須恵器 壺	(16.8)	—	—	5Y5/1灰色	白色鉱物	良好	古墳			櫛描波状文
820	926	C	AB8G	CP634-1・636	羽口	(9.0)	(8.8)	1.8	7.5YR6/8橙色	白,黒色鉱物 金色雲母		古墳		横位ヘラナデ	
821	930	C	AB8G	CP636-1	羽口	(4.0)	(5.7)	0.7	7.5YR5/4にぶい褐色	白,黒色鉱物	良好	古墳			
822	927	C	AB8G	CP634-2	羽口	(4.9)	(6.9)	2.1	7.5YR5/4にぶい褐色	白,黒色鉱物	良好	古墳			
823	611	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	7.5YR6/3にぶい橙色	白 黒色鉱物	良好	縄文(十三菩提)			三角印刻文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
824	595	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文(諸磯)			
825	604	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 7.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	縄文(諸磯b)			
826	594	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 10YR4/4褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文(諸磯)			
827	598	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外)7.5YR4/6褐色 (内) 7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文(諸磯)			
828	597	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文(諸磯)			
829	603	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物	良好	縄文(諸磯b)			
830	596	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 10YR4/4褐色 (内) 7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文(諸磯)			
831	599	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 10YR4/4褐色 (内) 7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文(諸磯)			
832	600	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物	良好	縄文(諸磯)			
833	601	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	縄文(諸磯b)			
834	602	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 10YR3/3暗褐色 (内) 5YR5/4にぶい赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	縄文(諸磯b)			
835	605	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 7.5YR3/3暗褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	縄文(諸磯b)			
836	606	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 5YR5/6明赤褐色 (内) 7.5YR5/6明褐色	白色鉱物	良好	縄文(諸磯b)			
837	607	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 7.5YR4/6褐色 (内) 10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	縄文(諸磯b)			
838	608	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 5YR2/1黒褐色 (内) 10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	縄文(諸磯b)			
839	610	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 7.5YR5/8明褐色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	白 黒色鉱物	良好	縄文(十三菩提)			
840	609	C	AC11G	CP1949	有孔浅鉢	(26.0)	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物	良好	縄文(諸磯b)	横位ナデ	横位ナデ 輪積み痕	
841	612	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	(外) 7.5YR6/4黒褐色 (内) 7.5YR3/1にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	縄文(曾利Ⅳ)			
842	613	C	L23G	一括	深鉢	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	縄文(堀之内)			
843	681	C	U15G	CP404・412-2,3,4,6・413・415・415-8,9・416-2,4,7,11,13,14,17・417-1・419-1・420・421・424・1598・1599・1601・1602・1603・1605・1640・1650・1651・1652	甕	23.0	29.2	8.5	10YR3/2黒褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ハケ ナデ	刻み口縁 外面煤付着
844	995	C	28T付近	一括	甕	(19.0)	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	横位ミガキ	刻み口縁 外面煤付着
845	997	C	28T付近	一括	甕	20.0	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦,横位ハケ	横位ハケ ナデ	刻み口縁
846	996	C	28T付近	一括	甕	(19.0)	—	—	(外) 7.5YR7/6橙 (内) 5YR6/6橙	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
847	690	C	AA12G	CP2548	甕	(16.0)	—	—	(外) 7.5YR3/1黒褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	斜位・横位ハケ	ナデ	刻み口縁
848	590	C	3ため池	CP142-1	甕	—	—	—	(外) 7.5YR6/6橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	小石 石英 雲母 白色鉱物	良好	弥生	縦・斜位ハケ	横位ハケ後ナデ	刻み口縁 外面煤付着
849	688	C	U15G 21T	CP1618 6,7層一括	甕	(12.5)	—	—	7.5YR4/2灰褐色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ハケ	横位ミガキ	刻み口縁 外面煤付着
850	746	C	Y18G	CP1963	甕	—	—	—	(外) 7.5YR5/3にぶい褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 石英 白色鉱物 黒色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ後ナデ	刻み口縁
851	686	C	T16G	CP1706・1889	甕	(21.6)	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR5/2灰黄褐色	雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	刻み口縁
852	588	C	2ため池	CP2092	壺or甕	(19.8)	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	横位ヘラナデ	ミガキ 横位ナデ	刻み口縁 外面煤付着
853	527	C	AA20G	CP2277	壺	(19.0)	—	—	(外) 7.5YR4/3褐色 (内) 7.5YR5/8明褐色	石英 白色鉱物 赤色粒子 黒色鉱物	良好	弥生	ナデ	ナデ 輪積み痕	刻み口縁
854	692	C	U15G	CP925・1187	甕	(22.0)	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ハケ後ヘラ	横位ミガキ	刻み口縁

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
855	713	C	U17G	一括	甕	(19.0)	—	—	10YR3/1黒褐色	白 黒色鉱物 雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	刻み口縁
856	719	C	T16G	CP2281	甕	(18.0)	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ヘラナデ	ハケ	刻み口縁
857	724	C	Y18G	CP806	壺	(17.0)	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ナデ	刻み口縁
858	694	C	AC16G	一括	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子 砂粒 雲母	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ後 ナデ ミガキ	刻み口縁
859	1066	C	自然流路	ー	壺or甕	(10.0)	—	—	(外) 10YR4/3暗褐色 (内) 10YR7/6明黄褐色	砂粒	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
860	980	C	21T付近	一括	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子 雲母	良好	弥生			刻み口縁
861	983	C	21T付近	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 2.5YR6/1黄灰色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	やや不良	弥生	ハケ後ヘラ	指ナデ	刻み口縁
862	585	C	2ため池	CP2023	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	白,黒色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラナデ	ヘラナデ	刻み口縁
863	999	C	28T付近	一括	甕	—	—	—	(外) 5YR3/1黒褐色 (内) 5YR4/3にぶい赤褐色	白色鉱物 石英 雲母 赤色粒子	良好	弥生	縦・斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
864	1001	C	28T付近	一括	甕	—	—	—	(外) 2.5YR6/6橙色 (内) 5YR6/6橙色	雲母 黒色粒子	良好	弥生			刻み口縁
865	1000	C	28T付近	一括	甕	—	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	赤色鉱物 砂粒		弥生	ハケ	ナデ	刻み口縁
866	742	C	AA19G	一括	甕	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
867	739	C	Y10G	一括	甕	—	—	—	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		横,斜位ハケ	刻み口縁
868	689	C	Y18G	一括	甕	—	—	—	10YR3/2黒褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
869	738	C	U15G	一括	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 金色雲母 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	横位ハケ	刻み口縁
870	715	C	Z10G	CP2528	甕	—	—	—	7.5YR73/1黒褐色	石英 雲母	良好	弥生	斜位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
871	710	C	Y18G	一括	甕	—	—	—	7.5YR3/3暗褐色	白色鉱物	良好	弥生	横位ヘラナデ 指ナデ	横位ヘラナデ	刻み口縁
872	704	C	Y18G	CP787	甕	—	—	—	(外) 10YR3/1黒褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	金色雲母 赤色粒子		弥生	ハケ ナデ 指頭押圧痕	横位ハケ	刻み口縁
873	734	C	Z10G	CP2605	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	金色雲母 白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	刻み口縁
874	731	C	U17G	一括	甕	—	—	—	10YR4/1褐灰色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラミガキ	ヘラミガキ	刻み口縁
875	723	C	AA19G	一括	甕	(19.0)	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 7.5YR7/4にぶい橙色	赤色粒子 金色雲母	良好	弥生	ハケ	ハケ・ナデ	刻み口縁
876	586	C	2ため池	CP・2091・2094・2099	甕	(15.0)	—	—	(外) 10YR7/3にぶい黄橙色 (内) 10YR6/2にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦,横位ハケ	斜位ハケ	
877	748	C	AB15G	CP2410	甕	(14.4)	—	—	5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ハケ	ハケ調整後ミガキ	
878	589	C	3ため池	CP134	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	金雲母 石英 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	横位ハケ後ナデ	外面煤付着
879	988	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 10YR7/2期橙色 (内) 10YR5/2灰黄褐色	砂粒	良好	弥生			簾状文
880	745	C	AB14G	一括	壺or甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生	ハケ	ナデ	
881	614	C	U15G V15G	CP1617 CP1638	甕	(16.0)	—	—	(外) 7.5YR3/1黒褐色 (内) 7.5YR4/2灰褐色	石英 白色鉱物 雲母	良好	弥生		ナデ	刻み口縁 櫛描波状文
882	679	C	AB20G	一括	壺	—	—	—	(外) 7.5YR4/1灰褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白,黒色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ハケ		刻み口縁 内面に縄文
883	987	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 5YR5/4にぶい赤褐色 (内) 2.5YR4/3にぶい赤褐色	砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
884	981	C	21T付近	一括	壺or甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			刻み口縁 櫛描波状文
885	623	C	V15G	一括	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生			刻み口縁 櫛描波状文
886	619	C	V18G	一括	甕	—	—	—	(外) 10YR4/4褐色 (内) 7.5YR6/6橙色	白色鉱物 石英 黒色鉱物 雲母	良好	弥生		ナデ	刻み口縁
887	635	C	T16G	CP1389	甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	赤色粒子 白色鉱物	櫛描波状文				
888	637	C	AB14G	一括	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	赤色粒子 雲母	良好	弥生			櫛描波状文
889	650	C	X18G	一括	壺or甕	—	—	—	(外) 5YR6/4にぶい橙色 (内) 5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 赤色粒子 金色雲母	良好	弥生			櫛描波状文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
890	664	C	V15G	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR3/1 黒褐色 （内）7.5YR6/4 にぶい橙色		良好	弥生			櫛描波状文
891	639	C	V18G	一括	甕	—	—	—	10YR4/3 にぶい黄褐色		良好	弥生			櫛描波状文
892	641	C	X16G	一括	甕	—	—	—	（外）2.5YR2/1 黒色 （内）10YR5/3 にぶい黄褐色		良好	弥生		横位ナデ	簾状文 櫛描波状文 煤付着
893	665	C	X16G	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR3/1 黒褐色 （内）10YR5/4 にぶい黄褐色		良好	弥生			櫛描波状文
894	993	C	26～28 T付近	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR5/3 にぶい黄褐色 （内）7.5YR3/3 暗褐色		良好	弥生		ミガキ	櫛描波状文
895	633	C	V15G	一括	甕	—	—	—	（外）2.5Y2/1 黒色 （内）10YR5/4 にぶい黄褐色		良好	弥生			櫛描波状文
896	672	C	X16G	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR4/2灰黄褐色 （内）10YR7/2にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文 煤付着
897	653	C	X16G	一括	壺or甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文 煤付着
898	991	C	26～28T 付近 28T付近	一括	壺or甕	—	—	—	（外）2.5YR5/6明褐色 （内）2.5YR2/1赤黒色	白色鉱物 石英 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
899	627	C	AA20G	CP918-2.3	甕	—	—	—	（外）7.5YR1.7/1黒色 （内）7.5YR3/3暗褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			櫛描波状文
900	994	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	—	2.5YR4/4にぶい赤黒褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
901	992	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生			櫛描波状文
902	989	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	—	7.5YR4/2灰褐色	白色鉱物 石英	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
903	660	C	Z18G	一括	壺or甕	—	—	—	7.5YR6/8橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文 煤付着
904	668	C	Z18G	一括	壺or甕	—	—	—	（外）7.5YR6/4にぶい橙色 （内）7.5YR5/8明褐色	石英 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
905	659	C	U17G	一括	壺or甕	—	—	—	2.5Y3/2黒褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		横位ハケ痕	櫛描波状文
906	645	C	AA16G	一括	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色鉱物	良好	弥生		横位ヘラナデ	刻み口縁 櫛描波状文 煤付着
907	584	C	2ため池	CP957	壺or甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			櫛描波状文
908	675	C	AG4G	一括	壺or甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
909	990	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 石英 黒色粒子	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
910	649	C	Y18G	一括	壺or甕	—	—	—	（外）7.5YR3/1黒褐色 （内）7.5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
911	648	C	X18G	一括	壺or甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生		横位ヘラナデ 指頭押圧痕	櫛描波状文 煤付着
912	661	C	Y18G	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR4/4褐色 （内）10YR5/6黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
913	647	C	J16G	CP1673	甕	—	—	—	（外）10YR2/2黒褐色 （内）10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生		ハケ後ミガキ	櫛描波状文 煤付着
914	766	C	U15G	CP392-1.2395・398・399・ 400-1.2・468・1949	壺or甕	—	—	(8.4)	（外）10YR5/2灰黄褐色 （内）10YR2/1黒色	雲母 白色鉱物	良好	弥生	縦位ミガキ	横位ミガキ	木葉痕
915	833	C	AE17G	一括	壺or甕	—	—	(5.6)	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	ミガキ	横位ミガキ	内外赤彩
916	837	C	21T 6・7層 U16G V15G V16G	一括 CP1427・1422 CP1631 CP1753・2212	壺or甕	—	—	(9.0)	（外）7.5YR4/4褐色 （内）10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ		木葉痕
917	849	C	AE13G	CP1564	壺or甕	—	—	7.7	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 石英 雲母赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	斜位ハケ 指ナデ	
918	844	C	U15G	CP392-1	壺or甕	—	—	(7.8)	（外）10YR6/4にぶい黄橙色 （内）5YR4/4にぶい赤褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ後ナデ	内面煤付着
919	797	C	U15G	CP924	壺or甕	—	—	(9.0)	（外）7.5YR5/3にぶい褐色 （内）5YR6/6橙色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	弥生	横位ヘラナデ	横位ヘラナデ	木葉痕
920	783	C	U15G	CP923	壺or甕	—	—	(7.5)	10YR4/2灰黄褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ハケ	ヘラ	木葉痕

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
921	941	C	AI17G	CP4014	壺or甕	—	—	(5.4)	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生		指頭押圧痕	木葉痕
922	802	C	T16G	CP1369	壺or甕	—	—	(7.0)	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ミガキ	ミガキ	内面赤彩 底部にミガキ
923	592	C	3ため池	CP139	壺or甕	—	—	(6.0)	(外) 10YR5/4にぶい黄褐色 (内) 5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	弥生		横位ナデ	木葉痕 底部煤付着
924	1002	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	6.6	7.5YR4/1褐灰色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	ヘラナデ		木葉痕
925	985	C	21T付近	一括	壺or甕	—	—	6.9	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 赤色粒子 雲母	良好	弥生			
926	1008	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	7.4	10YR7/6明黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
927	827	C	Y18G	一括	壺or甕	—	—	(8.0)	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 赤色粒子 金色雲母	良好	弥生	ハケ後ヘラ	ヘラ	木葉痕
928	1007	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	7.0	10YR7/6明黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ	指ナデ ハケ	
929	847	C	AA11G	CP2603	壺or甕	—	—	6.0	7.5YR7/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生		ハケ	
930	1010	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	(6.0)	2.5YR5/6明褐色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ		木葉痕
931	807	C	AE13G	一括	壺or甕	—	—	(6.5)	7.5YR4/6褐色	白 黒色鉱物 金色雲母	良好	弥生	縦位ヘラナデ	斜位ヘラナデ	木葉痕
932	804	C	U15G	CP408	壺or甕	—	—	(9.6)	(外) 7.5YR6/4にぶい橙色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ミガキ	ハケ	
933	850	C	AD16G	CP2636	壺or甕	—	—	(9.2)	(外) 10YR7/4にぶい黄橙色 (内) 7.5YR6/6橙色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	立上りハケ 他はナデ	横位ハケ 指ナデ	
934	1022	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(7.0)	7.5YR6/8橙色	白色鉱物	良好	弥生			
935	1005	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	8.6	10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
936	1020	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(6.0)	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生		棒状工具による	
937	806	C	R18G	CP2546	壺or甕	—	—	(6.6)	10YR6/2灰黄褐色	砂粒	良好	弥生	ハケ	ハケ	
938	799	C	AK19G	CP4000-1	壺or甕	—	—	6.0	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生		指ナデ	
939	834	C	AA14G	CP979	壺or甕	—	—	(5.8)	7.5YR4/6褐色	白色鉱物 金色雲母 砂粒	良好	弥生	ハケ	ミガキ	
940	1014	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(9.0)	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
941	829	C	AC15.17G	一括	壺or甕	—	—	(7.2)	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 石英 雲母赤色粒子	良好	弥生	縦位ハケ	指ナデ	
942	784	C	AA11G	CP2594	壺or甕	—	—	6.7	(外) 7.5YR4/4褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ナデ	ナデ	
943	529	C	AA20G	CP2276	壺or甕	—	—	(7.5)	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	弥生	縦位ハケ		底部種子痕
944	812	C	V15G	CP270	壺or甕	—	—	(6.2)	(外) 10YR5/1褐灰色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ 斜位ヘラナデ	指ナデ	
945	795	C	W14G	CP2753	壺or甕	—	—	5.2	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ナデ	
946	1011	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	(6.6)	(外) 7.5YR4/2灰褐色 (内) 10YR5/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生			
947	1032	C	市境	一括	壺or甕	—	—	4.2	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 ほぼ均一	良好	弥生	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	内外煤付着
948	966	C	V14G	CP252	壺or甕	—	—	6.4	(外) 7.5YR6/8橙色 (内) 10YR8/4浅黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			内面
949	826	C	U15G	CP1318	壺or甕	—	—	(6.0)	10YR4/3にぶい黄褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			
950	821	C	AA14G	一括	壺or甕	—	—	5.2	(外) 10YR6/2灰黄褐色 (内) 10YR5/1褐灰色	白色鉱物 金色雲母	良好	弥生	ナデ	指ナデ	
951	1012	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(6.6)	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			
952	1004	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	8.4	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
953	587	C	2ため池	CP2400	壺or甕	—	—	(6.0)	10YR5/3にぶい黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラ	指頭押圧痕	
954	1013	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	(6.0)	(外) 10YR5/1褐灰色 (内) 10YR6/6明黄褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
955	864	C	AI18G	CP4017	壺or甕	—	—	6.0	2.5YR4/6赤褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ミガキ	横.斜位ミガキ 底面もミガキ	内外赤彩 底部にミガキ
956	1016	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	5.7	10YR4/1褐灰色	石英 赤色粒子 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
957	593	C	3ため池	CP136	壺or甕	—	—	(5.0)	10YR8/4浅黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ハケ ナデ	ハケ ナデ	

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
958	816	C	X16G	CP322	壺or甕	—	—	5.0	(外) 10YR5/2灰黄褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生	縦位ヘラナデ	横位ハケ ヘラナデ	
959	808	C	T14G	CP1299	壺or甕	—	—	(6.8)	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面赤彩
960	1009	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(6.6)	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子 白色鉱物 砂粒	良好	弥生			
961	1003	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(8.0)	(外) 7.5YR6/6橙色 (内) 5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 小石 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ナデ	
962	591	C	3ため池	CP140	壺or甕	—	—	(4.8)	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	縦位ヘラ	横位ナデ 輪積痕	
963	830	C	X12G	一括	壺or甕	—	—	(4.4)	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦位ハケ	ナデ	
964	818	C	S16G	CP687	壺or甕	—	—	4.0	7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	縦 ,横位ナデ	ナデ	
965	814	C	V·Y18G	一括	壺or甕	—	—	4.6	10YR7/4にぶい黄橙色	白 黒色鉱物	良好	弥生	縦位ハケナデ	横位ハケナデ	
966	1033	C	市境	一括	壺or甕	—	—	2.3	10YR7/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生		指頭押圧痕	外面煤付着
967	851	C	U14G	CP442・444	壺	—	—	(8.0)	7.5YR7/4にぶい橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		ハケ後ヘラナデ	
968	1017	C	26～28T 付近	一括	壺or甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生		ナデ	
969	1019	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(4.8)	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			
970	1028	C	28T付近	一括	壺	—	—	(4.4)	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 黒色鉱物	良好	弥生	ナデ	ヘラナデ	
971	1027	C	28T付近	一括	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	指ナデ	ヘラケズリ	
972	1006	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	7.0	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	弥生	ケズリ		
973	1018	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(7.8)	7.5YR6/8橙色	白色鉱物	良好	弥生			
974	1015	C	28T付近	一括	壺or甕	—	—	(10.0)	(外) 10YR6/4にぶい黄橙色 (内) 10YR1.7/1黒色	石英 白色鉱物	良好	弥生	ハケ	ナデ	
975	744	C	T16G UG	CP1662・1663-1.2.3.4 一括	壺or甕	—	—	—	(外) 5YR5/6明赤褐色 (内) 7.5YR3/1黒褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生			
976	836	C	T16G	CP2510-1・2306	壺or甕	—	—	—	10YR6/2灰黄褐色	白色鉱物 雲母 赤色粒子	良好	弥生			内外赤彩
977	1037	C	廃土山	一括	台付甕	—	—	8.3	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ミガキ		
978	754	C	X16G	CP334	台付甕	—	—	(9.0)	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 雲母	良好	弥生	ハケ	ヘラ	
979	1023	C	28T付近	一括	器台	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	弥生	ヘラミガキ	棒状工具による	
980	1029	C	28T付近	一括	台付甕	—	—	—	7.5Y8/4浅黄橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	弥生	縦位ハケ	指頭押圧痕 棒状工具 ハケ	木葉痕
981	763	C	U15G	CP1647・1648	壺	(13.0)	17.0	6.0	(外) 10YR4/3にぶい黄褐色 (内) 10YR6/3にぶい黄褐色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ミガキ ナデ	ハケ 指頭押圧痕 輪積痕	
982	767	C	AB16G	CP10-4・ 一括・ 不明	小型壺	(9.2)	(13.0)	(5.5)	(外) 10YR4/3にぶい黄褐色 (内) 10YR4/1褐灰色	白色鉱物	良好	弥生	斜位ハケ後縦ミガキ	ナデ	
983	843	C	W14G	CP2749	小型壺	—	—	5.0	7.5YR6/8橙色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ナデ	ハケ 輪積痕	
984	1025	C	28T付近	一括	甑	—	—	(6.0)	(外) 7.5YR5/8明褐色 (内) 7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒	良好	弥生	ナデ	ナデ	
985	1067	C	自然流路	CP22	甑	—	—	(4.6)	(外) 7.5YR6/4にぶい橙色 (内) 5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生	縦位ハケ	横位ハケ	
986	1021	C	28T付近	一括	甑	—	—	4.0	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 ほぼ均一	良好	弥生			
987	977	C	21T付近	一括	壺	(28.0)	—	—	7.5YR6/6橙色	砂粒 白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	縦,横位ハケ	横位ハケ	幅広有段口縁 棒状浮文
988	852	C	U15G	CP1611・1612・ 1613・1614・1615	壺	17.4	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	砂粒 白色鉱物	良好	弥生	ハケ ナデ	ハケ ナデ	
989	986	C	28T付近	一括	壺	—	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生	ハケ	ハケ	
990	768	C	Z10G	CP2527	壺	—	—	—	(外) 7.5YR5/4にぶい褐色 (内) 7.5YR6/4にぶい褐色	金色雲母 砂粒	良好	弥生	ハケ		羽状縄文
991	773	C	AB14G	一括	壺	—	—	—	(外) 7.5YR7/8黄橙色 (内) 10YR6/4にぶい黄橙色	白色鉱物 砂粒	良好	弥生			縄文 外面赤彩
992	982	C	21T付近	一括	壺	—	—	—	(外) 7.5YR7/5橙色 (内) 7.5YR6/4にぶい橙色	砂粒	良好	弥生			縄文
993	775	C	AB14G・Y18G	一括	高坏	(19.8)	—	—	2.5YR4/6赤褐色	白色鉱物 赤色粒子 雲母	良好	弥生	ミガキ	ミガキ	内外赤彩

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備 考
													外側	内側	
994	776	C	AB16G	一括	高坏	—	—	—	(外)2.5YR5/6明赤褐色 (内) 10YR6/4にぶい黄褐色	赤色粒子 雲母		弥生	ミガキ		内外赤彩
995	779	C	AH17G	CP894	高坏	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物		弥生	ハケ後ヘラナデ	ヘラナデ	内外赤彩
996	753	C	U14G	CP677	高坏	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 金色雲母		弥生		ヘラ	
997	1099	C	市境	一括	高坏	—	—	—	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 7.5YR5/6明褐色	砂粒	良好	弥生	ミガキ		
998	915	C	AK20G	CP4008	坏	—	—	(4.0)	10YR7/4にぶい黄橙色	赤色粒子	良好	古墳	ヘラナデ		
999	984	C	U14G	CP445・不明	坏	—	—	4.6	(外) 7.5YR6/8橙色 (内) 5Y3/2オリーブ黒色	砂粒	良好	古墳			
1000	885	C	AA9G	CP966	丸底壺	—	—	—	7.5YR7/6橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳	ケズリ	ハケ	
1001	914	C	AD7G	CP511	丸底壺	—	—	丸底	10YR7/6明黄褐色	赤色粒子	良好	古墳		巴状のハケ調整 後指頭押圧痕	
1002	906	C	AC7G	一括	高坏	(18.6)	—	—	(外) 7.5YR6/6橙色 (内) 5YR6/6橙色	赤色粒子 白色鉱物	良好	古墳			
1003	905	C	Y15G	CP53	高坏	—	—	—	(外) 10YR7/4にぶい黄橙色 (内) 7.5YR7/6橙色	赤色粒子 黒色鉱物 雲母		古墳			
1004	908	C	AK18G	CP4004	高坏	—	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	赤色粒子	良好	古墳	指頭押圧痕		内面赤彩
1005	904	C	AC7G	CP530	高坏	—	—	(16.0)	7.5YR6/6橙色	赤色粒子 黒色鉱物		古墳	ロクロナデ	ロクロナデ	
1006	968	C	AE13G	CP1286	高坏	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	ほぼ均一	良好	古墳	ケズリ	指頭押圧痕	
1007	1039	C	市境	一括	高坏	—	—	—	5YR4/8赤褐色	白色鉱物 石英	良好	古墳	ナデ	ナデ	
1008	969	C	AD13G	一括	高台付坏	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	奈良・平安		指頭押圧痕	
1009	909	C	AI18G	CP4015	高坏	—	—	—	5YR6/8橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳			孔二ヵ所
1010	777	C	H25G	CP1820	高坏	—	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	石英 白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ハケ	ハケ	
1011	1038	C	市境	一括	高坏	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳	ハケ	ナデ	
1012	1024	C	28T付近	一括	高坏	—	—	—	7.5YR7/6橙色	白色鉱物	良好	古墳	縦位ケズリ	抉り	
1013	1030	C	28T付近	一括	高坏	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	ほぼ均一	良好	古墳			
1014	907	C	AA10G	一括	高坏	—	—	(10.6)	7.5YR7/6橙色	赤色粒子	良好	古墳	縦横位ヘラナデ	横位ヘラケズリ ハケ	
1015	1026	C	28T付近	一括	直口壺	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白,黒色鉱物	良好	古墳		輪積痕	
1016	919	C	S16G	CP1388	小型壺	—	—	(5.0)	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	古墳		横位ハケ 指頭押圧痕	
1017	780	C	U14G	CP437	甑	—	—	(4.0)	10YR6/6明黄褐色	金色雲母	良好	古墳	ヘラナデ	ヘラナデ	
1018	970	C	AF13G	一括	柱状高台坏	—	—	(4.0)	5YR7/6橙色	白色鉱物	良好	古墳		指頭押圧痕	
1019	923	C	AK20G	CP4010	手捏	(5.0)	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 赤色粒子	良好	古墳		指ナデ	
1020	1034	C	市境	一括	甕	(25.9)	—	—	7.5YR6/6橙色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	ハケ後ケズリ	横位ハケ 口縁部は ハケ後横位ナデ	
1021	1062	C	調査区 E端市	一括	甕	(8.0)	—	—	5YR4/8赤褐色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	ナデ	ナデ	
1022	917	C	AC7G	CP517・520・ 522・535	甕	(19.8)	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	古墳	縦,横位ハケ	ヘラナデ	
1023	934	C	V15G	CP263	甕	(17.0)	—	—	5YR4/8赤褐色	白色鉱物 金色雲母		古墳	ヘラナデ	輪積み痕	
1024	1036	C	市境	一括	壺or甕	—	—	(7.9)	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物 石英 雲母	良好	古墳	ヘラナデ	指ナデ・ヘラナデ	木葉痕
1025	943	C	AE10G	CP641	壺or甕	—	—	(8.8)	7.5YR4/4褐色	白色鉱物	良好	古墳			木葉痕
1026	782	C	X10G	CP2820	壺or甕	—	—	(8.8)	2.5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳	縦位ハケ	ハケ	
1027	803	C	AA9G	CP1040	壺or甕	—	—	(9.0)	(外) 7.5YR5/8明褐色 (内) 7.5YR6/8橙色	白色鉱物	良好	古墳	ナデ	ナデ	木葉痕
1028	948	C	AJ17G	CP4020	壺or甕	—	—	丸底	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	古墳			
1029	1035	C	市境	一括	壺or甕	—	—	(4.2)	10YR6/4にぶい黄橙色	金色雲母 白色鉱物 石英	良好	古墳	斜位ハケ	ヘラ	底部ヘラケズリ
1030	944	C	AK18G	CP4021	壺or甕	—	—	(7.0)	7.5YR4/4褐色	白色鉱物 金色雲母	良好	古墳	ハケ	ハケ	
1031	967	C	V15G	一括	須恵器 坏	—	—	—	10YR5/1褐灰色	白色鉱物	良好	古墳			櫛描波状文

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
1032	1058	C	市境	一括	須恵器 長頸壺	—	—	—	（外）5YR3/1黒褐色 （内）5Y R6/8橙色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳			
1033	1056	C	28T付近	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）5Y6/1灰色 （内）5Y5/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	タタキ目		
1034	1054	C	26～28T付近	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）5YR5/1灰色 （内）7.5YR5/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	タタキ目		
1035	1055	C	28T付近	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）2.5Y5/1黄灰色 （内）5Y4/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	古墳	タタキ目		
1036	1053	C	28T付近	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）N5/灰色 （内）7.5Y6/1灰色	砂粒	良好	古墳	タタキ目		内面剥離
1037	1057	C	28T付近	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）N4/灰色 （内）N6/灰色	砂粒	良好	古墳	タタキ目		
1038	953	C	AA9G	CP965	須恵器 壺or甕	—	—	—	2.5Y4/1黄灰色	白色鉱物	良好	古墳			櫛描波状文
1039	929	C	市境	一括	羽口	長）（3.7）	幅）（3.7）	厚）1.4	5YR5/6明赤褐色	白色鉱物	良好	古墳			発泡、溶着痕
1040	960	C	AD13G	一括	坏	—	—	（7.0）	10YR7/4にぶい黄橙色	白色鉱物 石英	良好	奈良・平安	ロクロヘラ削り	ロクロヘラ削り	
1041	951	C	AA10G	一括	坏	—	—	（7.6）	7.5YR6/4にぶい橙色	白色鉱物 赤色粒子	良好	奈良・平安	ケズリ	暗文	
1042	1031	C	市境	一括	坏	—	—	（3.0）	5YR7/8橙色	ほぼ均一	良好	奈良・平安		ロクロナデ	底部静止糸切り後周囲をケズリ
1043	963	C	Z10G	CP2553	須恵器 蓋	（18.0）	—	—	N6/灰色	砂粒	良好	—			
1044	1060	C	市境	一括	須恵器 蓋	—	—	—	10Y6/1灰色	砂粒	良好	—			
1045	1043	C	市境	一括	須恵器 坏	（13.0）	3.4	（8.2）	（外）7.5Y8/1灰白色 （内）5Y5/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	—			底部ヘラケズリ
1046	959	C	AF13G	一括	須恵器 坏	—	—	—	N5/灰色	白,黒色鉱物	良好	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	
1047	962	C	AD13G	一括	須恵器 坏	—	—	9.8	（外）灰色N6/灰色 （内）5PB6/1青灰色	白色鉱物	良好	—			回転糸切り 貼付高台
1048	971	C	AD13G	一括	須恵器 坏	—	—	7.0	5Y7/1灰白色	白色鉱物 砂粒	良好	—			回転糸切り
1049	1041	C	市境	一括	須恵器 坏	—	—	（6.6）	（外）5Y5/1灰色 （内）7.5Y6/1灰色	白色鉱物 赤色粒子	良好	—			回転糸切り
1050	1042	C	市境	一括	須恵器 坏	—	—	（6.0）	（外）7.5Y6/1灰色 （内）7.5Y5/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	—			回転糸切り
1051	1064	C	調査区S端水路	一括	須恵器 壺or甕	—	—	（7.0）	（外）2.5YR7/1灰白色 （内）10YR7/1灰白色	砂粒	良好	—			底部糸切り痕
1052	952	C	AA9G	一括	須恵器 坏	—	—	（8.7）	5Y6/1灰色	白色鉱物 赤色粒子	良好	—			
1053	961	C	AA9G	一括	須恵器 坏	—	—	（10.0）	（外）5Y5/1灰色 （内）5Y6/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	—		ナデ	
1054	1040	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	（8.0）	10YR7/1灰白色	砂粒	良好	—		ナデ	
1055	955	C	AB10G	CP920	須恵器 壺	（23.6）	—	—	5Y7/1灰白色	ほぼ均一	良好	—	ハケ後横位ナデ 敲き目痕	指頭押圧痕 当て具痕	折返口縁
1056	957	C	AA10G	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）7.5Y6/1灰色 （内）5Y6/1灰色	砂粒	良好	—			
1057	1047	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	10Y4/1灰色	白色鉱物	良好	—			
1058	1044	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）5Y6/1灰色 （内）10YR6/1褐灰色	砂粒	良好	—			
1059	1063	C	調査区S端水路	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）10YR4/2灰黄褐色 （内）2.5YR5/1黄灰色	砂粒	良好	—			
1060	958	C	AA10G	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）N7/灰白色 （内）5Y7/1灰白色	砂粒	良好	—			
1061	1046	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	7.5Y7/1灰白色	ほぼ均一	良好	—			
1062	1050	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）7.5Y5/1灰色 （内）5Y6/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	—			
1063	1049	C	市境	一括	須恵器 壺	—	—	—	5Y6/1灰色	白色鉱物 ほぼ均一	良好	—	頚部ナデ 体部タタキ目	当て具痕	
1064	956	C	AD13G	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	7.5Y7/1灰白色	白色鉱物 砂粒	良好	—	ナデ		

区域番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物No	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	胎土	焼成	時代	調整		備考
													外側	内側	
1065	1045	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）7.5Y4/1灰色 （内）N6/灰色	砂粒	良好	—			
1066	1052	C	市境	一括	須恵器 壺or甕	—	—	—	（外）2.5Y6/1黄灰色 （内）5Y6/1灰色	砂粒	良好	—		ハケ	
1067	1059	C	市境	一括	須恵器長頸壺	—	—	—	（外）5Y6/1灰色 （内）5Y7/1灰白色	白色鉱物	良好	—			
1068	965	C	AF15G	一括	須恵器長頸壺	—	—	—	10YR8/1灰白色	白色鉱物	良好	—			
1069	964	C	AF14G	一括	須恵器長頸壺	—	—	—	10YR8/1灰白色	白色鉱物	良好	—		指頭押圧痕	
1070	1048	C	市境	一括	須恵器 平瓶	—	—	—	7.5Y6/1灰色	白色鉱物	良好	—		指頭押圧痕	
1071	1051	C	市境	一括	須恵器 壺	—	—	—	（外）5Y5/3灰オリーブ色 （内）5Y5/1灰色	白色鉱物 砂粒	良好	—			
1072	1061	C	市境	一括	須恵器突帯付四耳壺	—	—	—	（外）5Y7/1灰白色 （内）5Y6/1灰色	白色鉱物	良好	—			
1073	972	C	T16G	一括	かわらけ	7.8	2.1	4.6	（外）10YR6/8明黄褐色 （内）10Y7/3にぶい黄橙色	金色雲母 砂粒	良好	中世			
1074	973	C	X12G	一括	かわらけ	6.8	1.7	4.0	7.5YR6/4にぶい橙色	白 黒色鉱物 雲母	良好	中世	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
1075	974	C	V14G	一括	坏	—	—	（7.0）	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物	良好	中世	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転糸切り
1076	976	C	AK19G	CP4025	鉢	—	—	10.7	5YR6/8橙色	白,黒色鉱物 赤色粒子 石英	良好	近世	ロクロヘラ 削り	ロクロヘラ 削り	底部糸切り後外周のみヘラ削り 貼付高台
1078	1072	C	—	—	壺or甕	—	—	—	（外）5YR6/6橙色 （内）10YR6/3にぶい黄橙色	砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
1079	658	C	—	—	壺or甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 雲母	良好	弥生		横位ナデ	櫛描波状文 外面煤付着
1080	631	C	—	—	壺or甕	—	—	—	（外）10YR4/3にぶい黄褐色 （内）10YR1.7/1黒色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
1081	671	C	—	一括	壺or甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙色	白色鉱物 石英	良好	弥生		ナデ	櫛描波状文
1082	654	C	—	一括	壺or甕	—	—	—	10YR8/3浅黄橙色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
1083	1068	C	調査区	一括	壺or甕	—	—	—	（外）5YR2/1黒褐色 （内）10YR7/3にぶい黄橙色	砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
1084	1069	C	調査区	一括	壺or甕	—	—	—	（外）7.5YR4/3褐色 （内）10YR5/3にぶい黄褐色	砂粒	良好	弥生			櫛描波状文
1085	1070	C	調査区	一括	壺or甕	—	—	—	（外）7.5YR5/34にぶい褐色 （内）7.5YR5/3にぶい褐色	白色鉱物	良好	弥生			櫛描波状文
1086	1071	C	調査区	一括	壺or甕	—	—	—	（外）10YR3/2黒褐色 （内）7.5YR5/4にぶい褐色	白色鉱物 赤色粒子	良好	弥生			櫛描波状文
1087	769	C	—	一括	鉢	（17.0）	—	—	（外）7.5YR5/2灰褐色 （内）10YR5/2灰黄褐色	白色鉱物	良好	弥生	ナデ	ヘラナデ	
1088	370	C	—	—	甕	（20.0）	—	—	（外）5YR4/3にぶい赤褐色 （内）5YR3/3暗赤褐色	白色鉱物 赤色粒子	良	古墳		ハケ	
1089	928	注記なし	注記なし	注記なし	羽口	長） （5.2）	巾） （5.4）	厚） 2.4	（外）5Y4/1灰色 （内）7.5YR6/6橙色	白 黒色鉱物	良好	古墳		縦横位ヘラナデ	
1090	1073	C	調査区	一括	須恵器 長頸壺	—	—	—	（外）10YR4/1褐灰色 （内）10YR5/1褐灰色	砂粒	良好	—			
1091	1065	C	農薬施設撤去立会い	—	深鉢	—	—	—	（外）5YR4/4にぶい褐色 （内）2.5YR5/8明赤褐色	白色鉱物 砂粒	良好	縄文			

第４表　遺物一覧表（石器）

図版番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物 No	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	時代	備考
293	1086	B	1 溝		打製石斧	98.4	58.4	9.4	65.6	ホルンフェルス		
294	1074	B	遺構外	S4	石鏃	27.3	13.9	5.3	1.5	チャート		
295	1079	B	遺構外	S1	削器	16.4	16.8	12.7	3.6	チャート		素材剥片の形状を残す
296	1117	B	遺構外	S1	礫器	(9.3)	5.5	2.4	230	緑色凝灰岩		石核の可能性もあり
297	1114	B	遺構外		石臼	(18.4)	(17.4)	9.4	3458	安山岩		柄穴が開口している
298	1108	B	遺構外	S2	石皿	(13.6)	(13.8)	(6.9)	1002	安山岩		
1092	1089	C	20 溝		打製石斧	83.1	44.5	12.6	48	凝灰岩	弥生～古墳	
1093	1109	C	22 溝	S12	台石	25.0	12.5	10.1	5100	緑色凝灰岩	弥生～古墳	
1094	1090	C	遺物集中地点 1	CP954	横刃形石器	36.1	64.5	8.1	22.0	ホルンフェルス		下端の側縁が磨耗している
1095	1076	C	遺物集中地点 1		石鏃	12.8	19.2	3.9	0.8	黒曜石		上部欠損、未成品か
1096	1077	C	2 竪穴		石鏃	10.6	12.8	4.1	0.5	黒曜石	古墳	上部欠損、未成品か
1097	1110	C	3 竪穴	一括	稜磨石	15.0	3.5	4.9	450	流紋岩	古墳	上下端部に敲打痕を有す
1098	1087	C	3 竪穴		打製石斧	64.2	49.5	11.5	38.7	ホルンフェルス	古墳	下端欠損
1099	1088	C	3 竪穴		打製石斧	67.2	58.1	13.4	67.2	凝灰岩	古墳	
1100	1078	C	28T 付近		石錐	40.6	13.6	6.7	2.7	黒曜石		素材剥片の形状を残す
1101	1082	C	2 溜池		石核	13.1	19.3	11.3	3.0	黒曜石		打面を固定せず剥離を行う
1102	1075	C	排土		石鏃	20.8	16.9	3.9	1.0	黒曜石		
1103	1085	C	X17G		微細剥離を有する剥片	40.6	15.5	13.2	5.2	黒曜石		腹面に微細剥離を有す
1104	1116	C	調査区東端	S14	磨面を有する石器	4.2	7.1	0.9	0.03	ホルンフェルス		表面に磨面、裏面に線状痕を有す
1105	1081	C	AE13G		石核	33.2	23.1	14.9	11.3	水晶		
1106	1083	C	調査区一括		石核	13.1	20.3	16.6	3.7	黒曜石		
1107	1084	C	市境一括		石核	19.8	38.1	11.8	7.9	黒曜石		表面を中心に求心状に剥離
1108	1080	C	J24G		石核	27.7	35.4	13.6	13.1	チャート		裏面を中心に求心状に剥離
1109	1112	C	V14G	S2	敲石	(12.2)	5.5	4.0	460	安山岩		上下端部に敲打痕を有す
1110	1111	C	2 タメ池	S11	台石	22.3	10.3	7.4	2580	泥岩	弥生～古墳	
1111	1113	C	Z19G	一括	敲石	(6.6)	5.8	4.4	320	緑色凝灰岩		下端に敲打痕を有す
1112	1115	C	X16G	S3	砥石	13.8	6.4	3.5	360	泥岩		下端は欠損

第５表　遺物一覧表（木製品）

図版番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物 No	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	時代	備考
69	1	A	堀立柱建物跡	木柱１	柱	56.0	18.2	17.7	弥生	工具痕
70	2	A	堀立柱建物跡	木柱３	柱	54.5	18.0	18.3	弥生	
71	3	A	堀立柱建物跡	木柱２	柱	26.0	19.5	18.0	弥生	
299	10	B	１溝	一括	曲物の底	13.4	16.7	1.3	平安	内面に黒漆 釘穴か ?2 ヶ所穿孔が施される
300	55	B	１溝	一括	部材	13.7	11.4	3.9		中心に穴
301	11	B	１溝	下層一括	杭	18.4	10.7	6.2	平安	上部焼失痕
302	7	B	遺構外	W36	建築部材	69.9	12.0	3.3		
303	9	B	１溝	W105	棒状木製品	13.4	3.6	2.0	平安	
304	12	B	１溝	電気施設下一括	曲物のタガ	8.9	4.4	0.8	平安	桜の革綴じ
305	35	B	１溝	電気施設下一括	燃えさし	83.0	13.0	14.0	平安	下部焼失痕
306	58	B	１溝	電気施設下一括	燃えさし	12.0	1.5	1.0		下部焼失痕
307	36	B	１溝	電気施設下一括	棒状木製品	16.5	1.8	1.2		
308	34	B	１溝	電気施設下一括	燃えさし	18.6	1.4	1.5		下部焼失痕
309	13	B	１溝	電気施設下一括	燃えさし	50.0	1.1	1.1		
310	39	B	遺構外	W98	曲物の底	20.8	13.5	1.2		
311	37	B	遺構外	W6	曲物の蓋	12.0	6.0	1.0		裏面に焼けた痕
312	38	B	遺構外	W92	曲物の底	14.7	4.6	0.8		
313	5	B	遺構外	W19	曲物の底	13.2	13.9	2.5		
314	40	B	遺構外	W101	板状木製品	20.0	5.9	1.5		
315	54	B	遺構外	W20	曲物の底	16.6	7.8	0.9		
316	57	B	3T	一括	燃えさし	19.6	1.5	1.3		下部焼失痕
317	43	B	１溝より東側	電気施設下一括	燃えさし	16.1	1.4	1.6		下部焼失痕
318	41	B	遺構外	W96	燃えさし	15.3	1.3	0.5		下部焼失痕
319	56	B	遺構外	W106	燃えさし	14.0	1.0	0.8		下部焼失痕
320	53	B	１溝より東側	一括	部材	11.2	2.4	1.8		
321	61	B	遺構外	W104	燃えさし	22.9	1.2	1.1		下部焼失痕
322	8	B	遺構外	W65	燃えさし	24.2	1.5	1.2	平安	下部焼失痕
323	4	B	遺構外	W15	炭化部材	71.0	4.9	4.4		表裏全体が炭化している
324	3	B	遺構外	W14	建築部材	157.4	12.9	7.6		
1113	22	C	８溝	CW78	鍬	(27.3)	(17.3)	2.7	弥生	焼失痕
1114	23	C	８溝	CW84	鍬	10.8	8.7	3.0	弥生	孔径 2.9cm
1115	17	C	８溝	CW48	燃えさし	13.6	1.5	1.1		焼失痕
1116	19－1	C	８溝	CW52	板	43.2	10.7	1.0	弥生	
1117	19－3	C	８溝	CW52	板	40.6	11.9	1.3	弥生	
1118	20	C	８溝	CW54	杭	14.7	7.4	6.3	弥生	
1119	15	C	８溝	CW6	建築部材	97.0	5.3	7.4		
1120	19－4	C	８溝	CW52	板	35.4	13.0	1.2		
1121	14	C	８溝	SW5	柱	26.4	11.7	11.2		
1122	19－2	C	８溝	CW52	板	40.4	5.8	1.1		
1123	24	C	８溝	CW87	棒状木製品	74.1	3.0	1.6	弥生	
1124	25	C	15pit	CW108	杭	64.5	13.0	12.0	弥生	
1125	33	C	１溝 ,AF13G	一括	部材	19.1	5.6	2.6		
1126	44	C	１溝 ,AD13G	一括	燃えさし	25.9	1.2	1.2		下部焼失痕

図版番号	実測番号	調査区	遺構名	遺物 No	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	時代	備考
1127	42	C	1 溝 ,AD13G	一括	燃えさし	21.5	0.7	0.4		下部焼失痕
1128	45	C	1 溝 ,AC10G	一括	曲物の底	16.0	12.4	0.8		
1129	51	C	1 溝 ,AF13G	一括	曲物の底	26.2	8.9	1.1		桜の革綴じ痕
1130	47	C	1 溝 ,AC10G	一括	部材	10.6	3.5	2.8	古墳	下部２次加工の可能性あり
1131	46	C	1 溝 ,AC10G	一括	部材	21.1	3.0	2.2		
1132	48	C	1 溝	一括	燃えさし	26.5	0.8	1.4		下部焼失痕
1133	50	C	1 溝	一括	燃えさし	20.1	1.0	1.0		下部焼失痕
1134	62	C	1 溝	一括	燃えさし	18.6	1.3	1.3		上下部焼失痕
1135	49	C	1 溝	一括	燃えさし	9.8	1.7	1.4		下部焼失痕
1136	6	C	遺構外	W28	建築部材	114.3	9.3	5.6		
1137	21	C	遺構外	CW64	タガ	2.8	3.8	0.3	弥生	桜皮３枚
1138	16	C	遺構外	CW26	板	27.9	6.9	2.6		貫通穴７　焼けた痕
1139	28	C	遺構外	CW1003	皿	47.8	13.3	6.6	平安末	
1140	26	C	市境	CW1001	皿	11.0	11.7	1.7		
1141	27	C	市境	CW1002	曲物の蓋	15.8	17.1	0.6		桜の革綴じ
1142	30	C	AC10G	一括	棒状木製品	34.0	1.7	1.6		
1143	29	C	水路付近砂層	一括	道具部材	29.4	6.6	3.4	平安	
1144	18	C	AE13G	CW51	横槌	41.5	4.7	4.0		全体に加工痕
1145	52	C	市境	一括	曲物の底	18.9	14.3	1.0		貫通穴３　側面に穴
1146	59	C	AC10G	一括	棒状木製品	16.5	2.8	1.2		全体に焼けあり
1147	60	C	AA9G	一括	部材	11.5	3.2	0.9		
1148	31	C	遺構外	CW71	板材	50.0	5.8	1.8		

第Ⅴ章　理化学的分析

第１節　身洗沢遺跡における植物圧痕分析

中山　誠二

はじめに

身洗沢遺跡は、甲府盆地の南東部の浅川扇状地の扇端部に位置する遺跡で、1989 年に行われた発掘調査では、埋没旧河道の窪地から弥生時代後期後半の水田跡が３面に渡って確認され、水田面からは土器とともに当時の木製農具などが多く検出された（山梨県教育委員会 1990）。この水田跡は、本県における水田遺構検出の先駆けとなった。

今回の調査地点は、先行する調査地区の東側に位置し同様の遺構の存在が予測されたが、調査の結果、明確な水田跡は確認されなかった。しかし、弥生時代後期と古墳時代中期の集落の一端が発見されたことで、当時の人々の生業復元が課題として浮上した。

本稿は、これらの課題解明に向けて、出土土器の圧痕調査を悉皆的に行い、栽培利用植物等の同定を行ったものである。

１　圧痕土器の概要

調査対象とした土器は、本発掘調査によって検出された 1091 点の土器片で、主な時期は弥生時代後期後葉～末葉、古墳時代前期～中期を中心としたものである（第１図）。

破片資料のため器種が確定できない資料も多いが、弥生時代の土器は壺、甕、高坏などが対象とされた。当該期の甕は、台付甕（MIA07）と平底甕（MIA16,24,30）に２つの器種に分類され、台付甕は東海地方からの影響を受けて成立したタイプと考えられる。一方、平底甕には中部高地に特徴的な櫛描文土器と、櫛描文を持たずにハケ調整のみ施した甲府盆地独特の特徴をもつ甕の２タイプが見られる。

また、古墳時代前期～中期の土器は、土師器の坏、壺、甕、高坏、須恵器の坏、甕などがある。今回の発掘調査では、県内でも資料が少ない古墳時代中期の土器がまとまって出土している。

２　試料の分析方法

本研究では、縄文土器の表面に残された圧痕の凹部にシリコーン樹脂を流し込んで型取りし、そのレプリカを走査電子顕微鏡（SEM）で観察するレプリカ法と呼ばれる手法を用いる。

土器圧痕のレプリカ作成作業は、①圧痕をもつ土器試料の選定、②土器の洗浄、③資料化のため写真撮影、④圧痕部分のマイクロスコープでの観察、⑤圧痕部分に離型剤を塗布し、シリコーン樹脂の充填、転写、⑥これを乾燥させ、圧痕レプリカを土器から離脱し蒸着、⑦走査電子顕微鏡（日本 FEI 製の Quanta600）を用いて転写したレプリカ試料の表面観察、という手順で実施した。

なお、離型剤にはアクリル樹脂（パラロイド B － 72）をアセトンで薄めた 5％溶液を用い、印象剤には JM シリコーンを使用した。

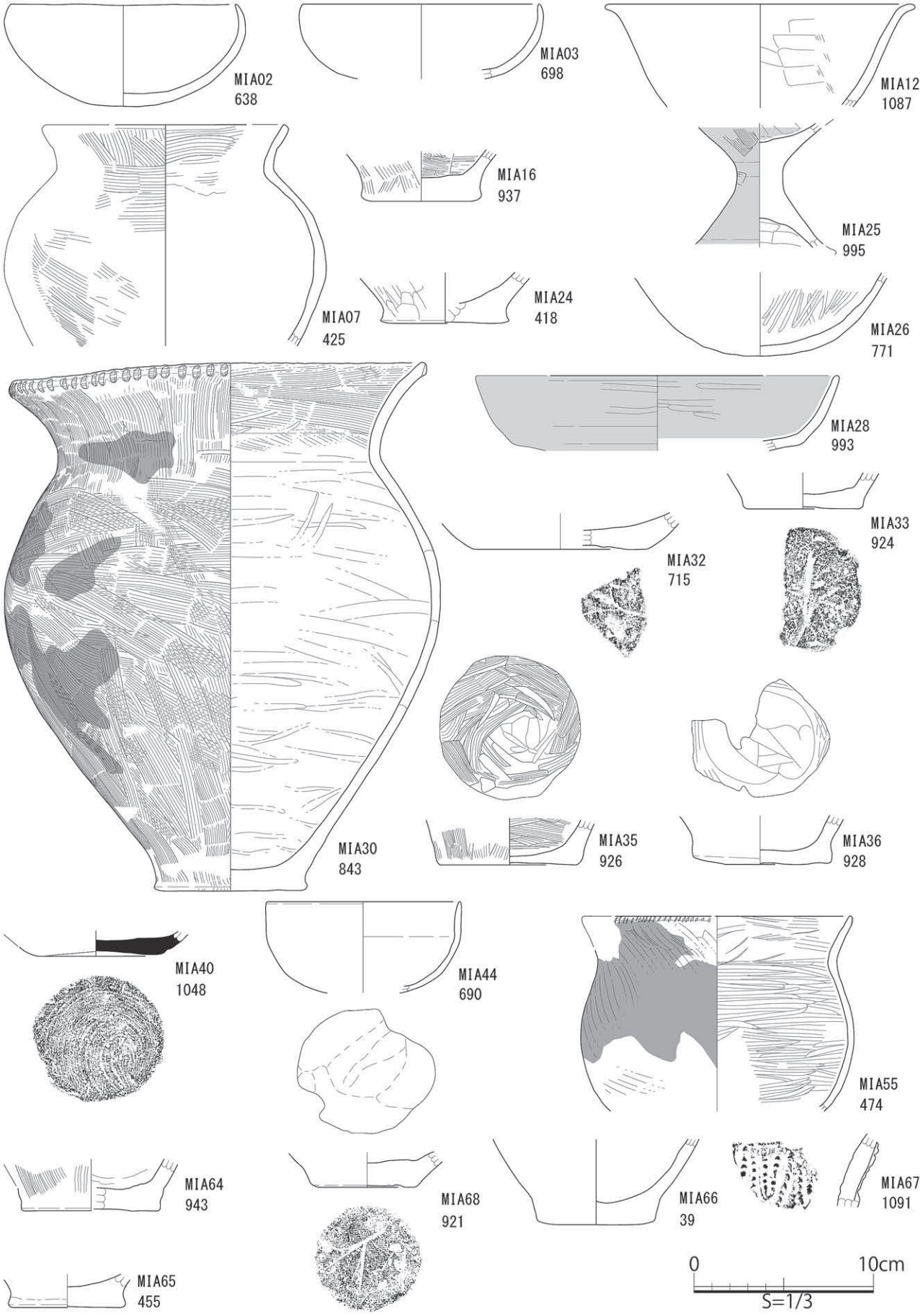
３　同定結果（表１、第２図～第５図）

MIA02　（第２図１～４）

圧痕土器は古墳時代中期の椀状の坏形土器で、底部内面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 7.0㎜、幅 4.2㎜、厚さ 2.9㎜の扁平の楕円形を呈する。先端及び基部の一部を欠くが、長軸方向に内外頴の段差がわずかに認められる。表皮全体に不明瞭ながら顆粒状突起と考えられる凹凸が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L）の籾と判断される。

MIA03　（第２図５～８）



第１図　身洗沢遺跡出土圧痕土器

表１　身洗沢遺跡圧痕一覧

番号	資料番号	図版番号	時代	器種	植物圧痕検出部位	植物圧痕の有無	植物同定	植物部位
1	MIA01	—	古墳中期～後期	須恵器壺 or 甕	胴部外面	×		
2	MIA02	638	古墳中期	坏	見込み	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
3	MIA03	698	古墳中期	坏	口縁外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
4	MIA04	—	弥生Ⅴ期	甕	？	×		
5	MIA05	—	古墳	壺 or 甕	胴部外面	×		
6	MIA06	—	？	壺 or 甕	胴部外面	×		
7	MIA07	425	弥生Ⅵ期	甕	頚部外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾殻
8	MIA08	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	底面外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
9	MIA09-1	—	古墳	長口壺?	胴部外面	×		
10	MIA09-2	—	古墳		胴部内面	×		
11	MIA10	—	古墳前期	壺 or 甕	底面からの剥離部分	×		
12	MIA11	—	古墳	壺 or 甕	頚部外面	×		
13	MIA12	1087	弥生Ⅵ期?	甕	頚部外面	×		
14	MIA13	—	古墳	壺 or 甕	胴部外面	×		
15	MIA14	—	古墳	壺	胴部外面	×		
16	MIA15	—	弥生Ⅴ期	甕	口縁外面	×		
17	MIA16	937	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	底面外面	×		
18	MIA17	—	古墳中期	坏	体部外面	×		
19	MIA18	—	古墳	坏	体部外面	×		
20	MIA19	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	頚部外面	×		
21	MIA20	—	古墳中期	坏	口縁外面	○	キンエノコログサ（*Setaria glauca Beauv.*）	有ふ果
22	MIA21	—	古墳中期	坏	体部内面	○	イネ（*Oryza sativa*）	胚乳
23	MIA22	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	体部内面	×		
24	MIA23	—	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	口縁外面	○	シソ属近似種（cf.*Perilla*）	果実
25	MIA24	418	弥生Ⅵ期	壺 or 甕	底面外面	×		
26	MIA25	995	弥生Ⅵ期	高坏	脚内天辺	○	不明種	
27	MIA26	771	古墳中期	坏	見込み	×		
28	MIA27	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部内面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾殻
29	MIA28	993	弥生Ⅵ期	高坏	体部外面	×		
30	MIA29	—	弥生Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
31	MIA30	843	弥生Ⅴ期	甕	口縁内面	×		
32	MIA31	—	弥生Ⅴ期	甕	口縁外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
33	MIA32	715	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壷甕	底面外面	○	ヤブツルアズキ（*Vigna angularis* var. *nipponensis*）	種子
34	MIA33	924	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	見込み	×		
35	MIA34	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	底面外面	○	不明種	
36	MIA35	926	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	底面外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
37	MIA36	928	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	底面外面	×		
38	MIA37	—	縄文中期初頭	深鉢	胴部外面	×		
39	MIA38	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部内面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
40	MIA39	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	頚部外面	×		
41	MIA40	1048	古墳	須恵器・坏	見込み	×		
42	MIA41	—	古墳中期～後期	須恵器・壺 or 甕	胴部外面	○	不明種	
43	MIA42	—	古墳?	壺 or 甕	胴部内面	×		
44	MIA43	—	古墳	壺	肩部外面	○	不明種	

番号	資料番号	図版番号	時代	器種	植物圧痕 検出部位	植物圧痕の 有無	植物同定	植物 部位
45	MIA44	690	古墳中期	坏	体部外面	×		
46	MIA45	—	古墳前期	壺 or 甕	口縁内面	×		
47	MIA46	—	古墳中期	坏	口縁内面	×		
48	MIA47	—	古墳中期	坏	口縁内面	×		
49	MIA48	—	古墳中期	坏	底面外面	×		
50	MIA49	—	古墳中期	坏	体部内面	×		
51	MIA50	—	古墳中期	壺	肩部内面	×		
52	MIA51	—	古墳中期	壺 or 坏	体部外面	×		
53	MIA52	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部内面（外部にもある）	×		
54	MIA53	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	頚部内面	×		
55	MIA54	—	古墳前期	甕	口縁内面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
56	MIA55	474	弥生Ⅴ期	甕	体部外面	×		
57	MIA56	—	古墳中期	坏 or 壺	体部内面	○	キビ（*Panicum mileaceum*）	胚乳
58	MIA57	—		甕	口縁内面	×		
59	MIA58	—	古墳中期	坏	体部外面	○	不明種	
60	MIA59	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	×		
61	MIA60	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	○	不明種	
62	MIA61	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	×		
63	MIA62	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	×		
64	MIA63	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	口縁外面	×		
65	MIA64	943	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	底部外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	胚乳
66	MIA65	455	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	底部近くの外面	○	イネ（*Oryza sativa*）	籾
67	MIA66	39	弥生Ⅴ期	壺 or 甕	底部近くの外面	○	不明種	
68	MIA67	1091	縄文時代前期末葉	甕	胴部内面	×		
69	MIA68	921	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	×		
70	MIA69	—	弥生Ⅴ～Ⅵ期	壺 or 甕	胴部外面	×		

圧痕土器は古墳時代中期の椀状の坏形土器で、口縁部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.3㎜、幅 3.1㎜、厚さ 2.4㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は芒の基部で欠損し、基部には小穂軸の一部が認められる。長軸方向に内外頴の段差があり、表皮全体に顆粒状突起列が明瞭に観察される。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA07 （第２図９～12）

弥生時代後期後葉の甕形土器で、肩部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 6.5㎜、幅 3.4㎜、厚さ 2.1㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は芒の基部で欠損し、基部には小穂軸の一部が認められる。長軸方向に内外頴の段差があり、表皮全体に顆粒状突起列が明瞭に観察される。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾殻と判断される。

MIA08 （第２図 13～16）

弥生時代後期の壺形土器で、胴部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 6.7㎜、幅 3.5㎜、厚さ 3.1㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は芒の基部で欠損し、基部には小穂軸の一部が認められる。長軸方向に内外頴の段差があり、表皮全体に顆粒状突起列が不鮮明であるが観察される。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA20 （第２図 17～20）

古墳時代中期の坏と考えられる破片で、口縁部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 2.5㎜、幅 1.7㎜、厚さ 1.4㎜の先端部が尖った砲弾状を呈する。基部はやや突出し、外面が突起列をもつ平らな面をなす。表面は乳頭状突起列が認められ、突起間に筋状の隆起部が認められる。形状、大きさ、表皮構造などの特徴から、キンエノコログサ（*Setaria glauca* Beauv.）と判断した。

MIA21 （第２図 21 ～ 24）

古墳時代中期の坏で、胴部内面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、現存長 5.0㎜、幅 3.1㎜の扁平の楕円形を呈する。胚部分が抉れる。大きさ、形状の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の胚乳と判断される。

MIA23 （第３図 1 ～ 4）

弥生時代後期後葉甕で、口縁部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、現存長 1.9㎜、幅 1.7㎜、厚さ 1.5㎜の扁平の円形を呈する。表皮には網状の隆帯がわずかに認められる。大きさ、形状、表皮の特徴からシソ属近似種（cf.*Perilla*）の果実と判断される。

MIA25（第３図 5 ～ 8）

弥生時代後期後葉の高坏で、脚部内面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 2.5㎜、幅 1.7㎜、厚さ 1.4㎜の扁平の楕円形を呈する。表皮は平滑である。同定の鍵となる部位が認められず不明種とした。

MIA27 （第３図 9 ～ 12）

弥生時代後期の壺形土器で、胴部内面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.8㎜、幅 2.7㎜、厚さ 2.0㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は芒の基部で欠損し、基部には小穂軸の一部が認められる。長軸方向に維管束、内外頴の段差があり、表皮全体に顆粒状突起列が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾殻と判断される。

MIA29 （第３図 13 ～ 16）

弥生時代後期の壺形土器で、胴部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.5㎜、幅 2.9㎜、厚さ 2.4㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は芒の基部で欠損する。長軸方向に内外頴の段差があり、表皮全体に顆粒状突起列が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA31 （第３図 17 ～ 20）

弥生時代後期の甕で、口縁部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.9㎜、幅 2.9㎜、厚さ 2.2㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は芒の基部で欠損し、基部には小穂軸の一部が認められる。長軸方向に内外頴の段差があり、表皮全体に顆粒状突起列が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA32 （第３図 21 ～ 24）

弥生時代後期の壺で、底部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 4.2㎜、幅 2.6㎜、厚さ 2.7㎜の両端部が丸みをもった俵形を呈する。長軸方向の端部に偏って、長さ 2.1㎜、厚さ 0.5㎜の臍とみられる長楕円形の窪みが観察される。臍部は、舟形の窪みで臍溝が見られないことから、皮膜形の構造を示す。大きさ、形状、臍の特徴からササゲ属アズキ亜属のヤブツルアズキ（*Vigna angularis* var. *nipponensis*）の種子と判断される。

MIA34 （第４図 1 ～ 4）

弥生時代後期の甕で、底部外面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.2㎜、幅 4.6㎜、厚さ 3.9㎜の扁平の楕円形を呈する。表皮は全体的に凹凸が認められる。同定の鍵となる部位が見られず不明種とした。

MIA35 （第４図 5 ～ 8）

弥生時代後期の甕で、底部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 6.0㎜、幅 3.1㎜、厚さ 2.5㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部は欠損し、基部は夾雑物で覆われる。長軸方向に内外頴の段差がわずかに確認され、表皮の一部に顆粒状突起列が認められる。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA38 （第 4 図 9 ～ 12）

弥生時代後期の壺で、胴部内面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.6㎜、幅 3.1㎜、厚さ 2.4㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部及び基部が欠損する。長軸方向に内外頴の段差が明瞭に見られ、表皮全体に顆粒状突起列が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA41 （第 4 図 13 ～ 16）

古墳時代中～後期の須恵器で、胴部外面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 2.8㎜、幅 2.1㎜の扁平の楕円形を呈する。基部がやや突出し、先端部が欠損する。同定の鍵となる部位が見られず不明種とした。

MIA43 （第 4 図 17 ～ 20）

古墳時代と考えられる壺破片で、胴部外面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 4.4㎜、幅 2.4㎜、幅 2.1㎜の扁平の楕円形を呈する。端部の胚部分が欠落し、形態的にはイネの胚乳にも類似するが、明確な同定の鍵となる部位が見られず不明種とした。

MIA54 （第 4 図 21 ～ 24）

弥生時代後期の壺で、口縁部内面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.6㎜、幅 2.8㎜、厚さ 2.2㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部が大きく欠損し、基部には小穂軸が一部残存する。長軸方向に内外頴の段差が明瞭に見られ、表皮全体に顆粒状突起列が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA56 （第 5 図 1 ～ 4）

古墳時代中期の土器小破片で、胴部内面から圧痕が確認された。

圧痕は、直径 2.0㎜、厚さ 1.4㎜の扁平の円形を呈する。一端部から中心部にかけて胚とみられる窪みが認められる。表面は平滑である。大きさ、形状などの特徴からキビ（*Punicum milaceum* L.）の胚乳と判断される。

MIA58 （第 5 図 5 ～ 8）

古墳時代中期の坏で、胴部内面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 1.4㎜、幅 1.0㎜、幅 1.0㎜の扁平の楕円形を呈する。表皮はやや凹凸をもつ。明確な同定の鍵となる部位が見られず不明種とした。

MIA60 （第 5 図 9 ～ 12）

弥生時代後期の壺で、胴部外面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 4.9㎜、幅 3.2㎜、幅 2.5㎜の扁平の楕円形を呈する。表皮はやや凹凸をもつ。明確な同定の鍵となる部位が見られず不明種とした。

MIA64 （第 5 図 13 ～ 16）

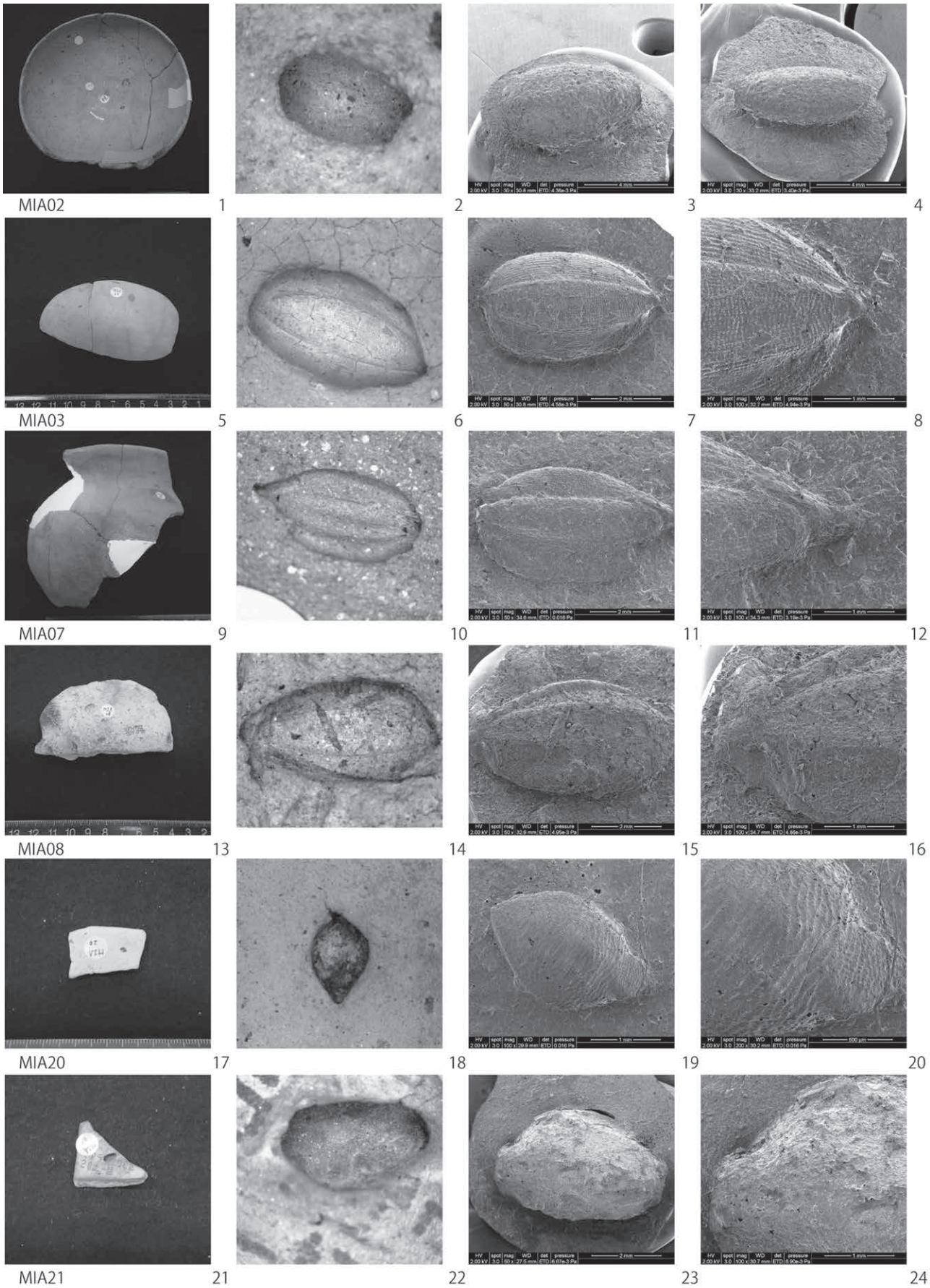
弥生時代後期の甕で、底部外面から種子圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 5.9㎜、幅 3.5㎜、厚さ 2.7㎜の扁平の楕円形を呈する。端部に胚が欠落した抉りがみられ、長軸方向に溝状の窪みが認められる。表皮は平滑である。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の胚乳と判断される。

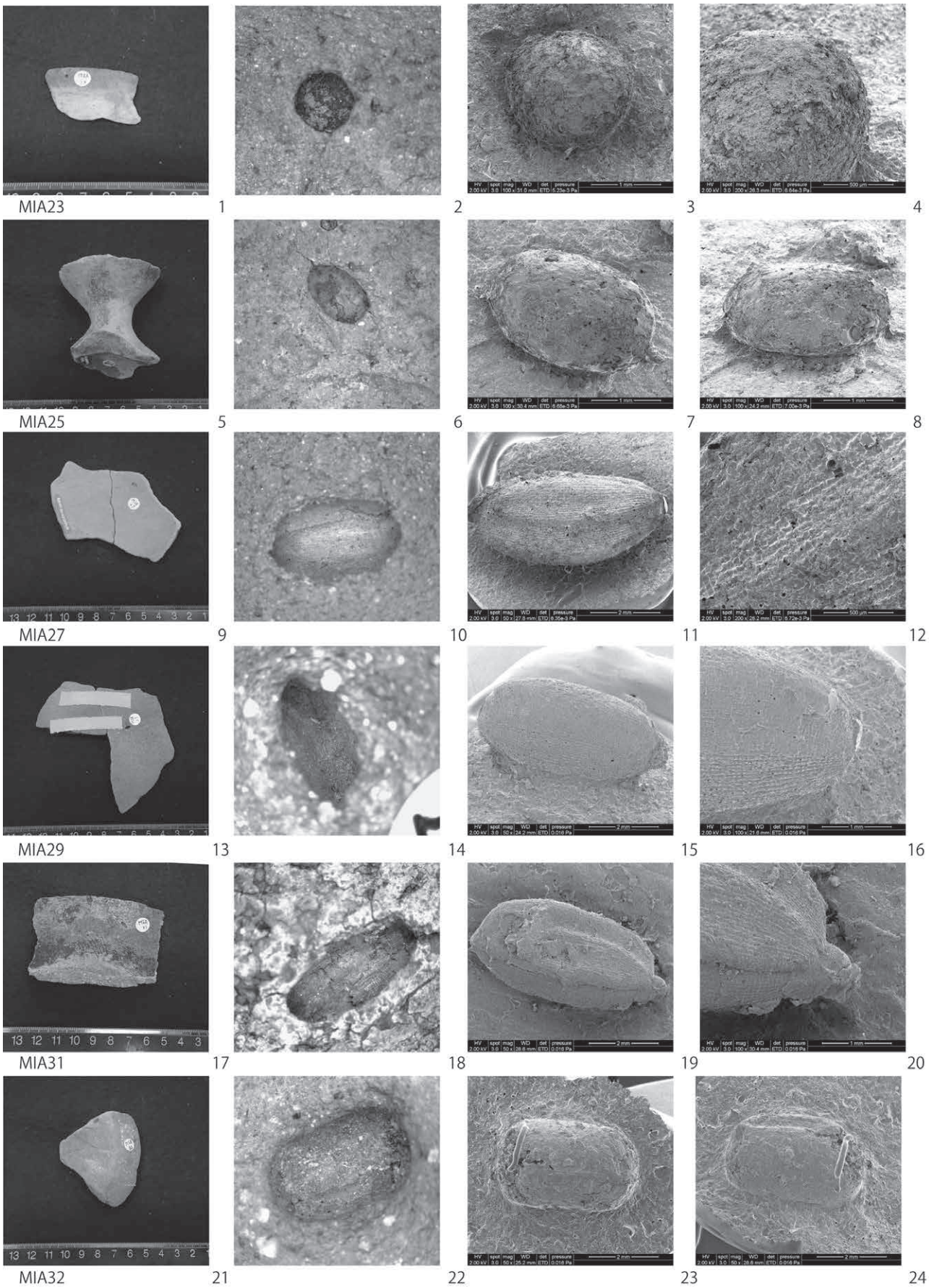
MIA65 （第 5 図 17 ～ 20）

弥生時代後期の壺で、底部に近い胴部外面から種子圧痕が確認された。

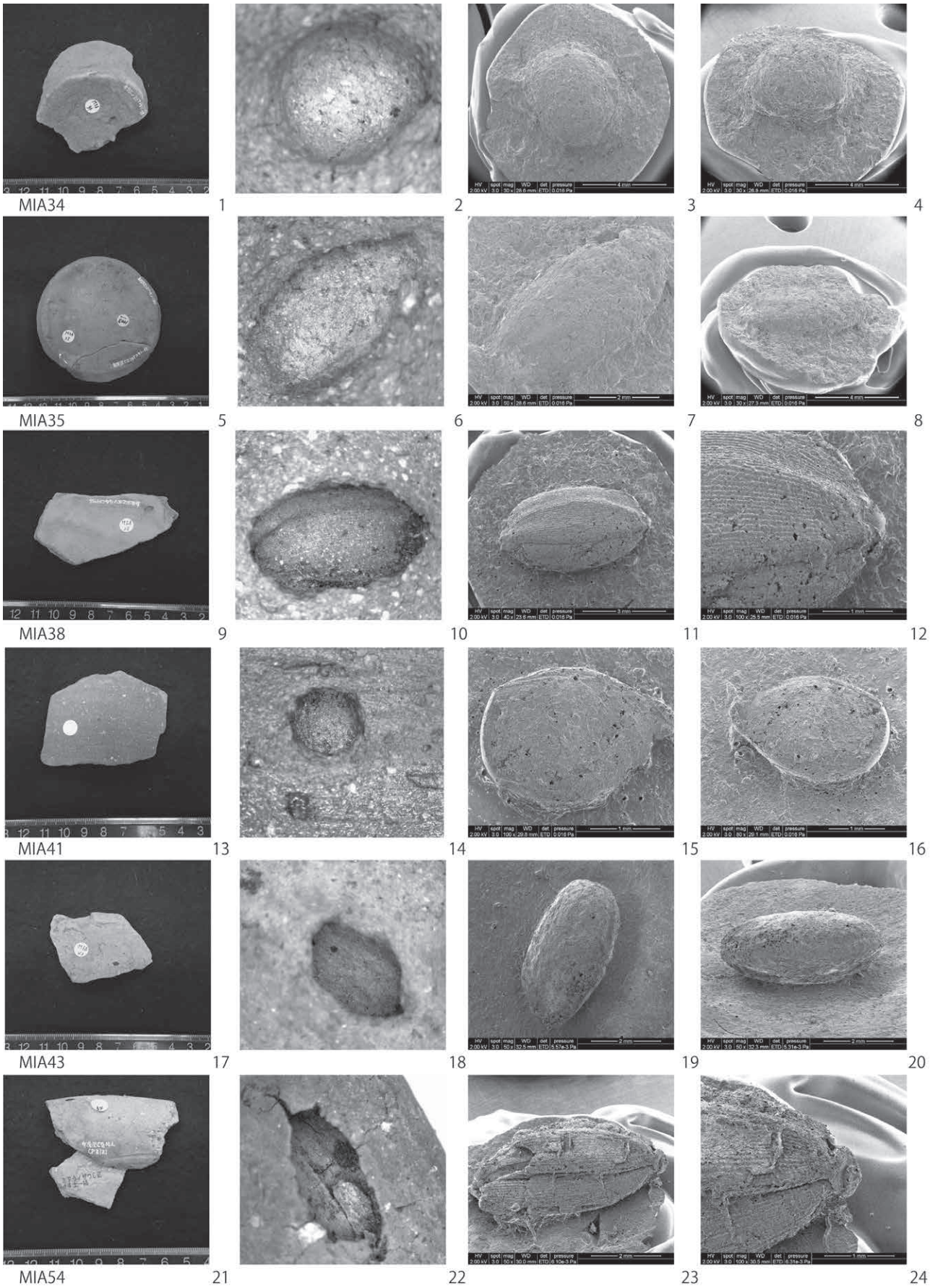
圧痕は、長さ 6.7㎜、幅 3.6㎜、厚さ 2.7㎜の扁平の楕円形を呈する。先端部が芒の基部で欠損し、基部には小穂軸と



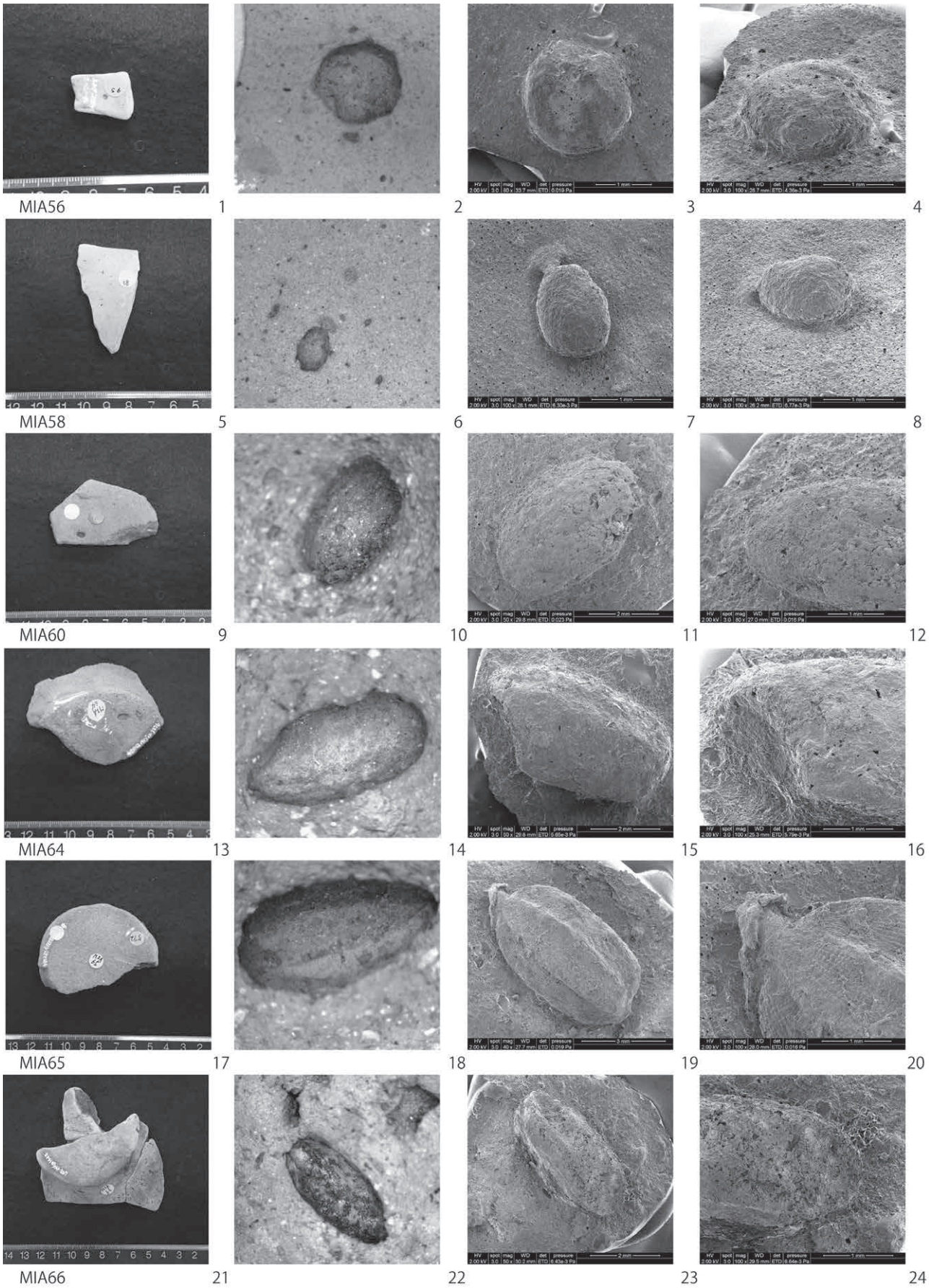
第２図　身洗沢遺跡土器圧痕 SEM 画像 (1)



第３図　身洗沢遺跡土器圧痕 SEM 画像 (2)



第４図　身洗沢遺跡土器圧痕 SEM 画像 (3)



第５図　身洗沢遺跡土器圧痕 SEM 画像 (4)

護頴の一部が残存する。長軸方向に内外頴の段差が明瞭に見られ、表皮全体に顆粒状突起列が覆う。大きさ、形状、表皮の特徴からイネ（*Oryza Sativa* L.）の籾と判断される。

MIA66 （第５図 17 ～ 20）

弥生時代後期の壺で、底部に近い胴部外面から圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 4.2㎜、幅 2.1㎜、厚さ 1.6㎜の扁平の楕円形を呈する。長軸方向に溝状の窪みが認められ、表皮は平滑である。大きさ、形状などの特徴からイネの胚乳に類似するが、同定の鍵となる部位が認められず不明種とした。

４　まとめ

今回の圧痕調査の結果、弥生時代後期後葉～末葉の土器からイネ籾８点、イネ胚乳１点、シソ属近似種果実１点、ヤブツルアズキ１点、古墳時代前期～中期の土器からイネ籾３点、イネ胚乳１点、キビ胚乳１点、キンエノコログサ有ふ果１点が確認された。

時代を通じて、稲の生産と消費が普及していた様相が看取され、雑穀などの利用も一定程度存在した可能性がある。また、弥生時代後期に至っても、縄文時代からの伝統的なアズキが継続的に利用されていることも、重要である（中山 2015）。

山梨県内における縄文時代晩期末葉から弥生時代の圧痕調査では、アワ・キビなどの小粒穀物が縄文晩期末の浮線文土器段階に普及し、イネの定着は若干遅れる傾向が認められる（中山・閏間 2012、中山・佐野 2012）。また、弥生時代中期にはイネとアワ・キビなどの雑穀が組み合わされ、水田農耕および畠作農耕が複合することが推定されているが（中山・網倉 2010、中山 2012、中山編 2014）、このような農耕形態は本地域において弥生時代後期以降も継続している可能性が、本圧痕調査においても窺うことができる。

身洗沢遺跡における弥生時代から古墳時代中期にかけての圧痕分析は、甲府盆地内の生業や食糧を考える上でも、一つの手がかりとなりうる。

引用文献

山梨県教育委員会　1990『身洗沢遺跡・一町五反遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 55 集

中山誠二・網倉邦生　2010「弥生時代初期のイネ・アワ・キビの圧痕－山梨県天正寺遺跡の事例」『山梨県立博物館研究紀要』第４集　pp.1-14　山梨県立博物館

中山誠二　2012「山梨県上中丸遺跡の植物圧痕の同定」『上中丸遺跡（第２次）－　中丸地区土地区画整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』pp.77-99　富士吉田市他

中山誠二・閏間俊明　2012「縄文時代晩期終末期のアワ・キビ圧痕－山梨県中道遺跡の事例」『山梨県立博物館研究紀要』第６集　pp.1-26　山梨県立博物館

中山誠二・佐野隆　2012「縄文時代終末期のアワ・キビ圧痕－山梨県屋敷平遺跡の事例」『山梨県考古学協会誌』第 21 号　pp.85-97 山梨県考古学協会

中山誠二編　2014『日韓における穀物農耕の起源』402p 山梨県立博物館

中山誠二　2015「中部日本における縄文時代の栽培植物と二次植生の利用」『第四紀研究』54-5　pp.285-298 第四紀学会

第２節　身洗沢遺跡から出土した馬歯

植月　学（山梨県立博物館）

身洗沢遺跡Ｃ区のＵ字溝脇より馬歯が１点出土した。右・下顎の第３前臼歯（P3）もしくは第４前臼歯（P4）だが、遊離歯のためいずれであるかは同定できない。計測値を第１表に示す。咬合面を欠くため、歯冠長はやや下位で計測した。歯冠高は頬側と舌側で異なる。また、P3 と P4 の場合で推定年齢が異なるのでそれぞれ算出したが、おおむね４歳前後の若齢馬である（註１）。

本資料については放射性炭素年代測定およびエナメル質の炭素同位体比分析をおこなっている。出土状況からは古墳時代の可能性があるが、包含層のため判然としないとの所見であった。年代測定は株式会社パレオ・ラボに委託した。結果は中世（14 世紀～ 15 世紀前半）に属することを示した（第２表・３表、第１図）。

炭素同位体比の測定は覚張隆史氏（金沢大学）による。炭素同位体比は一貫して－８‰以下であり、C3 植物食者に分類された。これは同じく中世に属する山梨市三ヶ所遺跡や南アルプス市坂ノ上姥神遺跡（古代の可能性もあり）がより高い値を示し、C3 ／ C4 植物食者に分類されたのとは異なっていた。地域によって雑穀給餌の割合に差があった可能性を示している。特に、12 ～ 18 ヶ月齢にかけては－ 10.9‰ときわめて低い値を示し、授乳効果の影響も指摘されるなど、山梨県内における馬の生産、飼育を検討する上で興味深い結果が得られた（第４表。註２）。

第１表　計測結果 (mm)

歯冠長	歯冠幅	歯冠高		推定年齢			
				P3 の場合		P4 の場合	
		舌側	頬側	舌側	頬側	舌側	頬側
27.5 ±	16.5 ±	63	66	4.2	3.8	4.9	4.6

第２表　年代測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-30825	試料名：山梨 _28 試料 No.TGK0009	種類：コラーゲン 状態：wet 備考：ウマ	コラーゲン抽出済試料 凍結乾燥

第３表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
PLD-30825 試料 No.TGK0009	-24.57 ± 0.13	539 ± 33	540 ± 35	1328-1341 cal AD (15.0%) 1396-1428 cal AD (53.2%)	1314-1357 cal AD (31.4%) 1388-1439 cal AD (64.0%)

第４表　炭素同位体比測定結果

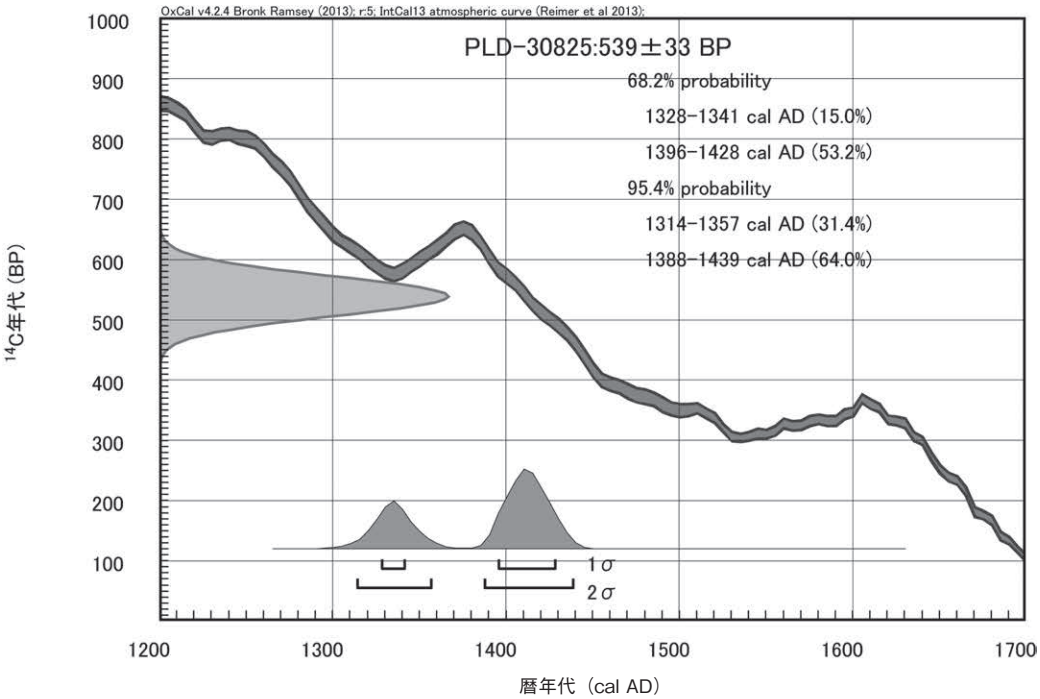
分析個体番号	歯種	採取部位	δ 13CEnamel
Y28	下顎 P3/P4	歯冠部	-10.9
		歯根部	-8.3

註１：年齢推定は以下の文献による。

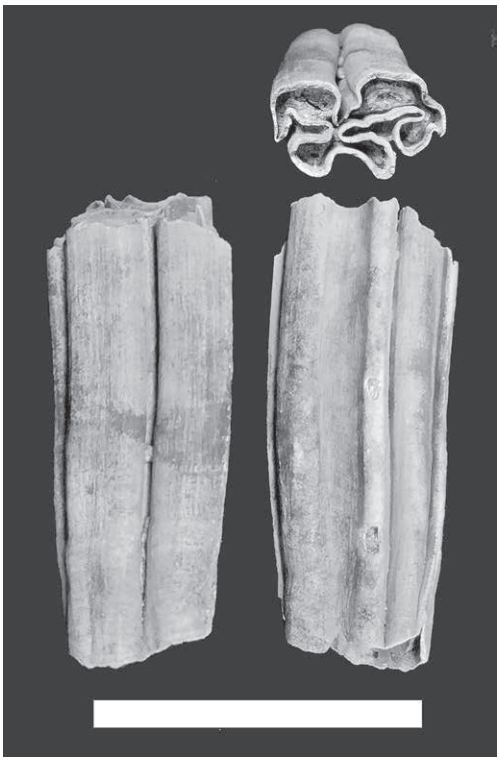
西中川　駿・松元光春　1991 「遺跡出土骨同定のための基礎的研究－とくに在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』科学研究費成果報告書　164-188 頁

註 2：年代測定および炭素同位体比分析の結果は以下の文献において報告済である。

覚張隆史・植月　学　2016 「同位体化学分析に基づく山梨県域遺跡出土馬の給餌形態の復元」『山梨県考古学協会誌』24　81-97 頁



第 1 図　暦年較正結果



上：咬合面、下左：頬側、下右：舌側　スケールは 5㎝

図版 1　馬歯

第３節　身洗沢遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

身洗沢遺跡（山梨笛吹市八代町南地内）は、甲府盆地南縁部、現在の笛吹川左岸に位置する。本遺跡が位置する周辺地域は、吉村ほか（1984）によれば、甲府盆地の南側に分布する山地より流下する河川によって形成された郷東扇状地群に分類されており、とくに遺跡周辺は浅川扇状地の扇端部にあたる（中山ほか ,1990；高橋 ,1990）。

身洗沢遺跡は、過去の発掘調査により、弥生時代後期～古墳時代初頭の遺跡であることが明らかとされており、弥生時代後期の竪穴住居跡や水田跡が検出されているほか、当該期の土器や木製農耕具などが確認されている。今回の発掘調査では、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、ため池状遺構、溝や土坑などが検出されており、これらの遺構は出土遺物などから弥生時代後期および平安時代と推定されている。

本分析では、遺構や遺物の年代、古植生および植物利用などの検討を目的として、放射性炭素年代測定、種実同定、樹種同定を実施した。

Ⅰ 放射性炭素年代測定

１．試料

放射性炭素年代測定に供された試料は、種実遺体 4 試料（試料№ 1 ～ 4）と木製品 31 点（試料№ 5 ～ 35）の計 35 点（試料№ 1 ～ 35）である。

なお、上記した試料のうち、種実遺体試料の試料№ 2（8 溝；CW-24）は、後述する種実同定の結果、草本種実を主体する組成が明らかとされたが、出土種実のうちイヌビエ属には発芽する個体が確認された。そのため、担当者と協議を行い、U-16 グリッドより出土した種実遺体（U-16；CW-29）を測定対象に振り替えている。

また、木製品は、ほとんどが樹皮が残存しない資料であったが、このうち試料№ 13（1 溝上部；W-105）は樹皮直下を含む辺材部が残存する資料であり、試料№ 25（CW-64）は樹皮のみの資料であった。測定試料は、試料№ 25 は樹皮を対象とし、この他の資料は残存する最外年輪を含む数年輪分を採取の対象としたが、木製品の外観や形状、加工痕などを大きく損なう恐れがある場合には、破損部や最外年輪部から内側を対象として採取を行っている。さらに、試料№ 7（W-14）と試料№ 15（1 溝下層；一括）は最外部が炭化する資料であったため、炭化部分より試料を採取している。

以上の放射性炭素年代測定に供した試料の詳細は、一覧として表 1 に記したので参照されたい。

２．分析方法

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX- Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に ^{13}C/^{12}C の測定も行うため、この値を用いて δ ^{13}C を算出する。

第１表　分析試料一覧

試料№	遺物番号	遺構名グリッド	器種	推定年代	種別状態	木取り	樹皮	放射性炭素年代測定試料
1	W-45	1溝	-	平安	種実		-	モモ核
2	CW-24	8溝	-	弥生	土壌		-	出土種実に発芽が確認されたため対象外
2代替	CW-29	U-16	-		種実		-	ヒョウタン類果実(頂部)
3	一括	8溝	-	弥生	種実		-	モモ核
4	一括	22溝	-	弥生	種実		-	モモ核
5	A区	掘柱建物跡	柱	弥生?	生木	芯持材	無	最外部より5-6年分
6	A区	掘柱建物跡	柱	弥生?	生木	芯持材	無	最外部から2-3年内側より5-6年分
7	W-14		建築部材		炭化材	板目	無	最外部より5-6年分
8	W-15		炭化部材		生木	芯持丸木	無	最外部より5-6年分
9	W-19		曲げ物の底		生木	柾目	無	最外部より4-5年分
10	W-28		建築部材		生木	板目	無	最外部より5-6年分
11	W-36		建築部材		生木	板目	無	最外部より5-6年分
12	W-65		燃えさし	平安	生木	分割棒状	無	最外部より4-5年分
13	W-105	1溝上部	すりこぎ状木製品	平安	生木	芯持材	無（辺材有）	最外部より3-4年分
14	一括	1溝	曲げ物の底	平安	生木	板目	無	最外部より4-5年分
15	一括	1溝下層	杭?	平安	炭化材	半裁状	無	最外部より4-5年分
16	一括	1溝（電気施設下）	曲げ物のタガ	平安	生木	板目	無	破損部の木片(2-3年分)
17	一括	1溝（電気施設下）	燃えさし	平安	生木	分割棒状	無	最外部から約7年内側より10年分
18	CW-5	8溝	柱?	弥生	生木	芯持丸木	無	最外部より5-6年分
19	CW-6	8溝	建築部材?	弥生	生木	ミカン割	無	最外部より5-6年分
20	CW-26		板	弥生	生木	板目	無	最外部より3-4年分
21	CW-48	8溝	燃えさし	弥生	生木	分割棒状	無	最外部より2年分
22	CW-51	AE-13G	横槌	平安	生木	芯持丸木	無	最外部より3-4年分
23	CW-52	8溝	板	弥生	生木	柾目	無	最外部より5-6年分
24	CW-54	8溝	杭?	弥生	生木	芯持材	無	最外部より3-4年分
25	CW-64		タガ	弥生	生木	-	樹皮	破片
26	CW-78	8溝	クワ	弥生	生木	柾目	無	最外部から約20年内側より3-4年分
27	CW-84	8溝	クワ	弥生	生木	柾目	無	最外部より3年分
28	CW-87	8溝	棒状木製品	弥生	生木	分割棒状	無	最外部から2-3年内側より7年分
29	CW-108	15Pit	杭	弥生	生木	芯持丸木	無	最外部より4年分
30	CW-115	22溝	板	弥生	生木	分割材	無	最外部より3-4年分
31	CW-1001	市教委用地境	曲げ物の底		生木	柾目	無	最外部から5-6年内側より5年分
32	CW-1002	市教委用地境	曲げ物の底		生木	柾目	無	最外部から約30年内側より5-6年分
33	CW-1003	市教委用地境	皿	平安末	生木	柾目	無	最外部から約25年内側より4-5年分
34	一括	水路付近砂層	道具部材	平安	生木	分割材	無	最外部から約10年内側より4-5年分
35	一括	AC-10G周辺	棒状木製品		生木	削出丸木	無	最外部より5-6年分

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1,950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0（Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0. のマニュアルに従い、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は σ・2 σ（σは統計的に真の値が 68.2% の確率で存在する範囲、2 σは真の値が 95.4% の確率で存在する範囲）の値を示す。また、表中の相対比は、σ・2 σの範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

３．結果および考察

各試料の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）を第２表に、暦年較正結果を第２表、第１図に示す。

今回の放射性炭素年代測定に供された種実遺体や木製品など 35 点は、調査所見によれば、8 溝、22 溝および 15pit か

ら出土した資料が弥生時代、A 区堀柱建物跡の柱が弥生時代の可能性がある資料、1 溝より出土した資料が平安時代と推定されているほか、この他も弥生時代および平安時代と推定される資料が含まれる。

第 2 図に示した暦年較正年代の確率分布図を参考とすると、暦年較正年代（2 σ）は、紀元 1 世紀前後～ 3 世紀前後の年代を示す一群、5 世紀前半～ 9 世紀後半頃までの年代を示す一群、および 17 世紀以降の年代を示す一群とに大きく分けられる。

第２表　放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (BP)	δ 13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) (BP)	暦年較正結果														相対比	測定機関 CodeNo.
試料№1 W-45 1溝 種実遺体	1,240 ±30	-26.98 ±0.47	1,237 ±25	σ	cal	AD	693	-	cal	AD	747	cal	BP	1,257	-	1,203	0.611	IAAA-152516
					cal	AD	762	-	cal	AD	777	cal	BP	1,188	-	1,173	0.182	
					cal	AD	792	-	cal	AD	803	cal	BP	1,158	-	1,147	0.090	
					cal	AD	842	-	cal	AD	859	cal	BP	1,108	-	1,091	0.116	
				2σ	cal	AD	687	-	cal	AD	780	cal	BP	1,263	-	1,170	0.633	
					cal	AD	788	-	cal	AD	875	cal	BP	1,162	-	1,075	0.367	
試料№2代替 CW-29 U-16 種実遺体	1,810 ±20	-25.48 ±0.54	1,808 ±24	σ	cal	AD	141	-	cal	AD	158	cal	BP	1,809	-	1,792	0.185	IAAA-152517
					cal	AD	166	-	cal	AD	196	cal	BP	1,784	-	1,754	0.337	
					cal	AD	208	-	cal	AD	243	cal	BP	1,742	-	1,707	0.478	
				2σ	cal	AD	131	-	cal	AD	255	cal	BP	1,819	-	1,695	0.951	
					cal	AD	299	-	cal	AD	318	cal	BP	1,651	-	1,632	0.049	
試料№3 一括 8溝 種実遺体	1,830 ±20	-26.17 ±0.33	1,830 ±23	σ	cal	AD	138	-	cal	AD	198	cal	BP	1,812	-	1,752	0.810	IAAA-152518
					cal	AD	203	-	cal	AD	218	cal	BP	1,747	-	1,732	0.190	
				2σ	cal	AD	127	-	cal	AD	241	cal	BP	1,823	-	1,709	1.000	
試料№4 一括 8溝 種実遺体	1,850± 20	-24.72± 0.35	1,853± 23	σ	cal	AD	127	-	cal	AD	179	cal	BP	1,823	-	1,771	0.659	IAAA-152519
					cal	AD	187	-	cal	AD	213	cal	BP	1,763	-	1,737	0.341	
				2σ	cal	AD	86	-	cal	AD	109	cal	BP	1,864	-	1,841	0.094	
					cal	AD	116	-	cal	AD	231	cal	BP	1,834	-	1,719	0.906	
試料№5 A区堀柱建物跡柱 生材	2,050± 20	-24.25± 0.28	2,046± 24	σ	cal	BC	92	-	cal	BC	67	cal	BP	2,041	-	2,016	0.295	IAAA-152347
					cal	BC	64	-	cal	BC	20	cal	BP	2,013	-	1,969	0.586	
					cal	BC	11	-	cal	BC	1	cal	BP	1,960	-	1,950	0.119	
				2σ	cal	BC	159	-	cal	BC	78	cal	BP	2,108	-	2,027	0.062	
					cal	BC	115	-	cal	AD	18	cal	BP	2,064	-	1,932	0.938	
試料№6 A区堀柱建物跡柱 生材	2,050 ±30	-19.66 ±0.49	2,047 ±28	σ	cal	BC	94	-	cal	BC	19	cal	BP	2,043	-	1,968	0.875	IAAA-152348
					cal	BC	13	-	cal	BC	1	cal	BP	1,962	-	1,950	0.125	
				2σ	cal	BC	163	-	cal	BC	129	cal	BP	2,112	-	2,078	0.097	
					cal	BC	120	-	cal	AD	21	cal	BP	2,069	-	1,929	0.903	
試料№7 W-14 建築部材 炭化材	140 ±20	-25.58 ±0.22	138 ±24	σ	cal	AD	1,681	-	cal	AD	1,697	cal	BP	269	-	253	0.144	IAAA-152349
					cal	AD	1,725	-	cal	AD	1,739	cal	BP	225	-	211	0.121	
					cal	AD	1,744	-	cal	AD	1,763	cal	BP	206	-	187	0.122	
					cal	AD	1,802	-	cal	AD	1,815	cal	BP	148	-	135	0.109	
					cal	AD	1,835	-	cal	AD	1,877	cal	BP	115	-	73	0.318	
					cal	AD	1,917	-	cal	AD	1,938	cal	BP	33	-	12	0.187	
				2σ	cal	AD	1,672	-	cal	AD	1,710	cal	BP	278	-	240	0.164	
					cal	AD	1,717	-	cal	AD	1,778	cal	BP	233	-	172	0.269	
					cal	AD	1,799	-	cal	AD	1,890	cal	BP	151	-	60	0.399	
					cal	AD	1,909	-	cal	AD	1,942	cal	BP	41	-	8	0.168	
試料№8 W-15 炭化部材 生材	110± 20	-23.34± 0.26	110±21	σ	cal	AD	1,694	-	cal	AD	1,709	cal	BP	256	-	241	0.163	IAAA-152350
					cal	AD	1,717	-	cal	AD	1,727	cal	BP	233	-	223	0.092	
					cal	AD	1,813	-	cal	AD	1,828	cal	BP	137	-	122	0.150	
					cal	AD	1,831	-	cal	AD	1,890	cal	BP	119	-	60	0.506	
					cal	AD	1,910	-	cal	AD	1,918	cal	BP	40	-	32	0.088	
					cal	AD	1,684	-	cal	AD	1,733	cal	BP	266	-	217	0.286	
					cal	AD	1,807	-	cal	AD	1,898	cal	BP	143	-	52	0.578	
						AD	1,901	-	cal	AD	1,928	cal	BP	49	-	22	0.136	
試料№9 W-19 曲げ物の底 生材	1,430 ±30	-20.37 ±0.27	1,425 ±26	σ	cal	AD	612	-	cal	AD	648	cal	BP	1,338	-	1,302	1.000	IAAA-152351
				2σ	cal	AD	586	-	cal	AD	657	cal	BP	1,364	-	1,293	1.000	
試料№10 W-28 建築部材 生材	1,890 ±20	-25.87 ±0.22	1,887 ±24	σ	cal	AD	79	-	cal	AD	131	cal	BP	1,871	-	1,819	1.000	IAAA-152352
				2σ	cal	AD	64	-	cal	AD	179	cal	BP	1,886	-	1,771	0.931	
					cal	AD	187	-	cal	AD	213	cal	BP	1,763	-	1,737	0.069	

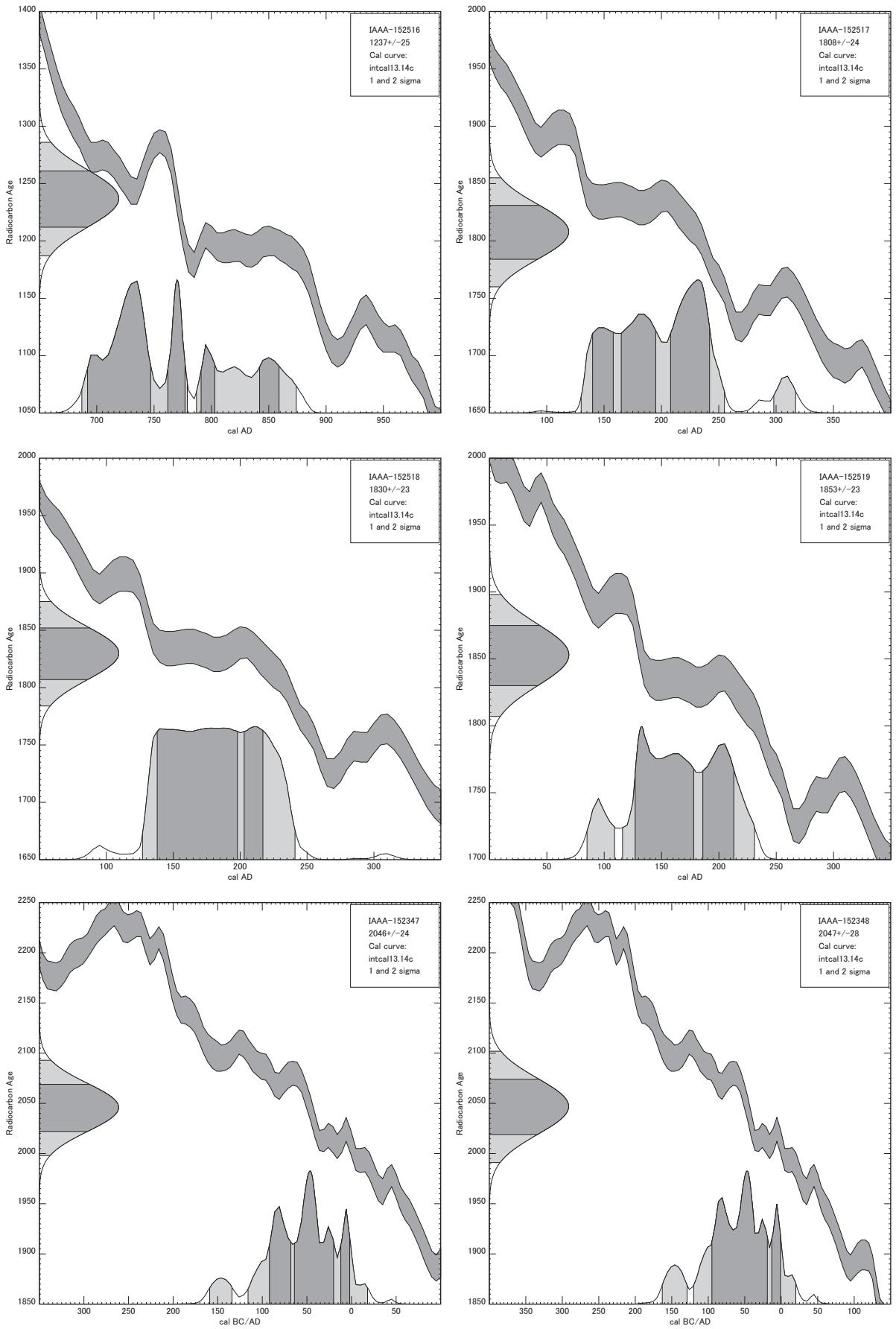
試料	測定年代 (BP)	δ13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) (BP)	暦年較正結果														相対比	測定機関 CodeNo.
試料№11 W-36 建築部材 生材	1,940 ±20	-20.37 ±0.40	1,941 ±23	σ	cal	AD	26	-	cal	AD	42	cal	BP	1,924	-	1,908	0.244	IAAA-152353
					cal	AD	47	-	cal	AD	82	cal	BP	1,903	-	1,868	0.756	
				2σ	cal	AD	8	-	cal	AD	93	cal	BP	1,942	-	1,857	0.873	
						AD	96	-	cal	AD	124	cal	BP	1,854	-	1,826	0.127	
試料№12 W-65 燃えさし 生材	1,540 ±20	-20.87 ±0.27	1,539 ±22	σ	cal	AD	433	-	cal	AD	458	cal	BP	1,517	-	1,492	0.289	IAAA-152354
					cal	AD	467	-	cal	AD	488	cal	BP	1,483	-	1,462	0.275	
					cal	AD	533	-	cal	AD	561	cal	BP	1,417	-	1,389	0.436	
				2σ	cal	AD	428	-	cal	AD	499	cal	BP	1,522	-	1,451	0.533	
						AD	503	-	cal	AD	576	cal	BP	1,447	-	1,374	0.467	
試料№13 W-105 1溝 すりこぎ状木製品 生材	1,220 ±20	-28.04 ±0.23	1,218 ±23	σ	cal	AD	730	-	cal	AD	735	cal	BP	1,220	-	1,215	0.058	IAAA-152355
					cal	AD	769	-	cal	AD	778	cal	BP	1,181	-	1,172	0.130	
					cal	AD	790	-	cal	AD	831	cal	BP	1,160	-	1,119	0.462	
					cal	AD	836	-	cal	AD	867	cal	BP	1,114	-	1,083	0.349	
				2σ	cal	AD	713	-	cal	AD	744	cal	BP	1,237	-	1,206	0.138	
						AD	765	-	cal	AD	886	cal	BP	1,185	-	1,064	0.862	
試料№14 一括 1溝 曲げ物の底 生材	1,450 ±30	-26.16 ±0.25	1,448 ±25	σ	cal	AD	598	-	cal	AD	641	cal	BP	1,352	-	1,309	1.000	IAAA-152356
				2σ	cal	AD	569	-	cal	AD	649	cal	BP	1,381	-	1,301	1.000	
試料№15 一括 1溝 下層 杭? 炭化材	1,300 ±20	-25.65 ±0.23	1,297 ±23	σ	cal	AD	671	-	cal	AD	695	cal	BP	1,279	-	1,255	0.490	IAAA-152357
					cal	AD	700	-	cal	AD	710	cal	BP	1,250	-	1,240	0.144	
					cal	AD	745	-	cal	AD	764	cal	BP	1,205	-	1,186	0.366	
				2σ	cal	AD	664	-	cal	AD	725	cal	BP	1,286	-	1,225	0.666	
						AD	738	-	cal	AD	768	cal	BP	1,212	-	1,182	0.334	
試料№16 一括 1溝 (電気施設下) 曲げ物のタガ 生材	1,580 ±20	-21.06 ±0.42	1,583 ±23	σ	cal	AD	425	-	cal	AD	435	cal	BP	1,525	-	1,515	0.126	IAAA-152358
					cal	AD	451	-	cal	AD	470	cal	BP	1,499	-	1,480	0.226	
					cal	AD	487	-	cal	AD	534	cal	BP	1,463	-	1,416	0.648	
				2σ	cal	AD	419	-	cal	AD	539	cal	BP	1,531	-	1,411	1.000	
試料№17 一括 1溝 (電気施設下) 燃えさし 生材	1,580 ±20	-20.67 ±0.23	1,581 ±23	σ	cal	AD	426	-	cal	AD	435	cal	BP	1,524	-	1,515	0.113	IAAA-152359
					cal	AD	450	-	cal	AD	471	cal	BP	1,500	-	1,479	0.252	
					cal	AD	487	-	cal	AD	534	cal	BP	1,463	-	1,416	0.636	
				2σ	cal	AD	419	-	cal	AD	540	cal	BP	1,531	-	1,410	1.000	
試料№18 CW-5 8溝 柱? 生材	1,870 ±20	-22.45 ±0.24	1,874 ±22	σ	cal	AD	80	-	cal	AD	140	cal	BP	1,870	-	1,810	0.909	IAAA-152360
					cal	AD	196	-	cal	AD	207	cal	BP	1,754	-	1,743	0.091	
				2σ	cal	AD	76	-	cal	AD	215	cal	BP	1,874	-	1,735	1.000	
試料№19 CW-6 8溝 建築部材? 生材	1,920 ±20	-23.58 ±0.23	1,916 ±21	σ	cal	AD	65	-	cal	AD	89	cal	BP	1,885	-	1,861	0.559	IAAA-152361
					cal	AD	100	-	cal	AD	123	cal	BP	1,850	-	1,827	0.441	
				2σ	cal	AD	30	-	cal	AD	37	cal	BP	1,920	-	1,913	0.018	
						AD	51	-	cal	AD	130	cal	BP	1,899	-	1,820	0.982	
試料№20 CW-26 板 生材	1,860 ±20	-25.90 ±0.24	1,855 ±21	σ	cal	AD	126	-	cal	AD	179	cal	BP	1,824	-	1,771	0.681	IAAA-152362
					cal	AD	187	-	cal	AD	213	cal	BP	1,763	-	1,737	0.319	
				2σ	cal	AD	86	-	cal	AD	110	cal	BP	1,864	-	1,840	0.098	
						AD	116	-	cal	AD	228	cal	BP	1,834	-	1,722	0.902	
試料№21 CW-48 8溝 燃えさし 生材	1,900 ±20	-21.77 ±0.27	1,895 ±22	σ	cal	AD	82	-	cal	AD	126	cal	BP	1,868	-	1,824	1.000	IAAA-152363
				2σ	cal	AD	56	-	cal	AD	145	cal	BP	1,894	-	1,805	0.954	
					cal	AD	150	-	cal	AD	170	cal	BP	1,800	-	1,780	0.025	
					cal	AD	194	-	cal	AD	209	cal	BP	1,756	-	1,741	0.021	
試料№22 CW-51 AE-13G 横槌 生材	1,430±20	-24.08±0.24	1,428±22	σ	cal	AD	613	-	cal	AD	646	cal	BP	1,337	-	1,304	1.000	IAAA-152364
				2σ	cal	AD	592	-	cal	AD	655	cal	BP	1,358	-	1,295	1.000	
試料№23 CW-52 8溝 板 生材	1,870 ±20	-21.34 ±0.36	1,869 ±23	σ	cal	AD	84	-	cal	AD	142	cal	BP	1,866	-	1,808	0.763	IAAA-152365
					cal	AD	155	-	cal	AD	168	cal	BP	1,795	-	1,782	0.109	
					cal	AD	195	-	cal	AD	209	cal	BP	1,755	-	1,741	0.129	
				2σ	cal	AD	78	-	cal	AD	219	cal	BP	1,872	-	1,731	1.000	
試料№24 CW-54 8溝 杭? 生材	1,950 ±20	-22.95 ±0.30	1,951 ±22	σ	cal	AD	25	-	cal	AD	73	cal	BP	1,925	-	1,877	1.000	IAAA-152366
				2σ	cal	BC	17	-	cal	BC	15	cal	BP	1,966	-	1,964	0.001	
					cal	AD	0	-	cal	AD	89	cal	BP	1,950	-	1,861	0.953	
					cal	AD	101	-	cal	AD	122	cal	BP	1,849	-	1,828	0.046	

試料	測定年代(BP)	δ13C(‰)	補正年代(暦年較正用)(BP)	暦年較正結果														相対比	測定機関CodeNo.
試料№25 CW-64 タガ 生材	1,790 ±20	-24.83 ±0.25	1,793 ±22	σ	cal	AD	171	-	cal	AD	193	cal	BP	1,779	-	1,757	0.165	IAAA-152367
					cal	AD	211	-	cal	AD	256	cal	BP	1,739	-	1,694	0.649	
					cal	AD	298	-	cal	AD	318	cal	BP	1,652	-	1,632	0.186	
				2σ	cal	AD	136	-	cal	AD	258	cal	BP	1,814	-	1,692	0.796	
						AD	282	-	cal	AD	323	cal	BP	1,668	-	1,627	0.204	
試料№26 CW-78 8溝 クワ 生材	1,920 ±20	-28.40 ±0.23	1,920 ±23	σ	cal	AD	59	-	cal	AD	89	cal	BP	1,891	-	1,861	0.626	IAAA-152368
					cal	AD	101	-	cal	AD	122	cal	BP	1,849	-	1,828	0.374	
				2σ	cal	AD	27	-	cal	AD	40	cal	BP	1,923	-	1,910	0.054	
						AD	48	-	cal	AD	129	cal	BP	1,902	-	1,821	0.946	
試料№27 CW-84 8溝 クワ 生材	1,900 ±20	-28.33 ±0.23	1,896 ±23	σ	cal	AD	81	-	cal	AD	126	cal	BP	1,869	-	1,824	1.000	IAAA-152369
				2σ	cal	AD	55	-	cal	AD	145	cal	BP	1,895	-	1,805	0.952	
					cal	AD	150	-	cal	AD	170	cal	BP	1,800	-	1,780	0.026	
					cal	AD	194	-	cal	AD	209	cal	BP	1,756	-	1,741	0.022	
試料№28 CW-87 8溝 棒状木製品 生材	1,830 ±20	-24.28 ±0.26	1,834 ±21	σ	cal	AD	135	-	cal	AD	179	cal	BP	1,815	-	1,771	0.618	IAAA-152370
					cal	AD	186	-	cal	AD	214	cal	BP	1,764	-	1,736	0.382	
				2σ	cal	AD	128	-	cal	AD	237	cal	BP	1,822	-	1,713	1.000	
試料№29 CW-108 15Pit 杭 生材	1,910 ±20	-25.07 ±0.25	1,913 ±23	σ	cal	AD	67	-	cal	AD	91	cal	BP	1,883	-	1,859	0.501	IAAA-152371
					cal	AD	98	-	cal	AD	124	cal	BP	1,852	-	1,826	0.499	
				2σ	cal	AD	28	-	cal	AD	39	cal	BP	1,922	-	1,911	0.027	
						AD	49	-	cal	AD	132	cal	BP	1,901	-	1,818	0.973	
試料№30 CW-115 22溝 板 生材	1,810 ±20	-25.08 ±0.32	1,809 ±24	σ	cal	AD	141	-	cal	AD	158	cal	BP	1,809	-	1,792	0.190	IAAA-152372
					cal	AD	166	-	cal	AD	196	cal	BP	1,784	-	1,754	0.344	
					cal	AD	208	-	cal	AD	242	cal	BP	1,742	-	1,708	0.466	
				2σ	cal	AD	130	-	cal	AD	255	cal	BP	1,820	-	1,695	0.956	
						AD	300	-	cal	AD	317	cal	BP	1,650	-	1,633	0.044	
試料№31 CW-1001 市教委用地境 曲げ物の底 生材	1,300 ±20	-23.87 ±0.23	1,303 ±21	σ	cal	AD	667	-	cal	AD	694	cal	BP	1,283	-	1,256	0.617	IAAA-152373
					cal	AD	703	-	cal	AD	707	cal	BP	1,247	-	1,243	0.043	
					cal	AD	746	-	cal	AD	763	cal	BP	1,204	-	1,187	0.340	
				2σ	cal	AD	662	-	cal	AD	722	cal	BP	1,288	-	1,228	0.699	
						AD	740	-	cal	AD	767	cal	BP	1,210	-	1,183	0.301	
試料№32 CW-1002 市教委用地境 曲げ物の底 生材	1,460 ±20	-23.24 ±0.25	1,457 ±21	σ	cal	AD	593	-	cal	AD	636	cal	BP	1,357	-	1,314	1.000	IAAA-152374
				2σ	cal	AD	568	-	cal	AD	644	cal	BP	1,382	-	1,306	1.000	
試料№33 CW-1003 市教委用地境 Ⅲ 生材	1,540 ±20	-19.03 ±0.31	1,541 ±23	σ	cal	AD	433	-	cal	AD	460	cal	BP	1,517	-	1,490	0.327	IAAA-152375
					cal	AD	466	-	cal	AD	489	cal	BP	1,484	-	1,461	0.298	
					cal	AD	532	-	cal	AD	559	cal	BP	1,418	-	1,391	0.375	
				2σ	cal	AD	428	-	cal	AD	573	cal	BP	1,522	-	1,377	1.000	
試料№34 一括 水路付近砂層 道具部材 生材	1,440 ±20	-23.66 ±0.29	1,442 ±23	σ	cal	AD	604	-	cal	AD	641	cal	BP	1,346	-	1,309	1.000	IAAA-152376
				2σ	cal	AD	576	-	cal	AD	650	cal	BP	1,374	-	1,300	1.000	
試料№35 一括 AC-10G周辺 棒状木製品	1,450±20	-22.01±0.22	1,453±23	σ	cal	AD	596	-	cal	AD	639	cal	BP	1,354	-	1,311	1.000	
				2σ	cal	AD	568	-	cal	AD	646	cal	BP	1,382	-	1,304	1.000	

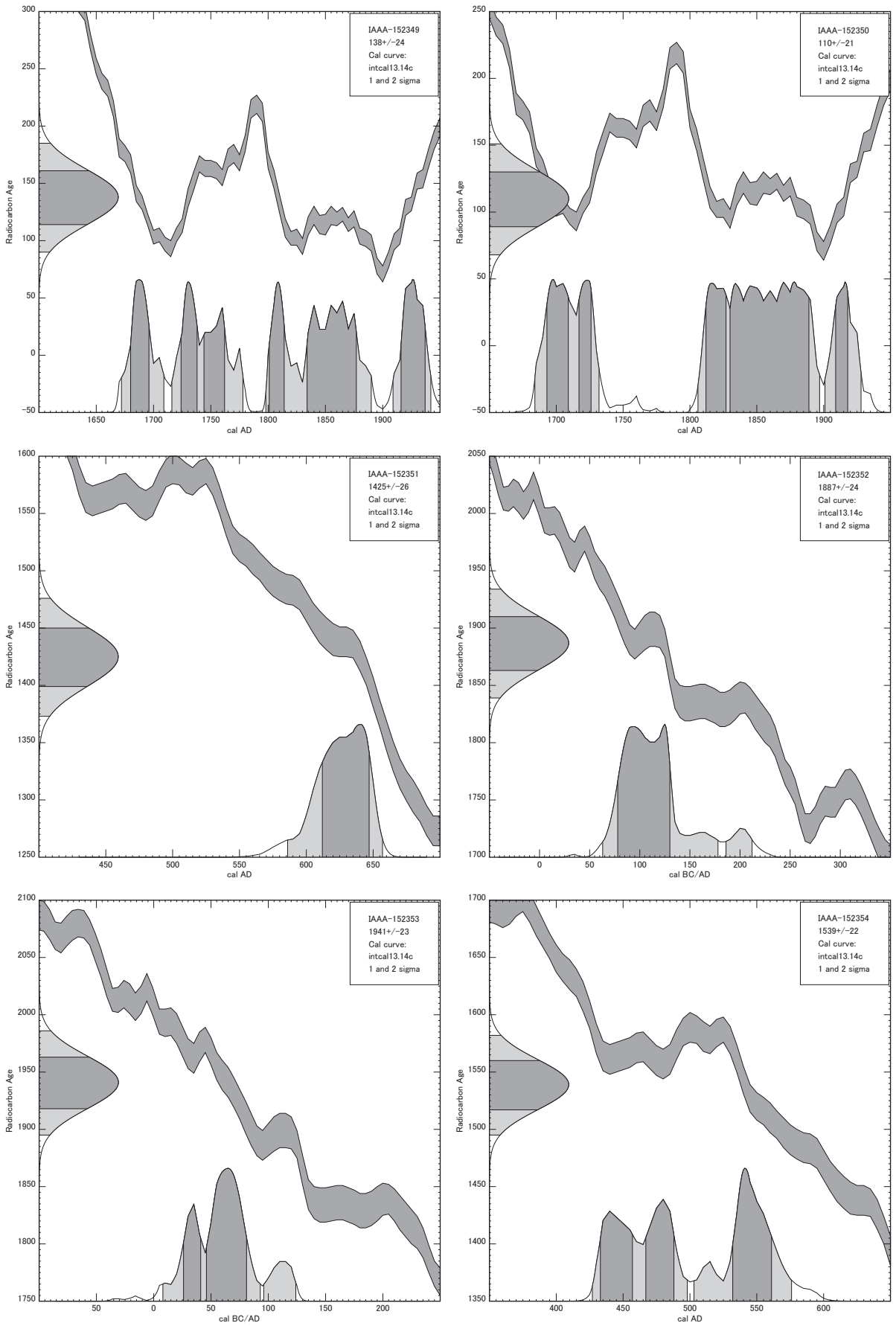
紀元 1 世紀前後～ 3 世紀前後の年代を示す資料は、上記した 8 溝（試料№ 3,18,19,21,23,24,26 ～ 28）、22 溝（試料№ 4,30）、15pit（試料№ 29）および掘柱建物跡（試料№ 5,6）などの各資料をはじめ、試料№ 2 の代替としたヒョウタン類（試料№ 2 代替；U-16 CW-29）、建築部材（試料№ 10,11）、板（試料№ 20）、タガ（試料№ 25）などが相当する。

これらの資料では、A 区掘柱建物跡の柱の 2 点（試料№ 5,6）が最も古く、紀元前 2 世紀から紀元 1 世紀頃と推定された。この結果を参考とすると、弥生時代中期後半～後期の資料の可能性がある。8 溝、22 溝および Pit15 の各資料は、年代のばらつきがあるものの、およそ弥生時代後期頃の資料と推定され、調査所見を支持する結果と言える。なお、種実遺体（モモ核、ヒョウタン類）や樹皮などの 4 試料（試料№ 3,4,25、U-16；CW-29）以外は、いずれも樹皮が残存しない資料であった。そのため、これらの資料の年代については、古木効果の影響により実際の使用（伐採）年代よりも古く示されている可能性があり、各資料の年代の評価においてはこの点を考慮する必要がある。

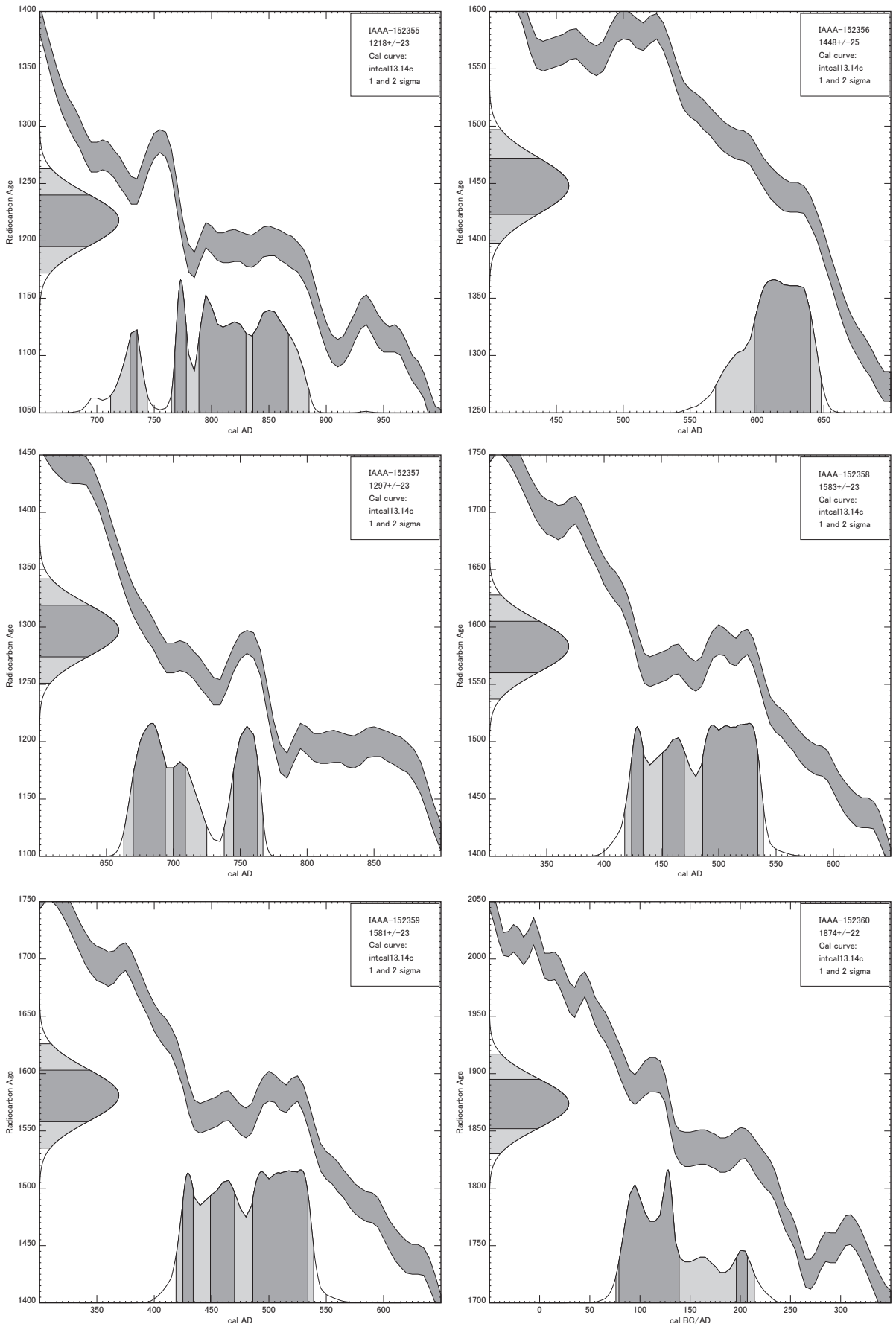
5 世紀前半～ 9 世紀後半頃までの年代を示す資料は、1 溝 6 点（試料№ 1,13 ～ 17）をはじめ、曲げ物の底（試料№ 9,31,32）、燃えさし（試料№ 12）、横槌（試料№ 22）、Ⅲ（試料№ 33）、道具部材（試料№ 34）、棒状木製品（試料№


IAAA-152516
1237+/-25
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152517
1808+/-24
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152518
1830+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152519
1853+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152347
2046+/-24
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152348
2047+/-28
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD

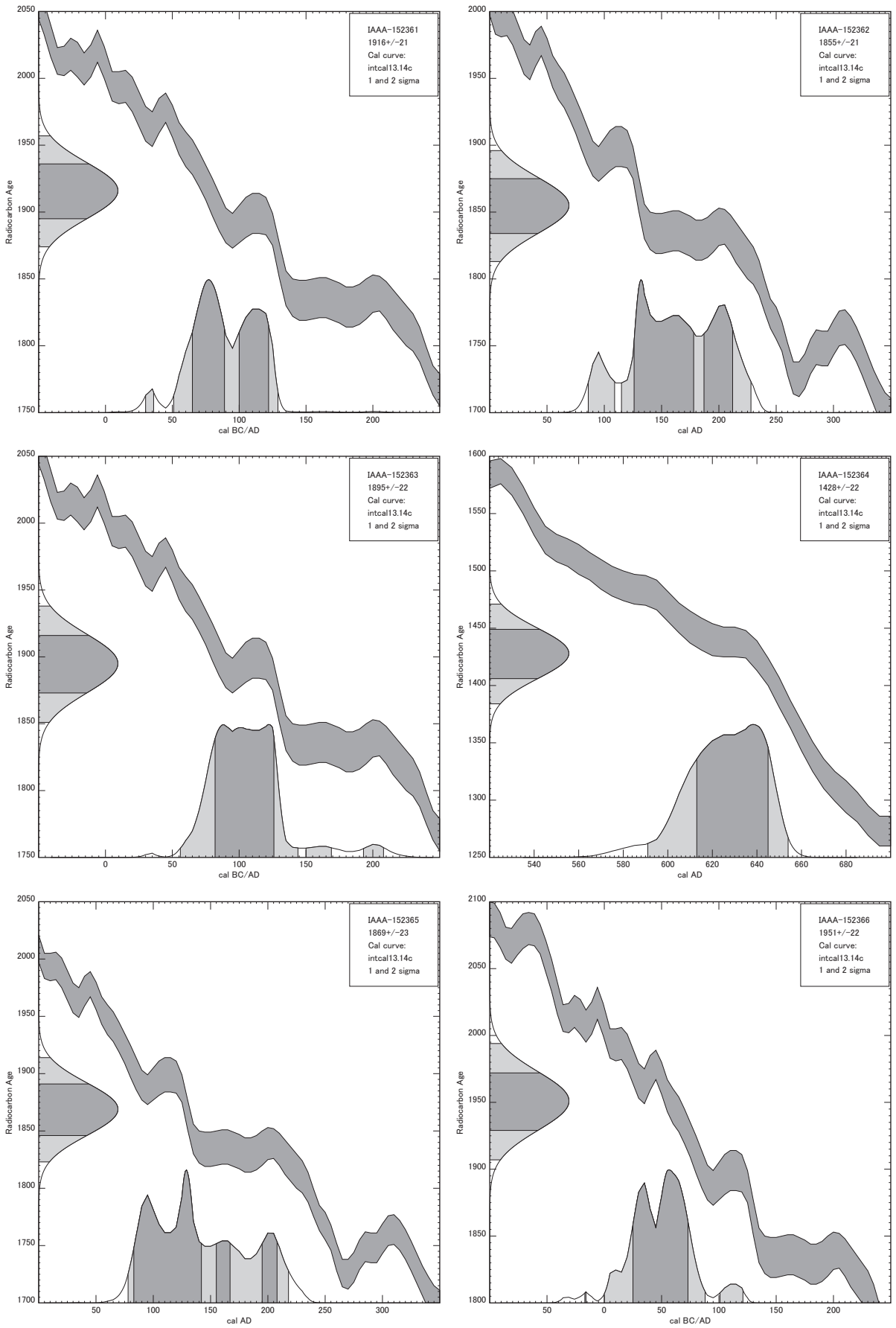
第１図　暦年較正結果 (1)


IAAA-152349
138+/-24
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152350
110+/-21
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152351
1425+/-26
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152352
1887+/-24
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152353
1941+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152354
1539+/-22
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD

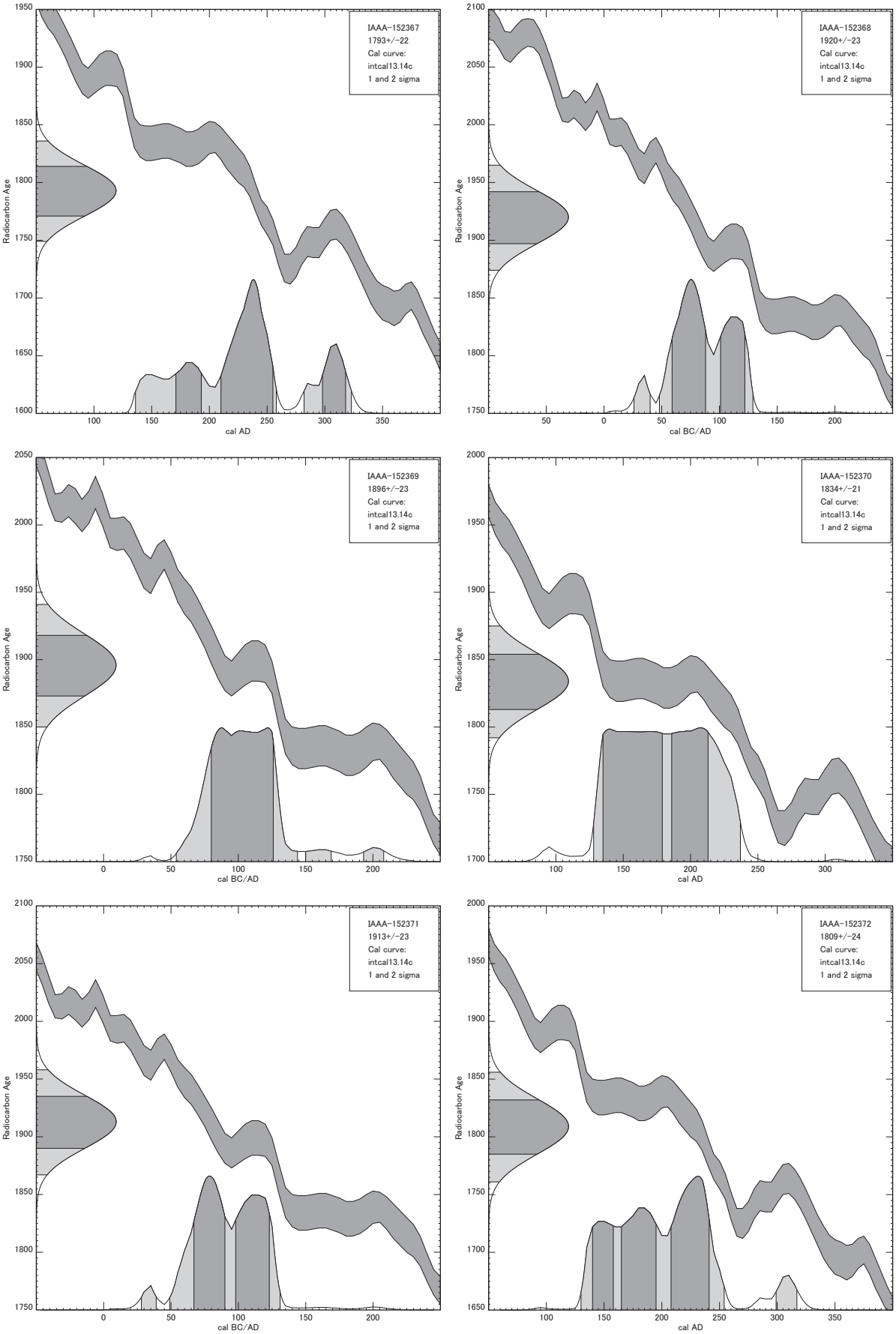
第１図　暦年較正結果(2)


IAAA-152355
1218+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152356
1448+/-25
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152357
1297+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152358
1583+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152359
1581+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152360
1874+/-22
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD

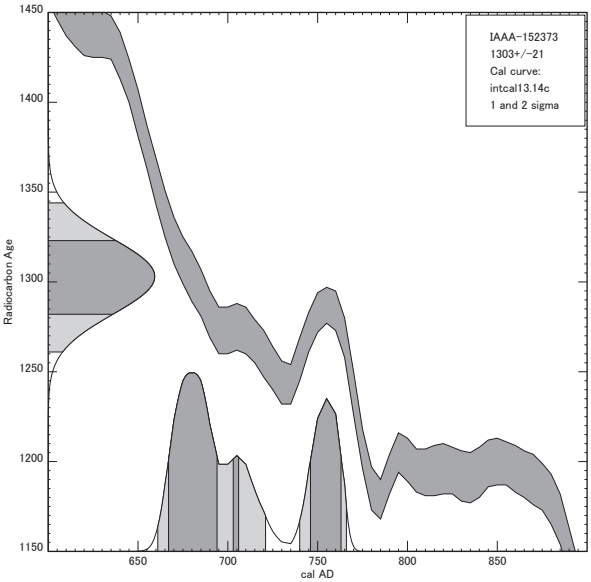
第１図　暦年較正結果(3)

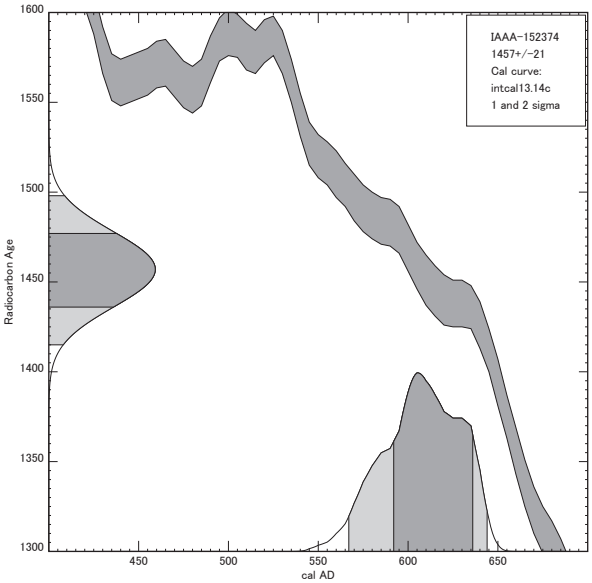

IAAA-152361
1916+/-21
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152362
1855+/-21
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152363
1895+/-22
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152364
1428+/-22
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152365
1869+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152366
1951+/-22
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD

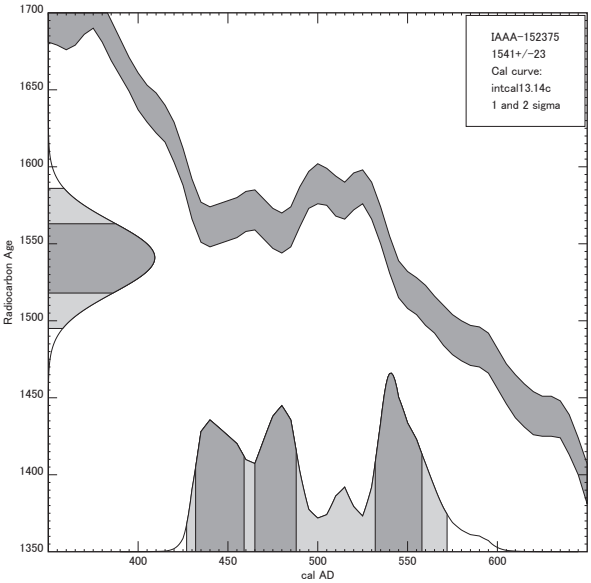
第１図　暦年較正結果(4)

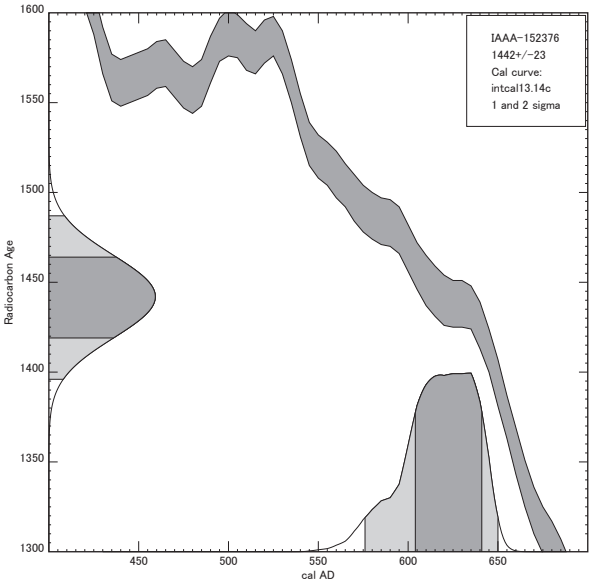

IAAA-152367
1793+/-22
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152368
1920+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152369
1896+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152370
1834+/-21
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD
IAAA-152371
1913+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal BC/AD
IAAA-152372
1809+/-24
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD

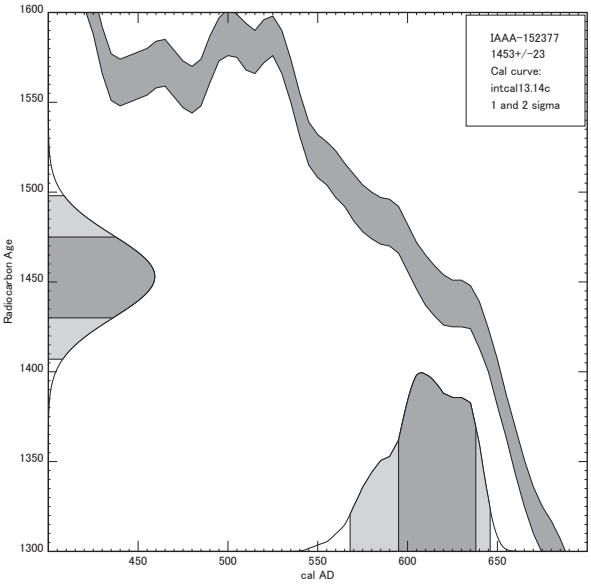
第１図　暦年較正結果(5)


IAAA-152373
1303+/-21
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD

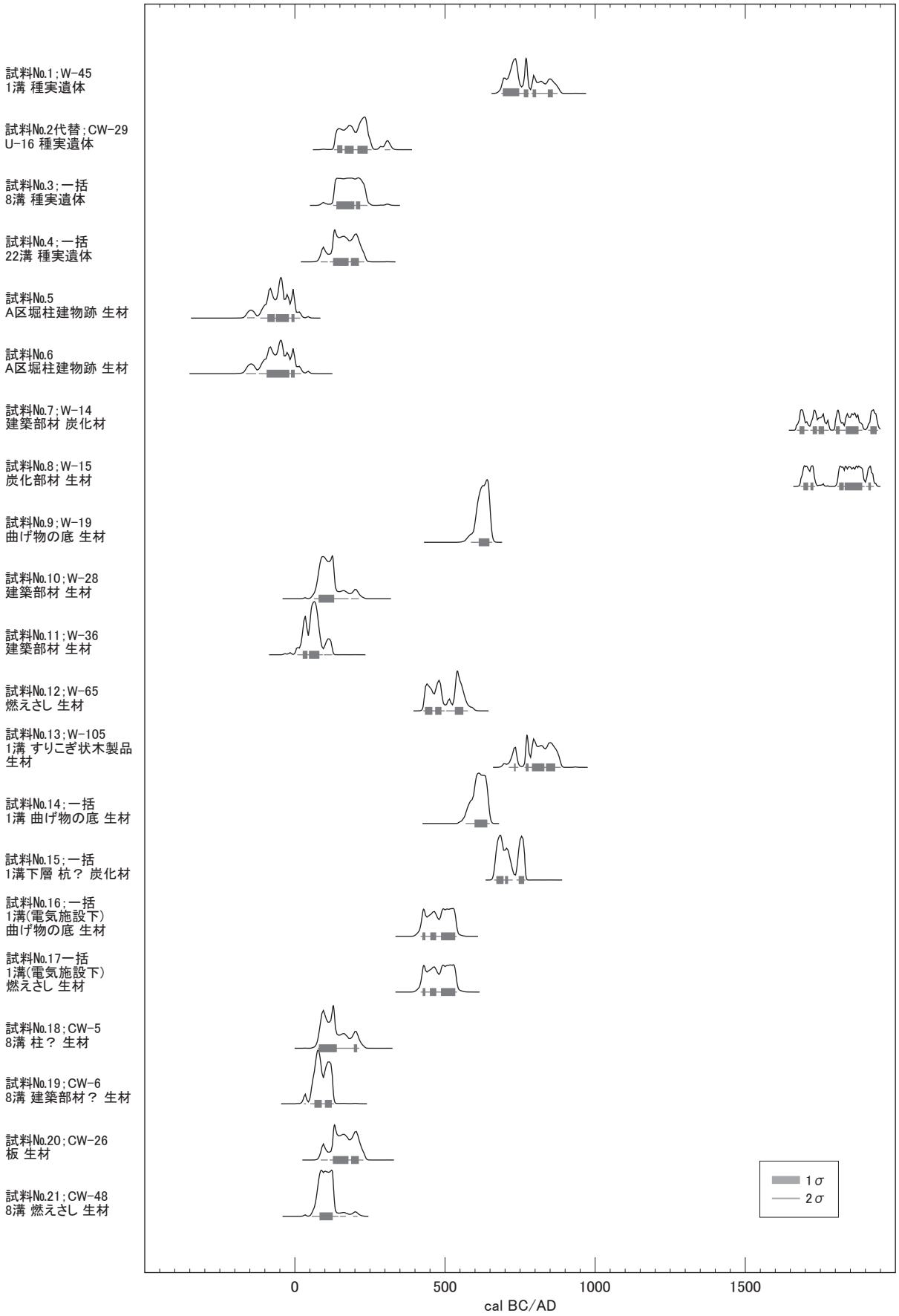

IAAA-152374
1457+/-21
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD


IAAA-152375
1541+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD

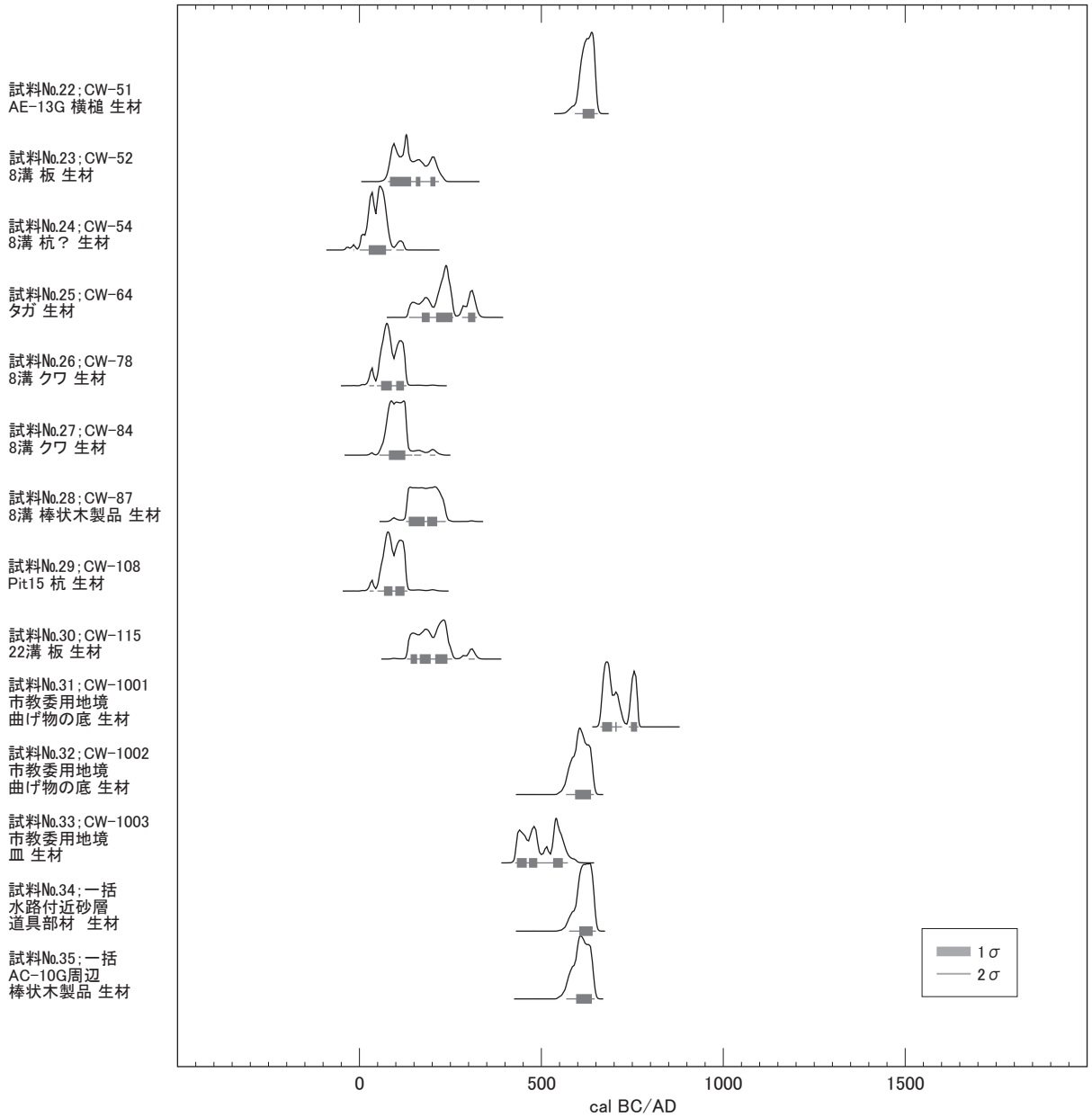

IAAA-152376
1442+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD


IAAA-152377
1453+/-23
Cal curve:
intcal13.14c
1 and 2 sigma
Radiocarbon Age
cal AD

第１図　暦年較正結果(6)



第２図　暦年較正年代確率分布図(1)



第２図　暦年較正年代確率分布図(2)

35）などが相当する。

1 溝の資料のうち、モモ核（試料№ 1）の暦年較正年代（2 σ）は 7 世紀後半～ 9 世紀後半頃を示すことから、古代の資料と推定され、おおむね調査所見を支持する結果と言える。同様の年代はすりこぎ状木製品（試料№ 13）からも得られている。この他の 1 溝資料は、曲げ物の底と燃えさし（試料№ 16,17）が 5 世紀前半～ 6 世紀前半および中頃、一括で採取された曲げ物の底（試料№ 14）が 6 世紀後半～ 7 世紀中頃、1 溝の下層より出土した杭？（試料№ 15）が 7 世紀後半～ 8 世紀後半頃と推定され、年代のばらつきが大きい。また、この他にも平安時代よりも明らかに年代が推定される資料も含まれるため、各資料の出土状況（層位関係）による検討や、上述した古木効果の影響なども踏まえた評価が必要と考えられる。

17 世紀以降の年代を示す資料は、建築部材（試料№ 7）と炭化部材（試料№ 8）の 2 点からなる。暦年較正年代（2 σ）は 17 世紀後半から近代までを示すことから、上記した各資料よりも明らかに新しい年代の資料と判断される。

Ⅱ 種実同定

1．試料

試料は、1 溝、8 溝、22 溝より出土した種実遺体（試料№.1；1 溝 W-45、試料№.3、8 溝一括 , 試料№.4；22 溝一括）と、8 溝より採取された種実遺体が多量混じる土壌（試料№.2；8 溝 W-24）である。なお、本分析では、放射性炭素年代測定試料の試料№.2 の代替として供された種実遺体（CW-29；U-16）も分析対象としている。

2．分析方法

⑴　水洗

土壌試料から種実遺体を分離・抽出するために、試料を水に浸し、粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。水洗後、篩内の試料を粒径 4mm、2mm、1mm、0.5mm の篩に通してシャーレに入れる。粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。

⑵　同定・計測

種実遺体を双眼実体顕微鏡下で観察する。同定は、現生標本や石川（1994）、中山ほか（2010）、鈴木ほか（2012）等の図鑑類を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表と図版で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な分類群間は、－（ハイフォン）で結んで表示する。また、栽培種等の種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さを計測した結果を一覧表に併記する。分析後は、放射性炭素年代測定対象試料以外の種実遺体を分類群別に容器に入れ、約 70% のエタノール溶液で液浸保存する。

3．結果

同定結果を第 3・4 表に示す。また、種実遺体各分類群の写真を図版 1,2 に、主な種実遺体の計測値を第 5 表に示して同定根拠とする。

分析に供された 5 試料を通じて、被子植物 25 分類群（広葉樹のオニグルミ、ヒメグルミ、クヌギ、クリ、クワ属、スモモ、モモ、カキノキ属、草本のツユクサ、イヌビエ属、イネ科（メヒシバ類？）、オヒシバ、ミゾソバ、サナエタデ近似種、アカザ属、キジムシロ類、ヤブヘビイチゴ近似種、エノキグサ、スミレ属、ヒョウタン類、シソ属－イヌコウジュ属、オドリコソウ属、タカサブロウ、タンポポ属、キク科）842 個の種実遺体が同定された。種実遺体の保存状態は良好～極めて良好である。栽培種は、スモモ 6 個（試料№.11）、モモ 28 個（試料№.1,3,4）、ヒョウタン類 4 個（試料№.2 代替；U-16 CW-29）と、栽培種の可能性が高いカキノキ属 2 個（試料№.1）の、計 40 個が確認された。以下に、試料別に結果を述べる。

⑴　1 溝；W-45（試料№.1）

木本 8 分類群（オニグルミ、ヒメグルミ、クヌギ、クリ、クワ属、スモモ、モモ、カキノキ属）80 個、草本 2 分類群（ツユクサ、ミゾソバ）3 個、計 83 個の種実遺体が同定された。

栽培種は、スモモの核の完形が 5 個、破片が 1 個、モモの核の完形が 21 個、完形未満（ネズミ類食痕）が 5 個、完形未満（ネズミ類食痕？）が 1 個確認された。その他に、カキノキ属の種子の破片が 2 個（計 1/2 個体未満）確認され、栽培種のカキノキやマメガキに由来する可能性が高い。

栽培種で最も多く確認されたモモのうち、完形核 20 個の計測値は、長さは最小 20.0 ～最大 28.6（平均 23.8 ± 標準偏差 2.5）mm、幅は 16.4 ～ 22.6（平均 19.5 ± 1.9）mm、厚さは 13.0 ～ 17.7（平均 15.6 ± 1.4）mm であった。また、長さ×幅は 340 ～ 647（平均 469 ± 91）mm2、長さ / 幅は 1.1 ～ 1.4（平均 1.2 ± 0.1）、幅 / 厚さ 1.1 ～ 1.4（平均 1.3 ± 0.1）となり、円～楕円状を呈する。また、頂部はやや尖る個体が多いが、丸い個体や尖る個体などもみられる（表 5）。

栽培種や栽培の可能性を除いた分類群は、木本では、落葉高木で河畔林要素のオニグルミの核の完形が 1 個、完形未満（ネズミ類食痕）が 1 個、破片が 6 個、ヒメグルミの核の半分が 2 個（接合し完形 1 個となる）、二次林要素のクヌギ（クヌギ？を含む）の果実の破片が 2 個、クリの果実の完形未満（食痕の可能性）が 1 個、破片が 30 個、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育するクワ属の核が 3 個確認された。草本は、中生植物のツユクサの種子が 1 個、湿生植物のミゾソバの果実の破片が 2 個確認された。

第３表　種実同定結果

試料No.	遺物番号	遺構名	分類群	部位	状態		個数	仮番号	計測値 (mm) 長さ	幅	厚さ	図版番号	備考
1	W-45	1 溝	オニグルミ	核	完形		1	-	27.0	22.6	19.1	-	基部果皮片残存
					完形未満	ネズミ食痕	1	-	35.9	26.1 +	24.2	1	食痕 2 箇所 (縫合線両側)
							6	-	32.8 +	26.4 +	14.0 +	-	上半部 (2 ～ 10 時)・隔壁欠損 , ネズミ類食痕？
			ヒメグルミ	核	半分		2	-	27.6	25.1	18.6	2	接合し完形 1 個体
			クヌギ	果実	破片		1	-	14.6 +	21.3	-	3	基部着点径 14.75mm
			クヌギ？	果実	破片		1	-	12.4 +	-	-	-	
			クリ	果実	完形未満	食痕？	1	-	18.9 +	21.7	10.0	4	頂部欠損 (食痕の可能性)
					破片		30	-	26.5 +	-	-	-	
			クワ属	核	完形		3	-	-	-	-	15	
			スモモ	核	完形		5	1	15.8	11.4	7.8	5	
							-	2	12.7	9.5	6.6	6	
							-	3	13.4	10.0	7.4	-	
							-	4	13.7	11.1	7.7	-	
							-	5	14.1	10.9	8.3	-	
					破片		1	-	11.5 +	-	-	-	
			モモ	核	完形		21	1	28.6	22.6	17.3	11	頂部やや尖る。年代測定試料
							-	2	28.3	22.4	16.9	-	頂部尖る
							-	3	23.6	21.0	16.4	-	頂部丸い
							-	4	24.0	19.5	17.4	-	頂部やや尖る
							-	5	26.9	19.6	17.3	-	頂部やや尖る
							-	6	26.0	21.8	15.5	-	頂部やや尖る
							-	7	25.1	19.7	15.0	-	頂部丸い
							-	8	23.9	20.0	15.8	-	頂部丸い
							-	9	24.3	20.9	15.7	-	頂部やや尖る
							-	10	23.9	20.2	15.0	-	頂部やや尖る
							-	11	23.7	19.8	16.4	-	頂部やや尖る
							-	12	25.5	21.6	17.7	-	頂部やや尖る
							-	13	24.0	17.2	13.0	-	頂部丸い
							-	14	24.4	20.0	16.5	-	頂部やや尖る
							-	15	20.7	17.7	14.8	-	頂部やや尖る
							-	16	20.4	18.1	15.4	-	頂部丸い
							-	17	20.0	17.0	14.3	-	頂部やや尖る
							-	18	21.5	16.4	13.4	-	頂部やや尖る
							-	19	20.9	18.3	13.7	-	表面摩耗 , 頂部やや尖る
							-	20	21.2	16.9	14.2	-	頂部やや尖る
							-	21	18.7 +	15.9	12.4	7	頂部僅かに欠損
					完形未満	ネズミ食痕	5	1	22.4	15.1 +	19.4	10	食痕 2 箇所 (背腹両面), 頂部やや尖る
							-	2	22.6	17.7 +	17.9	-	食痕 1 箇所 (腹面), 頂部やや尖る
							-	3	24.7	16.1 +	13.9	-	食痕 1 箇所 (腹面), 頂部やや尖る
							-	4	21.4	17.3 +	14.1	-	食痕 1 箇所 (腹面), 頂部やや尖る
						ネズミ食痕？	-	5	24.1	19.0 +	14.7	-	食痕 ?1 箇所 (腹面), 表面摩耗 , 頂部丸い
			カキノキ属	種子	破片		2	-	6.1 +	-	-	-	計 1/2 個体未満
			ツユクサ	種子	完形		1	-	-	-	-	-	
			ミゾソバ	果実	破片		2	-	-	-	-	-	1/3 片
3	一括	8 溝	モモ	核	完形未満		1		20.9 +	15.7 +	12.9 +	8	表面摩耗
4	一括	22 溝	モモ	核	完形未満		1		24.3 +	17.7 +	16.6 +	9	頂部～側面欠損 , 表面摩耗
-	CW-29	U-16	ヒョウタン類	果実	破片		4		22.9 +	20.1 +	3.8	14	2 個接合 ; 頂部 (果柄径 7.3mm), 厚さ : 果皮厚

⑵　8 溝；CW-24（試料№. 2）

土壌試料 50cc（71g）を水洗した結果、草本 10 分類群（イヌビエ属、イネ科（メヒシバ類？）、オヒシバ、アカザ属、エノキグサ、シソ属－イヌコウジュ属、オドリコソウ属、タカサブロウ、タンポポ属、キク科）747 個の種実遺体が同定された。種実以外では、木材、炭化材、植物片、昆虫類、高師小僧、砂礫類などが確認された。

種実遺体の保存状態は極めて良好で、最多の（616 個）イネ科（メヒシバ類？）や、次いで多産したイヌビエ属（83 個）の果実表面には毛が残存し（図版番号 17,19）、イヌビエ属には発芽個体も確認された（図版番号 18）。なお、イヌビエ属には栽培種のヒエを含み、シソ属－イヌコウジュ属には、栽培種のシソやエゴマを含むが、出土種実には栽培種と区別可能な形状は確認されなかった。

次に、残りの試料 400cc（564g）を水洗し、50cc 試料で確認されなかった分類群の抽出を行った結果、中生草本 4 分類群（サナエタデ近似種、キジムシロ類、ヤブヘビイチゴ近似種、スミレ属）6 個の種実遺体が同定された。

種実遺体群は草本のみの組成からなり、中生植物主体で、イヌビエ属、タカサブロウなどの湿生植物も含む。なお、これらの種実遺体群には発芽する個体も認められた。

⑶　8 溝；一括（試料№. 3）

栽培種のモモの核が 1 個同定された。表面が摩耗している。

⑷　22 溝；一括（試料№. 4）

栽培種のモモの核が 1 個同定された。頂部～側面を欠損し、表面が摩耗している。

第４表　種実同定結果（土壌試料）

分類群	部位	状態	№2 CW-24 8溝		備考
草本種実					
イヌビエ属	果実	完形	70	-	発芽個体含む
		破片	13	-	
イネ科 (メヒシバ類 ?)	果実	完形	459	-	
		破片	157	-	
オヒシバ	種子	完形	17	-	
		破片	1	-	
サナエタデ近似種	果実	完形	-	1	
アカザ属	種子	完形	4	-	
		破片	1	-	
キジムシロ類	核	完形	-	3	隆条点在
ヤブヘビイチゴ近似種	核	完形	-	1	
エノキグサ	種子	完形	1	-	
スミレ属	種子	完形	-	1	
シソ属－イヌコウジュ属	果実	破片	1	-	
オドリコソウ属	果実	完形	6	-	
タカサブロウ	果実	完形	5	-	
		破片	1	-	
タンポポ属	果実	完形	4	-	
		破片	5	-	
キク科	果実	完形	1	-	
		破片	1	-	別種
種実合計					
分析残渣			+	-	
木材			+	-	
炭化材			+	-	
植物片			+	-	
昆虫類			+	-	
高師小僧			+	-	
砂礫類					
分析量			50	400	容積 (cc)
			71	564	湿重 (g)

第５表　モモ核（完形）の計測結果

試料№	遺物番号	遺構名	個数	仮番号	計測値 (mm) 長さ	幅	厚さ	長さ×幅	長さ / 幅	長さ / 厚さ	幅 / 厚さ	備考
1	W-45	1溝	21	1	28.6	22.6	17.3	647	1.3	1.7	1.3	頂部やや尖る
				2	28.3	22.4	16.9	632	1.3	1.7	1.3	頂部尖る
				3	23.6	21.0	16.4	495	1.1	1.4	1.3	頂部丸い
				4	24.0	19.5	17.4	468	1.2	1.4	1.1	頂部やや尖る
				5	26.9	19.6	17.3	527	1.4	1.6	1.1	頂部やや尖る
				6	26.0	21.8	15.5	566	1.2	1.7	1.4	頂部やや尖る
				7	25.1	19.7	15.0	494	1.3	1.7	1.3	頂部丸い
				8	23.9	20.0	15.8	478	1.2	1.5	1.3	頂部丸い
				9	24.3	20.9	15.7	508	1.2	1.6	1.3	頂部やや尖る
				10	23.9	20.2	15.0	482	1.2	1.6	1.3	頂部やや尖る
				11	23.7	19.8	16.4	469	1.2	1.4	1.2	頂部やや尖る
				12	25.5	21.6	17.7	551	1.2	1.4	1.2	頂部やや尖る
				13	24.0	17.2	13.0	412	1.4	1.8	1.3	頂部丸い
				14	24.4	20.0	16.5	489	1.2	1.5	1.2	頂部やや尖る
				15	20.7	17.7	14.8	366	1.2	1.4	1.2	頂部やや尖る
				16	20.4	18.1	15.4	369	1.1	1.3	1.2	頂部丸い
				17	20.0	17.0	14.3	340	1.2	1.4	1.2	頂部やや尖る
				18	21.5	16.4	13.4	353	1.3	1.6	1.2	頂部やや尖る
				19	20.9	18.3	13.7	381	1.1	1.5	1.3	表面摩耗 , 頂部やや尖る
				20	21.2	16.9	14.2	358	1.3	1.5	1.2	頂部やや尖る
				21	18.7 -	15.9	12.4	-	-	-	-	頂部僅かに欠損
				標本数	20	20	20	20	20	20	20	
				最小	20.0	16.4	13.0	340	1.1	1.3	1.1	
				最大	28.6	22.6	17.7	647	1.4	1.8	1.4	
				平均	23.8	19.5	15.6	469	1.2	1.5	1.3	
				標準偏差		1.9	1.4	91	0.1	0.1	0.1	

⑸　U-16；CW-29

栽培種のヒョウタン類の果実の破片が 4 個同定された。2 個が接合して頂部となり、残存長 22.9mm、残存径 20.1mm、果皮厚 3.8mm、果柄径 7.3mm を測る。

４．考察

今回の分析に供された種実遺体が出土した遺構は、調査所見によれば、8 溝と 22 溝が弥生時代、1 溝が平安時代と推定されている。種実遺体を対象とした放射性炭素年代測定結果より推定された暦年較正年代（2 σ）は、8 溝（試料№.3）と 22 溝（試料№.4）が弥生時代後期頃、1 溝（試料№.1）が古代（7 世紀後半～ 9 世紀後半）頃と推定され、U-16 出土種実遺体は弥生時代後期～古墳時代前期頃と推定された。

これらの試料から検出された種実遺体群は、木本 8 分類群（オニグルミ、ヒメグルミ、クヌギ、クリ、クワ属、スモモ、モモ、カキノキ属）82 個、草本 17 分類群（ツユクサ、イヌビエ属、イネ科（メヒシバ類？）、オヒシバ、ミゾソバ、サナエタデ近似種、アカザ属、キジムシロ類、ヤブヘビイチゴ近似種、エノキグサ、スミレ属、ヒョウタン類、シソ属－イヌコウジュ属、オドリコソウ属、タカサブロウ、タンポポ属、キク科）760 個の、計 842 個が同定され、栽培種のスモモ、モモ、ヒョウタン類と、栽培種の可能性が高いカキノキ属が確認された。

弥生時代後期（～古墳時代前期）頃と推定された試料に認められた分類群のうち、栽培種のモモは、観賞用の他、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に広く利用される果樹である。また、ヒョウタン類は、果実が食用や容器に利用可能な有用植物である。これらの栽培種は、当時利用された植物質食料の可能性が考えられ、本遺跡の過去に行われた発掘調査でも出土が確認されている（渡辺 ,1990）。

一方、8 溝の土壌試料（試料№.2；CW-24）より確認された種実遺体群は、イネ科（メヒシバ類？）の多産を特徴とする草本のみから組成が明らかとなった。検出された分類群は、多産したイネ科（メヒシバ類？）をはじめ、イヌビエ属、オヒシバ、サナエタデ近似種、アカザ属、キジムシロ類、ヤブヘビイチゴ近似種、エノキグサ、スミレ属、シソ属－イヌコウジュ属、オドリコソウ属、タカサブロウ、タンポポ属、キク科である。いずれも明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群から成り、ミゾソバ、イヌビエ属、タカサブロウなどの湿生植物を含む。このことから、調査地周辺は明るく開けた、湿った場所を含む草地環境にあったことが推定される。なお、これらの種実遺体群は、保存状態は極めて良好で、イヌビエ属には発芽個体が確認された。そのため、後代の混入の恐れが想定され、当時の植生を反映していない可能性がある。

次に、平安時代の 1 溝（W-45；試料番号 1）からは、栽培種のスモモとモモ、栽培種の可能性があるカキノキ属が確認された。スモモは、モモと同様に果実や種子が食用、薬用等に利用される果樹であり、遅くとも奈良時代頃までには日本に渡来したと考えられている。また、カキノキ属は、本州ではトキワガキとリュウキュウマメガキの 2 種が自生するが、いずれも山梨県には分布していない。そのため、今回のカキノキ属は、栽培種であるカキノキあるいはマメガキの可能性がある。カキノキとマメガキは、果実を食用としたり、タンニン（柿渋）を採るために栽培される果樹である。中国から渡来したとされ、古事記や日本書紀に記されていることから、少なくとも奈良時代頃までには渡来していたと考えられている。調査地周辺における栽培の可能性については資料の蓄積による検討が必要であるが、種実遺体の出土から植物質食料などとして利用されていた可能性がある。

栽培種を除いた分類群は、木本類は全て落葉広葉樹であり、高木になる河畔林要素のオニグルミ、ヒメグルミや、二次林要素のクヌギやクリ、河畔や林縁等の明るく開けた場所に生育するクワ属が確認された。これらは周辺域に分布した二次林や河川沿いなどに分布した林分に由来すると考えられる。なお、堅果類のオニグルミ、ヒメグルミ、クリなどは、果実内部の子葉が食用可能であり、クヌギはあく抜きをすることで果実内部の子葉が食用できる。また、クワ属は果実が食用可能である。これらの出土種実には、明らかな利用の痕跡は確認できなかったが、周辺域の森林より持ち込まれ利用されていた可能性が考えられる。一方、草本類は、ツユクサとミゾソバが僅かに検出された。人里植物のツユクサは周囲の開けた環境に生育していたとみられ、湿性植物のミゾソバは、溝沿いをはじめ、小川沿い、沼沢地、湖岸などの水湿地に生育していたと考えられる。

Ⅲ 樹種同定

１．試料

樹種同定に供された試料は、放射性炭素年代測定対象とされた木製品 31 点のうち、担当者により選択された 18 点（試料番号 5 ～ 8,10,11,18 ～ 20,22 ～ 29,33）である。このうち、建築部材（試料№ 7）は、放射性炭素年代測定試料と合せて採取を行った関係から、残存する最外年輪部の炭化部分に相当する。

なお、試料の詳細は結果とともに表 6 に示したので、参照されたい。

２．分析方法

試料は、各木製品の木取りを観察した後、前述した放射性炭素年代測定試料と併せて木片を採取する。生木は、剃刀を用い、木片から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作成する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化部分は、必要量を分割し、自然乾燥させた後、3 断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995-1999）を参考にする。

３．結果

同定結果を第 6 表に示す。木製品は、針葉樹 5 分類群（モミ属、ツガ属、スギ、ヒノキ、カヤ）と、広葉樹 4 分類群（アサダ、コナラ属コナラ亜属クヌギ節、クリ、エノキ属）に同定された。なお、試料№ 25 のタガ（CW-64）は、樹皮のみであり、木部が残存していなかったため、種類の特定には至らなかった。以下に、同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属（Abies） マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1-4 個。放射組織は単列、1-20 細胞高。

第６表　樹種同定結果

試料№	遺物番号	遺構名 グリッド	器種	状態	木取り	種類（分類群）
5	A 区	掘柱建物跡	柱	生木	芯持材	カヤ
6	A 区	掘柱建物跡	柱	生木	芯持材	カヤ
7	W-14		建築部材	炭化	板目	クリ
8	W-15		炭化部材	生木	芯持丸木	ツガ属
10	W-28		建築部材	生木	板目	スギ
11	W-36		建築部材	生木	板目	スギ
18	CW-5	8 溝	柱？	生木	芯持丸木	カヤ
19	CW-6	8 溝	建築部材？	生木	ミカン割	カヤ
20	CW-26		板	生木	板目	エノキ属
22	CW-51	AE-13G	横槌	生木	芯持丸木	ヒノキ
23	CW-52	8 溝	板	生木	柾目	スギ
24	CW-54	8 溝	杭？	生木	芯持材	カヤ
25	CW-64		タガ	生木	-	樹皮
26	CW-78	8 溝	クワ	生木	柾目	アサダ
27	CW-84	8 溝	クワ	生木	柾目	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
28	CW-87	8 溝	棒状木製品	生木	分割棒状	モミ属
29	CW-108	15Pit	杭	生木	芯持丸木	カヤ
33	CW-1003	市教委用地境	Ⅲ	生木	柾目	スギ

・ツガ属（Tsuga） マツ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞は、年輪界近くに認められるが、数が少なく目立たない。放射組織は仮道管と柔細胞で構成される。柔細胞壁は滑らかで、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1 分野に 1-4 個。放射組織は単列、1-20 細胞高。

・スギ（Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don） スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・ヒノキ（Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.)Endlcher） ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 1-3 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・カヤ（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.） イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には 2 本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1 分野に 1-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・アサダ（Ostrya japonica Sarg.） カバノキ科アサダ属

散孔材で、道管は単独または放射方向に 2-4 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-3 細胞幅、1-30 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris） ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

・エノキ属（Celtis） ニレ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外でやや急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高で鞘細胞が認められる。

４．考察

今回の分析対象とされた木製品は、伊東・山田（2012）による木器分類を参考にすると、工具（横槌）、農耕土木具（クワ）、容器（皿、タガ）、建築部材（柱、柱？、建築部材、建築部材？）、施設材・器具材（板、棒状木製品、炭化部材）、土木材（杭？）に分けられる。

これらの木製品の樹種同定の結果、針葉樹のモミ属、ツガ属、スギ、ヒノキ、カヤ、広葉樹のアサダ、コナラ属コナラ亜属クヌギ節、クリ、エノキ属などの計 9 分類群と樹皮が確認された。各種類の材質についてみると、針葉樹のモミ属は木理が通直で割裂性が高く、強度と保存性は低い。ツガ属は、針葉樹では重硬な部類に入り、強度が高い。スギとヒノキは、木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い。カヤは、重硬・緻密で強度と耐水性が高い。広葉樹のアサダ、クヌギ節、クリなどは重硬で強度が高く、エノキ属はやや重硬な部類に入り、前出の 3 分類群に比べると強度は低い。

調査所見および前述の暦年較正年代などを参考とすると、弥生時代の資料は、掘柱建物跡の柱（試料№ 5,6）、建築部

材（試料№.10,11）、柱？（試料№.18）、建築部材？（試料№.19）、板（試料№.20,23）、杭？（試料№.24）、タガ（試料№.25）、クワ（試料№.26,27）、棒状木製品（試料№.28）、杭（試料№.29）などがある。

器種別にみると、農耕土木具のクワ（鍬）は、直柄鍬の鍬身であり、平鍬（試料№.26）と多又鍬（試料№.27）からなる。また、舟形隆起の有無などにも形態の違いが認められる。鍬は、いずれも柾目板状であり、平鍬（試料№.26）がアサダ、又鍬（試料№.27）がクヌギ節に同定された。樹種は異なるが、いずれも重硬で強度の高い木材の利用が推定される。

身洗沢遺跡では、これまでに鍬身 4 点と鍬柄 1 点の調査事例があり、鍬身は直柄多又鍬、曲柄又鍬、曲柄平鍬、横鍬（エブリ）の全てがクヌギ節に、鍬柄（曲柄鍬の膝柄）がトネリコ属に同定されている（千野 ,1991）。このうち、直柄多又鍬は、今回の出土資料と形態がよく似ており、今回の多又鍬もクヌギ節であったことから、同様の木材利用が示唆される。

なお、上記した資料でクヌギ節に同定された鍬身 4 点のうち、曲柄平鍬は未製品であることから、遺跡内において、クヌギ節の鍬が製作されていた可能性がある。鍬身は、全国的にはアカガシ亜属の利用が主流であるが、新保遺跡（群馬県高崎市）など一部の地域ではクヌギ節やコナラ節の利用が多く、アカガシ亜属の自生が少ない地域では代替として材質が類似するクヌギ節やコナラ節が利用された可能性が指摘されており（山田 ,1986）、上述の分析を行った千野（1991）も山梨県についても植生との関連から同様の可能性を示唆している。

山梨県内における弥生時代の木材利用について、伊東・山田（2012）を参考とすると、アカガシ亜属は、油田遺跡（旧甲西町）の堅杵、大師東丹保遺跡（旧甲西町）の流木、音羽遺跡（甲府市）の炭化材など、僅かに確認されているのみである。このように、アカガシ亜属の利用が極めて少ない状況から、今回の確認されたクヌギ節の利用は山田や千野が指摘したアカガシ亜属と似た強度を有する木材が利用された可能性が考えられる。

一方、アサダは、山梨県内では鍬以外も含めて同時期の木製品に用いた事例は確認できない（伊東・山田 ,2012）。現植生の調査結果（山梨県県民生活局環境公害課 ,1982）によれば、アサダは南アルプス、八ヶ岳、関山、富士山、富士川などに生育しているものの、その数は少ないとされている。この点を参考とすると、アサダの利用が確認できない点は、上述した木材利用の傾向や当時の周辺植生を反映している可能性もある。なお、伊東・山田（2012）などにより、当該期の鍬にアサダが利用された事例についてみると、後家山遺跡（長野県佐久市）や松原遺跡（長野県長野市）で確認されている。

容器はタガの 1 点である。本資料は、タガとされているが、細く切断された樹皮が巻かれた状態であり、樹皮を用いた綴じ紐の可能性がある。組織構造から種類を判別するには至らなかったが、樹皮の状況を考慮すれば桜皮と考えられる。

第７表　時期別・器種別種類構成

	弥生							平安		近世		合計
	農耕	容器	建築部材		土木	施設・器具		工具	容器	建築	施設	
	クワ	タガ	柱	建築	杭	板	棒状	横槌	皿	建築	部材	
針葉樹												
モミ属							1					1
ツガ属											1	1
スギ				2	2	1			1			6
ヒノキ								1				1
カヤ			3	1	1							5
広葉樹												
アサダ	1											1
クヌギ節	1											1
クリ										1		1
エノキ属						1						1
その他												
樹皮		1										1
合計	2	1	3	3	3	2	1	1	1	1	1	19

また、巻かれた状態で出土していることから、使用前の状態と想定される。こうした樹皮製品については、八日市地方遺跡（石川県小松市）で加工工程を示す資料が大量に出土しており、河道肩部の窪地などの水気のある場所で乾燥しないように保管されていたことが指摘されている（浦 ,2014）。今回の資料も乾燥を防ぐために水浸保管されていた可能性があり、出土状況を確認する必要がある。

建築部材では、柱、柱？、建築部材、建築部材？がある。柱２点（試料№.5,6）は、掘柱建物跡の柱であり、暦年較正年代では出土木製品の中で最も古く、弥生時代中期後半～後期頃に推定された。いずれも芯持丸木に近い芯持材で表面に面取りのような痕跡が認められる柱であり、いずれもカヤに同定されたことから、強度と耐水性の高い木材の利用が推定される。建築部材（試料№.10,11）は板目板状を呈し、いずれもスギに同定されたことから、分割加工が容易な木材利用が考えられる。山梨県内の現植生では、スギは富士山や富士川に分布するが、自生は少ないとされる（山梨県県民性格局環境公害課 ,1982）。なお、山梨県内における弥生時代のスギの出土事例についてみると、二本柳遺跡（旧若草町）の梯子に確認されたのみであり、同じ針葉樹ではヒノキ属やモミ属等の利用が多い傾向にある（伊東・山田 ,2012）。また、二本柳遺跡の花粉分析結果をみると、弥生時代は産出状況が悪く詳細不明であるが、古墳時代ではスギ属が検出されており、周囲に生育していた可能性が指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2000）。ただし、スギ花粉は、広域に拡散することから、生育地などの検討にあたっては、この他の器官の出土状況を含めた検討を要する。スギ材の入手環境については今後の課題であるが、上記した建築部材や施設材・器具材に分類した用途不明の板材（試料№.23）にスギが確認されたことから、当該期におけるスギ材の利用が示唆される。この他、柱？（試料№.18）は芯持丸木、建築部材？（試料№.19）はミカン割状を呈する資料である。いずれもカヤに同定されたことから、掘柱建物跡の柱と同様に強度や耐水性を考慮した木材利用が推定される。

土木材は杭と杭？の２点がある。杭（試料№.29）は芯持丸木、杭？（試料№.24）は芯持材であり、いずれもカヤであった。上記した建築部材と同様の強度や耐水性を考慮した木材利用と考えられるが、杭のためにカヤを伐採したとは考え難く、建築部材を製作する際に払った枝材等を利用した可能性がある。

施設材・器具材のうち、棒状木製品（試料№.28）は分割棒状を呈し、モミ属に同定された。モミ属の材質を考慮すると、強度や保存性ではなく、加工性などを優先した木材利用が考えられる。

一方、調査所見から、平安時代と推定される資料は、横槌（試料№.22）と皿（試料№.33）の２点である。工具の横槌は、芯持丸木で持ち手部分が一木で削り出されている資料であり、ヒノキに同定された。径を考慮すれば、ヒノキの枝などが利用された可能性がある。容器の皿は、縁が柾目、底面が板目に近い木取りとなる資料であり、本来は方形を呈する槽に似た形状が推定される。本資料はスギに同定されたことから、加工性の高い木材の利用が考えられる。山梨県内では、大坪遺跡の奈良～平安とされる刳物容器にヒノキ属が確認されているが、加工性の高い木材を利用している点で共通する。なお、スギについては、前述のように現植生からは自生が少ないとされているため、他地域より搬入された可能性もある。

また、建築部材（試料№.7）と炭化部材（試料№.8）の２点は、暦年較正年代により近世以降と推定されている。建築部材は、厚い板目状の分割角材で、ホゾ穴が確認できることから、別材と組み合わせて使用したと考えられる。クリが利用されていることから、強度や耐朽性を必要とする用途・部位が推定される。一方の炭化部材は、芯持丸木で、貫通しない穴が認められることから、建築部材と同じく別材と組み合わせた可能性がある。ツガ属も比較的強度が高いことから、強度を要する用途・部位が推定される。

引用・参考文献

千野裕道　1991「身洗沢遺跡出土木製品の樹種について」『山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要　7』　33-39 p

古屋紀之編　2014「東日本弥生時代後期～古墳時代前期広域土器編年併行関係表」『久ヶ原・弥生町期の現在　－相模湾 / 東京湾の弥生後期の様相－』西相模考古学研究会　記念シンポジウム資料集　206-207 p

林　昭三　1991『日本産木材　顕微鏡写真集』京都大学　木質科学研究所

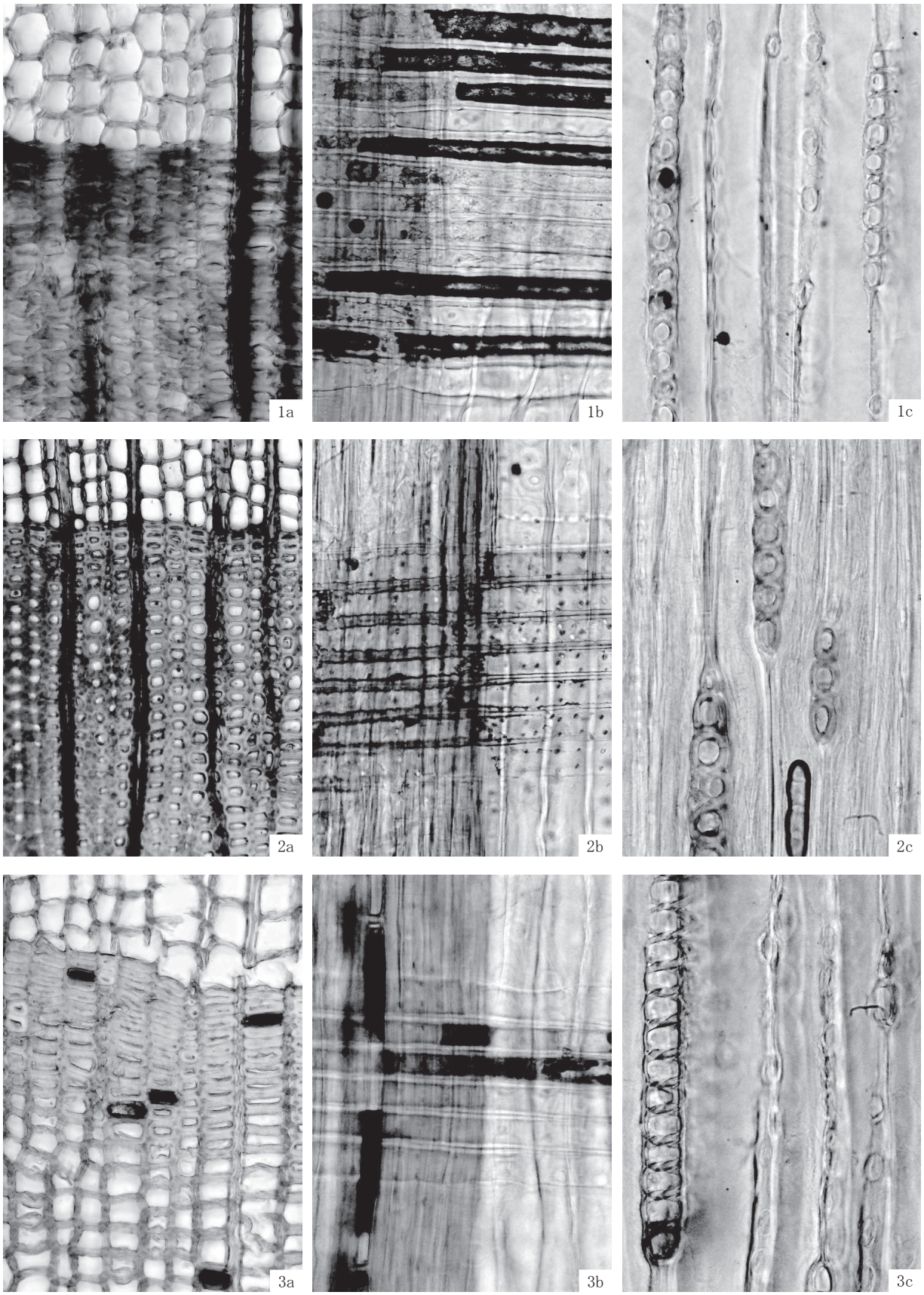
石川茂雄　1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会　328 p
伊東隆夫　1995『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料 31』京都大学木質科学研究所　81-181 p
伊東隆夫　1996『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料 32』京都大学木質科学研究所　66-176 p
伊東隆夫　1997『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料 33』京都大学木質科学研究所　83-201 p
伊東隆夫　1998『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料 34』京都大学木質科学研究所　30-166 p
伊東隆夫　1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ 木材研究・資料 35』京都大学木質科学研究所　47-216 p
伊東隆夫・山田昌久（編）　2012『木の考古学　出土木製品用材データベース』海青社　449 p
木野瀬正典・赤塚次郎・小田寛貴・山本直人・中村俊夫　2004『尾張地域の弥生時代・古墳時代の土器に付着した炭化物の放射性炭素年代』名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 XV　名古屋大学年代測定総合研究センター　18-25 p
木野瀬正典・小田寛貴・赤塚次郎・山本直人・中村俊夫　2005『弥生・古墳時代の土器に付着した炭化物の AMS^{14}C 年代測定　－愛知・石川県の遺跡から出土した土器について－』名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 XVI 名古屋大学年代測定総合研究センター　95-104 p
小林謙一　2007「関東における弥生時代の開始年代」西本豊弘編　『縄文時代から弥生時代へ　新弥生時代のはじまり』第 2 巻　雄山閣　52-65 p
中山誠二　1990「遺跡の位置と周辺の環境」『身洗沢遺跡・一町五反遺跡　県道石橋・石和線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 55 集　山梨県教育委員会　3-4 p
中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2010『日本植物種子図鑑（2010 年改訂版）』東北大学出版会　678p
パリノ･サーヴェイ株式会社　2000「二本柳遺跡の古環境と木製品の樹種」『二本柳遺跡　－一般国道 52 号（甲西道路）改築工事・中部横断自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 183 集　山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公団東京建設局　234-256 p
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）　2006『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）　海青社　70p［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. 2004,IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］
島地　謙・伊東隆夫　1982『図説木材組織』地球社　176p
鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文　2012『ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実　－形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632 種－』誠文堂新光社　272p
高橋　学　1990「身洗沢遺跡の地形環境」『身洗沢遺跡・一町五反遺跡　県道石橋・石和線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 55 集　山梨県教育委員会　80-86 p
浦　蓉子　2014「樹皮製品」『八日市地方遺跡Ⅱ　－小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』第 3 部　製玉編、第 4 部　木器編　石川県小松市教育委員会　253-264 p
渡辺　誠　1990「植物遺体」『身洗沢遺跡・一町五反遺跡　県道石橋・石和線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 55 集　山梨県教育委員会　63-69 p
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）　1998『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）　海青社　122p［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989,IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］
山田昌久　1986「くわとすきの来た道」『新保遺跡Ⅰ. 弥生・古墳時代大溝編　－関越自動車道（新潟線）地域　埋蔵文化財発掘調査報告書第 10 集－＜本文編＞』　群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　168-188 p
山梨県県民生活局環境公害課　1982『山梨県植物誌』　380p
吉村　稔・平川一臣　1984『地形分類図　土地分類基本調査　甲府　5 万分の 1　国土調査』　山梨県　15-24 p

図版 1 種実遺体 (1)

1. オニグルミ 核(ネズミ類食痕)(No.1 W-45;1溝)
2. ヒメグルミ 核(No.1 W-45;1溝)
3. クヌギ 果実(基部)(No.1 W-45;1溝)
4. クリ 果実(食痕?)(No.1 W-45;1溝)
5. スモモ 核(No.1 W-45;1溝)
6. スモモ 核(No.1 W-45;1溝)
7. モモ 核(No.1 W-45;1溝)
8. モモ 核(No.3 一括;8溝)
9. モモ 核(No.4 一括;22溝)
10. モモ 核(ネズミ類食痕)(No.1 W-45;1溝)
11. モモ 核(No.1 W-45;1溝)
12. カキノキ属 種子(No.1 W-45;1溝)
13. カキノキ属 種子(No.1 W-45;1溝)
14. ヒョウタン類 果実(頂部)(CW-29;U-16)

図版２ 種実遺体 (2)

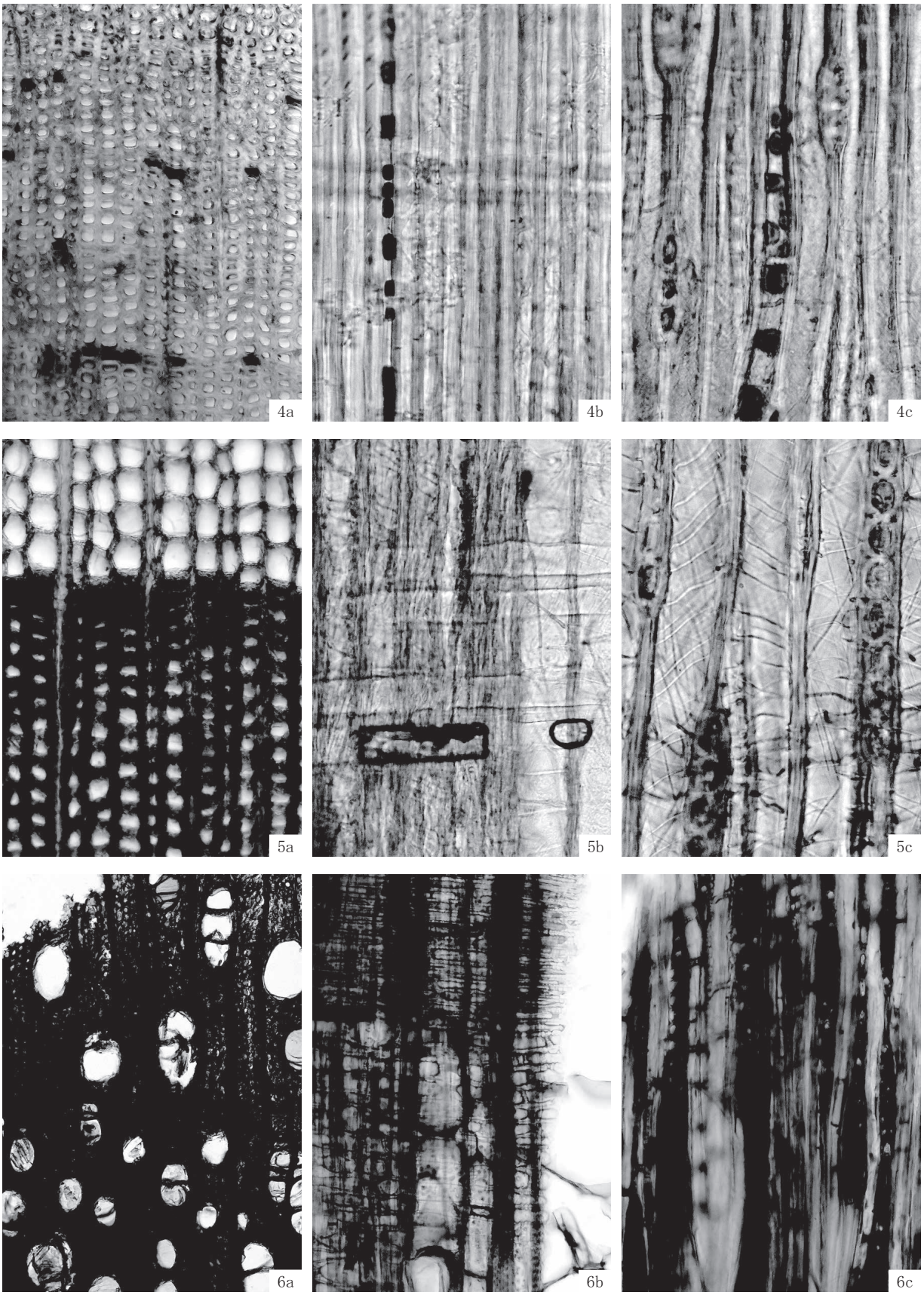
15. クワ属 核(No.1 W-45;1溝)
16. ツユクサ 種子(No.1 W-45;1溝)
17. イヌビエ属 果実(No.2 CW-24;8溝)
18. イヌビエ属 果実(発芽)(No.2 CW-24;8溝)
19. イネ科(メヒシバ類?) 果実(No.2 CW-24;8溝)
20. オヒシバ 種子(No.2 CW-24;8溝)
21. ミゾソバ 果実(No.1 W-45;1溝)
22. サナエタデ近似種 果実(No.2 CW-24;8溝)
23. アカザ属 種子(No.2 CW-24;8溝)
24. キジムシロ類 核(No.2 CW-24;8溝)
25. ヤブヘビイチゴ近似種 核(No.2 CW-24;8溝)
26. エノキグサ 種子(No.2 CW-24;8溝)
27. スミレ属 種子(No.2 CW-24;8溝)
28. シソ属ーイヌコウジュ属 果実(No.2 CW-24;8溝)
29. オドリコソウ属 果実(No.2 CW-24;8溝)
30. タカサブロウ 果実(No.2 CW-24;8溝)
31. タンポポ属 果実(No.2 CW-24;8溝)
32. キク科 果実(No.2 CW-24;8溝)
33. キク科 果実(No.2 CW-24;8溝)



1. モミ属(No.28 CW-87;8溝)
2. ツガ属(No.8 W-15)
3. スギ(No.10 W-28)
　a:木口,b:柾目,c:板目

100μm:a
100μm:b,c

図版４ 木材(2)

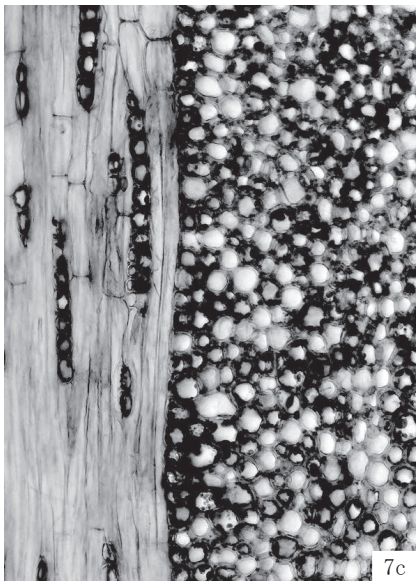


4.ヒノキ(No.22 CW-51;AE-13G)
5.カヤ(No.5 A区堀柱建物跡)
6.アサダ(No.26 CW-78;8溝)
　a:木口,b:柾目,c:板目

100μm:6a
100μm:4-5a,6b,c
100μm:4-5b,c

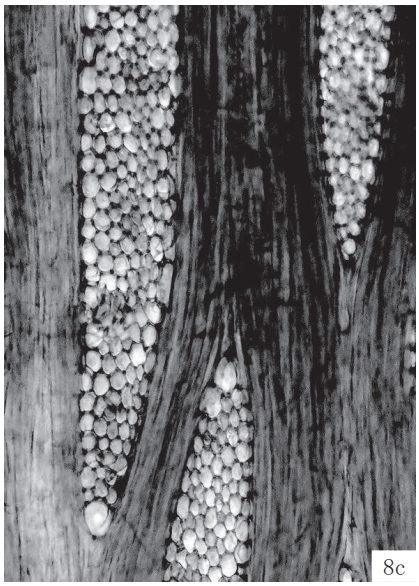
7a

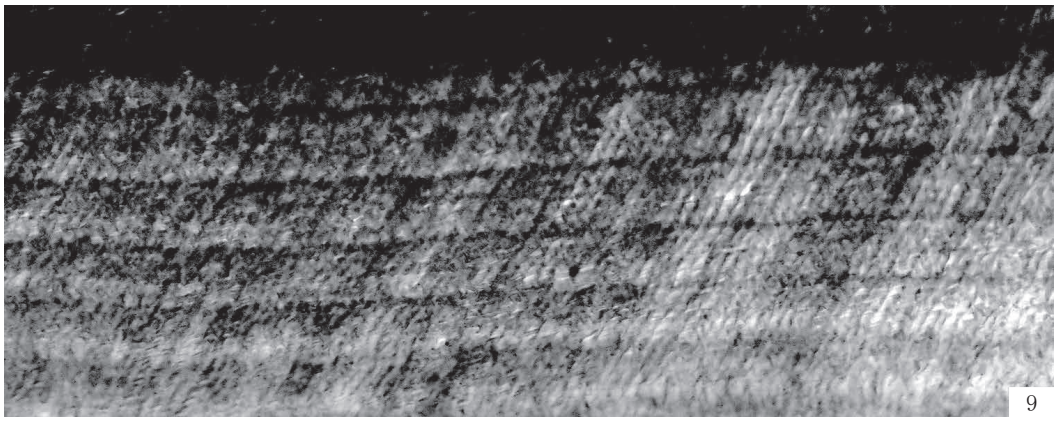
7b


7c

8a

8b

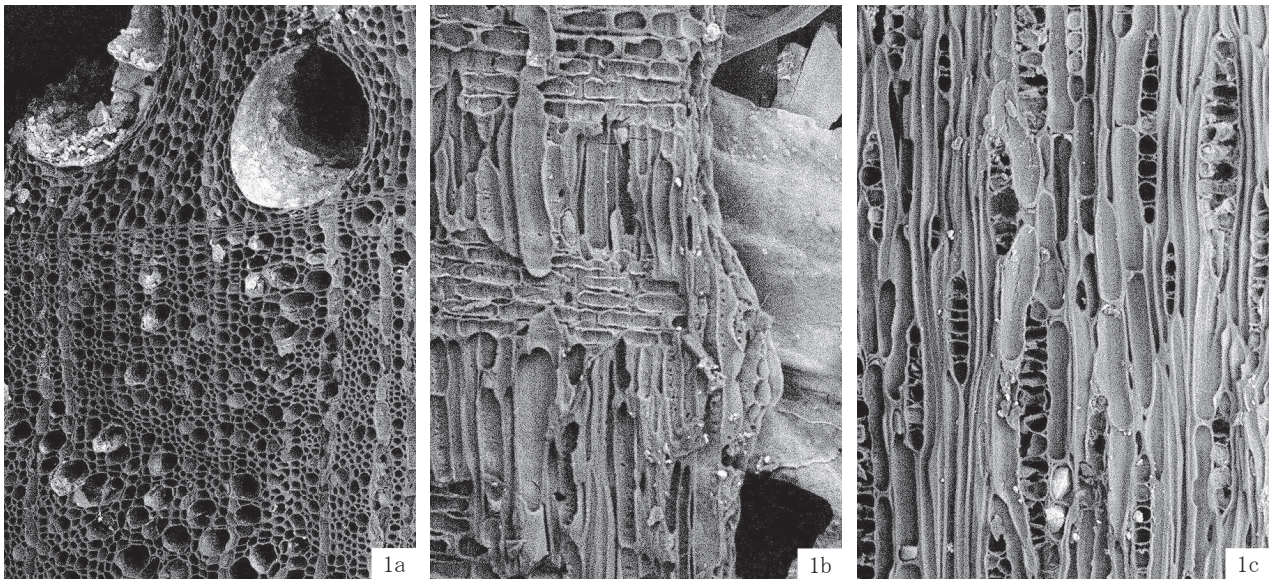

8c


9

7. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(No.27 CW-84;8溝)
8. エノキ属(No.20 CW-26)
　a:木口,b:柾目,c:板目
9. 樹皮(No.25 CW-64)　横断面

100μm:7-8a, 9
100μm:7-8b, c

図版６ 炭化材



1. クリ(No.7 W-14)
　a:木口,b:柾目,c:板目

100μm:a
100μm:b,c

第Ⅵ章　調査の成果と課題

第１節　出土遺物の年代的検討

１．目的

今回の埋蔵文化財調査によって、弥生時代後期から古墳時代初頭及び古墳時代中期から後期の遺物が出土した。このため、編年図をまとめるのと同時に、設定した各段階における内容と特徴を記述することとしたい。

２．対象

編年図の作成にあたっては、図化資料を対象とした。図化資料は文様施文・調整が行われているものや一定の大きさを持つ個体資料を中心に選別している。なお、縄文時代と奈良・平安時代は全て破片資料で、遺物包含層や自然流路から出土したものであるため、第２節で検討を加えた。

３．方法と段階設定

土器の時期区分にあたっては、完形個体を含めて量的に多く出土した弥生時代後期から古墳時代後期までの土器について、段階を設定した。弥生時代後期から古墳時代初頭の編年については、中山誠二による山梨県史編年を基にした細分案や古墳時代の編年などの研究が進められているが、今回の調査では一括性を有する遺構が切りあい関係を持つような状況は確認されなかった。このため、山梨県史編年を参照して、大きな時間枠で年代を捉えることとした。また、古墳時代中期から後期の土器については、山梨県史編年と共に小林健二による編年案の単位を参照して時期区分を行った。各段階の年代観は次の通りである。

段階１）弥生時代後期の土器で、山梨県史編年における弥生５期を対象とする。

段階２）弥生時代後期から古墳時代初頭の土器で、山梨県史編年における弥生５期から弥生６期までに位置づけられ、細分が困難な資料を対象とする。

段階３）弥生時代後期から古墳時代初頭の土器で、山梨県史編年における弥生６期を対象とする。

段階４）古墳時代中期前葉から中葉の土師器で、山梨県史編年におけるⅣ期、小林編年におけるⅤ期からⅥ期を対象とする。

段階５）古墳時代中期中葉から後葉の土師器・須恵器で、山梨県史編年におけるⅥ期からⅧ期、小林編年におけるⅦ期からⅧ期を対象とする。

段階６）古墳時代後期の土師器・須恵器で、山梨県史編年におけるⅨ期からⅩⅢ期、小林編年におけるⅨ期からⅩⅡ期を対象とする。

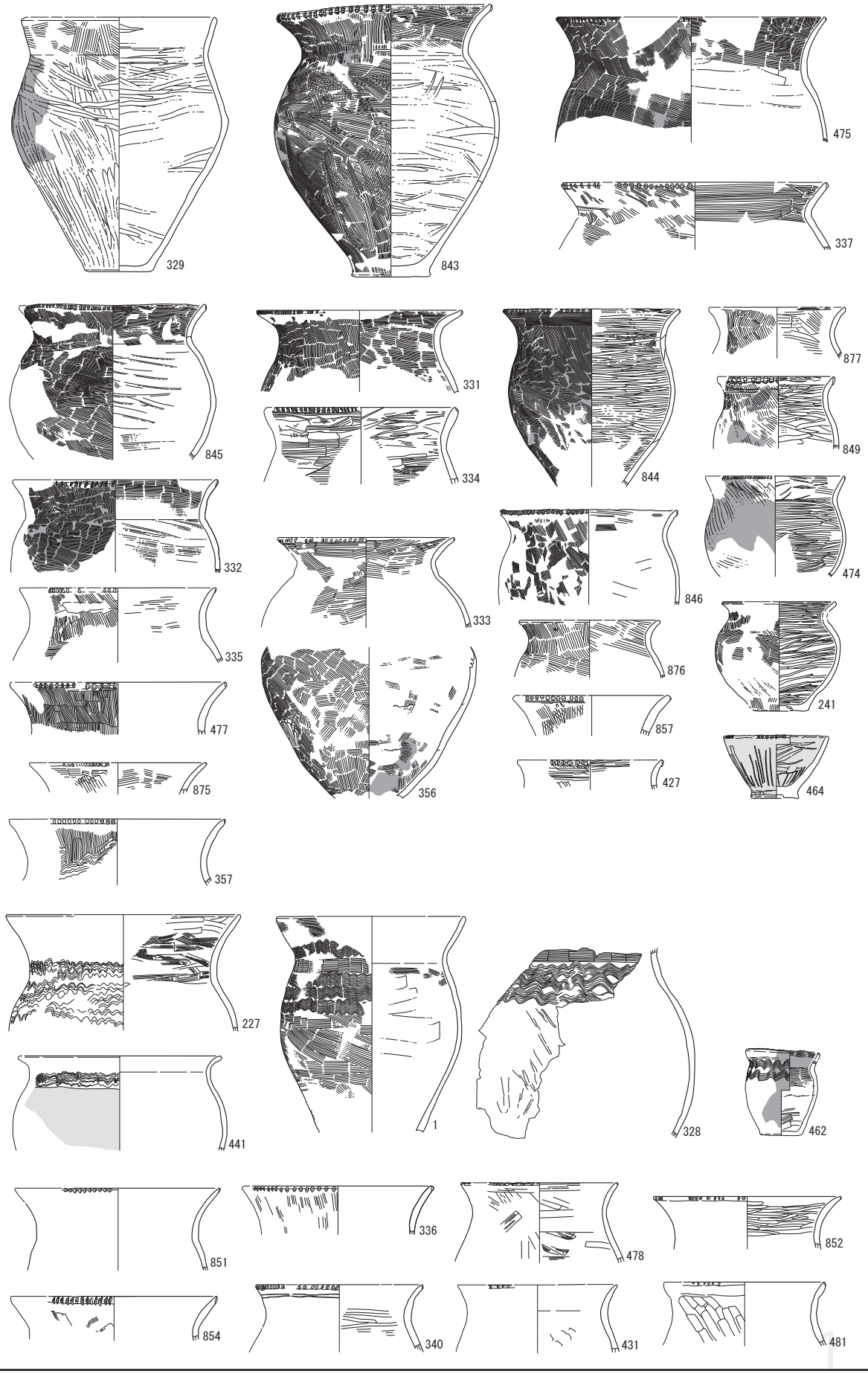
４．段階ごとの内容

段階１）弥生時代後期

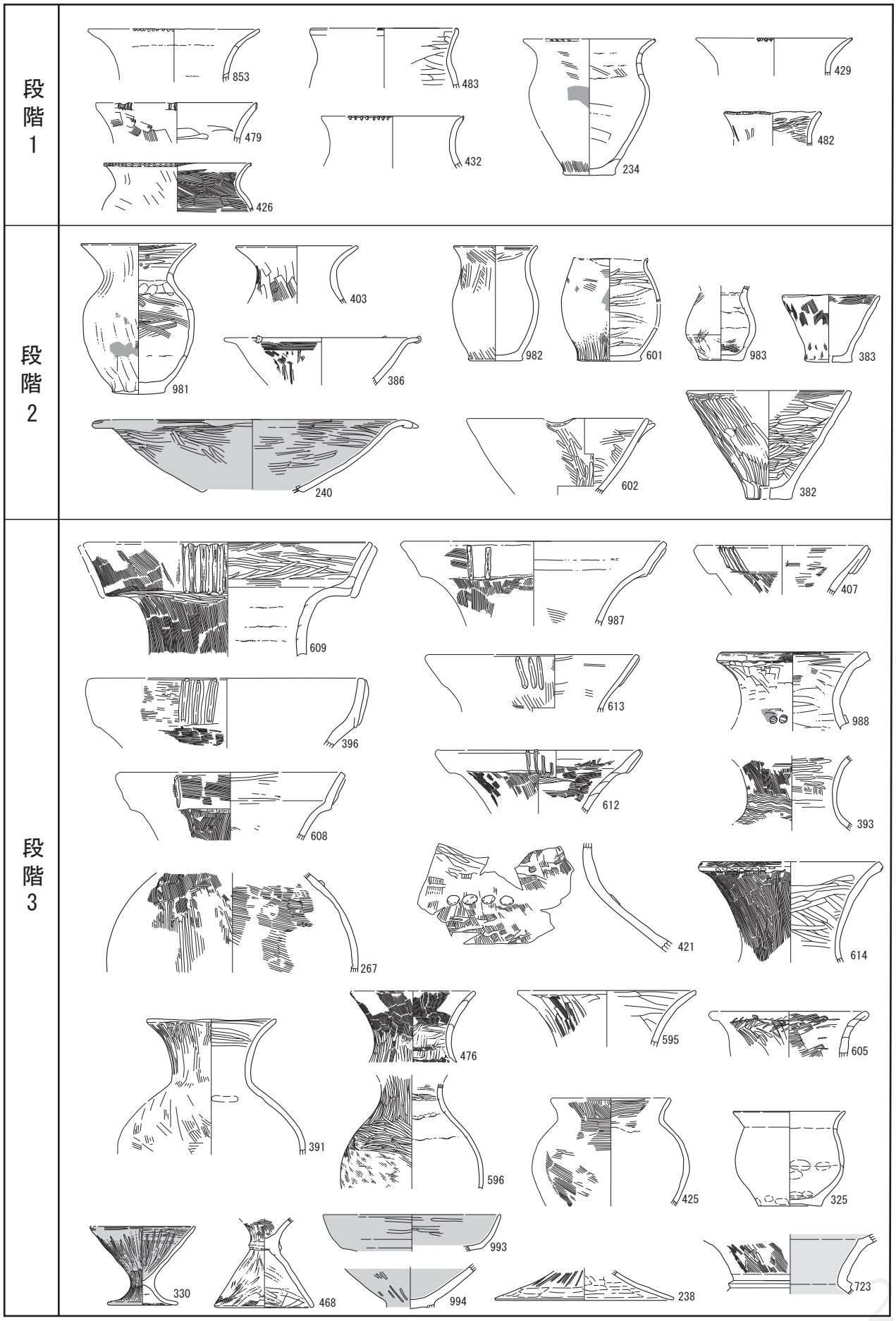
口縁部に刻みを有するもので外面にハケ調整が施された甕が主体となり、櫛描波状文を伴う甕も組成される。前者は甲府盆地特有のものであり、後者は中部高地に広がる。口縁部に刻みを有し外面のハケ調整が微弱な甕も一定の数量を占める。施文からハケ調整と櫛描波状文は区分されるものの、両者の胎土は近似している。357 は外面におけるハケ調整の上に櫛描波状文が施された、口縁部に刻みを有す甕であり、異なる要素が混在している資料である。単純口縁の 329 は、櫛描波状文が施された 328 と７号土坑で共伴している。これらの状況からハケ調整と櫛描波状文は排他的な関係になく、多様な技術を受容している様相が把握される。

口縁部に刻みを有し外面にハケ調整が施された甕は、口径が約 30cm・約 20cm・約 15cm に大別される。口縁部から体部に至る断面形状は緩やかなＳ字を描くものが目立つが、「く」の字形を呈するもの（329・337・334）や頸部で狭くなるもの（331・333）など多様な形態を有する。完形資料の数量が少ないため即断はできないが、該期に比定さ

段階1



第 126 図　弥生時代遺物の編年 (1)



第 127 図　弥生時代遺物の編年 (2)

れる底部破片の内、台付より平底が大多数を占めることから、平底甕が主体であったと考えられる。口縁部の刻みは体部のハケ調整に用いた工具によって施される。

櫛描波状文を伴う甕は、櫛描波状文のみ施されるものと櫛描波状文・簾状文が組み合わされて施文されるものに分けられる。227 は胎土が赤褐色を呈し、他の資料と大きく異なっている。

段階２）弥生時代後期から古墳時代初頭

単純口縁の 981・403・982 の様に５期と６期のいずれの技術属性も有していないものを段階２として捉えることとした。口縁が外反し、突き出す形状の高坏（386・240）は金の尾遺跡出土の高坏（５期）身洗沢に類似するが、より幅が広がっていることから、段階２に所属させることとした。

段階３）弥生時代後期から古墳時代初頭

口縁部に数条の棒状浮文を有する幅広有段口縁壺や市川三郷町大塚遺跡Ａ区４号住出土の単純口縁壺に形態が類似する資料などを段階３とした。幅広有段口縁壺の中には段部と体部が連続し、屈曲が顕著ではない資料（613・612・407）も確認できる。468 の高坏は、体部と脚部の間に断面三角形に肥厚しており、中道町上の平遺跡出土の高坏と共通している。723 は山中式の影響を受けた壺と判断される。

段階４）古墳時代中期前葉から中葉

脚部が棒状を呈する高坏を段階４とした。ただし、これらは遺構外から出土した破片資料であり、他に古墳時代中期前葉から中葉の技術要素を持つ資料は把握されていないため、内容を詳述するのは困難である。

段階５）古墳時代中期中葉から後葉

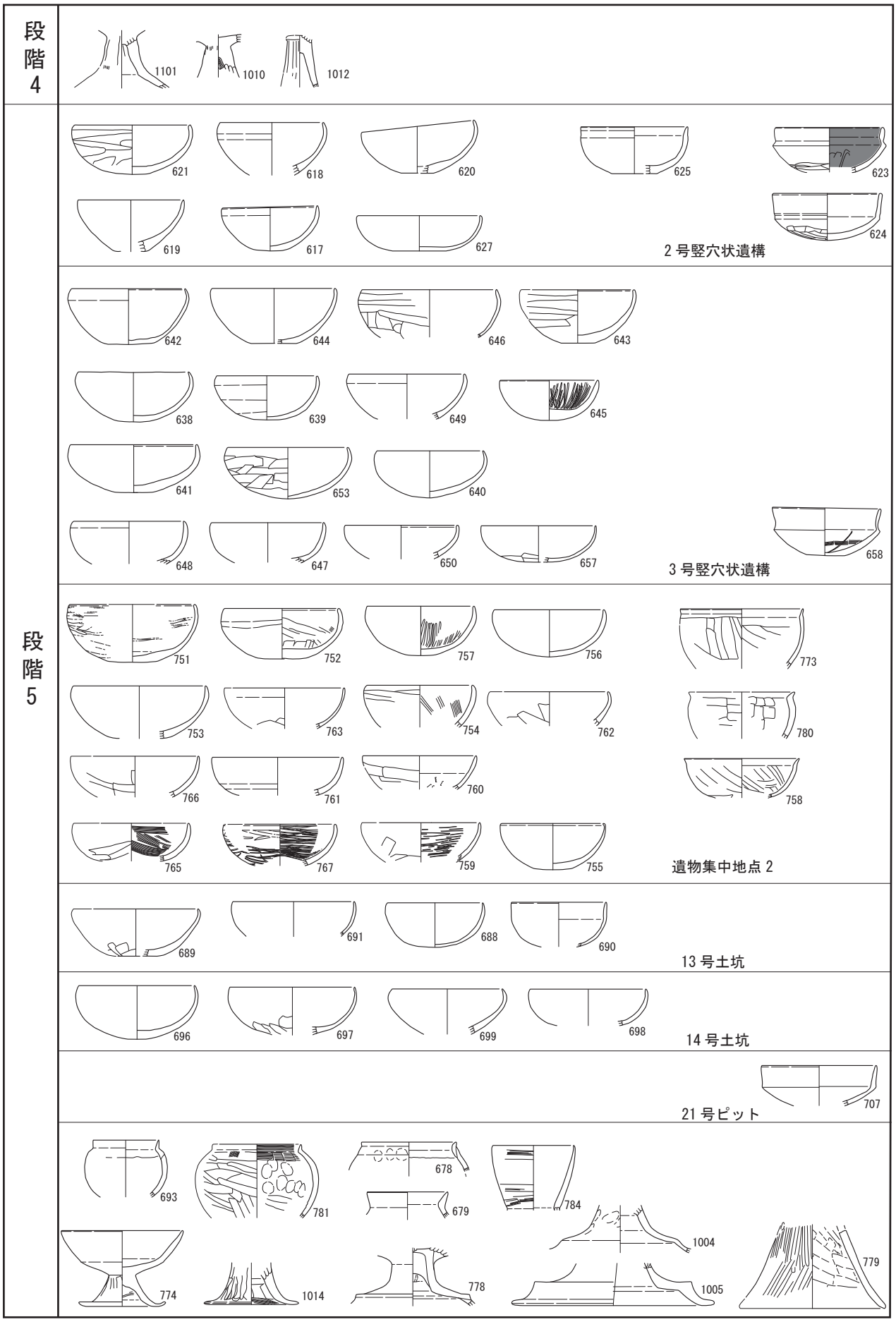
２号竪穴状遺構、３号竪穴状遺構、２号遺物集中地点、13 号土坑、14 号土坑、21 号ピットから出土した資料について、段階５に比定した。第 128 図においては坏を遺構単位に分けて掲載した。

段階５においては須恵器として、甕（637：２号竪穴状遺構、683：３号竪穴状遺構）、坏（682：３号竪穴状遺構）、短頸壺（819：２号遺物集中地点）が出土している。637 は破片資料であるが、孔の脇に櫛描波状文を有し、体部下半にタタキが施される。須恵器型式としては、ＴＫ 208 型式からＴＫ 23 型式と考えられる。683 は頸部に櫛描波状文、胴部最大径の横位沈線で区画された範囲に列点文が施されている。須恵器型式としては、ＴＫ 23 型式に比定される。682 はＴＫ 23 型式からＴＫ 47 型式に比定される。これらの須恵器と共伴する土師器坏は半球形を主体とし、口縁が緩く外反する形態や幅広の形態を含んでいる。また、２号竪穴状遺構（623・624）、３号竪穴状遺構（658）、21 号ピット（707）からは須恵器模倣坏が出土している。土師器の器種は他に小型丸底壺・直口壺・高坏・甕・壺・甑・鉢・手捏ね土器などを組成する。

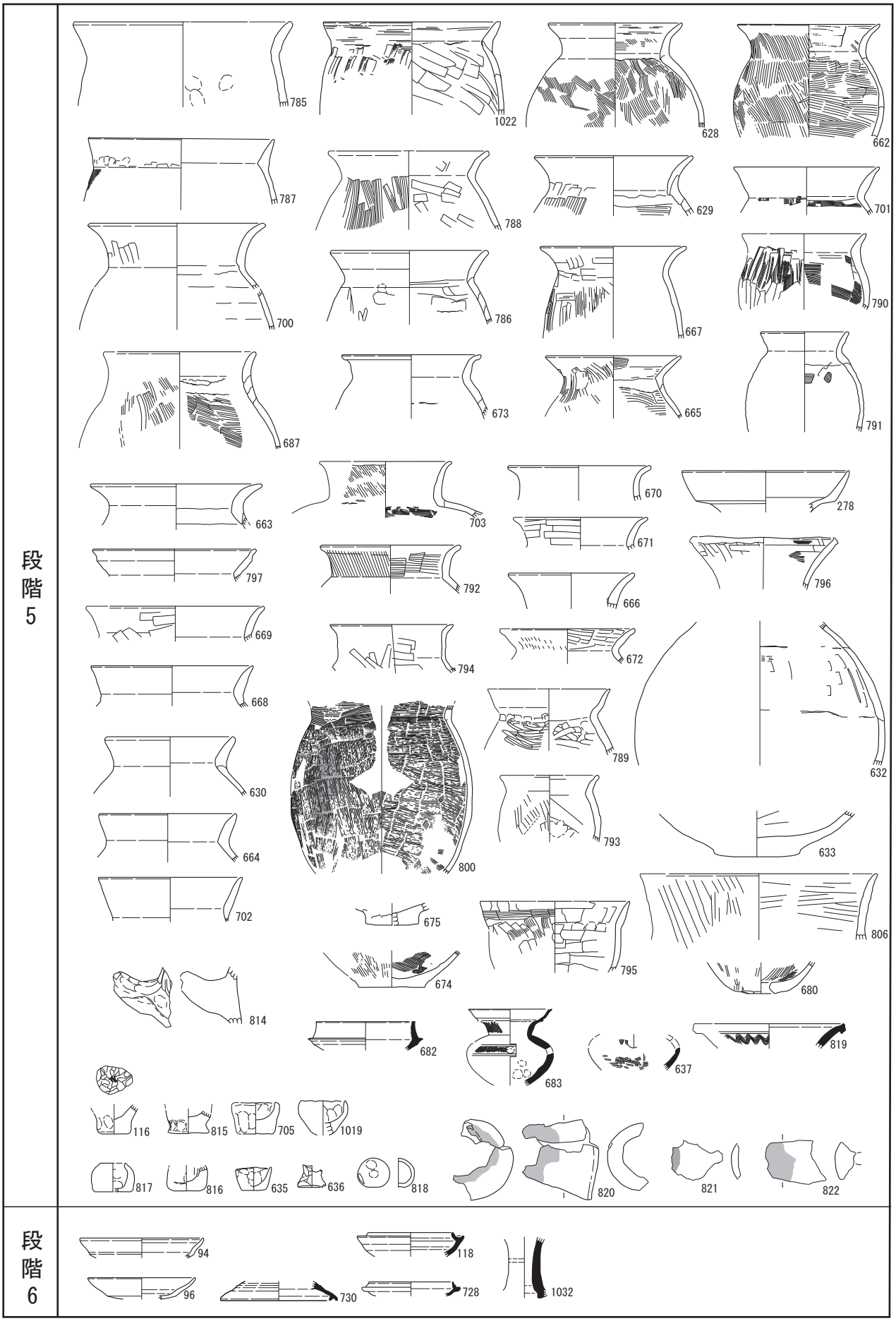
小林編年におけるＴＫ 208 型式を指標とするⅦ期とＴＫ 23・47 型式のⅧ期の差異として、模倣坏の有無が挙げられる。２号竪穴状遺構の出土資料において、ＴＫ 208 からＴＫ 23 の甕と共に模倣坏が出土しているため、Ⅷ期と位置づけるか、模倣坏の発生をⅦ期に求めるかなどの検討を行う必要がある。３号竪穴状遺構は甕がＴＫ 23 型式、坏はＴＫ 23 型式からＴＫ 47 型式であり、模倣坏と共伴している状況も含めて笛吹市姥塚遺跡 102 号・131 号住居跡一括資料を基準とするⅧ期の様相と対比されるが、模倣坏が量的に少ない。２号遺物集中地点の土師器坏は半球形が主体であり、模倣坏を組成しておらず、脚部が有段化した高坏が認められる点が二之宮遺跡西 46・71 号住居と共通しているため、Ⅶ期に位置づけられる。２号遺物集中地点からは羽口が出土しているが、これもⅦ期の資料と判断される。13 号土坑、14 号土坑、21 号ピットは出土した遺物量が少ないため、細分年代を決めるのは困難である。Ⅶ期からⅧ期に帰属する遺構として認識できる。

段階６）古墳時代後期

古墳時代最終末に比定される須恵器蓋や後期の須恵器坏などの破片資料から構成される。他に古墳時代後期の技術要素を持つ資料は把握されていないため、内容を詳述するのは困難である。



第128図　古墳時代遺物の編年(1)



第 129 図　古墳時代遺物の編年 (2)

まとめ

弥生時代後期から古墳時代初頭における土器編年は、弥生時代における土器の系譜を考えるのと同時にＳ字状口縁台付甕との共伴関係により年代区分を考える必要がある。本節においては大枠の年代観しか提示し得なかったが、該期における編年の精緻化を行い、今回の報告資料を再検討する必要がある。また、古墳時代中期後葉については、一括資料によって該期の編年を再検討することができた。

今回明らかになった問題点については、今後の課題としながら、調査の増加による新たな資料の検出によって、より精度の高い編年の構築を目指していきたい。

第２節　土地利用の変遷

これまで述べてきた様に調査により複数の時代に渡り土地利用が行われたことが明らかになったが、時代ごとの土地利用の様相についてまとめて本節で記載したい。

１．第１期［縄文時代］

Ｃ区Ｋ・Ｌ－22・23 グリッドにおいて、縄文時代前期から後期にかけての土器が出土した。出土資料の中で諸磯ｂ式期が最も多く出土したが、これらの土器の縁辺は磨耗が顕著ではなかった。このため、縄文時代前期の諸磯ｂ式期において、扇状地扇端部でなんらかの活動を行った可能性があることが指摘できる。ただし、検出された遺物包含層は微高地ではないため、あくまで一時的な活動にとどまったことが推察される。諸磯期はセツルメントパターンや石器組成が多様化する時期として知られており、浅川扇状地の南東側にある丘陵上に位置する花鳥山遺跡などの諸磯期における大規模な集落遺跡との関係性の中で考える必要性がある。また、微高地に位置する３号竪穴状遺構の覆土中からも古墳時代の住居一括資料に混在した前期末の土器片が出土した。

２．第２期［弥生時代］

年代的に最も古い遺構がＡ区３号掘立柱建物跡であり、弥生時代中期後半から後期において土地の開発が開始されたことが明らかになった。これまでの研究で弥生時代中期頃に段丘や自然堤防などの形成を促した不安定な時期があったとされてきたが、安定期を迎えて程なく扇端部を開発したとも考えられる。ただし、該期に比定される土器は出土していないため、今後の調査の進展が要される。

調査によって、Ｃ区を中心として弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物を伴う遺構群が検出された。この中で、8･17･22 号溝状遺構は、自然流路と凹地の間を横断するように構築されていた。軸線がほぼ同じ走向であり、なんらかの意図をもって構築されている。一方で２号掘立柱建物跡や柱痕が検出された 15 ピットなどの掘立柱建物跡はこれらの溝状遺構と関係なく分布しており、位置付けに注意を要する。（なお、AC･AD － 20 グリッドを中心に分布するピット群は弥生時代の遺構確認面より上で把握されたため、遺構認定していない。）掘立柱建物跡は点在する分布傾向を示しており、居住施設とは異なる可能性が強い。

いずれにせよ、今回の調査において竪穴住居跡は検出されておらず、居住域とは異なる土地利用が行われたと考えられる。1989 年の県埋文による調査においては、櫛描波状文を伴う甕が出土した１号住居跡やハケ調整や櫛描波状文が施文された土器片が出土した２号住居跡が確認されているが、現状で浅川扇状地において弥生時代の住居が検出される南限にあたる。浅川扇状地の扇央部から扇頂部には弥生時代の遺跡は確認されていないため、弥生時代の集落が想定されるのは 1989 年より北側の扇端部・沖積地と考えられる。

今回の調査では口縁部に刻みを有し、外面にハケ調整が施された平底甕が主体で、櫛描波状文が施された甕が客体的となっているが、Ｓ字状口縁台付甕は出土していない。また、山中式を模倣した壺片が１点出土したのみで他地域の土器は確認されていない。1989 年における県埋文調査においては、ハケ調整甕や櫛描波状文が施された甕と共にＳ字状口縁台付甕が確認され、北陸系などの異系統土器が出土している。遺物組成が調査地点ごとに異なっているが、弥生時代後期から古墳時代初頭の集団と古墳時代前期の集団を同一とみなすべきではなく、各時期の集団が浅川扇状地を広域に利用しよ

うとした結果、異なる遺物組成が現れていると理解したい。

３．第３期［古墳時代］

Ｃ区 AD －５、AE －６グリッドの北東側に広がる微高地には、古墳時代中期中葉から後葉の集落が展開していた。特に２・３号竪穴状遺構は須恵器甕や坏を伴っており、有力な階層を含む集団が集住したと考えられる。また、本県初の出土となった古墳時代中期の羽口とあわせて考えると鍛冶を行った工人を伴っていた可能性が指摘される。県内から出土した中期から後期の武器・武具は、駿河・信濃などからの流通品として考えられてきたが、羽口が見つかったことにより、県内において生産されたとも考えられる。今後の調査によって、鍛冶遺構が検出されることを期待したい。

身洗沢遺跡の東南側に位置する狐塚古墳は全長 26 mの帆立貝式古墳であり、円筒埴輪と共に前方部から鉄剣・鉄刀・鉄鉾が出土している。古墳の年代としては小林編年のⅧ期にあたり、今回の調査で検出された竪穴状遺構の年代と並行する。位置的に近接していることから無関係ではあり得ず、身洗沢遺跡の集落を束ねた首長墓が狐塚古墳であった可能性が大きい。

また、姥塚遺跡や二之宮遺跡などの古墳時代中期中葉から後葉の集落と共に確認された円墳の姥塚４号墳（全長 28 m）や方墳の姥塚４号墓（全長９m）との同時期における関係性などの課題も指摘される。

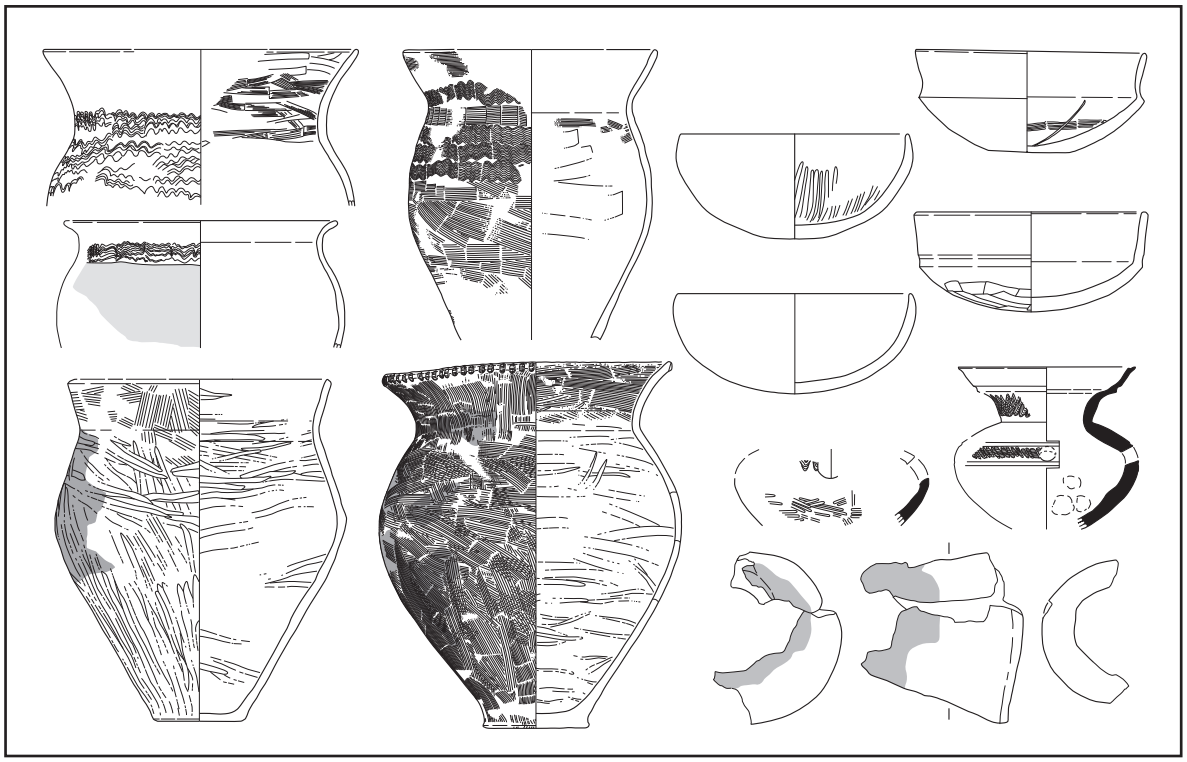
４．第４期［奈良・平安時代］

該期における遺構は確認されず、Ｂ・Ｃ区１号溝状遺構の砂礫層から遺物が出土した。年代的には奈良・平安時代のほぼ全ての時期にわたる資料が確認された。出土した土師器・須恵器は縁部が磨耗しており、扇頂部・扇央部に包含されていた遺物を河川の氾濫が削剥し、再堆積したものと考えられる。浅川扇状地の扇央部には、五里原遺跡など古墳時代から連続する奈良・平安時代の集落遺跡が展開している。出土資料は扇央部の集落遺跡で使用・廃棄されたものと考えることができる。また、１号溝状遺構の覆土上位には奈良・平安時代の遺物を包含した複数の砂礫層が確認されたため、該期において自然流路として機能したことが分かる。

５．第５期［中世］

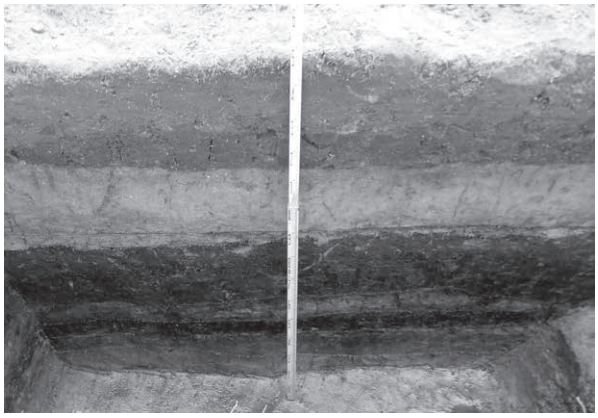
身洗沢遺跡が所在した八代町南は、中世において八代荘が置かれていたと考えられている。調査によって中世の遺物は出土したものの、Ｃ区１号石列遺構以外の遺構は検出されなかった。このため、土地利用の状況は明らかではないが、弥生時代以降において河川氾濫に起因した土層堆積が続いており、AA・AB －８グリッドから AE － 10・11 グリッドまでは凹地であり、自然流路が位置した可能性が強い。中世段階においても、自然流路や凹地が浅川扇状地の長軸と同じ方向に走向していたと考えられる。検出された１号石列遺構は自然流路と同じ軸線に伸びており、何らかの土地の区画を示した可能性が高い。

写真図版

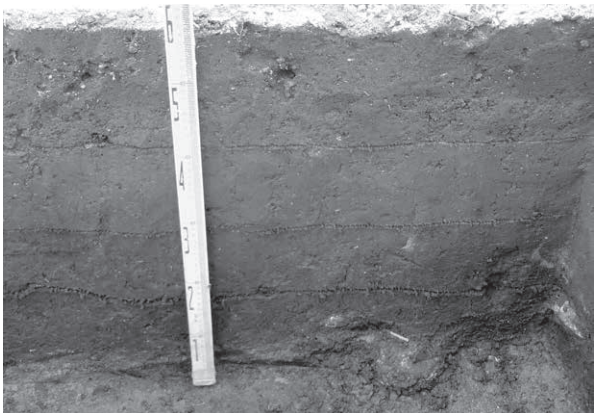


トレンチ１土層堆積状況

トレンチ２土層堆積状況



トレンチ３土層堆積状況



トレンチ４土層堆積状況

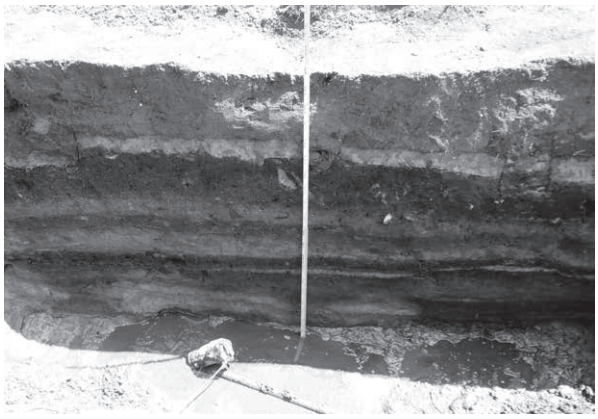
トレンチ５土層堆積状況

トレンチ６土層堆積状況

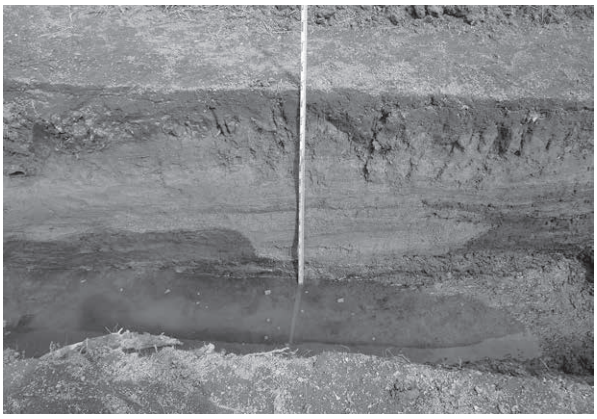
トレンチ８土層堆積状況

トレンチ９土層堆積状況

図版２　試掘調査 (2)

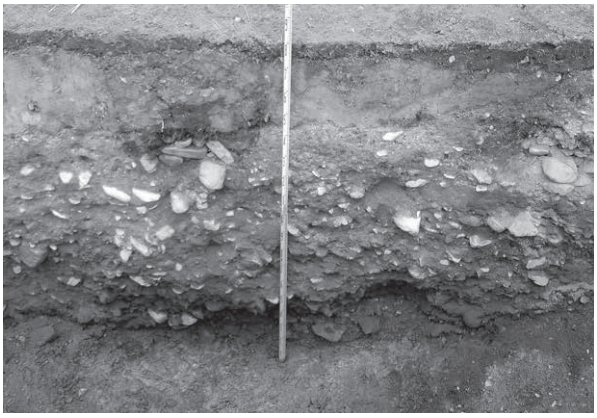


トレンチ 15 土層堆積状況



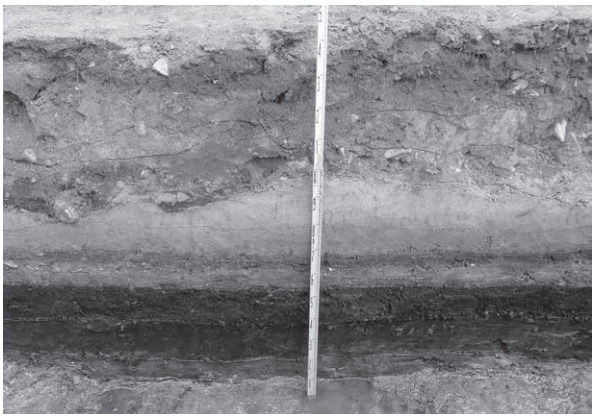
トレンチ 22 土層堆積状況

トレンチ 25 土層堆積状況

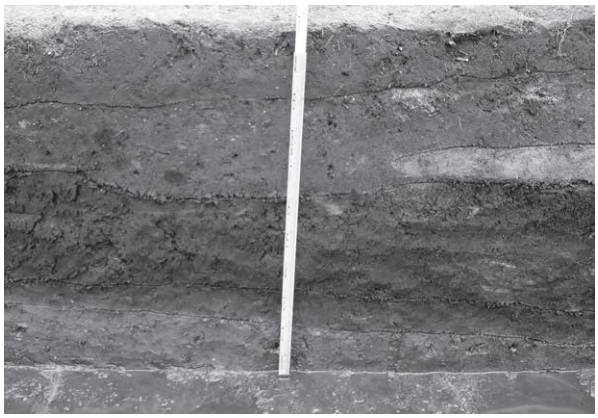


トレンチ 30 土層堆積状況

トレンチ 43 土層堆積状況



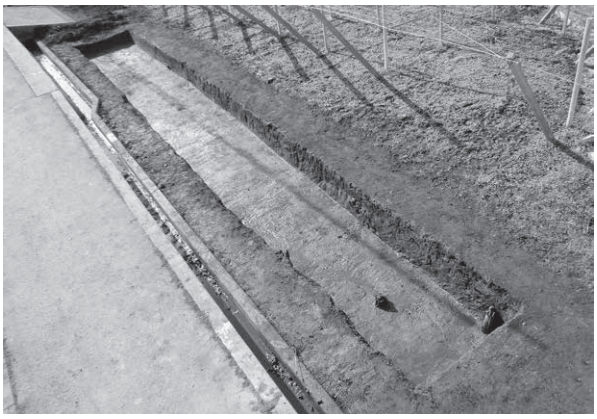
トレンチ 44 土層堆積状況



トレンチ 45 土層堆積状況

トレンチ 49 土層堆積状況

調査着手前状況



地点２東側掘削状況

３号掘立柱建物跡検出状況

３号掘立柱建物跡半截状況

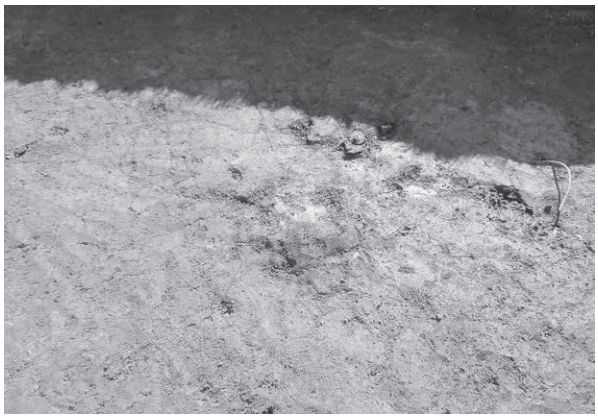
３号掘立柱建物跡木柱１半截状況

３号掘立柱建物跡木柱２半截状況

３号掘立柱建物跡木柱３半截状況

１号焼土集中検出状況

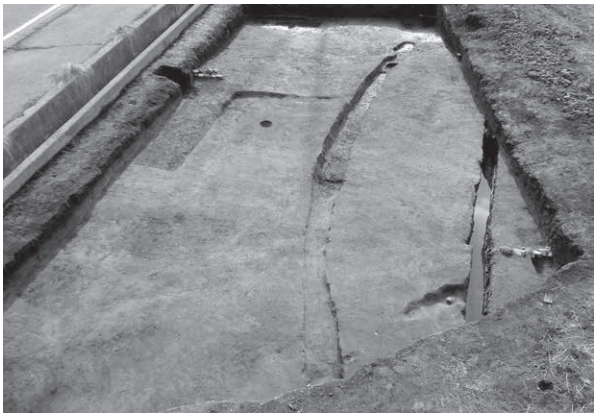
図版４　Ａ区調査 (2)



1 号焼土集中検出状況

地点 1 土層堆積状況

地点 2 西側完掘状況



地点 3 完掘状況

地点 4 東側完掘状況

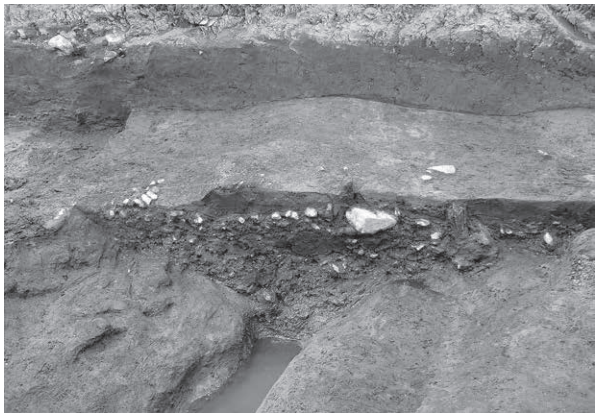
地点 5 遺物出土状況

地点 5 西側完掘状況

地点 5 東側完掘状況

表土剥ぎ状況

1 号溝状遺構検出状況



1 号溝状遺構半截状況

1 号溝状遺構半截状況

1 号溝状遺構遺物出土状況

1 号溝状遺構完掘状況

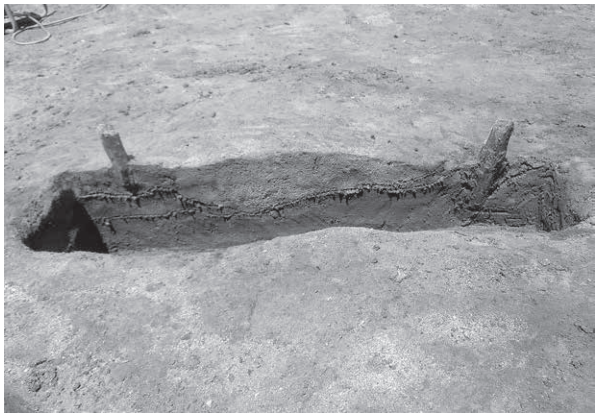
5 号溝状遺構半截状況

5 号溝状遺構遺物出土状況

図版６　Ｂ区調査 (2)

５号溝状遺構完掘状況

５号溝状遺構完掘状況



杭１半截状況

杭３半截状況

遺物出土状況

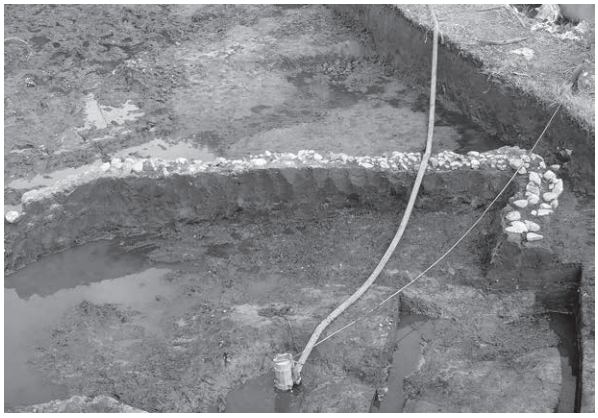
１号溝状遺構遺物出土状況

遺物出土状況

遺物出土状況

遺物出土状況

J・K-2 グリッド周辺完掘状況



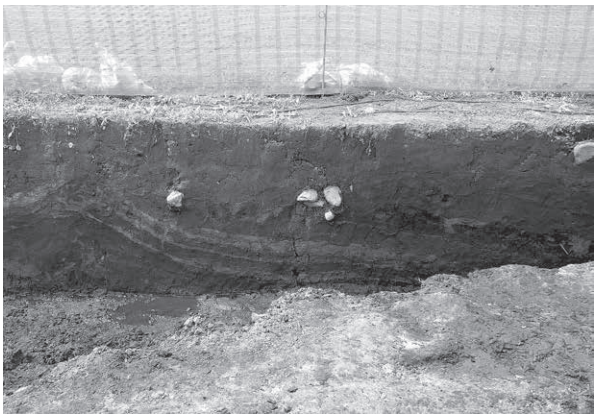
K-2 グリッド周辺完掘状況

M-1 グリッド周辺完掘状況

O・P-3 グリッド周辺完掘状況

トレンチ土層堆積状況

北西壁土層堆積状況西側

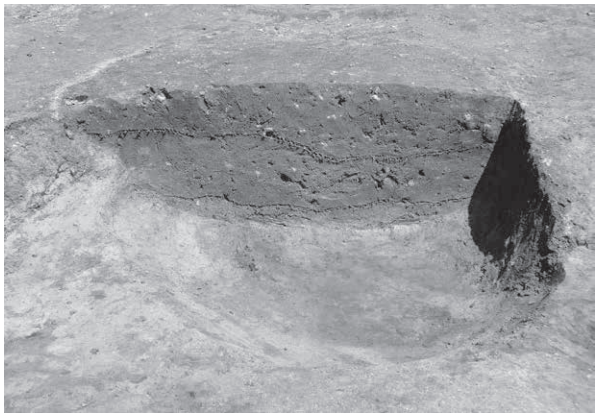


北西壁土層堆積状況東側

図版８　Ｃ区調査 (1)

2 号掘立柱建物跡完掘状況

3 号土坑半截状況



4 号土坑半截状況

15 号ピット木柱出土状況

20 号ピット遺物出土状況

8 号溝状遺構検出状況

8 号溝状遺構半截状況

8 号溝状遺構半截状況

8 号溝状遺構遺物出土状況

8 号溝状遺構遺物出土状況

8 号溝状遺構遺物出土状況

8 号溝状遺構完掘状況

14 号溝状遺構半截状況

17 号溝状遺構半截状況

17 号溝状遺構完掘状況

22 号溝状遺構半截状況

図版 10　C区調査 (3)

22 号溝状遺構遺物出土状況

22 号溝状遺構遺物出土状況

22 号溝状遺構遺物出土状況

22 号溝状遺構遺物出土状況

22 号溝状遺構完掘状況

遺物集中地点 1 半截状況

遺物集中地点 1 遺物出土状況

遺物集中地点 1 遺物出土状況

遺物集中地点 1 遺物出土状況

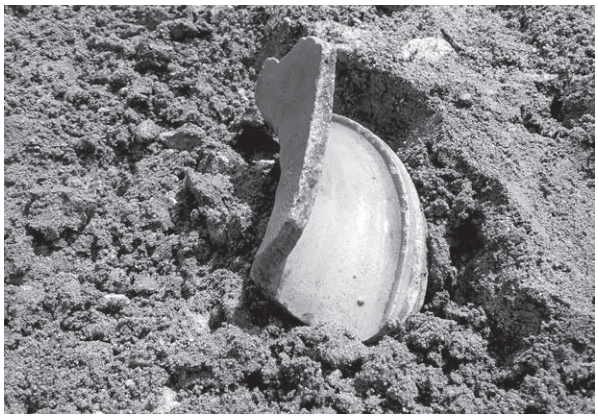
遺物集中地点 1 遺物出土状況

遺物集中地点 1 完掘状況

遺物出土状況

1 号溝状遺構検出状況

1 号溝状遺構半截状況



1 号溝状遺構遺物出土状況

1 号溝状遺構完掘状況

図版 12　C区調査 (5)

2 号竪穴状遺構半截状況

2 号竪穴状遺構遺物出土状況

2 号竪穴状遺構遺物出土状況

2 号竪穴状遺構カマド検出状況

2 号竪穴状遺構カマド半截状況

2 号竪穴状遺構完掘状況

2 号竪穴状遺構完掘状況

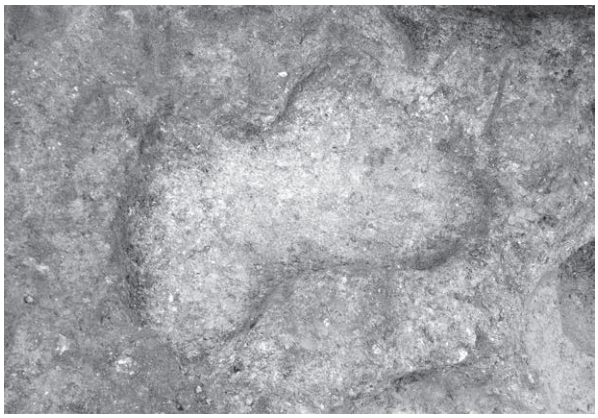
3 号竪穴状遺構半截状況

3 号竪穴状遺構遺物出土状況

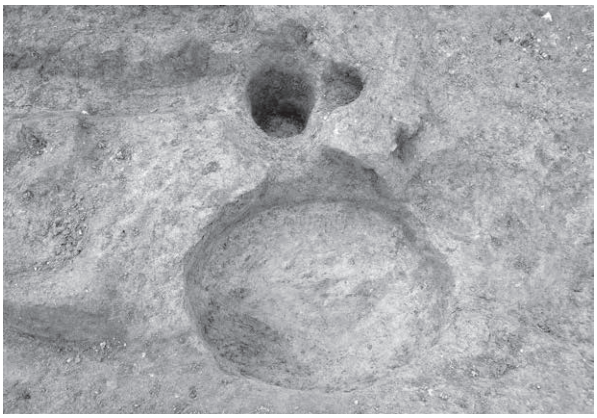
3 号竪穴状遺構完掘状況

調査区東端南側完掘状況

10 号土坑完掘状況

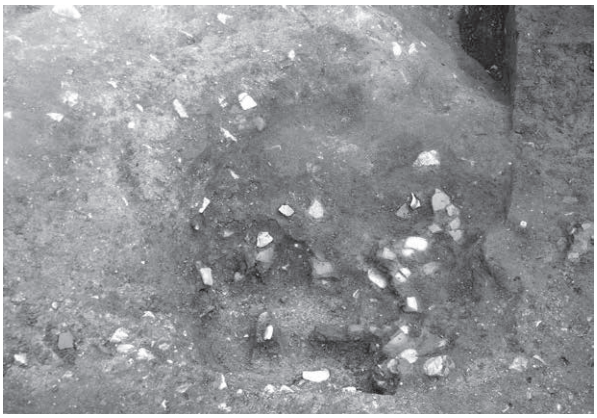


11 号土坑完掘状況



12 号土坑完掘状況

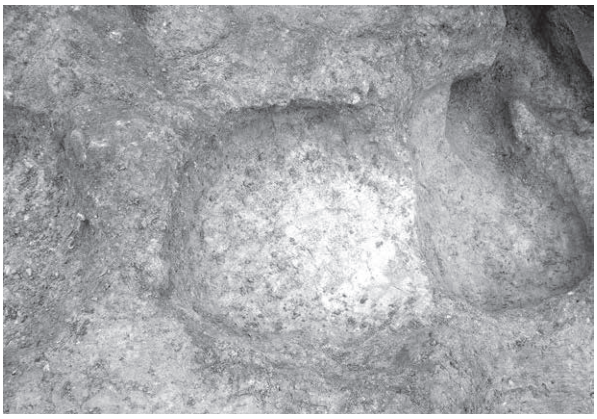
13 号土坑半截状況



13 号土坑遺物出土状況

図版 14　C区調査 (7)

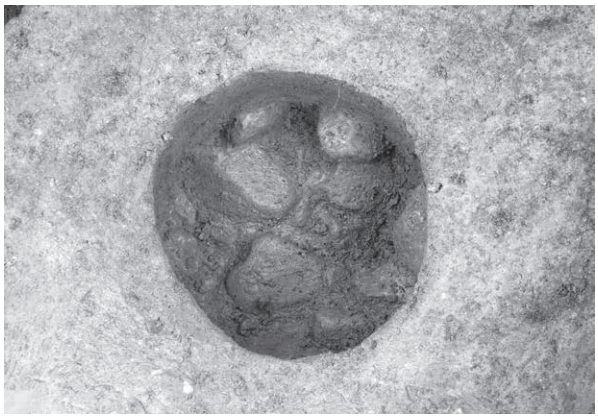
14 号土坑遺物出土状況



14 号土坑完掘状況

15 号土坑半截状況

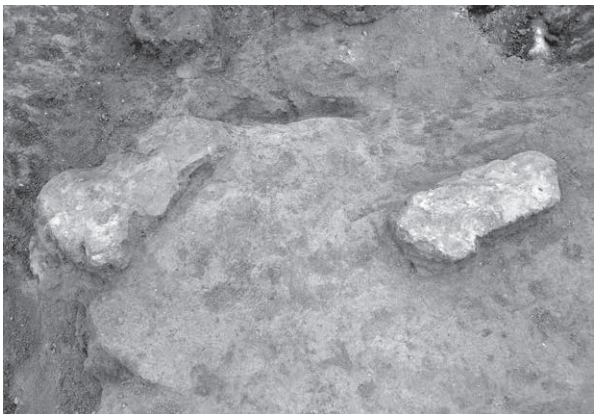
24 号ピット半截状況



24 号ピット完掘状況

5 号焼土集中検出状況

6 号焼土集中検出状況

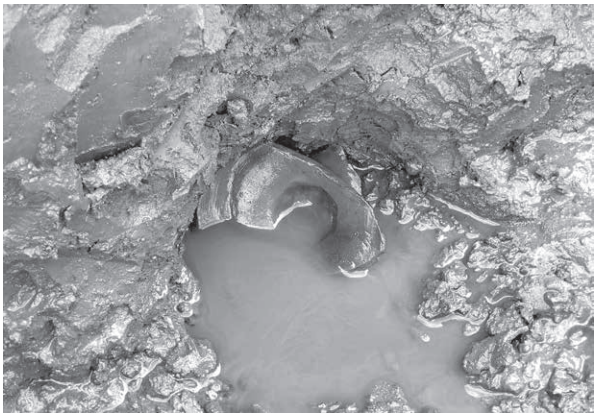


7・8 号焼土集中検出状況

9・11・12 号焼土集中検出状況

14 号焼土集中検出状況

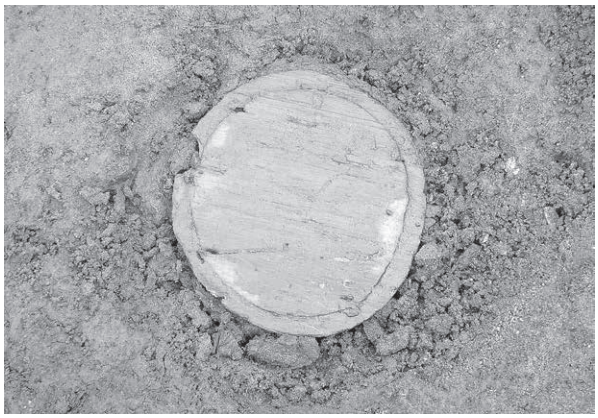
遺物集中地点 2 土層堆積状況



遺物集中地点 2 遺物出土状況

遺物出土状況

遺物出土状況

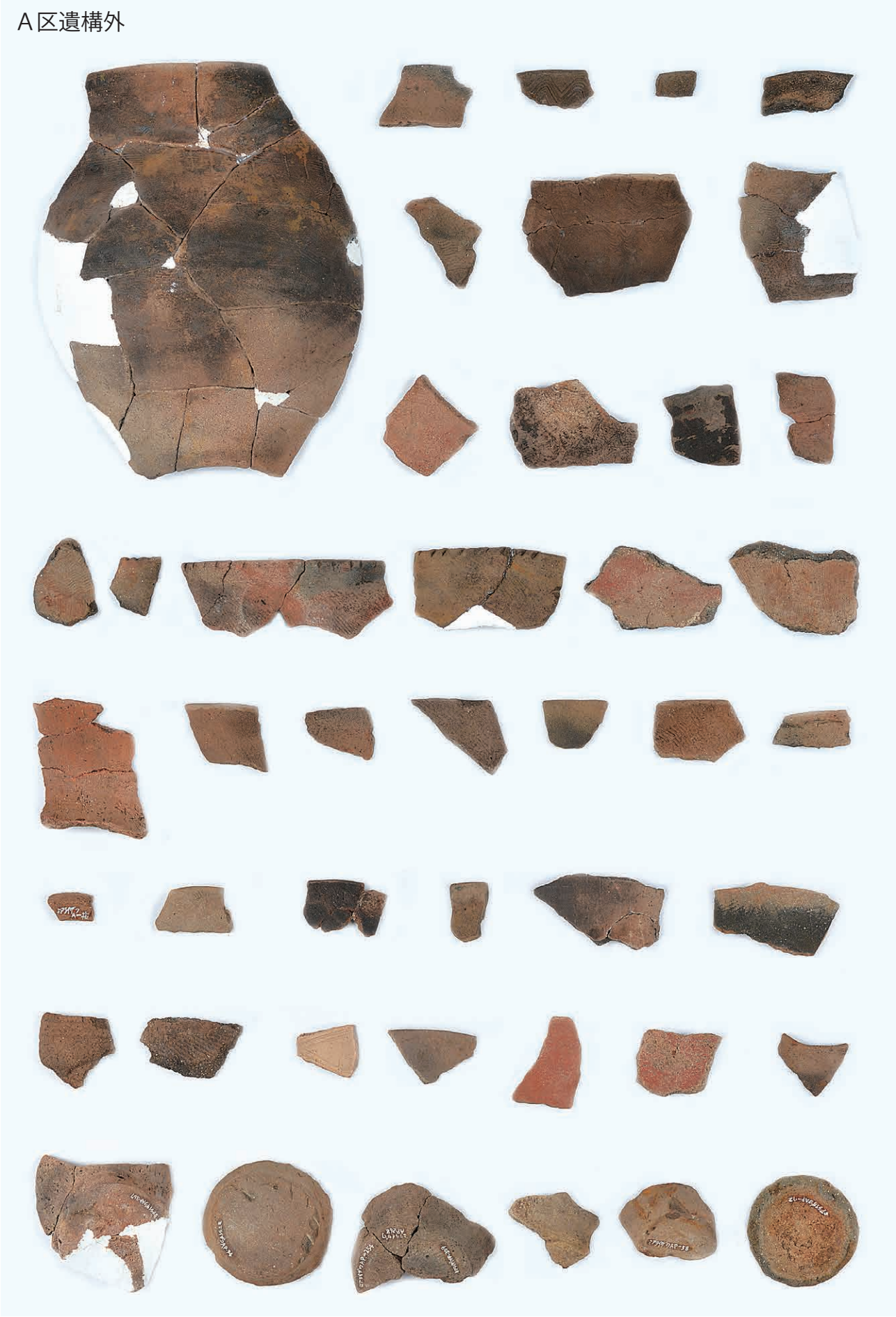


遺物出土状況

1 号石列検出状況

図版 16　Ａ区出土遺物 (1)

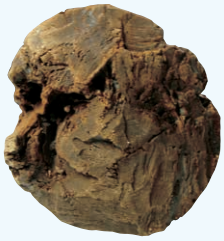
Ａ区遺構外



図版 17　Ａ区出土遺物 (2)

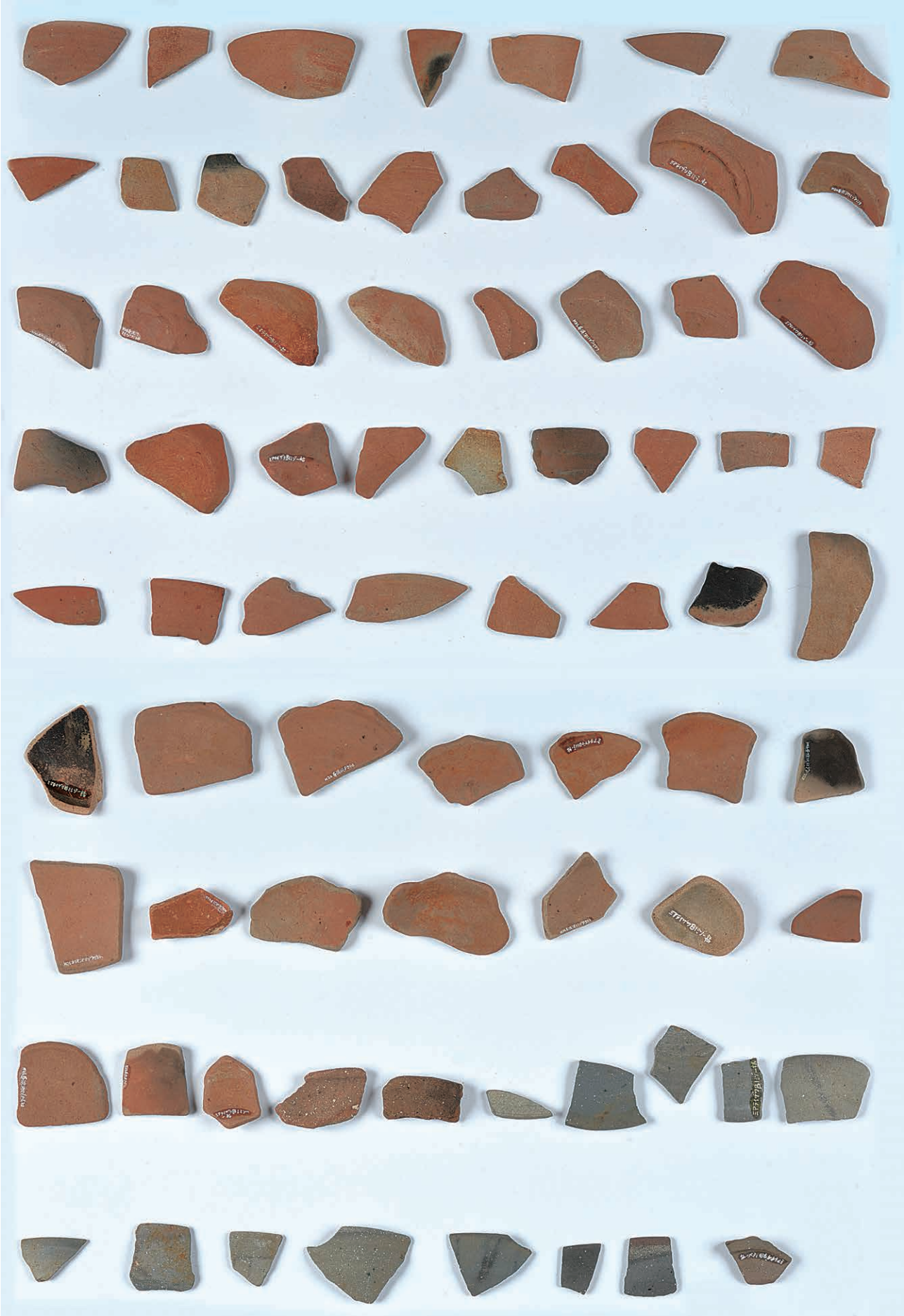
図版 18　Ａ区出土遺物 (3)

３号堀立柱建物跡



B区　1号溝状遺構

図版 20　B区出土遺物 (2)



5 号溝状遺構

図版 22　B区出土遺物 (4)

1 号溝状遺構

図版 24　B区出土遺物 (6)

1 号溝状遺構

図版 26　B区出土遺物 (8)

C区　2号掘立柱建物跡

4号土坑

5号土坑

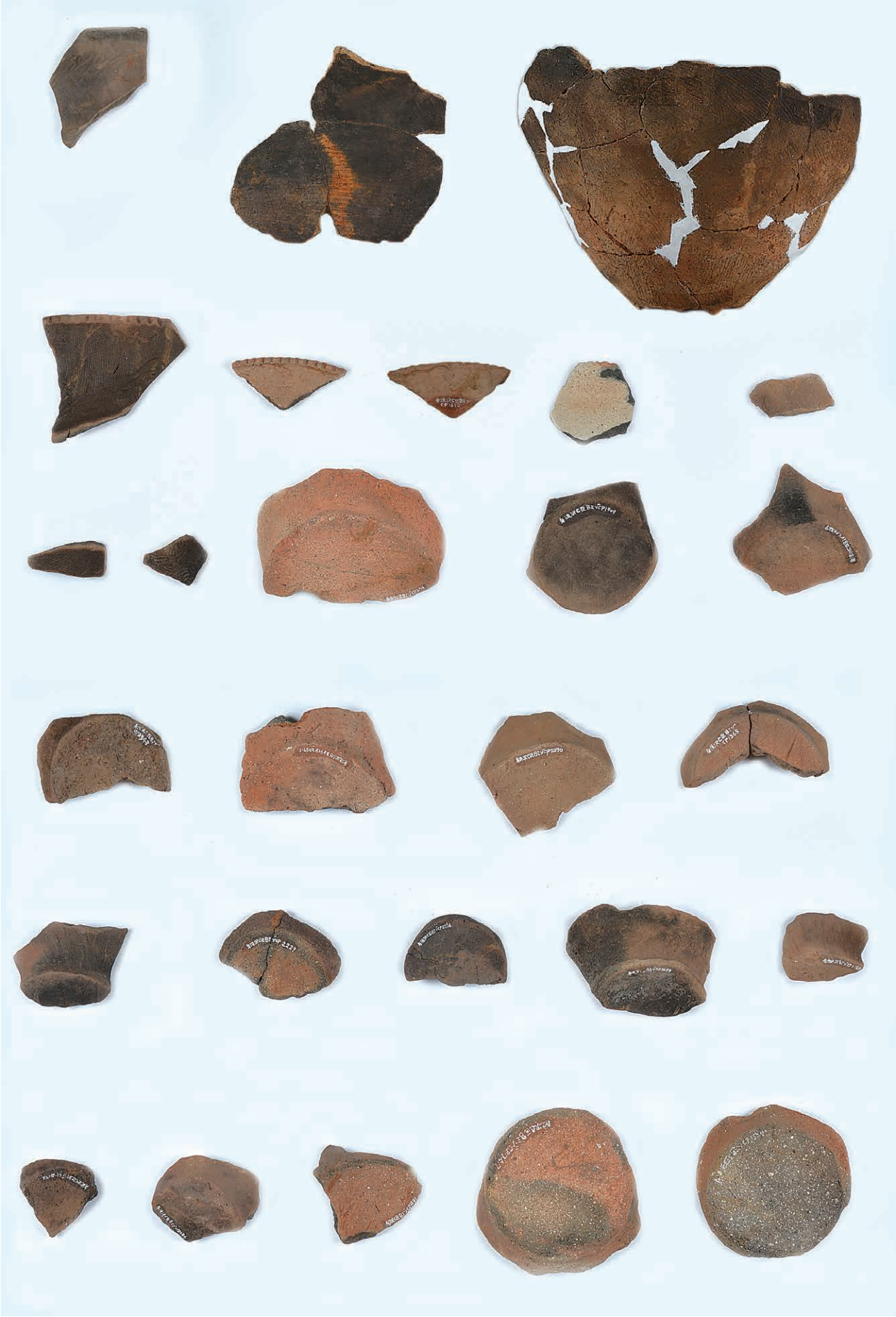
7号土坑

20号ピット

図版 28　C区出土遺物 (2)

8 号溝状遺構

図版 29　C区出土遺物 (3)



図版 30　C区出土遺物 (4)

14 号溝状遺構

15 号溝状遺構

17 号溝状遺構

図版 32　C区出土遺物 (6)

20 号溝状遺構

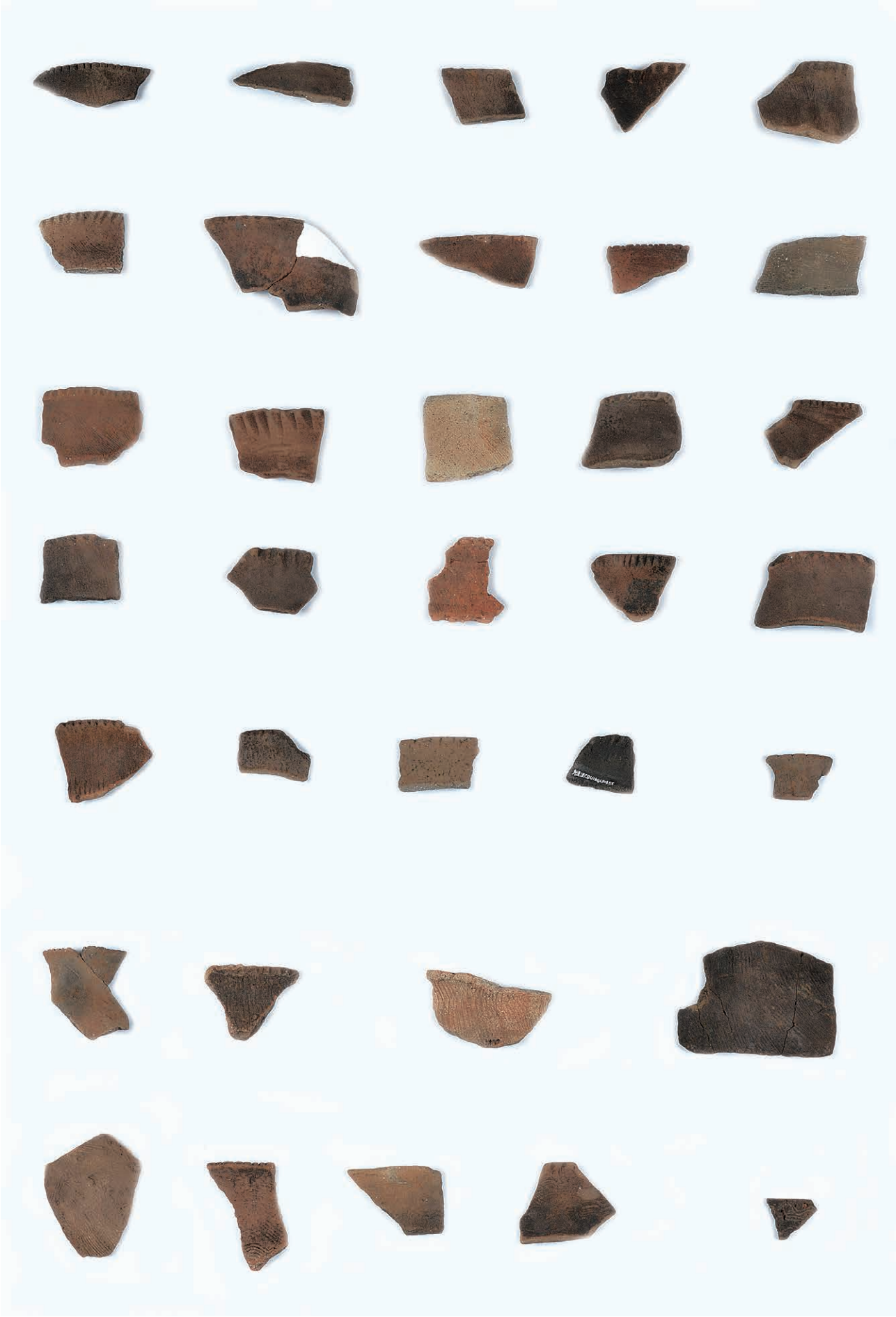
22 号溝状遺構

23 号溝状遺構

図版 34　C区出土遺物 (8)

遺物集中地点 1

図版 35　C区出土遺物 (9)



図版 36　C区出土遺物 (10)

図版 38　C区出土遺物 (12)

2 号竪穴状遺構

図版 40　C区出土遺物 ⑭

図版 42　C区出土遺物 ⑯

11 号土坑

12 号土坑

13 号土坑

14 号土坑

16 号土坑

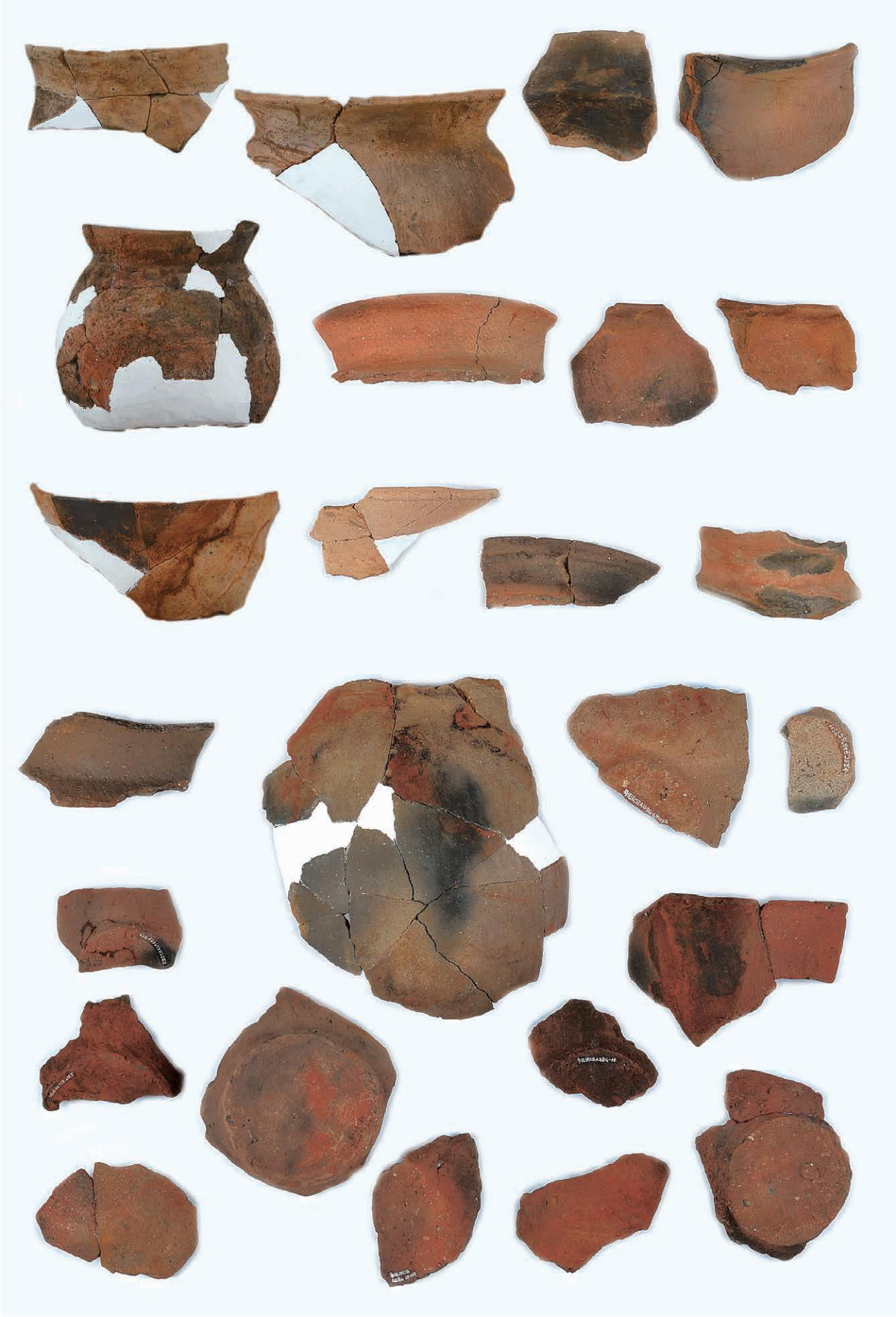
21 号土坑

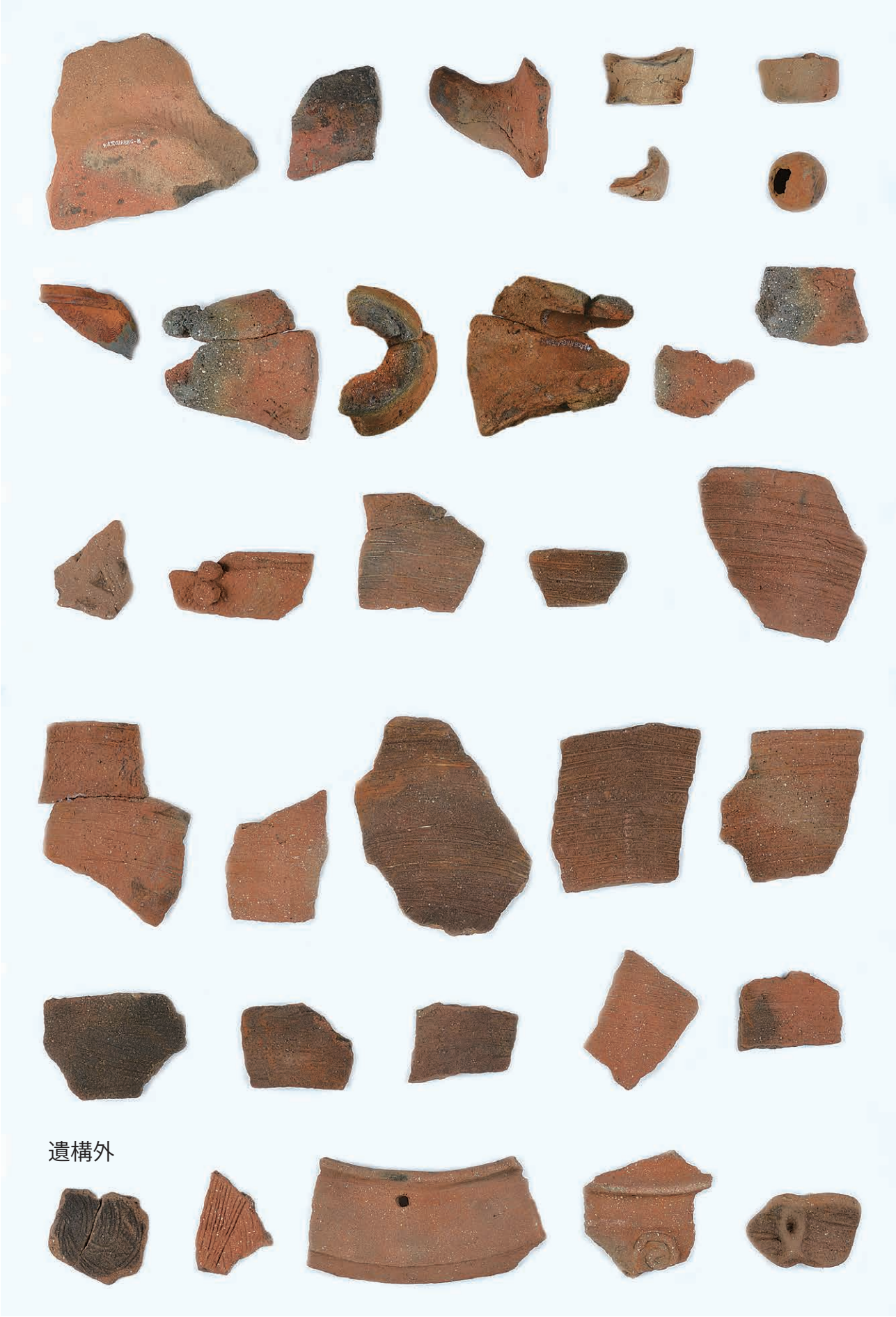
21 号ピット

1 号溝状遺構

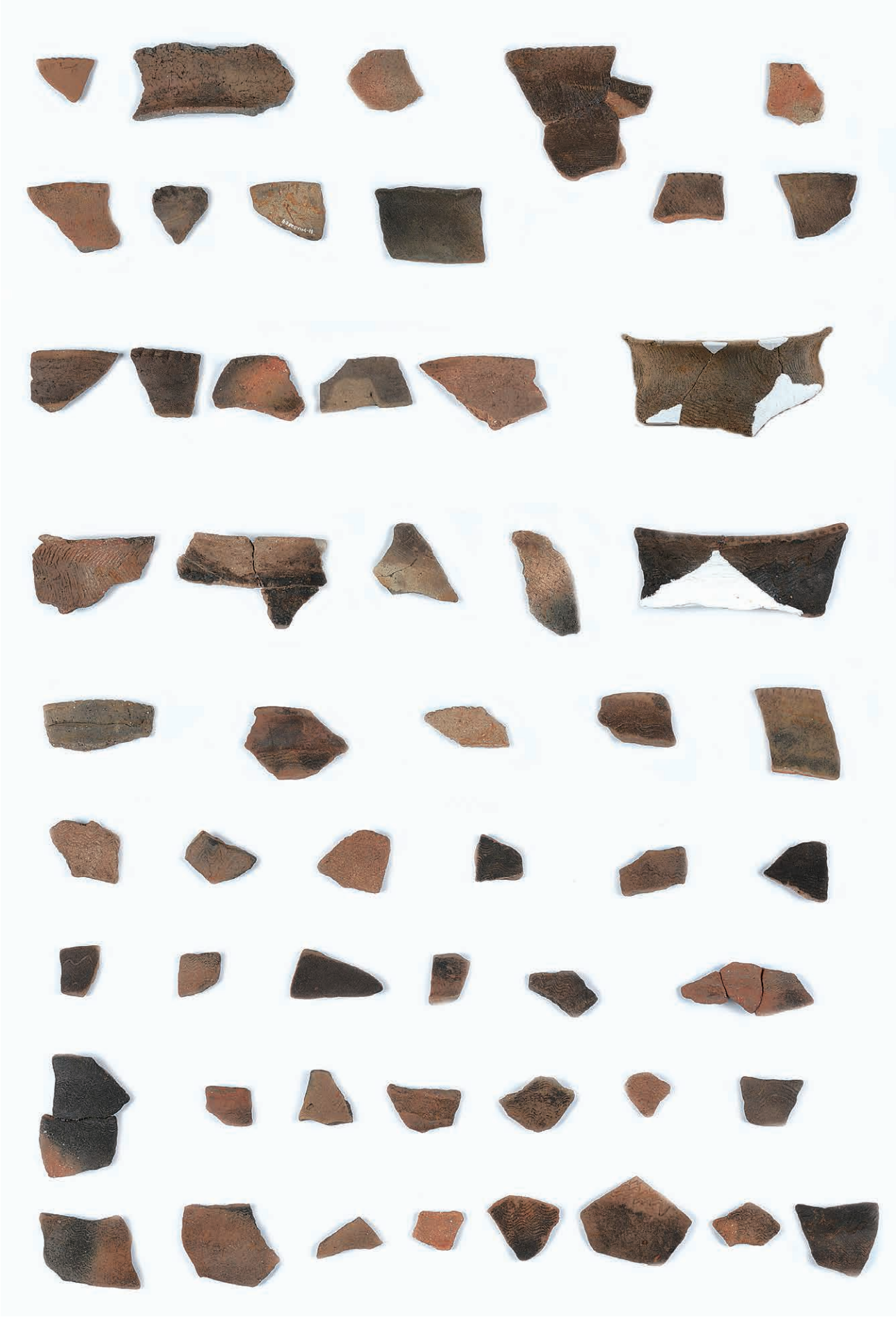
図版 44　C区出土遺物 (18)

図版 46　C区出土遺物 ⑳




遺構外

図版 48　C区出土遺物 (22)



図版 50　C区出土遺物 (24)

図版 52　C区出土遺物 (26)

図版 54　C区出土遺物 (28)

20 号溝状遺構

22 号溝状遺構

遺物集中地点 1

2 号竪穴状遺構

3 号竪穴状遺構

図版 56　C区出土遺物 (30)

遺構外

8 号溝状遺構

図版 58　C区出土遺物 (32)

15 号ピット

1 号溝状遺構

遺構外

図版 60　C区出土遺物 (34)

報　告　書　抄　録

ふ り が な	みあらいざわいせき
書　　名	身洗沢遺跡
副　書　名	笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 310 集
著　　者	網倉邦生　植月 学　柴田亮平　中山誠二
発　行　者	山梨県教育委員会　山梨県県土整備部　中日本高速道路株式会社　笛吹市
編 集 機 関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923　TEL055-266-3016
発行年月日	2017 年 2 月 24 日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡
みあらいざわいせき 身洗沢遺跡	山梨県笛吹市 八代町南地内	19212	八代 -19	35° 37′ 21″	138° 38′ 08″	(平成26年度) 平成26年7月3日～ 平成26年9月30日 平成26年12月16日～ 平成27年1月30日 (平成27年度) 平成27年5月25日～ 平成27年9月30日	6,500㎡

所収遺跡名	種別		主な時代	主な遺構	主な遺物	
身洗沢遺跡	散布地	縄文時代			土器	特記事項
	集落跡	弥生時代		掘立柱建物跡2軒・土坑7基・ピット8基・溝状遺構27基・焼土集中2基・遺物集中地点1基	土器・石器・木製品	
	集落跡	古墳時代		竪穴状遺構2軒・土坑12基・ピット8基・溝状遺構1基・焼土集中13基・遺物集中地点1基	土師器・須恵器・羽口・木製品	3 号竪穴状遺構より須恵器瓹、遺物集中地点 2 より羽口が出土
	散布地	奈良・平安時代			土師器・須恵器	
	田畑跡	中世		石列遺構 1 基	陶磁器・土師質土器	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第310集

身　洗　沢　遺　跡

笛吹スマートインターチェンジ建設事業に伴う発掘調査報告書

印刷日　平成29年2月20日印刷
発行日　平成29年2月24日発行
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923
Tel055-266-3016　Fax055-266-3882
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/
発　行　山梨県教育委員会　山梨県県土整備部
中日本高速道路株式会社　笛吹市
印　刷　株式会社 峡南堂印刷所